

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第679集

はま かわ め さわ だ  
浜川目沢田Ⅱ遺跡発掘調査報告書

主要地方道重茂半島線地域連携道路整備事業関連遺跡発掘調査

2018

岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センター  
(公財)岩手県文化振興事業団



# 浜川目沢田Ⅱ遺跡発掘調査報告書

主要地方道重茂半島線地域連携道路整備事業関連遺跡発掘調査





## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、主要地方道重茂半島線地域連携道路整備事業に関連して平成28年度に発掘調査された浜川目沢田Ⅱ遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では縄文時代中期の竪穴建物跡、フラスコ状(形)土坑、陥し穴、平安時代の竪穴建物跡、フラスコ状(形)土坑、鉄生産関連炉などが確認されました。今回の調査結果は、縄文時代から古代に至るまでの浜川目地区の歴史を知る上で貴重な資料になることと思われまます。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センターをはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成30年2月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 菅野洋樹

## 例 言

- 1 本報告書は、岩手県下閉伊郡山田町大沢第11地割113-3ほかに所在する浜川目沢田Ⅱ遺跡において、平成28年度に実施した発掘調査の結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は、「主要地方道重茂半島線地域連携道路整備事業」に伴う緊急事前調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の調整を経て、岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センターの委託を受けた(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡情報検索システムに記載される遺跡番号はL G 84 - 2381、遺跡略号はH K M Ⅱ - 16である。
- 4 野外調査及び室内整理は以下のとおりである。

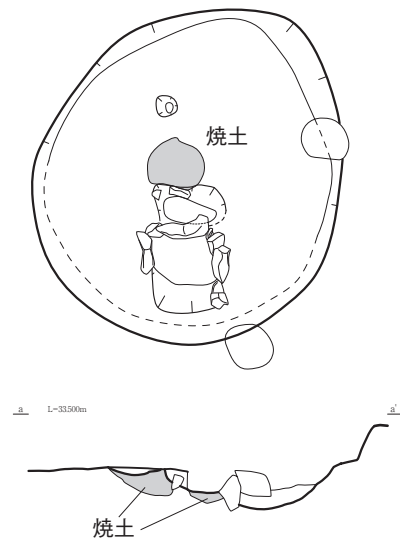
野外調査 調査面積：13,500㎡ / 調査期間：平成28年4月1日～11月25日  
担当者：北村忠昭・佐々木隆英・白戸このみ

室内整理 期間：平成28年11月1日～平成29年3月31日  
担当者：北村忠昭・佐々木隆英・白戸このみ
- 5 本書の執筆は、第Ⅰ章を岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センター、第Ⅱ章第1節第1項・第2項、第Ⅱ章第2節を白戸、第Ⅴ章第2節検出遺構以外を北村が担当した。第Ⅴ章第2節検出遺構本文は各遺構精査担当者が原稿を執筆し(末尾太字氏名)、北村が全体を編集した。
- 6 遺構写真は北村・佐々木・白戸が、遺物写真は平山豪・吉岡由哲が撮影した。
- 7 本書で用いる方位は世界測地系による座標北を示す。レベル高は海拔である。
- 8 各種委託業務は以下の機関に委託した(敬称略)。なお、放射性炭素年代測定・黒曜石産地同定・琥珀産地同定・鉄滓等遺物の化学分析の結果報告は第Ⅵ章自然科学分析に収録している。

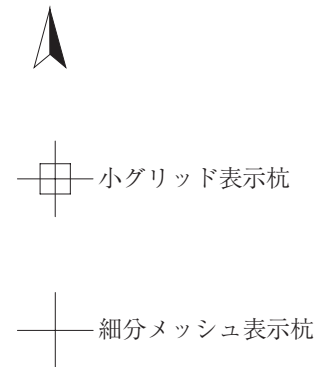
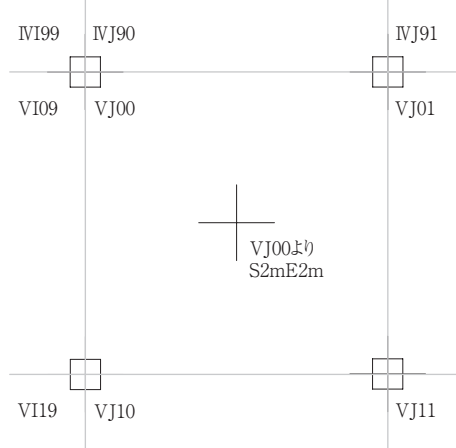
基準点測量：株式会社鈴木測量設計、航空写真：東邦航空株式会社、放射性炭素年代測定：パリノ・サーヴェイ株式会社、黒曜石産地同定：株式会社第四紀地質研究所、琥珀産地同定：公益財団法人元興寺文化財研究所、石質鑑定：花崗岩研究会、鉄滓等遺物の化学分析：パリノ・サーヴェイ株式会社、金属製品保存処理：公益財団法人大阪市博物館協会、遺物実測図化業務：株式会社ラング
- 9 野外調査、室内整理にあたり岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センター、山田町教育委員会、近隣住民の方々の御理解と御協力をいただいた。
- 10 発掘調査や整理・報告書の作成は以下の方々に御教示・御協力を頂いた。(五十音順、敬称略)  
小野寺純也、川向聖子、佐藤剛、竹下将男、宮島宏
- 11 本報告書では、国土地理院発行1：50,000地形図「大槌」、1：25,000地形図「陸中山田」「霞露ヶ岳」を使用した。
- 12 土層注記及び出土土器の色調の記載は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版 標準土色帖』2006年度版に準拠した。
- 13 本遺跡の出土遺物、記録類は岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 14 本報告書発行以前に調査成果を公表したが、本報告書を正とする。

# 凡 例

## <遺 構>



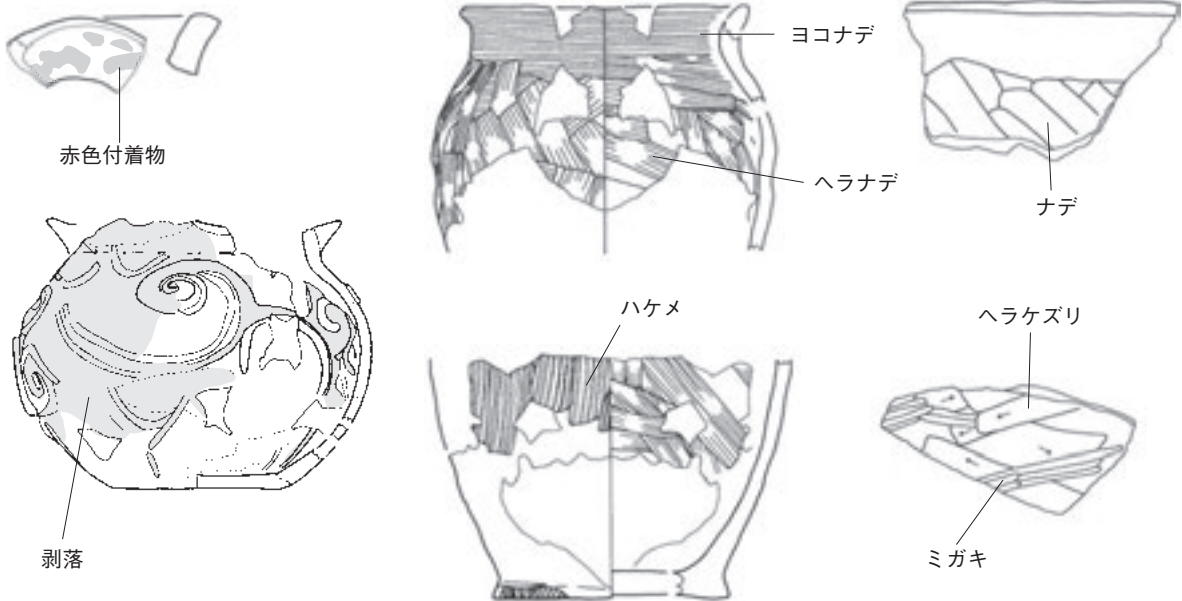
### グリッド表示方法



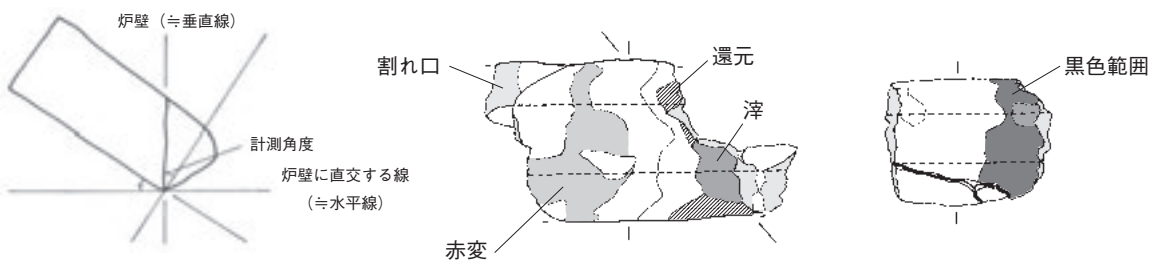
※表示杭は各区画の北西隅に位置する

## <遺 物>

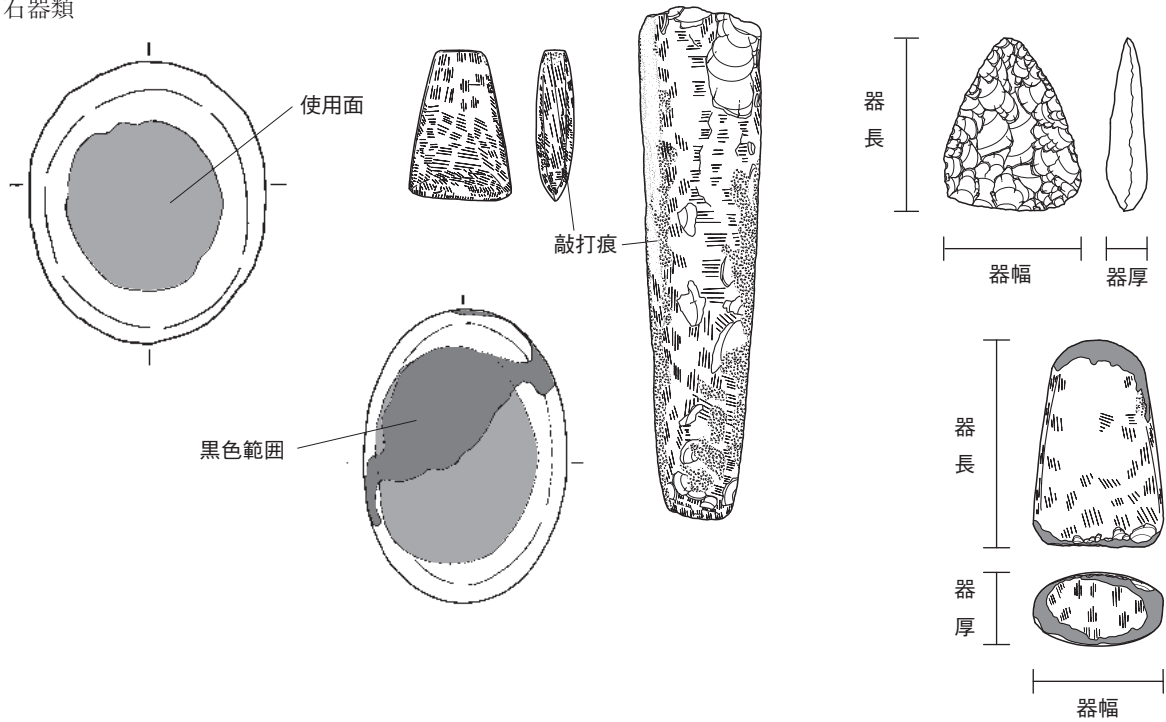
### 土器類



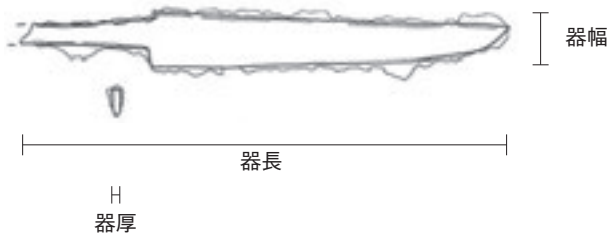
### 羽口



石器類



刀子類



<略号・表記について>

表中で使用した表記方法や略号は以下の通りである

[重複関係・遺構名] 遺構名は遺構種別の番号と種別の頭文字で表記した 例：1号竪穴建物跡は1 竪

[重複関係] 旧遺構→新遺構

[時期] 早中：早期中葉 中前：中期前葉 中中：中期中葉 中後：中期後葉 中末：中期末葉

中不：中期不明 平後：平安時代後期

[出土地点・層位] 太字はメインの出土地点 B：ベルト T：トレンチ

[部位] 口：口縁部 頸：頸部 胴：胴部 底：底部 底上：底部直上 口胴：口縁部～胴部

胴底：胴部～底部 口底上：口縁部～底部直上 頸底：頸部～底部 口底：口縁部～底部

[文様等] N：ナデ YN：ヨコナデ M：ミガキ H：ハケメ

<その他>

当センターで使用しているコンテナの大きさは以下の通りである。

大コンテナ：42×32×30cm 中コンテナ：42×32×20cm 小コンテナ：42×32×10cm

## 本文目次

I 調査に至る経過	1	縦穴建物跡/炉跡・焼土遺構/ 土坑類/埋設土器/柱穴
II 遺跡の立地・環境	1	(2) 古代の遺構 116 縦穴建物跡/鉄生産関連炉/土坑類/ 不明遺構/柱穴
1 地理的環境	1	(3) 時代不明の遺構 143 焼土遺構/土坑/溝跡/炭窯/道路状 遺構/不明遺構/柱穴
(1) 遺跡の位置と立地	1	
(2) 遺跡周辺の地形	3	
(3) 基本層序	3	
2 歴史的環境	6	
III 調査の方法	9	3 出土遺物 156
1 野外調査	9	(1) 縄文時代の遺物 156 土器/土製品/石器/石製品/その他/ 自然遺物
(1) 調査区	9	(2) 弥生時代の遺物 209 土器
(2) グリッドの設定	9	(3) 古代の遺物 209 土器/土製品/石器/石製品/金属 製品/羽口/鉄滓/自然遺物
(3) 試掘・表土掘削・遺構検出・精査	9	(4) 近世の遺物 225 陶器/磁器/金属製品
(4) 遺構名の登録	12	(5) 時代不明の遺物 232 土製品/石器/石製品/金属製品/ 自然遺物/その他
(5) 実測・写真	12	
2 室内整理	12	VI 自然科学分析 234
(1) 遺構	12	放射性炭素年代測定 234
(2) 遺物	12	黒曜石産地同定 237
(3) 写真	13	琥珀の科学分析 243
IV 分類基準	23	鉄滓等の分析 247
1 遺構類	23	VII まとめ 262
2 土器類	23	報告書抄録 343
3 石器・石製品	24	
(1) 器種分類	24	
(2) 石器石材	26	
V 検出遺構と出土遺物	31	
1 概要	31	
2 検出遺構	31	
(1) 縄文時代の遺構	31	

## 図版目次

第1図	遺跡位置図	2	第46図	縄文時代の土坑類 4	79
第2図	地形分類図	4	第47図	縄文時代の土坑類 5	80
第3図	基本層序	5	第48図	縄文時代の土坑類 6	81
第4図	周辺の遺跡	7	第49図	縄文時代の土坑類 7	82
第5図	調査区位置図	10	第50図	縄文時代の土坑類 8	83
第6図	グリッド配置図・トレンチ位置図	11	第51図	縄文時代の土坑類 9	84
第7図	遺構分布図 1	16	第52図	縄文時代の土坑類 10	85
第8図	遺構分布図 2	17	第53図	縄文時代の土坑類 11	86
第9図	遺構分布図部分 1	18	第54図	縄文時代の土坑類 12	87
第10図	遺構分布図部分 2	19	第55図	縄文時代の土坑類 13	88
第11図	遺構分布図部分 3	20	第56図	縄文時代の土坑類 14	89
第12図	遺構分布図部分 4	21	第57図	縄文時代の土坑類 15	90
第13図	遺構分布図部分 5	22	第58図	縄文時代の土坑類 16	91
第14図	土器分類図	28	第59図	縄文時代の土坑類 17	92
第15図	石器分類図 1	29	第60図	縄文時代の土坑類 18	93
第16図	石器分類図 2	30	第61図	縄文時代の土坑類 19	94
第17図	1号竪穴建物跡	32	第62図	縄文時代の土坑類 20	95
第18図	2号竪穴建物跡	34	第63図	縄文時代の土坑類 21	96
第19図	3号竪穴建物跡 1	35	第64図	縄文時代の土坑類 22	97
第20図	3号竪穴建物跡 2	36	第65図	縄文時代の土坑類 23	98
第21図	4号竪穴建物跡	37	第66図	縄文時代の土坑類 24	99
第22図	5号竪穴建物跡	39	第67図	縄文時代の土坑類 25	100
第23図	6号竪穴建物跡	41	第68図	縄文時代の土坑類 26	101
第24図	7号竪穴建物跡 1	42	第69図	縄文時代の土坑類 27	102
第25図	7号竪穴建物跡 2	43	第70図	縄文時代の土坑類 28	103
第26図	8号竪穴建物跡	44	第71図	縄文時代の土坑類 29	104
第27図	9号竪穴建物跡 1	46	第72図	縄文時代の土坑類 30	105
第28図	9号竪穴建物跡 2	47	第73図	縄文時代の土坑類 31	106
第29図	10号竪穴建物跡 1	49	第74図	縄文時代の土坑類 32	107
第30図	10号竪穴建物跡 2	50	第75図	縄文時代の土坑類 33	108
第31図	11号竪穴建物跡	52	第76図	縄文時代の土坑類 34	109
第32図	12号竪穴建物跡	53	第77図	縄文時代の土坑類 35	110
第33図	13号竪穴建物跡 1	54	第78図	縄文時代の土坑類 36	111
第34図	13号竪穴建物跡 2	55	第79図	縄文時代の土坑類 37	112
第35図	14号竪穴建物跡・15号竪穴建物跡	57	第80図	縄文時代の土坑類 38	113
第36図	16号竪穴建物跡	59	第81図	1号埋設土器	114
第37図	17号竪穴建物跡 1	60	第82図	縄文時代の柱穴	115
第38図	17号竪穴建物跡 2	61	第83図	21号竪穴建物跡	116
第39図	18号竪穴建物跡	63	第84図	22号竪穴建物跡 1	118
第40図	1号炉跡	64	第85図	22号竪穴建物跡 2	119
第41図	2号炉跡	65	第86図	23号竪穴建物跡 1	120
第42図	3号炉跡・1号焼土遺構・2号焼土遺構	66	第87図	23号竪穴建物跡 2	121
第43図	縄文時代の土坑類 1	76	第88図	24号竪穴建物跡	122
第44図	縄文時代の土坑類 2	77	第89図	25号竪穴建物跡	124
第45図	縄文時代の土坑類 3	78	第90図	26号竪穴建物跡 1	126
			第91図	26号竪穴建物跡 2	127



第92図	27号竪穴建物跡	128	第131図	土器（縄文時代15）	174
第93図	28号竪穴建物跡	130	第132図	土器（縄文時代16）	175
第94図	29号竪穴建物跡	131	第133図	土製品・その他（縄文時代）	175
第95図	1号鉄生産関連炉	132	第134図	石器（縄文時代1）	185
第96図	古代の土坑類1	133	第135図	石器（縄文時代2）	186
第97図	古代の土坑類2	134	第136図	石器（縄文時代3）	187
第98図	古代の土坑類3	135	第137図	石器（縄文時代4）	188
第99図	古代の土坑類4	136	第138図	石器（縄文時代5）	189
第100図	古代の土坑類5	137	第139図	石器（縄文時代6）	190
第101図	古代の土坑類6	138	第140図	石器（縄文時代7）	191
第102図	1号不明遺構	140	第141図	石器（縄文時代8）	192
第103図	2号不明遺構	141	第142図	石器（縄文時代9）	193
第104図	古代の柱穴	142	第143図	石器（縄文時代10）	194
第105図	11号焼土遺構	143	第144図	石器（縄文時代11）	195
第106図	時代不明の土坑類	144	第145図	石器（縄文時代12）	196
第107図	1号～3号溝跡	145	第146図	石器（縄文時代13）	197
第108図	1号～3号炭窯	147	第147図	石器（縄文時代14）	198
第109図	1号道路状遺構1	148	第148図	石器（縄文時代15）	199
第110図	1号道路状遺構2	149	第149図	石器（縄文時代16）	200
第111図	1号道路状遺構3	150	第150図	石製品（縄文時代1）	204
第112図	1号道路状遺構4	151	第151図	石製品（縄文時代2）	205
第113図	11号不明遺構	152	第152図	石製品（縄文時代3）	206
第114図	12号不明遺構	153	第153図	土器（弥生時代）	209
第115図	時代不明の柱穴1	154	第154図	土器（古代1）	211
第116図	時代不明の柱穴2	155	第155図	土器（古代2）	212
第117図	土器（縄文時代1）	160	第156図	土器（古代3）・土製品（古代）	213
第118図	土器（縄文時代2）	161	第157図	石器（古代1）	214
第119図	土器（縄文時代3）	162	第158図	石器（古代2）	215
第120図	土器（縄文時代4）	163	第159図	石器（古代3）	216
第121図	土器（縄文時代5）	164	第160図	石器（古代4）	217
第122図	土器（縄文時代6）	165	第161図	石器（古代5）	218
第123図	土器（縄文時代7）	166	第162図	石器（古代6）	219
第124図	土器（縄文時代8）	167	第163図	石器（古代7）・石製品（古代）	220
第125図	土器（縄文時代9）	168	第164図	金属製品（古代1）	223
第126図	土器（縄文時代10）	169	第165図	金属製品（古代2）	224
第127図	土器（縄文時代11）	170	第166図	羽口（古代）	224
第128図	土器（縄文時代12）	171	第167図	近世・時代不明の遺物	231
第129図	土器（縄文時代13）	172	第168図	縄文時代の遺構変遷図	262
第130図	土器（縄文時代14）	173	第169図	古代の遺構分布図	263

## 表 目 次

第1表	周辺の遺跡	8	第8表	時代不明の土坑類	144
第2表	基準点・区画割付杭一覧	9	第9表	柱穴一覧（不明1・2）	154・155
第3表	遺構一覧1・2	14・15	第10表	土器観察表（縄文時代1～5）	176～180
第4表	縄文時代の土坑類1～8	68～75	第11表	土製品・その他観察表（縄文時代）	181
第5表	柱穴一覧（縄文）	115	第12表	石器観察表（縄文時代1～3）	200～202
第6表	古代の土坑類1・2	138・139	第13表	石製品観察表（縄文時代）	203
第7表	柱穴一覧（古代）	142	第14表	石器・石製品計測表（縄文時代）	207

第15表	貝殻一覧（縄文時代）	208	第22表	金属製品観察表（古代）	222
第16表	土器観察表（弥生時代）	209	第23表	羽口一覧	225
第17表	土器観察表（古代）	210	第24表	鉄滓出土量一覧	226
第18表	土製品観察表（古代）	213	第25表	貝殻一覧（古代1～4）	227～230
第19表	石器観察表（古代）	221	第26表	陶器・磁器観察表（近世）	232
第20表	石製品観察表（古代）	221	第27表	金属製品観察表（時代不明）	232
第21表	石器・石製品計測表（古代以降）	222	第28表	貝殻一覧（時代不明）	233

## 写真図版目次

写真図版1	空撮1	267	写真図版39	古代の遺構5	305
写真図版2	空撮2	268	写真図版40	古代の遺構6	306
写真図版3	現況・作業状況	269	写真図版41	古代の遺構7	307
写真図版4	層序	270	写真図版42	古代の遺構8	308
写真図版5	縄文時代の遺構1	271	写真図版43	古代の遺構9	309
写真図版6	縄文時代の遺構2	272	写真図版44	時代不明の遺構1	310
写真図版7	縄文時代の遺構3	273	写真図版45	時代不明の遺構2	311
写真図版8	縄文時代の遺構4	274	写真図版46	時代不明の遺構3	312
写真図版9	縄文時代の遺構5	275	写真図版47	全景・現地説明会1	313
写真図版10	縄文時代の遺構6	276	写真図版48	現地説明会2	314
写真図版11	縄文時代の遺構7	277	写真図版49	縄文時代の遺物1	315
写真図版12	縄文時代の遺構8	278	写真図版50	縄文時代の遺物2	316
写真図版13	縄文時代の遺構9	279	写真図版51	縄文時代の遺物3	317
写真図版14	縄文時代の遺構10	280	写真図版52	縄文時代の遺物4	318
写真図版15	縄文時代の遺構11	281	写真図版53	縄文時代の遺物5	319
写真図版16	縄文時代の遺構12	282	写真図版54	縄文時代の遺物6	320
写真図版17	縄文時代の遺構13	283	写真図版55	縄文時代の遺物7	321
写真図版18	縄文時代の遺構14	284	写真図版56	縄文時代の遺物8	322
写真図版19	縄文時代の遺構15	285	写真図版57	縄文時代の遺物9	323
写真図版20	縄文時代の遺構16	286	写真図版58	縄文時代の遺物10	324
写真図版21	縄文時代の遺構17	287	写真図版59	縄文時代の遺物11	325
写真図版22	縄文時代の遺構18	288	写真図版60	縄文時代の遺物12	326
写真図版23	縄文時代の遺構19	289	写真図版61	縄文時代の遺物13	327
写真図版24	縄文時代の遺構20	290	写真図版62	縄文時代の遺物14	328
写真図版25	縄文時代の遺構21	291	写真図版63	縄文時代の遺物15	329
写真図版26	縄文時代の遺構22	292	写真図版64	縄文時代の遺物16	330
写真図版27	縄文時代の遺構23	293	写真図版65	縄文時代の遺物17	331
写真図版28	縄文時代の遺構24	294	写真図版66	縄文時代の遺物18	332
写真図版29	縄文時代の遺構25	295	写真図版67	弥生時代の遺物・古代の遺物1	333
写真図版30	縄文時代の遺構26	296	写真図版68	古代の遺物2	334
写真図版31	縄文時代の遺構27	297	写真図版69	古代の遺物3	335
写真図版32	縄文時代の遺構28	298	写真図版70	古代の遺物4	336
写真図版33	縄文時代の遺構29	299	写真図版71	古代の遺物5	337
写真図版34	縄文時代の遺構30	300	写真図版72	古代の遺物6	338
写真図版35	古代の遺構1	301	写真図版73	古代の遺物7	339
写真図版36	古代の遺構2	302	写真図版74	古代の遺物8	340
写真図版37	古代の遺構3	303	写真図版75	古代の遺物9	341
写真図版38	古代の遺構4	304	写真図版76	近世・時代不明の遺物	342



## I 調査に至る経過

浜川目沢田Ⅱ遺跡は、「地域連携道路整備事業 主要地方道重茂半島線大沢～浜川目工区」の施工に伴い、その事業区域内に存在することから、発掘調査を実施することとなったものである。

主要地方道重茂半島線は、下閉伊郡山田町大沢地区を起点とし、宮古市津軽石地区に至る重茂半島を周回する唯一の道路であり、水産業を中心とした地域住民の生活道路として重要な役割を果たしている。また、路線の一部は「三陸復興国立公園」を通過しており、本州最東端の鮎ヶ崎（とどがさき）の灯台やその周りに広がる風情豊かな景色を求めて多くの人々が訪れている。

岩手県では、平成24年度から「多重防災型まちづくり推進事業（まちづくり連携道路整備事業）」により、平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波と同規模の津波が発生した場合でも、各集落の孤立を防ぎ、安心して安全な道路を整備することを目的として、宮古市内の6工区と山田町内1工区の計7工区で整備を進めている。

事業対象地の下閉伊郡山田町大沢から浜川目地内の「主要地方道重茂半島線大沢～浜川目工区」は、山田町が施行する漁業集落防災機能強化事業、土地区画整理事業等の復興まちづくり事業と連携し、高台に整備される3箇所の住宅団地をつなぎ、災害時等における確実な緊急輸送や代替機能等を確保するものである。

当事業の施工に係る埋蔵文化財の取扱いについては、沿岸広域振興局土木部宮古土木センターから、平成27年6月3付宮土セ第273号「主要地方道重茂半島線大沢～浜川目地区道路整備事業における埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」により、岩手県教育委員会に対して試掘調査依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は、平成27年7月28日～31日に試掘調査を実施し、工事着手するには、浜川目沢田Ⅱ遺跡の発掘調査が必要となる旨を、平成27年8月10日付教生第808号「埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により、当土木センターへ回答された。

その結果を踏まえて、当土木センターは岩手県教育委員会と協議・調整し、平成28年3月31日、平成28年6月2日付で公益財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなったものである。

(岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センター)

## II 遺跡の立地・環境

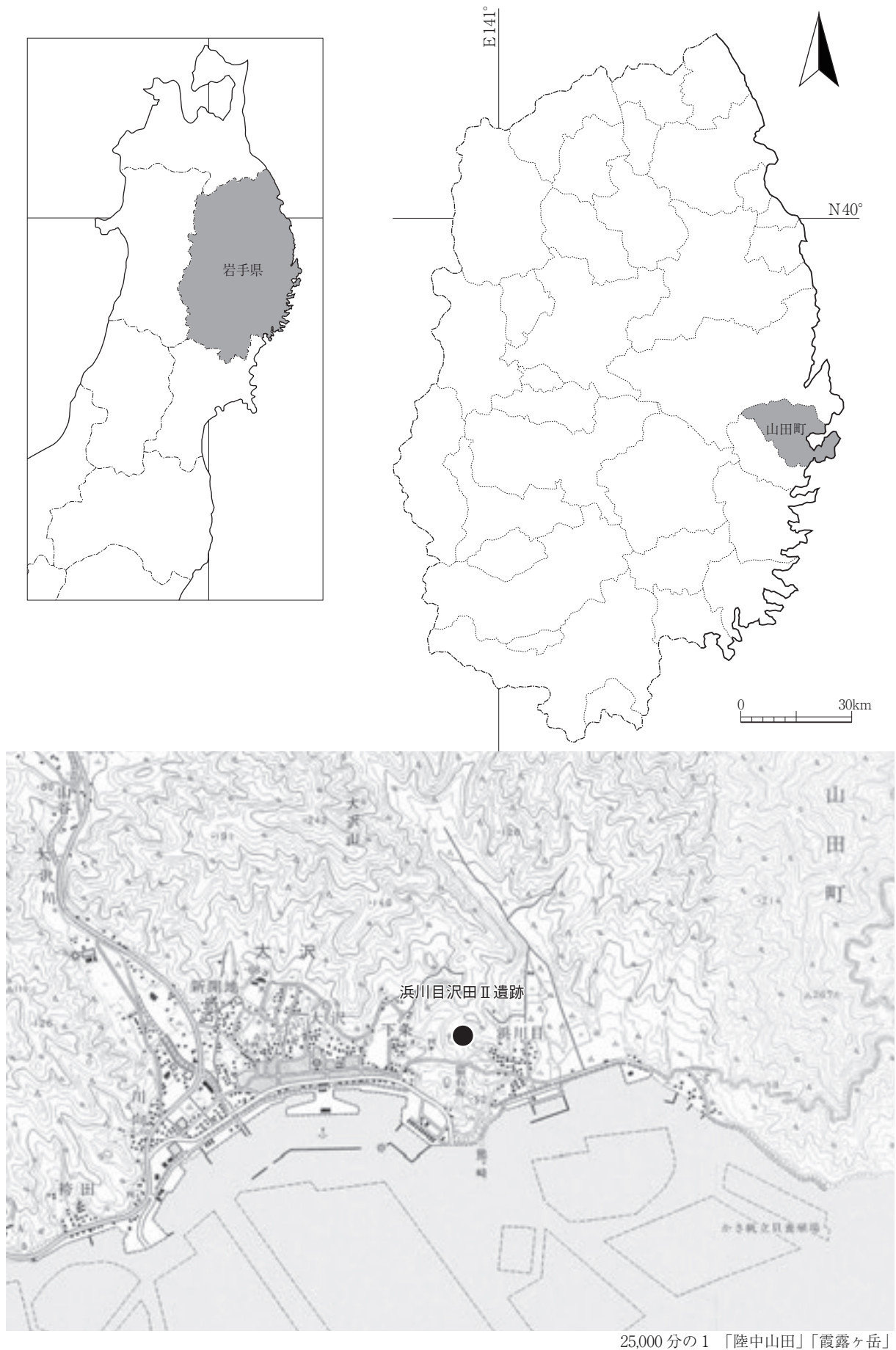
### 1 地理的環境

#### (1) 遺跡の位置と立地（第1図）

浜川目沢田Ⅱ遺跡は下閉伊郡山田町大沢第11地割113-1ほかに所在する。座標では北緯39度29分5秒、東経141度59分5秒付近に相当し、国土地理院発行の25,000分の1地形図「陸中山田」の図幅に含まれる。

本遺跡は山田湾へ向かって延びている平坦な2箇所の丘陵尾根部及び、その東西側の斜面部に立地しており、標高は約17～51mである。調査前の現況は杉林である。今回「主要地方道重茂半島線地

1 地理的環境



25,000分の1「陸中山田」 「霞露ヶ岳」

第1図 遺跡位置図

域連携道路整備事業大沢～浜川目」に伴い、発掘調査が実施されることとなった。

## (2) 遺跡周辺の地形(第2図)

浜川目沢田Ⅱ遺跡の所在する下閉伊郡山田町は、三陸海岸のほぼ中央に位置し、山田湾と船越湾を有する。北・西は宮古市、南は上閉伊郡大槌町と境を接している。沿岸の一部を除くとその大半は山林原野によって占められ、その割合は92%に及ぶ。

西部には隆起によって形成された北上山地が広がり、大槌町との境を接する標高1,160mの高滝森、北から標高731mを測る十二神山、947mの水呑場山、807mの山母森、610mの鯨山という起伏量400mを超える大起伏山地に囲まれている。さらに、これに連なる200mから400mを測る中起伏山地や、起伏量200m以下の小起伏山地によって取り巻かれ、そのまま海岸部へと至る。

このことから低平地が形成されるのは、この中起伏山地の尾根を分水嶺として東流する豊間根川をはじめ、津軽石湾に注ぐ荒川川、山田湾に注ぐ関口川および織笠川など、山田湾周辺や、霞露ヶ岳半島、船越湾岸に流下する諸河川の下流域から河口付近において展開された局所的な開析作用によって形成された沖積平野と、山田湾・船越湾海浜部の岩石が浸食を受けて形成された比較的狭い範囲に分布する海岸段丘のみとなる。

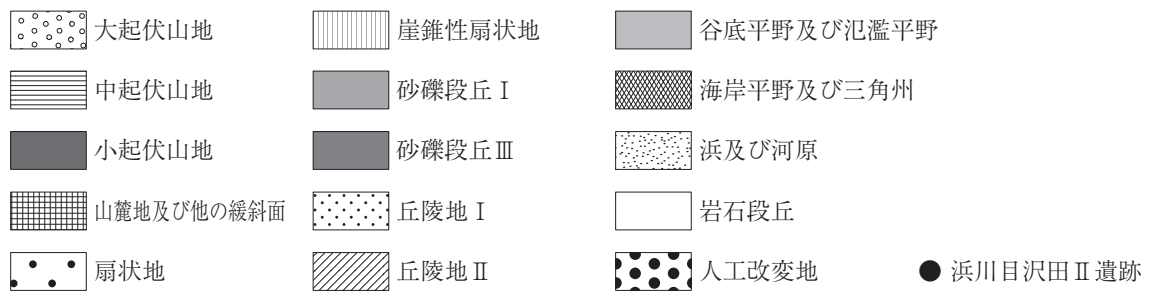
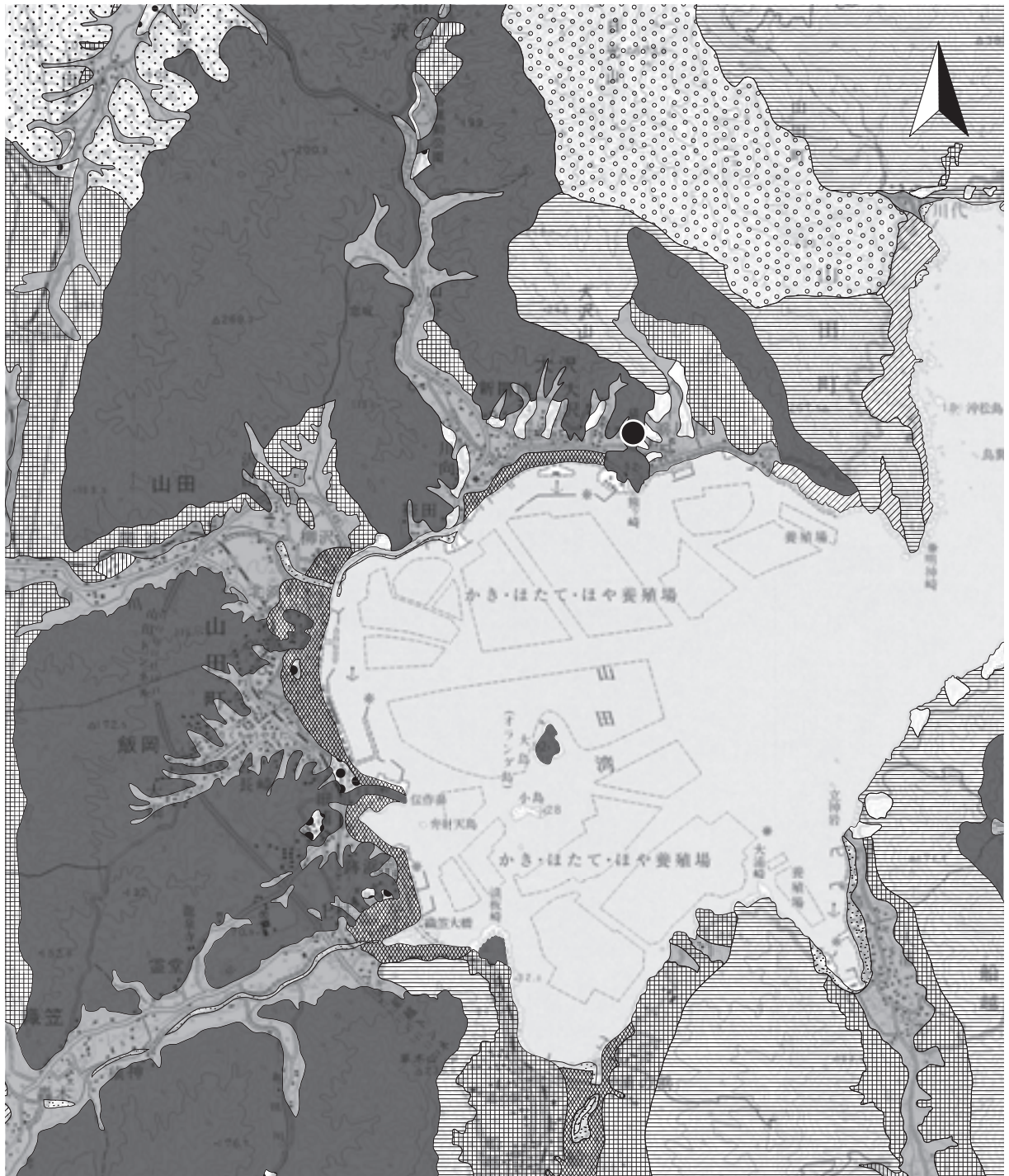
また、太平洋側に大きく突出する重茂半島と船越半島は、その内側に深く広がる山田・船越両湾を擁し、それと外洋とを隔てる自然の防波堤の役目を果たしている。一方、船越半島東縁部の太平洋に面した赤平金剛と呼ばれる地区では300mにも達する断崖や海蝕崖および海蝕洞がよく発達しており、付近では町域の東部および南東部を含め、南北約220kmにわたって典型的なリアス式海岸が続いている。

## (3) 基本層序(第3図)

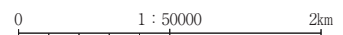
岩手県教育委員会が行った試掘調査の際の層序観察と大きな差がないため、試掘調査のデータを基本とした。調査区は中央に谷を挟んでおり、大きく東西に分かれている。西側(5～7区)については、遺構が尾根頂部の平坦面(6区)に集中し、表土層直下にV層が確認できる状況であった。今回の調査の主体は東側の尾根頂部の平坦面(2区)であるが、Ⅲ層とした灰黄褐色土層は東側の極限られた範囲でしか確認できなかったため、作図を行った範囲には反映できなかった。全体的に斜面部でⅡ層の堆積が良好で、東側調査区の南側斜面部(3区)では2層に細分できるが、平坦面では分層できず、西半では表土直下でⅣ層が確認できる状況であった。各層は以下の通りである。

- I層 現在の表土層及び耕作土である。斜面部では色調により細分可能であるが、近年の堆積層であるため、遺物の取り上げ等では一括して扱っている。
- Ⅱ層 縄文時代から古代の遺物を包含する堆積層である。平坦面では遺物を包含する黒褐色土の単層であるが、斜面部(特に南側)では暗褐色を呈し、羽口等の古代以降の遺物を包含するⅡ層上部と黒褐色を呈し、縄文土器を主体とする縄文時代の遺物を包含するⅡ層下部との2層に細分できる。
- Ⅲ層 灰黄褐色を呈する堆積層で、本来は古代以降の遺構検出面と考えられるが、限られた部分でしか確認できず、詳細を確かめることはできなかった。
- Ⅳ層 縄文時代の遺構検出面である。にぶい黄褐色～褐色を呈する。
- V層 「地山」とよばれる堆積層で、最終的な遺構確認面である。細分は可能であるが、本層以下では、遺構・遺物が確認できないため、一括して取り扱っている。本層の下位には風化した花崗岩層

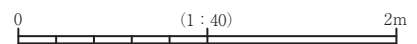
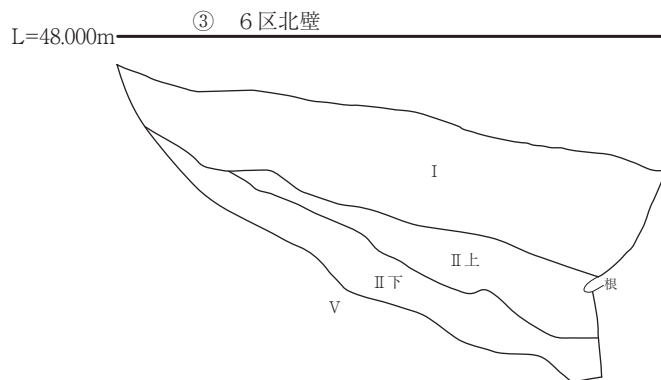
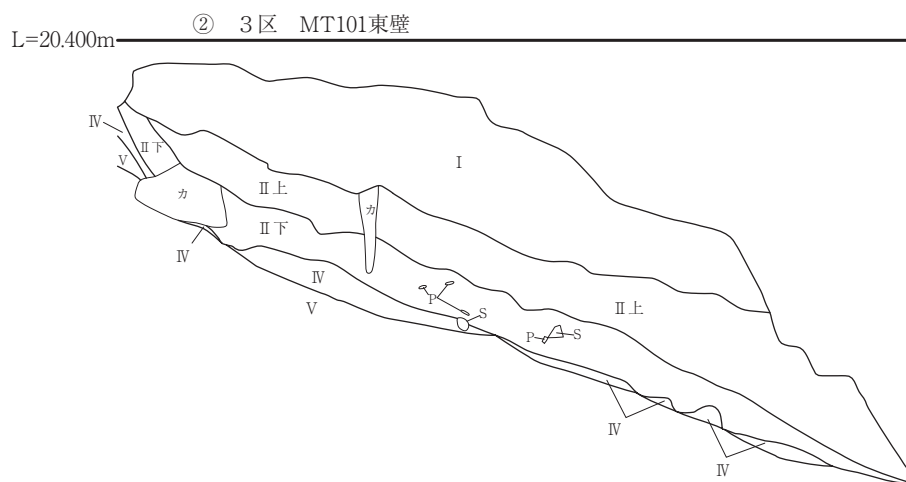
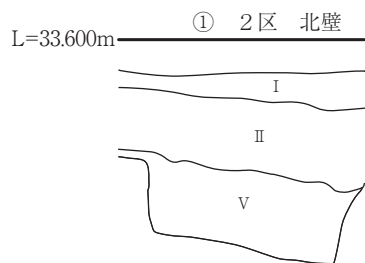
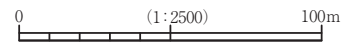
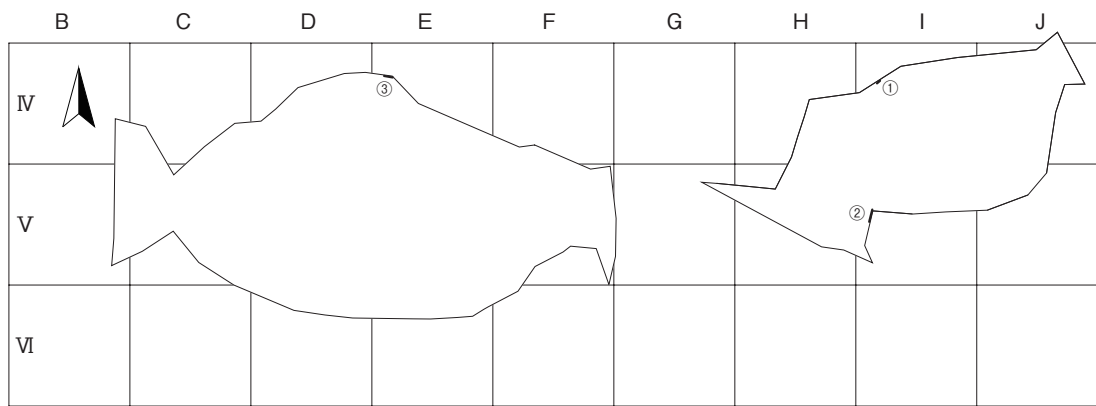




土地分類基本調査「宮古・鮭ヶ崎」「大槌・霞露ヶ岳」を一部改変



第2図 地形分類図



第3図 基本層序

が確認できる。西側ではI層直下が本層で、ほとんどの遺構が本層上面での検出である。また、東側の平坦面(2区)についても後世の地形改変によりI層直下が本層で、本層上面が遺構検出面となっている。

## 2 歴史的環境

山田町からは、多数の遺跡が見つかっており、山田町教育委員会が行った4年間の詳細分布調査では517遺跡が確認されている。町内の遺跡の分布状況を見ると、縄文から古代の集落遺跡は海岸線に向かって張り出した小起伏山地の末端となる尾根の斜面部と、その間の谷を流れる河川や沢によって形成された小規模な平野に立地しているものが多く、また、鉄生産に関する遺跡は小起伏山地を中心に広く分布する(山田町教委2002)。本遺跡も小起伏山地に立地している。

時代としては縄文時代から近世に至る各時代において遺跡が存在するが、傾向として縄文時代と古代の複合集落が多く、大きな集落跡としては沢田I遺跡(54)があげられる。縄文時代前期前葉から中期末葉まで竪穴建物跡が、また、奈良、平安時代の竪穴建物跡が確認されている。

中でも古代製鉄関連遺跡に関しては387遺跡と多い。これは原料である良質な砂鉄を採取できる宮古花崗岩層が、豊間根、荒川から船越まで南北に分布しており、製鉄関連遺跡がこの花崗岩層の分布域と重なることに起因する。上村遺跡(84)や後山I遺跡(87)では工房跡、製鉄炉を含む鉄生産炉、炭窯が検出されている。両遺跡とも例にもれず風化花崗岩層上に立地している。

本遺跡周辺の遺跡を抜き出した90遺跡について、第4図および、第1表に記した。

### 引用・参考文献

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

2015『田の浜館跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第639集

2015『間木戸II遺跡・間木戸V遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第640集

2016『焼山遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第651集

2017『ク井遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第667集

山田町教育委員会1999『紅山B遺跡発掘調査報告書』山田町教育委員会埋蔵文化財調査報告書第2集

1999『山田町内遺跡詳細分布調査報告書I』山田町教育委員会埋蔵文化財調査報告書第4集

2002『細浦IV・後山I遺跡発掘調査報告書』山田町教育委員会埋蔵文化財調査報告書第9集





第4図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	浜川目沢田II	集落跡	縄文	46	間木戸II	散布地	縄文
2	浜川目沢田I	散布地	縄文	47	間木戸III	散布地・製鉄跡	縄文・不明
3	浜川目沢田III	集落跡	縄文	48	間木戸IV	集落跡・一里塚	縄文・近世
4	浜川目沢田IV	散布地	縄文	49	間木戸V	散布地・製鉄跡	縄文・不明
5	猫石坂	散布地・城郭跡	縄文・中世	50	間木戸VI	製鉄跡	不明
6	赤石沢I	製鉄跡	不明	51	房の沢II	散布地・製鉄跡	縄文・不明
7	下条	散布地	縄文	52	房の沢III	散布地	縄文
8	紅山A	散布地	縄文	53	房の沢IV	散布地・集落跡・古墳群	縄文・古代
9	紅山B	集落跡・製鉄跡	縄文・弥生・不明	54	沢田I	集落跡	縄文・弥生・古代
10	大沢館	城館跡	中世	55	沢田II	集落跡・貝塚・城館跡・製鉄跡	縄文・古代・中世・不明
11	ワサワ	製鉄跡	不明	56	沢田III	散布地	縄文
12	寺ヶ沢	散布地・製鉄跡	縄文	57	沢田IV	散布地・城館跡・製鉄跡	縄文・中世・不明
13	大開	散布地・製鉄跡	縄文	58	沢田VI	散布地	縄文
14	神倉沢土坑群	土坑	不明	59	袴田I	散布地	縄文
15	新開地	散布地	縄文	60	袴田II	散布地・製鉄跡	縄文・不明
16	新開地I	散布地・製鉄跡	縄文・不明	61	袴田III	散布地・製鉄跡	縄文
17	新開地II	縄文・散布地	縄文・不明	62	川向I	生産遺産(製鉄品)	古代
18	新開地IV	製鉄跡	不明	63	川向II	散布地・製鉄跡	縄文・不明
19	平ノ沢	製鉄跡	不明	64	川向III	散布地・製鉄跡	縄文・不明
20	神倉I	製鉄跡	不明	65	雲南沢	散布地・製鉄跡	縄文
21	山谷	散布地・製鉄跡	縄文・不明	66	関谷III	散布地・製鉄跡	縄文・不明
22	山谷I	製鉄跡	不明	67	関谷IV	散布地・製鉄跡	縄文・不明
23	山谷II	製鉄跡	不明	68	関谷V	散布地・製鉄跡	縄文・不明
24	山谷III	製鉄跡	不明	69	八幡館	城館跡	中世
25	山谷IV	散布地	縄文	70	長崎I	散布地・城館跡	縄文・中世
26	山谷VIII	散布地・製鉄跡	縄文	71	長崎II	散布地・城館跡	縄文・中世
27	山谷IX	製鉄跡	不明	72	長崎III	城館跡	中世
28	山谷X	製鉄跡	不明	73	長崎IV	城館跡	中世
29	天井間木戸	製鉄跡	不明	74	小沢II	散布地	縄文
30	天井間木戸I	散布地・製鉄跡	縄文・不明	75	飯岡II	城館跡	中世
31	天井間木戸II	製鉄跡	不明	76	飯岡III	散布地	縄文
32	天井間木戸III	散布地・製鉄跡	縄文・不明	77	細浦I	散布地・製鉄跡	縄文・弥生・不明
33	天井間木戸IV	製鉄跡	不明	78	細浦III	散布地	縄文
34	天井間木戸V	散布地・製鉄跡	縄文・不明	79	細浦IV	散布地	縄文
35	天井間木戸VI	製鉄跡	不明	80	細浦V	散布地・城館跡	縄文・中世
36	天井間木戸VII	製鉄跡	不明	81	細浦VI	散布地・製鉄跡	縄文・古代・不明
37	天井間木戸VIII	製鉄跡	不明	82	細浦VII	製鉄跡	不明
38	天井間木戸IX	散布地・製鉄跡	縄文・不明	83	上	集落跡	縄文・弥生
39	山の神	製鉄跡	不明	84	上村	散布地・製鉄跡	縄文・不明
40	山の神I	散布地	縄文	85	跡浜I	散布地	縄文
41	柳沢I	散布地・製鉄跡	縄文・不明	86	跡浜II	散布地	縄文
42	柳沢II	散布地・城館跡・製鉄跡	縄文・中世・不明	87	後山I	散布地・製鉄跡	縄文・弥生・古代・不明
43	柳沢III	散布地	縄文・古代	88	後山II	散布地	縄文
44	柳沢IV	散布地	縄文	89	後山III	集落跡・製鉄跡	縄文・弥生・古代・不明
45	間木戸I	散布地	縄文	90	草木	散布地・製鉄跡	縄文・不明



### Ⅲ 調査の方法

#### 1 野外調査

##### (1) 調査区(第5・6図)

調査区は東西最大320m、南北最大100mと広く、中央の谷部を挟んで東西に大きく分かれている。東西の調査区にはそれぞれ尾根上の平坦面と東西の斜面部があり、地形の変化に富んだ調査区となっている。岩手県教育委員会による試掘の段階で、東側から1区、2区、…、7区と区割りがなされており、その区割りを踏襲した。1区から3区が東側調査区、5区から7区が西側調査区に当たる。中央に谷部が4区に当たり、調査対象から除外されている。

##### (2) グリッドの設定(第6図)

浜川目沢田Ⅱ遺跡全体を網羅できるようにグリッドを設定した。平面直角座標第X系(世界測地系)を用い、 $X = -56,400$ 、 $Y = 98,700$ をグリッドの原点として、一辺40mの大グリッドに区割りし、さらに、大グリッドを一辺4mの小グリッドに分割した。大グリッドは東西方向にアルファベットの大文字を用いて、東にA・B・C・…、南北方向はローマ数字を用いて、南にⅠ・Ⅱ・Ⅲ・…、とし、これらを組み合わせてⅠA・ⅡBのように表示した。また、小グリッドは、北西を起点に00から99とした。実際のグリッドは大小グリッドの組み合わせにより、ⅠA00のように表示し、グリッド杭の名称はグリッド北西隅に与えた。このグリッドとは別に、前述の通り分けされており、その分けを使用した。

実際の区割設定には、基準点2点、区画割付杭4点を打設し、これを用いた(第2表)。

第2表 基準点・区画割付杭一覧

杭名	X	Y	H	グリッド	区域
基-1	-56561.382	99051.585	32.963	-	2区
基-2	-56579.518	98861.004	51.226	-	6区
補-1	-56608.542	98894.167	43.071	-	6区
補-2	-56532.000	98856.000	49.122	ⅣD39	6区
補-3	-56553.685	99058.046	33.056	-	2区
補-4	-56534.470	99040.003	33.443	-	1区

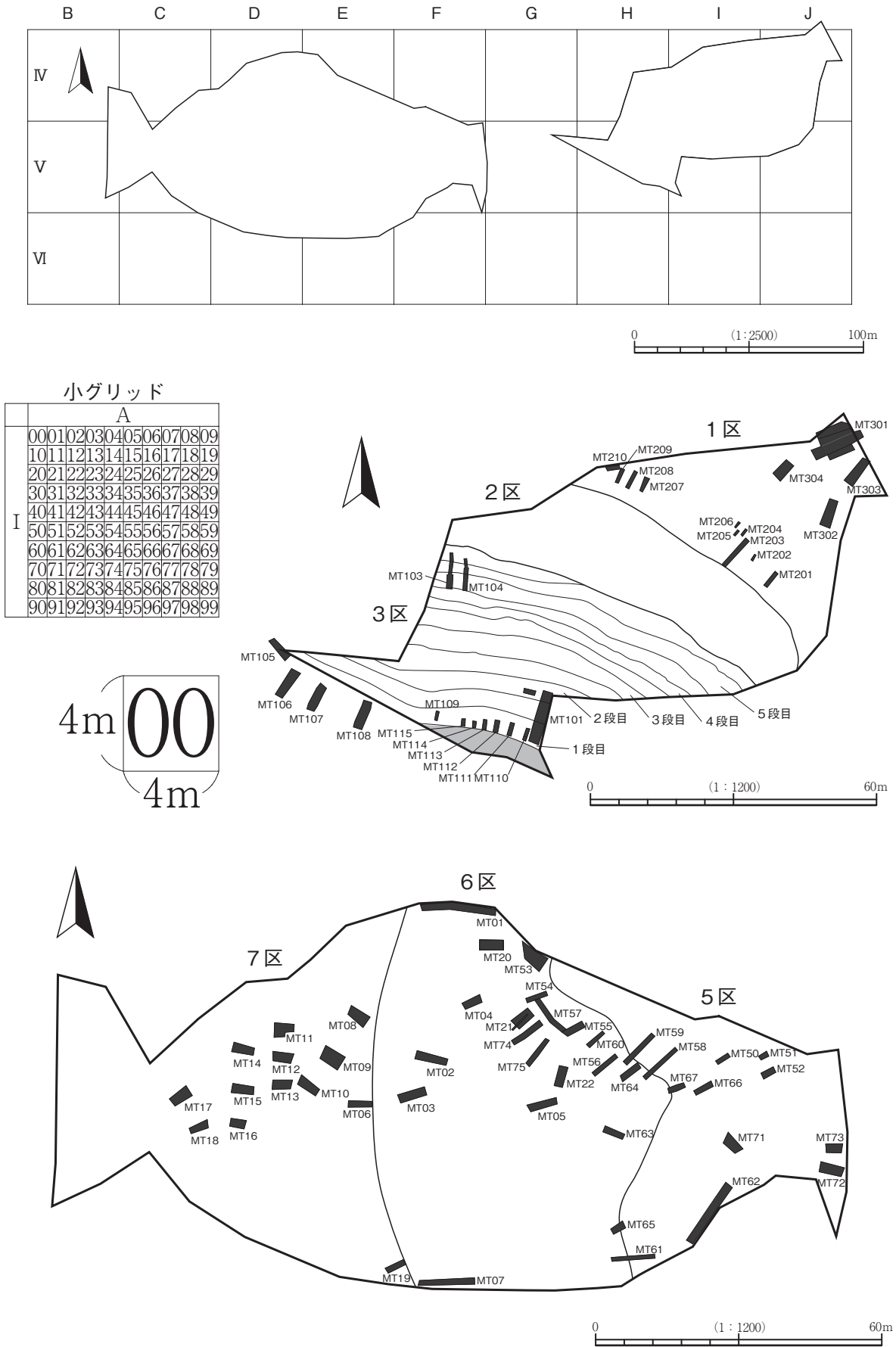
##### (3) 試掘・表土掘削・遺構検出・精査

調査区が大きく東と西に分かれているが、東側は重機の進入路の確保に時間を要するため、西側から調査を実施することにした。岩手県教育委員会による試掘は、主に、平坦部の2区と6区で行われており、その他の斜面部(1・3・5・7区)を補完するように、各区で試掘を行った。7区に関しては、6区での試掘の結果、遺構・遺物とも少ないことと、安全面を考慮して、重機での試掘を行った。

各区での試掘の結果を踏まえ、重機による表土掘削を行った。各区とも基本的には遺構検出面であるⅣ層もしくはⅤ層面まで掘削を行った。1区については、Ⅱ～Ⅲ層の堆積が良好で、Ⅲ層上面とⅣ層上面の2回に分けて行った。



第5図 調査区位置図



第6図 グリッド配置図・トレンチ位置図



## 2 室内整理

検出作業は人力による作業に頼った。鋤簾を使用して、遺構の確認を行った後に、移植ゴテを使用して掘削を行った。調査区境で検出された竪穴建物跡等はベルトを残した2分法を用い、土坑や柱穴などは半割法を用いた。遺構の中心は土坑や柱穴などの小規模なものであったため、半割法を中心に用いた。掘削の際には、適宜サブトレンチを設定し、堆積状況の把握を行っている。

### (4) 遺構名の登録

遺構名称は種別毎に略号を用い、検出順に01から使用した。使用した遺構略号は以下の通りである。

竪穴建物跡…SI 住居状遺構…SKI 炉・焼土遺構…SL 土坑…SK フラスコ形土坑…SKF

陥し穴…SKT 埋設土器…SR 溝跡…SD 炭窯…SW 不明遺構…SX 柱穴状土坑…区域名+P

検出時に番号を付したため、多数の欠番が生じているが、遺物の注記が混乱しないようにするため、発掘調査時はそのまま使用した。掲載遺構順及び掲載遺物決定後、遺構種別毎に連番になるように遺構名を変更している。そのため、第3表に対応表を示した。

### (5) 実測・写真

遺構の実測は光波測量器と電子平板システム（Cubic社製実測支援システム「遺構くん」）を用いて平面図を作成し、断面図は従前通りの方法で作図を行った。

野外調査の写真撮影にあたっては、中判カメラ（6×4.5判）（モノクローム）と一眼レフデジタルカメラ（Canon社製EOS 5D）を使用した。

## 2 室内整理

### (1) 遺構

遺構図面は電子データの加工・修正を行い、ソフト上で編集作業を行った。断面図は原図をスキャナーで読み込み、パソコン上で平面図との整合性を点検し、点検したものをデジタルトレースした。遺構図の縮尺は図版毎にスケールを付すと同時に縮尺を記載したので参照して頂きたい。遺構図に使用した記号・網掛け等は凡例に示した。

遺構図の編集基礎作業は遺構の調査担当者、作業員が行い、最終的に北村が編集した。

遺構の計測は電子データ上で、次の方法で行った。①主軸方向は基本的に長軸または長辺方向である。②長径は長軸方向の最大距離を、短径は長径に直行する軸で最大径を計測した。③深さは上端で最も高い部分と底面の比高差で計算した。④溝跡などの長大な遺構の長さは電子平板システム内で、遺構の中心線を3回計測した値の平均値を記載した。⑤溝跡の幅は長軸方向に直交する場所で計測し、最大幅と最小幅を記載した。

### (2) 遺物

出土遺物は水洗、仕分、出土地点の確認を行い、種類毎に次の通りにした。遺物図版に使用した表現方法及び網掛け等は凡例及び第14～16図に示した。番号は選別時に種別毎に整理番号を付し、掲載遺物決定後に変更している。掲載番号は本文、観察表、図版、写真図版すべて一致している。

<土器類・土製品> 取り上げてきた袋毎に重量計測（g単位：少数第1位を四捨五入）を行い、台帳に記載した。その後、注記を行い、接合作業と資料の選択・登録作業を行った。選択にあたっては

全ての資料を登録・分類・図化する時間的余裕がないため、次の選定基準を設定し行った。①全体の形状が把握できるもの、②口径もしくは底径が算出できる資料、③胴部破片で反転実測が可能な資料、④口縁部もしくは底部の一部が残存する資料、⑤胴部の断片的な資料。基本的には①～③の基準で選別を行ったが、全体的に断片的な資料が多いことから、遺構内出土資料や文様のある資料、資料数の少ない器種については④や⑤から採用した。その後、必要に応じて石膏による復元作業を行い、拓影図作成を含む図化作業、トレース作業、写真撮影を行った。

＜石器・石製品＞ 1点毎に整理番号を付し、重量計測（g単位：少数第2位を四捨五入、大形の礫塊石器は少数第1位まで計測）を行い、台帳に記載した。その後、掲載遺物を選別し、図化・トレース作業を行った。石器の作図の一部は作業の効率化を優先して外部（株式会社ラング）に委託した。

＜金属製品＞ まず、簡単に土砂の除去を行った後、X線写真撮影を行い、もとの形状を確認した。その上で、図化作業を行った。機械を使用した鏝落としは行っていない。図化終了後、トレース作業、写真撮影を行った。

＜炉壁・鉄滓＞ 取り上げてきた袋毎に番号を付し、調査員が確認しながら、作業員主体で分類を行った。種類毎に重量計測を行い、竪穴建物跡から出土したものを中心に化学分析を行った。第Ⅶ章を参照して頂きたい。種類毎に代表的なものは写真撮影を行った。

＜自然遺物＞ 貝類が該当する。水洗後、原生標本や図鑑などを参考に調査担当者が分類し、種別が判別でき、形状のわかるものは点数を計上し、種別毎の総重量を計測した。細かく碎けて、種類の特定できないものは不明とし、重量の計測のみを行った。代表的なものは写真撮影を行った。

### （3）写 真

野外調査時に撮影した遺構などの写真には6×4.5判モノクローム、デジタルデータがある。モノクローム写真は主に保存用に撮影したもので、アルバムに整理し、台帳を作成した。デジタルデータはRAWデータとJPEGデータを同時に撮れるモードで撮影を行い、写真図版作成用に使用した。デジタルデータは当センターの規定に則った整理を行い、台帳を作成した。遺物写真は室内整理時にデジタルカメラでJPEG撮影モードの撮影を行った。これらの遺構写真と航空写真及び遺物写真で図版を作成した。なお、遺構の断面写真は基本的には図版の断面図と同じ方向から撮影したものである。

第3表 遺構一覽1

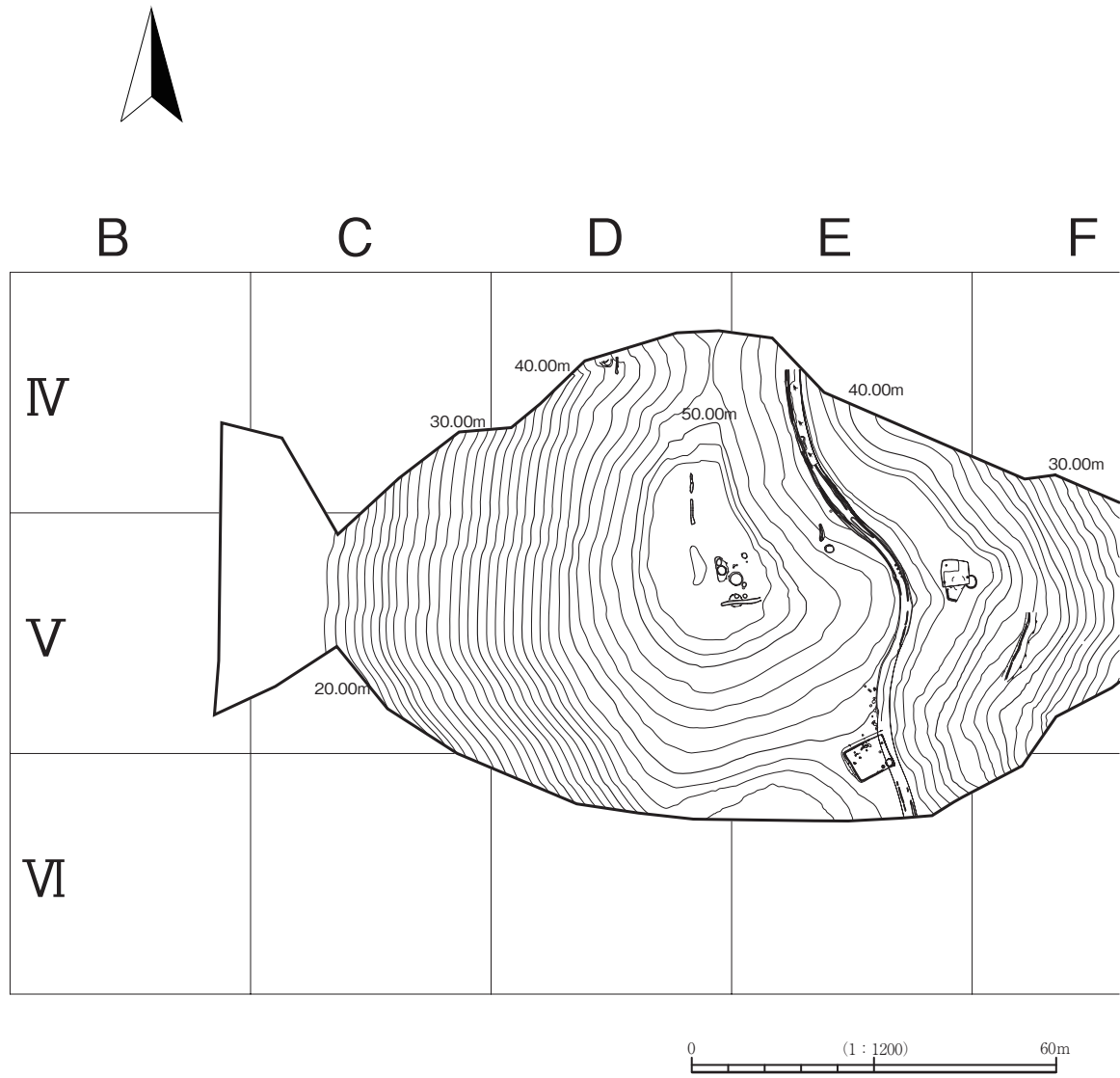
No.	報告名	現場名	No.	報告名	現場名	No.	報告名	現場名
1	1号竪穴建物跡	SI11	53	20号土坑	SK50	105	72号土坑	SK179
2	2号竪穴住居跡	SI19	54	21号土坑	SK68	106	73号土坑	SK171
3	3号竪穴建物跡	SI07	55	22号土坑	SK142	107	74号土坑	SK164
4	4号竪穴住居跡	SI18	56	23号土坑	SK12	108	75号土坑	SK161
5	5号竪穴建物跡	SI09	57	24号土坑	SK113	109	76号土坑	SK154
6	6号竪穴住居跡	SK66	58	25号土坑	SK55	110	77号土坑	SK159
7	7号竪穴建物跡	SI08	59	26号土坑	SK60	111	78号土坑	SK158
8	8号竪穴建物跡	SI10	60	27号土坑	SK57	112	79号土坑	SK149
9	9号竪穴住居跡	SI24	61	28号土坑	SK111	113	80号土坑	SK150
10	10号竪穴住居跡	SI20	62	29号土坑	SK110	114	81号土坑	SK134
11	11号竪穴建物跡	SI12	63	30号土坑	SX13	115	82号土坑	SK105下
12	12号竪穴住居跡	SI22	64	31号土坑	SK104	116	83号土坑	SK105
13	13号竪穴建物跡	SI06	65	32号土坑	SK157	117	84号土坑	SK95
14	14号竪穴住居跡	SI23	66	33号土坑	SK133	118	85号土坑	SK79
15	15号竪穴住居跡	SK123	67	34号土坑	SK67	119	86号土坑	SK186
16	16号竪穴住居跡	SI17	68	35号土坑	SK74	120	87号土坑	SK185
17	17号竪穴住居跡	SI16	69	36号土坑	SK65	121	88号土坑	SK184
18	18号竪穴建物跡	SX15	70	37号土坑	SK46	122	89号土坑	SK170
19	21号竪穴建物跡	SX10	71	38号土坑	SK176	123	90号土坑	SK116
20	22号竪穴建物跡	SI13	72	39号土坑	SK172	124	91号土坑	SK114
21	23号竪穴建物跡	SK11	73	40号土坑	SK177	125	92号土坑	SK83
22	24号竪穴建物跡	SI04	74	41号土坑	SK139	126	93号土坑	SK41
23	25号竪穴建物跡	SI05	75	42号土坑	SK141	127	94号土坑	SK37
24	26号竪穴建物跡	SI03	76	43号土坑	SK51	128	95号土坑	SK31
25	27号竪穴建物跡	SI01	77	44号土坑	SK53	129	96号土坑	SK36
26	28号竪穴建物跡	SI02	78	45号土坑	SK63	130	97号土坑	SK29
27	29号竪穴建物跡	SKI01	79	46号土坑	SK115	131	98号土坑	SK28
28	1号炉跡	SI14	80	47号土坑	SK155	132	99号土坑	SK22
29	2号炉跡	SI15	81	48号土坑	SK181	133	100号土坑	SK18
30	3号炉跡	SL03	82	49号土坑	SK156	134	101号土坑	2区P24
31	1号焼土遺構	SL01	83	50号土坑	SK148	135	102号土坑	SK80
32	2号焼土遺構	SL05	84	51号土坑	SK125	136	103号土坑	SX12
33	11号焼土遺構	SL02	85	52号土坑	SK107	137	104号土坑	SK145
34	1号土坑	SK40	86	53号土坑	SK30	138	105号土坑	SK146
35	2号土坑	SK38	87	54号土坑	SK17	139	106号土坑	SK162
36	3号土坑	SK54	88	55号土坑	SK99	140	107号土坑	SK92
37	4号土坑	SK144	89	56号土坑	SK84	141	108号土坑	SK91
38	5号土坑	SK97	90	57号土坑	SK39	142	109号土坑	SK56
39	6号土坑	SK98	91	58号土坑	SK24	143	110号土坑	SK59
40	7号土坑	SK96	92	59号土坑	SK35	144	111号土坑	SK188
41	8号土坑	SK69	93	60号土坑	SK119	145	112号土坑	SK173
42	9号土坑	SK44	94	61号土坑	SK58	146	113号土坑	SK174
43	10号土坑	SK47	95	62号土坑	SK52	147	114号土坑	SK165
44	11号土坑	SK43	96	63号土坑	SK187	148	115号土坑	SK132
45	12号土坑	SK42	97	64号土坑	SK182	149	116号土坑	SK118
46	13号土坑	SK64	98	65号土坑	SK169	150	117号土坑	SK183
47	14号土坑	SK76	99	66号土坑	SK167	151	118号土坑	SK166
48	15号土坑	SK86	100	67号土坑	SK168	152	119号土坑	SK147
49	16号土坑	SK85	101	68号土坑	SK160	153	120号土坑	SK140
50	17号土坑	SK117	102	69号土坑	SK151	154	121号土坑	SK137
51	18号土坑	SK61	103	70号土坑	SK152	155	122号土坑	SK109
52	19号土坑	SK143	104	71号土坑	SK180	156	123号土坑	SK100

第3表 遺構一覧2

No.	報告名	現場名
157	124号土坑	SK94
158	125号土坑	SK93
159	126号土坑	SK89
160	127号土坑	SK70
161	128号土坑	SK45
162	129号土坑	SK33
163	130号土坑	SK32
164	131号土坑	SK25
165	132号土坑	SK23
166	133号土坑	SK13
167	134号土坑	SK128
168	135号土坑	SK127
169	136号土坑	SK126
170	137号土坑	SK124
171	138号土坑	SK129
172	139号土坑	SK153
173	140号土坑	SX05
174	141号土坑	SK131
175	142号土坑	SK135
176	143号土坑	SK112
177	144号土坑	SK77
178	145号土坑	SK48
179	146号土坑	SK19
180	147号土坑	SK20
181	148号土坑	SK90
182	149号土坑	SK163
183	150号土坑	SK130
184	151号土坑	SK122
185	201号土坑	SK49
186	202号土坑	SK75
187	203号土坑	SK106
188	204号土坑	SK101
189	205号土坑	SK108
190	206号土坑	SK82
191	207号土坑	SK81
192	208号土坑	SK121
193	209号土坑	SK88
194	210号土坑	SK87
195	211号土坑	SK26
196	212号土坑	SK21
197	213号土坑	SK15
198	214号土坑	SK16
199	215号土坑	SK14
200	216号土坑	SK102
201	217号土坑	SK103
202	218号土坑	SK07
203	219号土坑	SK06
204	220号土坑	SK08
205	221号土坑	SK03
206	222号土坑	SX04
207	223号土坑	SK120
208	224号土坑	SK02

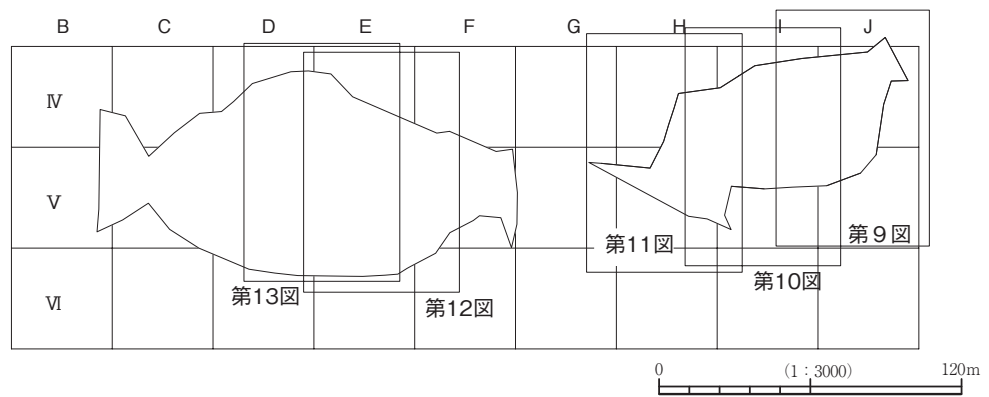
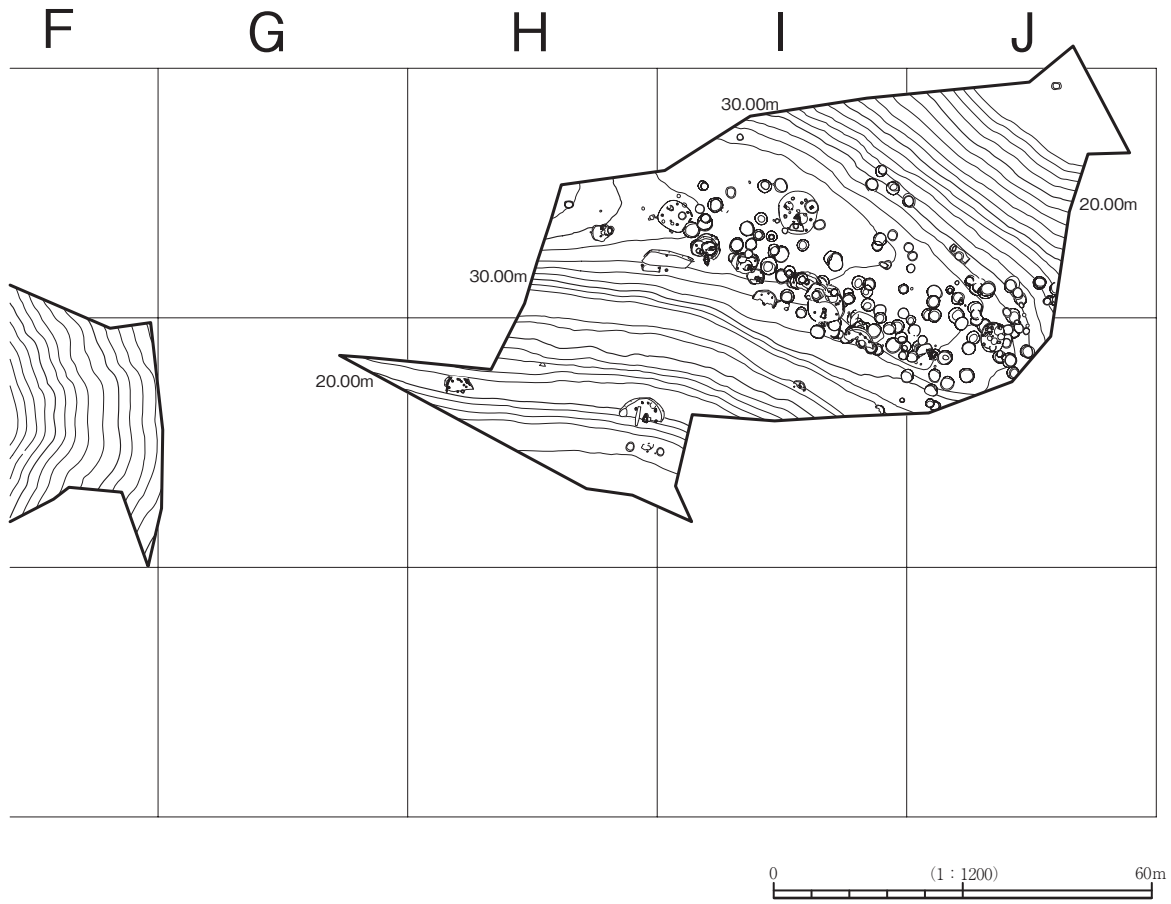
No.	報告名	現場名
209	301号土坑	SK09
210	302号土坑	SK04
211	303号土坑	SK05
212	1号埋設土器	SR01
213	1号溝跡	SD01
214	2号溝跡	SD02
215	3号溝跡	SD03
216	1号炭窯	SW01
217	2号炭窯	SW02
218	3号炭窯	SW03
219	1号鉄生産関連連炉	SX14
220	1号道路状遺構	SX03・SX06
221	1号不明遺構	SX16
222	2号不明遺構	SX07
223	11号不明遺構	SX09
224	12号不明遺構	SX08
225	1号柱穴	2区P4
226	2号柱穴	2区P6
227	3号柱穴	2区P7
228	4号柱穴	2区P9
229	5号柱穴	2区P10
230	6号柱穴	2区P11
231	7号柱穴	2区P13
232	8号柱穴	2区P14
233	9号柱穴	2区P18
234	10号柱穴	2区P20
235	11号柱穴	2区P21
236	12号柱穴	2区P26
237	13号柱穴	2区P27
238	14号柱穴	2区P28
239	15号柱穴	2区P29
240	16号柱穴	2区P30
241	17号柱穴	2区P31
242	18号柱穴	2区P32
243	19号柱穴	2区P33
244	20号柱穴	2区P34
245	21号柱穴	2区P35
246	22号柱穴	2区P36
247	23号柱穴	2区P38
248	24号柱穴	2区P39
249	25号柱穴	2区P40
250	26号柱穴	2区P41
251	31号柱穴	2区P3
252	32号柱穴	2区P5
253	33号柱穴	2区P8
254	34号柱穴	2区P12
255	35号柱穴	SK27
256	36号柱穴	3区P2
257	37号柱穴	6区P34
258	38号柱穴	6区P35
259	41号柱穴	1区P1
260	42号柱穴	1区P2

No.	報告名	現場名
261	43号柱穴	1区P3
262	44号柱穴	2区P1
263	45号柱穴	2区P2
264	46号柱穴	2区P15
265	47号柱穴	2区P16
266	48号柱穴	2区P17
267	49号柱穴	2区P19
268	50号柱穴	2区P22
269	51号柱穴	2区P23
270	52号柱穴	2区P25
271	53号柱穴	3区P1
272	54号柱穴	6区P1
273	55号柱穴	6区P2
274	56号柱穴	6区P3
275	57号柱穴	6区P4
276	58号柱穴	6区P5
277	59号柱穴	6区P6
278	60号柱穴	6区P7
279	61号柱穴	6区P8
280	62号柱穴	6区P9
281	63号柱穴	6区P10
282	64号柱穴	6区P11
283	65号柱穴	6区P12
284	66号柱穴	6区P13
285	67号柱穴	6区P14
286	68号柱穴	6区P15
287	69号柱穴	6区P16
288	70号柱穴	6区P17
289	71号柱穴	6区P18
290	72号柱穴	6区P19
291	73号柱穴	6区P20
292	74号柱穴	6区P21
293	75号柱穴	6区P22
294	76号柱穴	6区P23
295	77号柱穴	6区P24
296	78号柱穴	6区P25
297	79号柱穴	6区P26
298	80号柱穴	6区P27
299	81号柱穴	6区P28
300	82号柱穴	6区P29
301	83号柱穴	6区P30
302	84号柱穴	6区P31
303	85号柱穴	6区P33

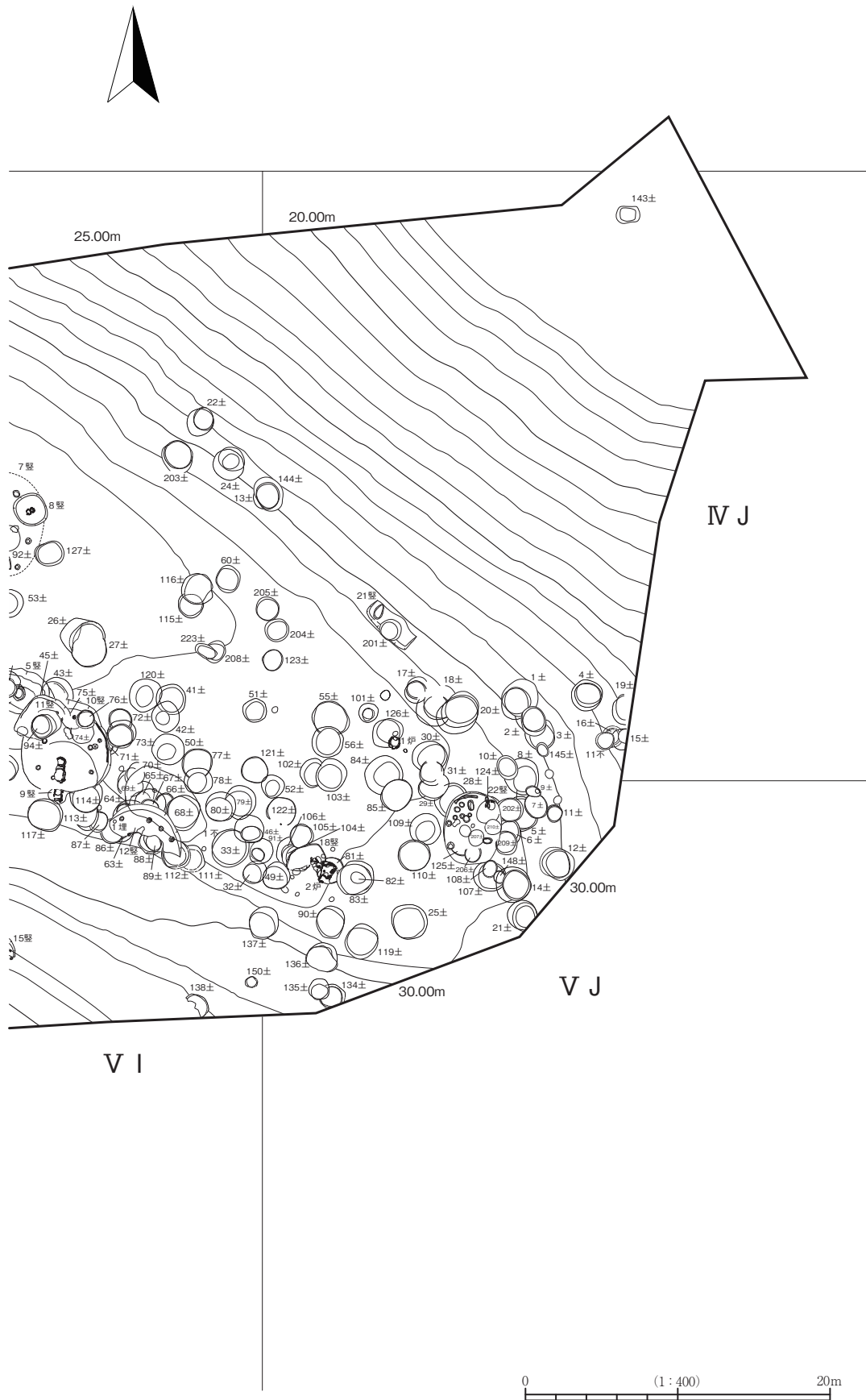


第7図 遺構分布図1

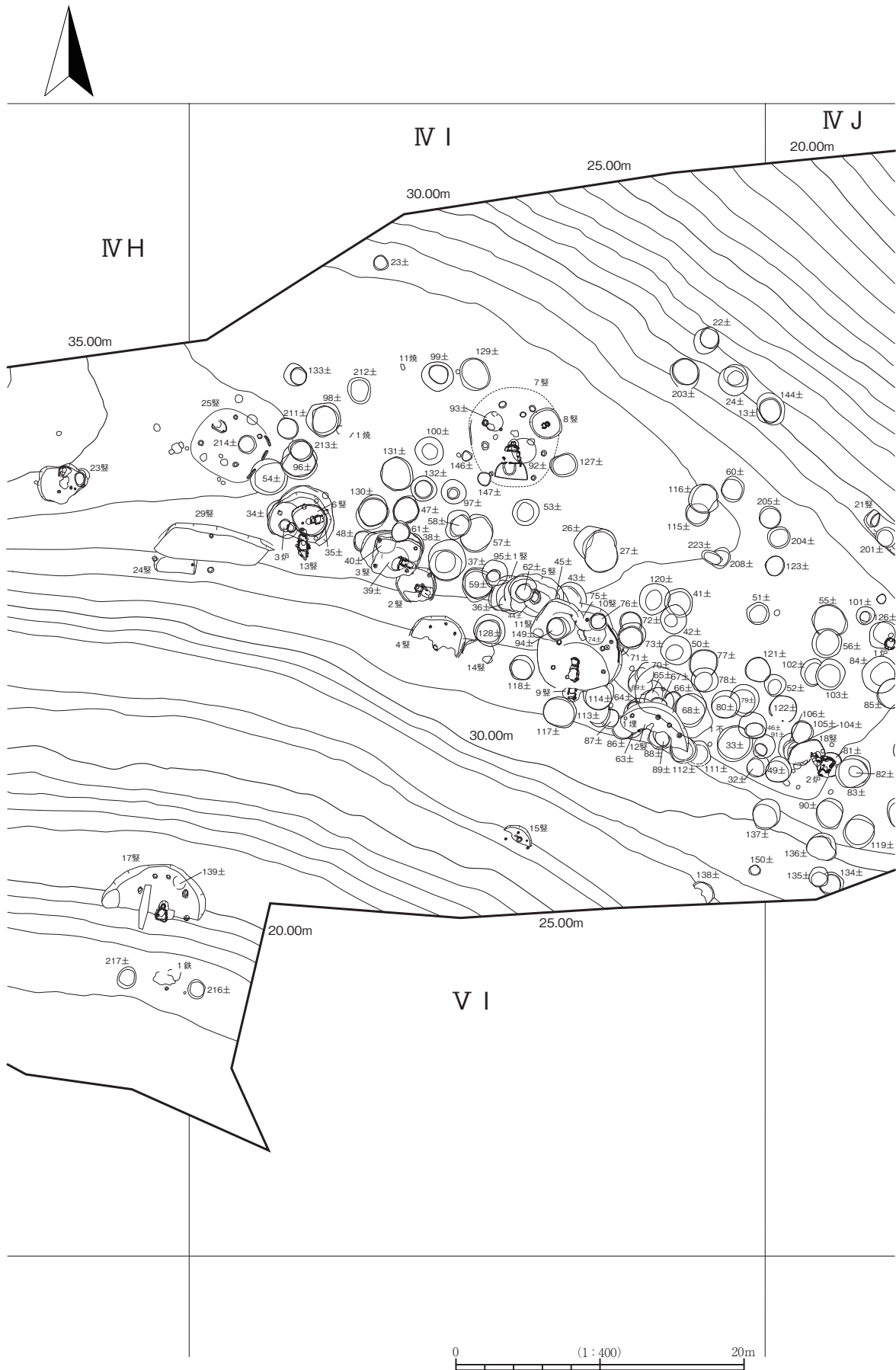




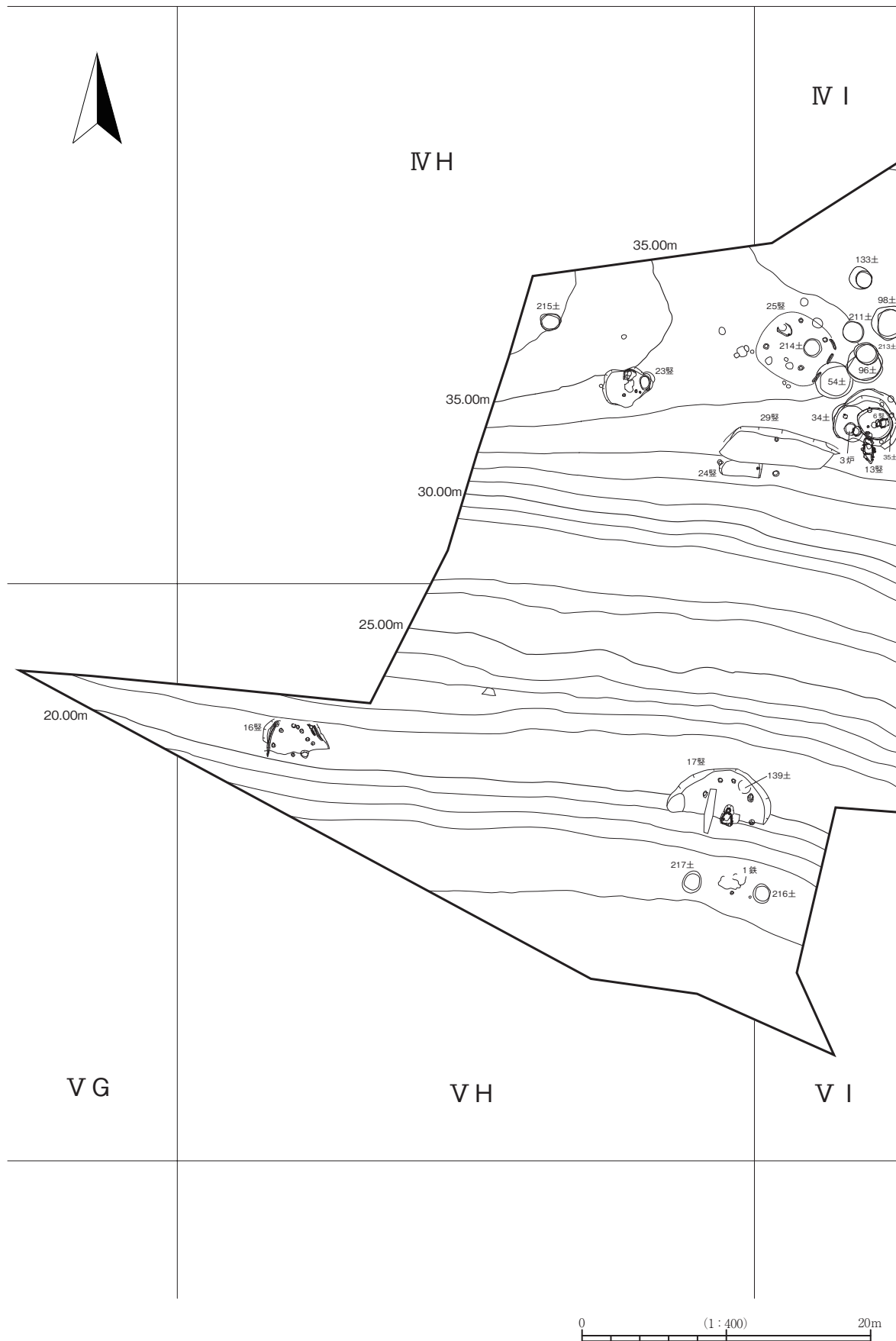
第8図 遺構分布図2



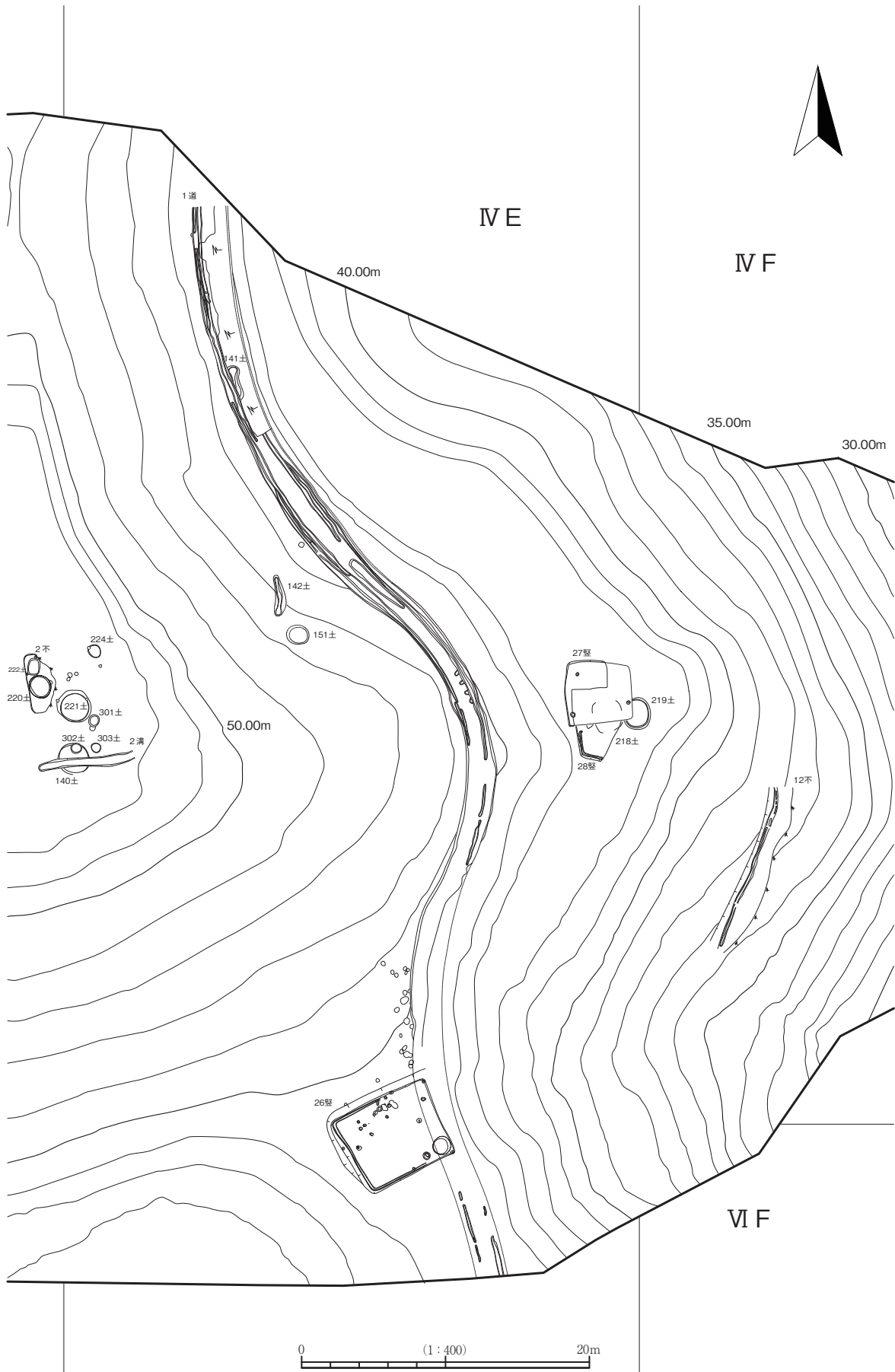
第9図 遺構分布図部分1



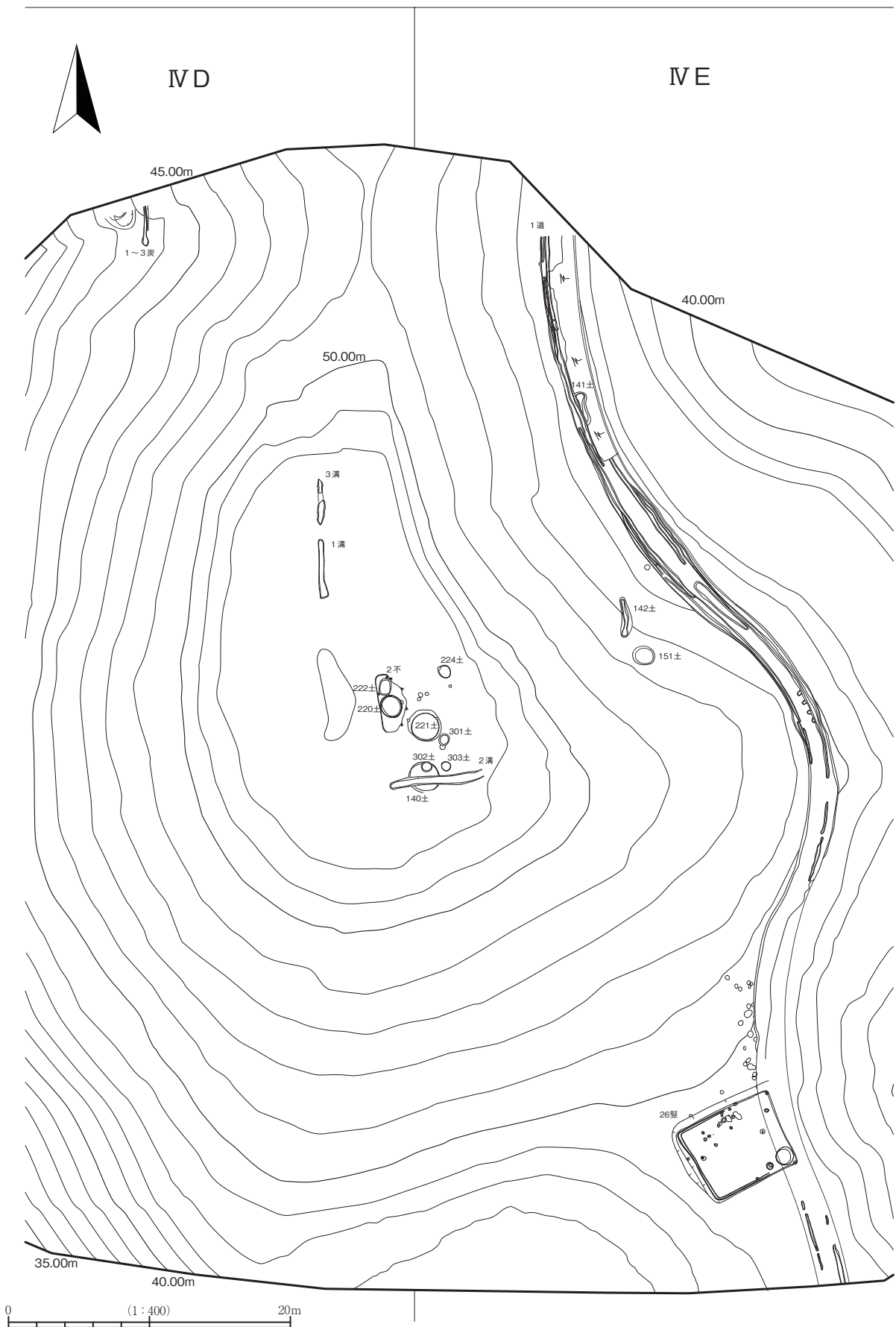
第10図 遺構分布図部分2



第11図 遺構分布図部分3



第12図 遺構分布図部分4



第13図 遺構分布図部分5

## IV 分類基準

### 1 遺構類

浜川目沢田Ⅱ遺跡では縄文時代以降の多様な遺構が検出された。ここでは、使用している名称の定義付と分類について記載する。

**竪穴建物跡** 従来の竪穴住居跡、住居状遺構、工房といった竪穴遺構を掘立柱建物跡と対比して一括した。古代(平安時代)の竪穴建物跡にはカマドが構築されていないため、基本的には鉄生産に関係する工房と判断している。本文中では遺構種別の項目を設けており、縄文時代の遺構で竪穴内に炉が構築されているものを住居、炉のないものを住居状、古代の遺構で竪穴内に炉が構築されているものを工房、炉のないものを工房状とした。

**土坑類** フラスコ状(形)土坑、陥し穴(状遺構)、墓壙、その他の土坑と多様な土坑が検出された。遺構名としては、土坑で統一し、遺構一覧の遺構種別の項目で、断面形がフラスコ形やビーカー形を呈するものを貯蔵穴、陥し穴状遺構といわれる遺構を陥し穴、平面形が楕円形や隅丸長方形で遺構全体が同質の堆積土で埋没している(埋められている)ものを墓壙、それ以外の用途不明のものを土坑とした。古代のビーカー形のものについても形態的特徴から、貯蔵穴としている。

### 2 土器類(第14図)

土器類には、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器がある。縄文土器以外については、分類できるほどの数量がないため、個別に記載している。

相対的に全体像を復原できた資料が少なく、詳細な型式を断定できるものが少ない。できる限り、型式認定につとめたが、特徴的な文様の確認できない破片資料も多く、型式幅を持たせた分類にならざるを得ないものも多く存在している。そのため、文様全体を判断できる資料や特徴的な文様のある破片資料以外は大まかな型式を提示するに留めている。

土器の分類については、普代村力持遺跡の出土事例、盛岡市柿ノ木平遺跡の出土事例、阿部昭典氏の編年(註1)を参考にした。

**物見台式** 文様全体を把握できる資料は出土していない。キャリパー形を呈し、口縁部に貝殻腹縁文や沈線文の他、2条1単位の沈線間に貝殻圧痕を充填する枕木状沈線文により三角形や菱形の文様を描く一群。

**大木7a式** 文様全体を把握できる資料は出土していない。頸部に刻みを有する隆帯を巡らして口縁部と胴部を区画し、口縁部に沈線による文様を描く一群。

**大木7b式** 文様全体を把握できる資料は出土していない。交互刺突文や押し引き状の沈線が確認できるものを含めた。

**大木8a式新段階** キャリパー形で隆帯や沈線で口縁部を区画し、口縁部の区画内に隆帯や沈線で文様を描く一群。

**大木8b式古段階** 口縁部から胴部にかけて単節斜行縄文を地文とし、隆帯や隆沈線による渦巻文が描かれる一群。胴部文様帯に縦位の区画が明瞭で、渦巻文に剣先状の棘が付加される。小渦巻文が確



認できる胴部片は大木8 b式から大木9式の古段階とした。

**大木8 b式中段階** 口縁部から胴部にかけて単節斜行縄文を地文とし、隆帯や隆沈線による渦巻文が描かれる一群。縦位の区画を残しながら、渦巻文を区画内に配置する。

**大木8 b式新段階** 口縁部から胴部にかけて単節斜行縄文を地文とし、隆帯や隆沈線による渦巻文が描かれる一群。口縁部文様帯と胴部文様帯の分化が不明瞭になり、大渦巻文を中心に小渦巻文を配置して横位に文様が展開する。

**大木9式新段階** 地文を磨り消して無文部の作出を大きな特徴とする。円形・楕円形・逆U字状の文様を主文様とする。

**大木10式古段階** 口縁部文様帯に充填手法(註2)によりJ字状・S字状のいわゆる「アルファベット文」などの曲線的な文様を横位に展開する。口縁部の主文様は縄文帯である。胴部文様帯との区画には沈線が巡る。

**大木10式中段階** 口縁部文様帯に主に磨消手法により、主文様である無文帯を横位に展開する。前段階と比較すると胴部文様帯との区画が胴部上半にせりあがるようになる。また、胴部文様帯との区画が不明瞭になり、口縁部文様帯と一体化した文様も見られる。

**大木10式新段階** 本型式の大きな特徴は口縁部文様帯の主文様である無文帯の切り合いと口唇部や切り合い部に施される鱗状突起である。地文は口縁部から胴部下半まで縦位に施文されることが多い。

**粗製土器** 縄文時代中期に帰属する地文のみの土器である。施文原体により分類を行った。

**弥生土器** 交互刺突文が施される一群である。上記の縄文土器と比較すると、薄手で焼成が良好である。色調はにぶい黄橙色～にぶい橙色を呈する。

**土師器** 破片資料が多く、全体像を把握できるものはない。口径が概ね15cm以下と判断できるものを小甕とした。

註1 阿部昭典2008『縄文時代の社会変動論』未完成考古学叢書 株式会社アム・プロモーション

註2 沈線の引き直しにより地文(縄文)より沈線が新しいものも多く見られるが、地文が区画に合わせて施文されているため、充填手法と判断した。

### 3 石器・石製品(第15・16図)

#### (1) 器種分類

出土石器の器種分類はこれまでの研究の中で確立し、一般に広く認識されているものを踏襲して下記のとおり分類した。本文は、掲載した遺物について記述をしている。

**石鏃** 素材剥片の片面または両面に二次加工を施して、尖頭部を作出した石器。概ね、扁平で左右対称である。器長が5cm以下のものを本類とした。

I類：平基無茎鏃である。平面形が二等辺三角形を呈する。基部の縁辺が丸みを帯びるものも見られるが点数が少ないため一括した。

II類：凹基無茎鏃で、基部の抉りが浅いもの。平面形が正三角形を呈するものや二等辺三角形を呈するものがあるが、点数が少ないため一括した。

III類：凹基無茎鏃で、基部の抉りが深いもの。平面形が正三角形を呈するものや二等辺三角形を呈するものがあるが、点数が少ないため一括した。



IV類：凸基有茎鏃を一括した。

V類：上記以外のもの。

**尖頭器** 素材剥片の両面に二次加工を施して、尖頭部を作出した石器。遺構外から中間部が1点出土しているが、掲載していない。

**スクレイパー類** スクレイパー類として扱うものは、二次加工が施されている石器の中から、一側縁の半分以上に連続的な二次加工を施して刃部が形成されている石器を抽出し、以下のように分類した。搔器、削器を一括して扱っている。分類は素材剥片の刃部形成箇所で大きく行い、作出方法で細分した。刃部角の差が大きいものは最小値と最大値を計測した。

I類：二次加工により一側縁に刃部が形成されているもの。

II類：二次加工により素材剥片末端部に刃部が形成されているもの。

III類：二次加工により複数の縁辺に刃部が形成されているもの。

IV類：I～III類の範疇に収まらないスクレイパーで、平面形は矩形を呈する。素材剥片の鋭い縁辺を刃部とし、刃部と相対する縁辺に刃潰しの調整が施される。刃部と直交する縁辺には切断や数回の調整による抉入部が作出される。

**抉入石器** 素材剥片の一部にえぐりの刃部を作出した石器。

**錐形石器** 素材剥片の一部に二次加工を施して錐状の尖頭部を作出した石器。

I類：摘み部を有するもの。

II類：棒状を呈するもの。

III類：素材剥片の一部に刃部のみを作出したもの。

**石匙** 両側縁から抉りを入れることで作出された摘み部と、摘み部とは異なる側縁に刃部を有する石器。1点しか出土していないため、細分は行っていない。

**楔形石器** 相対する縁辺に両極技法によって生じる線状もしくは点状を呈する特徴的な打面形状と細かい階段状の剥離痕が観察される石器。

**二次加工のある剥片** 素材剥片の一部に二次加工を施した石器で、石鏃、尖頭器、スクレイパー類、抉入石器、錐形石器、石匙、楔形石器以外のものを一括した。本文や観察表等ではRFと表記した。

**微細剥離痕のある剥片** 素材剥片の一部に微細剥離痕のみが観察される石器。本文や観察表等ではUFと表記した。

**剥片** 上記の分類から外れたすべての剥片石器を対象とした。最大器長・最大器幅のいずれもが1.5cm未満のもの及び打点の不明瞭なものは碎片として報告した。

**石核** 剥片を剥離したと考えられる石器。

**磨製石斧** 研磨調整による両面もしくは片面加工により、斧状の刃部を作出した石器。

**礫器** 礫の一端に剥離調整を施して刃部を作出した石器。

**磨石** 礫に磨痕が観察される石器。

I類：磨面のみ観察されるもの。

II類：磨面と敲打痕が観察されるもの。

III類：磨面と凹部が観察されるもの。

IV類：礫の側面部に平坦な磨面をもつ所謂「特殊磨石」であるもの。

V類：上記以外のものを一括した。

**凹石** 礫の平坦な面に敲打による凹み状の痕跡が観察される石器。

**敲石** 礫の端部や側面にあばた状の敲打痕が形成されている石器。

I類：一端部に形成されるもの。

II類：両端部に形成されるもの。

**石皿** 扁平礫に使用による平滑な面が観察される石器。

I類：片面のみに使用痕跡が観察されるもの。

II類：両面に使用痕跡が観察されるもの。

III類：有縁のものを一括した。

IV類：脚部のあるものを一括した。

**台石** 扁平礫に打撃痕が観察される石器。

I類：片面のみに使用痕跡が観察されるもの。

II類：両面に使用痕跡が観察されるもの。

**砥石** 礫の片面もしくは両面または、一部に磨痕の観察される石器。

I類：一面の一部のみに磨痕の観察されるもの。

II類：一面全体に磨痕が観察されるもの。

III類：平坦な二面に磨痕が観察されるもの。

IV類：上記以外のものを一括した。

**浮子** 軽石製の貫通孔のあるものを浮子とした。

**有孔石器** 貫通孔のある礫を一括した。石製品との大きな違いは研磨調整による素材形状の変化の有無であり、素材形状の変化のないものを有孔石器、研磨調整により素材形状が大きく変化しているものを有孔石製品とした。

**石棒・石剣・石刀** 欠損しているものが多く、研磨調整の観察できる棒状のものもしくは棒状を呈すると考えられるものを一括した。その中で、断面形が円形もしくは楕円形を呈するものを石棒、扁平で両刃のものを石剣、扁平で片刃のものを石刀とした。扁平なもので、両刃か片刃か判断できないものは石剣・石刀とした。

**垂飾** 研磨調整が観察でき、貫通孔のある石製品である。

**不明石製品** 研磨調整が観察でき、上記以外のものを一括した。

### 【鉄生産に関する石器】

浜川目沢田Ⅱ遺跡では古代～中世の鉄生産に関する石器が出土している。これらの遺物については、上記の分類とは別に行っている。

**台石** 古代～中世についての台石は、金床石や要石を含む広義の台石である。炉に伴い、原位置を保った状態で出土する明らかに金床石と判断できるものが少なく、古代の土坑類の堆積土中から出土するものが多い。要石との区別が困難なものが多いため、一括して扱っている。この内、工房内で原位置を保ち、法量的に鍛錬等の台石として耐えうるものを金床石とした。

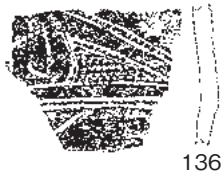
## (2) 石器 石材

本来であれば、資料全体で母岩別に分類するのが理想であると思われるが、接合資料が非常に少なく、原礫まで復元可能な個体が皆無であるため、母岩分類は行っていない。同じ石器石材でも産地・形成時期が異なっているため、以下のような記号で分類を行った。名称の長いものは、観察表等の表中では（ ）内の略字を用いた。この分類は花崗岩研究会の鑑定を基準にしている。石器石材の後ろに番号がないものは、花崗岩研究会に鑑定を基に、調査担当者が分類したものである。

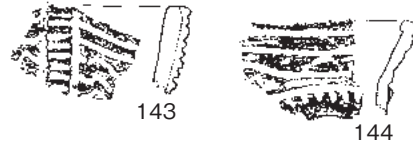
- 黒曜石 1：蓼科系（株式会社第四紀地質研究所分析）  
 頁岩 1：北上山地・中生代  
 砂岩 1：原地山層・中生代白亜紀、2：宮古群層・中生代白亜紀  
 瑪瑙 1：北上山地・中生代  
 玉随 1：北上山地・中生代  
 ホルンフェルス（ホルン） 1：北上山地・中生代（中生代白亜紀に變成）  
 凝灰岩 1：北上山地・中生代白亜紀原地山層  
 礫岩 1：宮古群層・中生代白亜紀  
 花崗岩 1：北上山地・中生代白亜紀  
 花崗斑岩（花斑） 1：北上山地・中生代白亜紀  
 石英斑岩（石斑） 1：北上山地・中生代白亜紀  
 花崗閃緑岩（花閃） 1：北上山地・中生代白亜紀  
 細粒花崗閃緑岩（細花閃） 1：北上山地・中生代白亜紀  
 閃緑岩 1：奥羽山脈・新生代新第三紀  
 細粒閃緑岩（細閃） 1：北上山地・中生代白亜紀  
 デイサイト（デイ） 1：原地山層・中生代白亜紀  
 斑禰岩 1：北上山地・中生代白亜紀  
 流紋岩 1：北上山地・中生代白亜紀、2：浄土ヶ浜・松山・立丸峠・新生代古第三紀  
 安山岩 1：岩手山・新生代第四紀  
 軽石 1：十和田火山・新生代新第四紀  
 蛇紋岩 1：早池峰山周辺・古生代オルドビス紀  
 白雲母片岩 1（註3）

註3 新潟県糸魚川市のフォッサマグナミュージアムにおいて分析走査電子顕微鏡による半定量化学分析を行った数値の結果による。

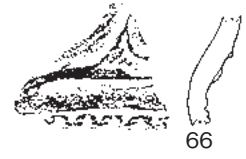
物見台式



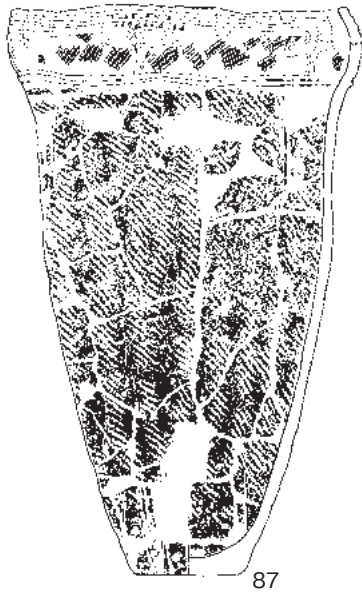
大木7a式



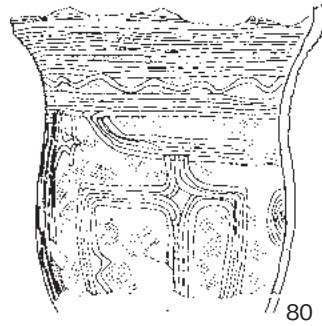
大木7b式



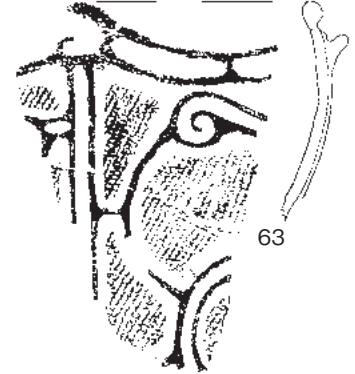
大木8a式新段階



大木8b式古段階



大木8b式中段階



大木8b式新段階



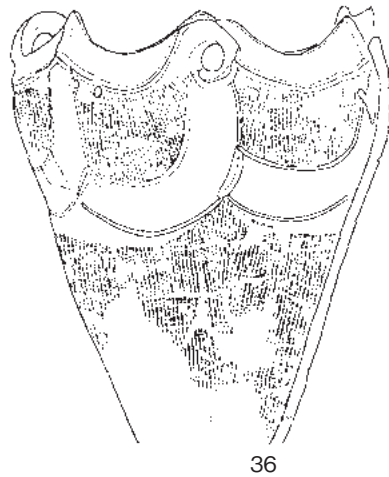
大木9式新段階



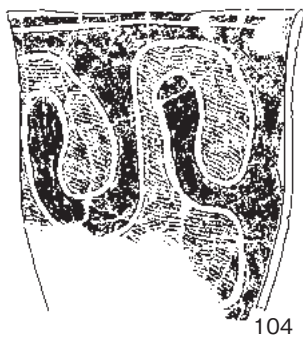
大木10式古段階



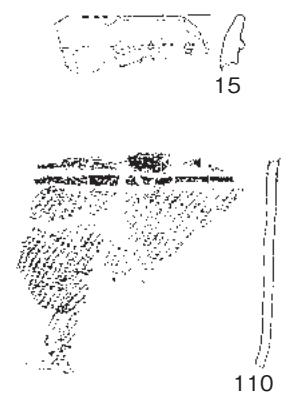
大木10式新段階



大木10式中段階

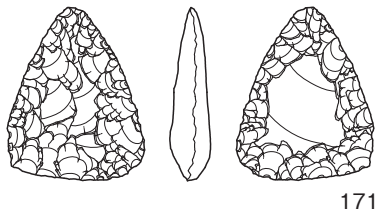


半粗製土器

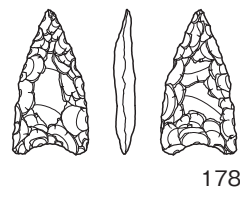


第14図 土器分類図

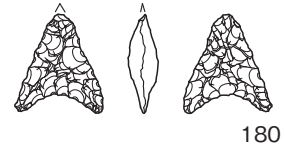
石鏃  
I類



II類



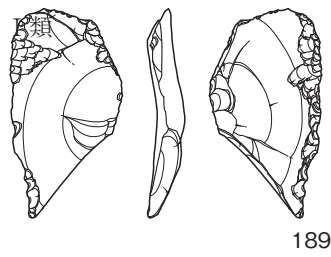
III類



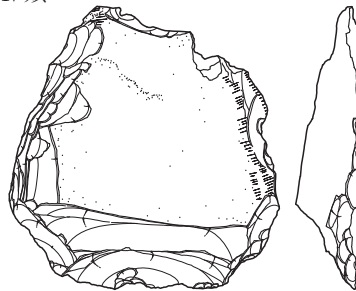
IV類



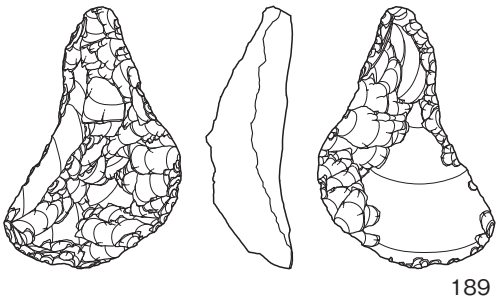
スクレイパー類



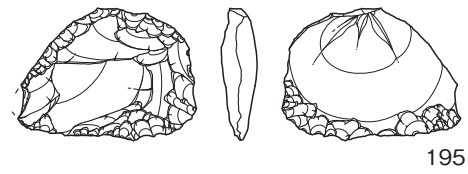
IV類



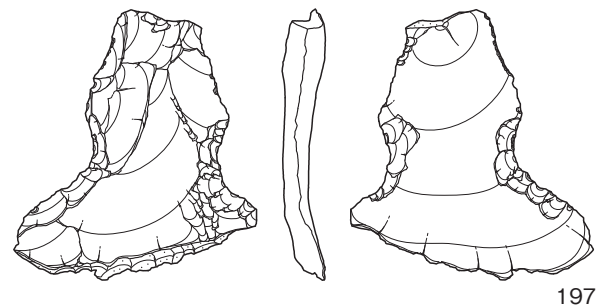
II類



III類

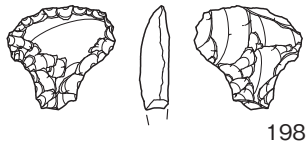


抉入石器

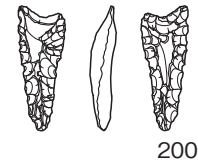


錐形石器

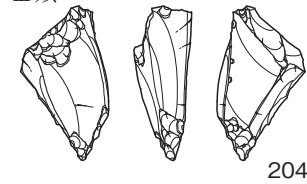
I類



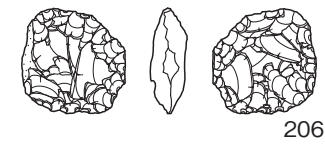
II類



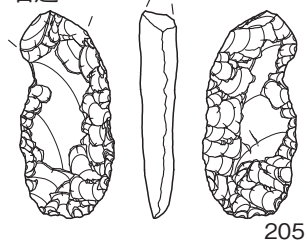
III類



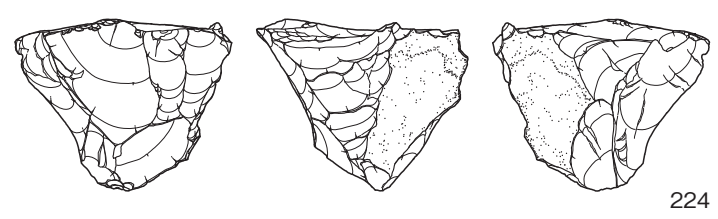
楔形石器



石匙



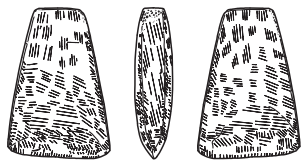
石核



第15図 石器分類図1

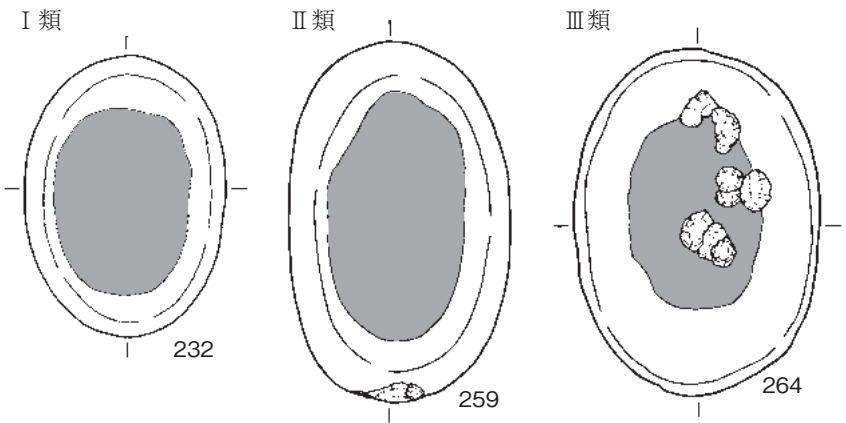


磨製石斧



225

磨石



I類

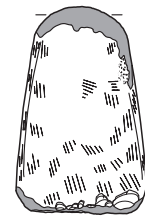
II類

III類

232

IV類

V類



砥石



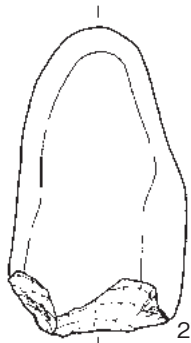
297

凹石

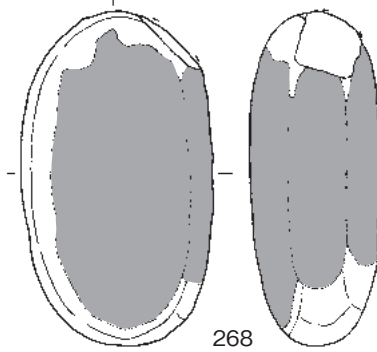


274

敲石



276



268



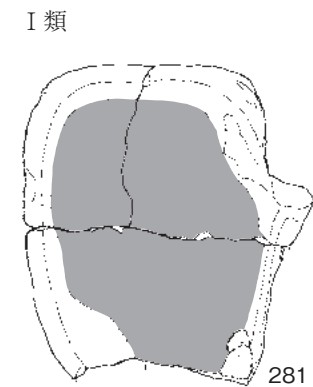
273

台石

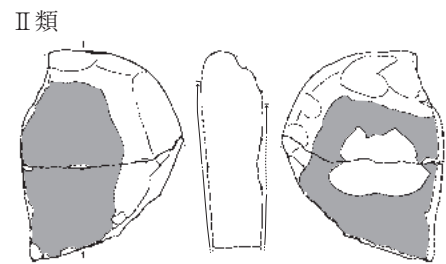


295

石皿



281



288

浮子



298

有孔石器



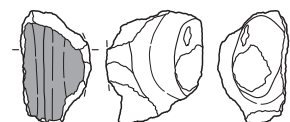
299

III類

IV類



290



293

第16図 石器分類図2

## V 検出遺構と出土遺物

### 1 概 要

今回の発掘調査の結果、縄文時代の竪穴建物跡18棟、炉跡3基、焼土遺構2基、土坑類151基、埋設土器1基、柱穴26個、古代の竪穴建物跡9棟、鉄生産関連炉1基、土坑類24基、不明遺構2基、柱穴8個、時代不明の焼土遺構1基、土坑3基、溝跡3条、炭窯3基、道路状遺構1条、不明遺構2基、柱穴45個で、縄文時代の土器大115箱、土製品3点、石器471点、石製品10点、貝殻中1箱、弥生時代の土器小1箱、古代の土師器小1箱、須恵器2点、土製品1点、石器35点、石製品1点、金属製品小1箱、羽口大0.5箱、鉄滓大0.5箱、貝殻大1.5箱、中近世以降の陶磁器小1箱、金属製品1点、時代不明の土製品2点、石器3点、石製品1点、金属製品小1箱、その他1点である。縄文時代、弥生時代、古代、時代不明の順で、遺構種別・遺物種別毎に報告する。土坑及び柱穴は遺構数が多いため、表で示した。第4表～第9表を参照して頂きたい。野外調査時には検出もしくは確認順に遺構種別毎に略号と番号を付したが、遺構種別の変更があることと、欠番となった遺構があるため、室内整理の段階で遺構種別毎に番号の付け直しを行っている。そのため、各遺構の書き出しの部分に（ ）で現場での遺構名を並記した。

### 2 検 出 遺 構

#### (1) 縄文時代の遺構

1号竪穴建物跡(SI11) (第17図、写真図版5)

[位置] 2区中央、IV I 85グリッドに位置する。[検出状況] 5号竪穴建物跡の南西側に床面の高さの異なる遺構が確認でき、プラン内に炉が確認できたことから竪穴建物跡と判断した。[重複] 5号竪穴建物跡・62号土坑・95号土坑に截られ、36号土坑を截る。[規模] 一部しか確認できないため、詳細な規模は不明であるが、径3m前後の円形基調と考えられる。確認できる検出面から床面までの深さは最大で35cmである。[埋土] 2層に分層した。上位は地山起源の黄褐色シルト層を、下位は褐色シルト層を主体とし、全体的に炭化物粒を含む。[壁・床の状況] 残存状態が悪く、北側の壁の一部がなだらかに立ち上がるのを確認した。炉を中心に皿状を呈するが、明瞭な凹凸は確認できない。[炉] プラン中央に窪地状の地床炉を確認した。北東側の一部を62号土坑に截られているため、詳細な規模は不明であるが、東西方向約1m、南北方向82cmの三角形に窪んでいる。埋土は2層に分層できる。褐色シルトを含むにぶい赤褐色シルトが底面中央付近に堆積し、全体は褐色シルトで埋まっている。落ち込み周辺が部分的に、底面から南側にかけて広範囲に被熱により赤変している。確認できる被熱層は最大で8cmである。[付属施設] なし。

[遺構種別] 住居。

[出土遺物] (第117・143図、写真図版49・60)

炉埋土や床面直上、遺構埋土から粗製土器を中心とした土器、石器(269)が出土し、土器1点(1)、石器1点(269)を掲載した。

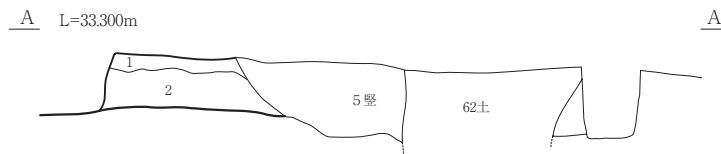
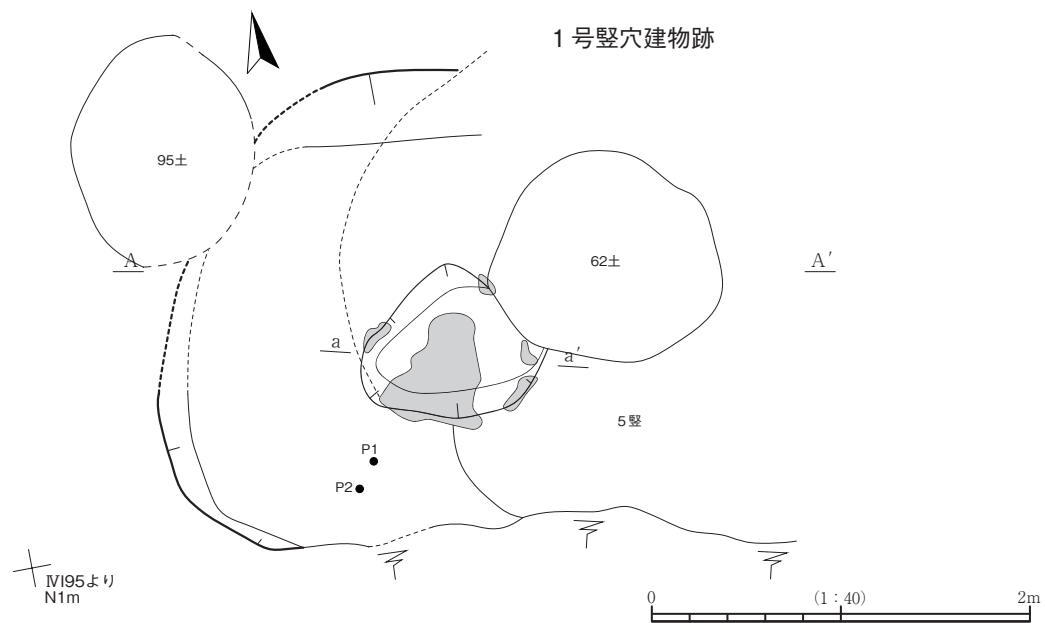
[時代・時期] 遺構埋土から出土した土器(1)と5号竪穴建物跡との重複関係より大木8a式～8b

式に帰属すると判断した。

(北村忠昭)

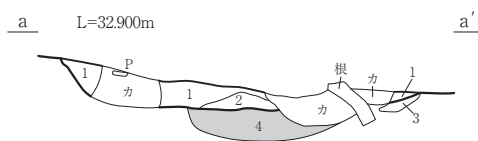
2号竪穴建物跡(SI19) (第18図、写真図版6)

[位置] 2区北西側のⅣI 83・84グリッドに位置する。[検出状況] V層上面で炭化物粒を含む褐色のプランとして検出した。[重複] 3号竪穴建物跡に截られる。46号土坑との新旧関係は重複部分が極一部であるため、判断できなかった。[規模] 斜面下方の壁を確認できなかったが、長辺約2.9m、短辺約2.8mの多角形を呈する。確認できる検出面から床面までの深さは最大で49cmである。[埋土] 2層に分層した。壁際に壁崩落土層である明黄褐色砂質シルト層が三角形に堆積し、大部分は炭化物粒を含む褐色シルト層である。層高があり、単層に近い夾雑物のある堆積土で埋没していることから、人為堆積の可能性が高いと判断した。[壁・床の状況] 斜面上方では直線的な壁を確認した。床面は概ね平坦である。[炉] 東壁際に複式炉を検出した。石組部とPit状の前底部で構成される。炉の



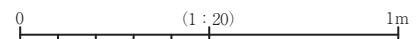
1号竪穴建物跡

1. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締稍有 におい黄褐色シルト塊15%・炭化物粒2~3%含む
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締稍有 炭化物粒1~2%含む



1号竪穴建物跡 炉

1. 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性無 締中 焼土小塊3~5%含む
2. 5YR4/4 におい赤褐色シルト 粘性無 締中 褐色シルト小塊20%含む
3. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締中 焼土小塊15%含む
4. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性無 締稍有



第17図 1号竪穴建物跡

大きさに合わせてV層を掘り窪め、その壁際に25～50cmの礫を口の字状に配置して石組部を構築している。本遺構周辺の検出作業の際に設置したトレンチによって前庭部の一部を掘削してしまい、前庭部の一部は確認できなかった。また、石組部と同調的な床面の窪みを確認し、前庭部と判断したため、前庭部の断面図作成はできなかったが、埋土は褐色シルトの単層であった。石組部の埋土は黒褐色シルトの単層である。焼成部は石組部内の北西隅にあり、焼成深度は最大で3cmである。炉の全長は1.34mで、石組部の幅0.56m、前庭部の幅0.76mである。炉石はデイサイトと流紋岩1を用いている。[付属施設]柱穴を3個検出した。斜面上方に炉の長軸方向と平行して直線上に配置される。Pit 1・3は褐色シルト、Pit 2は黄褐色シルトの単層である。それぞれの深さはPit 1が38cm、Pit 2が22cm、Pit 3が36cmで、規模や配置からPit 1とPit 3が主柱穴の可能性が高い。

[遺構種別]住居。

[出土遺物] (第117・136・138・151図、写真図版49・58・63)

炉埋土・Pit 3埋土・遺構埋土から大木8～9式期の土器と伴に、粗製土器を主体とした土器、床面から石器、遺構埋土から石器(207・240他8点)、石製品(302)が出土し、土器2点(2・3)、石器2点(207・240)、石製品1点(302)を掲載した。

[時代・時期]遺構埋土から出土した土器(2)より縄文時代中期中葉～後葉に帰属すると判断したが、詳細な時期までは特定できなかった。(北村忠昭)

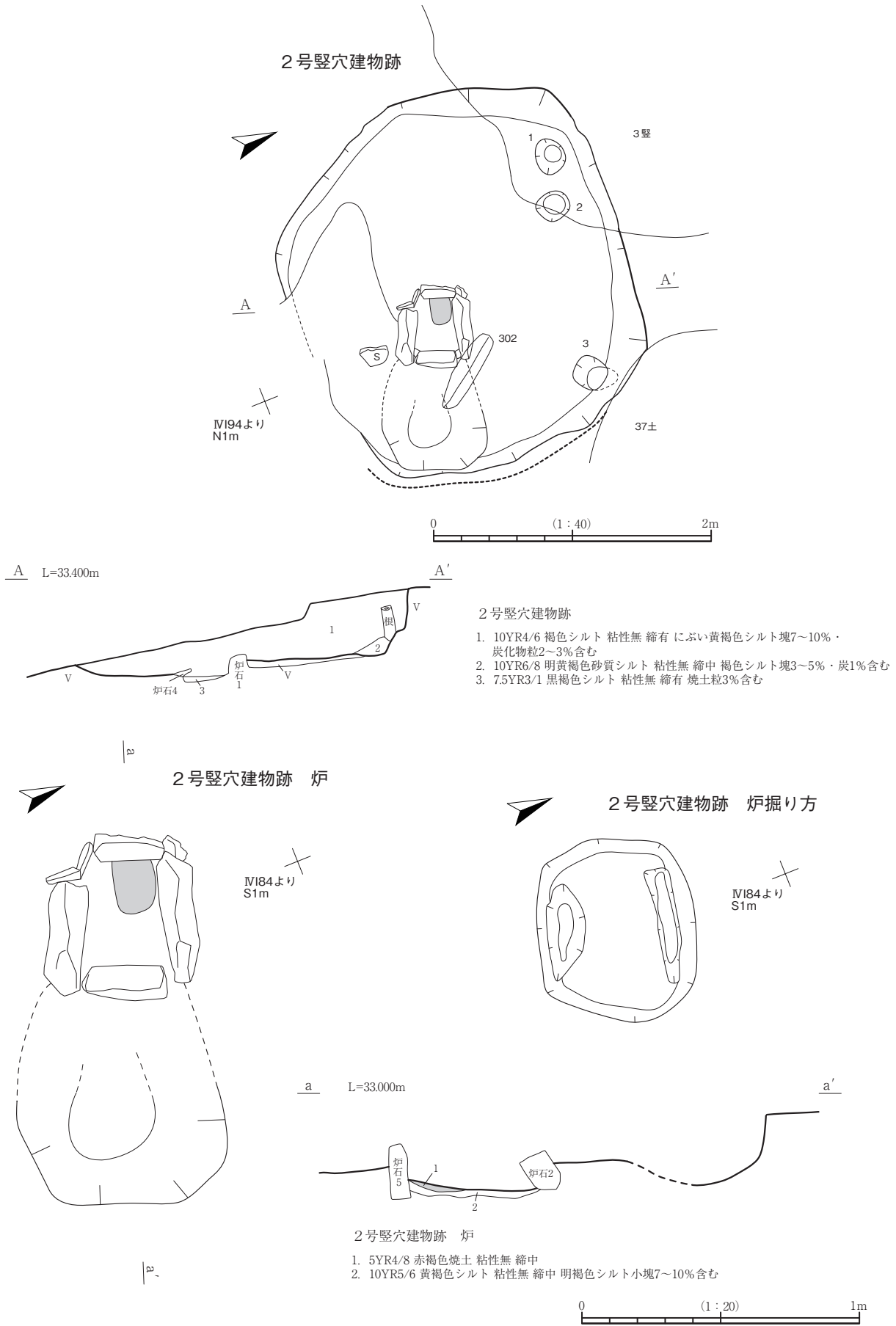
3号竪穴建物跡(SI07) (第19・20図、写真図版7)

[位置] 2区北西側のⅣ I 73・83グリッドに位置する。[検出状況] V層上面で炭化物粒を含む褐色のプランとして検出した。[重複] 61号土坑に截られ、2号竪穴建物跡・38～40号土坑・48号土坑を截る。[規模] 斜面下方の壁が確認できないため、詳細な規模は不明と言わざるを得ないが、東西方向(主軸方向:複式炉の主軸方向)で4.2m、それと直交する南北方向は約3.4mである。平面形は多角形を呈するものと考えられる。確認できる検出面から床面までの深さは最大で25cmである。[埋土] 5層に分層した。1層とした褐色シルト層を主体とし、部分的に明黄褐色や暗褐色シルト層が確認できる。[壁・床の状況] 壁は全体的に不明瞭で、床面からなだらかに立ち上がる。床面は概ね平坦である。[炉] 東壁側に複式炉を確認した。石組部と石組の一部を残す前庭部で構成される。炉の大きさに合わせてV層を掘り窪め、その壁際に15～40cmの礫を口の字状に配置し、石組部を構築している。また、前庭部の斜面下方側にも礫を配置している。石組部と前庭部の境となる炉石は抜き取られていた。埋土は2層に分層でき、石組部側は暗褐色シルト、前庭部側は褐色シルト主体である。焼成部は石組部の外側に確認でき、焼成深度は最大で8cmである。炉の全長は1.18mで、石組部の幅は0.53m、前庭部の幅は0.56mである。炉石は細粒花崗閃緑岩・流紋岩・花崗斑岩・花崗閃緑岩・閃緑岩・デイサイトと多様な石材を利用している。[付属施設] 南東隅には確認できなかったが、その他の隅付近で計3個の柱穴を検出した。柱穴の埋土はそれぞれ、Pit 1・2はにぶい黄褐色シルト主体、Pit 3は明黄褐色シルト主体である。深さはPit 1が37cm、Pit 2が61cm、Pit 3が21cmである。炉と対向する位置にあたる、西壁側の柱穴が深い傾向が見受けられる。

[遺構種別]住居。

[出土遺物] (第117・134・136・147図、写真図版49・57・58・61)

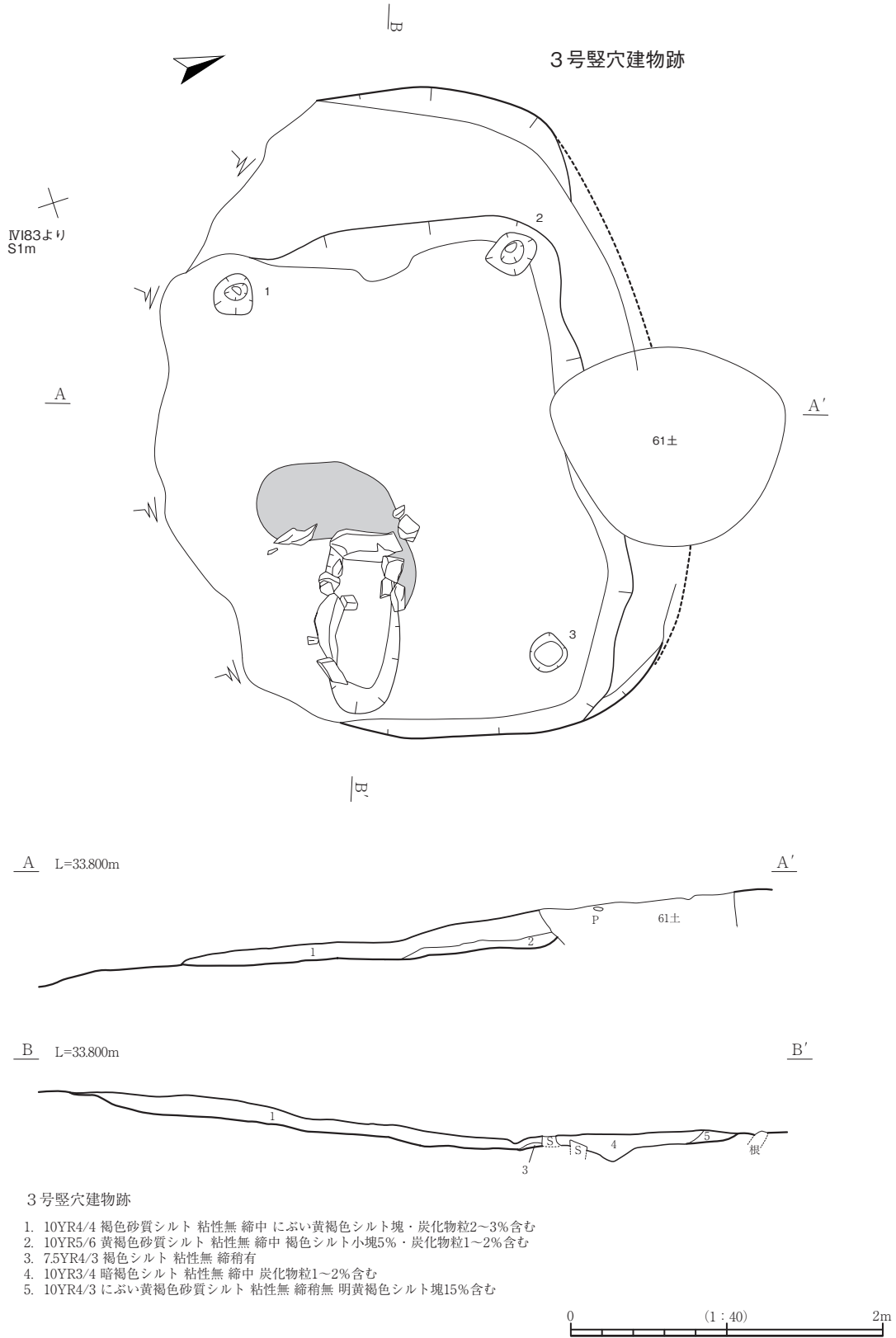
床面・炉・Pit 2・遺構埋土から粗製土器を中心とした土器、床面から石器(187)、遺構埋土から石器(183・209他8点)、炉石に転用した石器(286・288他1点)が出土し、土器3点(4～6)、石器5点(183・187・209・286・288)を掲載した。



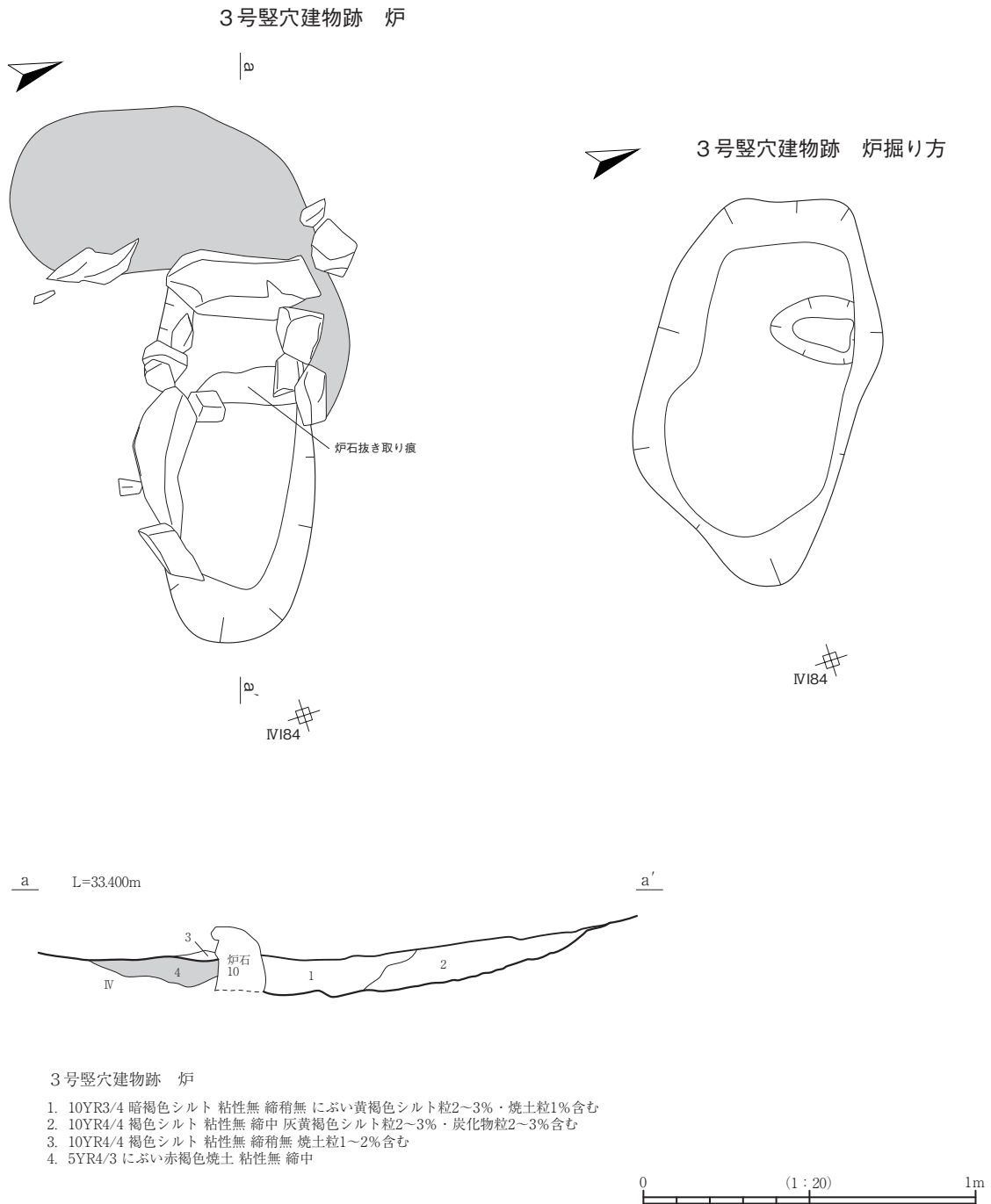
第18図 2号竪穴建物跡



[時代・時期] 炉の形態と2号竪穴建物跡との重複関係、遺構埋土から出土した土器(5)より縄文時代中期中葉～後葉に帰属すると判断したが、詳細な時期までは特定できなかった。(北村忠昭)



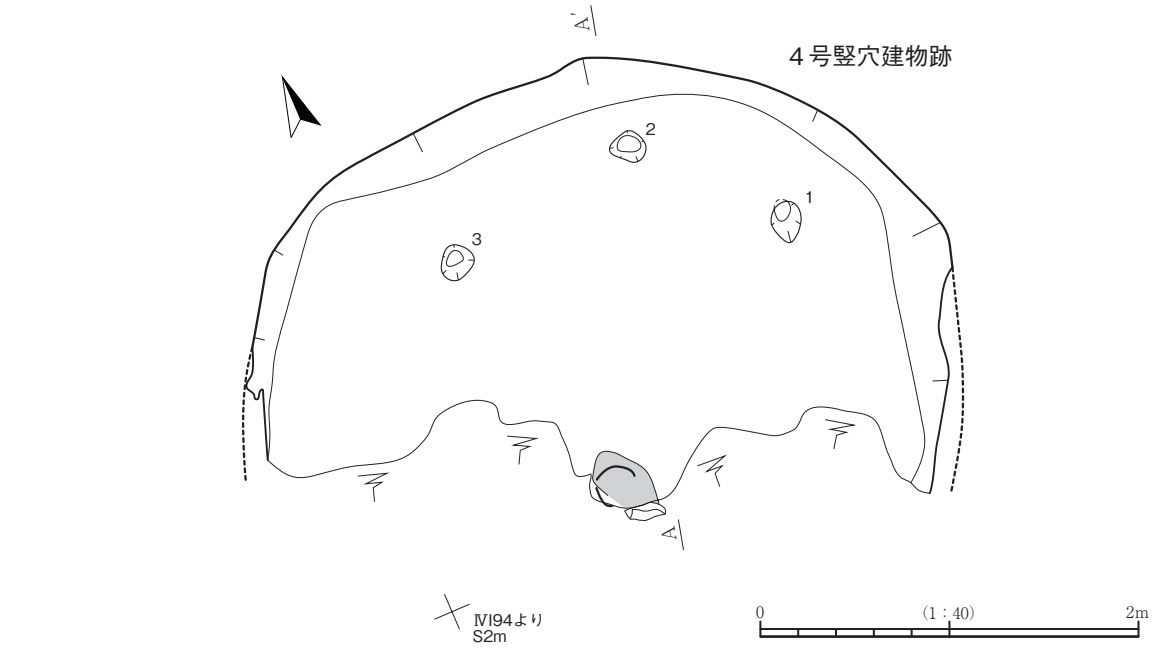
第19図 3号竪穴建物跡1



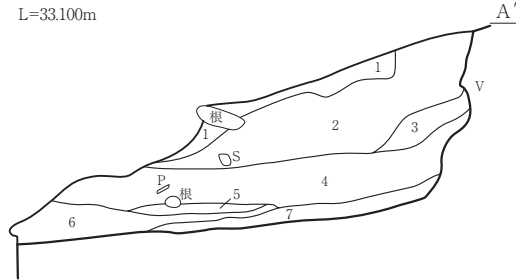
第20図 3号竪穴建物跡2

4号竪穴建物跡 (SI18) (第21図、写真図版8)

[位置] 2区中央のIV I 94付近に位置する。[検出状況] 3区との境の斜面で、切株の下に炉体土器を確認した。その周囲を確認したところ、V層面で炉を中心に半円形の炭化物粒を含む黄褐色~におい黄褐色のプランを確認した。[重複] 14号竪穴建物跡と重複するが、部分的であるため、新旧関係を把握することはできなかった。[規模] 確認できた範囲では東西約3.8m、南北約2.5mで、平面形は多角形状を呈するものと考えられる。確認できる検出面から床面までの深さは最大88cmである。[埋土] 7層に分層した。夾雑物により細分したが、地山層である黄褐色シルトを主体とし、炭化物粒



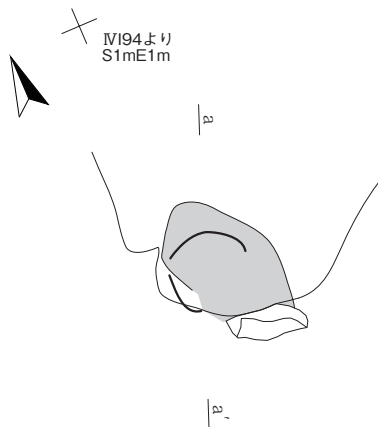
A L=33.100m



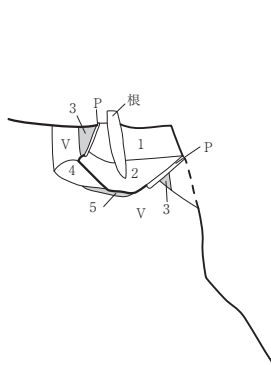
4号竪穴建物跡

1. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性無 締稍有 灰黄褐色シルト塊5~7%・炭化物粒1~2%含む
2. 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性無 締有 にぶい黄褐色シルトしみ状に見られる・炭化物粒2~3%含む
3. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締有 炭化物粒7~10%含む
4. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締有 にぶい黄褐色シルト塊7~10%・浅黄橙色シルト塊2%・炭化物粒2~3%含む
5. 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性無 締稍有 浅黄橙色シルト小塊7~10%・焼土小塊5~7%含む
6. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締有 浅黄橙色砂質シルト塊5~7%・炭化物粒1%含む
7. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締稍有 浅黄橙色砂質シルト層状に見られる・炭化物粒1%含む

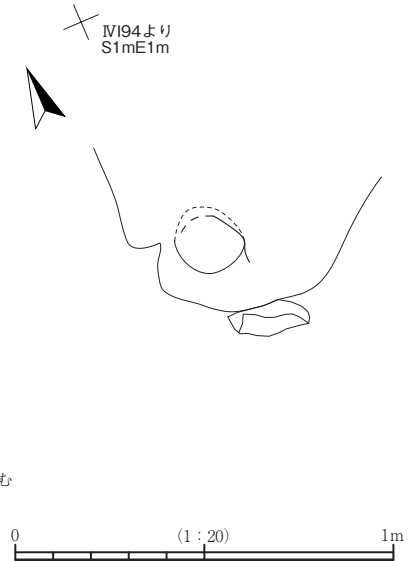
4号竪穴建物跡 炉



a L=31.800m



4号竪穴建物跡 炉掘り方



4号竪穴建物跡 炉

1. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締稍有 浅黄橙色シルト小塊2~3%・炭化物粒1~2%含む
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 締中 浅黄橙色シルト小塊2~3%・焼土粒2~3%・炭化物粒3~5%含む
3. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性無 締稍有
4. 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性無 締中 焼土斑状に見られる
5. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性無 締中

第21図 4号竪穴建物跡

の混入が確認できる。[壁・床の状況]斜面上方では直線的に立ち上がる壁を確認した。確認できた床面は斜面で受けているものの、目立つ凹凸は確認できない。[炉]複式炉と考えられる炉の土器埋設部を検出した。土器の大きさに合わせてV層を掘り込み、地山起源の褐色シルトを掘り方埋土として設置している。断面図でも確認できるように、炉内部と考えられる南側に傾けて設置されている。土器埋設部及びその周辺が赤変しており、炉の燃焼部と考えられる。土器埋設部に隣接する南には石組部を構成する炉石が1点残存する。[付属施設]柱穴を3個検出した。土器埋設部とPit 2を結ぶ線を中心とすると対称的に配置されており、支柱穴の可能性が高い。3個とも褐色シルトの単層で、深さはPit 1が43cm、Pit 2とPit 3が29cmである。

[遺構種別]住居。

[年代測定]炉体土器内から採取した炭化物の年代測定を実施したところ、4,080～3,900calBPとの年代値を得た(第VI章放射性炭素年代測定参照)。

[出土遺物](第117・118・135・139・144図、写真図版49・57・59・60)

炉体土器(7)、床面直上から土器、遺構埋土から粗製土器を中心とした土器、石器(194・249・258・277他15点)が出土し、土器6点(7～12)、石器4点(194・249・258・277)を掲載した。

[時代・時期]炉体土器(7)より大木9式新段階に帰属すると判断した。(北村忠昭)

5号竪穴建物跡(SI09)(第22図、写真図版5)

[位置]2区中央のⅣI 85・86グリッドに位置する。[検出状況]V層上面で炭化物粒を含む褐色の楕円形のプランとして検出した。[重複]62号土坑に截られ、1号竪穴建物跡・36号土坑・43～45号土坑を截る。プランでは11号竪穴建物跡とも重複関係にあるが、直接重複する部分の確認できなかったため、新旧関係を把握することができなかった。[規模]斜面下方の壁が確認できないため、詳細な規模は不明と言わざるを得ないが、長辺約4m、短辺約3mで、平面形は楕円形を呈するものと考えられる。確認できる検出面から床面までの深さは最大で40cmである。[埋土]4層に分層した。褐色シルト、黄褐色シルト、褐色シルトの順に堆積し、壁際には黄褐色シルトが確認できる。全体的にレンズ状に堆積しており、自然堆積と考えられる。[壁・床の状況]壁は床面からなだらかに立ち上がる。床面に目立つ凹凸は見られないが、炉を中心に皿状を呈している。[炉]62号土坑に截られているため、詳細な規模は不明であるが、中央付近に長辺約1m、短辺約0.9mの窪地状の地床炉を検出した。埋土は3層に分層できる。底面付近に薄く赤褐色焼土の確認できる明褐色砂質シルト(3層)が堆積し、斜面下方側の壁際に褐色シルトが確認でき、最終的には明褐色砂質シルトで埋まっている。窪地底面に0.59×0.49mの楕円形の焼土層及び、北側の立ち上がり際に帯状の焼土層が確認できる。確認できる被熱層は最大で6cmである。[付属施設]なし。

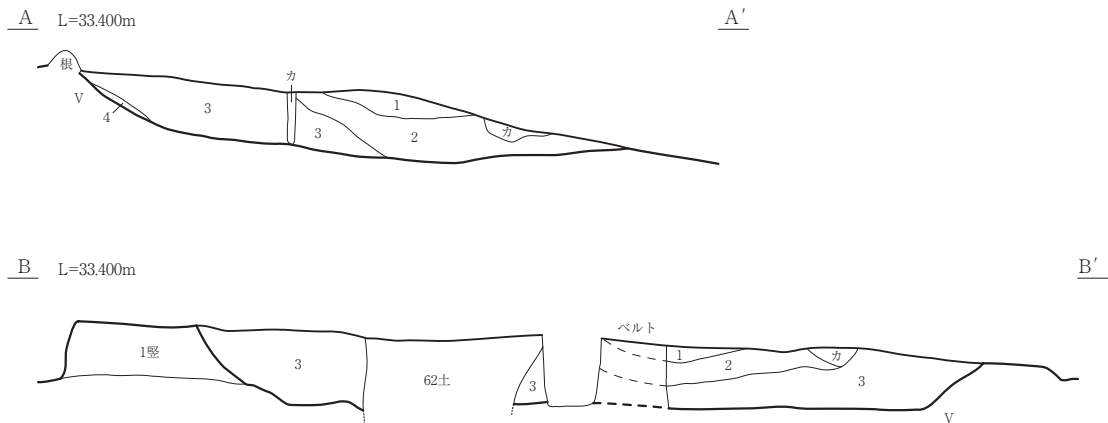
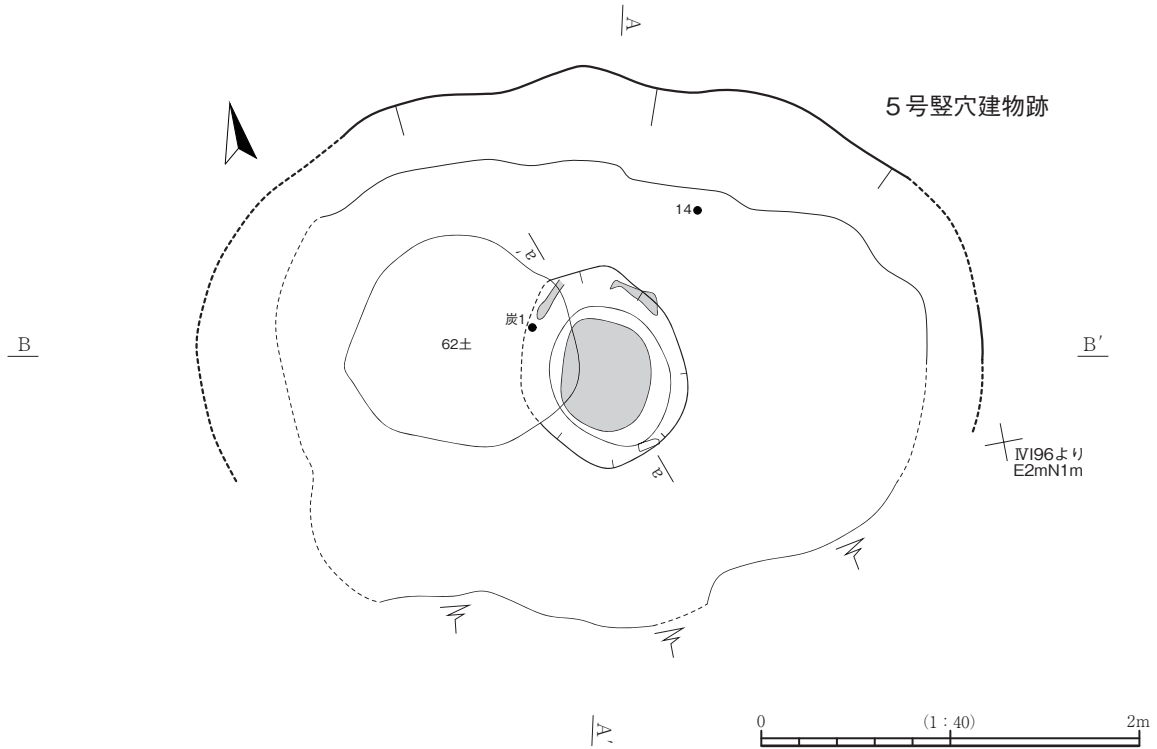
[遺構種別]住居。

[年代測定]炉3層下位から採取した炭化物の年代測定を実施したところ、4,800～4,450calBPとの年代値を得た(第VI章放射性炭素年代測定参照)。

[出土遺物](第118・135・136図、写真図版49・57・58)

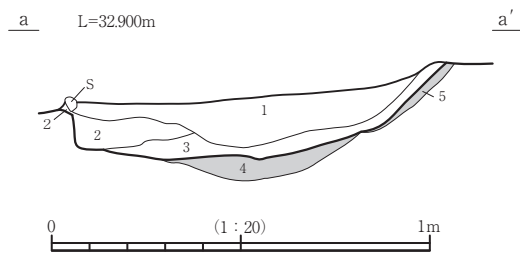
炉埋土や遺構埋土から粗製土器とともに、大木9式期の土器片、遺構埋土から石器(195・200・223他9点)が出土し、土器3点(13～15)、石器3点(195・200・223)を掲載した。

[時代・時期]遺構埋土から出土した土器(13)や放射性炭素年代測定の結果より大木9式新段階に帰属すると判断した。(北村忠昭)



5号竪穴建物跡

1. 10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性無 締中 炭化物粒1%・明黄褐色シルト小塊3~5%含む
2. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍有 炭化物粒1%・褐色シルト小塊3~5%含む
3. 7.5YR4/6 褐色砂質シルト 粘性無 締稍有 炭化物粒3~5%・焼土粒1%・にぶい黄褐色シルト小塊2~3%含む
4. 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性無 締稍無 マサ土塊50%含む



5号竪穴建物跡 炉

1. 7.5YR5/6 明褐色砂質シルト 粘性無 締中 黄褐色シルト小塊7~10%・焼土粒1%・炭化物粒3~5%含む
2. 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性無 締稍無 焼土小塊2%・炭化物粒2~3%含む
3. 7.5YR5/6 明褐色砂質シルト 粘性無 締中 炭化物粒1~2%含む・赤褐色焼土しみ状に見られる
4. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性無 締稍有
5. 5YR6/8 橙色焼土 粘性無 締稍有

第22図 5号竪穴建物跡



6号竪穴建物跡(SK66) (第23図、写真図版9)

[位置] 2区北西側のIV I 71・72付近に位置する。[検出状況] 13号竪穴建物跡の床面で炭化物を含む褐色の2m前後の円形プランを確認したため、土坑(貯蔵穴)であろうと想定して半截したところ、炉を確認したため、竪穴建物跡とした。[重複] 13号竪穴建物跡に截られ、34号土坑・35号土坑を截る。[規模] 直径2m前後の円形基調である。確認できる検出面から床面までの深さは最大で40cmである。[埋土] 本遺構直下にある35号土坑の一部まで掘り下げて作図を行っているが、本遺構の埋土は上位3層分である。上位は褐色シルト、中下位はにぶい黄褐色シルト層である。全体的にレンズ状に堆積している。[壁・床の状況] 壁は直立気味に立ち上がり、床面は概ね平坦である。[炉] 東壁寄りに複式炉を検出した。燃焼部・石組部1・石組部2で構成される。堆積土の観察の際に石組部1の大部分を掘り下げてしまっており、構成する礫をほとんど確認できなかった。炉の大きさに合わせてV層を掘り窪め、その壁際に20～40cmの礫を直線的に配置している。石組部1の南北の炉石が確認できないため、断定はできないが、掘り方の形状や石組部2の東側は掘り方との形状の差がほとんどないことから石組部1は口の字状、石組部2はコの字状の配置をとるものと考えられる。炉の埋土を4層に分層した。石組部1の底面付近に褐色シルトが、石組部2の底面付近ににぶい黄褐色砂質シルトが堆積し、大部分は褐色砂質シルト主体の堆積土で埋まっている。燃焼部は直径約40cmの円形状を呈し、焼成深度は最大で14cmである。炉の全長は燃焼部まで含めると1.25mで、石組部2の幅は0.53mである。確認した炉石の石材は花崗斑岩と細粒花崗閃緑岩である。[付属施設] 炉の延長線上にピットを1個検出した。にぶい黄褐色砂質シルトの単層で、深さは24cmである。

[遺構種別] 住居。

[年代測定] 炉の埋土から採取した炭化物の年代測定を実施したところ、4,495～4,290calBPとの年代値を得た(第VI章放射性炭素年代測定参照)。

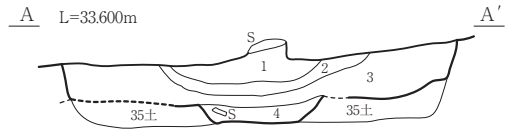
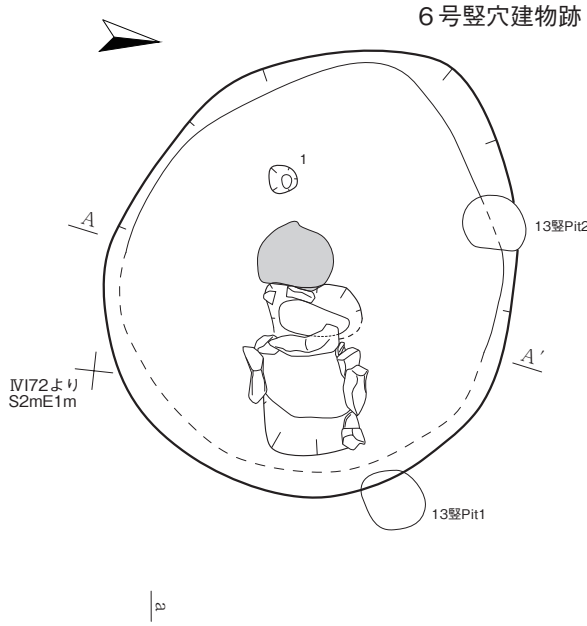
[出土遺物] (第118・138・147図、写真図版49・58・61)

遺構埋土から粗製土器を中心とした土器、石器(238・293他3点)、炉石に転用した石器が出土し、土器1点(16)、石器2点(238・293)を掲載した。

[時代・時期] 炉の形態や13号竪穴建物跡・35号土坑との重複関係、年代測定の結果より大木10式期に帰属すると判断した。(北村忠昭)

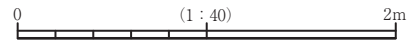
7号竪穴建物跡(SI08) (第24・25図、写真図版10)

[位置] 2区中央北寄り、IV I 55・56・65・66グリッドに位置する。[検出状況] V層でほぼ床面の状態で検出した。[重複] 8号竪穴建物跡・147号土坑に截られ、92号土坑・93号土坑を截る。また、プランでは127号土坑と重複関係にあるが、本遺構の壁が確認できないため、新旧関係を把握できなかった。[規模] 検出面がほぼ床面だったため全体の形状は不明だが、柱穴と炉の位置から推定すると南北約7m、東西約6.3mの楕円形もしくは多角形を呈すると思われる。確認できる検出面から床面までの深さは最大で16cmである。[埋土] 検出面がほぼ床面だったため一部しか埋土が残存しなかったが、褐色シルト主体である。[壁・床の状況] 壁は西側に一部残存しており、緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦である。[炉] 複式炉を1基と地床炉を1基検出した。複式炉は土器埋設部(燃焼部)・石組部1・石組部2・前庭部で構成される。炉の大きさに合わせてV層を掘り込み、その壁際に礫を台形状に配置し、石組部を構築している。石組部2の西側の礫は確認できなかった。石組部2の底面付近に黒褐色シルトが薄く確認できるが、大部分は褐色シルトで埋まっている。土器埋設部から前庭部までの炉の全長は2.79mで、石組部1の幅は1.0m、石組部2の幅は狭い部分で1.1m、広い部分で

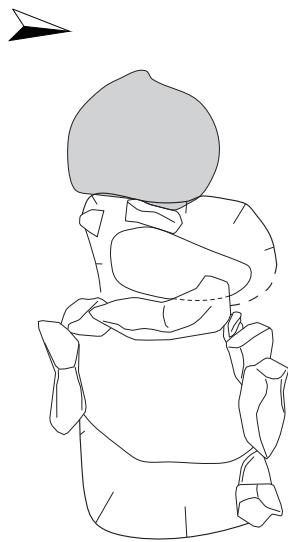


6号竖穴建物跡

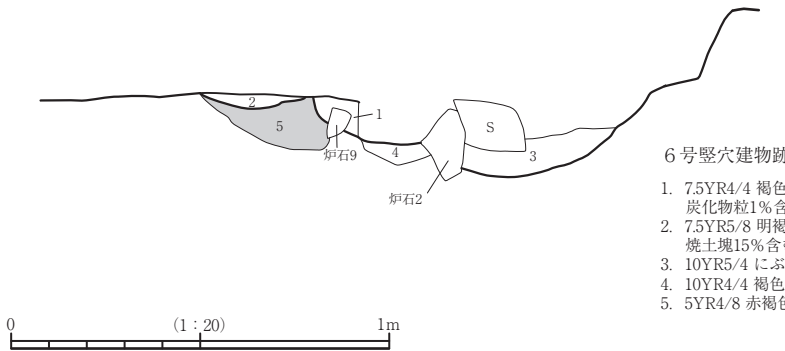
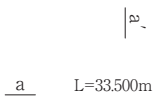
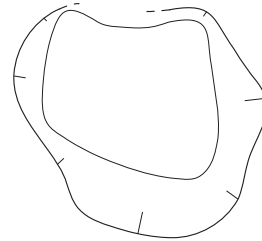
- 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締稍無 におい黄褐色シルト塊3%・明黄褐色シルト小塊7~10%・炭化物粒3~5%含む
- 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍無 明黄褐色シルト小塊2~3%・炭化物粒1~2%含む
- 10YR5/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 におい黄褐色シルト小塊3~5%含む
- 7.5YR4/4 褐色砂質シルト 粘性・締稍無 におい黄褐色シルト塊5%・炭化物粒1%含む・焼土しみ状にみられる



6号竖穴建物跡 炉

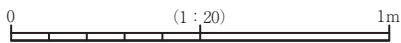


6号竖穴建物跡 炉掘り方



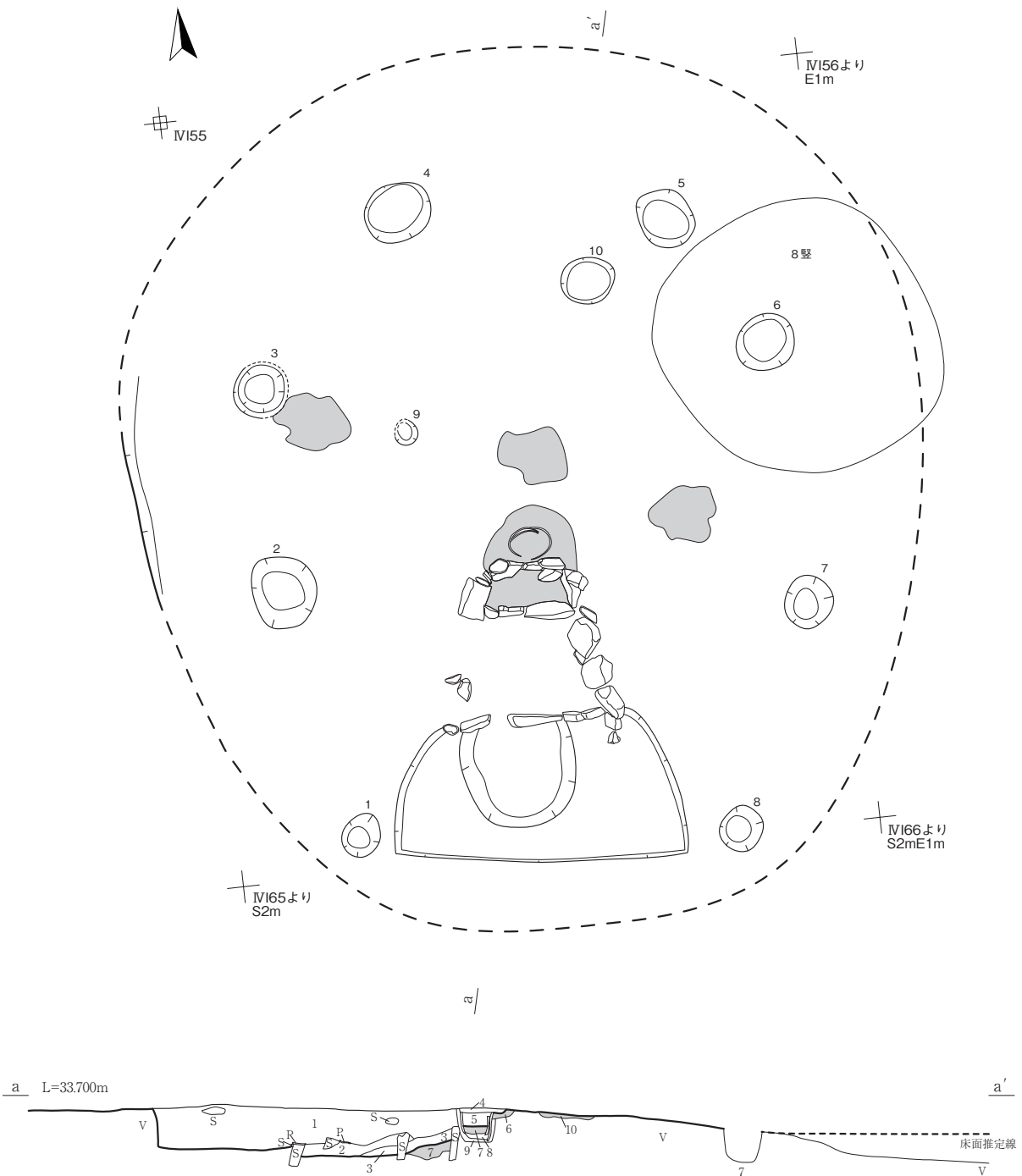
6号竖穴建物跡 炉

- 7.5YR4/4 褐色砂質シルト 粘性・締稍無 におい黄褐色シルト塊5%・炭化物粒1%含む・焼土しみ状にみられる
- 7.5YR5/8 明褐色シルト 粘性無 締稍有 黒褐色シルト小塊1%・焼土塊15%含む
- 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 焼土小塊2~3%含む
- 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 灰黄褐色シルト小塊7~10%含む
- 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性無 締稍有



第23図 6号竖穴建物跡

7号竪穴建物跡



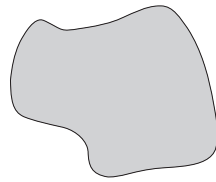
7号竪穴建物跡

1. 10YR4/6 褐色シルト 粘性稍無 締稍有 炭化物3%含む
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締稍有 炭化物1%含む
3. 10YR4/6 褐色シルト 粘性・締稍有
4. 10YR4/6 褐色シルト 粘性稍無 締稍有
5. 10YR4/6 褐色シルト 粘性稍無 締稍有 焼土塊3%含
6. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性中 締稍有
7. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性・締中
8. 5YR3/4 暗赤褐色シルト 粘性・締中 褐色シルト塊2%含む
9. 10YR4/6 褐色シルト 粘性稍無 締稍有
10. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性・締中

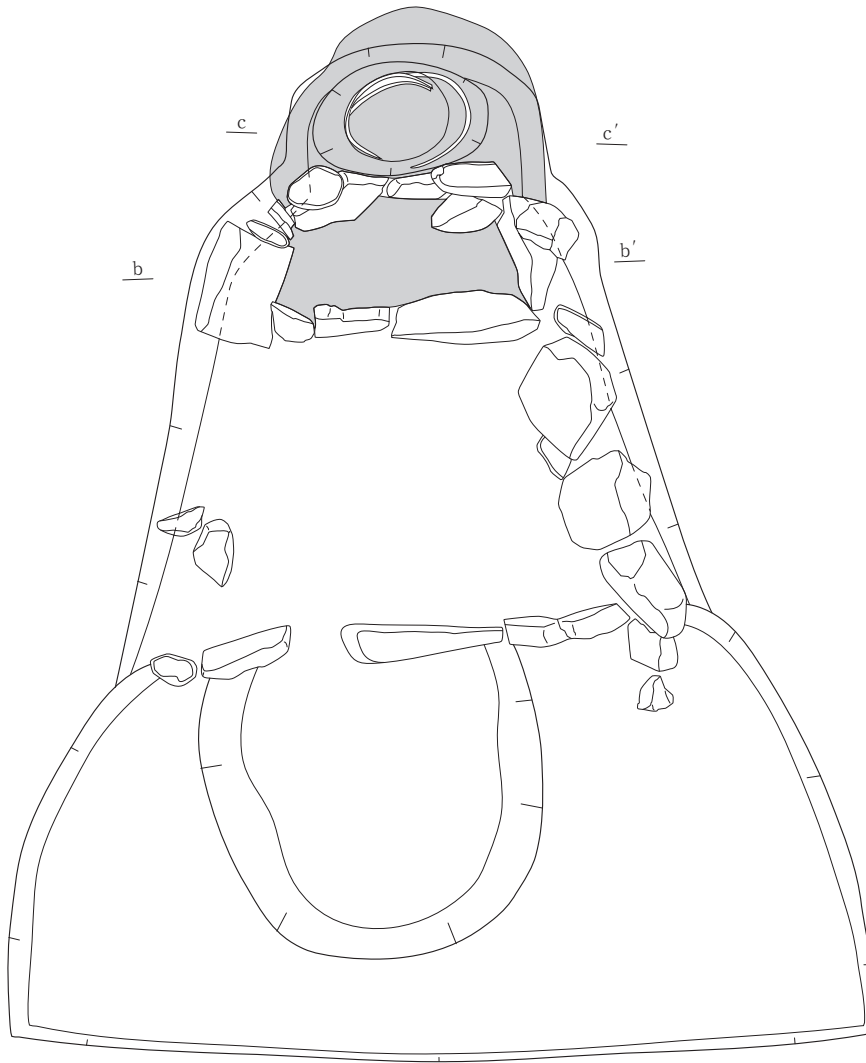
0 (1:50) 2m

第24図 7号竪穴建物跡1

7号竖穴建物跡 炉



IV166より  
N1mW1m



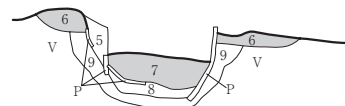
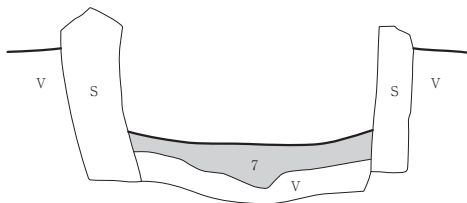
0 (1:20) 1m

b L=33.900m

b'

c L=38.900m

c'



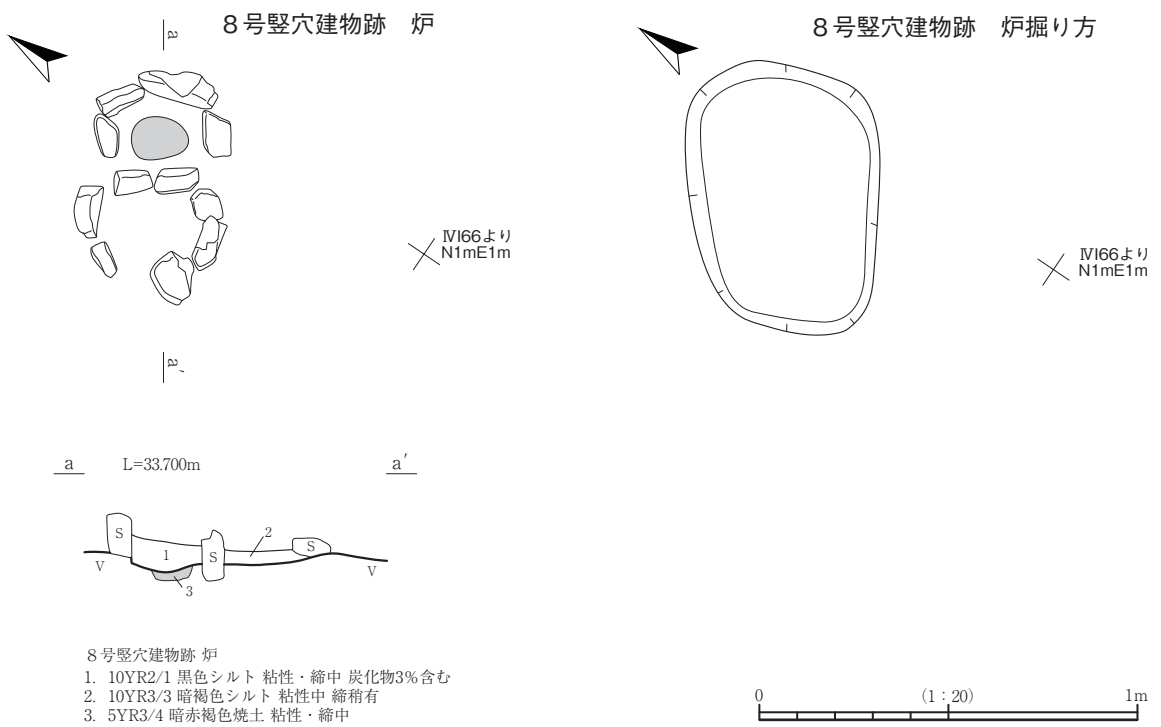
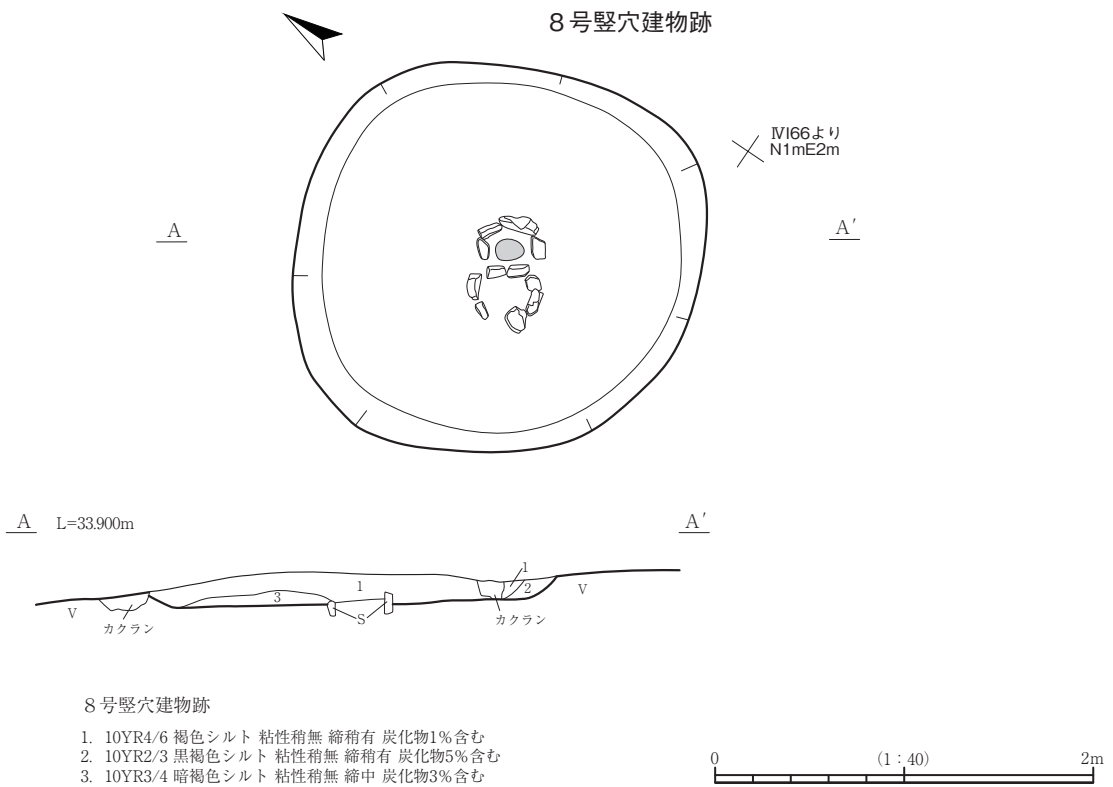
7号竖穴建物跡 炉

- 5. 10YR4/6 褐色シルト 粘性稍無 締稍有 焼土塊3%含
- 6. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性中 締稍有
- 7. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性・締中
- 8. 5YR3/4 暗赤褐色シルト 粘性・締中 褐色シルト塊2%含む
- 9. 10YR4/6 褐色シルト 粘性稍無 締稍有

7号竖穴建物跡 炉

- 7. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性・締中

第25図 7号竖穴建物跡2



第26図 8号竪穴建物跡



1.42m、前庭部の幅は狭い部分で1.76m、広い部分で2.2mである。土器埋設部にある燃焼部は67×45cmの楕円形を呈し、色調は赤褐色を呈する。焼成深度は最大で12cmである。石組部1も被熱して赤変しており、その範囲は60×30cmの方形を呈し、赤褐色を呈する。焼成深度は最大で14cmである。前庭部はハの字状に掘り込まれ、真ん中がさらに一段窪んでいる。複式炉の北側に位置する地床炉は58×47cmの歪な楕円形を呈し、赤褐色を呈する。焼成深度は最大で6cmである。炉石は主にデイサイトを利用している。[付属施設]柱穴を10個検出した。埋土はどれも褐色土主体の単層である。深さはPit 1が41cm、Pit 2が62cm、Pit 3が47cm、Pit 4が59cm、Pit 5が49cm、Pit 6が52cm、Pit 7が27cm、Pit 8が83cm、Pit 9が26cm、Pit10が39cmである。対になる柱穴が4箇所あり、計8本(Pit 1～8)の支柱穴がある。

[遺構種別]住居。

[出土遺物] (第118・119・136・140・143・144・147図、写真図版49・50・58～61)

炉体土器(17・18)、炉埋土・床面直上・Pit 4から粗製土器を中心とした土器、炉埋土・床面直上・Pit 4・遺構埋土から石器(221・254・273・278・292他8点)が出土し、土器8点(17～24)、石器5点(221・254・273・278・292)を掲載した。

[時代・時期] 炉体土器と伴に出土した土器(19)より大木10式古段階に帰属すると判断した。

(佐々木隆英・北村忠昭)

8号竪穴建物跡(SI10) (第26図、写真図版11)

[位置] 2区中央北寄り、IV I 56グリッドに位置する。[検出状況] V層で褐色の円形プランとして検出した。[重複] 7号竪穴建物跡を截る。[規模] 北西から南東で2.33m、北東から南西で2.15mのほぼ円形を呈する。確認できる検出面から床面までの深さは最大で32cmである。[埋土] 3層に分層した。1層である褐色シルトが大半を占めて埋没し、南西側の壁面を中心に2層である炭化物を少量含んだ黒褐色シルトが堆積している。床面直上には3層である暗褐色シルトが全体的にはないが西側に浅く堆積する。[壁・床の状況] 壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦である。[炉] 住居のほぼ中央に複式炉を1基検出した。石組部1・石組部2で構成され、前庭部は確認できなかった。炉よりも少し広めの方形状にV層を掘り込み、礫を8の字状に配置している。炉の埋土を2層に分層した。石組部1は炭化物を含む黒色シルト、石組部2は暗褐色シルトである。石組部1にはかなり薄くではあるが燃焼部がみられる。燃焼部は15×11cmの楕円形を呈し、色調は暗赤褐色を呈する。焼成深度は最大で5cmである。炉の全長は0.62mで、石組部1の幅は0.36m、石組部2の幅は0.4mである。確認した炉石の石材は花崗斑岩とデイサイトの2種類である。[付属施設] なし。

[遺構種別] 住居。

[年代測定] 2層から採取した炭化物の年代測定を実施したところ、4,785～4,425calBPとの年代値を得た(第VI章放射性炭素年代測定参照)。

[出土遺物] (第119・142図、写真図版50・59)

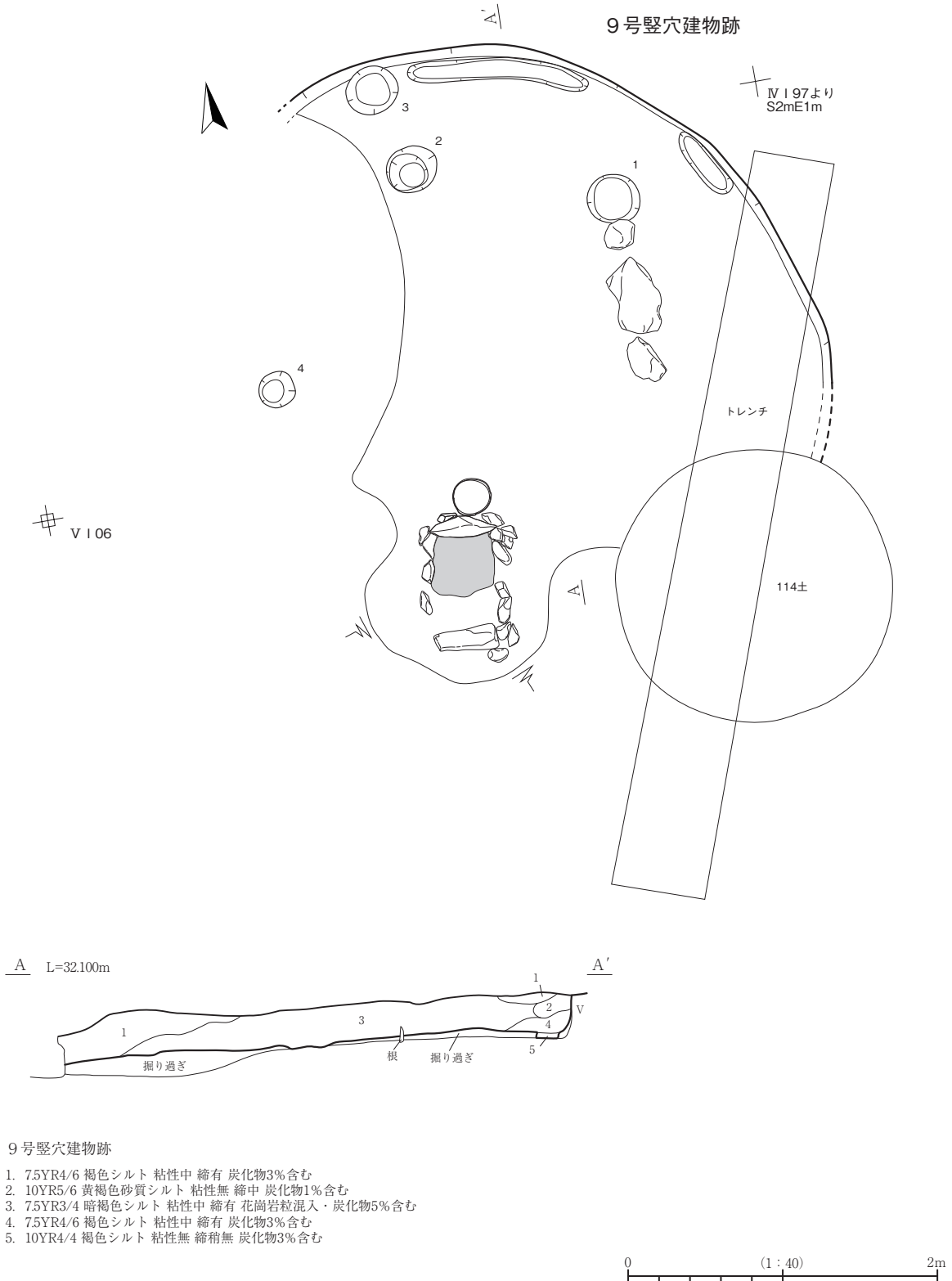
遺構埋土から土器(25他)、石器(247・264・265)が出土し、土器1点(25)、石器3点(247・264・265)を掲載した。

[時代・時期] 遺構埋土から大木9式新段階の土器(25)が出土しているが、7号竪穴建物跡との重複関係と放射性炭素年代測定の結果より大木10式古段階に帰属するものと判断した。

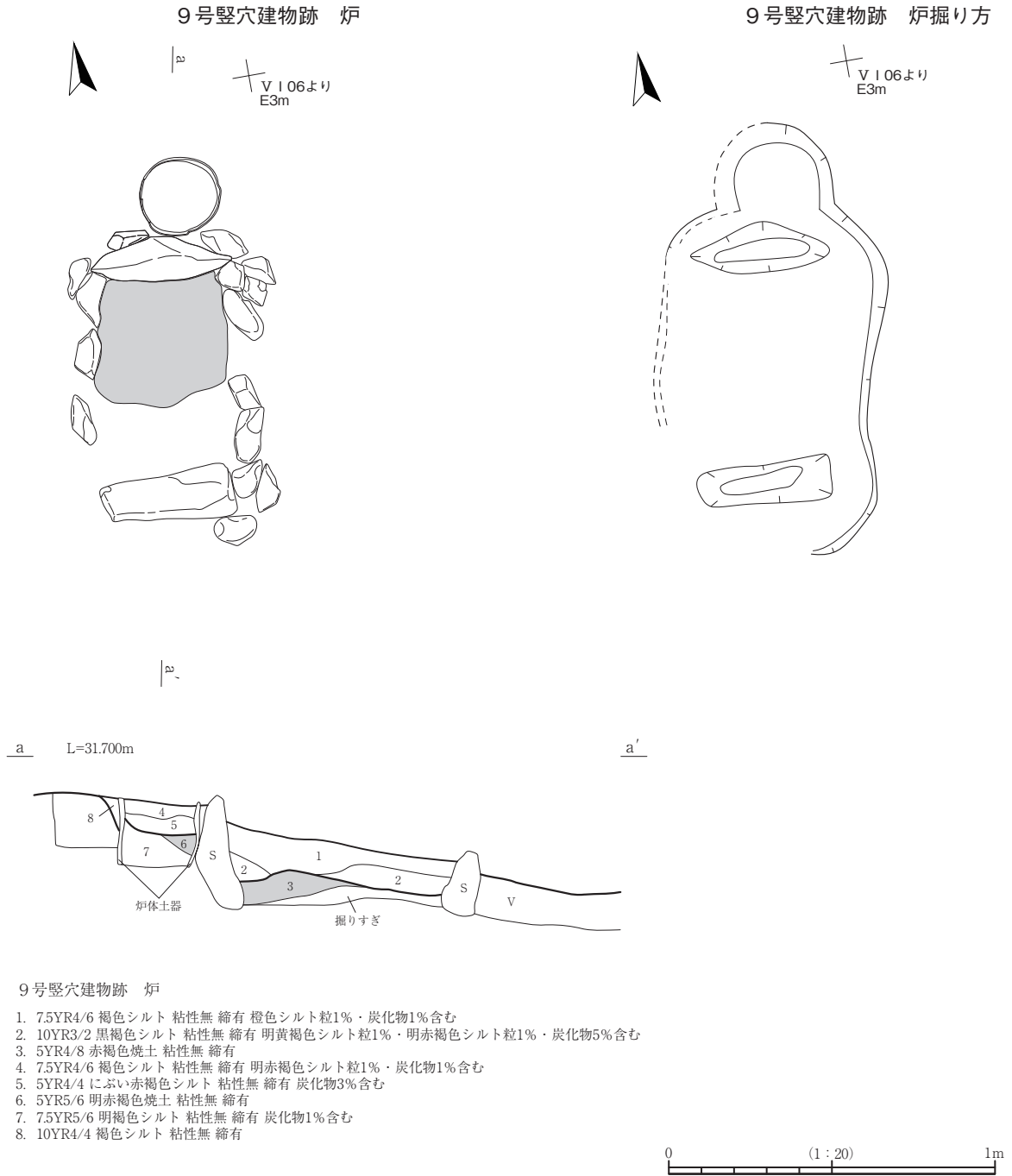
(佐々木隆英・北村忠昭)

9号竪穴建物跡 (SI24) (第27・28図、写真図版12)

[位置] 2区中央南寄り、Ⅳ I 96・97、Ⅴ I 06・07グリッドに位置する。[検出状況] SI20の床面で褐色の不整円形プランを検出した。[重複] 10号竪穴建物跡・114号土坑に截られる。西側は風倒木痕の影響を大きく受けており、残存していない。また、プランでは113号土坑・117号土坑と重複関係にあるが、遺構の床面が残存していないため、新旧関係を把握できなかった。[規模] 南西側は風



第27図 9号竪穴建物跡 1



9号竪穴建物跡 炉

1. 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性無 締有 橙色シルト粒1%・炭化物1%含む
2. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性無 締有 明黄褐色シルト粒1%・明赤褐色シルト粒1%・炭化物5%含む
3. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性無 締有
4. 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性無 締有 明赤褐色シルト粒1%・炭化物1%含む
5. 5YR4/4 にぶい赤褐色シルト 粘性無 締有 炭化物3%含む
6. 5YR5/6 明赤褐色焼土 粘性無 締有
7. 7.5YR5/6 明褐色シルト 粘性無 締有 炭化物1%含む
8. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有

第28図 9号竪穴建物跡2

倒木痕により消失しているが、確認できる平面規模は南北4.15m、東西3.36mである。平面形は不明だが、円形を呈するものと考えられる。確認できる検出面から床面までの深さは最大で29cmである。[埋土] 5層に分層し、主体は褐色シルトである。斜面上方(北)から斜面下方(南)への堆積状況が確認できるため、自然堆積の可能性が高い。5層は周溝埋土である。[壁・床の状況] 残存する範囲では、壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。[炉] 中央から南寄りに複式炉を検出した。土器埋設部・石組部で構成されるが、南側が残存していないため、さらに石組部や前庭部が構成されていたものと考えられる。炉の大きさに合わせてV層を掘り込み、土器や15～40cmの礫を壁際に配置

している。石組部の埋土を2層、土器埋設部の埋土を2層に分層した。石組部は下位に炭化物や焼土粒を含む黒褐色シルトが堆積し、地山起源の褐色シルトで埋まっている。土器埋設部は下位に炭化物を含む焼土主体層が確認でき、上位は石組部と同じ堆積土である。燃焼部は石組部の北側に確認でき、一辺約40cmの方形状を呈する。焼成深度は最大で8cmである。炉体土器内はわずかに被熱しているように見受けられたが、焼成が弱いのかわずかににぶい赤褐色に赤変するのみである。確認できた炉の全長は、土器埋設部まで含めると、1.32mで、石組部の幅は0.6mである。確認した炉石の石材はデイサイト・細粒閃緑岩・細粒花崗閃緑岩・花崗斑岩・流紋岩1・ホルンフェルスである。[付属施設]柱穴を4個確認した。大部分を消失しており配列は不明だが、Pit 1とPit 2が対になると考えられる。Pit 1がにぶい黄褐色シルト、Pit 2～4が褐色シルトの単層で、深さはPit 1が15cm、Pit 2が50cm、Pit 3が21cm、Pit 4が22cmである。壁際に断続的な周溝を確認した。埋土は褐色シルトの単層である。[遺構種別]住居。

[出土遺物] (第119・138・148図、写真図版50・58・62)

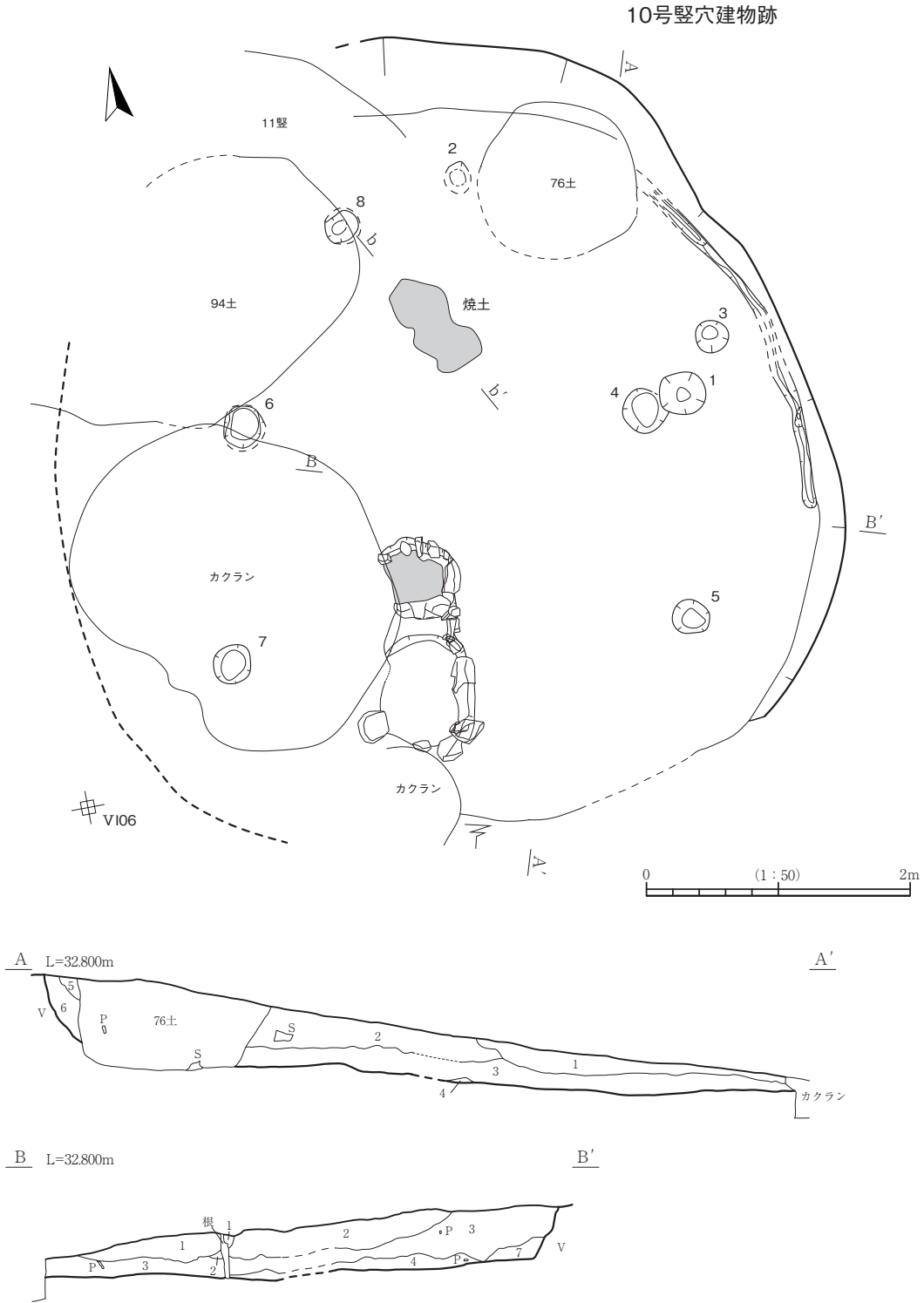
炉体土器(26)、遺構埋土から粗製土器及びその小片、石器(235他1点)、床面から石器(295)、炉石に転用した石器が出土し、土器1点(26)、石器2点(235・295)を掲載した。

[時代・時期] 炉の形態や10号竪穴建物跡との新旧関係から縄文時代中期末葉に帰属する可能性が高いが、炉体土器(26)を含め、粗製土器しか出土していないため、詳細な時期を特定できなかった。

(白戸このみ・北村忠昭)

10号竪穴建物跡(SI20) (第29・30図、写真図版13)

[位置] 2区中央南寄り、IV I 96周辺に位置する。[検出状況] V層上面でにぶい黄褐色のプランとして検出した。[重複] 11号竪穴建物跡・76号土坑・94号土坑に截られ、9号竪穴建物跡・43号土坑・45号土坑・71号土坑・74号土坑・75号土坑を截る。プランでは149号土坑とも重複しているが、直接重複する部分が確認できないため、新旧関係を把握することができなかった。[規模] 竪穴建物跡や土坑類に截られ、西側半分が確認できないことと、南側が後世の削平により残存していないことにより、詳細な規模は不明であるが、炉の位置から想定すると、南北6.0～6.5m、東西約6.5～7.0mで、平面形は円形もしくは多角形を呈するものと考えられる。確認できる検出面から床面までの深さは最大で68cmである。[埋土] 7層に分層した。上位はにぶい黄褐色シルト、下位は褐色シルトを主体とする。全体的に炭化物粒が混在する。北東方向からの堆積状況を呈しているが、全体的に夾雑物が多く、自然堆積との判断はできなかった。[壁・床の状況] 斜面上方は直線的に立ち上がる。床面は概ね平坦である。[炉] 南壁寄りで複式炉を検出した。石組部1・石組部2で構成されるが、想定される壁の位置との関係から判断すると、南側に前庭部が伴う可能性が高い。炉の大きさに合わせてV層を掘り込み、その壁際に10～60cmの大小様々な礫を配置している。炉の埋土を5層に分層した。石組部2が暗褐色シルト主体で埋まり、最終的には明褐色シルトで覆われている。燃焼部は石組部1全体で、焼成深度は最大で11cmである。確認できた炉の全長は1.72mで、確認できた石組部1の幅は0.59m、確認できた石組部2の幅は0.92mである。炉石の石材はデイサイトを主体に花崗斑岩・石英斑岩・細粒閃緑岩・ホルンフェルスが利用されている。[付属施設] 柱穴8個を検出した。炉とPit 2を中心としてPit 1・Pit 5とPit 6・Pit 7が対称的に配置されている。また、Pit 8と対になる部分は76号土坑があるため、確認できないが、本来はこれらを含めた6個もしくは7個の柱穴が支柱穴になると考えられる。いずれも単層で、Pit 1・3・4は褐色シルト、Pit 2はにぶい赤褐色シルト、Pit 5～7は黄褐色シルト、Pit 8は褐色砂質シルト主体である。深さはPit 1が53cm、Pit 2が65cm、Pit 3

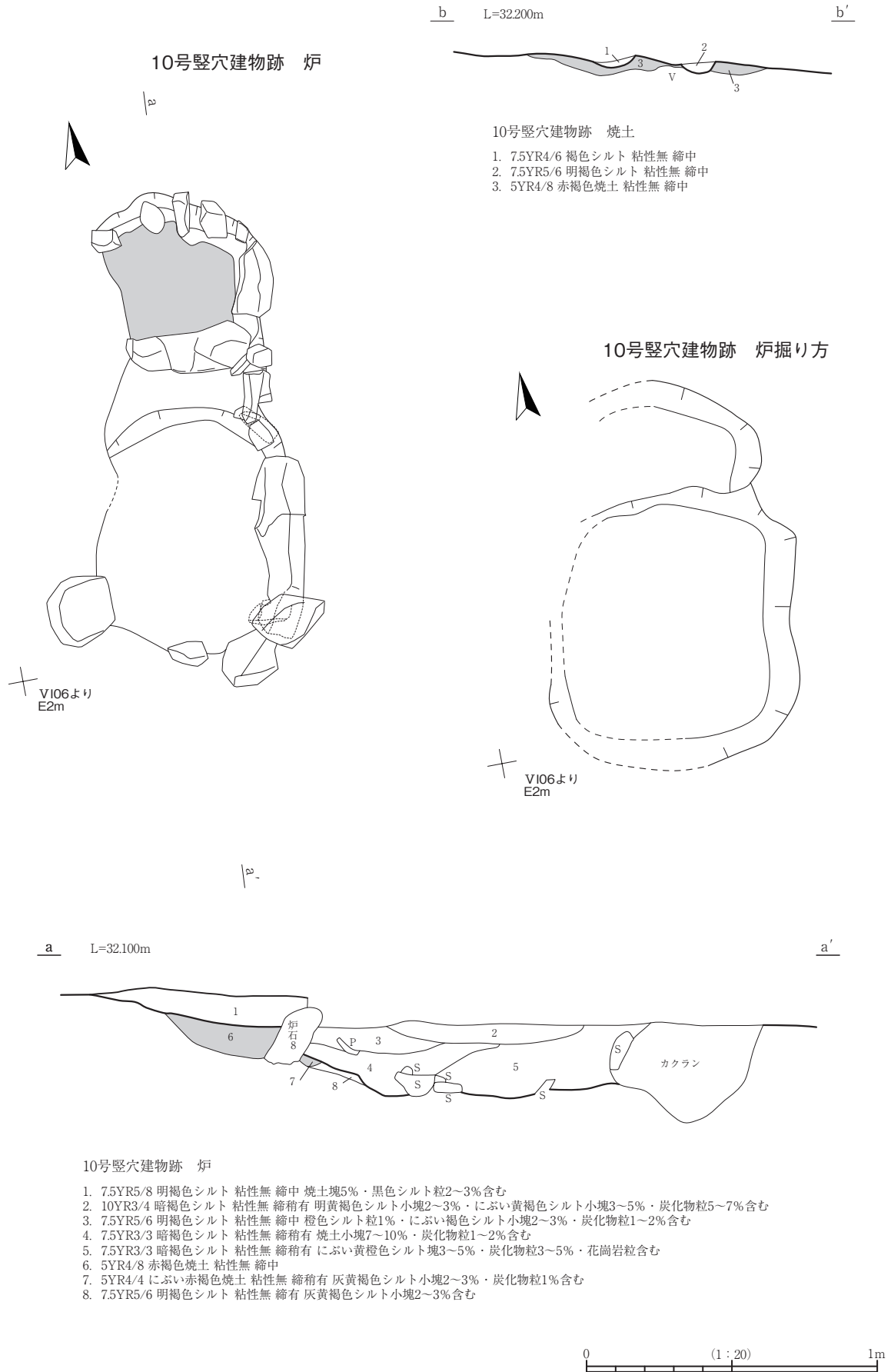


10号竪穴建物跡

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性無 締中 明黄褐色シルト塊20~25%・炭化物粒5~7%含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性無 締中 にぶい黄褐色シルト塊15~20%・炭化物粒2~3%含む
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締中 黄褐色シルト塊10~15%・炭化物粒1~2%・花崗岩粒含む
4. 10YR4.5/6 褐色~黄褐色シルト 粘性無 締稍有 にぶい黄褐色シルト小塊3~5%・炭化物粒1%・花崗岩粒含む
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性無 締稍有 黄褐色シルト塊10%・炭化物粒2~3%含む
6. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締中 にぶい黄褐色シルト塊しみ状にみられる・炭化物粒1~2%・花崗岩粒含む
7. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締稍有 にぶい黄褐色シルト塊3~5%・花崗岩粒含む

第29図 10号竪穴建物跡 1





第30図 10号竪穴建物跡 2

が33cm、Pit 4が52cm、Pit 5が29cm、Pit 6が37cm、Pit 7が27cm、Pit 8が69cmである。

[遺構種別] 住居。

[出土遺物] (第119・120・133～136・141・147図、写真図版50・57～59・61)

炉埋土・床面直上から粗製土器を中心とした土器、遺構埋土から大木9～10式期の土器片を含む粗製土器中心の土器、石器(172・184・196・205・220・248・259・289他12点)、不明(311)、炉埋土から石器、炉石に転用した石器が出土し、土器8点(27～34)、石器8点(172・184・196・205・220・248・259・289)、不明1点(311)を掲載した。

[時代・時期] 遺構埋土から出土した土器(28・29)及び11号竪穴建物跡との重複関係から大木10中段階に帰属すると判断した。(北村忠昭)

11号竪穴建物跡(SI12)(第31図、写真図版14)

[位置] 2区中央南寄り、ⅣI 86・96付近に位置する。[検出状況] 植栽痕や風倒木痕の影響を受けて部分的にしか残存していない。Ⅴ層上面でにぶい黄褐色のプランとして検出した。[重複] 94号土坑に截られ、10号竪穴建物跡・43～45号土坑・75号土坑を截る。また、5号竪穴建物跡ともプランでは重複関係にあるが、後世の削平等により、直接的に重複部分を確認できなかったため、新旧関係を把握することができなかった。[規模] 一部しか残存しないため、不明である。残存する北西隅から隅丸方形や多角形を呈するものと想定される。確認できる検出面から床面までの深さは最大で63cmである。[埋土] 5層に分層した。褐色砂質シルト層を主体とする。地山起源の堆積土で、斜面上方からの流入による自然堆積の様相を呈している。[壁・床の状況] 残存する壁は直線的に立ち上がる。床面は概ね平坦である。[炉] 確認できなかった。[付属施設] 焼土を1基、柱穴を1個検出した。焼土は北壁際に東西26cm、南北22cmの三角形状を呈し、色調は明赤褐色を呈する。焼成深度は最大で4cmである。柱穴は焼土脇に位置し、にぶい黄褐色砂質シルトの単層である。深さは41cmである。[遺構種別] 住居。

[出土遺物] (第120図、写真図版50・58)

遺構埋土から粗製土器とともに、大木9式期～10式期の土器小片、石器、床面直上から石器(237)が出土し、土器1点(35)、石器1点(237)を掲載した。

[時代・時期] 遺構埋土から出土した土器(35)と94号土坑との重複関係より大木10式中段階に帰属すると判断した。(北村忠昭)

12号竪穴建物跡(SI22)(第32図、写真図版15)

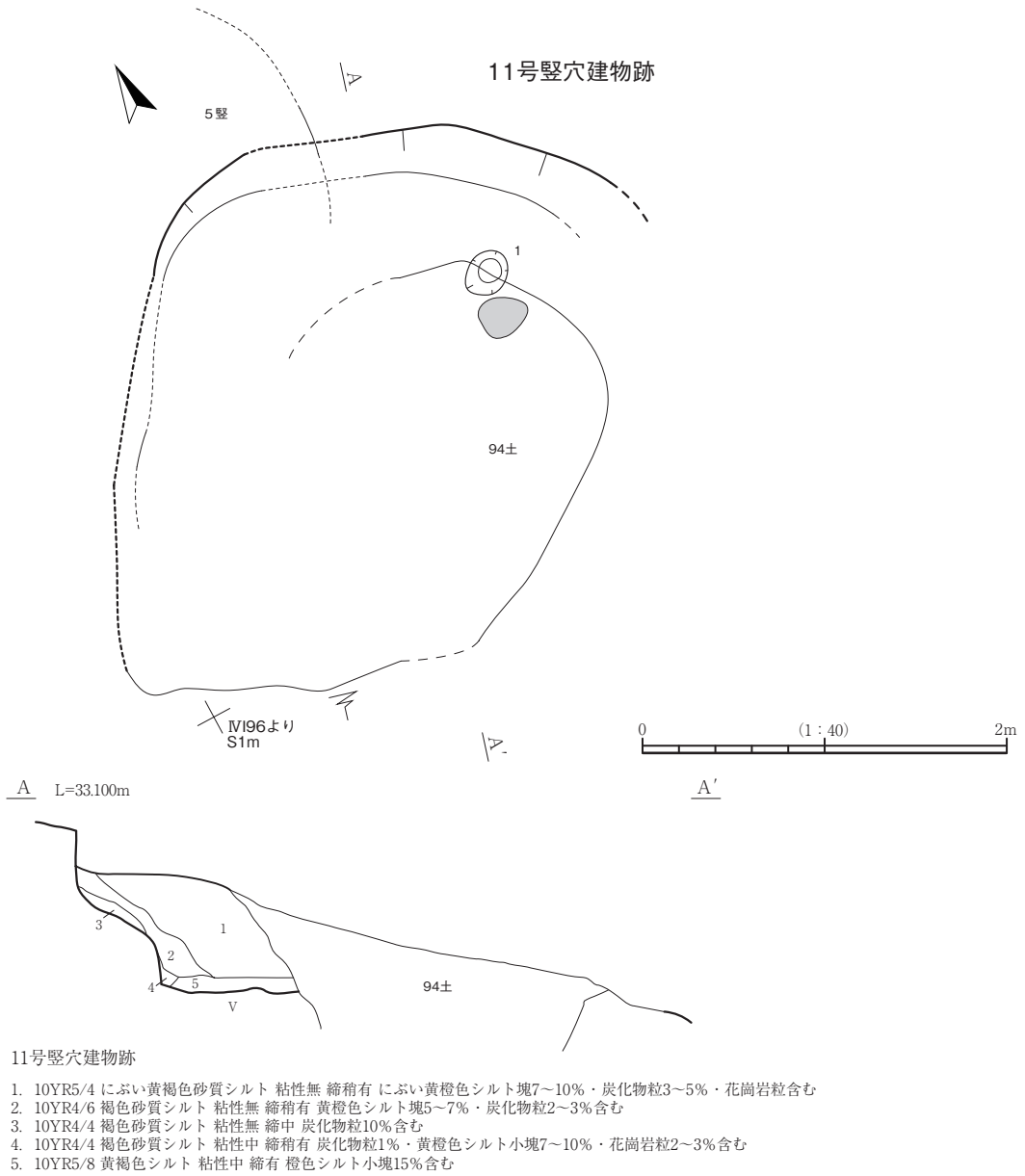
[位置] 2区南側、ⅤI 07・08グリッドに位置する。[検出状況] Ⅴ層で暗褐色の円形プランとして検出した。3区との境にあり、南側の大部分は後世の削平により残存していない。[重複] 63～68・86～89号土坑を截る。床面で1号埋設土器を検出したが、明瞭な新旧関係を把握できなかった。[規模] 南側の大部分が残存しないため、全体の形状は不明だが、残存する範囲では北西から南東で5.1m、北東から南西で2.41mのほぼ円形を呈すると思われる。確認できる検出面から床面までの深さは最大で83cmである。[埋土] 3層に分層した。全体的に斜面からの流入による自然堆積の様相を呈し、1層は暗褐色シルト主体である。2層は暗褐色シルトブロックと炭化物を少量含む、褐色シルト主体である。3層はにぶい黄褐色シルト主体で壁際に三角堆積している。[壁・床の状況] 壁は直線的に緩やかに外傾しながら立ち上がる。床はほぼ平坦である。[炉] 焼土範囲を1基検出した。燃焼部は南側の一部が削平されているため全体の形状は不明だが、残存する範囲では54×40cmの歪な楕円形を

2 検出遺構

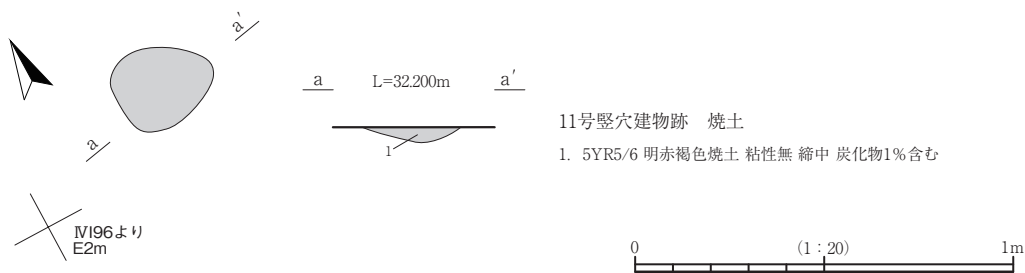
呈し、色調は赤褐色を呈する。焼成深度は最大で10cmである。[付属施設]柱穴を5個検出した。Pit 1～4は壁際に位置する。埋土はどれも褐色シルト主体の単層である。深さはPit 1が69cm、Pit 2が64cm、Pit 3が61cm、Pit 4が53cm、Pit 5が32cmである。

[遺構種別]住居。

[出土遺物] (第120・135・136図、写真図版50・51・57・58)



11号竪穴建物跡 焼土



第31図 11号竪穴建物跡

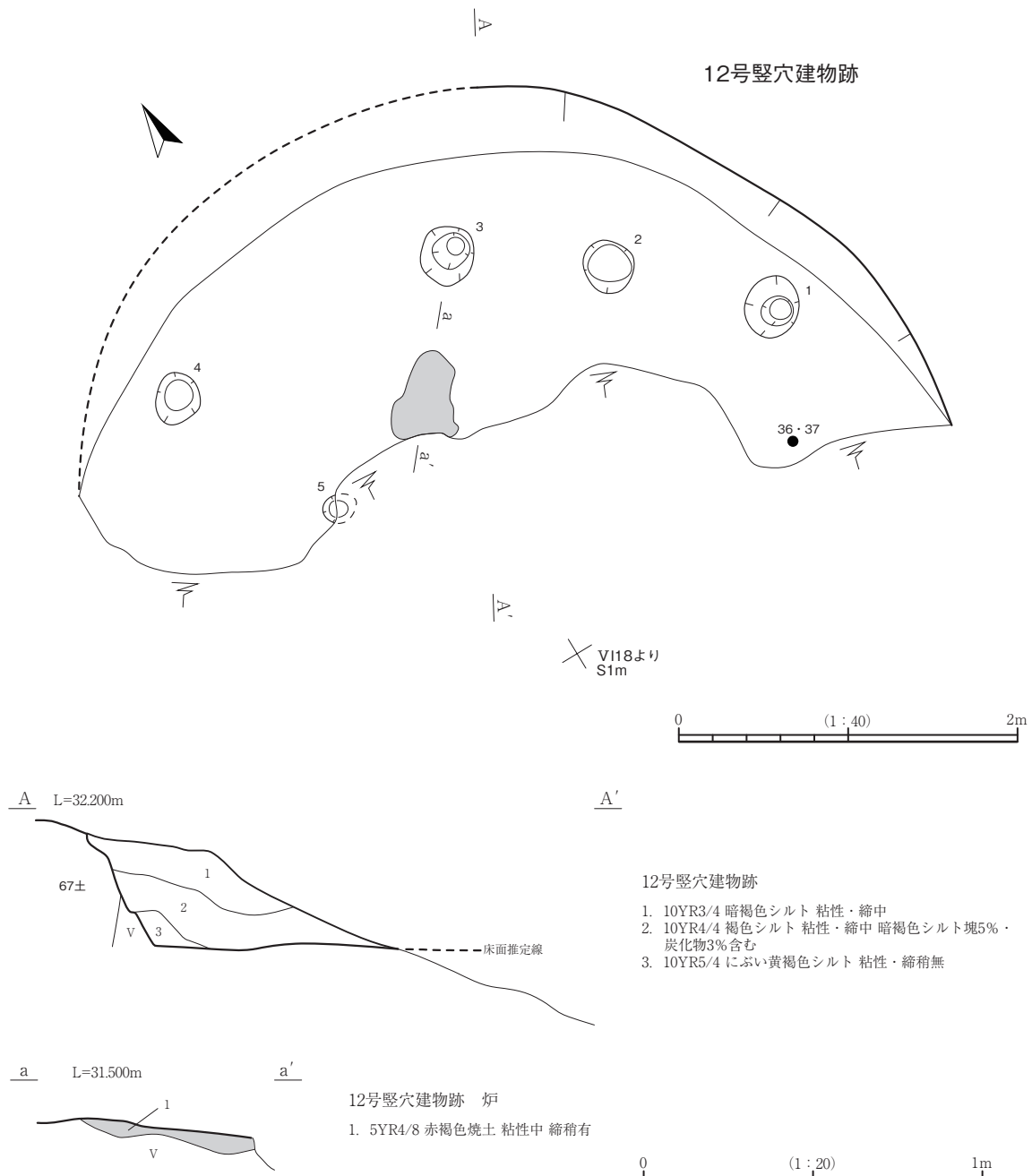
遺構埋土から大木9～10式期の土器を含む粗製土器中心の土器、石器(191・208他4点)が出土し、土器4点(36～39)、石器2点(191・208)を掲載した。

[時代・時期] 遺構埋土から出土した土器(36)より大木10式新段階に帰属すると判断した。

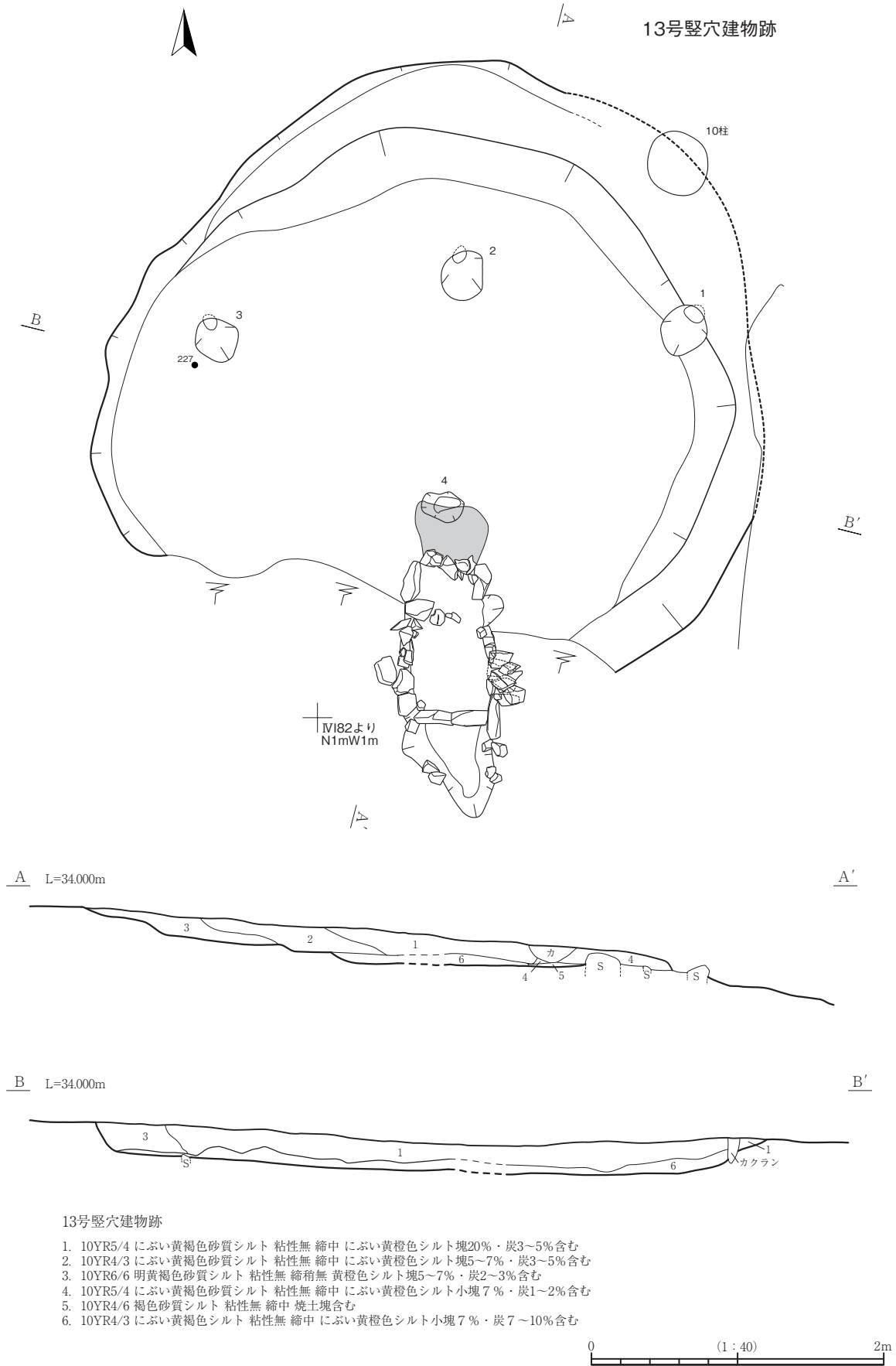
(佐々木隆英・北村忠昭)

13号竪穴建物跡(SI06)(第33・34図、写真図版16)

[位置] 2区北西側、Ⅳ I 61・62・71・72グリッドに位置する。[検出状況] V層上面でにぶい黄褐色のプランとして検出した。斜面下方に当たる南側は後世の掘削により残存していない。[重複] 3号炉跡に載られ、6号竪穴建物跡・34号土坑・35号土坑・11号柱穴・15号柱穴を載る。また、10号柱穴ともプランでは重複関係にあるが、この周辺の残存状況が悪いため、新旧関係を把握できなかつ

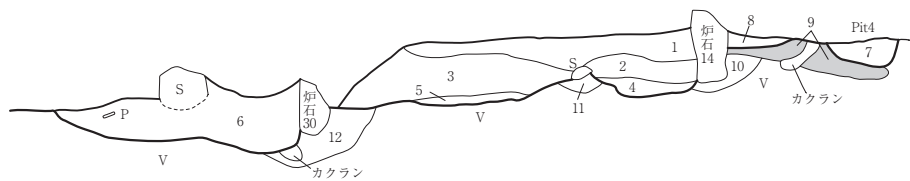
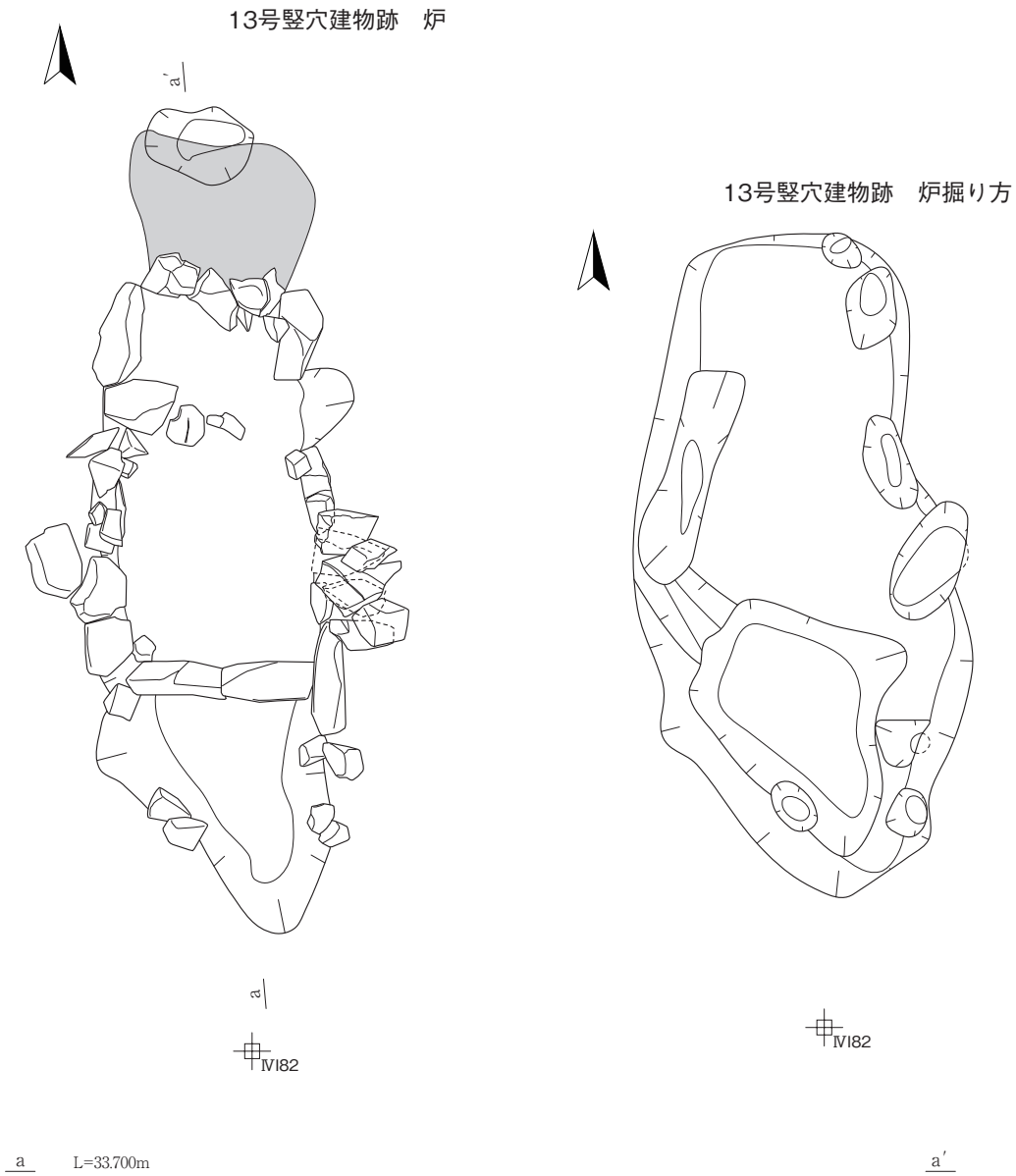


第32図 12号竪穴建物跡



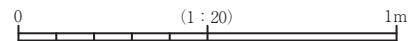
第33図 13号竪穴建物跡 1





13号竖穴建物跡 炉

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締中 におい黄褐色シルト小塊7%・炭1~2%含む
2. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性無 締中 明黄褐色シルト小塊1%・炭1%・焼土粒1~2%含む
3. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 明黄褐色シルト小塊3~5%・灰黄褐色シルト小塊2%・炭2~3%含む
4. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍有 灰黄褐色シルト小塊15~20%・炭1~2%含む
5. 7.5YR4/6 褐色砂質シルト 粘性無 締中 上面に薄く赤褐色焼土塊が層状に見られる
6. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締稍無 におい黄褐色シルト塊2~3%・炭1%含む
7. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍有 焼土塊10%・炭1%含む
8. 7.5YR5/8 明褐色砂質シルト 粘性無 締稍有 赤褐色焼土がしみ状にみられる
9. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性無 締稍有
10. 7.5YR5/6 明褐色砂質シルト 粘性無 締稍有 灰黄褐色シルト塊10%含む
11. 7.5YR5/6 明褐色砂質シルト 粘性無 締稍有 灰黄褐色シルト小塊7~10%含む
12. 7.5YR4/3 褐色砂質シルト 粘性無 締稍有 灰黄褐色シルト小塊5~7%含む



第34図 13号竖穴建物跡2

た。[規模]南側の床面から壁が残存しないため、詳細な規模は不明であるが、確認できたものは、主軸方向である南北5.2m、それと直交する東西約4.6mで、円形基調である。確認できる検出面から床面までの深さは最大で24cmである。[埋土]6層に分層した。にぶい黄褐色シルトを主体とする。1～5層は砂質であるのに対して、6層は砂分が少なく、上面が水平気味になるなど、堆積状況に差が見られる。6層上面を床面とする、新しい時期の遺構が存在した可能性が想定されるが、野外調査では認識できなかった。1～5層は斜面上方からの堆積状況を呈している。[壁・床の状況]斜面上方は残存状態が悪いものの、なだらかに立ち上がる壁を確認した。壁際に50cm程の一段高い平坦面が確認できる。[炉]南側に複式炉を検出した。燃焼部・石組部1・石組部2・前庭部で構成される。斜面下方は後世の掘削の影響を受けており、確認できた前庭部は一部のみと考えられる。炉の大きさに合わせてV層を掘り窪め、褐色～明褐色砂質シルトを掘り方埋土として、磔を日の字状に配置している。炉の埋土を8層に分層した。石組部1は炭化物を含む黄褐色砂質シルト、にぶい黄褐色シルトの順で、石組部2は底面付近に赤褐色焼土ブロックを含む褐色砂質シルト、黄褐色砂質シルトの順で堆積し、最終的には石組部は褐色シルトで埋まっている。前庭部は褐色砂質シルトで埋まっている。燃焼部は石組部1の北隣にあり、南北最大0.5m、東西最大0.5mの方形状を呈し、焼成深度は最大で7cmである。燃焼部の北側に南北0.21m、東西0.29mのピットが伴っており、土器を埋設していた可能性が想定される。ピットを含めた確認できた炉の全長は2.23mで、石組部1の幅は0.63m、石組部2の幅は0.86m、前庭部は0.73mである。炉石は遺跡周辺で採取可能なデイスaitを主体的に利用している。炉を構成する炉石の中に敲打によると考えられる窪みや平滑な面が確認できるもの(炉石29)があり、成形している可能性が高い。[付属施設]柱穴を3個検出した。斜面上方に配置され、Pit 2は炉の長軸線上に位置し、Pit 1とPit 3が対称的に位置する。柱穴の埋土は炭化物を含むにぶい黄褐色シルトの単層で、深さはPit 1が45cm、Pit 2が57cm、Pit 3が38cmである。

[遺構種別]住居。

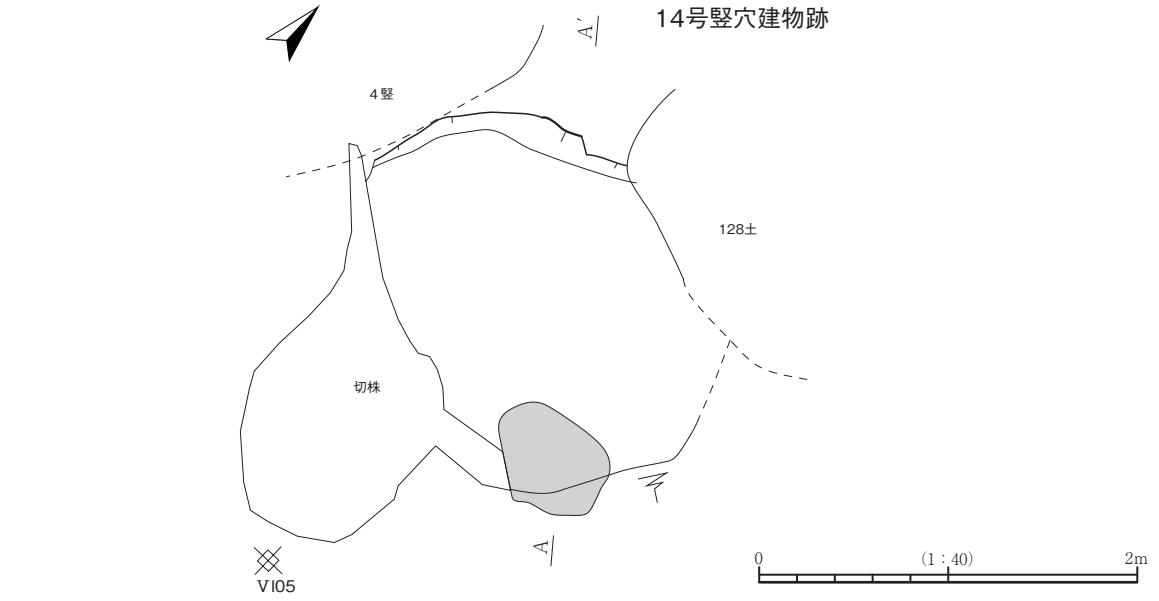
[出土遺物](第121・133・137・145図、写真図版51・57・58・60)

床面・Pit 1～3・遺構埋土から粗製土器を中心とした土器、遺構埋土から土製品(161)、石器(227他4点)、炉石に転用した石器(279)が出土しており、土器2点(40・41)、土製品1点(161)、石器1点(227・279)を掲載した。

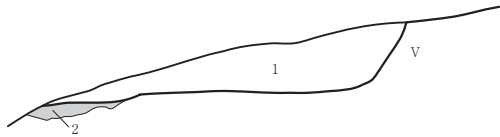
[時代・時期]炉の形態より大木10式期に帰属すると判断したが、時期を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時期の特定には至らなかった。(北村忠昭)

14号竪穴建物跡(SI23)(第35図、写真図版14)

[位置]2区中央南寄り、IV I 94・95グリッドに位置する。[検出状況]3区との境にある切株を除去するために、遺構の有無を確認していたところ、V層上面で焼土層を確認し、焼土層を中心とした弧状の炭化物を含む黄褐色のプランを検出した。[重複]128号土坑に截られる。また、プランでは4号竪穴建物跡と重複関係にあるが、残存状態が悪く、新旧関係を把握できなかった。[規模]斜面下方が後世の掘削により残存していないことと、重複遺構により残存しないことから、詳細な規模や形状は不明である。確認できる検出面から床面までの深さは最大で34cmである。[埋土]炭化物を含む黄褐色シルトの単層である。[壁・床の状況]残存状態が悪く、確認できたのは北西の一部のみで、確認できた壁は床面からなだらかに立ち上がる。床面は概ね平坦である。[炉]切株直下で焼土層(地床炉?)を検出した。確認できた規模は南北54cm、東西67cmの楕円形基調である。南側が残存しないため、複式炉の一部であるかの判断はできない。焼成深度は最大で3cmである。[付属施設]なし。

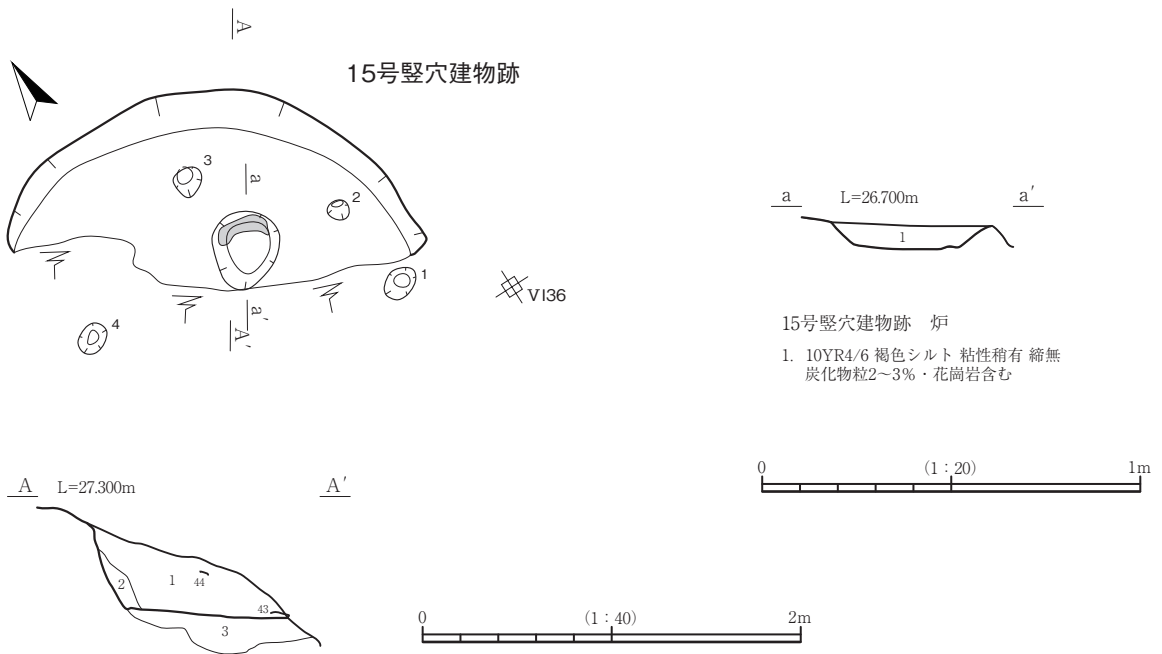


A L=32.400m

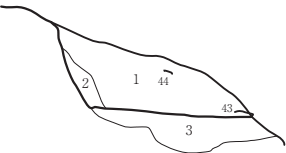


14号竪穴建物跡

1. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締稍有  
にぶい黄褐色シルト小塊7~10%・炭化物粒2~3%含む
2. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性無 締中



A L=27.300m



a L=26.700m a'

15号竪穴建物跡 炉

1. 10YR4/6 褐色シルト 粘性稍有 締無  
炭化物粒2~3%・花崗岩含む

15号竪穴建物跡

1. 10YR4/6 褐色シルト 粘性・締中 明黄褐色砂質シルト小塊3~5%・にぶい黄褐色シルト塊5~7%・炭化物粒2~3%・土器含む
2. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性稍有 締稍無 炭化物粒1~2%含む
3. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性中 締稍有 炭化物粒5~7%・花崗岩粒含む

第35図 14号竪穴建物跡・15号竪穴建物跡

[遺構種別] 住居。

[出土遺物] 炉直上や遺構埋土から土器が出土したが、粗製土器や小片であるため、掲載していない。

[時代・時期] 遺構の形態や128号土坑との重複関係から縄文時代中期に帰属すると判断したが、詳細な時期を特定するには至らなかった。(北村忠昭)

15号竪穴建物跡(SK123) (第35図、写真図版17)

[位置] 3区北東、V I 25に位置する。[検出状況] V層上面で炭化物を含む褐色のプランとして検出した。[重複] なし。[規模] 斜面下方に当たる南西側が後世の土地改変により残存していないため、詳細な規模は不明であるが、径2.5m前後の円形を呈するものと考えられる。確認できる検出面から床面までの深さは最大で40cmである。[埋土] 2層に分層した。壁際に地山起源の黄褐色シルトが堆積し、大部分は炭化物を含む褐色シルトで埋まっている。[壁・床の状況] 残存する壁は床面から直線的に立ち上がり、床面は斜面下方に向かってやや傾斜しているものの、目立つ凹凸は確認できない。[炉] プラン内に長辺42cm、短辺36cmの楕円形のピットがあり、その底面の一部が被熱により赤変している。炉石の抜き取り痕等の痕跡が確認できないため、地床炉と考えられる。焼成深度は最大で2cmである。[付属施設] 柱穴を4個検出した。埋土は4個とも黄褐色シルトを主体とし、深さはPit 1が16cm、Pit 2が32cm、Pit 3が20cm、Pit 4が14cmである。

[遺構種別] 住居。

[出土遺物] (第121・134図、写真図版51・57)

遺構埋土から土器(42～44)、石器(186)、炉埋土から土器小片が出土し、土器3点(42～44)、石器1点(186)を掲載した。

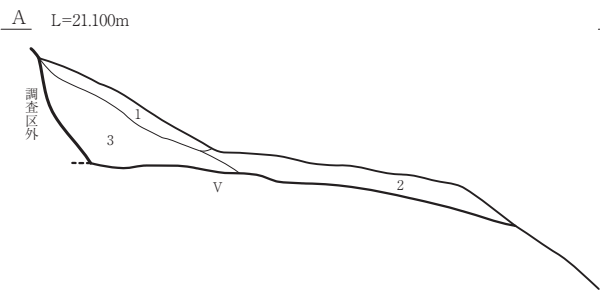
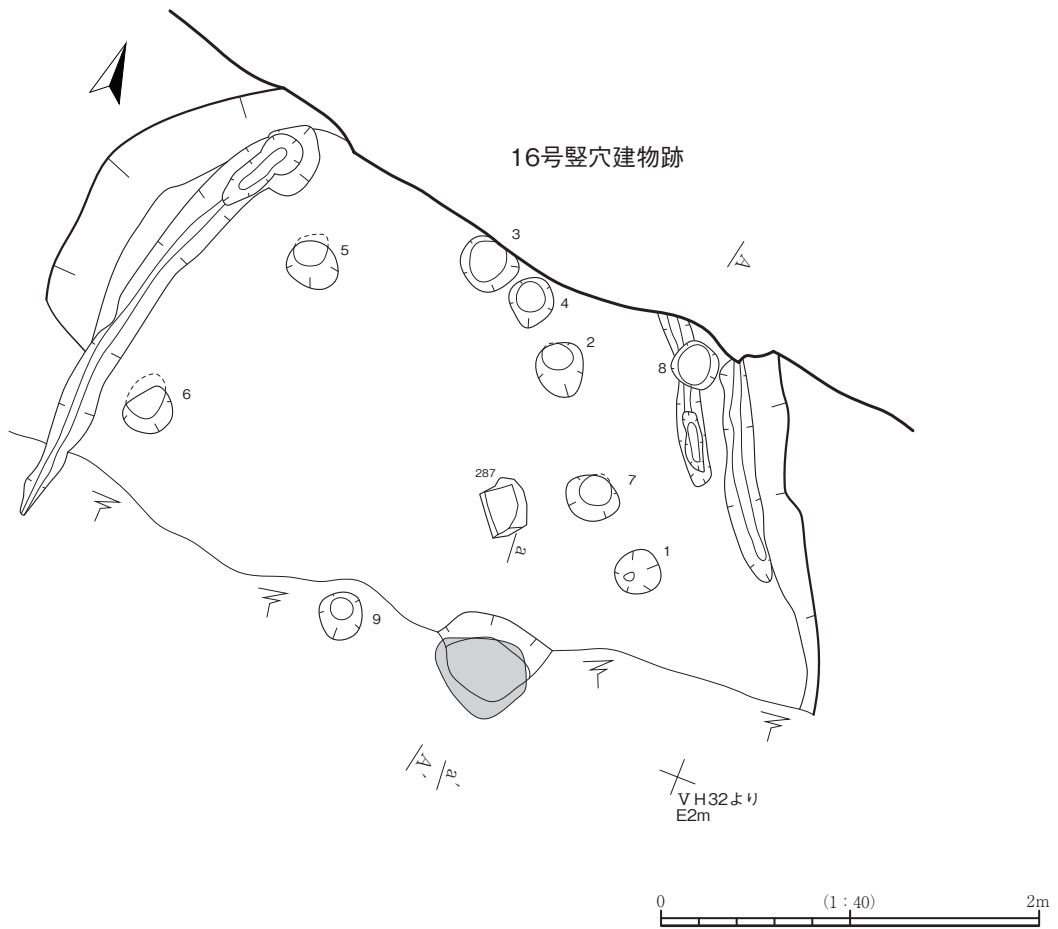
[時代・時期] 遺構埋土から出土した土器(42～44)より縄文時代中期中葉～後葉に帰属すると判断したが、詳細な時期を特定するには至らなかった。(北村忠昭)

16号竪穴建物跡(SI17) (第36図、写真図版17)

[位置] 3区南西、V H 21・22グリッドに位置する。[検出状況] 後世の土地改変による斜面での遺構確認中に、焼土層を確認し、V層上面で焼土を中心とした炭化物を含む暗褐色のプランとして検出した。[重複] なし。[規模] 斜面下方に当たる南側半分が後世の土地改変により残存していないことと、北側が調査区外に広がるため、詳細な規模や平面形は不明である。確認できる検出面から床面までの深さは斜面上方で最大40cmであるが、炉周辺では10cm程度である。[埋土] 3層に分層した。斜面上方に褐色シルトが三角形に堆積し、暗褐色シルト、にぶい黄褐色シルトの順で埋まっている。[壁・床の状況] 壁は東壁と西壁のそれぞれ一部が確認でき、床面からなだらかに立ち上がる。床面は斜面下方へ傾斜しているが、目立つ凹凸は確認できない。[炉] 窪地状の地床炉を確認した。確認できた規模は南北42cm、東西52cmで、焼成深度は最大で3cmである。[付属施設] 周溝と9個の柱穴を検出した。周溝は東西で確認できるが、東側は2条になっており、小規模な建て替えが行われた可能性が想定される。埋土はにぶい褐色シルトの単層である。柱穴は床面全体で確認でき、規則的な配置を確認できない。柱穴の埋土はPit 4がにぶい褐色シルト主体、Pit 9が褐色シルト主体の単層で、その他はにぶい黄褐色シルトの単層である。深さはPit 1が74cm、Pit 2が69cm、Pit 3が64cm、Pit 4が39cm、Pit 5が49cm、Pit 6が63cm、Pit 7が45cm、Pit 8が27cm、Pit 9が74cmである。

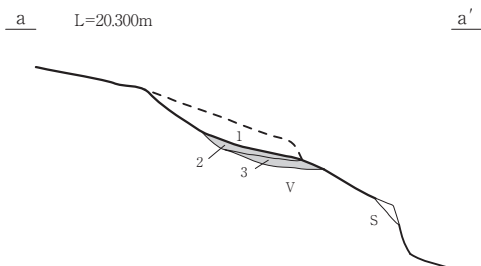
[遺構種別] 住居。

[出土遺物] (第121・148・149図、写真図版51・61・62)



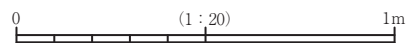
16号竖穴建物跡

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性無 締稍無 花崗岩粒含む
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締稍無 褐色シルト小塊3~5%・炭化物粒5~7%・花崗岩粒含む
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締稍無 褐色シルト塊7~10%含む



16号竖穴建物跡 炉

1. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締中 にぶい黄褐色シルト塊5%・炭化物粒1~2%・花崗岩粒含む
2. 7.5YR4/5 褐色焼土 粘性無 締中 花崗岩粒含む
3. 5YR2/4 極暗赤褐色焼土 粘性無 締稍無

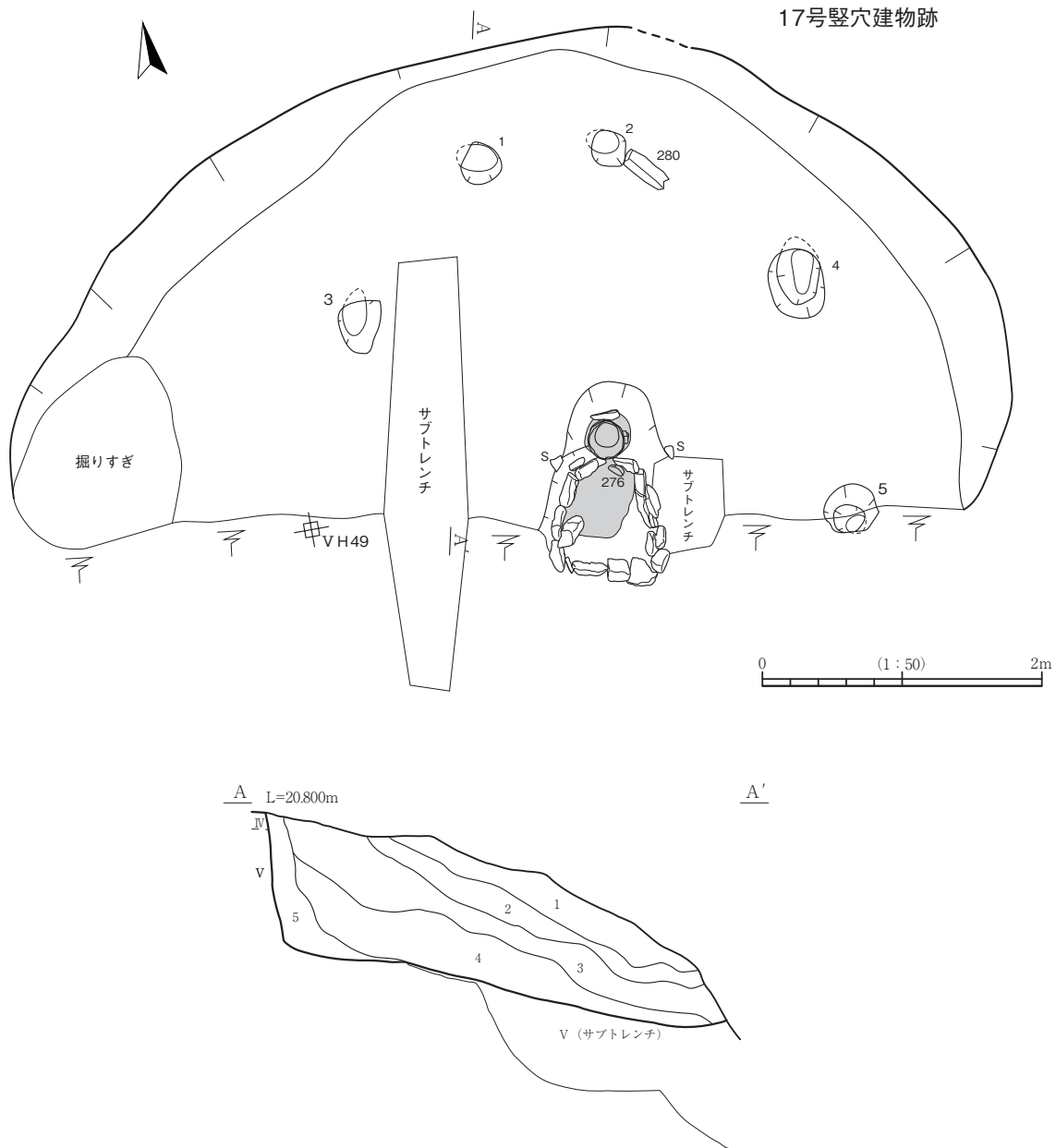


第36図 16号竖穴建物跡

2 検出遺構

遺構埋土から粗製土器を主体とした土器、石器、軽石(300)、床面直上から石器(287・298)、周溝埋土から土器(45他)、石器が出土し、土器4点(45～48)、石器2点(287・298)、軽石1点(300)を掲載した。

[時代・時期]周溝埋土から出土した土器(45)より大木8式に帰属するものと判断したが、粗製土器や断片的な資料しか出土していないため、詳細な時期は特定できなかった。(北村忠昭)

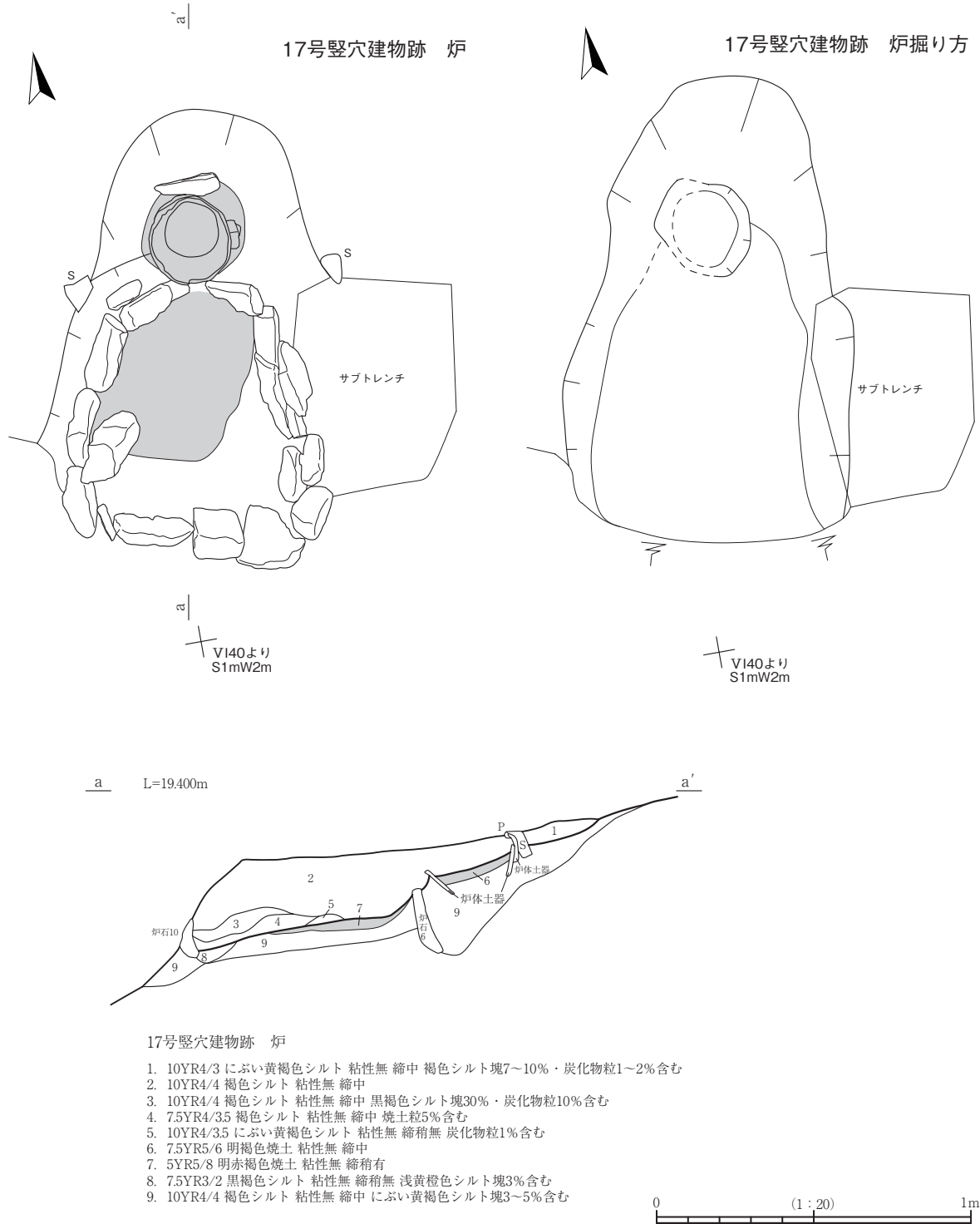


17号竪穴建物跡

1. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・締無
2. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・締無 におい黄褐色シルト塊5～7%含む
3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性無 締稍無 におい黄褐色シルト塊10～15%・炭化物粒2～3%含む
4. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性無 締稍無 におい黄褐色シルト塊2～3%・炭化物粒3～5%・橙色シルト粒1～2%含む
5. 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍無 灰黄褐色シルト小塊2～3%・炭化物粒1～2%含む・暗褐色シルト層状に見られる

第37図 17号竪穴建物跡1





17号竪穴建物跡 炉

1. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性無 締中 褐色シルト塊7~10%・炭化物粒1~2%含む
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締中
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締中 黒褐色シルト塊30%・炭化物粒10%含む
4. 7.5YR4/3.5 褐色シルト 粘性無 締中 焼土粒5%含む
5. 10YR4/3.5 におい黄褐色シルト 粘性無 締稍無 炭化物粒1%含む
6. 7.5YR5/6 明褐色焼土 粘性無 締中
7. 5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性無 締稍有
8. 7.5YR3/2 黒褐色シルト 粘性無 締稍無 浅黄褐色シルト塊3%含む
9. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締中 におい黄褐色シルト塊3~5%含む

第38図 17号竪穴建物跡2

17号竪穴建物跡 (SI16) (第37・38図、写真図版18)

[位置] 3区南、V H 38・39グリッド周辺に位置する。[検出状況] 3区1段目斜面で炉を検出した。[重複] 139号土坑を截る。[規模] 斜面下方が後世の土地改変により残存していないため、詳細な規模は不明であるが、残存する部分から推定すると直径8m前後の円形基調を呈するものと考えられる。確認できる検出面から床面までの深さは最大で96cmである。[埋土] 5層に分層した。上位にはII層起

源の黒褐色シルトが堆積し、中下位には灰黄褐色シルト層が堆積している。壁際には地山起源の明黄褐色砂質シルトが三角形に堆積している。[壁・床の状況]斜面上方は床面から直立気味に立ち上がる。床面は斜面下方に向かってやや傾斜しているが、目立つ凹凸は確認できない。[炉]複式炉を検出した。残存するのは土器埋設部と石組部である。炉の大きさに合わせてV層を掘り窪め、その壁際に15～40cmの礫を台形状に配置している。埋土は夾雑物や色調により5層に分層したが、褐色シルトを主体とする。燃焼部は土器埋設部と石組部の北側に確認でき、焼成深度は最大で4cmである。確認できた炉の全長は1.25mで、石組部1の幅は0.87mである。炉石はデイサイトと花崗斑岩を主体に、花崗岩・砂岩・流紋岩1・頁岩と多様な石材を利用している。[付属施設]柱穴を5個検出した。Pit 5の対になる部分に柱穴を確認できなかったが、炉の長辺を中心にPit 1とPit 2、Pit 3とPit 4が対称的な位置に配置される。埋土はPit 1～3が暗褐色シルト主体、Pit 4がにぶい黄褐色シルト主体、Pit 5が黒褐色シルト主体の単層である。深さはPit 1が55cm、Pit 2が55cm、Pit 3が58cm、Pit 4が73cm、Pit 5が51cmである。

[遺構種別]住居。

[年代測定]炉焼土直上から採取した炭化物の年代測定を実施したところ、4,785～4,445calBPとの年代値を得た(第VI章放射性炭素年代測定参照)。

[出土遺物](第121・122・133・134・136・137・139・144・145・148図、写真図版51・57・58・60・62)

炉体土器(49)、炉埋土・遺構埋土から多くの粗製土器と共に、大木8～9式期の土器片、床面から石器(171・206他1点)、炉底面から石器(276)、床面直上から石器(242・280・297他1点)、遺構埋土から土製品(162)、石器(219・229・274・299他5点)が出土した。また、遺構埋土上部には後世の流れ込みと判断した不明鉄製品も出土した。このうち、土器10点(49～58)、土製品1点(162)、石器10点(171・206・219・229・242・274・276・280・297・299)を掲載した。

[時代・時期]遺構埋土から土器(51)が出土しているが、炉の形態や放射性炭素年代測定の結果より大木9式～10式古段階に帰属すると判断した。(北村忠昭)

18号竪穴建物跡(SX15)(第39図、写真図版19)

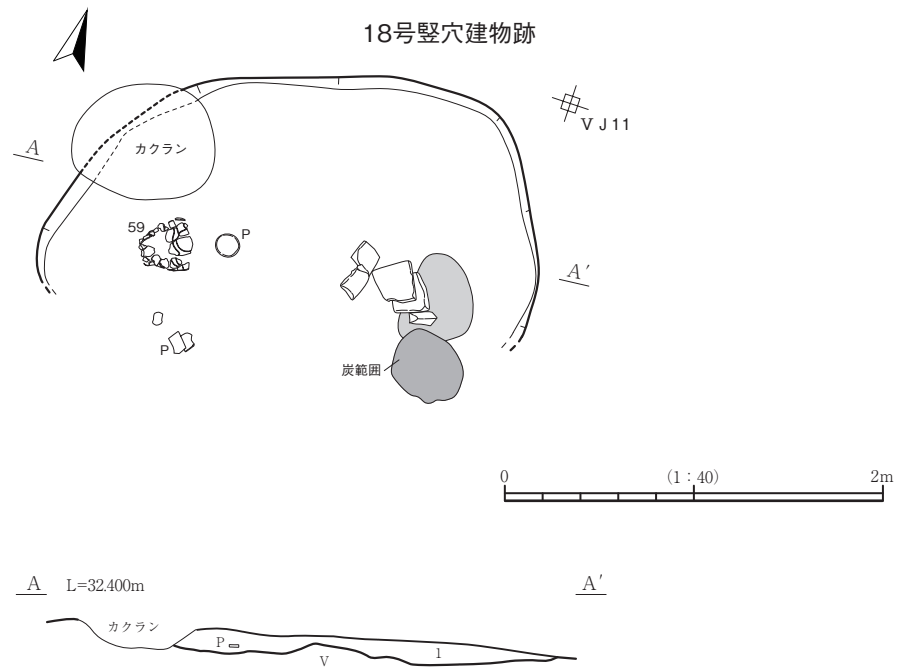
[位置]2区南東南寄り、V J 10・11グリッドに位置する。[検出状況]V層上面で暗褐色の不鮮明プランとして検出した。[重複]81号土坑・104号土坑・105号土坑を截る。また、プランでは2号炉跡と重複するが、2号炉跡の残存状態が悪く、新旧関係を把握できなかった。[規模]南側が削平されており詳細な規模は不明だが、残存部分の規模は南北1.56m、東西2.67mで円形を呈すると思われる。[埋土]炭化物を微量に含む暗褐色シルトの単層である。堆積の様相は自然堆積である。[壁・床の状況]北側のみ確認した。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。[炉]東側で炭範囲を伴う焼土を確認した。規模は45×39cmの不整楕円形で焼成深度は最大で7cmである。[付属施設]なし。

[遺構種別]住居。

[出土遺物](第122図、写真図版51)

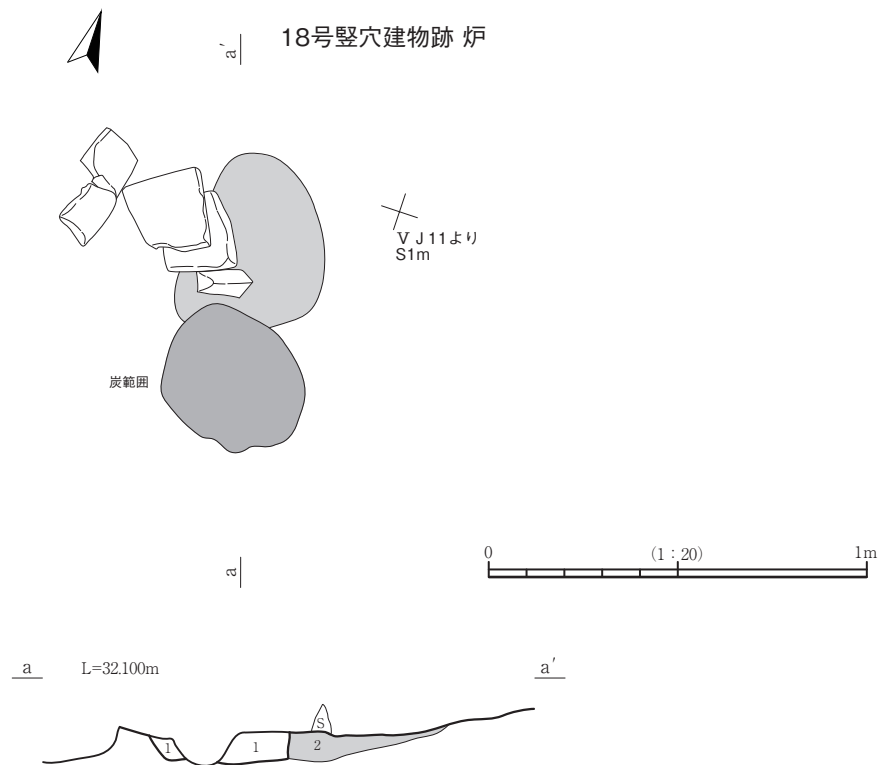
検出時に出土した土器(59)の他、遺構埋土から粗製土器もしくは土器小片、石器が出土し、土器1点(59)を掲載した。

[時代・時期]検出時にプラン内から出土した土器(59)や遺構の形態より縄文時代中期末葉に帰属すると判断した。(白戸このみ・北村忠昭)



18号竪穴建物跡

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締中 炭化物粒5%・花崗岩粒含む・土器片少量混入



18号竪穴建物跡 炉

1. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性無 締中
2. 7.5YR3/4 暗褐色焼土 粘性無 締中

第39図 18号竪穴建物跡

2 検出遺構

1号炉跡 (SI14) (第40図、写真図版20)

[位置] 2区南東北寄り、IV J 92グリッドに位置する。[検出状況] V層上面で石囲炉を検出した。[重複] 126号土坑を截る。[規模] 南北0.8m、東西0.7mである。[埋土] 炉内堆積土を3層に分層し、主体は黒色シルトである。石組内には焼土層は確認出来ず、3層の一部にわずかに赤変が見られるのみである。[付属施設] 石組に隣接する焼土層を検出した。規模は30×30cmで、焼成深度は最大で6cmである。

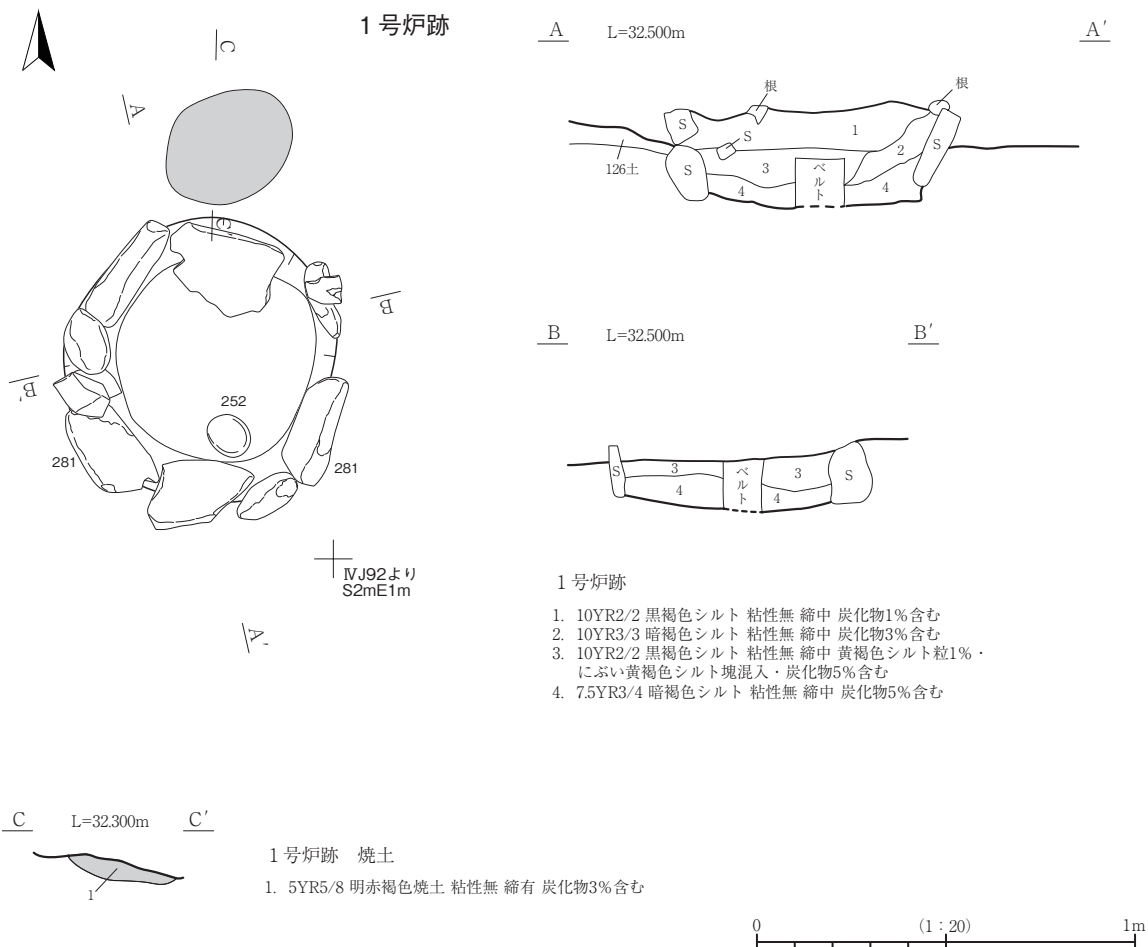
[出土遺物] (第140・145・146図、写真図版59～61)

遺構埋土から粗製土器片、石器 (252・282・283他1点)、炉石に転用した石器 (281) が出土し、石器4点 (252・281～283) を掲載した。

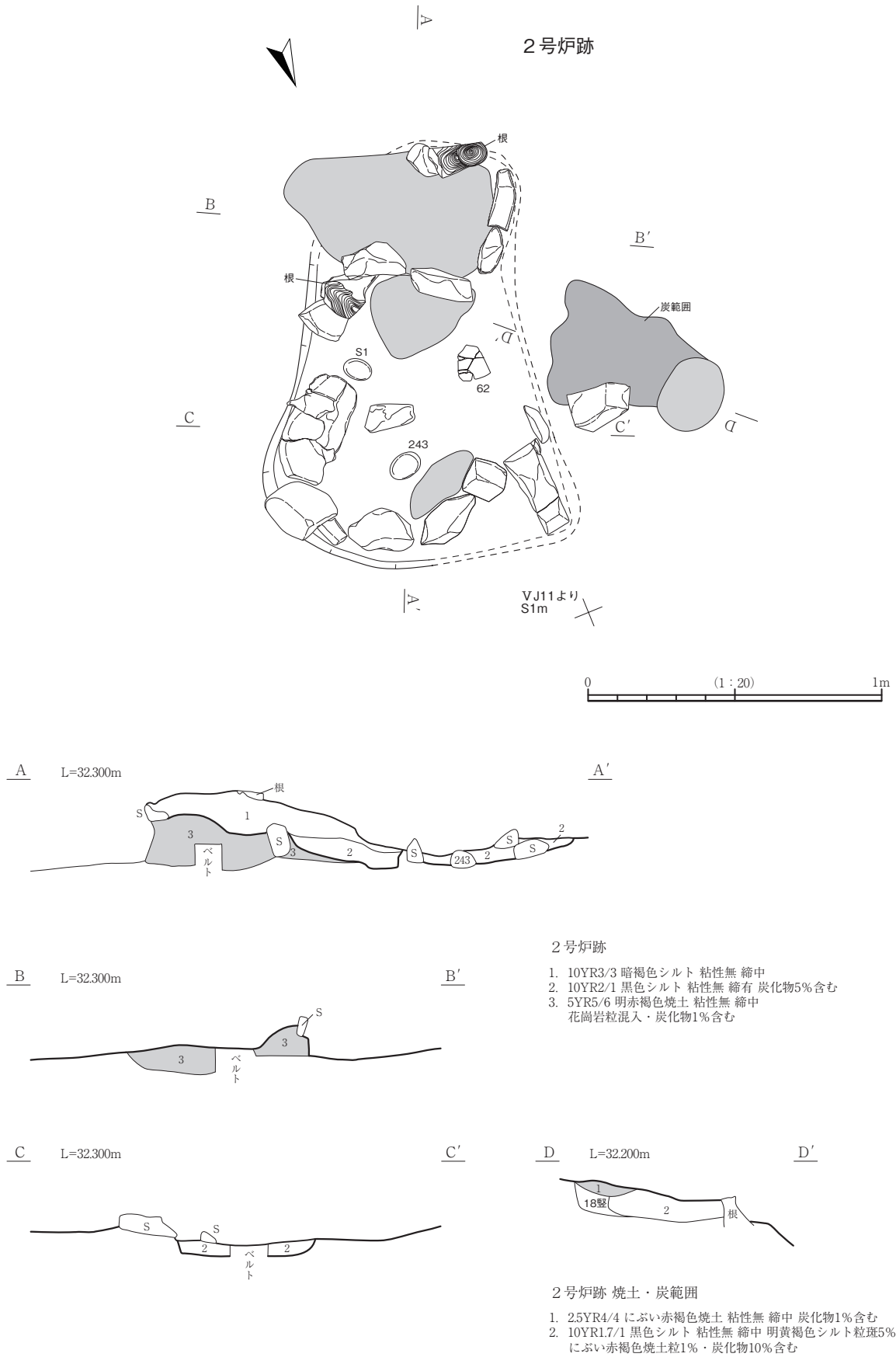
[時代・時期] 遺構の形態や出土遺物より縄文時代中期に帰属すると判断したが、粗製土器しか出土しなかったため、詳細な時期を特定することはできなかった。 (白戸このみ・北村忠昭)

2号炉跡 (SI15) (第41図、写真図版20)

[位置] 2区南東南寄り、V J 10・11グリッドに位置する。[検出状況] V層上面で複式炉を検出した。木の根により残存状態は悪く、石組が半壊していた。[重複] 81号土坑を截る。また、18号竪穴建物跡とプランでは重複するが、本遺構の残存状態が悪く、新旧関係を把握できなかった。[規模] 残存状態の悪い石組部1と石組部2で構成される。残存する規模は長辺1.4m、石組部1の幅は0.58m、



第40図 1号炉跡



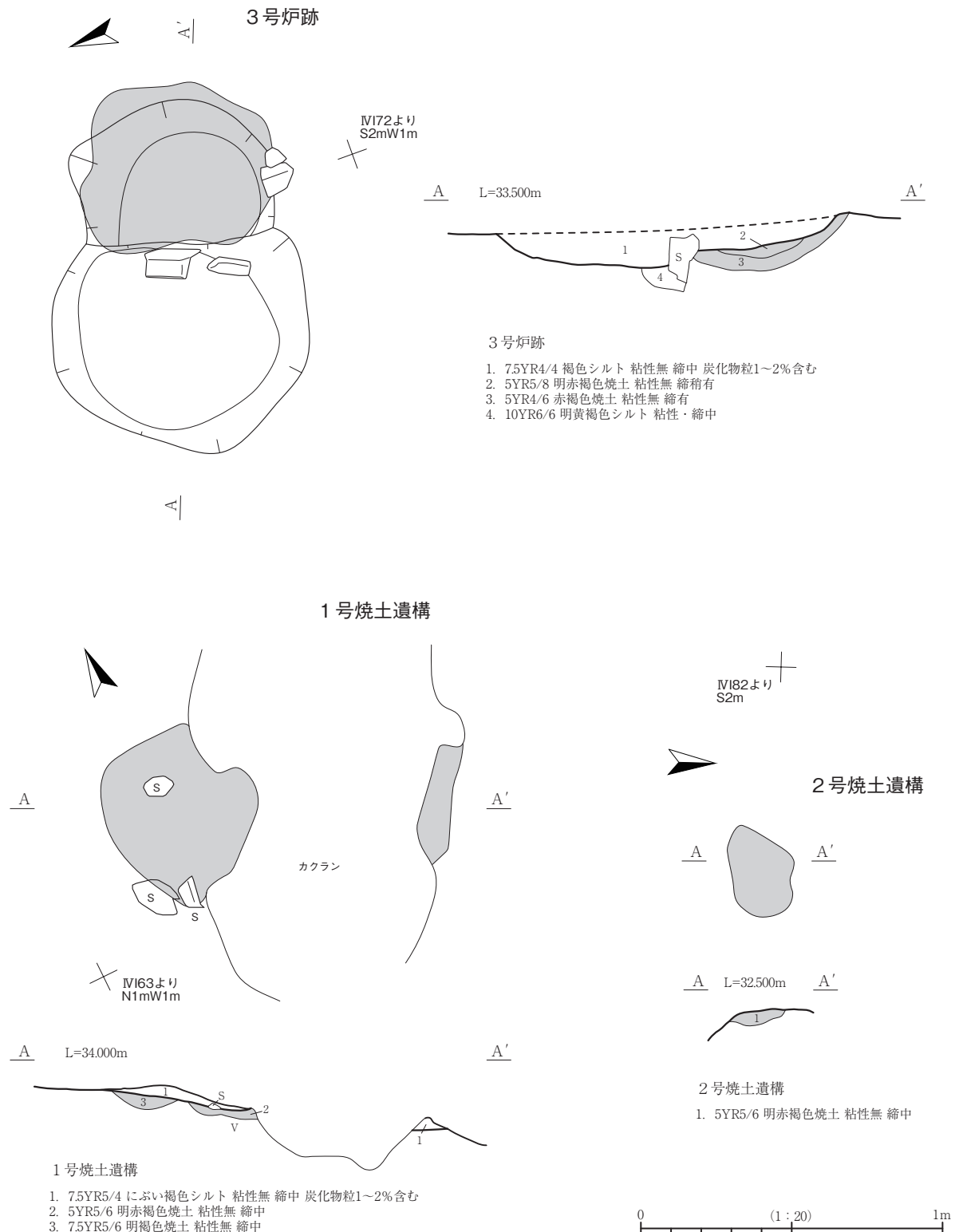
第41図 2号炉跡

2 検出遺構

石組部2の幅は1.05mである。燃焼部は石組部1に確認できるが、石組部2の一部にも焼土層が確認できる。焼成深度は最大で17cmである。[埋土]炉内堆積土を2層に分層した。石組部2の内部は黒色シルトで埋まっており、全体を暗褐色シルトが覆っている。[付属施設]炉に隣接する焼土層を検出した。規模は26×20cmで、焼成深度は最大で4cmである。

[出土遺物] (第122・139図、写真図版52・59)

遺構埋土から粗製土器を中心とした土器(60～62)、石器(243他3点)が出土し、土器3点(60～



第42図 3号炉跡・1号焼土遺構・2号焼土遺構



62)、石器1点(243)を掲載した。

[時代・時期] 炉から出土した土器(62)より縄文時代中期末葉に帰属すると判断した。

(白戸このみ・北村忠昭)

### 3号炉跡(SL03) (第42図、写真図版20)

[位置] 2区北西南寄り、IV I 71グリッドに位置する。[検出状況] 13号竪穴建物跡の床面で確認した。  
[重複] 13号竪穴建物跡に載られ、34号土坑を載る。[規模] 燃焼部と前庭部で構成され、燃焼部と前庭部の間に礫が配置されている。全長は1.23mで、燃焼部の幅は0.63m、前庭部の幅は0.86mである。焼土層は上部が明赤褐色、下部が赤褐色を呈し、焼成深度は最大で9cmである。[埋土] 褐色シルトの単層である。[付属施設] なし。

[出土遺物] 焼成面や埋土から土器が出土したが、小片であるため、掲載していない。

[時代・時期] 13号竪穴建物跡や34号土坑との関係から、大木9式から大木10式期の可能性が高いが、詳細な時期を特定できる遺物が伴わないため、時期を特定するに至らなかった。(北村忠昭)

### 1号焼土遺構(SL01) (第42図、写真図版20)

[位置] 2区北西、IV I 52グリッドに位置する。[検出状況] V層上面で明赤褐色焼土層を検出した。  
[重複] 98号土坑を載る。[規模] 近年の耕作痕により東西に分かれているが、本来は一連のものと考えられる。確認できる規模は東西方向1.18m、南北0.61mで、焼成深度は最大で3cmである。[埋土] 焼土層は明赤褐色を呈し、炭化物を含むにぶい黄褐色シルトで覆われる。[付属施設] なし。

[出土遺物] 埋土から土器が出土したが、小片であるため、掲載していない。

[時代・時期] 詳細な時期を特定できる遺物が伴わないため、時期を特定するに至らなかった。

(北村忠昭)

### 2号焼土遺構(SL05) (第42図、写真図版20)

[位置] 2区北西南寄り、IV I 82グリッドに位置する。[検出状況] V層上面で赤褐色焼土層を検出した。  
[重複] なし。[規模] 東西方向0.3m、南北方向0.23mの不整楕円形を呈し、焼成深度は最大で4cmである。[埋土] 焼土層は赤褐色を呈する。[付属施設] なし。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 遺物が伴わないため、時期を特定するに至らなかった。

(北村忠昭)

### 土坑類(第43～80図、写真図版21～34)

縄文時代の土坑類は1区で26基、2区で116基、3区で7基、6区で2基の計151基が検出された。種別毎では、貯蔵穴は1区で24基、2区で109基、3区で6基、6区で1基、陥し穴は6区で2基、墓壙と考えられるものは1区で1基、その他の土坑が1区で2基、2区で4基、3区で1基、6区で1基である。その大半はフラスコ形を呈する貯蔵穴である。大小様々なものがあるが、開口部で2m以上のものや深さが2m以上の大規模なものも見られる。132号土坑(SK23)の6層中からムラサキイガイやアサリ等の貝殻類が出土している。詳細は第3節第1項の【自然遺物】を参照して頂きたい。土坑類のほとんどが縄文時代中期の遺構であるが、6区で検出された151号土坑(SK122)のみが縄文時代早期中葉に帰属する可能性が高い。紙面の都合上、観察項目は第4表で示した。

[出土遺物] (第123～130・134～144・146・150・152図、写真図版52～66)

2 検出遺構

底面や遺構埋土から各種遺物が出土している。掲載した遺物は、土器が63～136、石器が179・180・188・189・198・199・204・211・213・215・218・222・224～226・231・233・234・239・241・245・250・251・253・255・260～263・267・268・272・275・284・285・296、石製品が301・304・305・307・309、自然遺物が321～333である。第4表や第10～15表を参照して頂きたい。

第4表 縄文時代の土坑類1

遺構名	位置検出面	重複関係	時期	規模 m	開口部	出土遺物	備考	図版	写真 図版
					底 部 深 さ				
1号	IV J 84 IV層	→2土	中前 ～ 中中	2.46 × [2.30]	掲載：63～66 土：1067.6g 石：F1			43	21
				1.99 × 1.95					
				2.36					
2号	IV J 84・94 V層	→2土	中中？	1.93 × 1.59	掲載：67 土：67.7g			43	21
				1.49 × 1.41					
				0.8					
3号	IV J 94 IV～V層	→2土・ 145土	中前 ～ 中中	(1.92) × (1.58)	掲載：			43	21
				1.85 × 1.93					
				1.68					
4号	IV J 85 IV～V層	なし	中不	1.60 × 1.38	掲載：68 土：159.6g			44	21
				2.05 × 2.04					
				1.65					
5号	V J 04 V層	5土→	中不	[1.97] × [1.05]	掲載：			44	21
				2.28 × 2.19					
				1.2					
6号	V J 03・04 V層	5土→	中不	[1.10] × (1.23)	掲載： 土：276.1g			44	21
				[1.52] × 1.79					
				0.91					
7号	V J 04 V層	→9・11土 5土→	中不	1.71 × (1.38)	掲載： 石：F2			44	21
				1.57 × 1.42					
				0.78					
8号	IV J 94・ V J 04 IV層	→9・10土	中不	1.75 × (1.50)	掲載：			45	21
				2.35 × 2.43					
				1.75					
9号	V J 04 IV層	→9土 →41柱	中不	(1.05) × (0.70)	掲載：263 土：91.1g 石：磨1			45	21
				(0.93) × (0.60)					
				0.43					
10号	IV J 93・94 IV層	8土→	中不	1.61 × 1.31	掲載：			45	21
				1.23 × 1.12					
				0.76					
11号	V J 04 IV～V層	7土→	中不	1.15 × 1.02	掲載：		円筒形	45	22
				0.97 × 0.95					
				0.8					
12号	V J 14・15 IV層	なし	中不	2.13 × 2.00	掲載：			45	22
				2.00 × 1.98					
				2.19					
13号	IV I 59・ IV J 50 144土底面	→144土	中不	1.39 × 1.37	掲載：			46	22
				1.65 × 1.75					
				1.22					
14号	V J 13・14 IV層	107・148土 →	中不	1.95 × 1.75	掲載：224 石：核1皿1			46	22
				2.35 × 2.42					
				1.86					
15号	IV J 95 IV層	16土→	中不	[0.93] × [0.50]	掲載：		調査区外へ広がる	46	22
				[1.38] × [0.92]					
				1.51					
16号	IV J 95 V層	→15土	中不	(1.10) × (1.00)	掲載：			47	22
				(1.38) × (1.38)					
				0.78					
17号	IV J 82 V層	→18土	中不	1.43 × [1.27]	掲載：			47	22
				1.44 × (1.44)					
				1.57					

第4表 縄文時代の土坑類2

遺構名	位置検出面	重複関係	時期	規模 m	開口部	出土遺物	備考	図版	写真 図版
					底 部 深 さ				
18号	IV J 82・83 IV層	17土→ →20土	中不	1.93 × [1.85]	掲載： 土：172.6g			47	22
				1.89 × [1.89]					
				1.92					
19号	IV J 85・95 IV～V層	なし	中不	[1.69] × [0.57]	掲載： 土：9.1g		調査区外へ広がる	47	22
				[1.91] × [0.82]					
				2.01					
20号	IV J 83・93 V層	18土→	中不	2.21 × 1.98	掲載：			48	22
				2.75 × 2.30					
				1.97					
21号	V J 24 IV層	なし	中不	[1.90] × [1.50]	掲載：		調査区外へ広がる	48	23
				1.92 × [1.87]					
				1.6					
22号	IV I 38・39・ 48・49 V層	なし	中不	1.50 × 1.30	掲載：			48	23
				1.70 × 1.82					
				1.72					
23号	IV I 23 V層	なし	中不	1.07 × 1.07	掲載： 土：37.0g			48	23
				0.90 × 0.90					
				0.47					
24号	IV I 49 V層	なし	中中 ～ 中後	1.75 × 1.53	掲載：69～71 土：4833.4g 石：斧1皿1			49	23
				2.10 × 1.92					
				2.61					
25号	V J 22 V層	なし	中前	2.08 × 2.00	掲載：72 土：118.5g			49	23
				2.30 × 2.49					
				0.93					
26号	IV I 76・77 V層	→27土	～ 中前	[0.80] × [2.10]	掲載： 土：79.3g			49	23
				[1.50] × [2.52]					
				0.69					
27号	IV I 76・77・ 86・87 V層	26土→	中前	2.85 × 2.23	掲載：73 土：217.3g			50	23
				2.98 × 2.23					
				0.73					
28号	V J 02・03 29土重複	→29土	中前 ～ 中中	1.97 × 1.70	掲載：74 土：928.7g			50	23
				2.28 × 2.20					
				0.93					
29号	IV J 92・93・ V J 02・03 31土重複	→31土 28土→	中前 ～ 中中	[1.25] × [1.41]	掲載： 土：58.1g			50	23
				2.10 × [1.60]					
				0.8					
30号	IV J 92・93 V層	→31土	中中	1.87 × [1.50]	掲載：75～77 土：413.9g			50	23
				2.27 × 2.14					
				1.13					
31号	IV I 92・ V J 02 V層	29・30土→	中中	1.50 × 1.30	掲載：78・79 土：508.7g 石：F1			51	23
				1.67 × 1.69					
				0.94					
32号	V I 19・ V J 10 V層	→91土 49土?	中中	1.25 × 1.25	掲載：80～83 土：1901.0g 石：R1			51	24
				(1.58) × (1.37)					
				1.36					
33号	V I 09・19・ V J 00・10 V層	→46土	中前 ～ 中中	[2.55] × 2.23	掲載：84 土：470.3g			51	24
				2.25 × 2.28					
				1.74					
34号	IV I 61・71 V層	→35土	中前 ～ 中中	2.60 × [2.30]	掲載： 土：32.8g			51	24
				2.47 × [2.37]					
				1.43					
35号	IV I 71・72 V層	34土→ →6竪	中中	2.57 × 2.18	掲載：85・86 土：200.8g 石：F1			52	24
				2.57 × 2.62					
				2.38					
36号	IV I 85 V層	36土→	中前 ～ 中中	(1.35) × (1.13)	掲載：			52	24
				[1.92] × 2.23					
				1.22					
37号	IV I 74・84 V層	なし	中前 ～ 中中	2.23 × 2.15	掲載：87・88・260 土：4586.1g 石：磨1			52	24
				2.67 × 2.83					
				2.02					

第4表 縄文時代の土坑類3

遺構名	位置検出面	重複関係	時期	規模	開口部	出土遺物	備考	図版	写真 図版
				m	底 部 深 さ				
38号	IV I 73 V層	38土→	～ 中後	(1.82) × (1.50)		掲載：179・309		53	24
				1.89 × 1.90		土：173.8g 石：鍬1U1垂 1			
				1.57					
39号	IV I 73・83 V層	→40土 38土→	～ 中後	(1.90) × (1.64)		掲載：89		53	24
				2.10 × [1.67]		土：166.0g 石：F1			
				0.6					
40号	IV I 73 V層	→3縦・61土 39土→	～ 中後	(0.98) × (0.97)		掲載：		53	24
				1.60 × 1.59					
				0.92					
41号	IV I 88 V層	→42土	～ 中後	1.60 × 1.59		掲載：		53	24
				[1.97] × 2.05		土：28.7g			
				0.48					
42号	IV I 88・98 V層	41土→	～ 中後	0.90 × 0.90		掲載：253	埋土下位から大木 9新土器片出土	54	24
				1.98 × 1.83		土：66.0g 石：磨1			
				1.19					
43号	IV I 86 V層	43土→	～ 中後	1.70 × [1.32]		掲載：		54	25
				(2.32) × [1.75]		土：179.9g			
				1.78					
44号	IV I 85・86 V層	44土→	中後	[1.80] × 1.43		掲載：90		54	25
				[1.60] × 1.98		土：49.2g			
				1.12					
45号	IV I 86 V層	43・44土→ →5・11縦	中後	—		掲載：		54	25
				1.80 × 1.78		土：64.3g			
				1.47					
46号	V I 09・ V J 00 V層	33土→ 91土→	中後	1.43 × 1.03		掲載：91・215	埋土下位で大木9 式土器片出土	55	25
				1.92 × 1.82		土：1809.5g 石：R1F2磨 2			
				1.53					
47号	IV I 63・73 V層	→61土	～ 中後	2.10 × 1.72		掲載：		55	25
				1.84 × 1.76					
				0.97					
48号	IV I 72・73 V層	→3縦	～ 中後	1.50 × (1.49)		掲載：		55	25
				1.18 × 1.27		土：32.1g			
				1.35					
49号	V J 10 V層	106土→ 32土?	～ 中後	1.67 × 1.47		掲載：231	埋土から大木8～ 9土器片出土	55	25
				1.70 × 1.82		土：339.4g 石：斧1 1			
				1					
50号	IV I 98 V層	なし	～ 中後	1.27 × 1.07		掲載：92～94・261		56	25
				2.10 × 2.07		土：3363.2g 石：磨1			
				1.19					
51号	IV I 89・99 V層	なし	～ 中後	1.29 × 1.17		掲載：95・96		56	25
				1.57 × 1.60		土：859.7g 石：F1			
				0.5					
52号	V J 00 V層	なし	～ 中後	1.10 × 0.88		掲載：		56	25
				1.50 × 1.50		土：15.4g			
				0.96					
53号	IV I 65・75 V層	なし	～ 中後	1.35 × 1.17		掲載：97		56	25
				1.80 × 1.88		土：503.3g 石：皿1			
				1.01					
54号	IV I 61 V層	→96土	～ 中後	(2.24) × 2.00		掲載：98・244		57	26
				(2.61) × 2.55		土：194.0g 石：磨1			
				1.33					
55号	IV J 80・81・90・91 V層	→56土	～ 中末	2.47 × [2.39]		掲載：239・250		57	26
				2.33 × 2.13		土：47.2g 石：磨3			
				0.85					
56号	IV J 90・91 V層	55土→	中後 ～ 中末	1.75 × 1.55		掲載：99・100		57	26
				2.05 × 2.03		土：862.4g			
				0.63					
57号	IV I 74・75 V層	→58土	～ 中末	2.53 × [2.03]		掲載：		57	26
				2.55 × [2.12]		土：40.2g			
				0.74					

第4表 縄文時代の土坑類4

遺構名	位置検出面	重複関係	時期	規模 m	開口部		出土遺物	備考	図版	写真 図版
					底 部	深 さ				
58号	IV I 74 V層	57土→	中後 ～ 中末	1.70 × 1.25	1.70 × 1.25		掲載：101		58	26
				2.12 × 1.77	2.12 × 1.77		土473.1g 石：F1磨1			
				1.29	1.29					
59号	IV I 84・85 IV～V層	→95土	中中 ～ 中末	2.27 × 2.10	2.27 × 2.10		掲載：		58	26
				(2.20) × 2.13	(2.20) × 2.13		土111.9g 石：F2磨1			
				1.65	1.65					
60号	IV I 69 V層	なし	中後 ～ 中末	1.77 × 1.55	1.77 × 1.55		掲載：	円筒形、人為堆積？	58	26
				1.37 × 1.40	1.37 × 1.40		土：191.1g			
				1.25	1.25					
61号	IV I 73 V層	3竪→ 47土→	中後 ～ 中末	1.52 × 1.28	1.52 × 1.28		掲載：188・241・245		59	26
				1.23 × 1.20	1.23 × 1.20		土：258.5g			
				0.97	0.97		石：ス1F1磨2皿1			
62号	IV I 85 V層	5竪→	中後 ～ 中末	1.20 × 1.15	1.20 × 1.15		掲載：		59	26
				1.70 × 1.93	1.70 × 1.93		土：44.6g			
				1.18	1.18					
63号	V I 07 V層	→12竪 →64・86土	～ 中末	(1.30) × (1.03)	(1.30) × (1.03)		掲載：		59	26
				1.82 × 1.55	1.82 × 1.55		土：15.0g			
				1.81	1.81					
64号	V I 07・08 V層	→12竪 63・86土→	～ 中末	1.75 × 1.29	1.75 × 1.29		掲載：		59	26
				2.25 × 2.33	2.25 × 2.33					
				1.56	1.56					
65号	V I 07・08 V層	65土→	～ 中末	(1.40) × [1.12]	(1.40) × [1.12]		掲載：		60	26
				(2.17) × [1.68]	(2.17) × [1.68]					
				0.6	0.6					
66号	V I 08 V層	66土→	～ 中末	(1.15) × [1.10]	(1.15) × [1.10]		掲載：		60	27
				(1.48) × [1.21]	(1.48) × [1.21]					
				1.05	1.05					
67号	V I 08 V層	→12竪 65・66土→	中末？	(1.17) × (1.10)	(1.17) × (1.10)		掲載：102・233		60	27
				2.02 × 2.01	2.02 × 2.01		土：744.1g 石：F1磨1			
				1.33	1.33					
68号	V I 08 V層	→12竪 66土→	～ 中末	2.25 × [2.03]	2.25 × [2.03]		掲載：		60	27
				2.03 × 2.21	2.03 × 2.21		土：37.6g			
				1.5	1.5					
69号	IV I 97・ V I 07 70土精査	65土→ →70土	～ 中末	[1.27] × [0.52]	[1.27] × [0.52]		掲載：		61	27
				[1.43] × 1.78	[1.43] × 1.78		土：31.9g			
				1.19	1.19					
70号	IV I 97・98・ V I 07・08 V層	69土→	～ 中末	[1.07] × [0.43]	[1.07] × [0.43]		掲載：		61	27
				[1.32] × 1.19	[1.32] × 1.19		土：36.1g			
				0.79	0.79					
71号	IV I 97 V層	→10竪 →73土	～ 中末	[1.07] × [0.43]	[1.07] × [0.43]		掲載：255		61	27
				[1.33] × (1.18)	[1.33] × (1.18)		石：磨1			
				0.77	0.77					
72号	IV I 87・97 IV層	→73土	～ 中末	[1.29] × 1.33	[1.29] × 1.33		掲載：		61	27
				[1.46] × 1.50	[1.46] × 1.50					
				0.65	0.65					
73号	IV I 97 IV層	→10竪 71・72土→	中後 ～ 中末	(1.77) × 1.59	(1.77) × 1.59		掲載：	埋土上位から大木 9式土器片出土	62	27
				1.85 × 1.70	1.85 × 1.70		土：611.0g			
				1.47	1.47					
74号	IV I 96・97 V層	→10竪 →75土	～ 中末	1.52 × [1.20]	1.52 × [1.20]		掲載：		62	27
				1.81 × [1.53]	1.81 × [1.53]					
				0.73	0.73					
75号	IV I 86・96 V層	→10・11竪 74土→	～ 中末	[1.70] × 1.40	[1.70] × 1.40		掲載：		62	27
				[1.48] × 1.88	[1.48] × 1.88		土：38.7g			
				1.15	1.15					
76号	IV I 87・96・97 V層	10竪→ 74・75土→	中末	(1.25) × (1.20)	(1.25) × (1.20)		掲載：	円筒形	62	27
				1.02 × 1.10	1.02 × 1.10		土：536.8g 石：ス1			
				1.89	1.89					
77号	V I 98・99 V層	→78土	～ 中末	[2.10] × 1.92	[2.10] × 1.92		掲載：		63	27 28
				[1.97] × 1.80	[1.97] × 1.80					
				0.67	0.67					

第4表 縄文時代の土坑類5

遺構名	位置検出面	重複関係	時期	規模 m	開口部	出土遺物	備考	図版	写真 図版
					底部 深さ				
78号	IV I 98・99・ V I 08・09 V層	77土→	～ 中末	1.37 × 1.20		掲載：103		63	27 28
				1.83 × 1.88		土：542.8g			
				1.24					
79号	V I 09 V層	→80土	～ 中末	[1.63] × 1.68		掲載：		63	28
				[1.95] × 2.20		土：14.3g 石：核1			
				0.63					
80号	V I 09 V層	79土→	～ 中末	1.21 × 1.55		掲載：104・105・272		63	28
				1.96 × 1.89		土：2645.3g 石：F1C1磨1			
				1.28					
81号	V J 10・11 V層	→2炉 →83土	～ 中末	1.78 × [1.55]		掲載：106		64	28
				1.74 × [1.55]		土：319.4g 石：F1C1			
				0.3					
82号	V J 11 V層	→83土	～ 中末	97 × 73		掲載：		64	28
				1.67 × 1.63		土：35.7g			
				1.25					
83号	V J 11 V層	81・82土→	～ 中末	2.32 × 2.01		掲載：107		64	28
				2.20 × 2.22		土：335.6g 石：F2			
				1.94					
84号	IV J 91・92・ V J 01・02 V層	→85土	中末	1.67 × [1.46]		掲載：108～110・262		65	28
				2.51 × 2.47		土：1231.5g 石：磨2			
				1.03					
85号	V J 02 V層	84土→	中末	2.07 × 1.91		掲載：		65	28
				2.13 × 1.89		土：96.8g			
				0.49					
86号	V I 07 V層	→12竪 →64・87土 63土→	～ 中末	(1.51) × 1.35		掲載：		65	26
				(1.63) × (1.47)					
				1.48					
87号	V J 07 114土精査	→113土 86土→ 9竪?	中不	(1.34) × [1.10]		掲載：		65	28
				(1.21) × [1.00]					
				1.46					
88号	V I 08・18 V層	→12竪 →89土	～ 中末	(1.62) × 1.41		掲載：		66	28
				1.52 × 1.67					
				1.11					
89号	V I 08・18 V層	→12竪 88土→	～ 中末	1.05 × 1.03		掲載：		66	28
				1.70 × (1.30)					
				0.74					
90号	V J 20・21 V層	なし	中後 ～ 中末	2.10 × 1.77		掲載：111～113		66	28
				1.92 × 1.85		土：452.9g 石：U1F1磨1			
				1.66					
91号	V I 19・ V J 10 V層	32土→ →46土 33土?	中中 ～ 中後	0.90 × 0.72		掲載：114・115		66	28
				1.10 × 1.64		土：904.9g			
				1.91					
92号	IV I 55・65 V層	→7竪	～ 中末	1.71 × 1.68		掲載：		67	29
				2.08 × 2.05		土：34.6g			
				0.67					
93号	IV I 55 7竪床	→7竪 →48柱	～ 中末	1.39 × 1.25		掲載：		67	29
				1.80 × 1.82		土：64.2g			
				0.79					
94号	IV I 86・96 V層	11竪→	中末	[2.17] × [1.73]		掲載：116・251・268	円筒形	67	29
				1.12 × 1.18		土：1023.5g 石：F3磨2			
				2.11					
95号	IV I 85 V層	59土→	中後 ～ 中末	(1.27) × (1.00)		掲載：117～120・204・218		67	29
				1.75 × 1.79		土：2635.4g 石：錐1R1F 3C1砥1 羽口3			
				1.62					
96号	IV I 61・62 V層	54土→	中末	2.53 × (2.23)		掲載：121・122		68	29
				2.37 × 2.43		土：202.1g			
				2.5					
97号	IV I 64 V層	なし	中末	0.64 × 0.60		掲載：123・124・267		68	29
				1.67 × 1.75		土：2202.4g 石：磨1皿2			
				1.29					



第4表 縄文時代の土坑類6

遺構名	位置検出面	重複関係	時期	規模 m	開口部	出土遺物	備考	図版	写真 図版
					底部 深さ				
98号	IV I 52 V層	→1焼	中末	2.00 × 1.91		掲載：125～127		68	29
				2.39 × 2.34		土：478.7g			
				1.76					
99号	IV I 44 V層	なし	～ 中末	1.47 × 1.25		掲載：128・225・304・307		69	29
				2.20 × 2.03		土：852.5g 石：F1磨斧1 磨1剣2			
				0.97					
100号	IV I 54・64 V層	なし	中末	1.12 × 1.03		掲載：129・130		69	29
				2.00 × 1.90		土：1600.5g 石：磨1			
				0.83					
101号	IV J 81 V層	なし	～ 中末	0.87 × 0.67		掲載：131・132		69	30
				1.27 × 1.23		土：187.1g 石：楔1F6C1			
				0.96					
102号	IV J 90 V層	→103土	中不	1.53 × [1.20]		掲載：		69	30
				1.93 × [1.55]		土：38.4g			
				0.59					
103号	IV J 90・91・ V J 00・01 V層	102土→	中不	1.61 × 1.50		掲載：296		70	30
				1.90 × 2.13		土：68.8g 石：台1			
				0.98					
104号	V J 10 V層	→105土 106土→	～ 中末	1.83 × [1.54]		掲載：		70	30
				1.67 × 1.70		土：8.3g			
				1.36					
105号	V J 00・10 V層	104土→	中不	1.55 × 1.48		掲載：		70	30
				1.37 × 1.58		土：14.0g			
				0.38					
106号	V J 00・10 104土精査	→49土 →104土	～ 中後	—		掲載：		70	30
				[2.10] × [0.92]					
				0.72					
107号	V J 13 V層	107土→	中不	1.80 × [1.77]		掲載：		71	30
				1.85 × [2.13]					
				0.87					
108号	V J 13 V層	107土→ →148土	中不	(1.15) × (0.92)		掲載：	円筒形	71	30
				(1.05) × (0.83)					
				0.58					
109号	V J 02・12 V層	→110土	中不	1.47 × 1.18		掲載：133・189・234・275・305	埋土下位に炭	71	30
				2.10 × 2.00		土：219.0g 石：ス1F3磨 4凹1刀1			
				0.88					
110号	V J 02・12 V層	109土→	中不	1.99 × 1.93		掲載：		71	30
				2.10 × 2.05					
				0.39					
111号	V I 18 V層	→112土	中不	(1.41) × (1.41)		掲載：285	切株の影響で残存 不良	71	30
				(1.78) × [1.73]		石：磨1皿1			
				1.53					
112号	V I 18 V層	111土→	中不	(1.90) × (1.80)		掲載：		72	30
				1.68 × 1.71		石：磨1			
				1.93					
113号	V J 06・07 V層	→114土 87土→	～ 中末	—		掲載：		72	30
				[1.93] × [1.16]					
				1.73					
114号	V J 06・07 V層	9壺→ 113土→	中末?	1.80 × 1.77		掲載：134		72	31
				2.15 × 2.18		土：194.2g 石：F11磨1			
				1.61					
115号	IV I 89・99 V層	116土?	中不	1.45 × (1.43)		掲載：		73	31
				1.67 × [1.47]					
				0.82					
116号	IV I 68・69・ 78・79 V層	115土?	中不	(2.00) × 1.67		掲載：		73	31
				2.02 × 2.15					
				1.19					
117号	V J 06 V層	9壺?	中不	(2.19) × (1.83)		掲載：		73	31
				2.24 × 2.09					
				1.84					

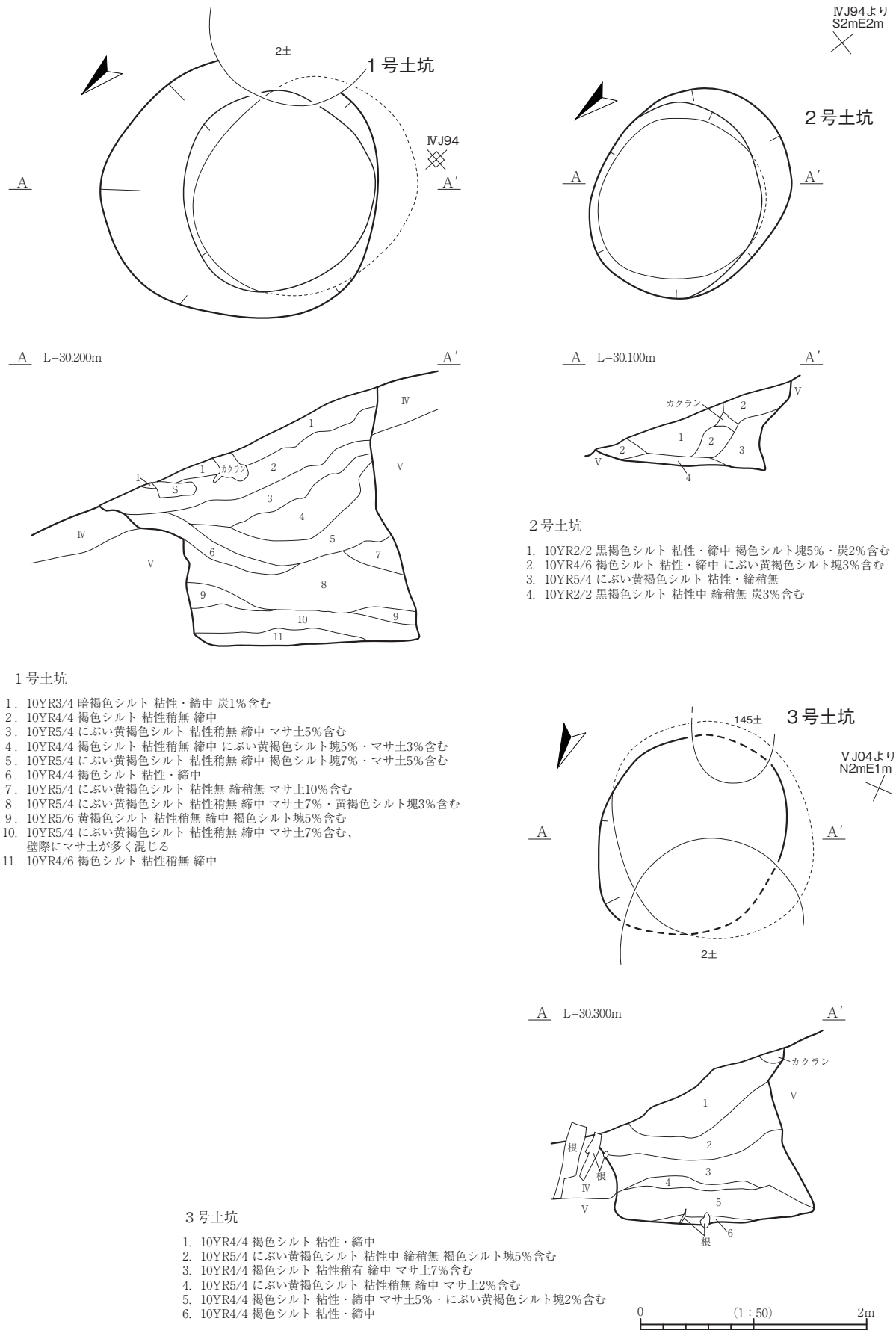
第4表 縄文時代の土坑類7

遺構名	位置検出面	重複関係	時期	規模 m	開口部	出土遺物	備考	図版	写真 図版
					底部 深さ				
118号	IV I 95 V層	なし	中不	1.62 × 1.30	掲載：	土：14.8g		73	31
				1.67 × 1.78					
				1.15					
119号	V J 21 V層	なし	中不	2.08 × 2.05	掲載：			74	31
				1.84 × 2.04					
				1.27					
120号	IV I 87・88 V層	なし	中不	1.43 × 1.10	掲載：211	土：384.9g 石：R1F1		74	31
				2.23 × 2.08					
				1.08					
121号	IV I 99・ IV J 90 V層	なし	中不	1.88 × 1.68	掲載：			74	31
				1.71 × 1.69					
				0.28					
122号	V J 00 V層	なし	中不	1.85 × (1.80)	掲載：			74	31
				1.89 × (1.70)					
				0.24					
123号	IV J 70・80 V層	なし	中不	1.39 × 1.27	掲載：			75	31
				1.42 × 1.24					
				0.46					
124号	V J 03 V層	同時代なし	中不	1.65 × 1.43	掲載：			75	32
				1.93 × 1.97					
				0.79					
125号	V J 03 V層	同時代なし	中不	1.93 × [1.60]	掲載：			75	32
				1.83 × [1.72]					
				0.56					
126号	IV J 91・92 V層	→1炉	中不	1.75 × 1.61	掲載：	土：44.9g 石：磨1		75	32
				1.90 × 1.82					
				1.19					
127号	IV I 66 IV層	なし	中不	1.93 × 1.53	掲載：	土：16.3g		75	32
				1.55 × 1.28					
				0.56					
128号	IV I 95 IV～V層	14 縦→	中不	1.91 × (1.73)	掲載：180・198・199・213・ 301	土：124.4g 石：鍬1 錐2 楔 1 R1F3 磨1 棒1		76	32
				2.15 × 2.18					
				1.89					
129号	IV I 44・45 V層	なし	中不	2.23 × 2.14	掲載：222	土：175.2g 石：F1		76	32
				(2.13) × 1.75					
				0.32					
130号	IV I 62・63・72・73 V層	なし	中不	2.29 × (2.02)	掲載：	土：2.3g		76	32
				2.18 × 2.02					
				1.48					
131号	IV I 63 V層	なし	中不	2.25 × 2.06	掲載：	土：2.8g		76	32
				2.33 × 2.23					
				0.59					
132号	IV I 63・64 V層	なし	中不	1.31 × 1.27	掲載：226・321～333	土：57.7g 石：磨斧1 皿1 貝殻	6層上面から貝殻 出土	77	32
				1.77 × 1.84					
				1.08					
133号	IV I 41 V層	なし	中不	1.11 × 1.07	掲載：	土：54.3g		77	33
				1.57 × 1.46					
				1					
134号	V J 30・31 V層	→135土	中不	(1.46) × [1.30]	掲載：		調査区外へ広がる	77	33
				(1.67) × [1.50]					
				0.59					
135号	V J 30・31 V層	134土→	中不	1.11 × 1.04	掲載：			77	33
				1.35 × 1.43					
				0.68					
136号	V J 20・21・30・31 V層	なし	中不	2.17 × [1.63]	掲載：			77	33
				2.00 × [1.85]					
				1.37					
137号	V I 29・ V J 20 V層	なし	中不	1.77 × 1.73	掲載：	土：5.8g		78	33
				1.95 × 2.12					
				1.11					

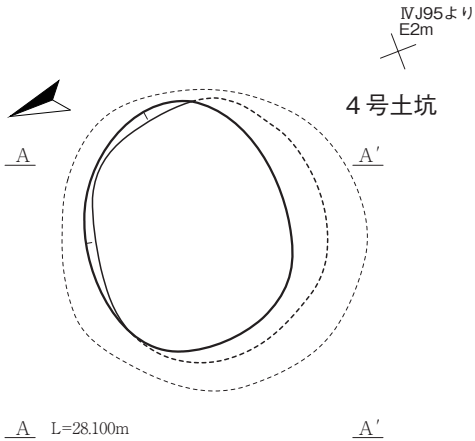
第4表 縄文時代の土坑類8

遺構名	位置検出面	重複関係	時期	規模	開口部	出土遺物	備考	図版	写真 図版
				m	底 部 深 さ				
138号	V I 38・39 V層	なし	中不	(1.75) × [0.80]	掲載：	土：45.6g		78	33
				[1.58] × [1.01]					
				0.4					
139号	V H 39 V層	→17 豎	～ 中末	0.93 × 0.77	掲載：	土：13.8g 石：C2		78	33
				0.95 × 0.89					
				0.53					
140号	V D 39・ V E 30 V層	→302土 →2溝	～ 中後	2.13 × (2.00)	掲載：135	土：37.9g		78	33
				2.18 × 2.00					
				1.74					
141号	IV E 62・63・72・73 V層	同時代なし	不明	2.52 × 1.03	掲載：	溝状		79	33
				2.25 × 0.55					
				1.55					
142号	V E 03・13 IV層	なし	不明	(2.87) × (0.97)	掲載：	溝状		79	34
				(2.51) × (0.68)					
				1.13					
143号	IV J 05・06 IV層	なし	中不	1.57 × 1.17	掲載：	人為堆積		79	34
				1.03 × 0.88					
				0.71					
144号	IV I 59・ IV J 50 IV層	13土→	中不	2.31 × 1.80	掲載：	円筒形		79	34
				1.60 × 1.43					
				1.68					
145号	IV J 94 IV層	3土→	中不	(0.98) × 0.73	掲載：	円筒形		80	34
				(0.88) × 0.60					
				0.53					
146号	IV I 64 V層	なし	中不	0.75 × 0.73	掲載：	土：20.9g		80	34
				0.60 × 0.65					
				0.23					
147号	IV I 65 V層	7 豎→	中末	1.08 × 0.99	掲載：	土：626.8g 石：皿1		80	34
				0.85 × 0.83					
				0.22					
148号	V J 13 V層	→14土 107・108土→	中不	(0.85) × [0.77]	掲載：			80	34
				(0.75) × (0.70)					
				0.71					
149号	IV I 95・96 V層	→11 豎	～ 中末	(0.72) × (0.62)	掲載：	土：132.7g 石：磨1		80	34
				-					
				0.36					
150号	V I 39 V層	なし	中不	(0.83) × (0.72)	掲載：	土：74.1g		80	34
				0.67 × (0.63)					
				0.54					
151号	V E 13・14 IV層	なし	早中	1.57 × (1.33)	掲載：136	土：93.9g		80	34
				(1.29) × (1.09)					
				0.97					

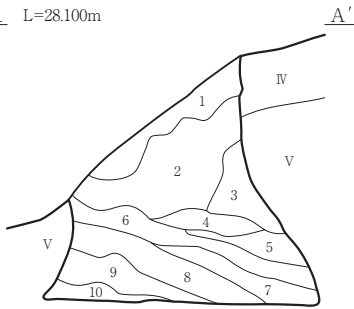
2 検出遺構



第43図 縄文時代の土坑類 1

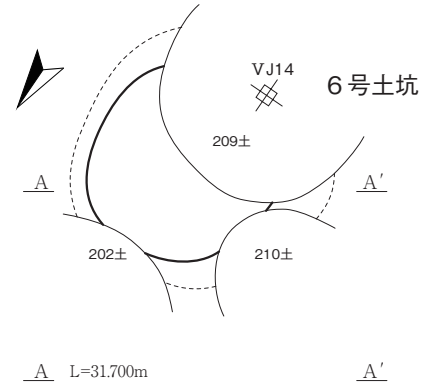


A L=28.100m

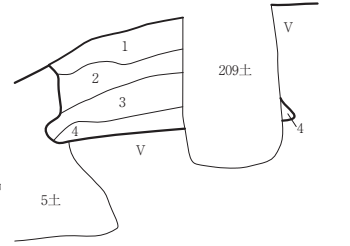


4号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 締稍無 暗褐色シルト塊5%含む
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中
3. 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性稍無 締中
4. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 明黄褐色シルト塊3%含む
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性稍無 締中 マサ土7%含む
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 にぶい黄褐色シルト塊5%含む
7. 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性稍無 締中 にぶい黄褐色シルト塊2%含む
8. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性稍無 締中 褐色シルト塊5%含む
9. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 明黄褐色シルト塊3%含む
10. 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性稍無 締中

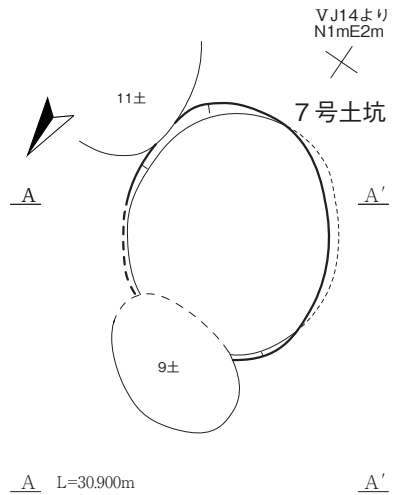


A L=31.700m

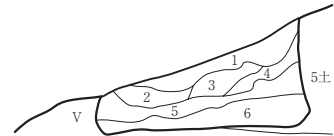


6号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性稍無 締中
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締稍有 暗褐色シルト塊5%・炭1%含む
3. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締稍有 にぶい黄褐色シルト塊7%含む
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性稍無 締中 マサ土10%含む

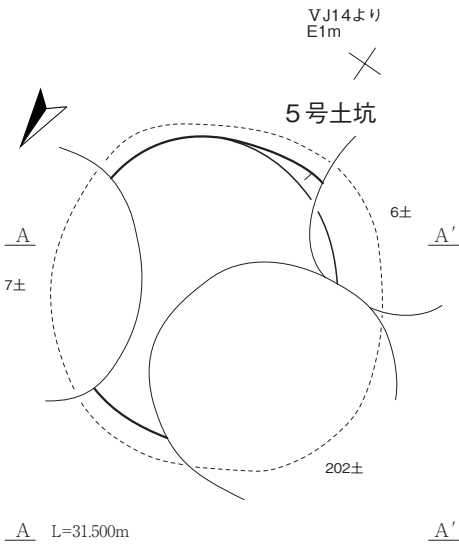


A L=30.900m

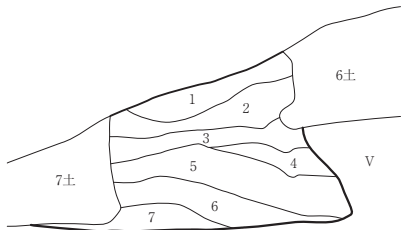


7号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 暗褐色シルト塊5%・炭2%含む
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締稍有 にぶい黄褐色シルト塊3%含む
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性中 締稍有
4. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締中 炭1%含む
5. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締稍有 暗褐色シルト塊7%含む
6. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締稍有 炭1%含む

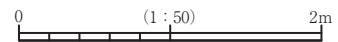


A L=31.500m



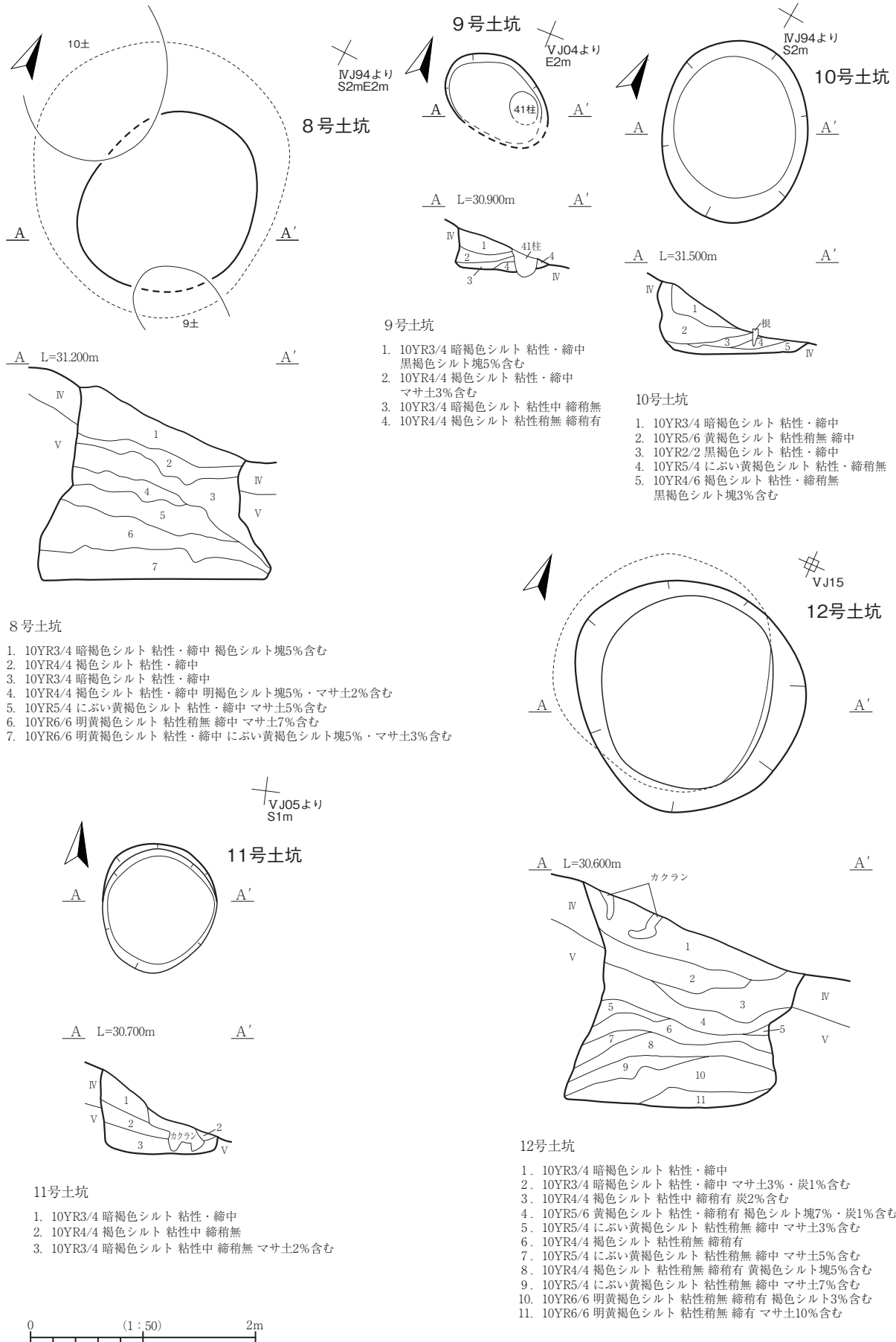
5号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 暗褐色シルト塊3%含む
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締稍有 褐色シルト塊3%・マサ土2%含む
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締稍有 暗褐色シルト塊7%・マサ土5%含む
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性稍無 締稍有 マサ土5%・褐色シルト塊3%含む
5. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締稍有 マサ土10%・にぶい黄褐色シルト塊5%含む
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締稍有 マサ土7%・明黄褐色シルト塊2%含む
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性稍無 締稍有 マサ土2%含む



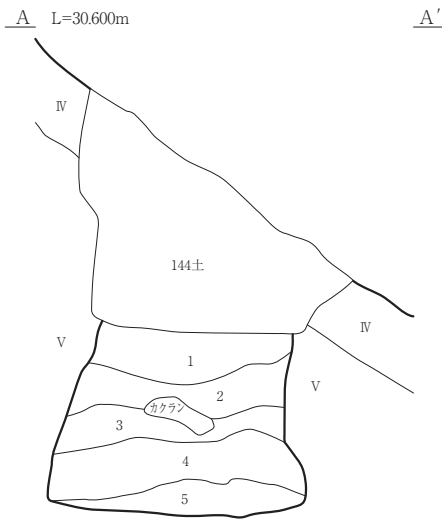
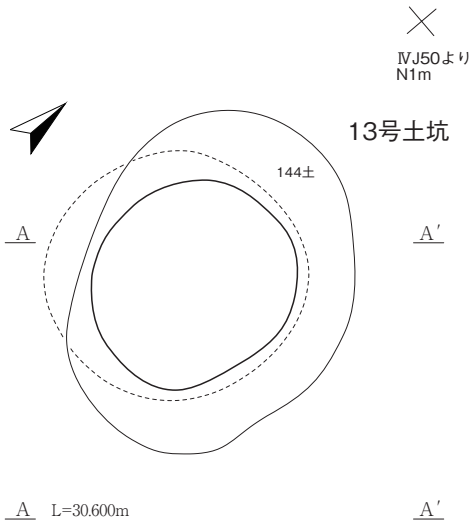
第44図 縄文時代の土坑類2

2 検出遺構



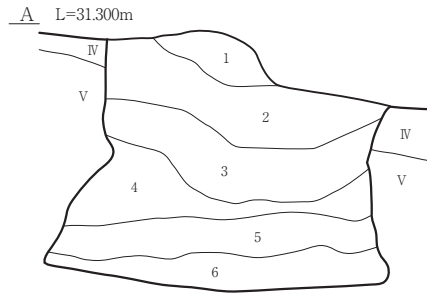
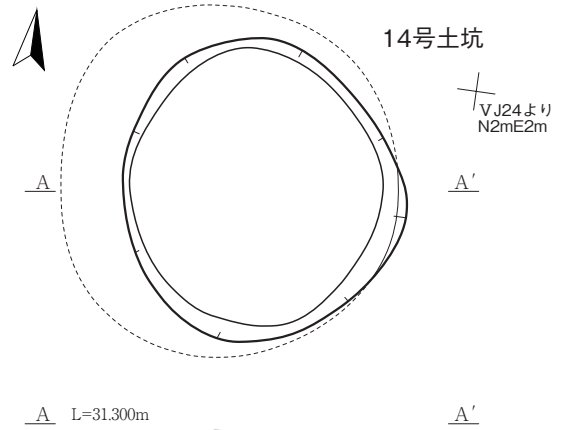
第45図 縄文時代の土坑類 3





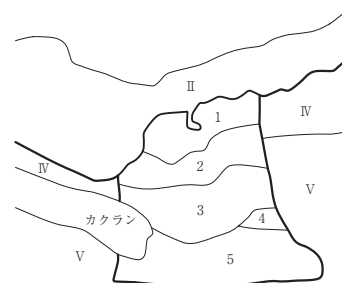
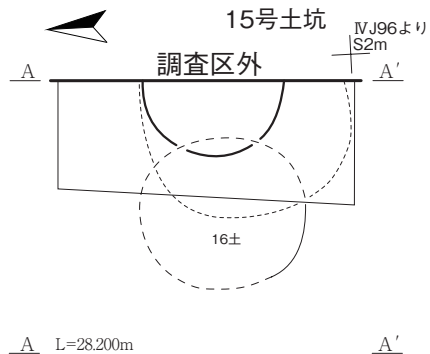
13号土坑

1. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性稍無 締中 褐色シルト塊5%含む
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性稍無 締中 にぶい黄褐色シルト塊7%含む
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性稍無 締中 褐色シルト塊3%含む
4. 10YR4/6 褐色シルト 粘性・締稍無 明黄褐色シルト塊5%・マサ土3%含む
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性・締稍無 マサ土2%含む



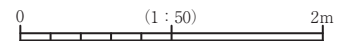
14号土坑

1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締稍有 炭1%含む
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 締稍有 炭3%含む
3. 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 締稍有 にぶい黄褐色シルト塊3%・炭1%含む
4. 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 締稍有 マサ土7%・にぶい黄褐色シルト塊3%含む
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性稍無 締中 褐色シルト塊7%・マサ土5%含む
6. 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 締稍有 マサ土3%含む



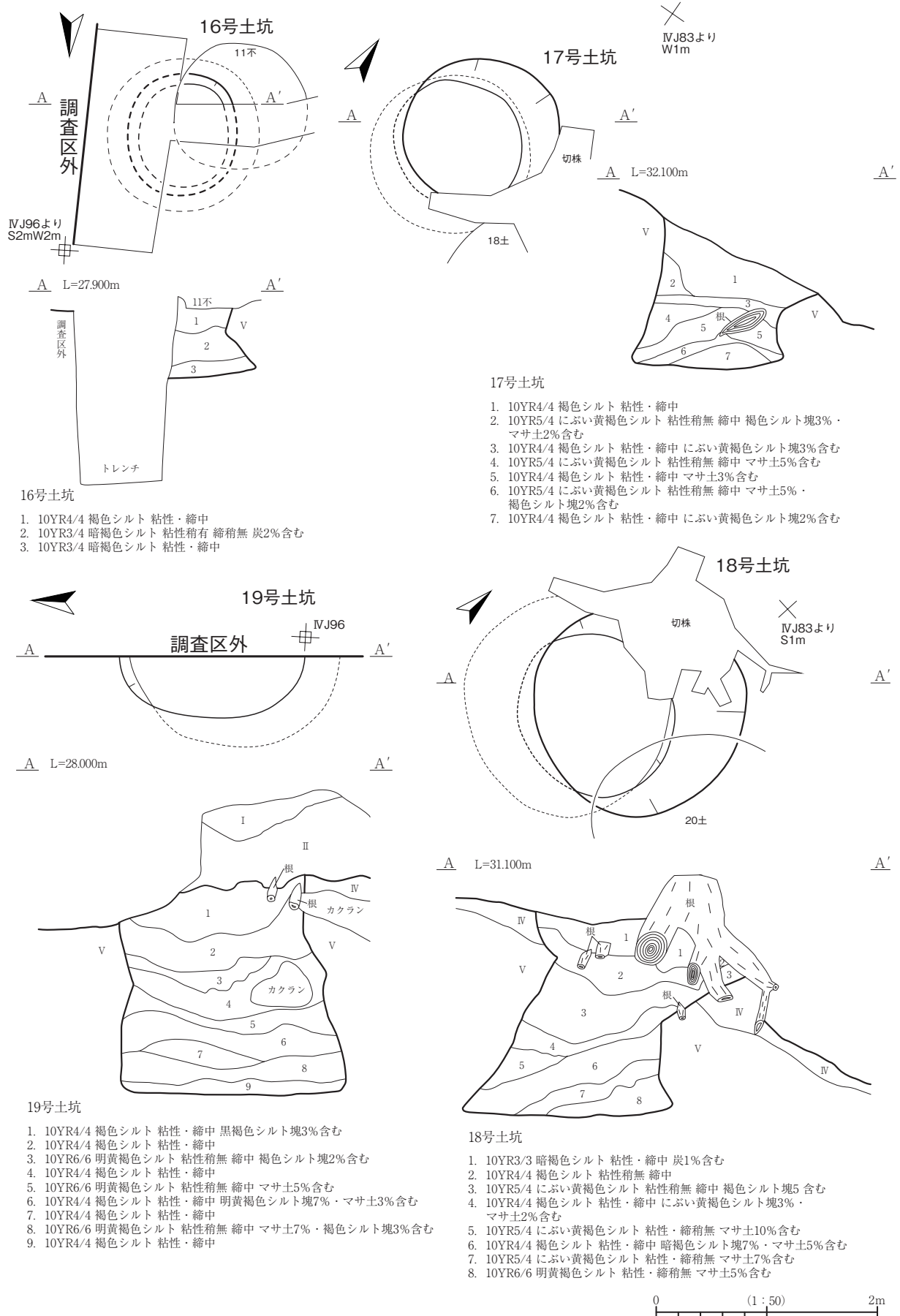
15号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締中 炭1%含む
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 にぶい黄褐色シルト塊2%含む
4. 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・締稍無 褐色シルト塊5%・マサ土2%含む
5. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締中 褐色シルト塊3%含む

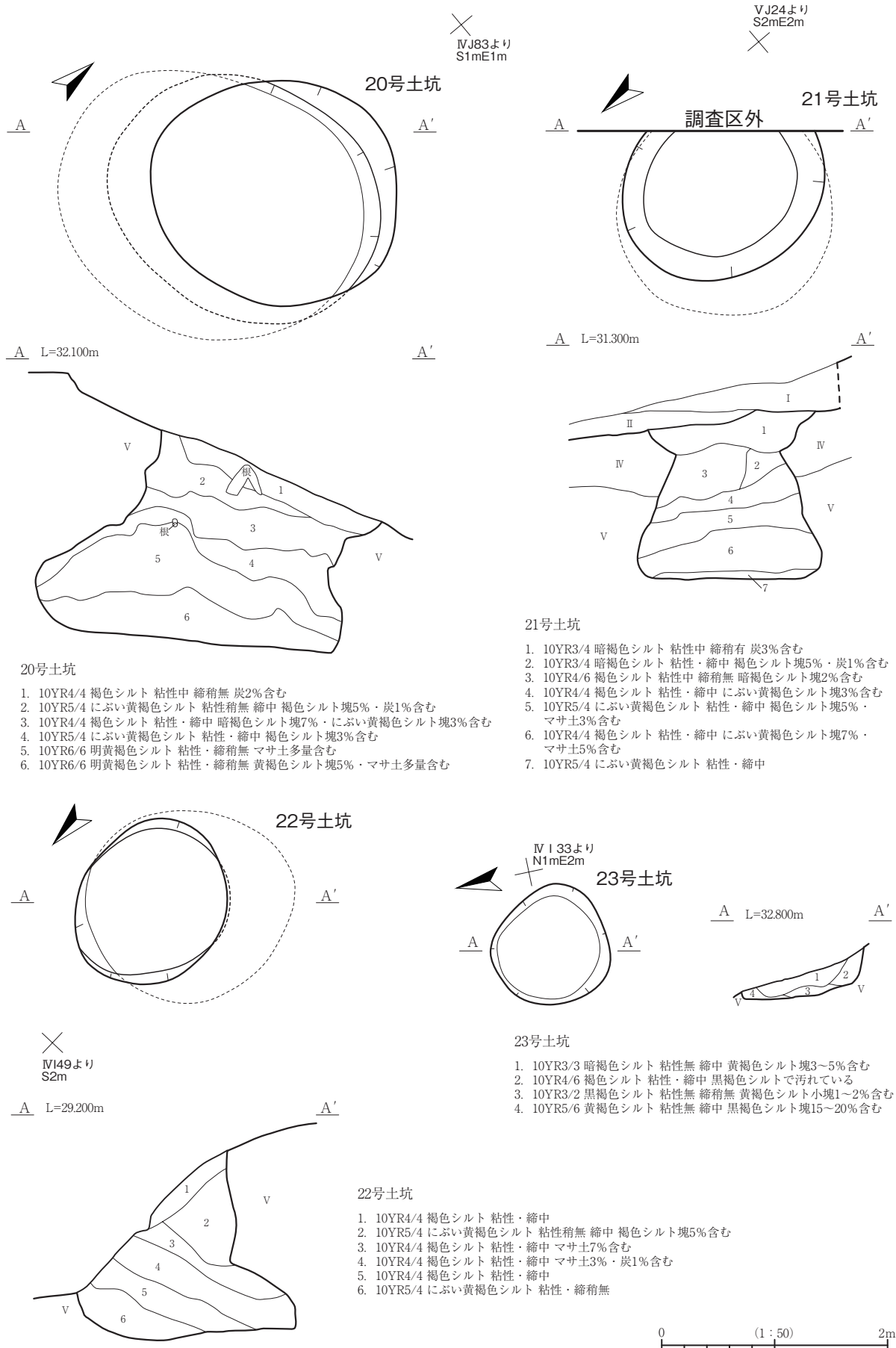


第46図 縄文時代の土坑類 4

2 検出遺構

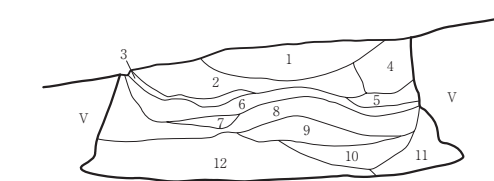
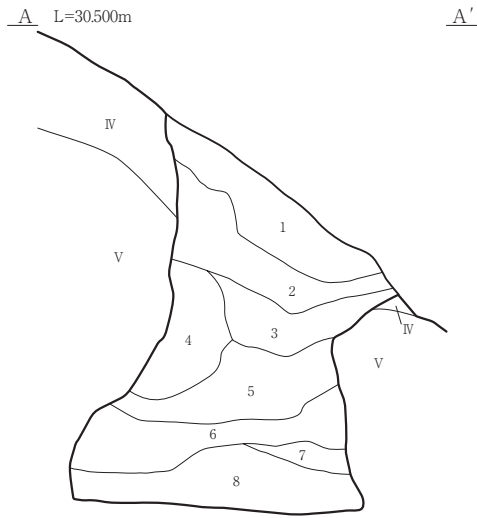
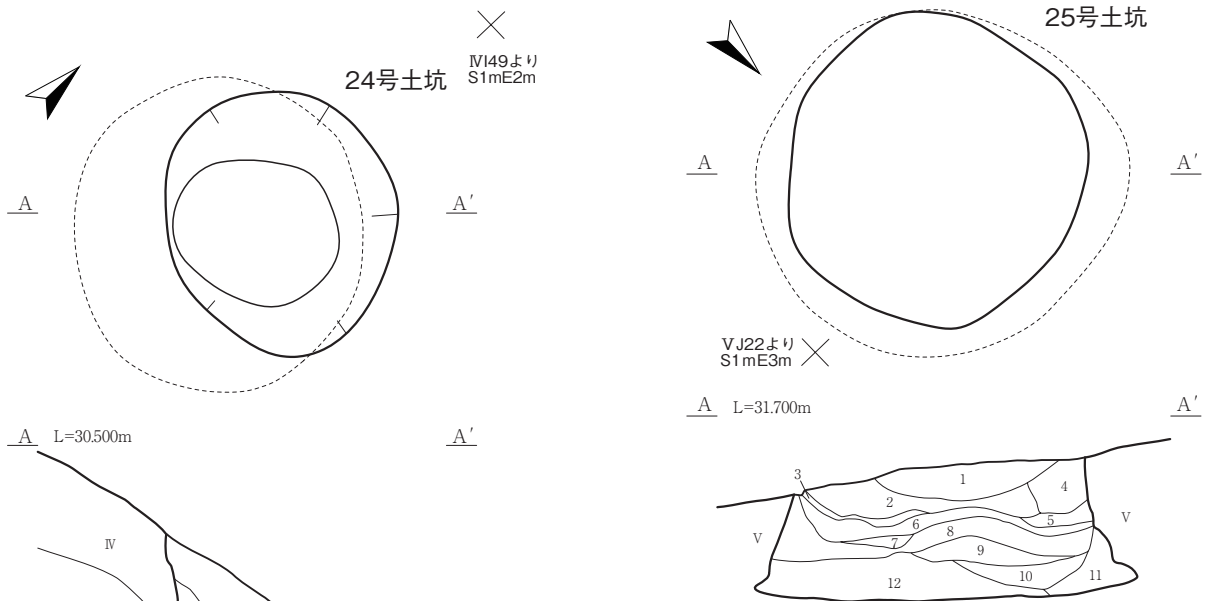


第47図 縄文時代の土坑類5



第48図 縄文時代の土坑類6

2 検出遺構

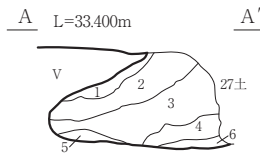
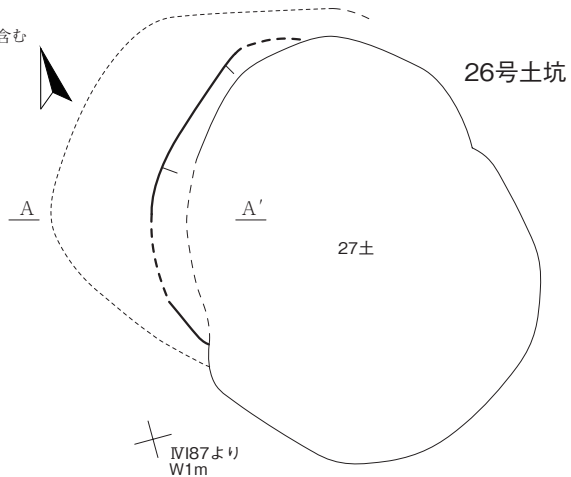


25号土坑

1. 7.5YR5/6 明褐色砂質シルト 粘性無 締縮有 暗褐色シルト10%・マサ土・炭5%含む
2. 10YR4/4 褐色砂質シルトと7.5YR5/6 明褐色シルトとの混合土 粘性無 締縮有 炭3%含む
3. 10YR7/6 明黄褐色砂質シルト 粘性無 締有
4. 10YR6/8 明黄褐色砂質シルト 粘性無 締有
5. 10YR7/6 明黄褐色砂質シルト 粘性無 締有
6. 7.5YR5/6 明褐色シルトと10YR4/4 褐色砂質シルトとの混合土 粘性無 締縮有 炭3%含む
7. 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 明褐色シルト5%・炭1%含む
8. 10YR7/6 明黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 明褐色シルト10%含む
9. 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 帯状にマサ土10%・炭3%含む
10. 10YR7/6 明黄褐色砂質シルト 粘性無 締有
11. 10YR6/8 明黄褐色砂質シルト 粘性無 締有
12. 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 帯状にマサ土20%・炭5%含む

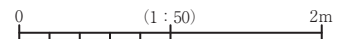
24号土坑

1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締中 褐色シルト塊3%・炭1%含む
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締中
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 におい黄褐色シルト塊2%含む
4. 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性稍無 締中 褐色シルト塊7%含む
5. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締中
6. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締中 におい黄褐色シルト塊5%含む
7. 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性稍無 締中 暗褐色シルト塊5%含む
8. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 におい黄褐色シルト塊7%・マサ土3%含む

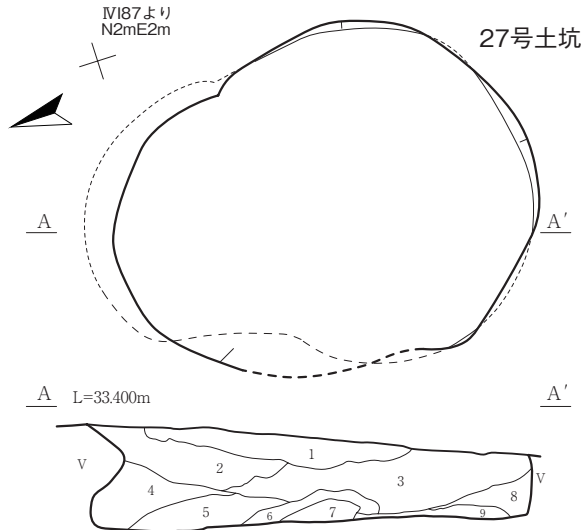


26号土坑

1. 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締縮有 明赤褐色シルト小塊3~5%・炭2~3%・マサ土小塊2~3%含む
2. 5YR5/8 明赤褐色砂 粘性無 締中 マサ土塊40%含む
3. 10YR4/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締縮有 明褐色シルト塊10%・明赤褐色シルト小塊5~7%・炭5~7%含む
4. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・締中 明黄褐色シルト塊30%・炭2~3%含む
5. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・締中 褐色シルト小塊2~3%・炭1~2%含む
6. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締縮無 明黄褐色シルト塊7~10%・明赤褐色シルト小塊7~10%含む

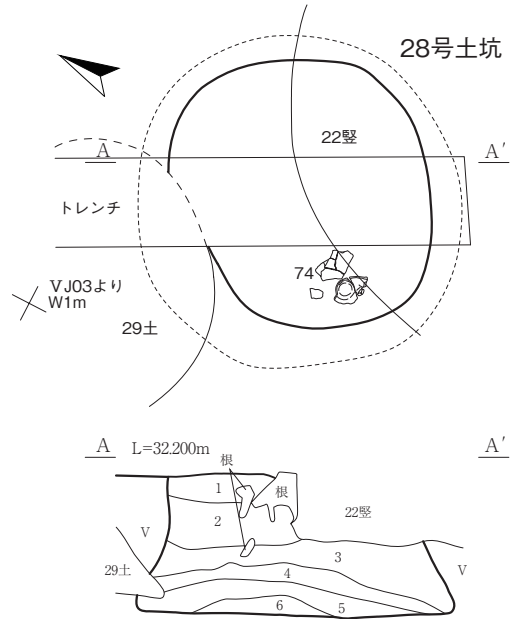


第49図 縄文時代の土坑類7



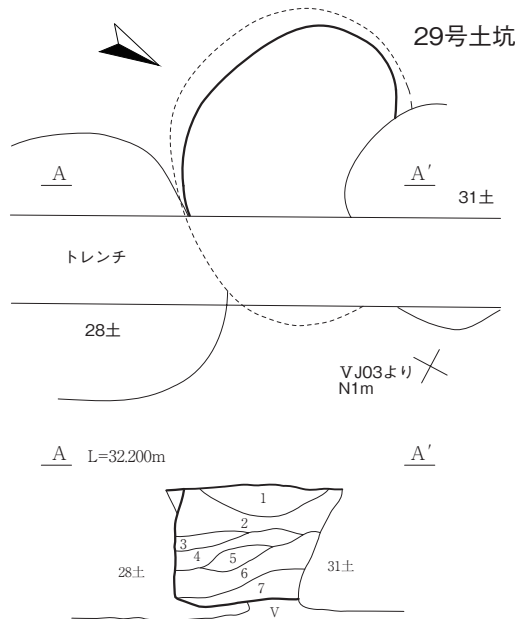
27号土坑

1. 10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性無 締稍有 明黄褐色シルト小塊7~10%・炭1~2%含む
2. 5YR5/6 明赤褐色シルト 粘性中 締稍有 明褐色シルト塊15%・マサ土塊5~7%含む
3. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍有 明黄褐色シルト塊20~25%・炭3~5%含む
4. 7.5YR6/8 橙色砂質シルト 粘性・締無 マサ土との混合層
5. 5YR4/6 赤褐色シルト 粘性中 締稍有 マサ土大塊20%・灰黄褐色シルト塊5~7%含む
6. 10YR4/6 褐色シルト 粘性・締中 赤褐色シルト小塊5~7%・炭1~2%含む
7. 7.5YR5/8 明褐色シルト 粘性中 締稍有 黄褐色シルト小塊7~10%含む
8. 5YR5/6 明赤褐色シルト 粘性・締稍有
9. 7.5YR5/6 明褐色シルト 粘性稍有 締中



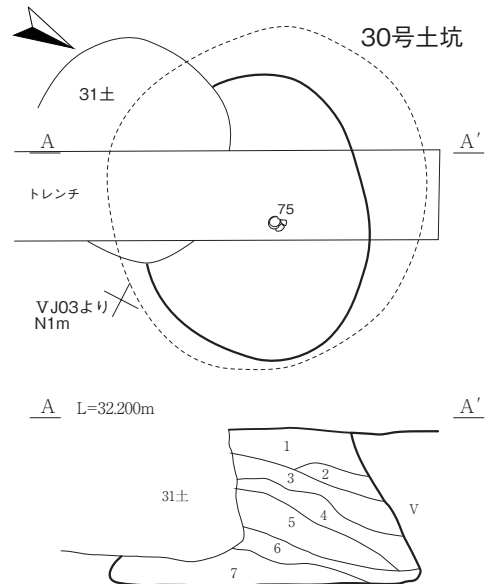
28号土坑

1. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締有 黒褐色シルトまだらに3%含む
2. 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性無 締有 明黄褐色砂質シルト20%・褐色シルトまだらに20%・炭1%含む
3. 10YR6/6 明黄褐色砂質シルトと10YR5/8 黄褐色シルトと互層 粘性無 締中
4. 10YR7/4 黄褐色砂質シルト 粘性・締無
5. 10YR4/3 黄褐色シルトと10YR4/6 褐色シルトとの混合土 粘性無 締有 明黄褐色砂質シルト20%含む
6. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締有 褐色シルト20%含む



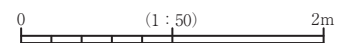
29号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締稍無
2. 10YR4/6 褐色シルトと10YR3/3 暗褐色砂質シルトとの互層 粘性無 締中 炭3%含む
3. 10YR5/4 黄褐色砂質シルト 粘性・締無
4. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締有 炭1%含む
5. 10YR6/4 黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍有 炭3%含む
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締中 暗褐色シルト塊・炭1%含む
7. 10YR6/4 黄褐色砂質シルト 粘性無 締中

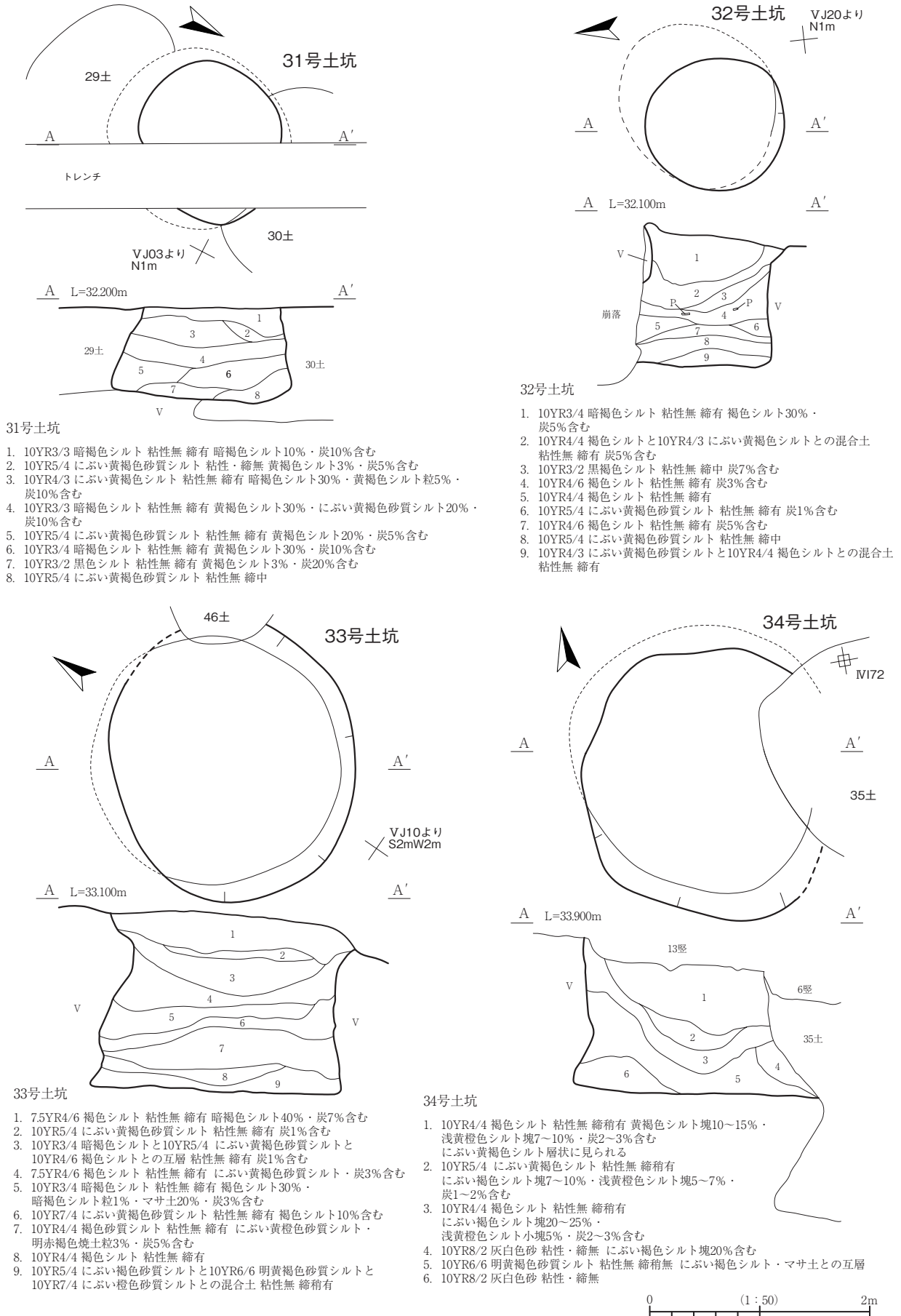


30号土坑

1. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締有 黄褐色砂質シルト10%・炭5%含む
2. 10YR6/4 黄褐色シルト 粘性無 締有
3. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締有 黄褐色砂質シルト10%・炭5%含む
4. 10YR6/4 黄褐色シルト 粘性無 締有
5. 10YR4/4 褐色砂質シルトと10YR6/4 黄褐色シルトとの混合土 粘性無 締有
6. 10YR7/4 黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 炭50%含む
7. 10YR5/4 黄褐色シルトと10YR7/4 黄褐色砂質シルトとの混合土 粘性無 締有 暗褐色シルト5%含む



2 検出遺構



31号土坑

- 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締有 暗褐色シルト10%・炭10%含む
- 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性・締無 黄褐色シルト3%・炭5%含む
- 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性無 締有 暗褐色シルト30%・黄褐色シルト粒5%・炭10%含む
- 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締有 黄褐色シルト30%・におい黄褐色砂質シルト20%・炭10%含む
- 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 黄褐色シルト20%・炭5%含む
- 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 締有 黄褐色シルト30%・炭10%含む
- 10YR3/2 黒色シルト 粘性無 締有 黄褐色シルト3%・炭20%含む
- 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中

32号土坑

- 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 締有 褐色シルト30%・炭5%含む
- 10YR4/4 褐色シルトと10YR4/3 におい黄褐色シルトとの混合土 粘性無 締有 炭5%含む
- 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性無 締中 炭7%含む
- 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締有 炭3%含む
- 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有
- 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 炭1%含む
- 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締有 炭5%含む
- 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中
- 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルトと10YR4/4 褐色シルトとの混合土 粘性無 締有

33号土坑

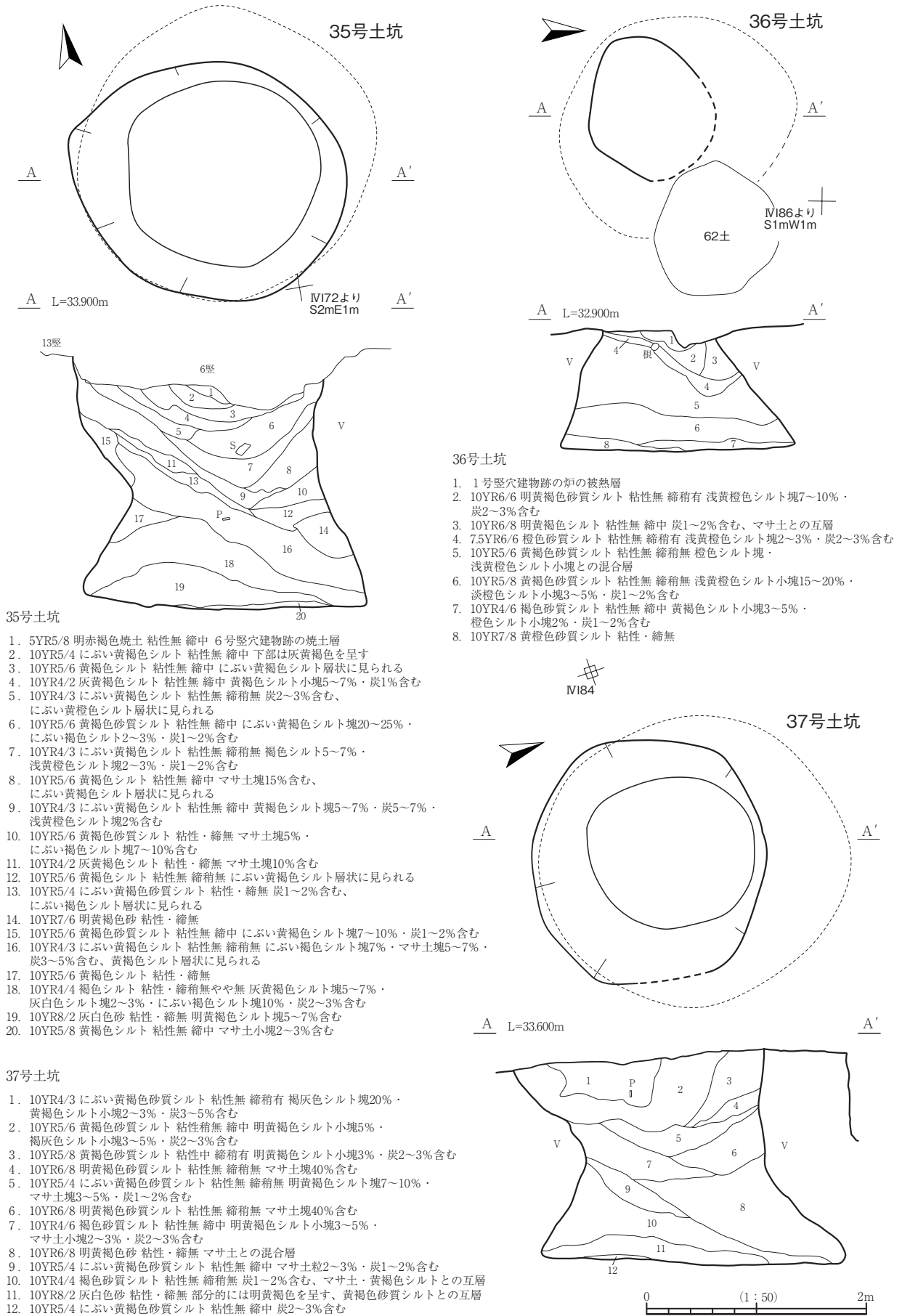
- 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性無 締有 暗褐色シルト40%・炭7%含む
- 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 炭1%含む
- 10YR3/4 暗褐色シルトと10YR5/4 におい黄褐色砂質シルトと10YR4/6 褐色シルトとの互層 粘性無 締有 炭1%含む
- 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性無 締有 におい黄褐色砂質シルト・炭3%含む
- 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 締有 褐色シルト30%・暗褐色シルト粒1%・マサ土20%・炭3%含む
- 10YR7/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 褐色シルト10%含む
- 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締有 におい黄褐色砂質シルト・明赤褐色焼土粒3%・炭5%含む
- 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有
- 10YR5/4 におい褐色砂質シルトと10YR6/6 明黄褐色砂質シルトと10YR7/4 におい橙色砂質シルトとの混合土 粘性無 締稍有

34号土坑

- 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締稍有 黄褐色シルト塊10~15%・浅黄褐色シルト塊7~10%・炭2~3%含む  
におい黄褐色シルト層状に見られる
- 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性無 締稍有  
におい褐色シルト塊7~10%・浅黄褐色シルト塊5~7%・炭1~2%含む
- 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締稍有  
におい褐色シルト塊20~25%・浅黄褐色シルト小塊5%・炭2~3%含む
- 10YR8/2 灰白色砂 粘性・締無 におい褐色シルト塊20%含む
- 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍有 におい褐色シルト・マサ土との互層
- 10YR8/2 灰白色砂 粘性・締無

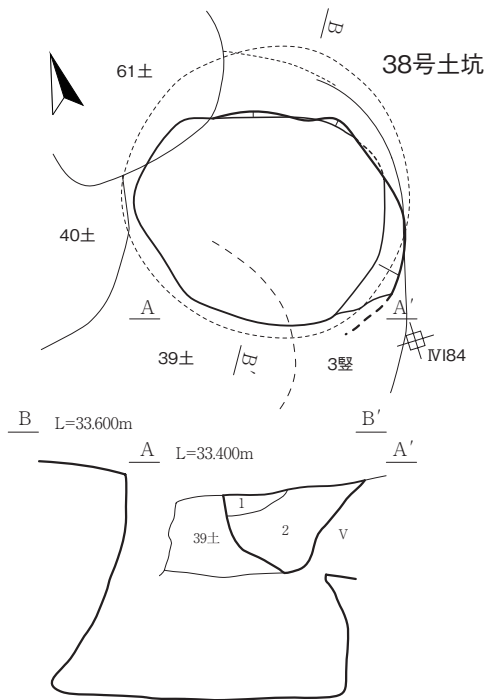
第51図 縄文時代の土坑類 9





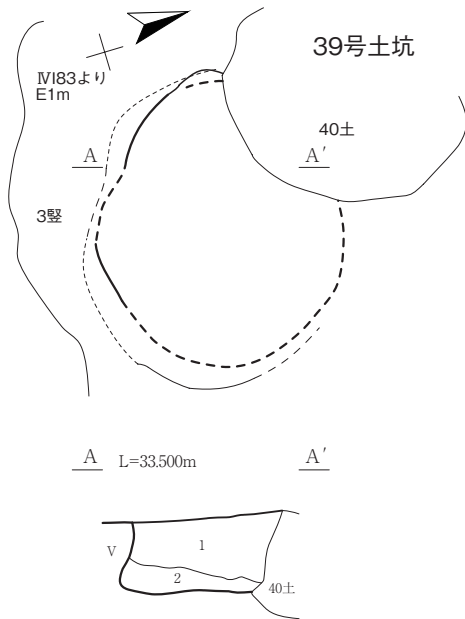
第52図 縄文時代の土坑類10

2 検出遺構



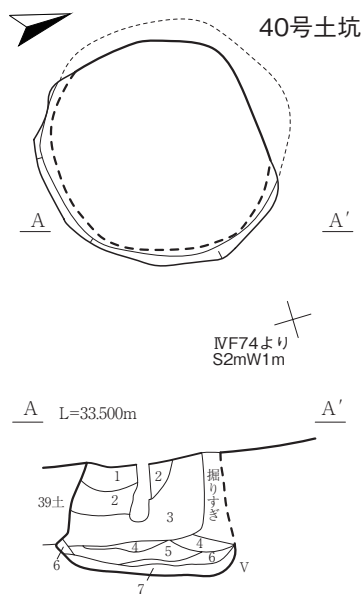
38号土坑

1. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締稍有 におい黄橙色シルト塊5~7%・炭1~2%含む
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締稍有 におい黄橙色シルト塊3~5%・炭2%含む



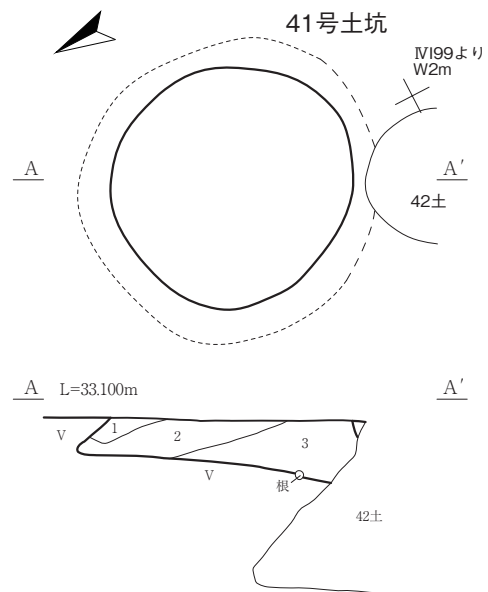
39号土坑

1. 10YR6/4 におい黄橙色シルト 粘性無 締稍有 におい黄橙色シルト塊5~7%・褐色シルト塊7~10%・炭1~2%含む
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締稍有 灰黄褐色シルト小塊5%・炭1~2%含む



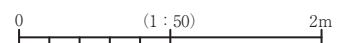
40号土坑

1. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍有 炭1%・浅黄橙色シルト小塊2~3%含む
2. 2.5YR4/6 赤褐色砂質シルト 粘性無 締中 炭1~2%・におい黄橙色シルト小塊5~7%含む
3. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍有 炭2~3%・明黄褐色シルト塊5~7%・浅黄橙色シルト小塊2~3%・灰黄褐色シルト塊3~5%含む
4. 10YR8/4 浅黄橙色砂 粘性・締無 黄褐色シルト塊5~7%含む
5. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 におい黄橙色シルト小塊5~7%・炭1~2%含む
6. 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 マサ土塊30%含む
7. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍有

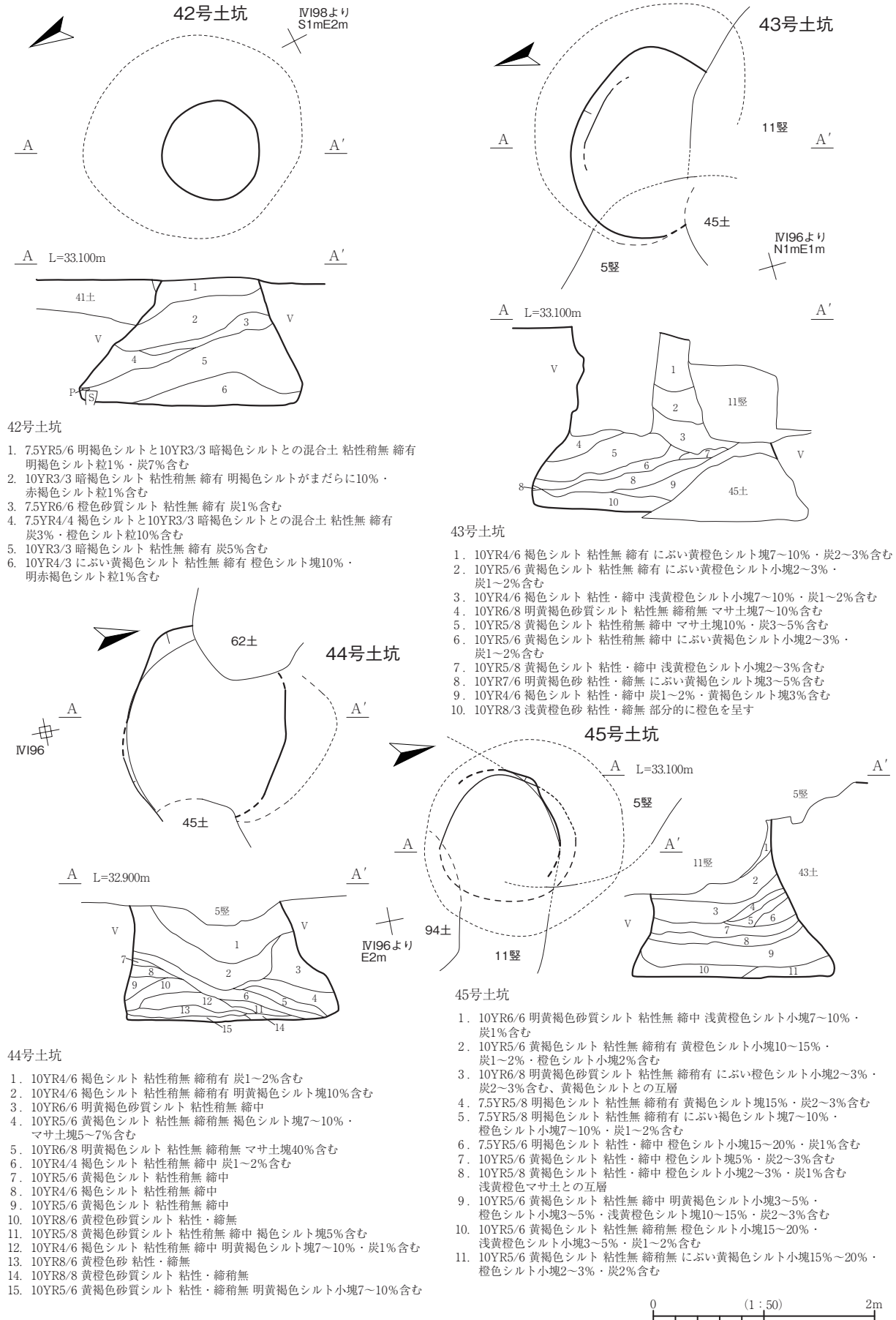


41号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 におい黄橙色シルト10%・炭1%含む
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性稍無 締有 におい黄橙色シルト塊5%・炭5%含む
3. 7.5YR5/6 暗褐色シルト 粘性稍無 締有 暗褐色シルト10%・炭1%含む

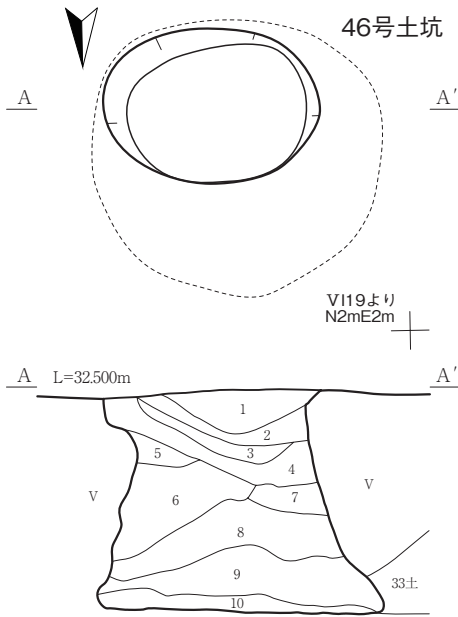


第53図 縄文時代の土坑類 11



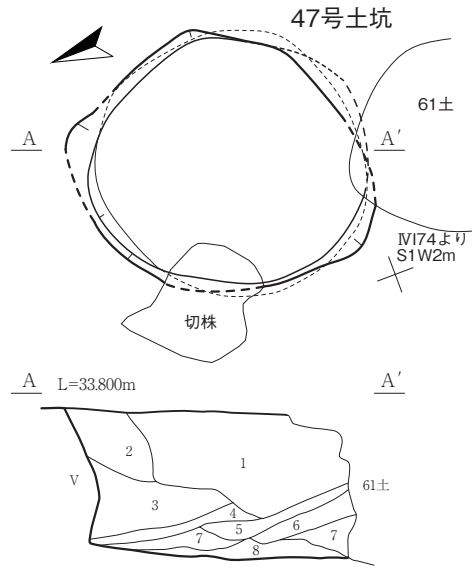
第54図 縄文時代の土坑類 12

2 検出遺構



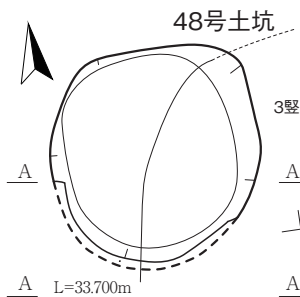
46号土坑

1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性無 締有 暗褐色シルト40%・赤褐色焼土粒1%・炭10%含む
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 暗褐色シルト粒1%・炭1%含む
3. 10YR3/2 黒褐色シルトと10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締有 褐色シルト1%・炭7%含む
4. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 地山塊1%・炭5%含む
5. 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締有
6. 10YR6/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締有
7. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性無 締有 炭7%含む
8. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 締有 黒褐色シルト20%・炭5%含む
9. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性無 締有 炭3%含む
10. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締有



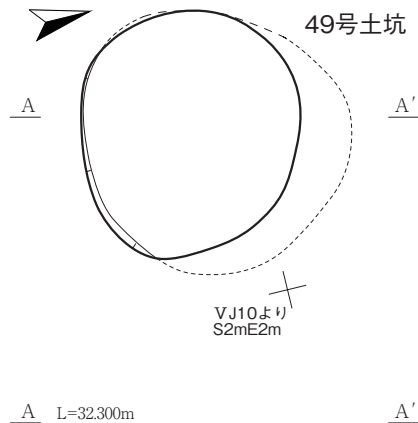
47号土坑

1. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 浅黄色シルト粒小塊3~5%・炭1~2%含む
2. 10YR7/8 黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 灰白色マサ土塊10~15%含む
3. 10YR6/8 明黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 灰白色マサ土塊20~30%・炭1%含む
4. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 灰白色マサ土塊2~3%含む
5. 10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性無 締有 灰白色マサ土塊2~3%・炭1~2%含む
6. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 明褐色土塊7~10%含む
7. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 灰白色マサ土塊15~20%含む
8. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 浅黄褐色シルト小塊7~10%・炭1~2%含む



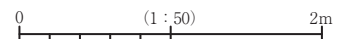
48号土坑

1. 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 黄褐色シルト塊7~10%・炭10%含む
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締有 褐色シルト塊2~3%・炭1~2%含む
3. 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 マサ土塊10%含む
4. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 浅黄褐色シルト塊5%・におい黄褐色シルト塊10%・炭1%含む
5. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 マサ土層状に見られる
6. 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性無 締中 明黄褐色シルト小塊2~3%・炭3~5%含む
7. 10YR6/8 明黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 炭1%含む、マサ土との互層
8. 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性無 締中 黄褐色シルト塊7~10%・明黄褐色シルト塊3~5%・炭1%含む
9. 10YR6/8 明黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 におい黄褐色シルト小塊2~3%・炭1%含む

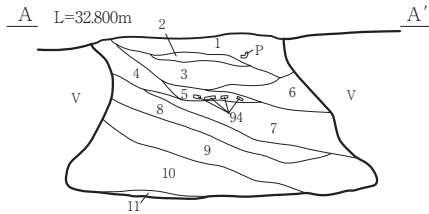
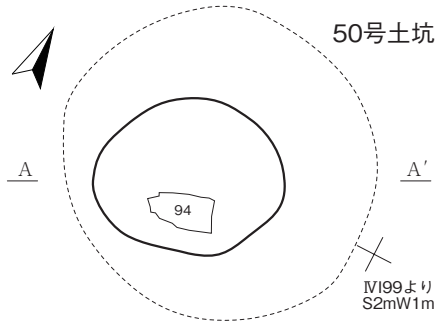


49号土坑

1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 締中 明黄褐色シルト塊2%・明赤褐色シルト粒1%・炭7%含む
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締中 褐色シルトとの混合土 小礫1%・炭10%含む
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 におい黄褐色砂質シルト10%・炭5%含む
4. 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 赤褐色土粒1%含む
5. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 赤褐色シルト粒1%・炭5%含む
6. 10YR6/4 におい黄褐色砂質シルトと10YR4/4 褐色シルトとの混合土 粘性無 締有
7. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 炭化物5%含む、黄褐色シルトとにおい黄褐色シルトとの混合土層
8. 10YR6/4 におい黄褐色シルト 粘性無 締中 黄褐色シルト粒1%含む

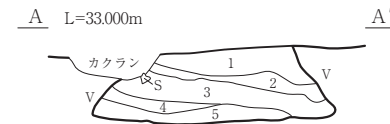
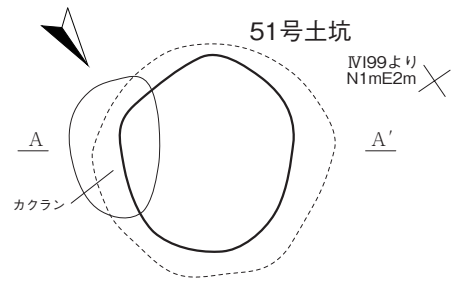


第55図 縄文時代の土坑類 13



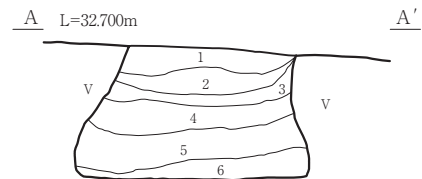
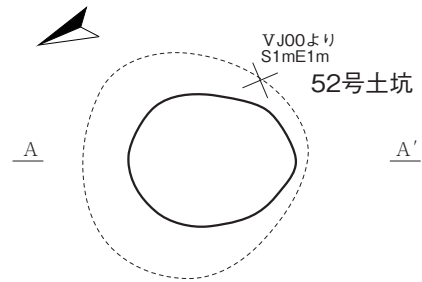
50号土坑

1. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締有 赤褐色焼土粒1%・炭10%含む
2. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性無 締有 炭1%含む
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 炭5%含む
4. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性・締無 炭1%含む  
灰黄褐色シルトとの混合土層
5. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性無 締有 炭10%含む
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 炭5%含む
7. 10YR5/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性・締無 炭5%含む
8. 10YR4/4 暗褐色シルト 粘性無 締有 黄褐色シルト粒1%・炭1%含む
9. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 炭3%含む
10. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性無 締有 炭3%含む
11. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 炭1%含む



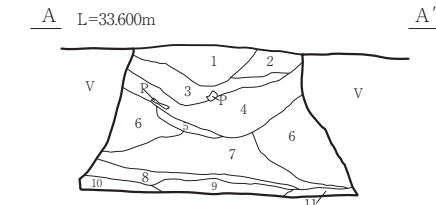
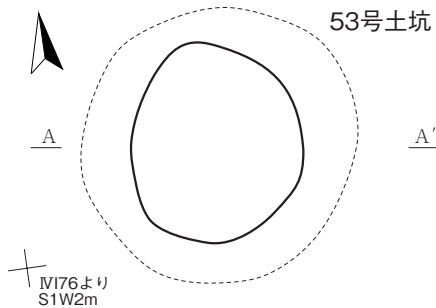
51号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 炭10%含む
2. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性無 締有 黒褐色シルト塊5%・炭5%含む
3. 10YR3/2 黒褐色シルトと10YR4/4 褐色シルトとの互層 粘性無 締有 赤褐色焼土塊1%・炭5%含む
4. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 締有 炭5%含む
5. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締有 炭7%含む



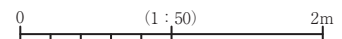
52号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 黒褐色シルト5%・炭5%含む
2. 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性無 締有 炭3%含む
3. 10YR7/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中
4. 10YR4/4 褐色シルトと10YR7/4 におい黄褐色砂質シルトとの混合土 粘性無 締有 炭5%含む
5. 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性無 締有 炭5%含む
6. 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 黄褐色シルト粒3%・炭3%含む



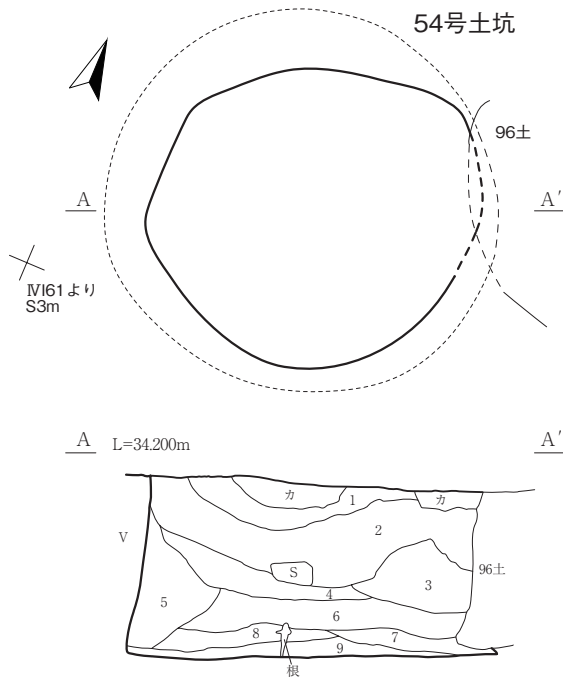
53号土坑

1. 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 におい黄褐色シルト粒5~7%・炭7%含む
2. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締有 におい黄褐色シルト小塊2~3%・炭2~3%含む
3. 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 明黄褐色シルト塊5%・炭5~7%含む
4. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締中 灰黄褐色シルト塊10%・炭5~7%含む
5. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 炭層状に見られる
6. 10YR8/3 浅黄褐色砂 粘性・締無 褐色シルト塊15~20%・炭5~7%含む
7. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締中 黄褐色シルト小塊5%・黄褐色シルト塊15%・灰黄褐色シルト塊10%・炭3~5%含む
8. 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 褐色シルト塊5~7%・炭2~3%含む
9. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 無 マサ土小塊3~5%・焼土粒1~2%・炭1%含む
10. 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性中 締有 無 マサ土塊10%含む
11. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・締中 マサ土粒2~3%含む



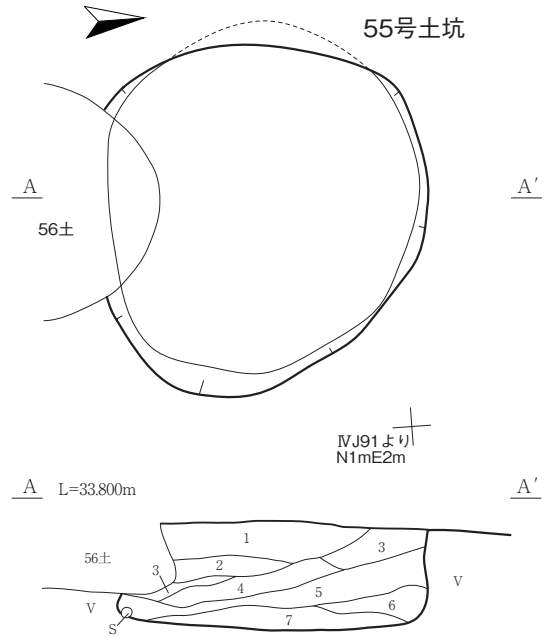
第56図 縄文時代の土坑類 14

2 検出遺構



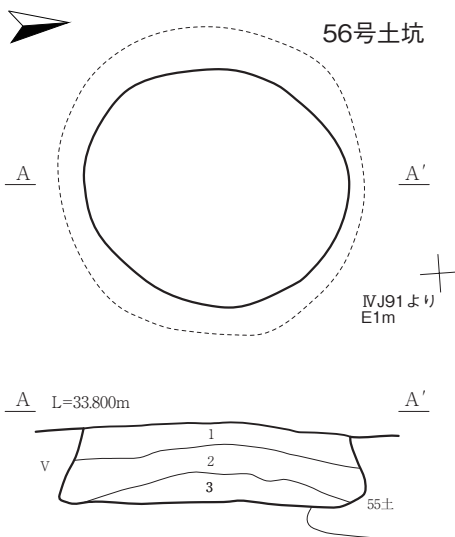
54号土坑

1. 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 縮稍無 におい黄褐色シルトとの混合層 炭1~2%含む
2. 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性無 縮中 炭1~2%・マサ土粒2~3%含む
3. 10YR8/1 灰白色マサ土 粘性・縮無 明黄褐色砂質シルト塊10%含む
4. 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性無 縮稍無 におい黄褐色砂質シルト塊5~7%含む
5. 10YR8/1 灰白色マサ土 粘性・縮無 明黄褐色砂質シルト塊15%含む
6. 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性・縮無 におい黄褐色砂質シルト塊7~10%含む
7. 10YR8/1 灰白色マサ土 粘性・縮無 明黄褐色砂質シルト塊5~7%含む
8. 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性・縮無 におい黄褐色砂質シルト塊7~10%含む
9. 10YR6/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性・縮無 明黄褐色砂質シルト層状に見られる 炭1%含む



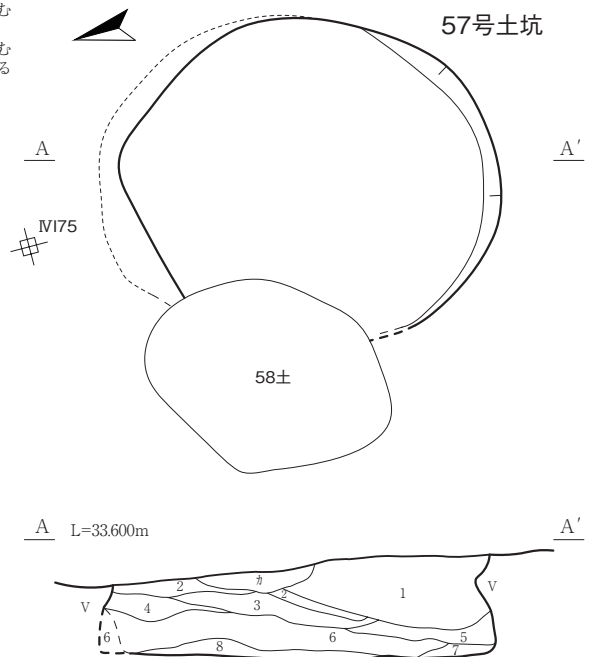
55号土坑

1. 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 縮中 褐色シルト5%・炭1%含む
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・縮有
3. 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 縮中 黄褐色シルト10%含む
4. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 縮有 炭1%含む
5. 10YR7/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 縮中
6. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性・縮無
7. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 縮中 炭1%含む



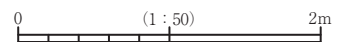
56号土坑

1. 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性無 縮有 炭3%含む
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 縮有 炭5%・浅黄色シルト塊1%含む
3. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性・縮無 炭3%含む



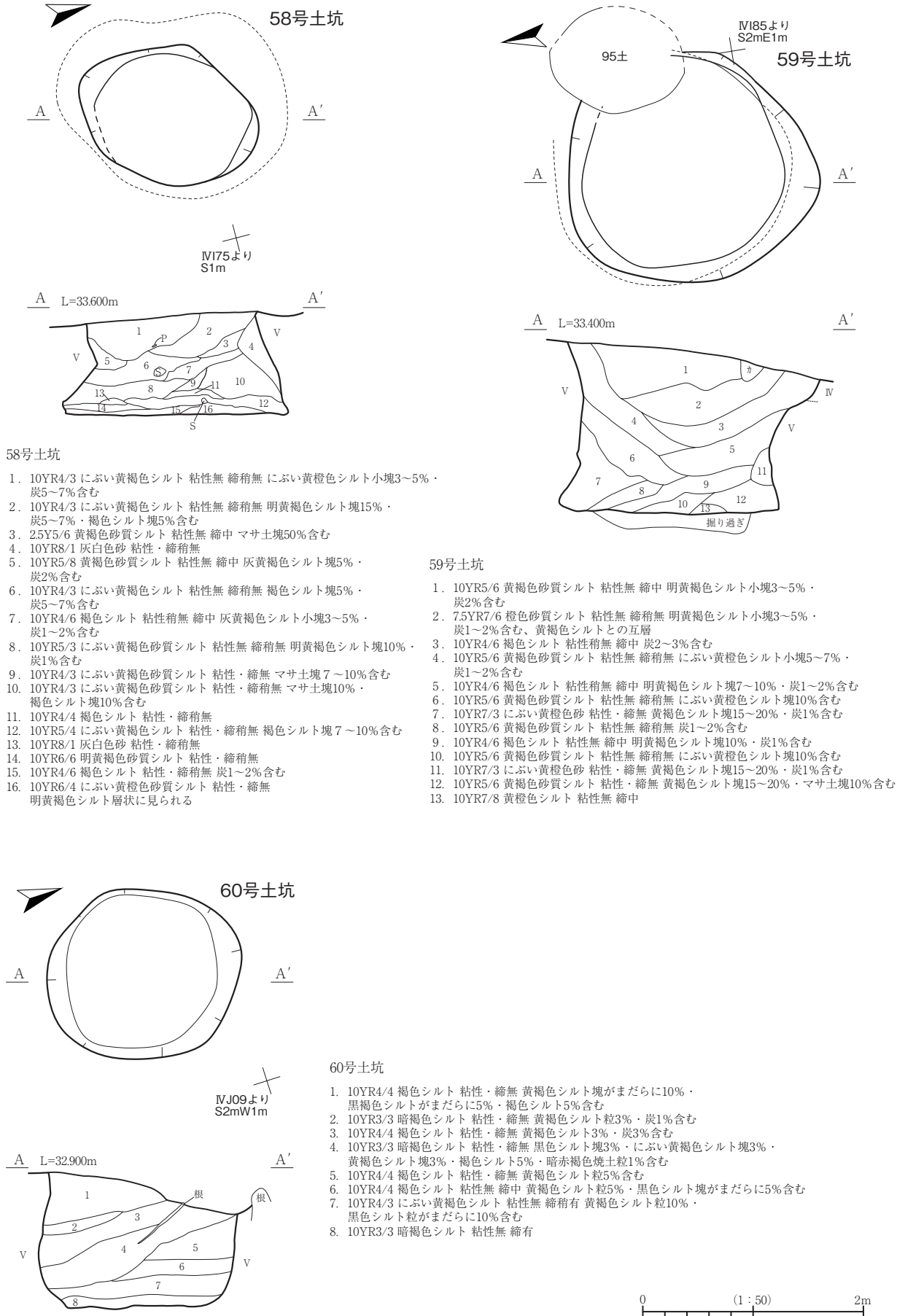
57号土坑

1. 7.5YR6/8 橙色シルト 粘性無 縮有 炭7~10% 明黄褐色シルト小塊との混合層
2. 10YR6/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 縮稍無 灰黄褐色シルト小塊7%・マサ土含む
3. 10YR4/6 褐色シルト 粘性稍無 縮稍有 下部に炭5%含む
4. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 縮稍有
5. 2.5YR5/6 明赤褐色砂質シルト 粘性・縮無 マサ土含む
6. 10YR7/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性・縮無 明黄褐色シルトとの混合層
7. 10YR7/6 明黄褐色砂質シルト 粘性無 縮稍無 褐色シルト塊10~15%含む
8. 7.5YR6/6 橙色シルト 粘性無 縮稍有 炭1%含む



第57図 縄文時代の土坑類 15





58号土坑

1. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性無 締稍無 におい黄橙色シルト小塊3~5%・炭5~7%含む
2. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性無 締稍無 明黄褐色シルト塊15%・炭5~7%・褐色シルト塊5%含む
3. 2.5Y5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 マサ土塊50%含む
4. 10YR8/1 灰白色砂 粘性・締稍無
5. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 灰黄褐色シルト塊5%・炭2%含む
6. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性無 締稍無 褐色シルト塊5%・炭5~7%含む
7. 10YR4/6 褐色シルト 粘性稍無 締中 灰黄褐色シルト小塊3~5%・炭1~2%含む
8. 10YR5/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍無 明黄褐色シルト塊10%・炭1%含む
9. 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性・締無 マサ土塊7~10%含む
10. 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性・締稍無 マサ土塊10%・褐色シルト塊10%含む
11. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締稍無
12. 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性・締稍無 褐色シルト塊7~10%含む
13. 10YR8/1 灰白色砂 粘性・締稍無
14. 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性・締稍無
15. 10YR4/6 褐色シルト 粘性・締稍無 炭1~2%含む
16. 10YR6/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性・締無 明黄褐色シルト層状に見られる

59号土坑

1. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 明黄褐色シルト小塊3~5%・炭2%含む
2. 7.5YR7/6 橙色砂質シルト 粘性無 締稍無 明黄褐色シルト小塊3~5%・炭1~2%含む、黄褐色シルトとの互層
3. 10YR4/6 褐色シルト 粘性稍無 締中 炭2~3%含む
4. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍無 におい黄橙色シルト小塊5~7%・炭1~2%含む
5. 10YR4/6 褐色シルト 粘性稍無 締中 明黄褐色シルト塊7~10%・炭1~2%含む
6. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍無 におい黄橙色シルト塊10%含む
7. 10YR7/3 におい黄橙色砂 粘性・締無 黄褐色シルト塊15~20%・炭1%含む
8. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍無 炭1~2%含む
9. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締中 明黄褐色シルト塊10%・炭1%含む
10. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍無 におい黄橙色シルト塊10%含む
11. 10YR7/3 におい黄橙色砂 粘性・締無 黄褐色シルト塊15~20%・炭1%含む
12. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性・締無 黄褐色シルト塊15~20%・マサ土塊10%含む
13. 10YR7/8 黄褐色シルト 粘性無 締中

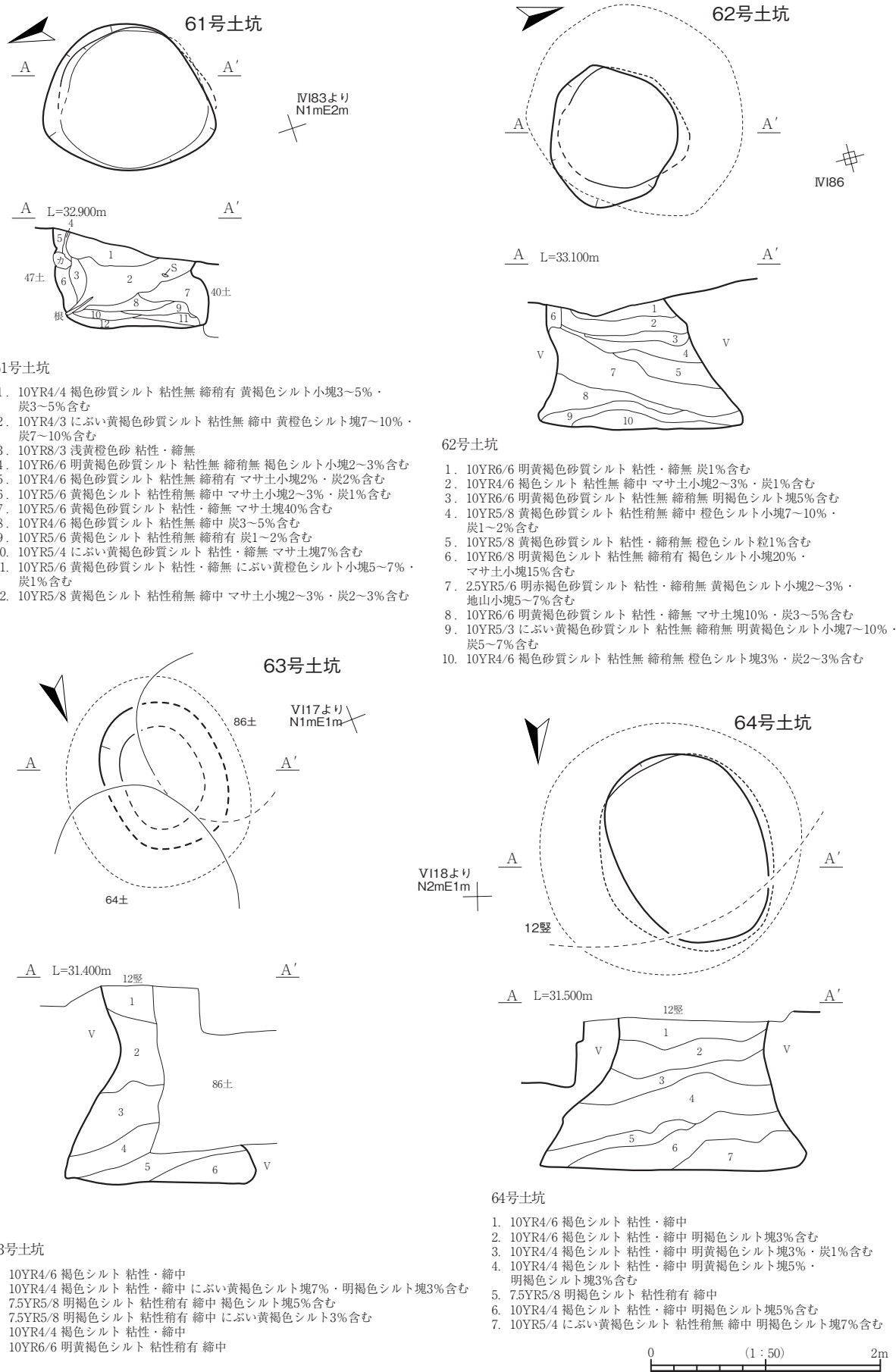
60号土坑

60号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締無 黄褐色シルト塊がまだらに10%・黒褐色シルトがまだらに5%・褐色シルト5%含む
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・締無 黄褐色シルト粒3%・炭1%含む
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締無 黄褐色シルト3%・炭3%含む
4. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・締無 黒色シルト塊3%・におい黄褐色シルト塊3%・黄褐色シルト塊3%・褐色シルト5%・暗赤褐色焼土粒1%含む
5. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締無 黄褐色シルト粒5%含む
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締中 黄褐色シルト粒5%・黒色シルト塊がまだらに5%含む
7. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性無 締稍有 黄褐色シルト粒10%・黒色シルト粒がまだらに10%含む
8. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締有

第58図 縄文時代の土坑類 16

2 検出遺構



61号土坑

1. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締縮有 黄褐色シルト小塊3~5%・炭3~5%含む
2. 10YR4/3 黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 黄褐色シルト塊7~10%・炭7~10%含む
3. 10YR8/3 浅黄橙色砂 粘性・締無
4. 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性無 締縮無 褐色シルト小塊2~3%含む
5. 10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性無 締縮有 マサ土小塊2%・炭2%含む
6. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締中 マサ土小塊2~3%・炭1%含む
7. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性・締無 マサ土塊40%含む
8. 10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性無 締中 炭3~5%含む
9. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性稍無 締縮有 炭1~2%含む
10. 10YR5/4 黄褐色砂質シルト 粘性・締無 マサ土塊7%含む
11. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性・締無 黄褐色シルト小塊5~7%・炭1%含む
12. 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性稍無 締中 マサ土小塊2~3%・炭2~3%含む

62号土坑

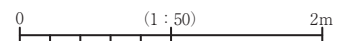
1. 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性・締無 炭1%含む
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締中 マサ土小塊2~3%・炭1%含む
3. 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性無 締縮無 明褐色シルト塊5%含む
4. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト 粘性稍無 締中 橙色シルト小塊7~10%・炭1~2%含む
5. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト 粘性・締縮無 橙色シルト粒1%含む
6. 10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性無 締縮有 褐色シルト小塊20%・マサ土小塊15%含む
7. 2.5YR5/6 明赤褐色砂質シルト 粘性・締縮無 黄褐色シルト小塊2~3%・地山小塊5~7%含む
8. 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性・締無 マサ土塊10%・炭3~5%含む
9. 10YR5/3 黄褐色砂質シルト 粘性無 締縮無 明黄褐色シルト小塊7~10%・炭5~7%含む
10. 10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性無 締縮無 橙色シルト塊3%・炭2~3%含む

63号土坑

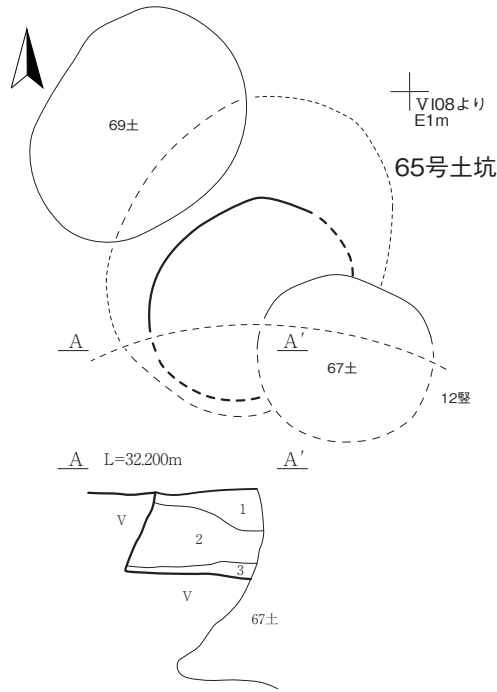
1. 10YR4/6 褐色シルト 粘性・締中
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 黄褐色シルト塊7%・明褐色シルト塊3%含む
3. 7.5YR5/8 明褐色シルト 粘性稍有 締中 褐色シルト塊5%含む
4. 7.5YR5/8 明褐色シルト 粘性稍有 締中 黄褐色シルト3%含む
5. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中
6. 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性稍有 締中

64号土坑

1. 10YR4/6 褐色シルト 粘性・締中
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性・締中 明褐色シルト塊3%含む
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 明黄褐色シルト塊3%・炭1%含む
4. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 明黄褐色シルト塊5%・明褐色シルト塊3%含む
5. 7.5YR5/8 明褐色シルト 粘性稍有 締中
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 明褐色シルト塊5%含む
7. 10YR5/4 黄褐色シルト 粘性稍無 締中 明褐色シルト塊7%含む

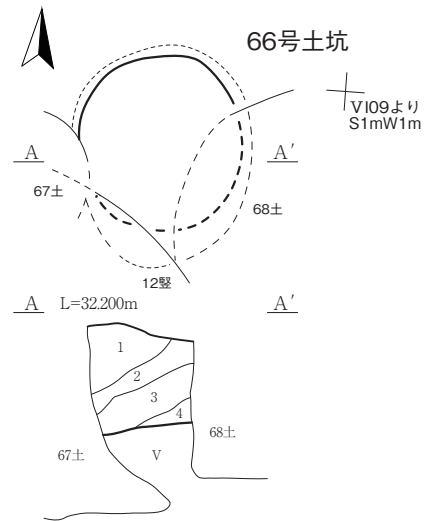


第59図 縄文時代の土坑類 17



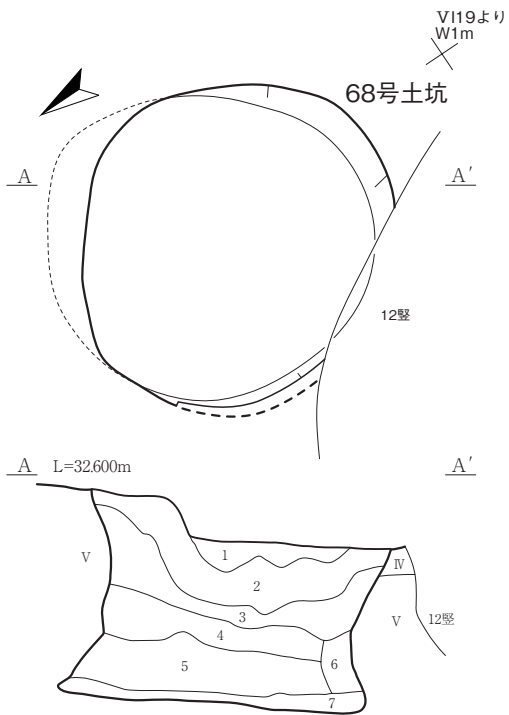
65号土坑

1. 10YR4/6 褐色シルト 粘性・締中
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 明褐色シルト塊5%・  
にぶい黄褐色シルト塊3%含む
3. 7.5YR5/8 明褐色シルト 粘性稍有 締中



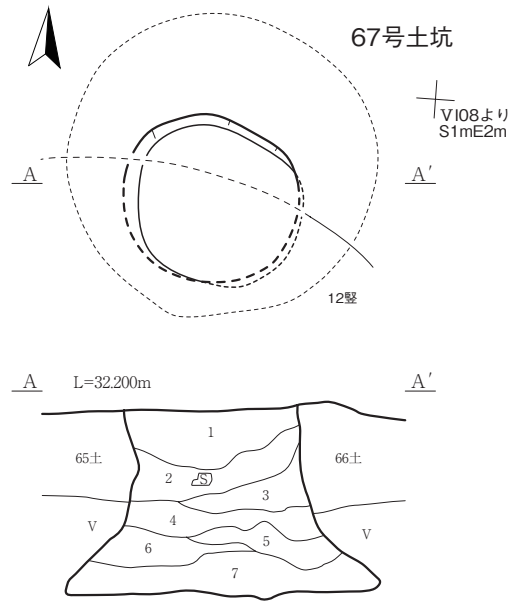
66号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 にぶい黄褐色シルト塊5%含む
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 締稍有 明黄褐色シルト塊2%含む
4. 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性稍無 締稍有



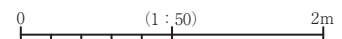
68号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 黒褐色シルト塊2%含む
3. 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性稍無 締中
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性稍無 締中 明黄褐色シルト塊3%含む
5. 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性稍無 締中 にぶい黄褐色シルト塊5%含む
6. 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性・締稍無
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性稍無 締中



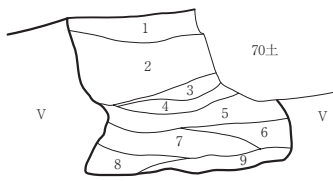
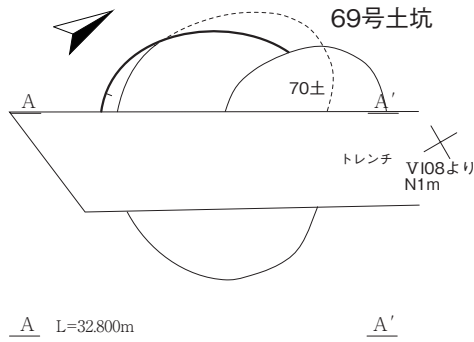
67号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 暗褐色シルト塊7%・炭2%含む
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締中 褐色シルト塊5%・炭3%含む
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中
4. 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性中 締稍有  
褐色シルト塊7%含む
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性稍無 締中 褐色シルト塊2%・  
明黄褐色シルト塊1%含む
6. 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性稍無 締稍有
7. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締稍有 炭化物5%・  
褐色シルト塊3%・にぶい黄褐色シルト塊2%含む



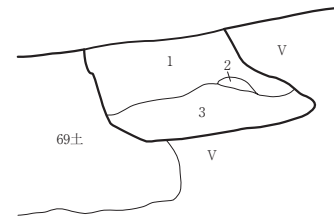
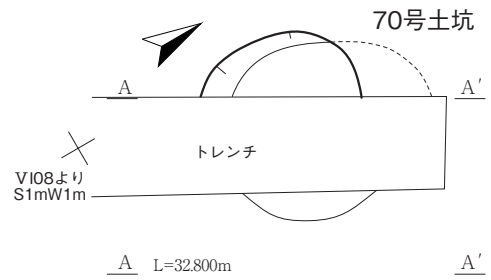
第60図 縄文時代の土坑類 18

2 検出遺構



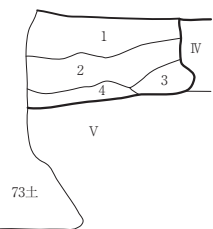
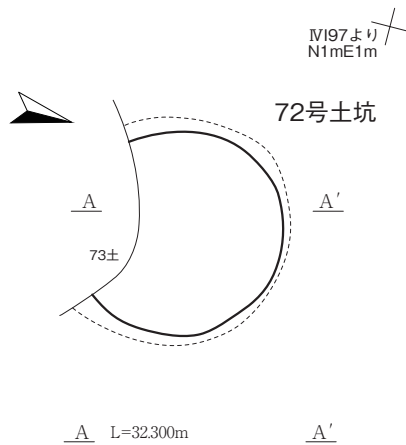
69号土坑

1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 締有 炭5%含む
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 明赤褐色焼土粒3%・炭10%含む
3. 5YR5/6 暗褐色シルト 粘性稍無 締有 炭3%含む
4. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 締有 炭3%含む
5. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締有 にぶい黄褐色砂質シルト30%・炭3%含む
6. 10YR6/4 にぶい黄橙色砂質シルト 粘性無 締稍無
7. 10YR4/4 褐色シルトと5YR5/6 明赤褐色シルトとの混合土 粘性無 締有 にぶい橙色シルト10%・炭5%含む
8. 7.5YR6/4 にぶい橙色砂質シルトと5YR5/6 明赤褐色シルトとの混合土 粘性無 締有 炭3%含む
9. 5YR6/8 橙色砂質シルト 粘性無 締有 5YR5/6 明赤褐色シルト10%・マサ土20%・炭1%含む



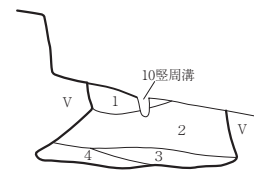
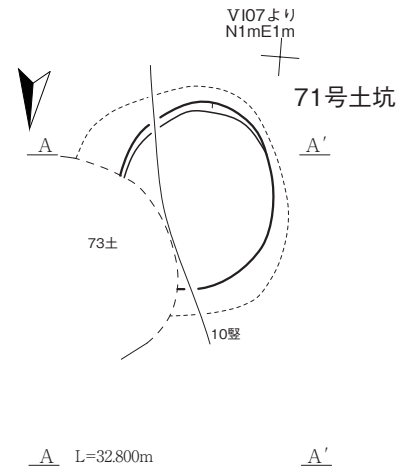
70号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締有 炭5%含む
2. 10YR7/4 にぶい黄橙色砂質シルト 粘性無 締有
3. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 締有 炭10%含む



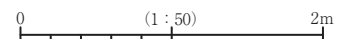
72号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 にぶい黄褐色シルト塊2%含む
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性稍無 締中
4. 7.5YR5/8 明褐色シルト 粘性稍有 締中

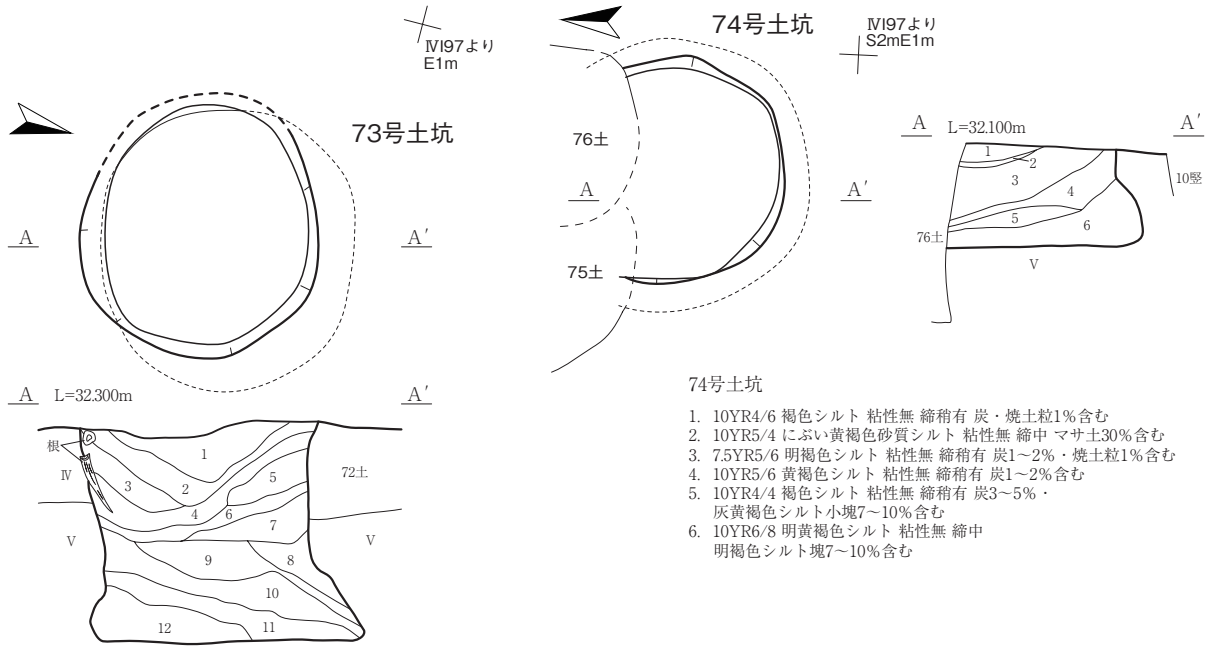


71号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性稍有 締中
2. 7.5YR5/8 明褐色シルト 粘性稍有 締中 炭3%含む
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性稍無 締中 明褐色シルト塊5%含む
4. 10YR4/4 褐色シルト 粘性稍有 締中 炭1%含む

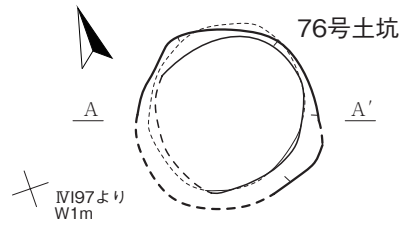


第61図 縄文時代の土坑類 19



73号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 炭1%含む
2. 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性稍無 締中
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 炭3%含む
4. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締中 炭5%含む
5. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 暗褐色シルト塊2%含む
6. 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性稍無 締中 褐色シルト塊5%含む
7. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 明褐色シルト塊3%含む
8. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締中
9. 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性稍無 締中 褐色シルト塊2%含む
10. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 明褐色シルト塊5%含む
11. 7.5YR5/8 明褐色シルト 粘性・締稍有 褐色シルト塊7%含む
12. 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 締稍有 明褐色シルト塊7%含む

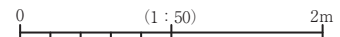


76号土坑

1. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性無 締稍有 炭2~3%含む、褐灰色シルトしみ状に見られる
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締稍有 明黄褐色シルト小塊7%・炭2%含む
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締稍有 明黄褐色シルト小塊3~5%・炭1%含む
4. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締稍有 黄褐色シルト塊25%・明黄褐色シルト小塊3~5%含む
5. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締稍有 におい黄褐色シルト小塊5%・炭1%含む
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締稍有 黄褐色シルト小塊3~5%・炭1~2%含む
7. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締稍有 におい黄褐色シルト小塊5%・炭1%含む
8. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性無 締中 褐色シルト塊10~15%・炭1%含む
9. 10YR5/8 黄褐色シルト黄褐色 粘性無 締中 炭1%・マサ土小塊1~2%含む
10. 10YR5/3 におい黄褐色シルト 粘性無 締中 褐色シルト塊10~15%・炭1~2%含む
11. 7.5YR5/8 明褐色シルト 粘性無 締中 におい黄褐色シルト小塊2~3%・炭1%含む

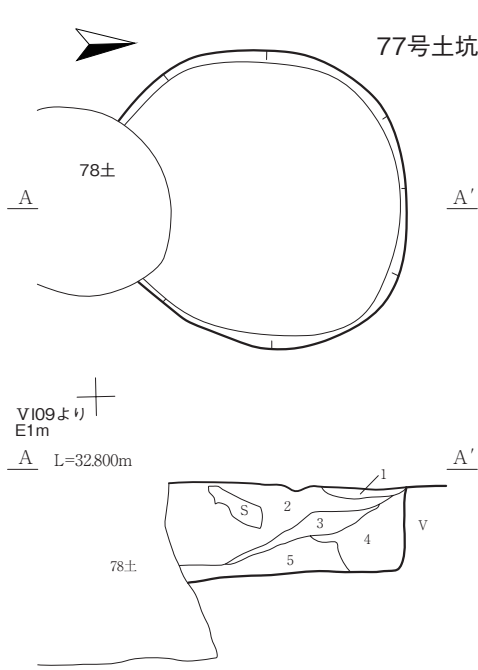
75号土坑

1. 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性無 締稍有 マサ土小塊5~7%含む
2. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締稍有 明褐色シルト小塊7~10%・炭1~2%含む、最下層に灰白色マサ土小塊含む
3. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締稍有 明褐色シルト小塊5%・炭3~5%含む、最下層に灰白色マサ土塊状にみられる
4. 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性無 締稍有 灰白色マサ土小塊3~5%・炭1~2%含む
5. 10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性無 締稍有 黄褐色シルト小塊5~7%含む
6. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締稍有
7. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 締稍有 明黄褐色シルト小塊2~3%含む
8. 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性無 締中 炭1~2%含む、明黄褐色シルトとの互層
9. 7.5YR5/8 明褐色シルト 粘性無 締稍有



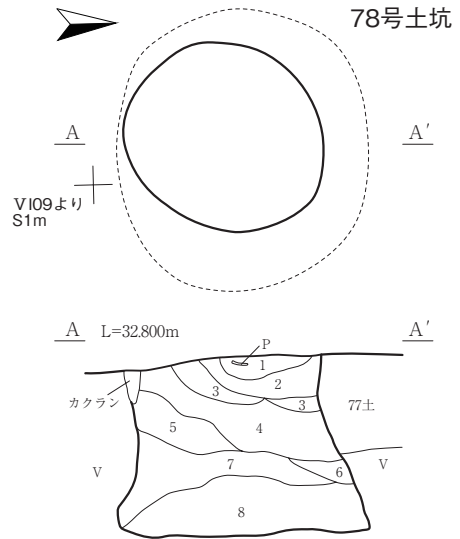
第62図 縄文時代の土坑類20

2 検出遺構



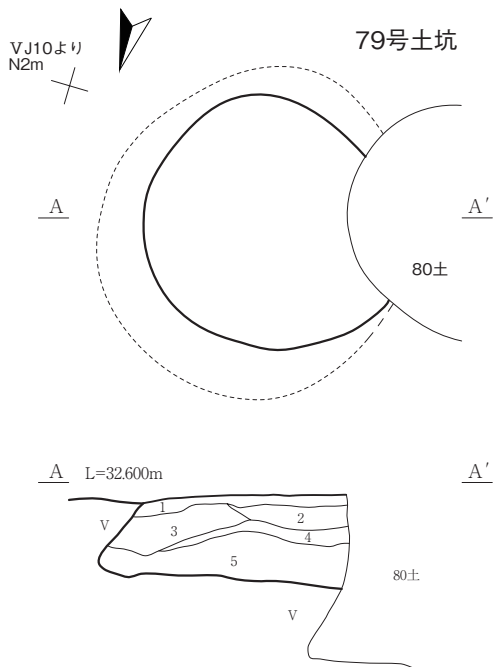
77号土坑

1. 10YR6/4 にぶい黄橙色砂質シルト 粘性・締無
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 にぶい黄褐色シルト20%・炭5%含む
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締有
4. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・締無
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルトと10YR4/4 褐色シルトとの混合土 粘性無 締稍無 炭1%含む



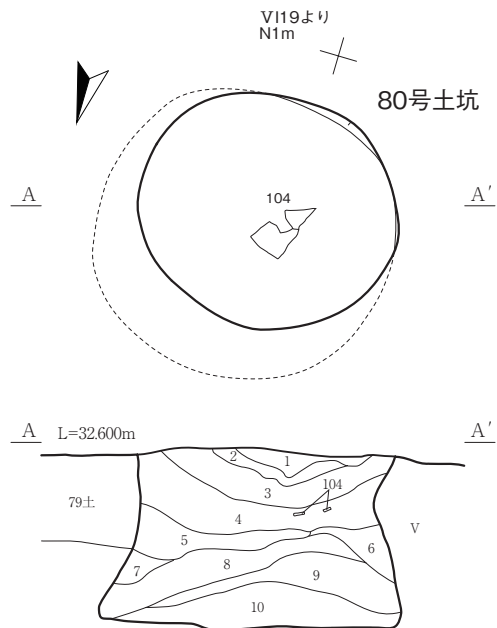
78号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 炭5%含む
2. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性無 締有 褐色シルトただらに10%・暗赤褐色シルト10%・炭10%含む
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 暗赤褐色シルト粒1%・炭3%含む
4. 10YR3/3 暗褐色シルトと10YR4/4 褐色との混合土 粘性無 締有 炭3%含む
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性無 締有 暗赤褐色シルト粒1%・炭1%含む
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有
7. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 炭1%含む



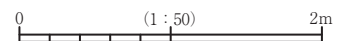
79号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有
2. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 にぶい黄褐色砂質シルトとの混合土層
3. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締有 炭3%含む
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性無 締稍有 炭1%含む
5. 10YR4/4 褐色シルトと10YR5/4 にぶい黄褐色シルトとの混合土 粘性無 締有 炭3%含む



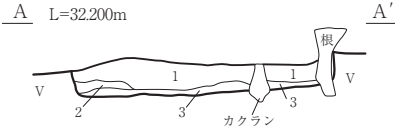
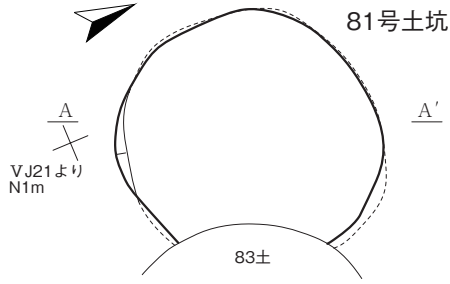
80号土坑

1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性無 締有 赤褐色シルト粒1%・炭10%含む
2. 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性無 締有 炭10%含む
3. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締有 黒褐色シルト10%・赤褐色シルト粒3%・炭10%含む
4. 10YR4/4 褐色シルトと10YR3/3 暗褐色シルトとの混合土 粘性無 締有 にぶい黄褐色シルト10%含む
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルトと10YR5/6 黄褐色シルトとの混合土 粘性無 締有 褐色シルト10%含む
6. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中
7. 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性無 締中 炭1%含む
8. 10YR4/4 褐色シルトと10YR4/3 にぶい黄褐色シルトとの混合土 粘性無 締有 黄褐色シルト粒1%・炭3%含む
9. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中
10. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・締無 暗褐色シルト10%・炭3%含む



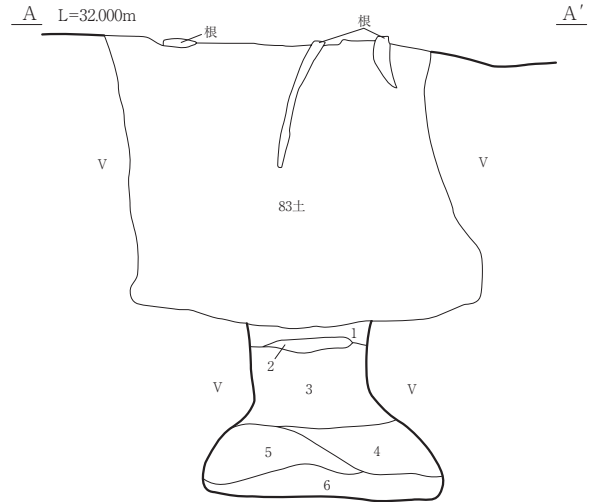
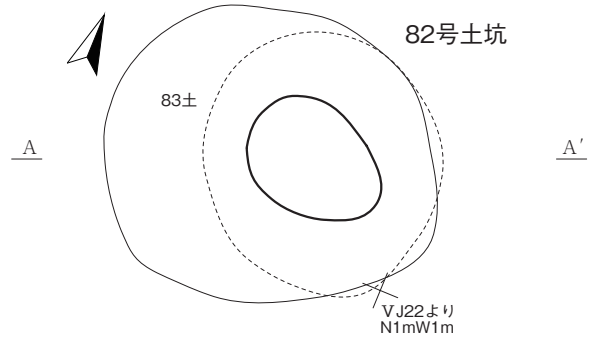
第63図 縄文時代の土坑類21





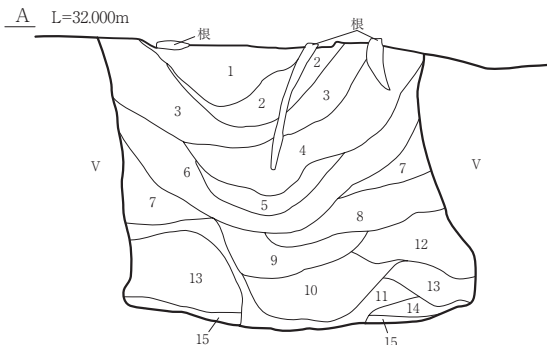
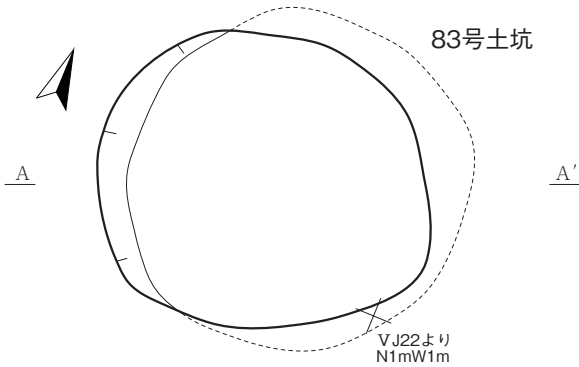
81号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 炭7%含む
2. 10YR6/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 褐色シルト5%含む
3. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締有 におい黄褐色シルト10%含む



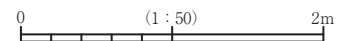
82号土坑

1. 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性・締無
2. 10YR6/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性・締無
3. 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性・締無 炭3%含む
4. 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性・締無
5. 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性・締無 炭3%含む
6. 10YR5/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性・締無



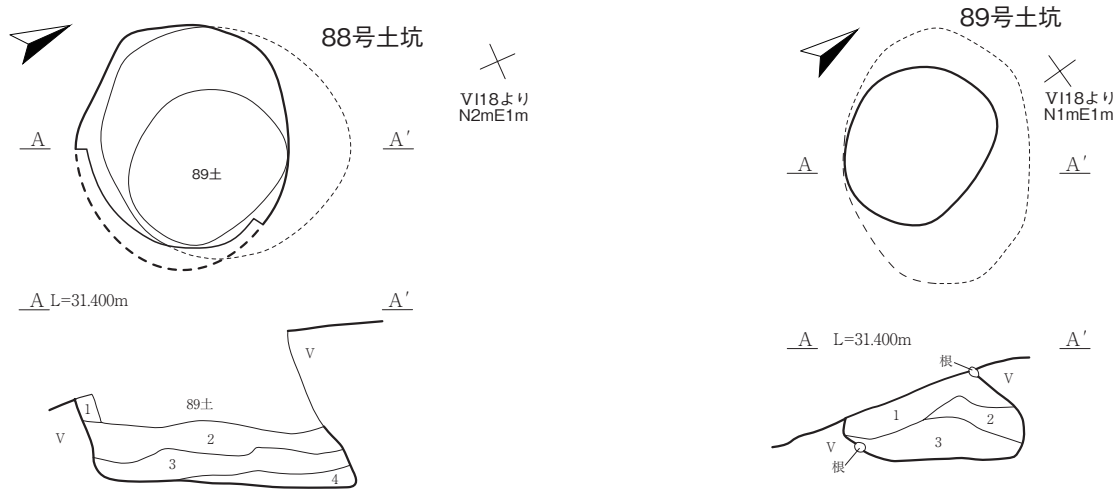
83号土坑

1. 10YR17/1 黒色シルト 粘性無 締稍無 明黄褐色シルト粒10%・明黄褐色シルト5%・赤褐色焼土粒1%・炭1%含む
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締有 黒褐色シルト40%・炭10%含む
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 炭10%含む
4. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 褐色シルト40%・赤褐色焼土粒1%・炭15%含む
5. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締有 褐色シルト30%・明黄褐色シルト粒がまだらに10%・炭10%含む
6. 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 炭1%含む
7. 10YR6/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中
8. 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 褐色シルト10%・炭3%含む
9. 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 炭3%含む
10. 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルトと10YR4/4 褐色シルトとの混合土 粘性無 締中
11. 10YR5/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 炭3%含む
12. 10YR7/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中
13. 10YR6/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中
14. 10YR6/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中
15. 10YR4/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 褐色砂質シルト40%含む



第64図 縄文時代の土坑類22



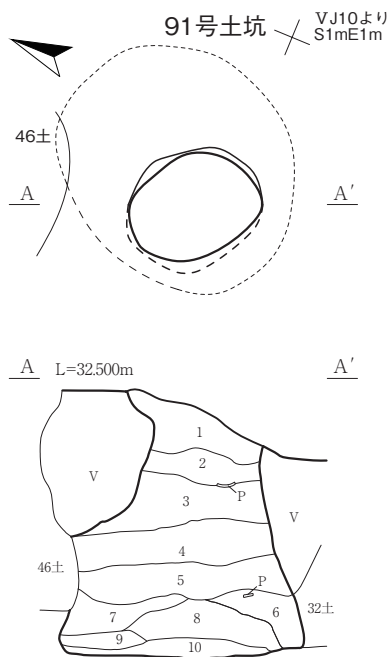


88号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性・締中 明褐色シルト塊5%含む
3. 7.5YR5/8 明褐色シルト 粘性稍有 締中 褐色シルト塊7%・  
にぶい黄褐色シルト塊3%含む
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性稍有 締中 明褐色シルト塊2%含む

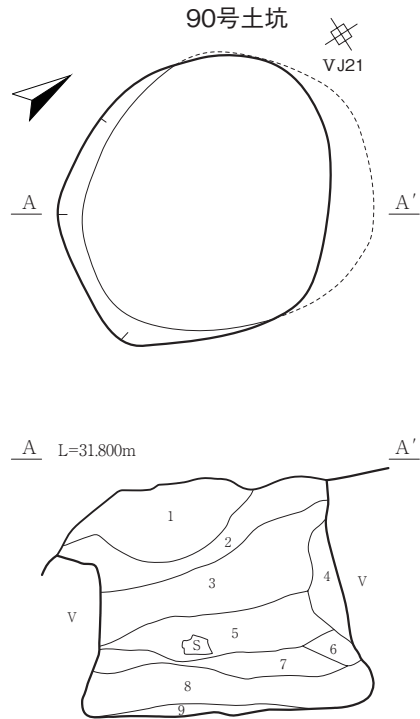
89号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性稍無 締中 褐色シルト塊2%含む
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 にぶい黄褐色シルト塊3%含む



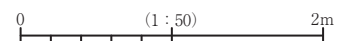
91号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 黒褐色シルト30%・炭15%含む
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 締有 にぶい黄褐色砂質シルト20%・炭3%含む
3. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締有 黒色シルト5%・炭7%含む
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性無 締中 にぶい黄褐色シルト40%・  
明黄褐色シルト5%・炭5%含む
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性無 締稍有 明黄褐色シルト5%・炭3%含む
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 炭1%含む
7. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・締無
8. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍有 にぶい黄褐色砂質シルト10%含む
9. 10YR7/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍無
10. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 にぶい黄褐色砂質シルト40%含む



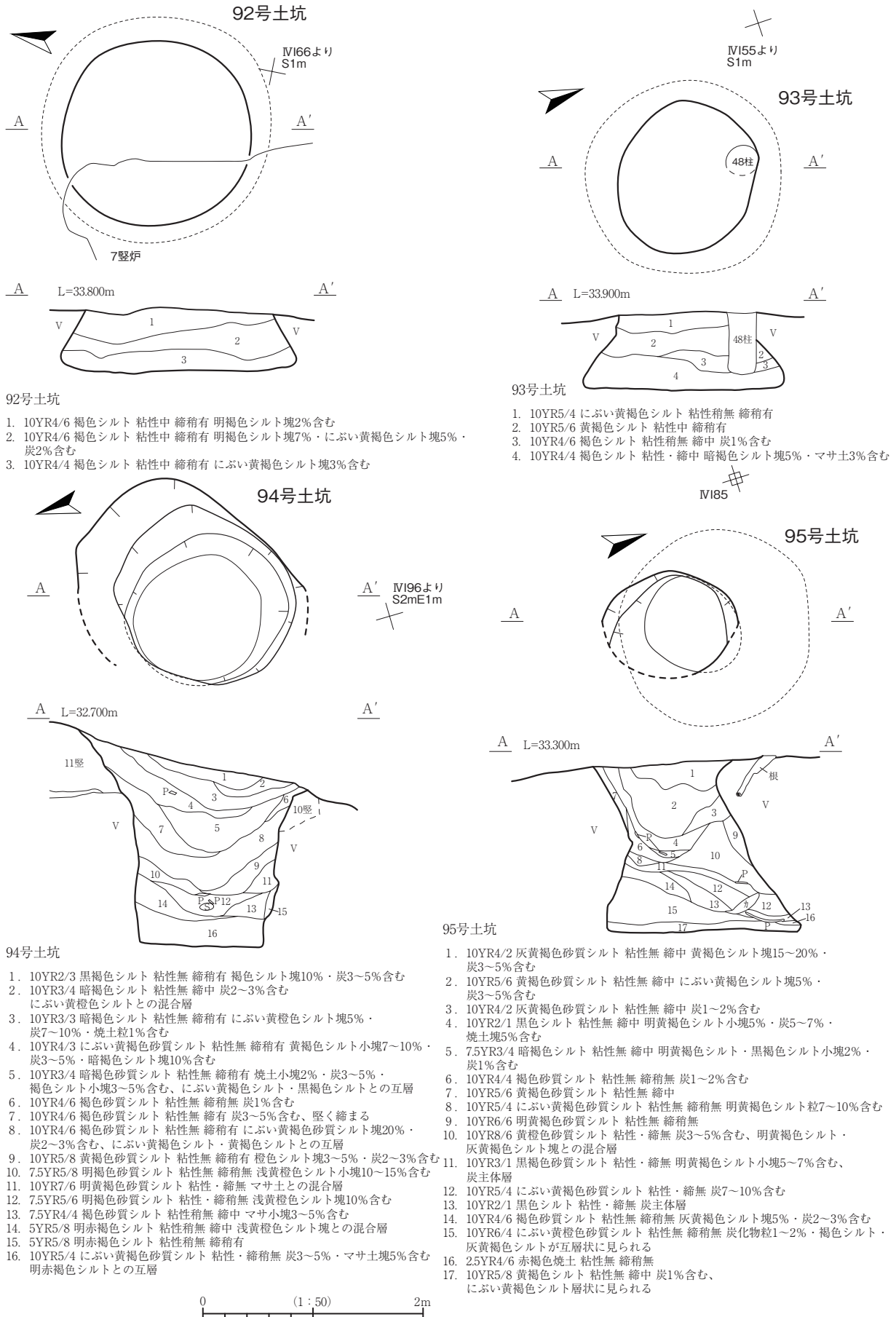
90号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色シルトと10YR7/6 明黄褐色砂質シルトと10YR4/6 褐色  
シルトとの混合土 粘性・締無 明黄褐色シルト粒1%・炭10%含む
2. 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 赤褐色焼土粒1%・炭3%含む
3. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍有
4. 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性無 締有 暗褐色シルト10%・赤褐色焼土粒1%・  
炭5%含む
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 褐色シルト30%・マサ土・  
焼土粒1%・炭3%含む
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締有
7. 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性無 締有 炭1%含む  
明褐色シルトとの混合土層
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍有 にぶい黄褐色シルト5%・  
明黄褐色シルト粒1%含む
9. 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍無

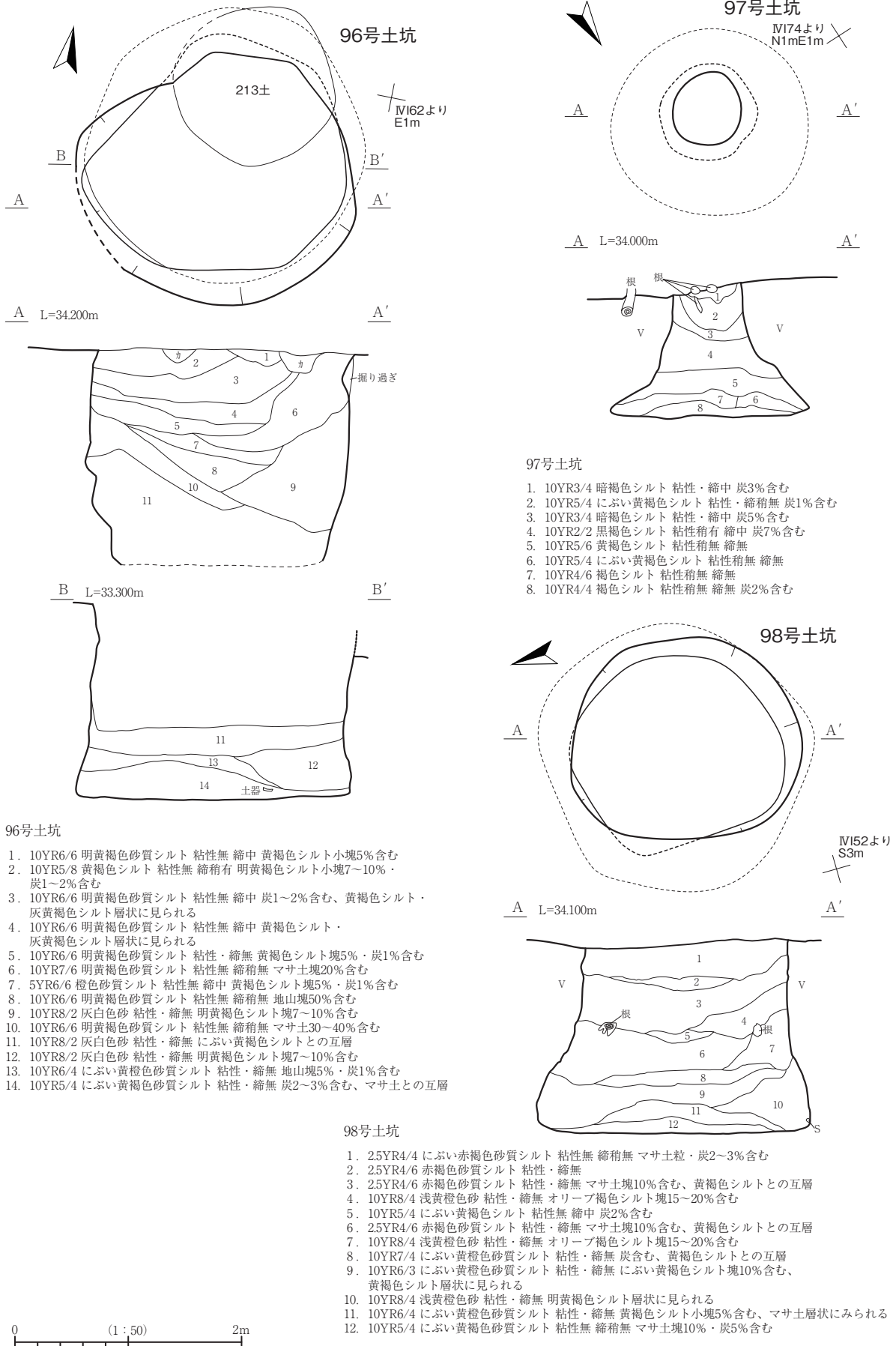


第66図 縄文時代の土坑類24

2 検出遺構

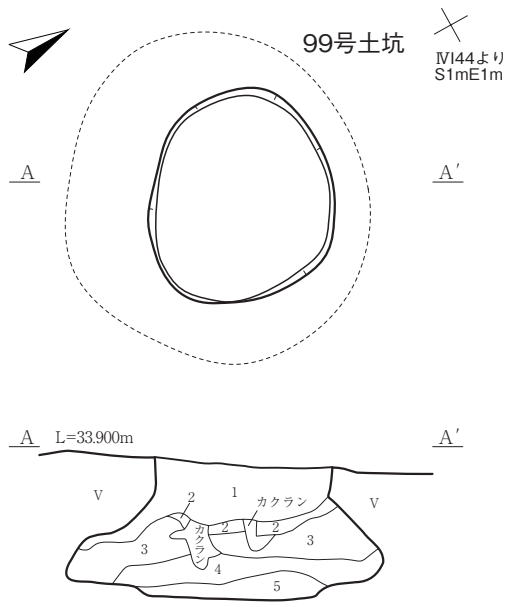


第67図 縄文時代の土坑類25



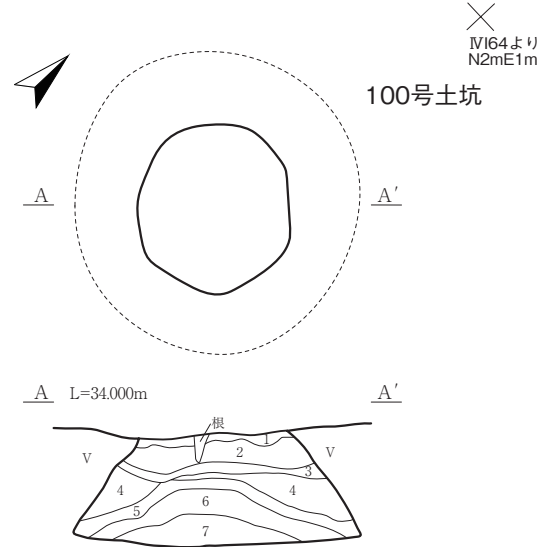
第68図 縄文時代の土坑類26

2 検出遺構



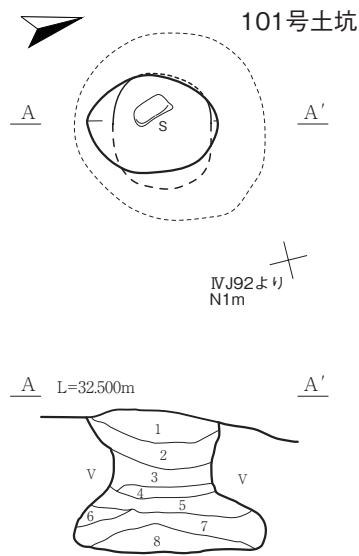
99号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締中 炭10%含む
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性・締中
3. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性稍無 締中 褐色シルト塊5%・マサ土3%含む
4. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性稍無 締中 炭5%含む
5. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性稍有 締中



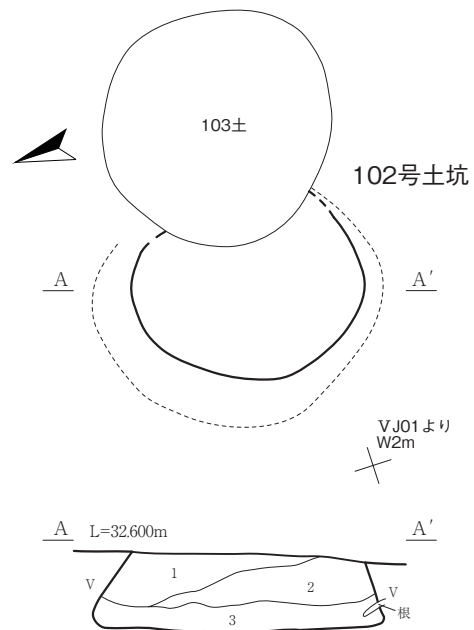
100号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・締中 炭5%含む
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締中 炭1%含む
3. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性稍無 締中 炭3%含む
4. 10YR4/6 褐色シルト 粘性稍無 締中
5. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締中 炭2%含む
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性稍無 締中 褐色シルト塊3%含む
7. 10YR4/4 褐色シルト 粘性稍無 締中



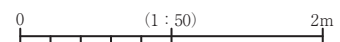
101号土坑

1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性無 締有 明赤褐色焼土粒1%・炭20%含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性無 締有 黄褐色シルトがまだらに5%・炭20%含む
3. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 炭3%含む
4. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性無 締中 黄褐色砂質シルト5%・炭3%含む
5. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 炭5%含む
6. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・締無 炭10%含む
7. 7.5YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 締中 黒褐色シルト5%・炭1%含む
8. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・締無 暗褐色シルト10%含む



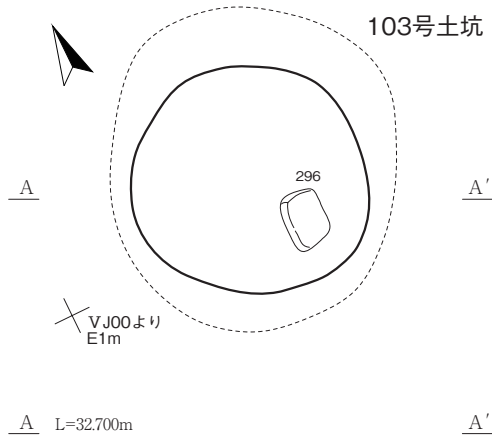
102号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルトと7.5YR6/6 にぶい黄褐色シルトとの混合土 粘性無 締有 炭3%含む
2. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締有 炭1%含む
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性無 締有



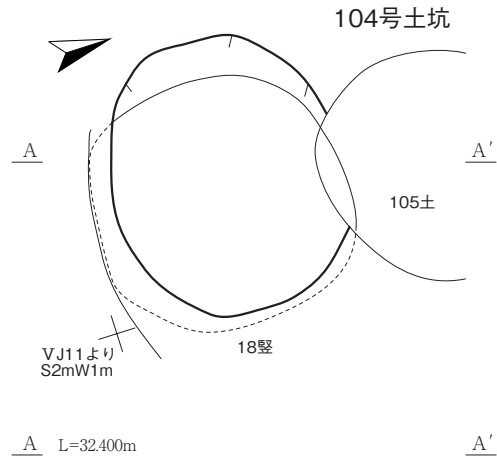
第69図 縄文時代の土坑類27





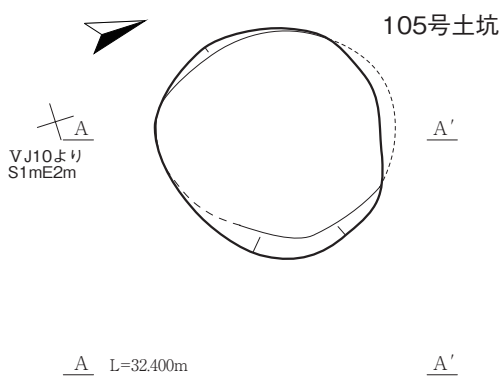
103号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締有 褐色シルト10%・炭5%含む
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 締有 褐色シルト10%・炭5%含む
3. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締有 暗褐色シルト5%・炭3%含む
4. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締有
5. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締中 黄褐色シルト塊3%含む
6. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性無 締中 炭1%含む



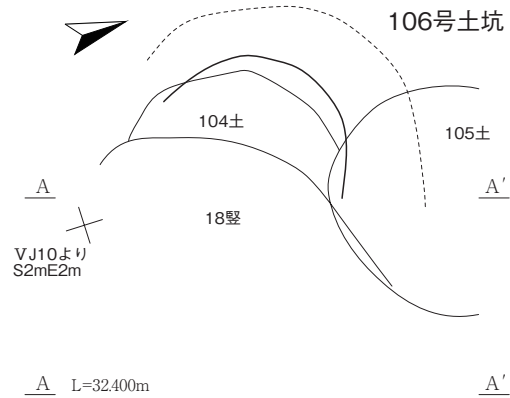
104号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締有 炭5%含む
2. 7.5YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締有 褐色シルトがまだらに10%・炭5%含む
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 炭5%含む
4. 10YR7/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性・締無
5. 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 暗褐色シルト含む
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 におい黄褐色砂質シルトがまだらに10%・炭3%含む
7. 10YR7/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性・締無



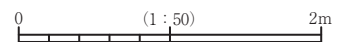
105号土坑

1. 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中
2. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 におい黄褐色砂質シルト5%・炭1%含む



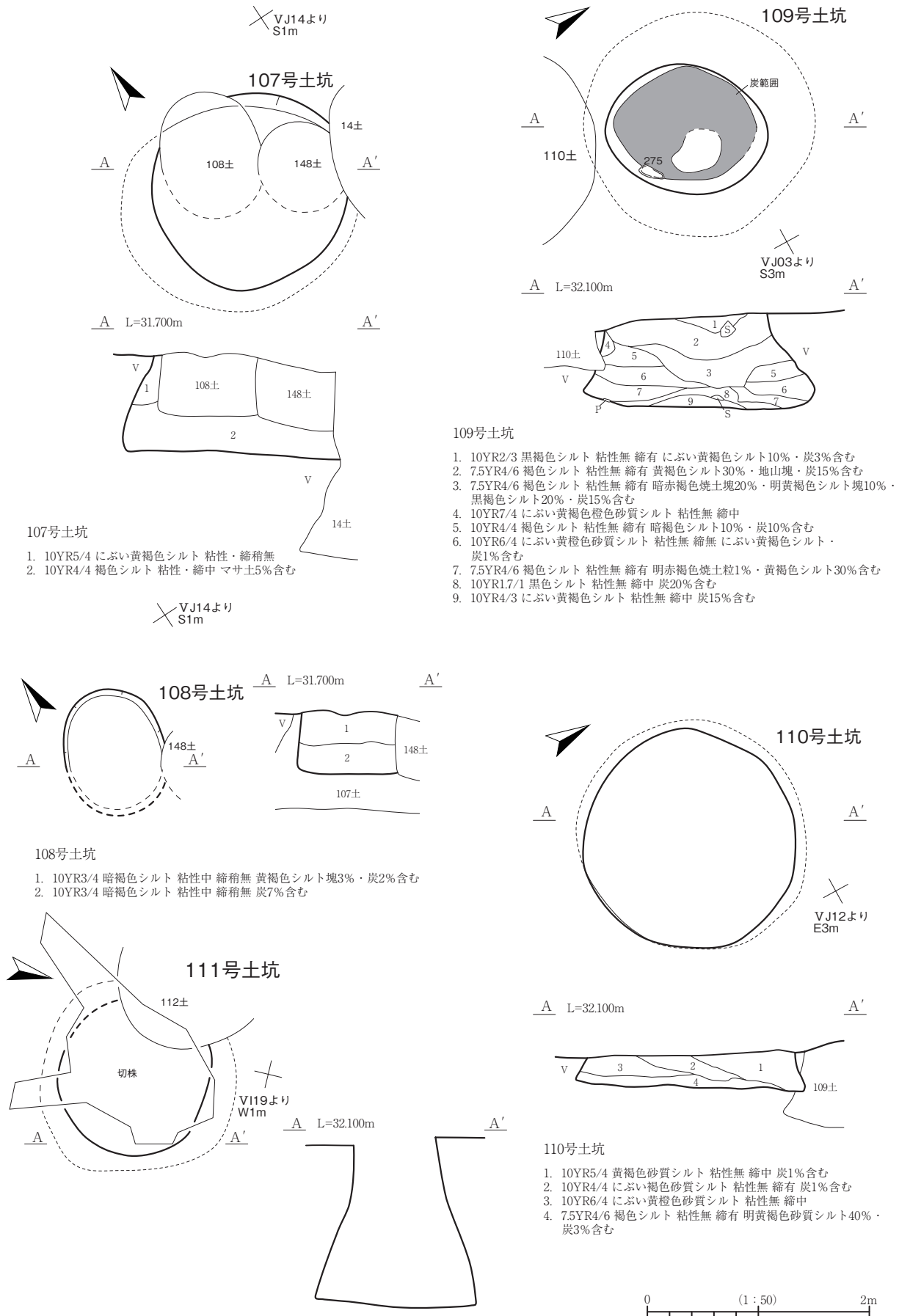
106号土坑

1. 10YR5/3 におい黄褐色砂質シルト 粘性・締無 炭1%含む

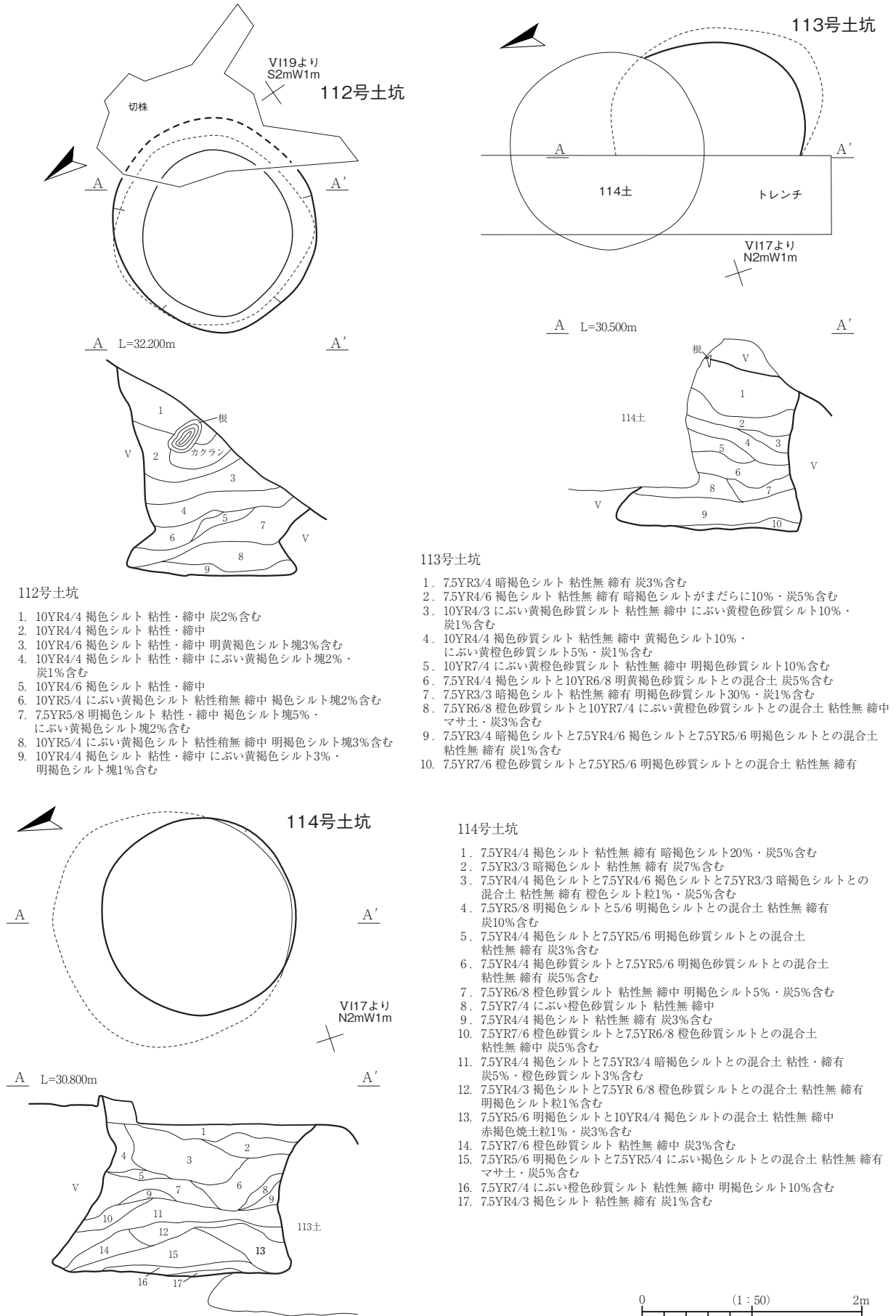


第70図 縄文時代の土坑類28

2 検出遺構

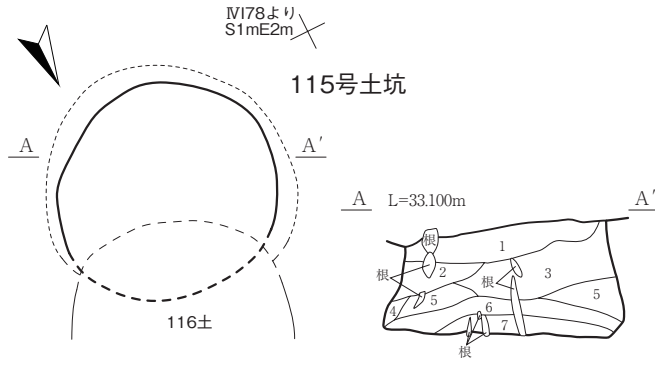


第71図 縄文時代の土坑類29



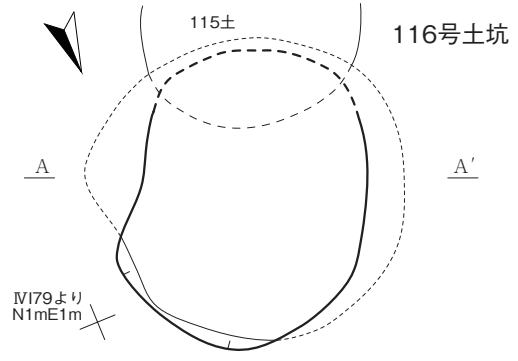
第72図 縄文時代の土坑類30

2 検出遺構



115号土坑

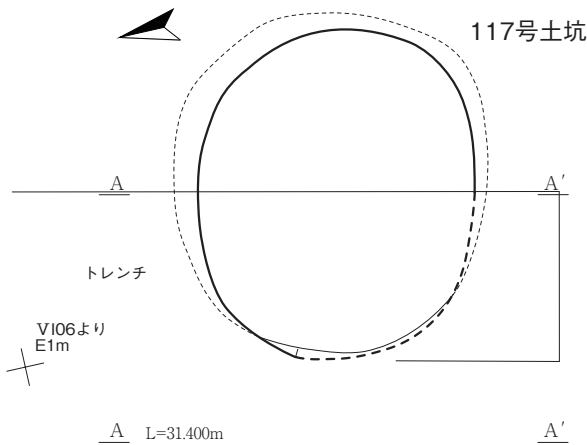
1. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締中 炭1%含む
2. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中
4. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締中 炭1%含む
5. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中
6. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締有
7. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締中



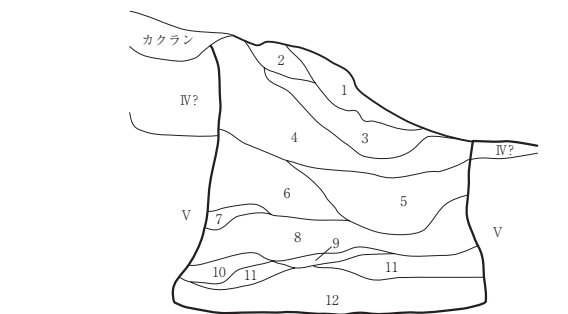
116号土坑

116号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルトと10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルトとの互層 粘性無 締有 にぶい黄褐色砂質シルト5%・炭3%含む
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍有 にぶい黄褐色砂質シルト10%含む
3. 10YR8/4 浅黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍無
4. 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 にぶい黄褐色砂質シルト5%・炭1%含む
5. 10YR8/4 浅黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍無 にぶい黄褐色砂質シルト20%含む
6. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締中 にぶい黄褐色シルト30%・ にぶい黄褐色砂質シルト10%・炭7%含む
7. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締有 炭7%含む

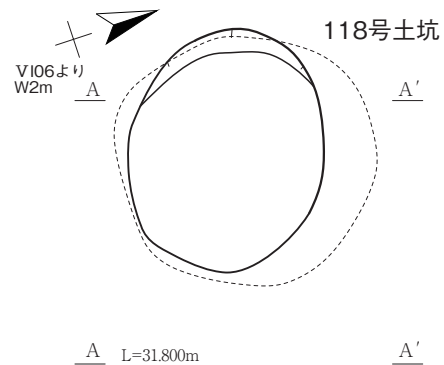


117号土坑



117号土坑

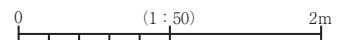
1. 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性無 締中 橙色シルト粒1%・黄褐色シルト粒1%含む
2. 7.5YR5/6 明褐色砂質シルト 粘性無 締中 炭3%含む
3. 7.5YR7/8 橙色砂質シルトと5/6 明黄褐色砂質シルトとの混合土 粘性無 締中 炭5%含む
4. 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性中 締有 暗褐色シルト40%・黄褐色シルト粒3%・炭10%含む
5. 7.5YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締有 黄褐色シルト粒1%・明黄褐色シルト粒1%・暗赤褐色シルト粒1%・炭15%含む
6. 10YR5/8 黄褐色シルトと7.5YR4/4 褐色シルトの混合土 粘性中 締有 炭7%含む
7. 7.5YR6/8 橙色砂質シルトと10YR6/8 明黄褐色砂質シルトの混合土 粘性中 締有
8. 7.5YR5/6 明褐色シルトと10YR4/6 褐色シルトとの混合土 粘性中 締有 炭15%含む
9. 7.5YR5/6 明褐色シルト 粘性中 締有 炭1%含む
10. 7.5YR6/8 橙色砂質シルトと10YR6/8 明黄褐色砂質シルトの混合土 粘性中 締有
11. 7.5YR5/6 明褐色シルトと10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルトとの混合土 粘性無 締中 炭10%含む
12. 7.5YR4/4 褐色シルトと10YR4/6 褐色シルトとの混合土 粘性中 締有 明黄褐色砂質シルト10%・炭10%含む



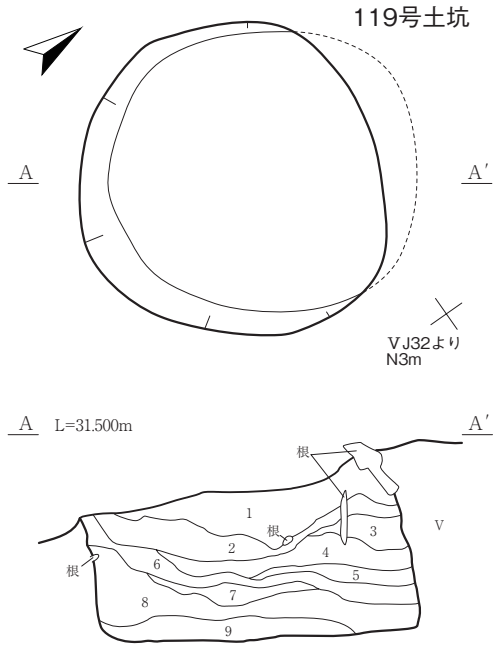
118号土坑

118号土坑

1. 7.5YR6/8 褐色シルト 粘性無 締稍無 浅黄褐色砂との混合層
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性稍無 締中 にぶい黄褐色シルト塊3~5%・炭1%含む
3. 10YR4/6 褐色シルト 粘性稍無 締中 浅黄色シルト粒塊10~15%含む

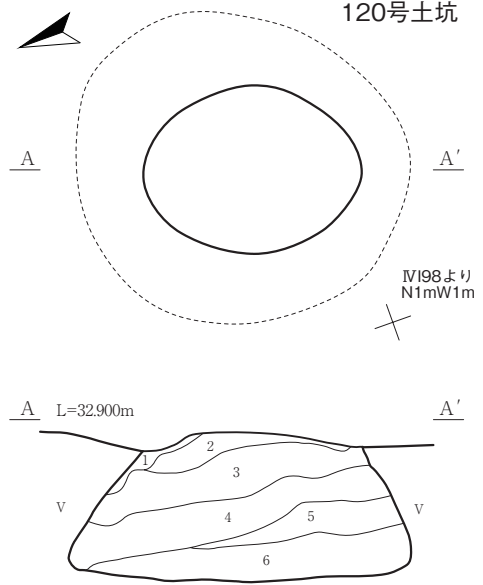


第73図 縄文時代の土坑類31



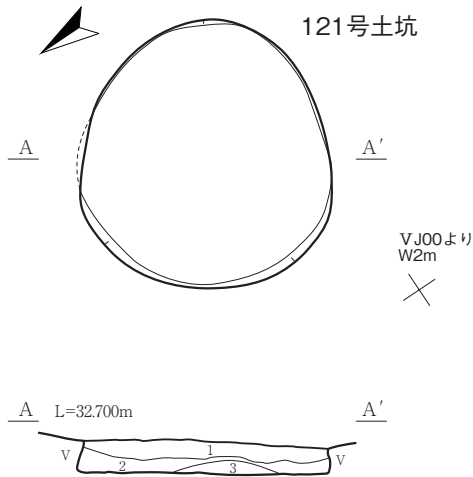
119号土坑

1. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性・縮無 明黄褐色シルトが带状に10%・炭1%含む
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 縮有 黒褐色シルト10%・炭7%含む
3. 10YR6/4 におい黄橙色砂質シルト 粘性・縮無
4. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 縮有 炭5%含む
5. 10YR6/4 におい黄橙色砂質シルト 粘性・縮無
6. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性無 縮有 マサ土・炭5%含む 褐色シルトとの2層からなる
7. 10YR5/4 におい黄褐色砂質シルト 粘性・縮無
8. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性無 縮有 マサ土・炭3%含む
9. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 縮有 マサ土・炭5%含む



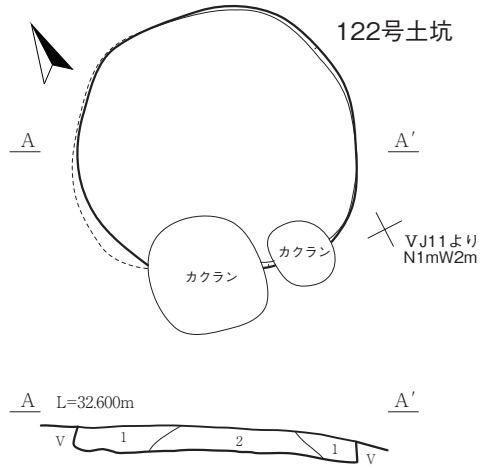
120号土坑

1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性無 縮有 赤褐色焼土粒3%・炭5%含む
2. 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性稍無 縮有 炭5%・赤褐色焼土粒3%含む
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 縮有 褐色シルトがまだらに30%・赤褐色焼土粒1%・炭5%含む
4. 7.5YR5/6 明褐色シルト 粘性無 縮有 炭3%含む 褐色シルトが互層状に見られる
5. 10YR4/3 におい黄褐色シルト 粘性無 縮有 褐色シルト20%・炭5%含む
6. 10YR4/4 褐色シルトと10YR4/3 におい黄褐色シルトとの混合土 粘性無 縮有 炭5%含む



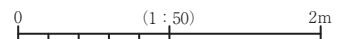
121号土坑

1. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 縮有 炭1%含む
2. 10YR4/3 におい黄橙色砂質シルト 粘性無 縮有
3. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 縮有 炭5%含む

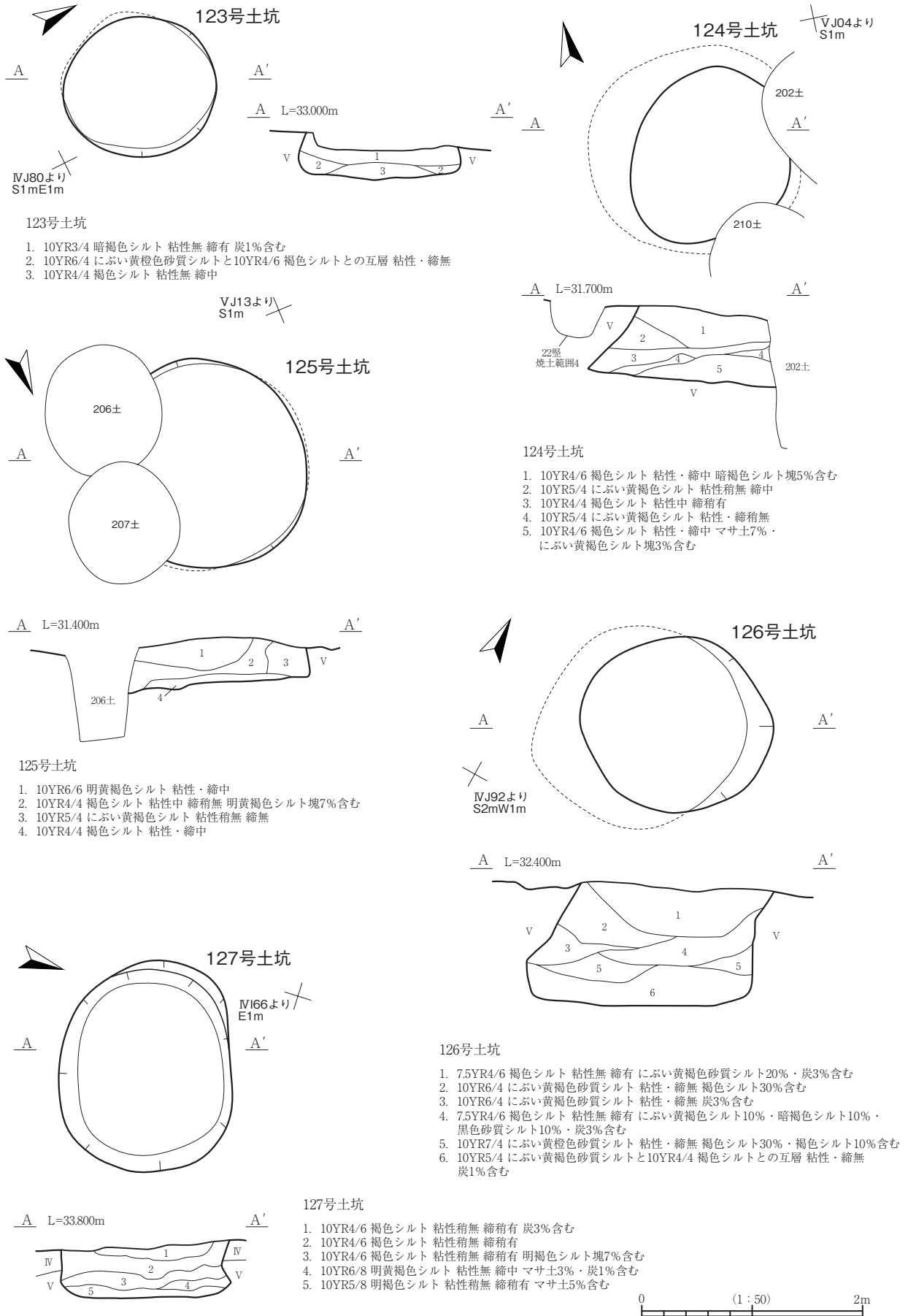


122号土坑

1. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 縮有 におい黄褐色シルト10%・小礫50%含む
2. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 縮有

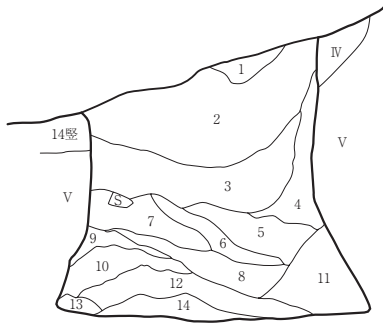
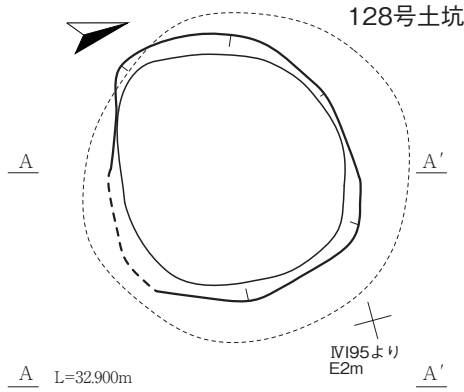


2 検出遺構



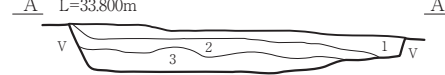
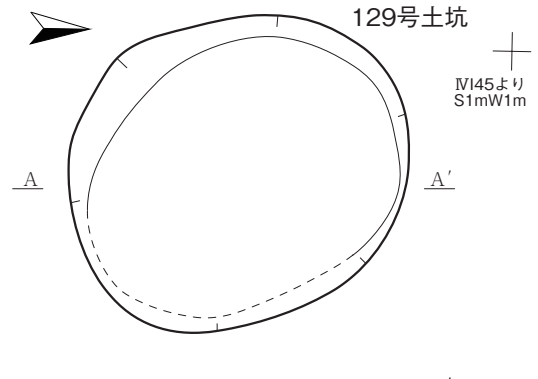
第75図 縄文時代の土坑類33





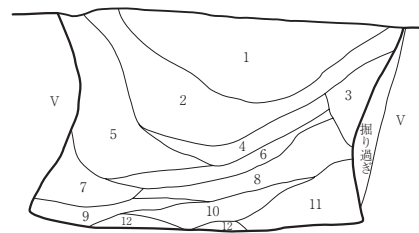
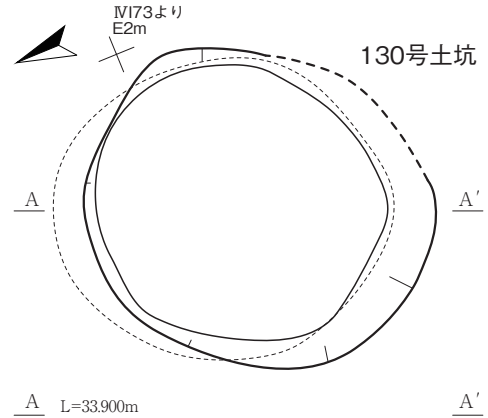
128号土坑

1. 10YR4/3 黄褐色砂質シルト 粘性無 縮稍有 黄褐色シルト小塊5~7%・炭2~3%含む
2. 10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性無 縮稍有 灰黄褐色シルト小塊2~3%・炭3~5%含む
3. 10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性無 縮稍有 マサ土塊3~5%・炭1~2%含む
4. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性・縮無 マサ土塊40~50%含む
5. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 縮中 マサ土塊7~10%含む
6. 10YR4/6 褐色シルト 粘性・縮中 炭1%含む
7. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・縮中 黄褐色シルト小塊2~3%・炭1~2%含む
8. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 縮中 灰黄褐色シルト塊5~7%・炭1~2%含む マサ土層状に見られる
9. 7.5YR5/6 明褐色砂質シルト 粘性無 縮中 炭1%含む、黄褐色シルト塊との混合層
10. 7.5YR5/8 明褐色砂質シルト 粘性無 縮中 マサ土との混合層
11. 10YR7/6 明黄褐色砂質シルト 粘性・縮無 マサ土との互層
12. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト 粘性無 縮稍無 マサ土塊5~7%・炭1~2%含む
13. 10YR4/3 黄褐色砂質シルト 粘性無 縮無 マサ土粒2~3%含む
14. 10YR7/4 明黄褐色砂 粘性・縮無 明黄褐色シルト層状に見られる



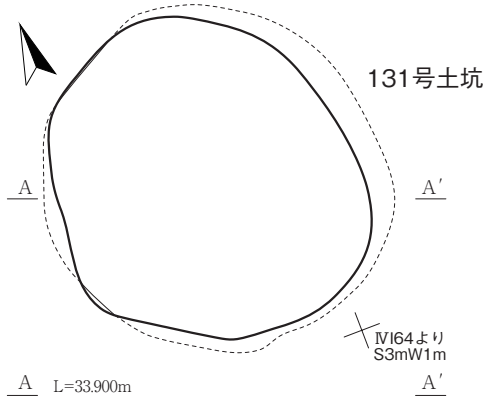
129号土坑

1. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 縮有
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 縮中 マサ土7%含む
3. 10YR4/6 褐色シルト 粘性・縮中 炭1%含む



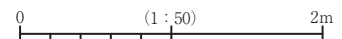
130号土坑

1. 10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性無 縮中 灰黄褐色シルト塊15~20%・炭3~5%含む
2. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 縮中 黄褐色シルト塊10%・炭2~3%含む
3. 10YR6/8 明黄褐色砂質シルト 粘性・縮無 マサ土塊15%含む
4. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 縮稍無 マサ土塊10%・炭10%含む
5. 10YR8/6 黄褐色砂 粘性・縮無 黄褐色シルトとの互層
6. 10YR8/3 浅黄褐色砂 粘性・縮無 黄褐色シルト塊20%・黄褐色シルト塊5~7%・炭1%含む
7. 10YR8/3 浅黄褐色砂 粘性・縮無 黄褐色シルト塊5~7%含む
8. 10YR5/4 黄褐色シルト 粘性無 縮稍無 黄褐色シルト粒2%含む、マサ土・黄褐色シルトとの互層
9. 10YR6/8 明黄褐色砂質シルト 粘性無 縮稍無 炭1%含む、マサ土との互層
10. 10YR5/4 黄褐色シルト 粘性・縮稍無 炭3~5%・マサ土塊2~3%含む
11. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性・縮無 マサ土・明黄褐色シルトとの互層
12. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 縮稍無 マサ土粒5~7%・黄褐色シルト小塊5%含む



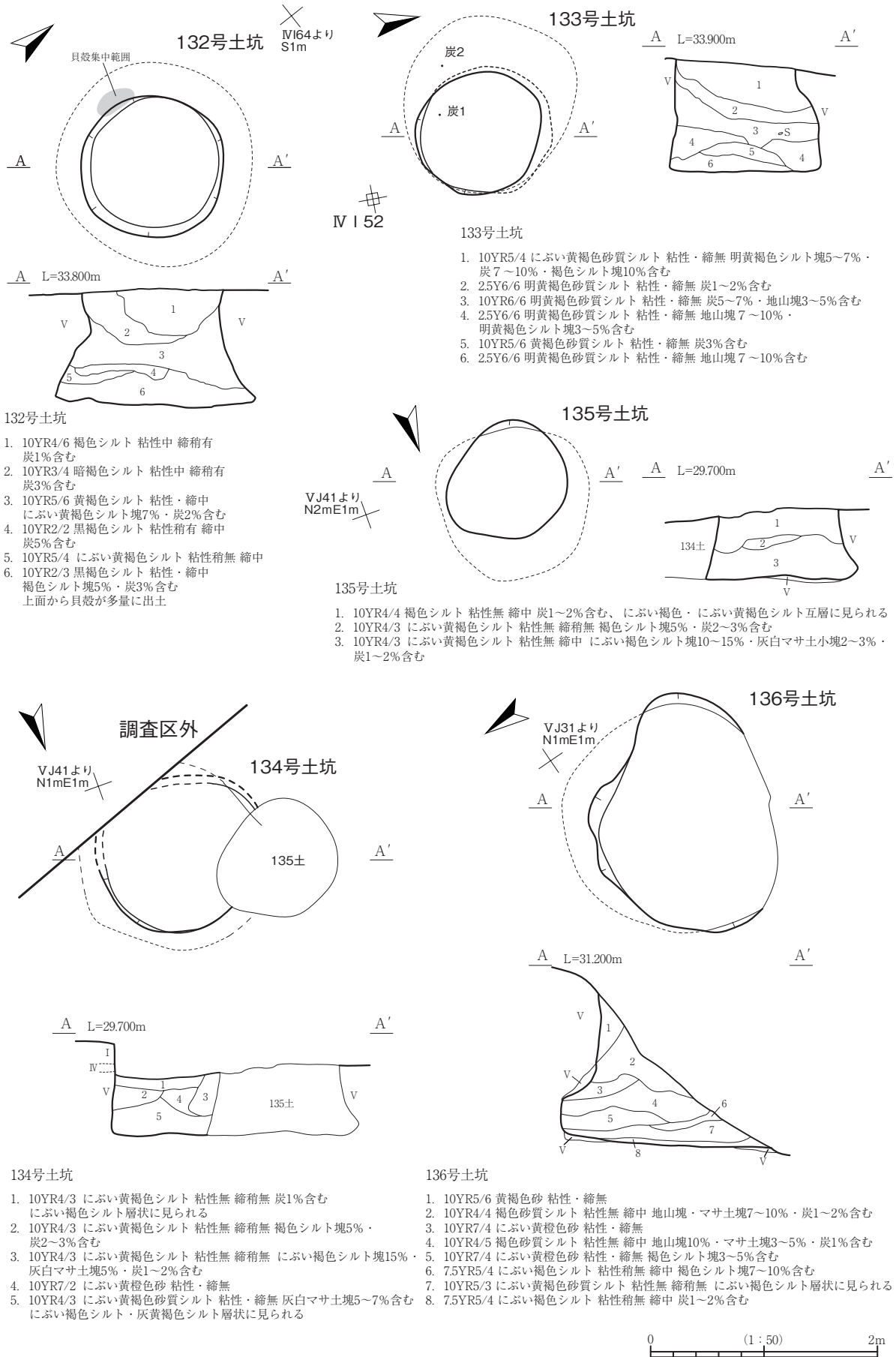
131号土坑

1. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性無 縮有 明黄褐色シルト小塊7%・炭2~3%含む
2. 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性無 縮稍有 明黄褐色シルト塊7~10%含む
3. 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性無 縮稍有 明黄褐色シルト塊5~7%・炭1%含む
4. 10YR6/6 明黄褐色砂 粘性・縮無
5. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト 粘性無 縮中 褐色シルト塊5%・マサ土塊2~3%・明黄褐色シルト塊2~3%含む
6. 10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性・縮稍無

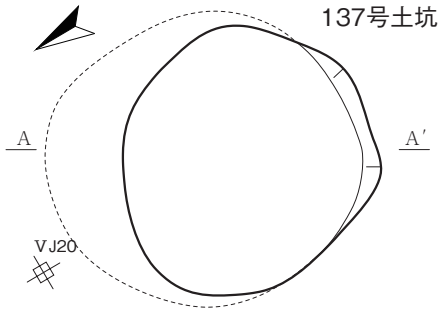


第76図 縄文時代の土坑類34

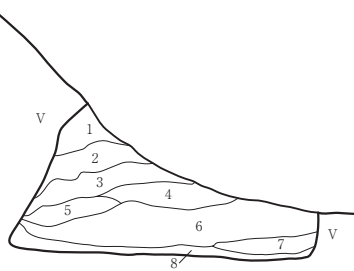
2 検出遺構



第77図 縄文時代の土坑類35

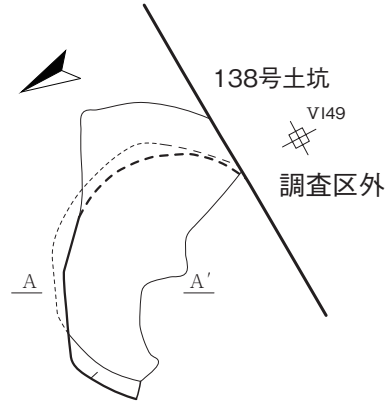


A L=31.300m A'

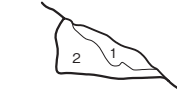


137号土坑

1. 10YR5/4 黄褐色砂質シルト 粘性・縮無 灰白色マサ土塊3~5%含む
2. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 縮稍無 灰白色マサ土塊2~3%・炭1~2%含む
3. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 縮稍無 灰白色マサ土小塊7~10%含む 黄褐色シルトとの互層
4. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 縮稍無 黄褐色シルトとの互層・浅黄橙色シルト層状に見られる
5. 10YR8/2 灰白色砂 粘性・縮無
6. 10YR4/3 黄褐色砂質シルト 粘性無 縮稍無 黄褐色シルト塊5%・灰白色マサ土塊3%・炭1~2%含む
7. 10YR5/4 黄褐色砂質シルト 粘性無 縮中 灰白色マサ土塊15~20%含む
8. 7.5YR5/4 黄褐色シルト 粘性稍無 縮中

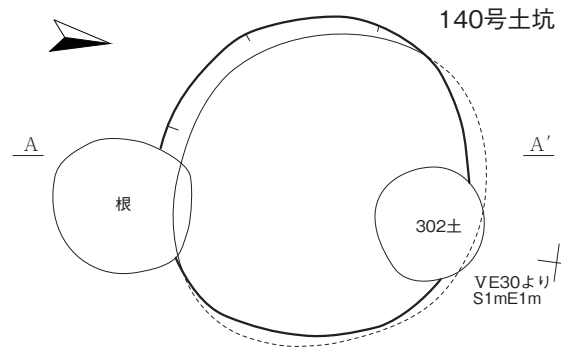


A L=28.200m A'

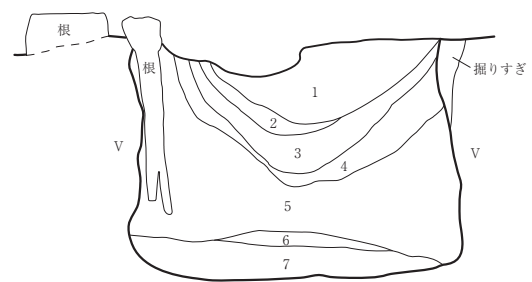


138号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・縮無 灰黄褐色シルト塊15%・炭10~20%含む
2. 10YR5/4 黄褐色砂質シルト 粘性・縮無 黄褐色シルト塊10%含む

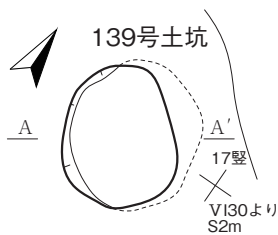


A L=51.800m A'



140号土坑

1. 10YR4/6 明褐色シルト 粘性稍無 縮有 炭10%・赤褐色シルト粒1%・マサ土含む
2. 7.5YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 縮有 炭15%含む
3. 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性中 縮有 明黄褐色シルト10%・黒色シルト50%・赤褐色焼土粒3%・炭10~20%含む
4. 7.5YR5/6 明褐色シルト 粘性中 縮有 黒色砂質シルトが帯状に30%・黄褐色マサ土10%・炭10%含む
5. 7.5YR5/6 明褐色シルトと10YR5/6 黄褐色砂質シルトとの互層 粘性・縮無 黒褐色砂質シルト20%・炭20%含む
6. 7.5YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性無 縮稍有 黒褐色マサ土が7%・炭5%含む
7. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性有 縮無 炭10%含む

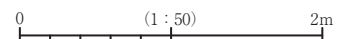


A L=19.600m A'



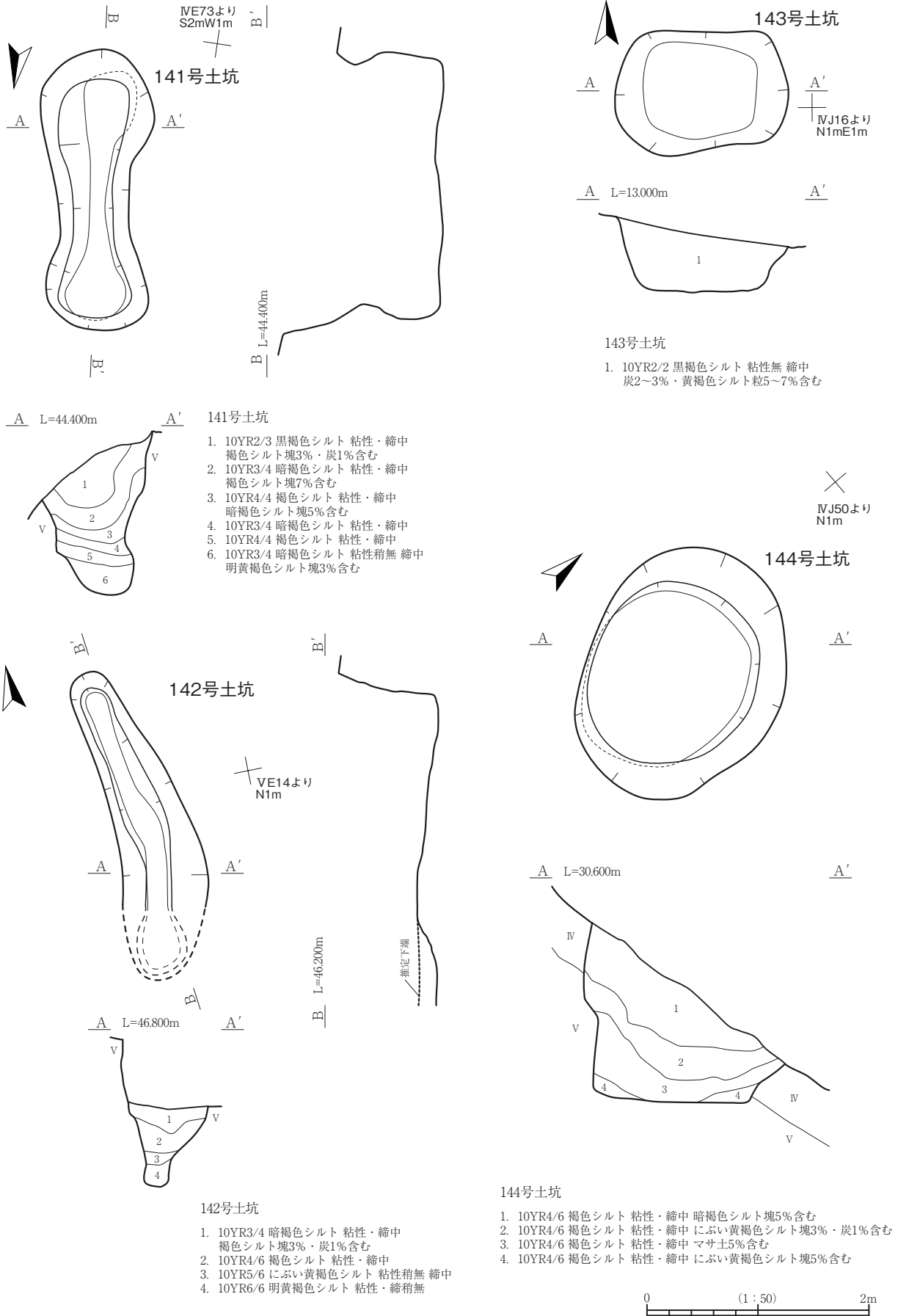
139号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 縮稍有 黄褐色シルト小塊5~7%・炭1~2%含む、最下層に灰白色マサ土が層状に見られる
2. 10YR5/4 黄褐色砂質シルト 粘性無 縮中 橙色シルト粒含む
3. 10YR4/3 黄褐色砂質シルト 粘性無 縮中 褐色シルト小塊3~5%含む
4. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 縮中 黄褐色シルト塊5~7%含む

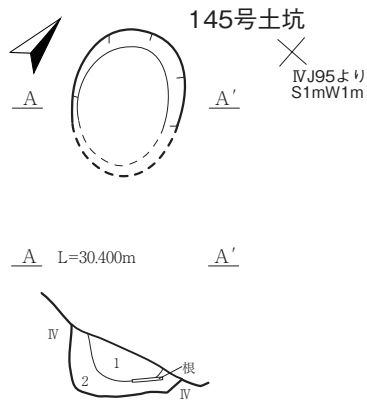


第78図 縄文時代の土坑類36

2 検出遺構

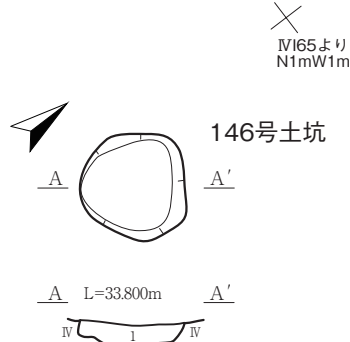


第79図 縄文時代の土坑類37



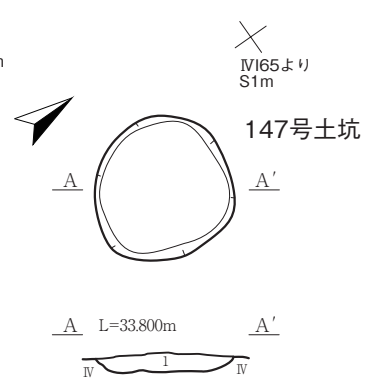
145号土坑

1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性稍無 締無
2. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・締稍無 マサ土5%含む



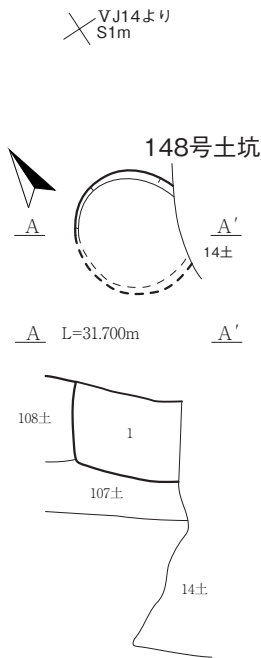
146号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中 締稍無 炭1%含む



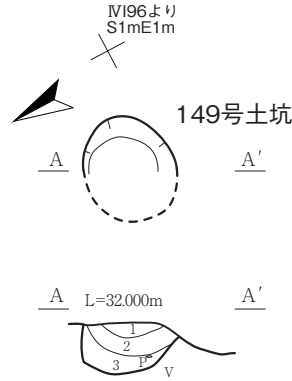
147号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・締中 炭3%含む



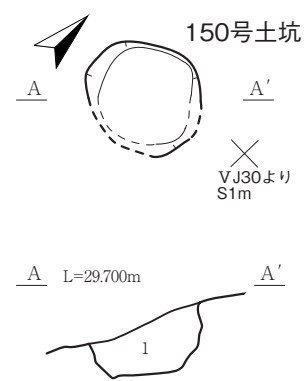
148号土坑

1. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性稍無 締中 明黄褐色シルト塊3%含む



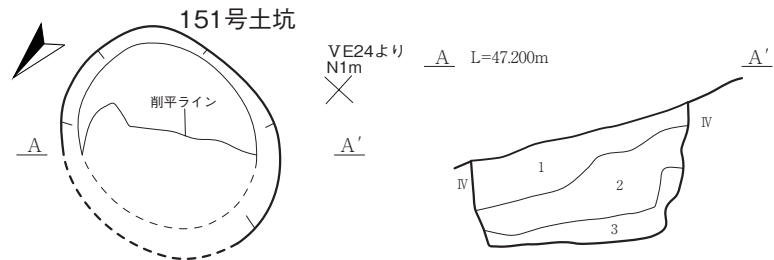
149号土坑

1. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締稍無 炭1~2%・黄褐色砂1~2%含む
2. 10YR5/6 黄褐色砂 粘性・締無 橙色シルト小塊2~3%含む
3. 2.5YR4/2 灰赤色シルト 粘性無 締中 炭10%含む



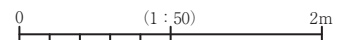
150号土坑

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性・締無 黄褐色シルト塊5%含む



151号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性稍有 締中
2. 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性・締中 褐色シルト塊7%含む
3. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締中 黒褐色シルト塊5%含む



第80図 縄文時代の土坑類38

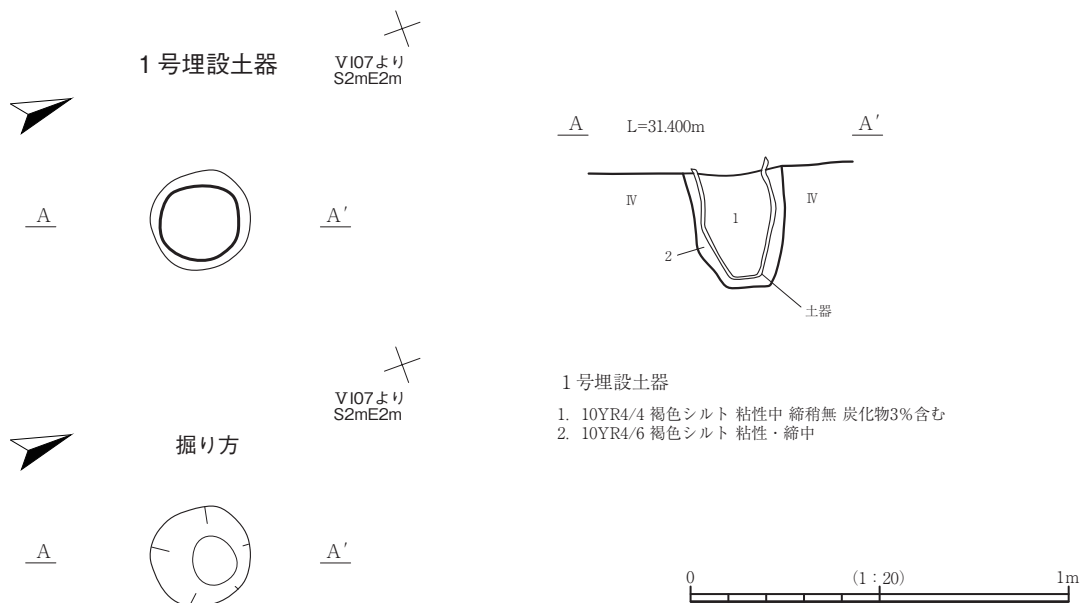
1号埋設土器 (SR01) (第81図、写真図版34)

[位置] 2区南側、V I 07グリッドに位置する。[検出状況] 12号竪穴建物跡の床面で褐色の円形プランとして検出した。[重複] 12号竪穴建物跡との新旧関係を把握できなかった。[規模] 北西から南東で0.28m、北東から南西で0.27mのほぼ円形を呈する。[埋土] 2層に分層した。1層は埋設土器の埋土で炭化物を少量含む、褐色シルト主体の単層で、2層は掘り方埋土で褐色シルト主体である。[壁・底面の状況] 掘り方の壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

[出土遺物] (第130図、写真図版56)

埋設土器 (137) を掲載した。

[時代・時期] 土器の器形から縄文時代中期末葉に帰属するが、粗製土器であるため、詳細な時期は特定できなかった。(佐々木隆英・北村忠昭)

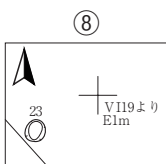
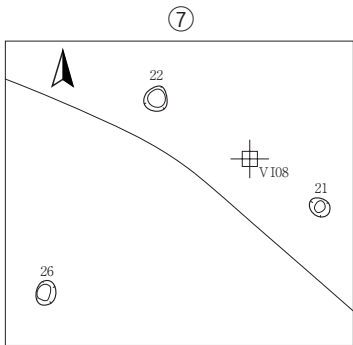
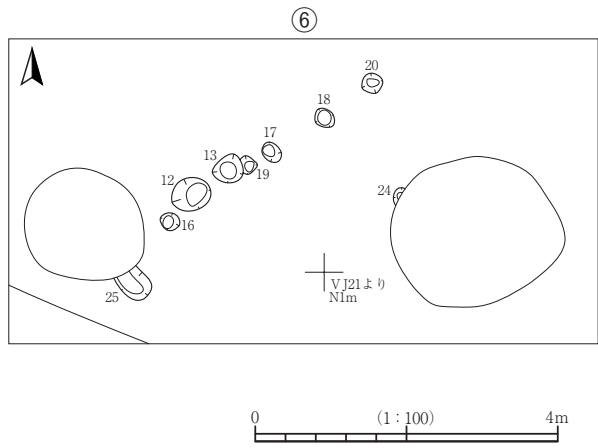
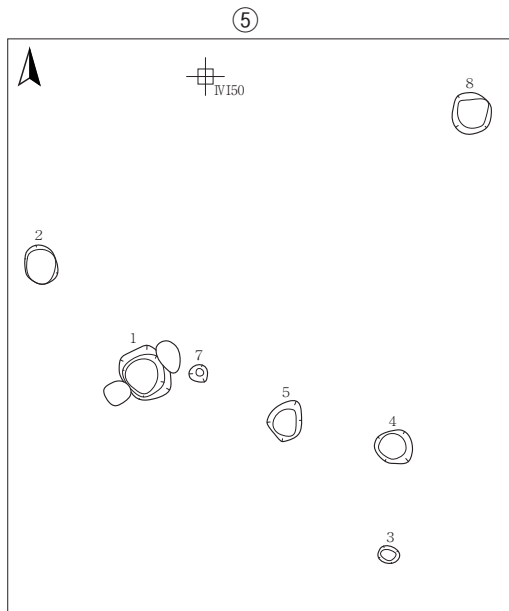
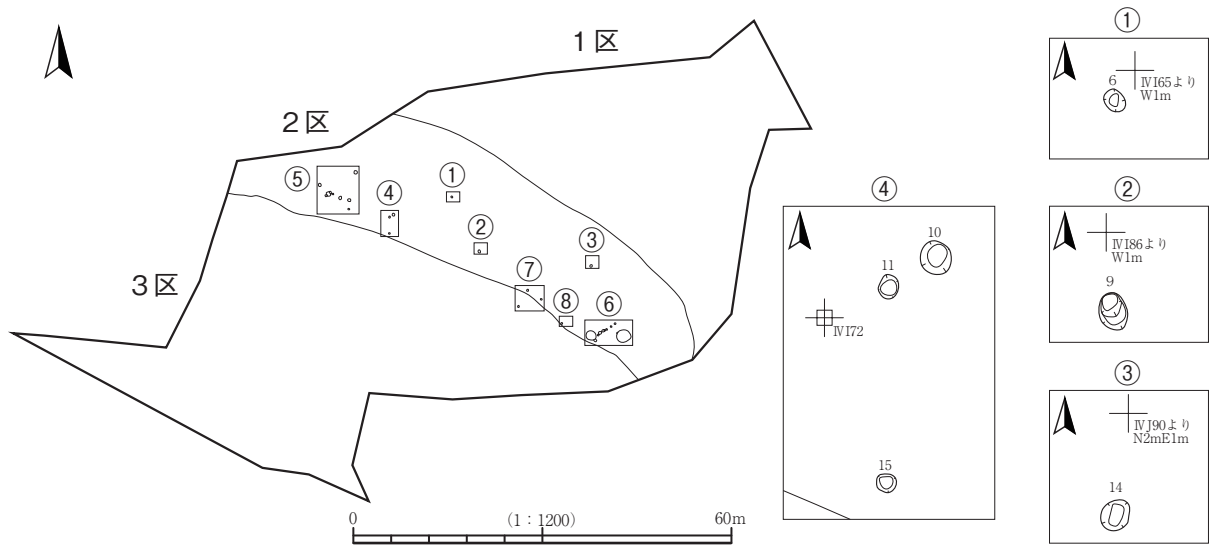


第81図 1号埋設土器

柱穴 (第82図)

縄文時代に帰属すると判断した柱穴は2区で検出された26個である。重複していない柱穴の検出面はV層上面である。規則的な配置は確認できず、散漫と見られる。埋土は、1号・5号・8号柱穴が黄褐色砂質シルトの主体の単層、2号・7号・10号・11号柱穴が明黄褐色砂質シルト主体の単層、3号柱穴がにぶい黄褐色砂質シルト主体の単層、6号・9号・14号～18号・20号・24号・25号柱穴が褐色(砂質)シルト主体の単層、13号・19号・22号・23号柱穴が黒褐色シルト主体の単層、26号が暗褐色シルト主体の単層である。埋土が分層できるものは、4号・12号・21号柱穴で、4号は上部がにぶい黄褐色砂質シルト主体、下部が黄褐色砂質シルト主体、12号柱穴は上部が黒褐色シルト主体、下部が黄褐色シルト主体、21号柱穴は上部が黒褐色シルト主体、下部がにぶい褐色砂質シルト主体である。個別の法量は第5表を参照して頂きたい。





第5表 柱穴一覧 (縄文)

No.	区域	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	備考
1	2	IV H 59・69	69.0	57.8	73.6	33.7	1柱→31・32柱
2	2	IV H 59	52.9	43.0	30.4	34.3	
3	2	IV I 60	28.5	23.0	13.0	33.9	
4	2	IV I 60	52.2	47.1	51.0	33.6	
5	2	IV I 60	56.6	46.2	24.4	34.0	
6	2	IV I 64	31.8	24.8	31.2	33.4	
7	2	IV H 59	25.4	24.1	24.4	34.0	
8	2	IV I 50	57.0	54.7	30.6	33.8	
9	2	IV I 85	50.7	37.4	53.0	32.4	
10	2	IV I 62	45.8	41.5	46.0	33.2	13竖と重複
11	2	IV I 62	32.2	27.4	27.6	33.3	11柱→13竖
12	2	V J 10	53.3	43.8	70.4	31.4	
13	2	V J 10	41.0	37.6	63.2	31.5	19柱と重複
14	2	IV J 80	44.3	37.5	25.4	32.5	
15	2	IV I 72	27.1	26.1	12.2	33.0	15柱→13竖
16	2	V J 10	26.8	23.8	33.0	31.7	
17	2	V J 10	29.2	22.8	31.2	31.7	
18	2	V J 10・11	29.5	24.3	43.4	31.6	
19	2	V J 10	24.7	(19.5)	48.6	31.6	13柱と重複
20	2	V J 11	28.7	27.5	57.2	31.5	
21	2	V I 08	29.2	23.8	39.2	32.0	
22	2	IV I 97	34.5	31.6	28.0	32.3	
23	2	V I 19	29.7	26.7	31.0	31.9	
24	2	V J 11	24.3	(9.0)	23.6	31.4	
25	2	V J 10	(42.1)	36.6	75.2	31.1	
26	2	V I 07	33.1	26.4	59.0	30.8	

第82図 縄文時代の柱穴

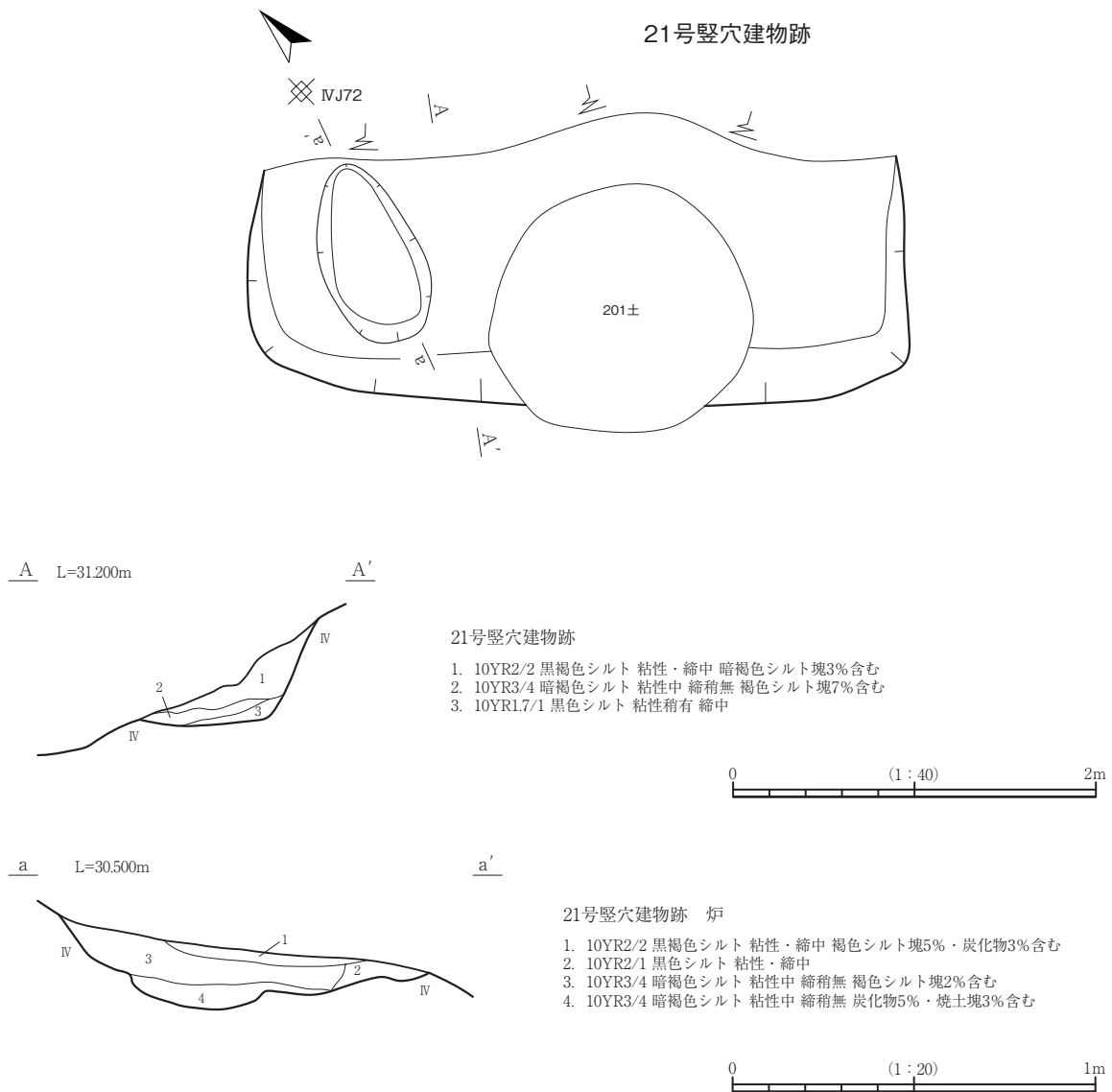
[出土遺物] (第147図、写真図版61)

土器は5号柱穴から38g、10号柱穴から27.4g、12号柱穴から25.0g出土しているが、粗製土器や小片であるため、掲載したものはない。石器は19号柱穴から石皿(291)が出土した。

(2) 古代の遺構

21号竪穴建物跡(SX10) (第83図、写真図版35)

[位置] 1区南側、IV J 71・72グリッドに位置する。[検出状況] IV層で黒褐色の方形プランとして検出した。[重複] 201号土坑に截られる。[規模] 北東側は土砂の流出等により残存していないため、全体の形状は不明だが、残存する範囲では北西から南東で3.65m、北東から南西で1.50mの方形を呈すると思われる。確認できる検出面から床面までの深さは最大で60cmである。[埋土] 3層に分層した。1層は暗褐色シルトブロックを少量含む、黒褐色シルト主体で、2層は褐色シルトブロックを少量含む、暗褐色シルト主体である。3層は黒色シルト主体で壁際に三角堆積している。[壁・床の状況] 壁は直線的に外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦である。[付属施設] 北西側から炉と思わ



第83図 21号竪穴建物跡

れるものを1基検出した。埋土は4層に分層した。焼土層はないが4層には焼土ブロックが少量含まれている。楕円形状に掘り込まれた壁には被熱痕が薄く残っている。鉄滓や鍛造剥片は出土していない。

[遺構種別] 工房。

[出土遺物] (第154図、写真図版67)

遺構埋土から粗製の縄文土器片の他、土師器(411)、鉄滓19.1gが出土し、土師器1点(411)を掲載した。また、遺構埋土から出土した含鉄(強)炉内滓の分析を実施した(第VI章鉄滓等遺物の化学分析参照)。

[時代・時期] 遺構の形態や土師器が出土したことより平安時代後半に帰属すると判断した。

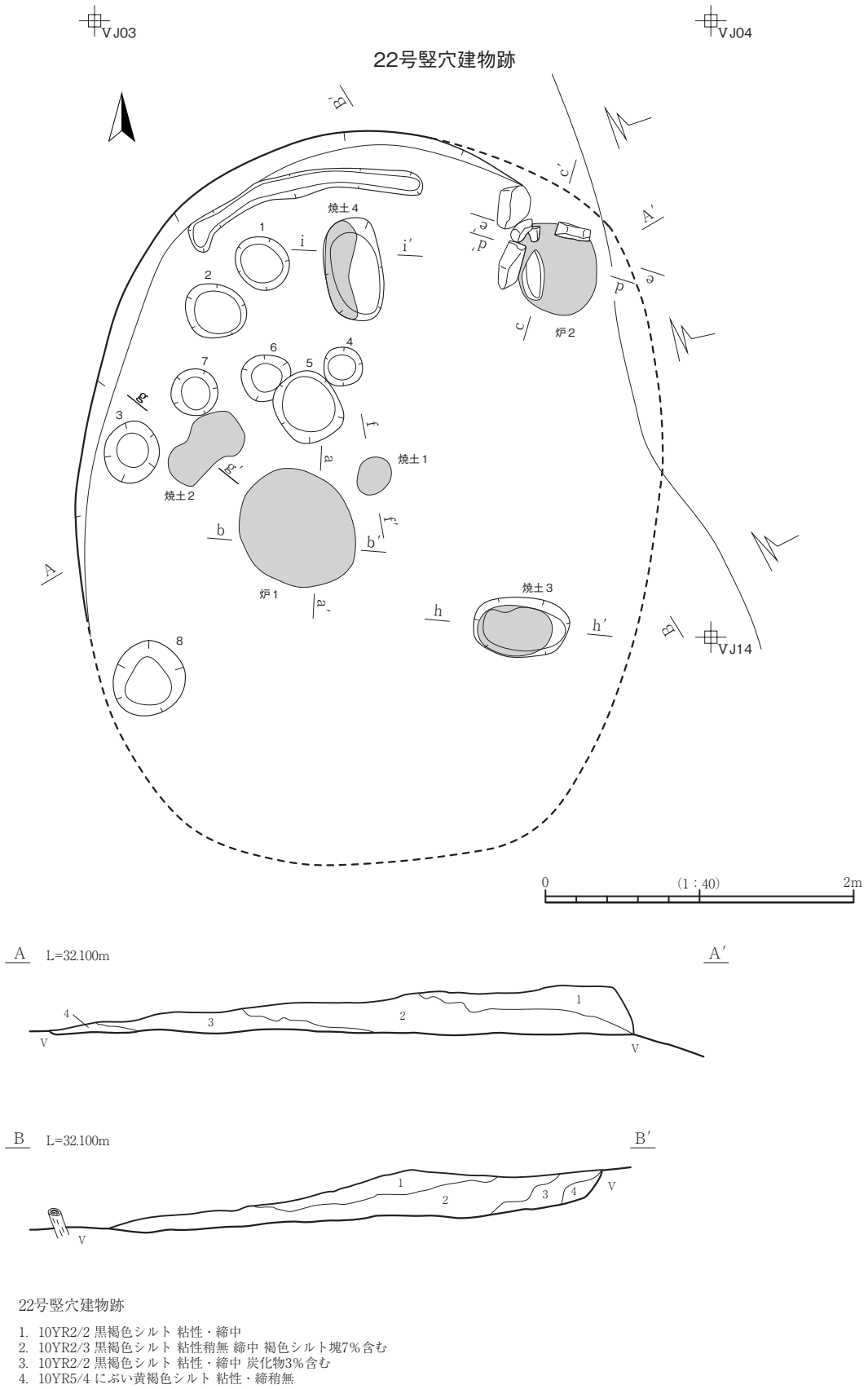
(佐々木隆英・北村忠昭)

22号竪穴建物跡(SI13)(第84・85図、写真図版36)

[位置] 2区南西側、V J 03・13グリッドに位置する。[検出状況] V層で黒褐色の楕円形プランとして検出した。[重複] 縄文時代の遺構の他、同時期の206号土坑・207号土坑・209号土坑・210号土坑を截る。[規模] 南側と東側が削平されているため全体の形状は不明だが、残存する範囲では南北で4.79m、東西で3.63mの楕円形を呈すると思われる。確認できる検出面から床面までの深さは最大で50cmである。[埋土] 4層に分層した。全体的に黒褐色シルト主体で埋没している。締まりや混入物で明確に分層できた。[壁・床の状況] 壁は北西側にしか残存しないが、緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦である。[炉] 炉と思われるものを2基と焼土を4基検出した。炉1は竪穴の中央西寄りで確認した。燃焼部は82×72cmの楕円形を呈し、色調は明赤褐色を呈する。焼成深度は最大で14cmである。炉2は竪穴の北東隅で確認した。礫がまとまっている南西側に燃焼部がある。礫の内側に被熱痕が薄く残存することから炉2に伴う可能性がある。燃焼部は61×52cmの楕円形を呈し、色調は明赤褐色を呈する。焼成深度は最大で18cmである。焼土1は炉1の北東脇、焼土2は炉1の北西側、焼土3は竪穴の南東側、焼土4は竪穴の北側で確認した。焼土1は26×21cmの楕円形を呈し、色調は赤褐色を呈する。焼成深度は最大で6cmである。焼土2は55×34cmの歪な楕円形を呈し、色調は暗赤褐色を呈する。焼成深度は最大で10cmである。焼土3は48×32cmの楕円形を呈し、色調は赤褐色を呈する。焼成深度は最大で18cmである。焼土4は62×20cmの楕円形を呈し、色調は赤褐色を呈する。焼成深度は最大で12cmである。炉1・2は焼土1～4に比べて被熱範囲が広く、色調も明るい。焼土3・4には楕円形に掘り込まれた掘り方があり、その一番上の層が被熱している。鉄生産関連の内、鍛冶に関連する遺物である鍛造剥片や金床石などは出土していない。[付属施設] 柱穴8個と北西側に部分的な周溝を検出した。削平を受けているためか、柱穴の分布は北西側に偏っている。柱穴の埋土は、Pit 1・Pit 2・Pit 7・Pit 8が褐色シルト主体の単層、Pit 3～5がにぶい黄褐色シルトブロック少量と炭化物を微量含む、黒褐色シルト主体の単層、Pit 6が炭化物を微量含む、にぶい黄褐色シルト主体の単層である。柱穴の深さはPit 1が32cm、Pit 2が34cm、Pit 3が35cm、Pit 4が44cm、Pit 5が29cm、Pit 6が23cm、Pit 7が25cm、Pit 8が33cmである。周溝の埋土はにぶい黄褐色シルトブロックを少量含む、黒褐色シルト主体の単層である。周溝の深さは最大で14cmである。

[遺構種別] 工房。

[年代測定] 2層から採取した炭化物の年代測定を実施したところ、calAD780～950との年代値を得た(第VI章放射性炭素年代測定参照)。



第84図 22号竪穴建物跡 1

a L=31.800m



a'

b L=31.800m

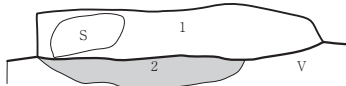


b'

22号竪穴建物跡 炉1

1. 5YR5/6 明赤褐色焼土 粘性稍無 締中 暗褐色シルト塊3%含む

c L=31.800m



c'

d L=31.800m

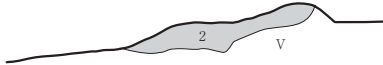


d'

22号竪穴建物跡 炉2

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 締稍無 褐色シルト塊5%含む
2. 5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性・締中

e L=31.800m



e'

f L=31.800m

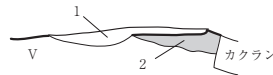


f'

22号竪穴建物跡 焼土1

1. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性稍無 締稍有

g L=31.800m

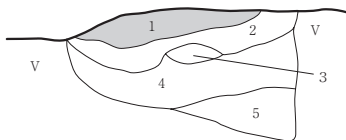


g'

22号竪穴建物跡 焼土2

1. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 締稍無
2. 5YR3/4 暗赤褐色焼土 粘性・締稍無

h L=31.800m

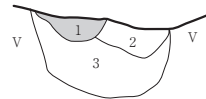


h'

22号竪穴建物跡 焼土3

1. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性稍無 締稍有
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締中 焼土塊3%含む
3. 10YR2/1 黒色シルト 粘性中 締稍無 炭化物2%含む
4. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締稍無
5. 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性・締中

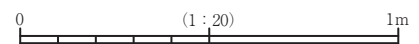
i L=31.800m



i'

22号竪穴建物跡 焼土4

1. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性稍無 締稍有
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締稍無 炭化物2%含む
3. 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性稍無 締中



第85図 22号竪穴建物跡2

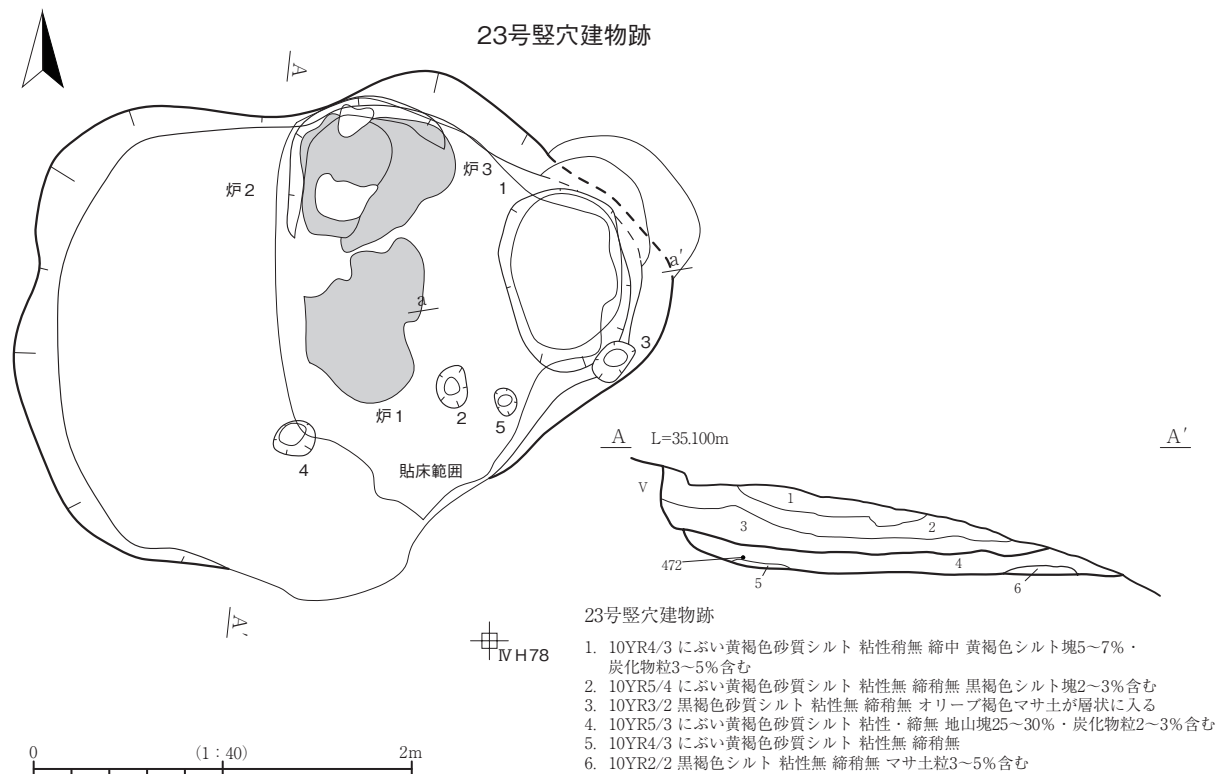
[出土遺物] (第131・134・137・154・157図、写真図版56～58・67・68)

炉埋土から土師器甕、大木10式期の土器片、焼土から金属製品(496)、遺構埋土から土師器甕、大木9式期～10式期の土器小片、粗製縄文土器片、石器(182・230)、鉄滓131.3g、炉石に転用した石器(445)が出土し、土器5点(144・412～415)、石器3点(182・230・445)、金属製品1点(496)を掲載した。縄文時代の遺物については、異時代の遺物として、縄文時代の遺構外遺物として扱った。また、遺構埋土から出土した含鉄(強)炉内滓と含鉄(弱)炉内滓の分析を実施した(第VI章鉄滓等遺物の化学分析参照)。

[時代・時期] 放射性炭素年代測定の結果もあるが、遺構埋土から出土した土器(412～415)や坏が組成されないことから平安時代後半に帰属すると判断した。(佐々木隆英・北村忠昭)

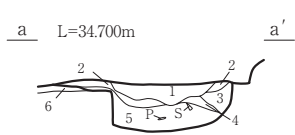
23号竪穴建物跡(SK11)(第86・87図、写真図版37)

[位置] 2区西側、IVH67・68グリッドに位置する。[検出状況] V層上面で黒褐色シルトのプランとして検出した。[重複] なし。[規模] 斜面下方に当たる南側が後世の掘削により残存していないため、詳細な規模は不明であるが、残存する部分から推測すると、一辺3.5m前後の方形状を呈するものと考えられる。確認できる検出面から床面までの深さは最大で44cmである。[埋土] 6層に分層した。最下層には黒褐色シルトが確認できる。断面観察箇所では部分的にしか確認できないが、炉3付近では3～4cmで層状に確認できる。炉3の断面観察際に本層上面で炉3を構築していることを確認した。これらを覆う様に、地山起源のにおい黄褐色砂質シルト層がほぼ水平に堆積している。本層上面で炉1及び炉2を確認した。このため、締まりが無いが、4層上面を床面と認識した。それより上位は黒褐色砂質シルト主体、におい黄褐色砂質シルト主体層の順で堆積している。4～6層が掘り方埋土に相当するが、西側半分については、しまりが無いことから堆積土と判断して掘削してしまい残存していない。[壁・床の状況] 残存する壁は直立気味に立ち上がり、床面は概ね平坦である。[炉] 3基の



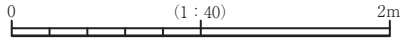
第86図 23号竪穴建物跡1



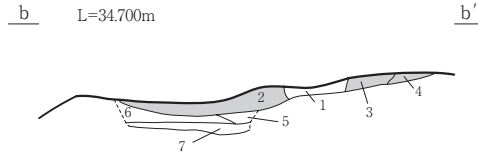
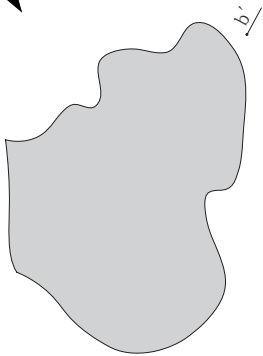


23号竪穴建物跡 Pit 1

1. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締中 黒褐色シルト・明黄褐色シルト塊との混合物
2. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性稍無 締中 黄褐色シルト小塊3%含む
3. 10YR7/8 黄橙色砂質シルト 粘性無 締中
4. 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性稍無 締中
5. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂 粘性・締無 炭化物粒2~3%含む
6. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性無 締稍無 マサ土粒3~5%含む (A-A'6層)

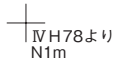


23号竪穴建物跡 炉 1

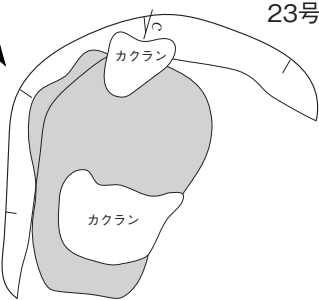


23号竪穴建物跡 炉 1

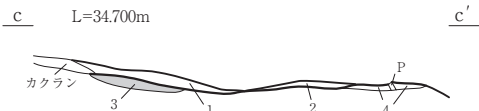
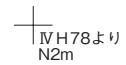
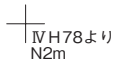
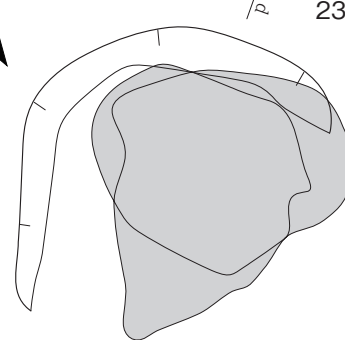
1. 7.5YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 締稍有 焼土しみ状に見られる
2. 5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性無 締有
3. 5YR4/4 にぶい赤褐色焼土 粘性無 締稍有 暗褐色シルト塊2~3%含む
4. 5YR2/4 極暗赤褐色焼土 粘性無 締中 炭化物粒3~5%含む
5. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍無 褐色シルト・黒褐色シルト塊含む
6. 10YR7/4 にぶい黄橙色砂 粘性・締無
7. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性無 締中 褐色シルト小塊3~5%・焼土塊2~3%含む



23号竪穴建物跡 炉 2

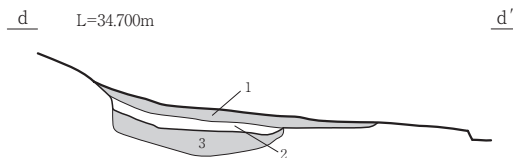


23号竪穴建物跡 炉 3



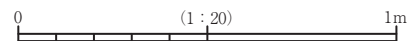
23号竪穴建物跡 炉 2

1. 7.5YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締中 焼土塊5~7%・炭化物粒7~10%含む
2. 7.5YR3/4 暗褐色シルト 粘性無 締中 焼土小塊10%・炭化物粒10~15%含む
3. 5YR4/6 赤褐色焼土 粘性無 締稍有
4. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・締無 地山塊25~30%・炭化物粒2~3%含む



23号竪穴建物跡 炉 3

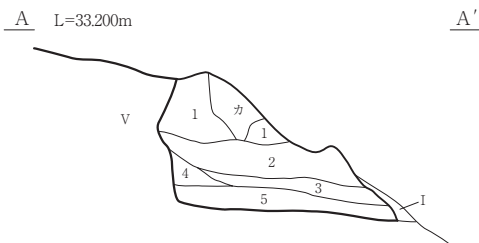
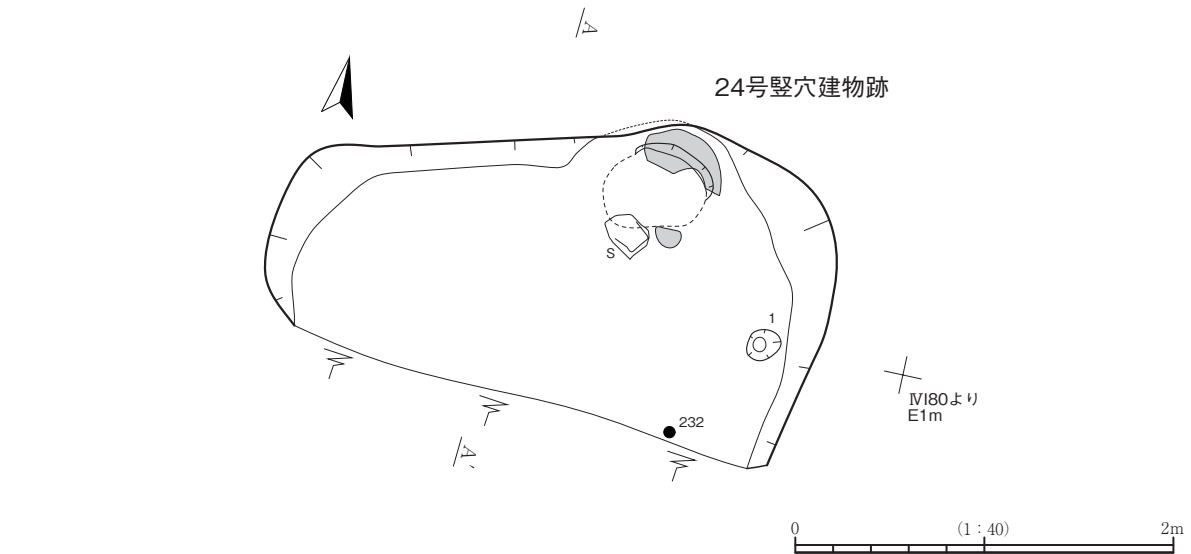
1. 5YR4/4 にぶい赤褐色焼土 粘性無 締中 炭化物粒3~5%含む
2. 5YR5/6 明赤褐色シルト 粘性無 締稍有 部分的に被熱している
3. 5YR8/3 淡橙色焼土 粘性無 締中



第87図 23号竪穴建物跡 2

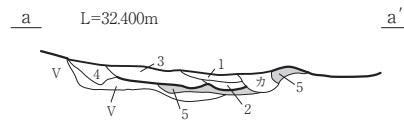
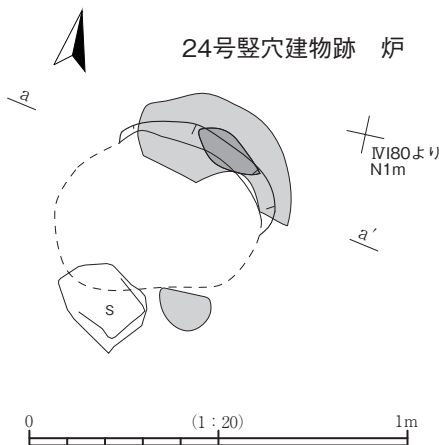
2 検出遺構

炉を検出した。炉1は竪穴部のほぼ中央の4層上面で、炉2は北壁中央付近の4層上面で、炉3は炉2の下位、6層上面で確認した。炉1は南北で最大0.88m、東西で最大0.62mの範囲が不整形に被熱により赤変している。焼成深度は最大6cmである。炉2の平面形は洋なし状を呈し、南北0.65m、東西で最大0.48mの範囲が赤変している。北側は最大3cmの被熱層を確認できるが、南側ではほとんど層として確認できない。炉3は炉2の直下のやや東側に位置する。北西-南東方向で0.66m、北東-南西方向で0.79mの範囲が被熱している。部分的な掘り込みが確認でき、底面で焼き締めと考えられる焼土層を確認した。[付属施設]土坑1基、柱穴4個を検出した。Pit 1は6層上面で構築されている土坑で、確認した層から炉3に伴うものと考えられる。南北0.96m、東西0.66mの楕円形状を呈し、



24号竪穴建物跡

1. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性無 縮稍無 にぶい黄褐色シルト小塊2~5%・炭1~2%・黒色シルト小塊2~3%含む
2. 10YR6.5/2.5 にぶい黄橙色砂 粘性・縮無 黒褐色シルト小塊2%・にぶい黄褐色シルト小塊3~5%含む
3. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性無 縮中 焼土塊5%・褐色シルト塊5%含む
4. 10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性無 縮稍無 黒褐色シルト小塊2~3%含む
5. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性稍無 縮中 明黄褐色シルト塊5~7%・炭3~5%含む



24号竪穴建物跡 炉

1. 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性・縮無 明黄褐色砂質シルト粒・炭含む
2. 5YR17/1 黒色炭主体土 焼土小塊5~7%含む
3. 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性無 縮稍有 炭7~10%含む
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性無 縮稍無 地山塊25~30%含む
5. 5YR5/4 にぶい赤褐色焼土 粘性無 縮中

第88図 24号竪穴建物跡

深さは最大で26cmである。埋土は5層に分層した。下半部はオリーブ褐色砂で埋まっている。上半部は黒褐色シルトや黄褐色砂質シルトが部分的に見られるが、竪穴の4層が広い範囲に見られる。柱穴4個は一直線上に見られ、Pit 5のみ6層上面で確認した。柱穴の埋土はPit 2とPit 3が黒褐色シルト主体の単層で、Pit 4が黄褐色シルト主体の単層、Pit 5がにぶい黄褐色シルト主体の単層である。深さはPit 2が15cm、Pit 3が15cm、Pit 4が19cm、Pit 5が11cmである。

[遺構種別] 工房。

[その他] 炉3に下部構造と考えられる構築物が確認できたため、鉄生産に関連する炉と判断したが、竪穴の壁に接している点に疑問が残る。この部分に関しては、板壁等の燃焼しやすい構造物はなかったものと判断したい。

[年代測定] 炉2周辺の床面から採取した炭化物の年代測定を実施したところ、calAD1,040～1,160との年代値を得た(第VI章放射性炭素年代測定参照)。

[出土遺物] (第138・154・164図、写真図版58・67・71)

炉2古の焼成面から土師器甕、古段階の貼床層から鉄滓0.4g、床面直上の4層下位から土師器甕、大木9～10式期の土器片、石器、金属製品(471・472)、遺構埋土から土師器甕、縄文土器片、金属製品(477)、鉄滓41.7g、Pit 2から鉄滓7.2gが出土し、土器4点(416～419)、石器(236)、金属製品3点(471・472・477)を掲載した。

[時代・時期] 遺構埋土や新段階床面から出土した土器(416・419)や放射性炭素年代測定の結果より11～12世紀に帰属すると判断した。(北村忠昭)

24号竪穴建物跡(SI04)(第88図、写真図版35)

[位置] 2区西側、IV H 79・89グリッド付近に位置する。[検出状況] V層上面で炭化物を含む黒褐色のプランとして検出した。斜面下方に当たる南側は後世の土地改変により残存していない。[重複] 29号竪穴建物跡に截られる。[規模] 南側が残存しないため、詳細な規模は不明であるが、一辺3m前後の方形を呈するものと考えられる。確認できる検出面から床面の深さは最大で72cmである。[埋土] 5層に分層した。部分的に壁の崩落土もしくは地山の流入土と考えられる褐色砂質シルトが三角形に堆積しているが、黒褐色シルトを主体とする堆積土が水平気味に堆積しており、人為堆積の可能性が高いと考えられる。[壁・床の状況] 残存する壁は床面から直立気味に立ち上がる。床面は斜面下方にやや傾斜しているものの、目立つ凹凸は確認できない。[炉] 北壁際で炉を1基検出した。床面であるV層を浅く窪ませており、その底面が被熱により赤変している。その上位にはやや締まる褐色シルト、炭化物主体層があり、炉の除湿効果を目的とした下部構造の一部と考えられる。最上位の1層は断面観察箇所では締まりがないが、部分的に移植ベラで削るとカリカリと音がするほど締まっている部分が認められ、炉体の一部の残存物と考えられる。部分的に掘削してしまい断片的にしか残存していないが、確認できた規模は南北0.45m、東西0.47mである。被熱している範囲は若干広く、南北0.6m、東西0.5mである。焼成深度は最大で3cmである。[付属施設] 東壁際で1個の柱穴を検出した。埋土は炭化物を含むにぶい黄褐色シルト主体の単層である。深さは14cmである。

[遺構種別] 工房。

[その他] 炉の位置に関して、23号竪穴建物跡と同じ疑問があるが、本遺構に関しても、不燃性の壁材を利用したか、壁そのものが無かったと考えたい。

[出土遺物] (第137・154・156図、写真図版58・67・68)

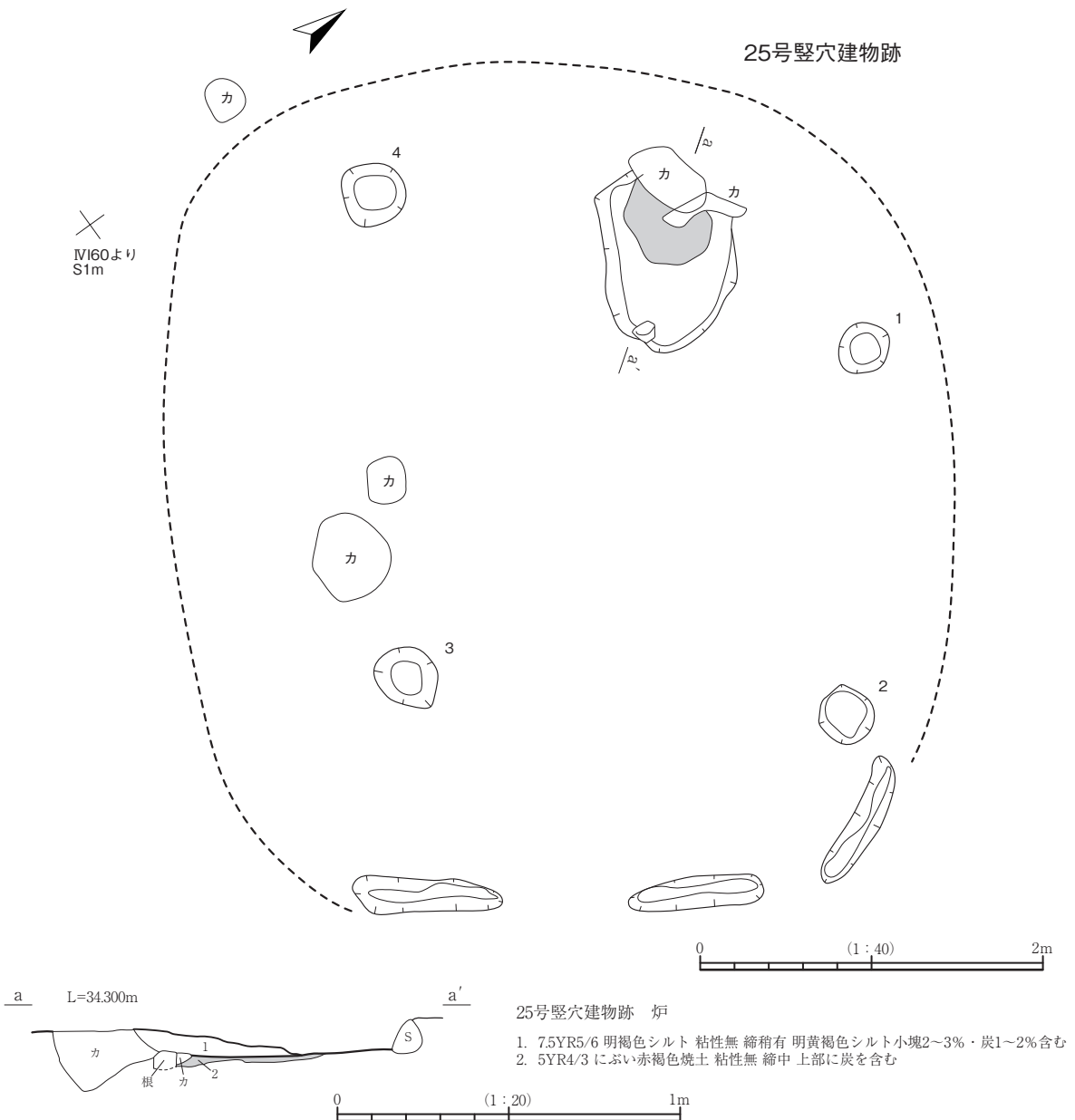
焼土層から土器(441)、炉直上から石器1点、床面直上から石器(232)、鉄滓60.1g、遺構埋土か

ら縄文時代中期後葉～末葉の土器片を含む土器、石器1点、鉄滓321.8g、Pit 4から石器1点が出土しており、土器2点(420・441)、石器1点(232)を掲載した。また、遺構埋土から出土した炉内滓の分析を実施した(第VI章鉄滓等遺物の化学分析参照)。

[時代・時期] 焼土層や遺構埋土から出土した土器(420・441)より平安時代後半に帰属すると判断した。(北村忠昭)

25号竪穴建物跡(SI05)(第89図、写真図版37)

[位置] 2区西側、IV I 50・51・60・61グリッドに位置する。[検出状況] V層上面で炉及び柱穴・周溝を検出した。後世の土地改変により壁や床面を確認できなかった。[重複] 推定できるプランでは214号土坑・35号柱穴と重複関係にあるが、床面が残存しないため、新旧関係を把握することはできなかった。[規模] 壁が残存しないため、詳細な規模は不明と言わざるをえないが、柱穴や周溝の位置から判断すると、一辺4.5～5.0mの方形状を呈するものと考えられる。[埋土] 確認できなかった。



第89図 25号竪穴建物跡

[壁・床の状況] 残存しない。[炉] プランの北西側で炉を1基検出した。土坑状に掘り窪め、その北西側の底面が円形状に被熱している。焼成深度は最大で4cmである。埋土は炭化物を含む明褐色シルトの単層である。[付属施設] 柱穴4個と周溝を検出した。柱穴は炉を中心に4個が台形状に配置される。埋土はPit 1が明黄褐色シルト主体、Pit 2・Pit 4がにぶい黄褐色シルト主体、Pit 3が褐色シルト主体の単層である。深さはPit 1が15cm、Pit 2が17cm、Pit 3が34cm、Pit 4が25cmである。周溝は斜面下方の南東側に部分的に確認でき、埋土はにぶい黄褐色シルト主体の単層である。

[遺構種別] 工房。

[出土遺物] (第131・157図、写真図版57・68・69・71)

炉周辺から粗製土器片、石器(451・457)、金属製品1点、炉埋土から石器(446)、Pit 3から土器(148)、Pit 4から石器1点、が出土しており、土器1点(148)、石器3点(446・451・457)を掲載した。

[時代・時期] 野外調査の段階では土器(148)等の出土より、縄文時代に帰属するものと想定していたが、金属製品や石器(446・451)の出土より古代に帰属するものと判断した。(北村忠昭)

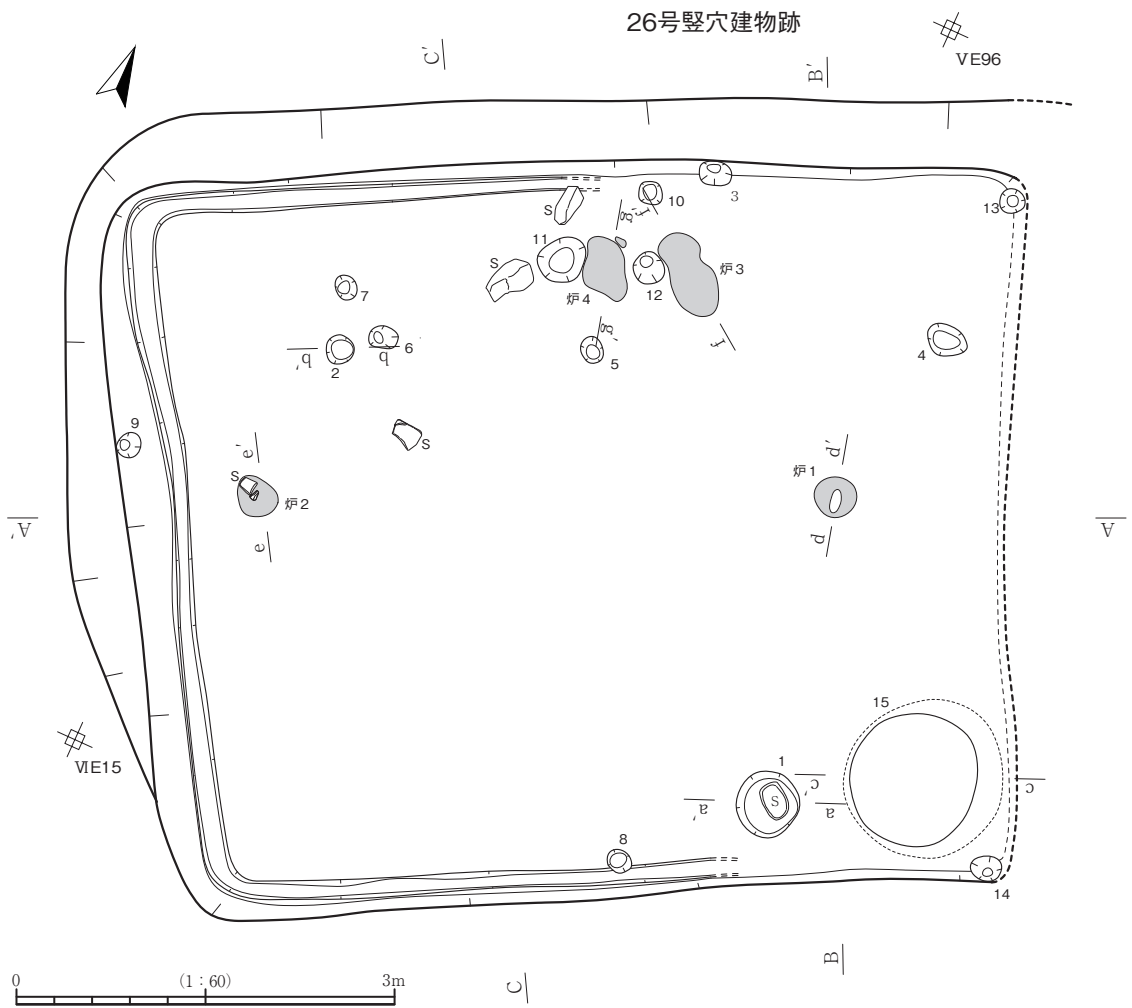
26号竪穴建物跡(SI03)(第90・91図、写真図版38)

[位置] 6区南側、VE 94・95・96、VE 04・05・06・15グリッドに位置する。[検出状況] 西尾根の東斜面へ緩く傾斜する平坦部のV層上面で黒色の方形プランとして検出した。[重複] 直接重複する遺構はないが、1号道路状遺構と重複する関係にある。本遺構の東側が少し窪んで東壁が残存していないため、1号道路状遺構が途切れた状態になっている。新旧関係の判断はできなかった。[規模] 東側は削平されているが、確認できる平面規模は長辺7.44m、短辺6.36mである。確認できる検出面から床面までの深さは最大で68cmである。[埋土] 9層に分層した。埋土の主体は炭化物を微量に含む黒色シルトである。北西斜面からの流れ込みによる自然堆積と考えられる。[壁・床の状況] 残存する範囲では、壁は緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦である。[炉] 炉と思われる現地性焼土を4基検出した。炉1は東側中央付近に位置し、34×32cmの円形を呈する。焼成深度は最大で5cmである。炉2は炉1と対になるような西側中央付近に位置する。掘りすぎたため詳細は不明だが、残存する規模は31×20cmで、焼成深度は最大で4cmである。炉3は北壁際中央付近に位置する。71×36cmの不整形で、焼成深度は最大で6cmである。炉4は炉3に隣接する。54×34cmの不整形で、焼成深度は最大で9cmである。最ものが被熱が激しいのは、炉3と炉4で、炉1と炉2は被熱が弱い。[付属施設] 直径1mの円形を呈するフラスコ形の土坑(Pit15)を1基検出した。床面からの深さは最大で1.07mである。土坑からは紡錘車、羽口、鉄滓が出土した。柱穴を14個確認したが規則的な配置となるものは見受けられなかった。Pit 2・3・9～11は黒褐色シルト主体、Pit 4～7は黒色シルト主体、Pit 8・13・14は暗褐色シルト主体、Pit12は褐色砂質シルト主体の単層である。深さはPit 1が66cm、Pit 2が46cm、Pit 3が24cm、Pit 4が15cm、Pit 5が20cm、Pit 6が28cm、Pit 7が18cm、Pit 8が12cm、Pit 9が33cm、Pit10が12cm、Pit11が17cm、Pit12が28cm、Pit13が47cm、Pit14が54cmである。周溝は西側半分を検出した。東側は確認できなかった。

[遺構種別] 住居として精査を進めたがカマドがなく、古代の住居とは異にする。炉跡と考えられる複数の焼土や遺構の形態から沿岸部における古代の鉄生産に関連する工房と類似し、付属する土坑から羽口や鉄滓が出土することから鉄生産に関連する工房と判断した。

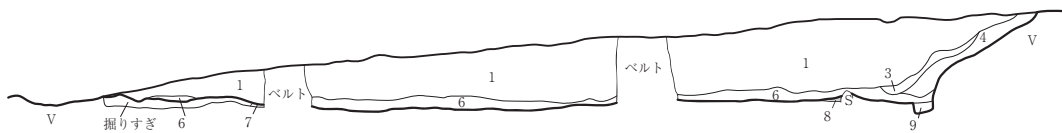
[年代測定] 炉4周辺から採取した炭化物の年代測定を実施したところ、calAD1,020～1,150との年代値を得た(第VI章放射性炭素年代測定参照)。

[出土遺物] (第158・164・166図、写真図版68・72)



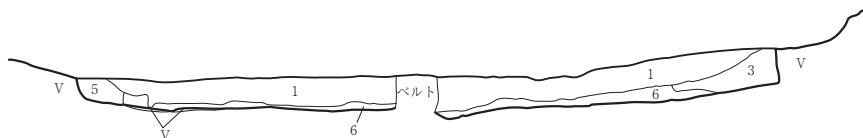
A L=44.600m

A'



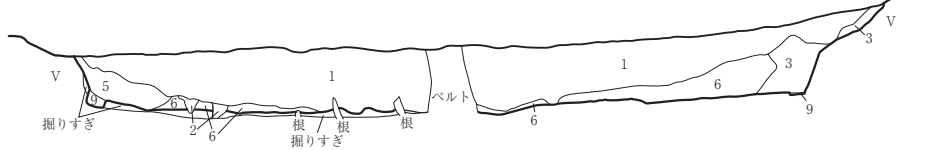
B L=44.600m

B'



C L=44.600m

C'

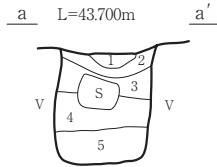


第90図 26号竪穴建物跡 1



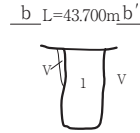
26号竪穴建物跡

1. 10YR2/1 黒色シルト 粘性無 締中 地山塊1%・明黄褐色シルト粒30%・炭3%含む、上層に暗褐色シルト塊3%含む
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締無
3. 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 粘性・締無 黒褐色砂質シルト20%・明褐色砂質シルト2%・明黄褐色シルト粒1%・炭5%含む
4. 7.5YR4/6 褐色シルト 粘性無 締中 炭1%含む
5. 7.5YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性無 締中 黄褐色シルト粒3%・炭2%含む
6. 10YR3/2 黒褐色シルトと10YR4/4褐色砂質シルトとの混合土 粘性・締無 暗褐色シルト20%・7.5YR4/6褐色シルト10%・炭3%含む
7. 2.5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性無 締有
8. 2.5YR5/8 明褐色焼土 粘性無 締稍無
9. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 締有 炭3%含む



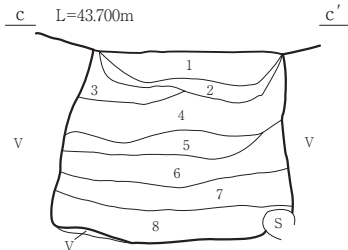
26号竪穴建物跡 Pit 1

1. 10YR2/1 黒色シルト 粘性無 締中 褐色シルト1%・炭3%含む
2. 10YR3/3 黒褐色シルト 粘性無 締中 暗褐色シルト10%・明黄褐色シルト粒3%・炭5%含む
3. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性無 締稍無 黄褐色シルト粒5%・炭1%含む
4. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性・締無 黄褐色シルト粒3%含む
5. 10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性・締無 黄褐色シルト粒3%含む



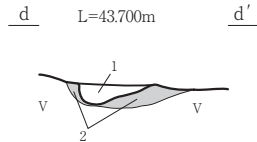
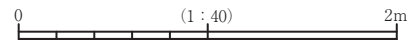
26号竪穴建物跡 Pit 2

1. 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性無 締中 炭1%含む



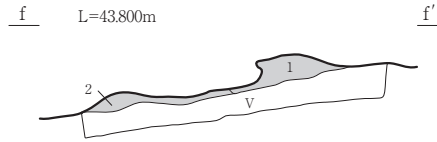
26号竪穴建物跡 Pit 15

1. 10YR1.7/1 黒色シルト 粘性無 締中 黄褐色シルト粒2%・明黄褐色シルト塊5%・炭20%含む
2. 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性無 締中 暗褐色シルト10%・黄褐色シルト粒1%・炭10%含む
3. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締稍有 黄褐色シルト粒1%・炭1%含む
4. 10YR4/4 砂質シルト 粘性無 締稍無 マサ土混入・炭6%含む
5. 10YR4/4 褐色砂質シルトと10YR2/1黒色シルトとの混合土 粘性無 締中 赤褐色焼土粒3%・明黄褐色シルト粒10%・炭20%含む
6. 10YR4/4 砂質シルトと7.5YR4/6褐色シルトとの混合土 粘性無 締有 赤褐色焼土粒5%・炭10%含む
7. 7.5YR4/6 褐色シルトと10YR4/1褐灰色砂質シルトとの混合土 粘性無 締有 炭5%含む
8. 10YR3/1 黒褐色砂質シルト 粘性無 締稍無



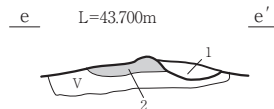
26号竪穴建物跡 炉 1

1. 10YR2/1 黒色シルト 粘性・締無 炭3%含む
2. 2.5YR5/8 明赤褐色焼土 粘性無 締有



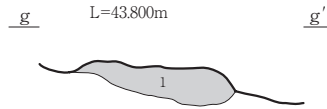
26号竪穴建物跡 炉 3

1. 2.5YR5/8 赤褐色シルト 粘性無 締有 炭1%含む
2. 2.5YR6/8 橙色シルト 粘性・締無 炭1%含む



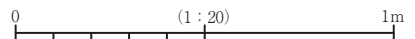
26号竪穴建物跡 炉 2

1. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・締無
2. 2.5YR5/8 明褐色焼土 粘性・締無 炭5%含む



26号竪穴建物跡 炉 4

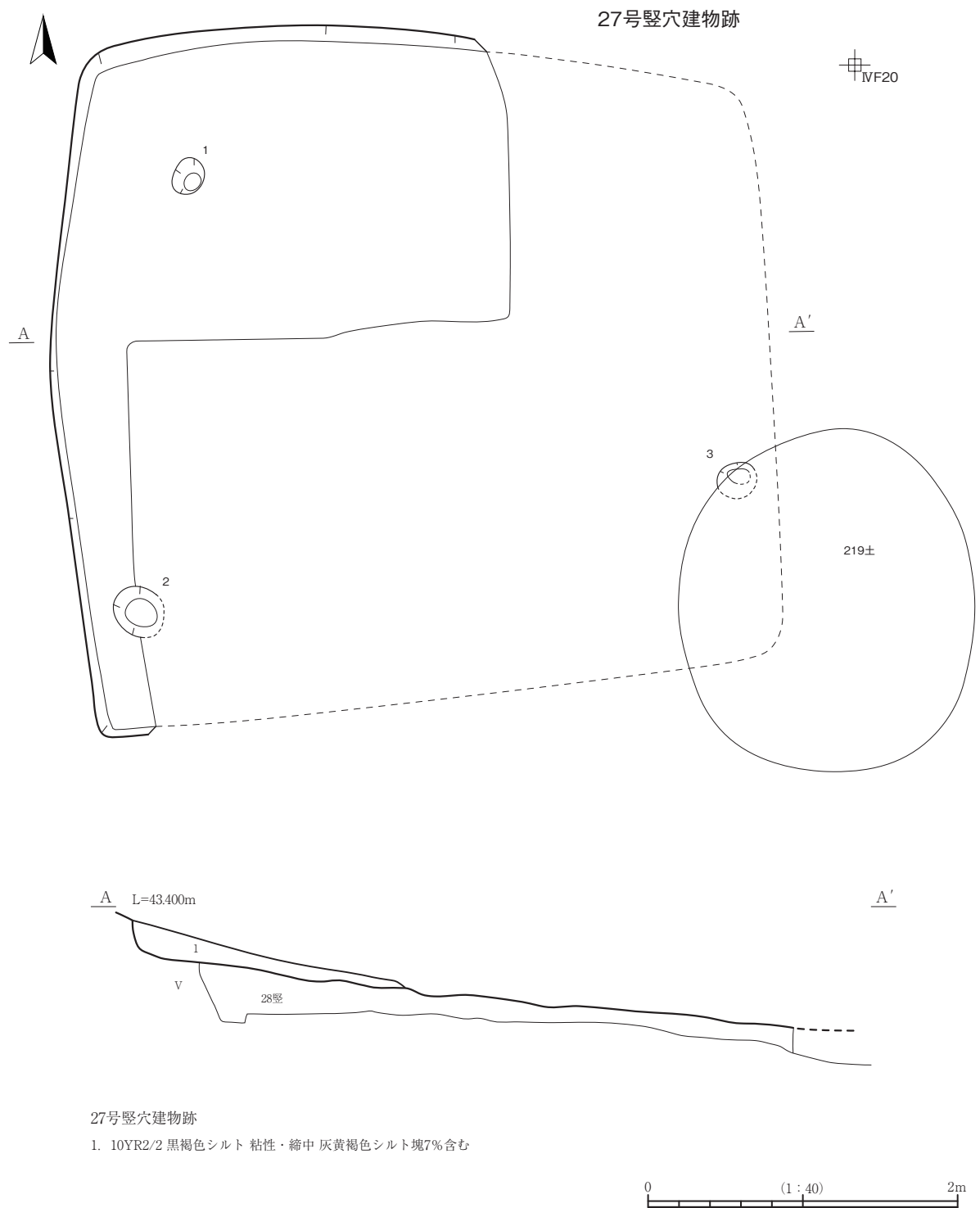
1. 2.5YR5/8 明赤褐色シルト 粘性無 締有 炭3%含む



第91図 26号竪穴建物跡 2

2 検出遺構

遺構埋土から土師器を含む土器小片、石器(447)、金属製品(492～494)、鉄滓660.7g、Pit 2から石器1点、Pit 3から土師器を含む土器小片、金属製品(488)、羽口(505・506他)、鉄滓1245.3gが出土しており、石器1点(447)、金属製品4点(488・492～494)、羽口2点(505・506)を掲載した。また、Pit 3から出土した炉内滓と流出滓、炉4から出土した椀形滓の分析を実施した(第VI章鉄滓等遺物の化学分析参照)。



第92図 27号竪穴建物跡

[時代・時期] 放射性炭素年代測定の結果より11～12世紀に帰属すると判断した。

(白戸このみ・北村忠昭)

27号竪穴建物跡(SI01) (第92図、写真図版39)

[位置] 6区東側、VE 28・29グリッドに位置する。[検出状況] V層で黒褐色の方形プランとして検出した。[重複] 28号竪穴建物跡を載る。[規模] 本遺構よりも古い28号竪穴建物跡を先に掘ってしまったことと壁が西側にしか確認できなかったため、全体の形状は不明だが、残存する範囲では南北に4.47m、東西で2.95mの方形を呈すると思われる。確認できる検出面から床面までの深さは最大で21cmである。[埋土] 斜面上側にしか残存していないが、灰黄褐色シルトブロック少量と炭化物を微量含む、黒褐色シルト主体の単層である。[壁・床の状況] 残存する範囲では、壁は緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦である。[カマド] なし。[付属施設] 柱穴を3個検出した。埋土はどれも炭化物を少量含む、黒褐色シルト主体である。深さはPit 1が41cm、Pit 2が35cm、Pit 3が56cmである。[遺構種別] 工房。

[出土遺物] (第156・164図、写真図版68・72)

床面直上と遺構埋土から出土した破片が接合した土器(442)、遺構埋土から金属製品(481・482・487)が出土しており、4点とも掲載した。

[時代・時期] 遺構埋土から出土した金属製品(481・482・487)と遺構の形態より古代に帰属すると判断したが、詳細な時期を特定するには至らなかった。

(佐々木隆英・北村忠昭)

28号竪穴建物跡(SI02) (第93図、写真図版39)

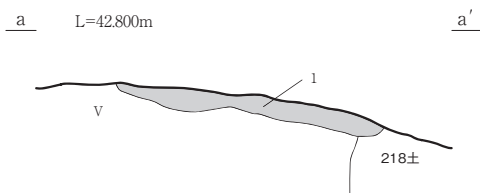
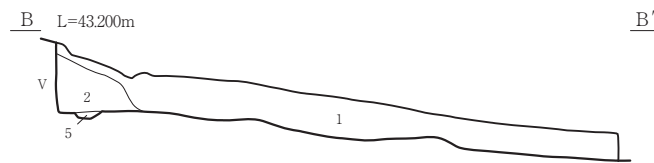
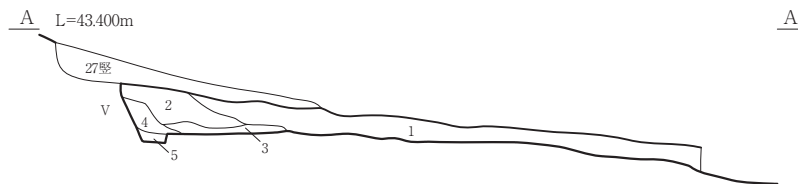
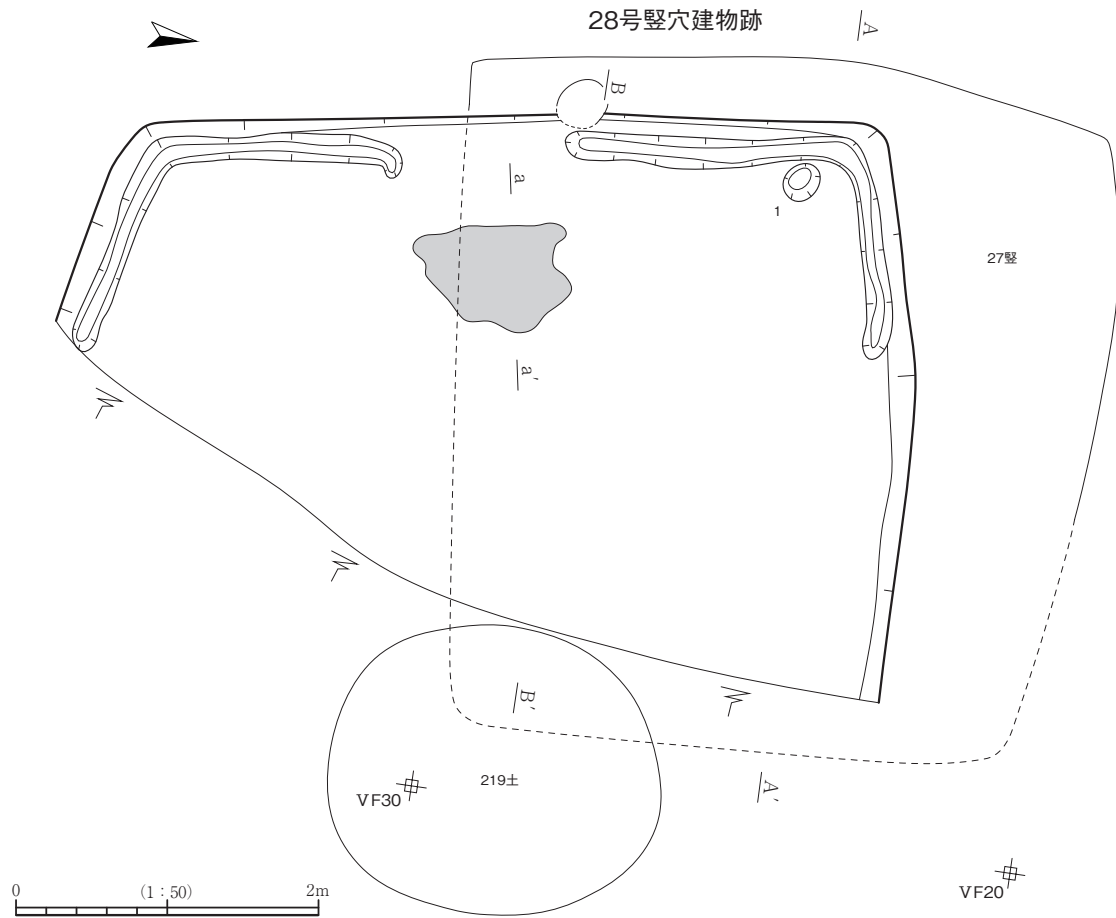
[位置] 6区東側、VE 29・39グリッドに位置する。[検出状況] V層で黒褐色の方形プランとして検出した。[重複] 27号竪穴建物跡に載られ、218号土坑・219号土坑を載る。[規模] 東側が削平されているため全体の形状は不明だが、残存する範囲では南北に5.70m、東西に3.77mの方形を呈すると思われる。確認できる検出面から床面までの深さは最大で55cmである。[埋土] 5層に分層した。27号竪穴建物跡に少し載られているが、1層である黒褐色シルトが大半を占めるかたちで埋没し、斜面上方から2～4層がそれぞれ細かく流入している。5層は周溝の埋土で暗褐色シルト主体である。[壁・床の状況] 壁は東側が削平されているため残存しないが、西側はほぼ直線的に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。[カマド] なし。[付属施設] 焼土1基、柱穴1個、周溝を検出した。竪穴の西壁寄り中央で焼土を1基検出した。燃焼部は101×70cmの不整形を呈し、色調は赤褐色を呈する。焼成深度は最大で13cmである。焼土がある部分の西側で周溝が途切れているため、古代の竪穴建物跡に伴うカマドと想定したが、煙出しピットや煙道もなく、カマド構築土などもなかったためカマドの可能性は低いと考えられる。鍛造剥片は出土していないが、金床石と考えられる石器が出土している。柱穴や周溝の埋土は暗褐色シルト主体の単層である。柱穴の深さは最大で10cmである。周溝の深さは最大で22cmである。本遺構のほぼ中央に218号土坑があり、218号土坑の左上側の埋土が本遺構の焼土によって被熱を受けているため載られていると判断したが、人為堆積によって埋められているため、218号土坑を埋めて本遺構を建てたか、もしくは本遺構に伴う遺構の可能性がある。

[遺構種別] 工房。

[出土遺物] (写真図版70)

床面直上から石器(452)が出土しており、掲載遺物とした。

[時代・時期] 遺構の形態と27号竪穴建物跡との新旧関係より古代に帰属すると判断したが、詳細な

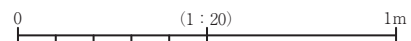


28号竪穴建物跡

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性稍無 縮中 炭1%含む
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性稍無 縮中
3. 10YR2/1 黒色シルト 粘性中 縮稍無 炭3%含む
4. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 縮無
5. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性稍無 縮無

28号竪穴建物跡 焼土

1. 5YR4/8 赤褐色焼土 粘性稍無 縮中



第93図 28号竪穴建物跡

時期を特定するには至らなかった。

(佐々木隆英・北村忠昭)

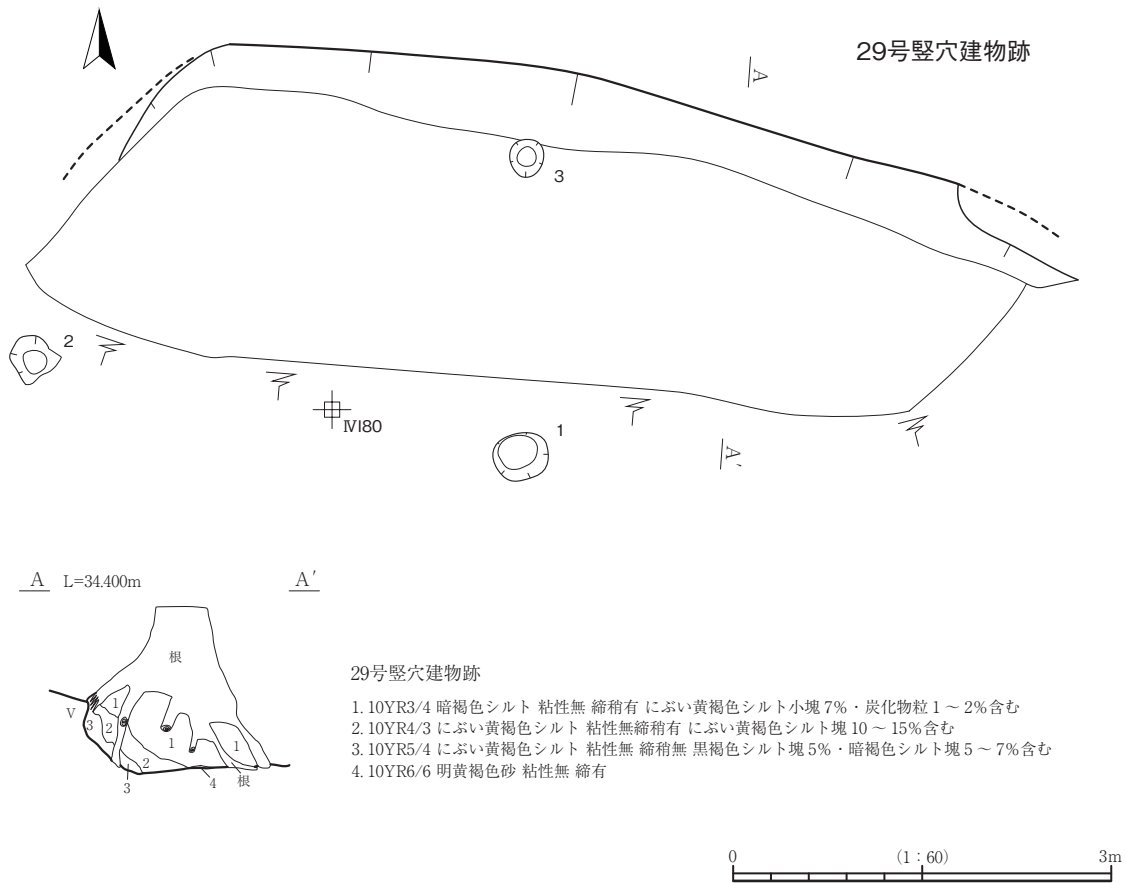
29号竪穴建物跡 (SKI01) (第94図、写真図版39)

[位置] 2区西側、IV H 79・IV I 70グリッド周辺に位置する。[検出状況] V層上面で暗褐色のプランとして検出した。斜面下方に当たる南側は後世の土地改変により残存していない。[重複] 24号竪穴建物跡を載る。[規模] 南側が残存しないため、詳細な規模は不明であるが、確認できる長辺は約8.2mである。確認できる検出面から床面までの深さは最大で55cmである。[埋土] 4層に分層した。全体的に植林による影響を受けており、残存状態が悪い。壁際に地山起源のにぶい黄褐色シルトが堆積し、大部分が暗褐色シルトで埋没している。斜面上方からの堆積状況を呈しており、自然堆積の可能性が高いと考えられる。[壁・床の状況] 確認できる壁は床面からなだらかに立ち上がる。部分的に壁が崩落したためか、挟れる箇所も確認できる。床面は概ね平坦である。[炉] なし。[付属施設] 柱穴を3個検出した。柱穴の埋土はPit 1の上部に灰黄褐色シルトが確認できるが、それ以外は黒褐色シルトを主体とする。深さはPit 1が35cm、Pit 2が46cm、Pit 3が21cmである。

[遺構種別] 古代の工房に形状は類似するが、炉が確認できなかったため工房状とした。

[出土遺物] (第162・164図、写真図版71・72)

床面直上から金属製品(490)、遺構埋土から土器小片、石器(458他1点)、金属製品(483・489・491他2点)、鉄滓1.7gが出土し、石器1点(458)、金属製品4点(483・489～491)を掲載した。



第94図 29号竪穴建物跡

[時代・時期] 遺構の形態や遺構埋土から出土した金属製品(483)より古代に帰属すると判断したが、詳細な時期の特定には至らなかった。(北村忠昭)

1号鉄生産関連炉(SX14)(第95図、写真図版40)

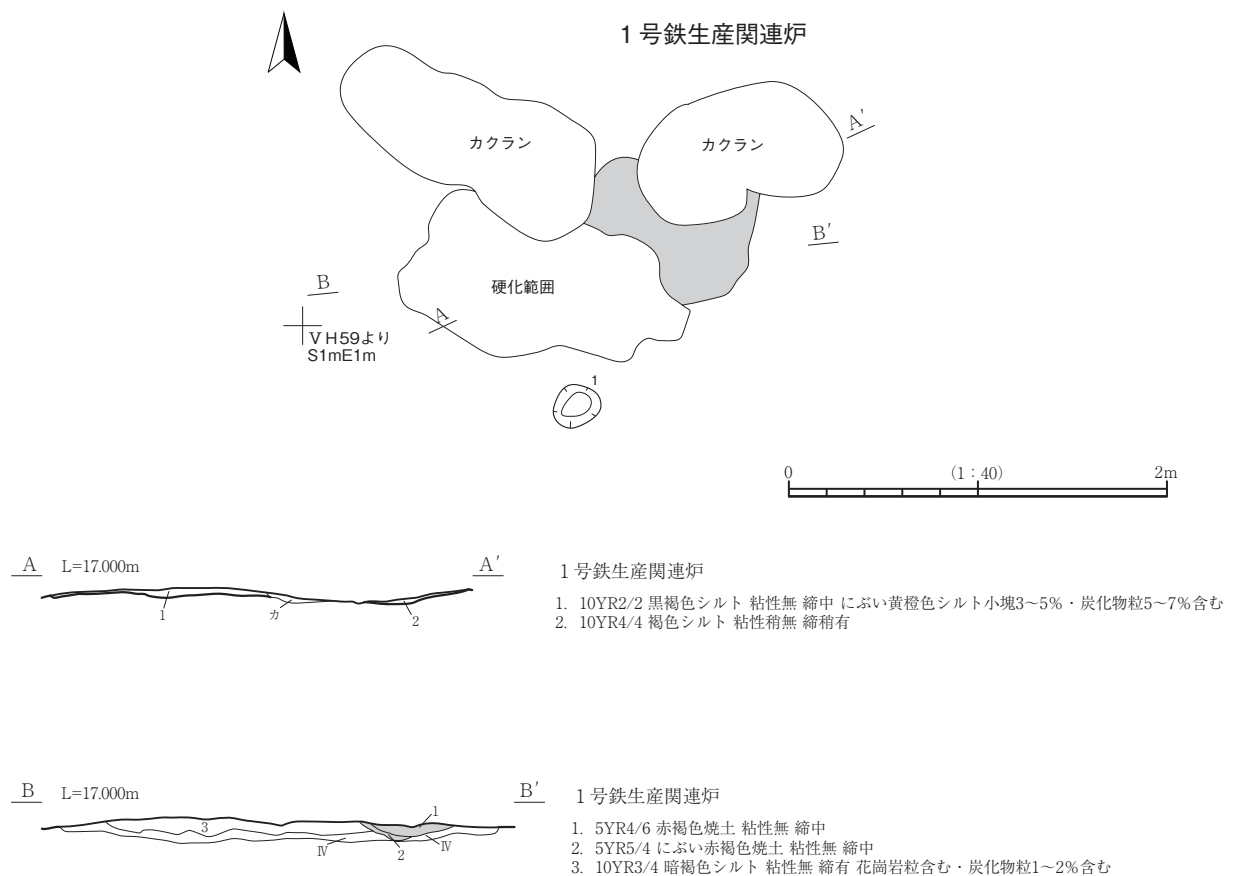
[位置] 3区南側、V H 59グリッドに位置する。[検出状況] IV層上面で炉と判断した焼土と硬化範囲を検出した。[重複]なし。[規模]近年の耕作痕の影響を大きく受けており、残存状態が非常に悪い。そのため、詳細な規模は判然としないが、確認できた規模は、焼土と硬化範囲を合わせると、長辺約2mで、硬化範囲の幅は約1.2mである。確認できる被熱範囲は不整形で、南西-北東方向0.9m、北西-南東方向0.9mである。IV層が赤変しており、焼成深度は最大で6cmである。硬化しているのは焼土に隣接する南東側のIV層上面である。焼土(炉)に伴う作業場と判断した。[埋土]堆積状況は悪く、非常に薄い、炭化物を含む黒褐色シルトがわずかに確認できるのみである。[付属施設]硬化範囲の南側で柱穴を1個検出した。黒褐色シルト主体の単層で、深さは9cmである。

[出土遺物](第155・163図、写真図版67・71)

炉焼成面直上から土器片、炉周辺の平坦面(作業面)から土器片、石製品(465)、羽口片が出土し、土器(421)、石製品1点(465)を掲載した。

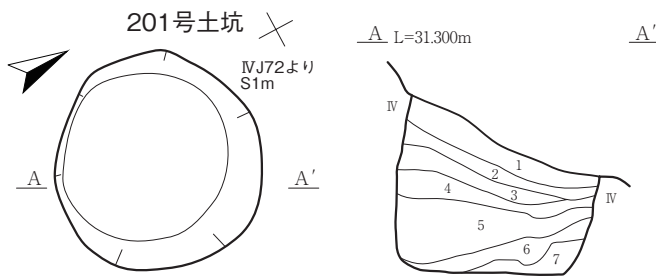
[時代・時期] 詳細な年代を決定しうる遺物が伴わないため、詳細な年代は不明と言わざるをえないが、鉄生産に関連する遺構と同時期のものと捉えており、平安時代後半に帰属するものと判断した。

(北村忠昭)



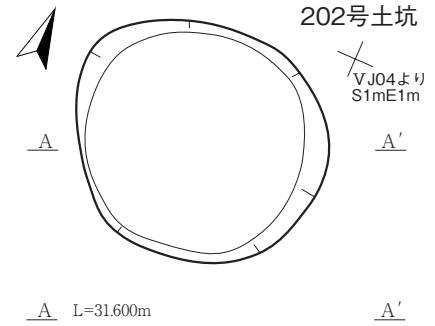
第95図 1号鉄生産関連炉





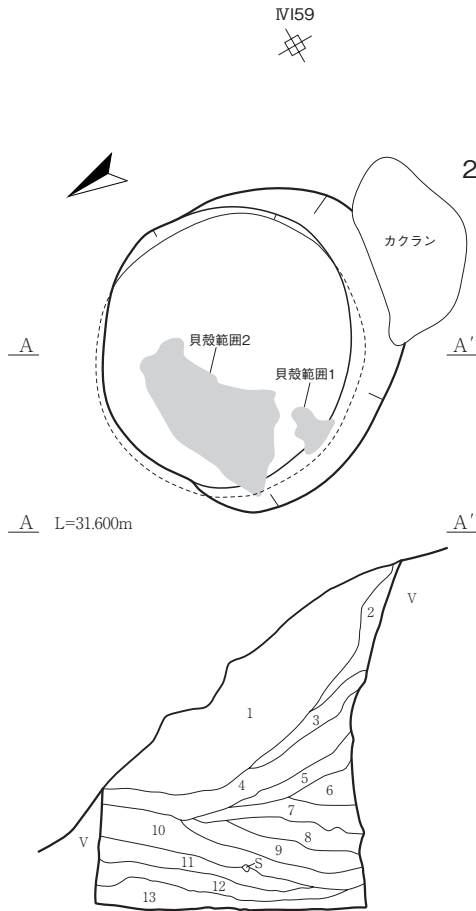
201号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 締稍無 褐色シルト塊5%含む
2. 10YR2/1 黒色シルト 粘性・締稍無
3. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 締稍無 褐色シルト塊3%含む
4. 10YR2/1 黒色シルト 粘性・締稍無
5. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 締稍無 黒色シルト塊5%・褐色シルト塊2%含む
6. 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性・締稍無
7. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 締稍無



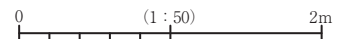
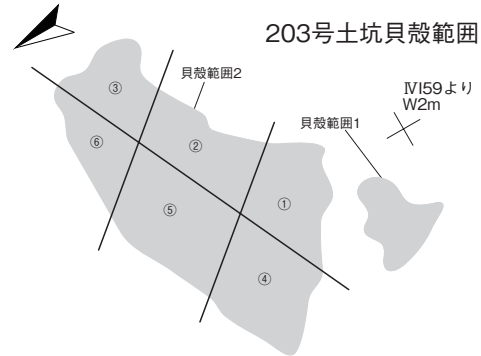
202号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 締稍無 炭5%含む
2. 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性稍無 締中
3. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性稍無 締中 炭2%含む



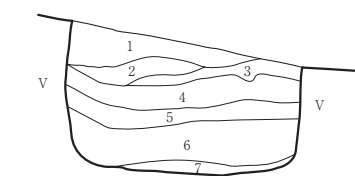
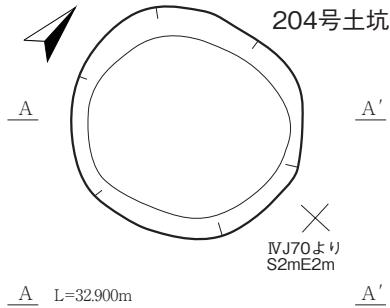
203号土坑

1. 10YR1.7/1 黒色シルト 粘性中 締稍無 下位から多量の貝殻が出土
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性・締稍無
3. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締稍無
4. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締稍無 暗褐色シルト塊3%含む
5. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締稍無 暗褐色シルト塊5%・炭3%含む
6. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締稍無
7. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締稍無 黒褐色シルト塊5%含む
8. 10YR4/4 褐色シルト 粘性稍無 締中 黒褐色シルト塊2%含む
9. 10YR2/1 黒色シルト 粘性中 締稍無 暗褐色シルト塊5%・褐色シルト塊3%・炭2%含む
10. 10YR2/1 黒色シルト 粘性中 締稍無 褐色シルト塊7%・炭3%含む
11. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 締稍無 褐色シルト塊5%含む
12. 10YR2/1 黒色シルト 粘性中 締稍無 黒褐色シルト塊3%・マサ土2%含む
13. 10YR5/4 におい黄褐色シルト 粘性・締稍無 黒褐色シルト塊2%含む



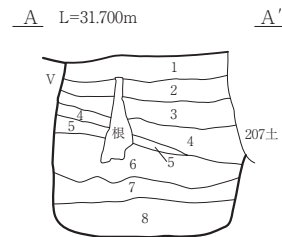
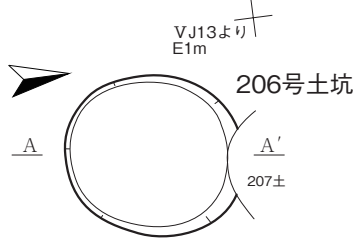
第96図 古代の土坑類 1

2 検出遺構



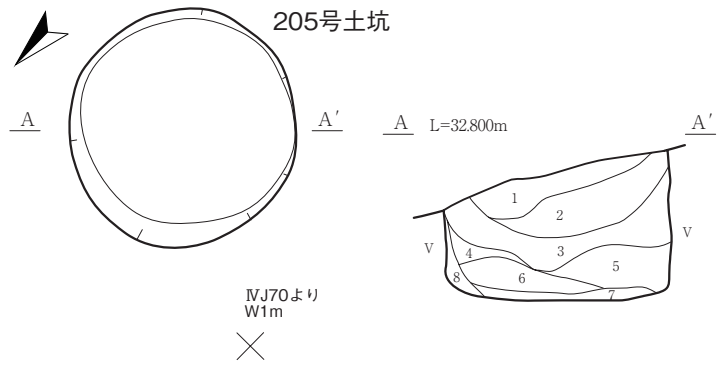
204号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト 粘性無 締中 黒褐色シルト30%・明黄褐色シルト粒3%・炭20%含む
2. 10YR4/6 褐色シルト 粘性無 締中 明黄褐色シルト粒3%・赤褐色焼土粒1%・炭1%含む
3. 10YR2/1 黒色シルト 粘性無 締中 明黄褐色シルト粒3%・赤褐色焼土粒1%・炭20%含む
4. 10YR5/4 黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 黄褐色シルト粒1%含む
5. 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性無 締中 黄褐色砂質シルト30%・炭20%含む
6. 10YR4/3 黄褐色砂質シルト 粘性無 締中 黄褐色シルト粒3%・炭1%含む
7. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 粘性無 締中 黒褐色シルト20%・褐色シルト粒3%・炭5%含む



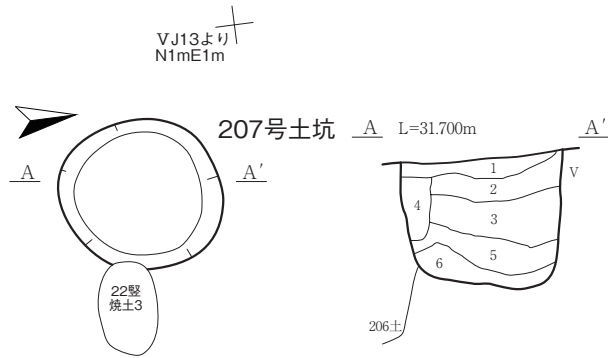
206号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 締稍無 明黄褐色シルト塊3%含む
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締中 明黄褐色シルト塊7%・炭3%含む
3. 10YR2/1 黒色シルト 粘性・締中 明黄褐色シルト塊2%含む
4. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締中 明黄褐色シルト塊1%含む
5. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締中 明黄褐色シルト塊3%含む
6. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締稍無
7. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 締稍無
8. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締稍無



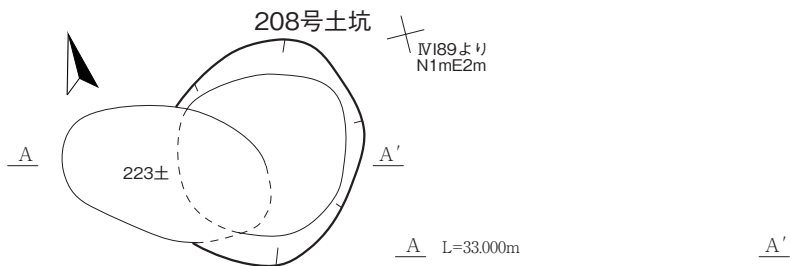
205号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締無 黄褐色シルト30%・黒色シルトがまだらに20%含む
2. 10YR4/4 褐色シルトと10YR4/6 褐色シルトとの混合土 粘性無 締稍無 黒褐色シルトと黄褐色シルトがまだらに10%含む
3. 10YR6/4 黄褐色シルトと10YR17/1 黒色シルトとの混合土 粘性・締無 黒褐色シルト40%・褐色シルトがまだらに10%・黄褐色シルトがまだらに5%含む
4. 10YR6/4 黄褐色シルト 粘性・締無 黒褐色シルトがまだらに5%含む
5. 10YR4/4 褐色シルト 粘性・締無 黄褐色シルト5%・黒褐色シルトがまだらに3%含む
6. 10YR17/1 黒色シルト 粘性・締無 黒褐色シルト40%・黄褐色シルトがまだらに5%・明黄褐色シルト粒1%含む
7. 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性・締無 黒褐色シルト5%・炭3%含む
8. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・締無 炭1%含む



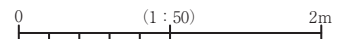
207号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 締稍無 褐色シルト塊5%・炭2%含む
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 締稍無 褐色シルト塊3%含む
3. 10YR2/1 黒色シルト 粘性中 締稍無 黒褐色シルト塊7%・褐色シルト塊5%含む
4. 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性稍無 締中
5. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 締稍無
6. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 締稍無

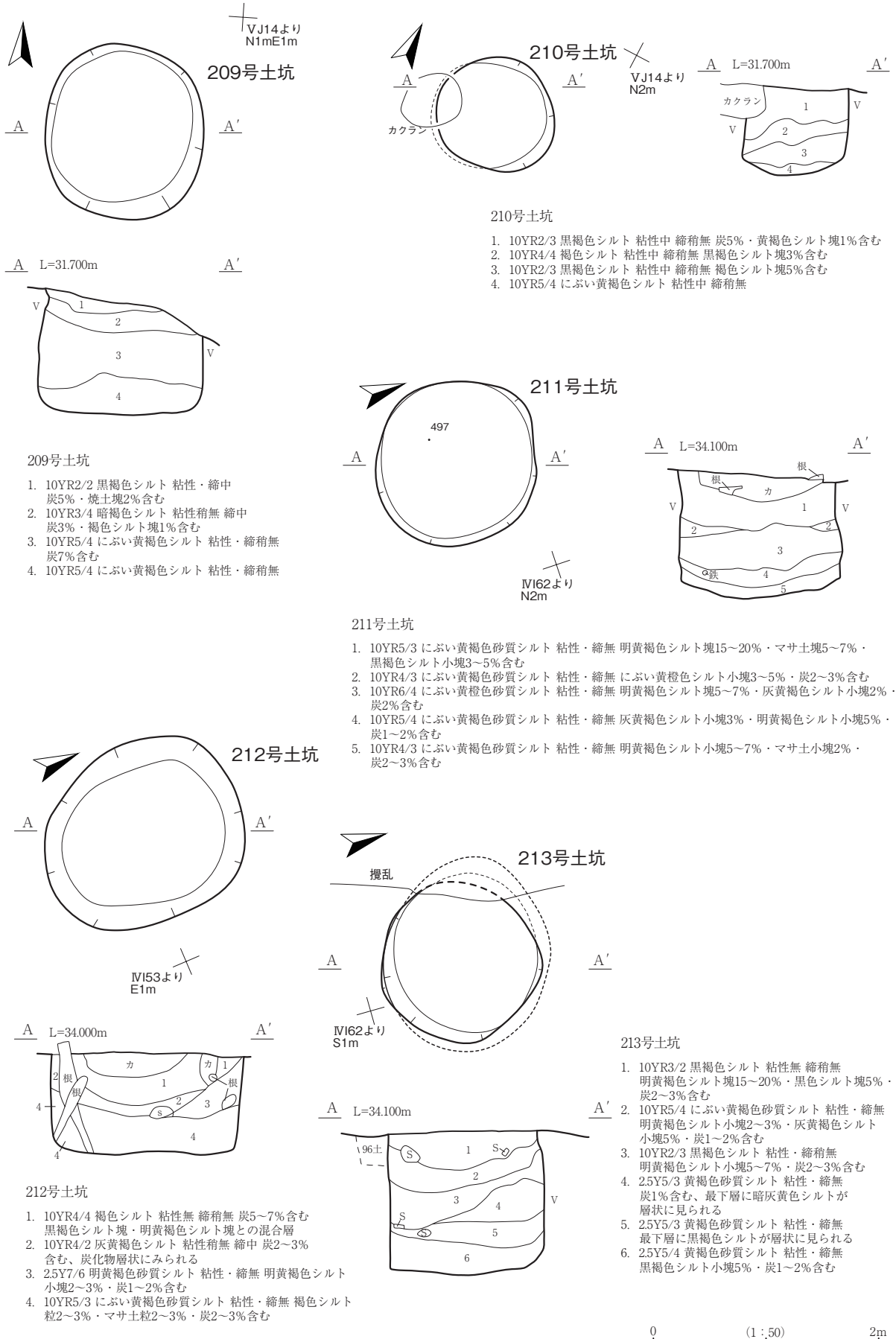


208号土坑

1. 10YR4/3 黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 明黄褐色シルト塊1%・明黄褐色シルト10%含む
2. 10YR4/3 黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 黄褐色砂質シルト5%・明黄褐色シルト1%含む
3. 10YR6/4 黄褐色砂質シルト 粘性無 締有 明黄褐色シルト塊1%含む
4. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締中

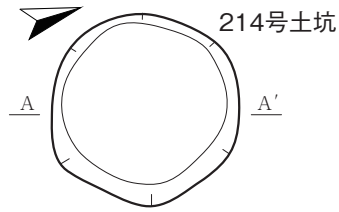


第97図 古代の土坑類2

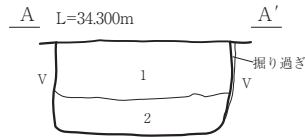


第98図 古代の土坑類3

2 検出遺構



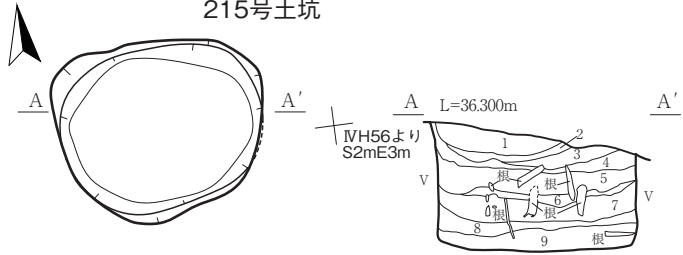
VI61より  
E1m



214号土坑

- 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性無 締中 黄褐色シルト塊 7~10%・にぶい黄褐色シルトとの混合層 炭含む
- 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・締無 マサ土粒・灰黄褐色シルト小塊2~3%含む

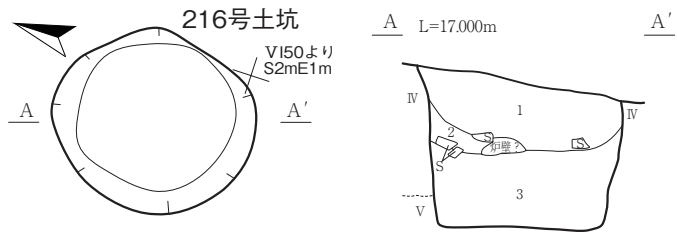
215号土坑



215号土坑

- 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締稍無 にぶい黄褐色シルト塊15~20%・炭1~2%含む
- 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性無 締稍無 褐色シルト小塊5~7%・炭1%含む
- 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性無 締稍無 黒褐色シルト小塊3~5%・炭2~3%・にぶい黄褐色シルト塊10%含む
- 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・締無 焼土塊7~10%・炭1~2%含む
- 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・締無 灰黄褐色シルト小塊5~7%・炭2~3%含む
- 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性無 締稍無 にぶい黄褐色シルト小塊2~3%・炭1%含む
- 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性無 締稍無 マサ土粒含む
- 7.5YR5/4 にぶい褐色砂質シルト 粘性無 締稍無 にぶい黄褐色シルト塊3~5%含む
- 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・締無 灰黄褐色シルト小塊2%含む

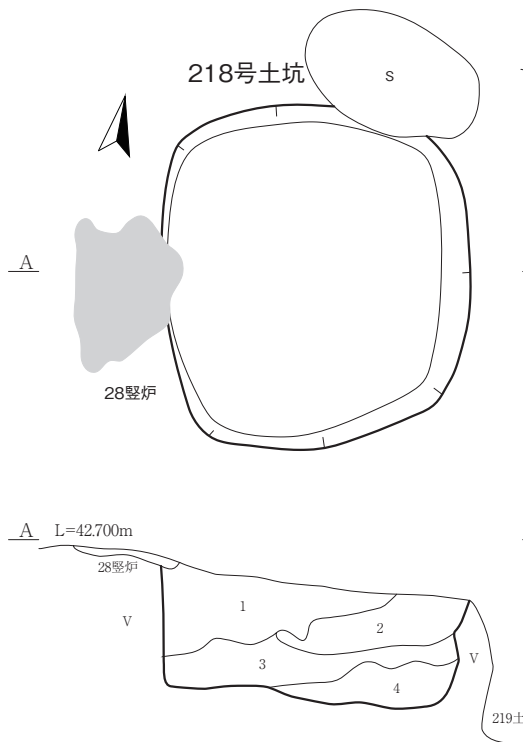
216号土坑



216号土坑

- 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性・締無 褐色シルト塊7~10%・炉壁小塊1~2%含む、下部に黒色シルト層状に見られる
- 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締無 炭7%・炉壁含む
- 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締無 炭2~3%含む

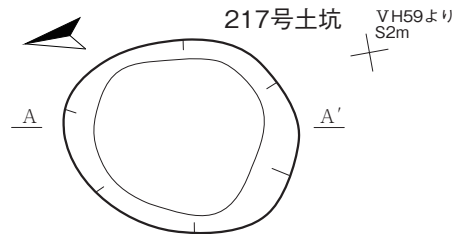
218号土坑



218号土坑

- 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性稍無 締中 褐色シルト塊7%・黒色シルト塊3%・炭1%含む
- 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性稍無 締中 黒褐色シルト塊3%含む
- 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締稍無 褐色シルト塊10%・黒色シルト塊5%含む
- 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性・締稍無 マサ土7%含む

217号土坑

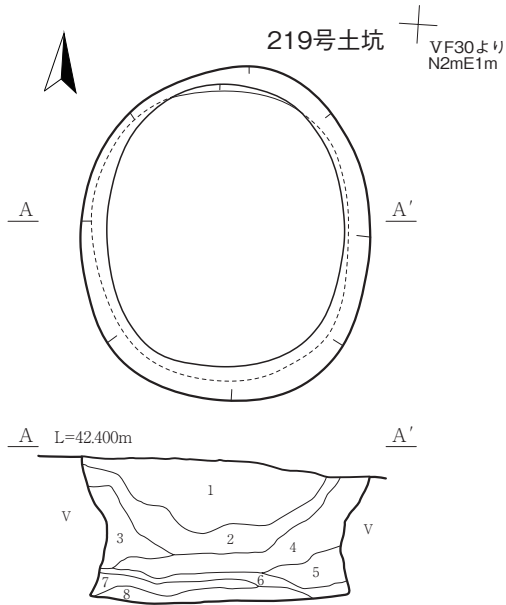


217号土坑

- 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性無 締稍無 褐色シルト小塊2~3%・炭1~2%含む
- 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性無 締稍無 にぶい黄褐色シルト小塊3~5%含む
- 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・締無 にぶい黄褐色シルト小塊5~7%・黒褐色小塊3~5%含む
- 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性・締無 暗褐色シルト塊7~10%・炭1%含む
- 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・締無 黒褐色シルト小塊3~5%・褐色シルト小塊2~3%・炭1~2%含む

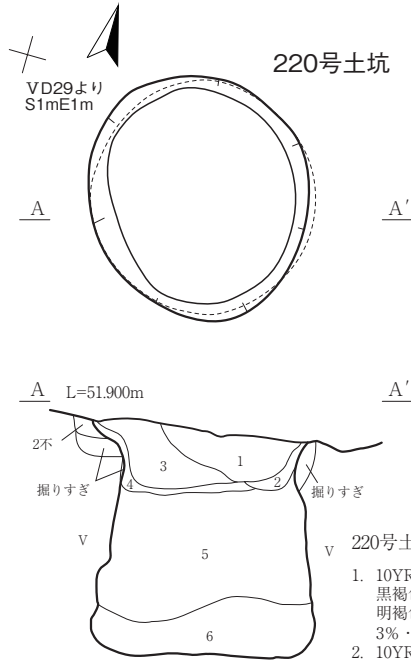
0 (1:50) 2m

第99図 古代の土坑類4



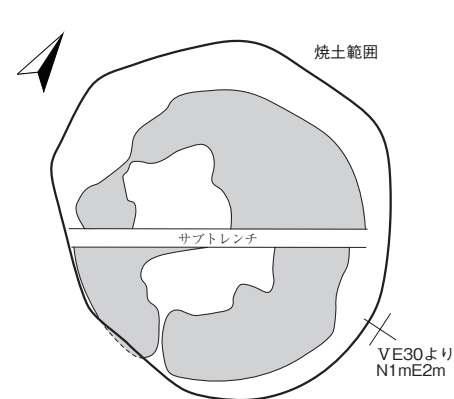
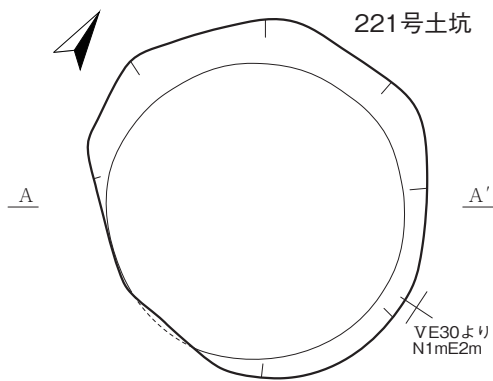
219号土坑

1. 10YR1.7/1 黒色シルト 粘性・縮中 炭3%含む
2. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 縮稍無 褐色シルト塊7%・炭1%含む
3. 10YR4/4 褐色シルト 粘性稍有 縮稍無
4. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性稍有 縮稍無 褐色シルト塊5%・炭2%含む
5. 10YR4/4 褐色シルト 粘性稍有 縮稍無
6. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中 縮稍無 炭7%含む
7. 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性中 縮無
8. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性稍有 縮無

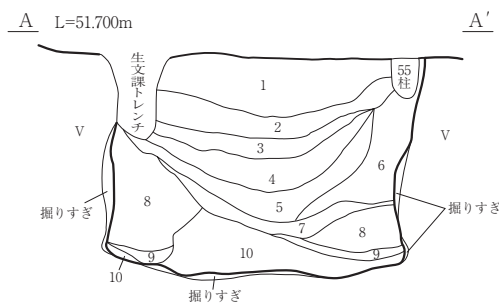


220号土坑

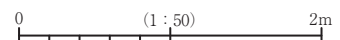
1. 10YR2/1 黒色シルト 粘性無 縮中 炭1%含む  
黒褐色シルト10%・黒色シルト塊5%・  
明褐色シルト粒5%・明赤褐色焼土粒  
3%・炭1%含む
2. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性無 縮中  
炭1%含む
3. 7.5YR5/6 明褐色シルト 粘性中 縮有  
炭1%含む
4. 5YR5/6 明赤褐色シルト 粘性中 縮有  
極暗褐色シルト5%・焼土粒1%・  
炭30%含む
5. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性・縮無  
炭5%含む
6. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性・縮無  
炭20%含む



221号土坑

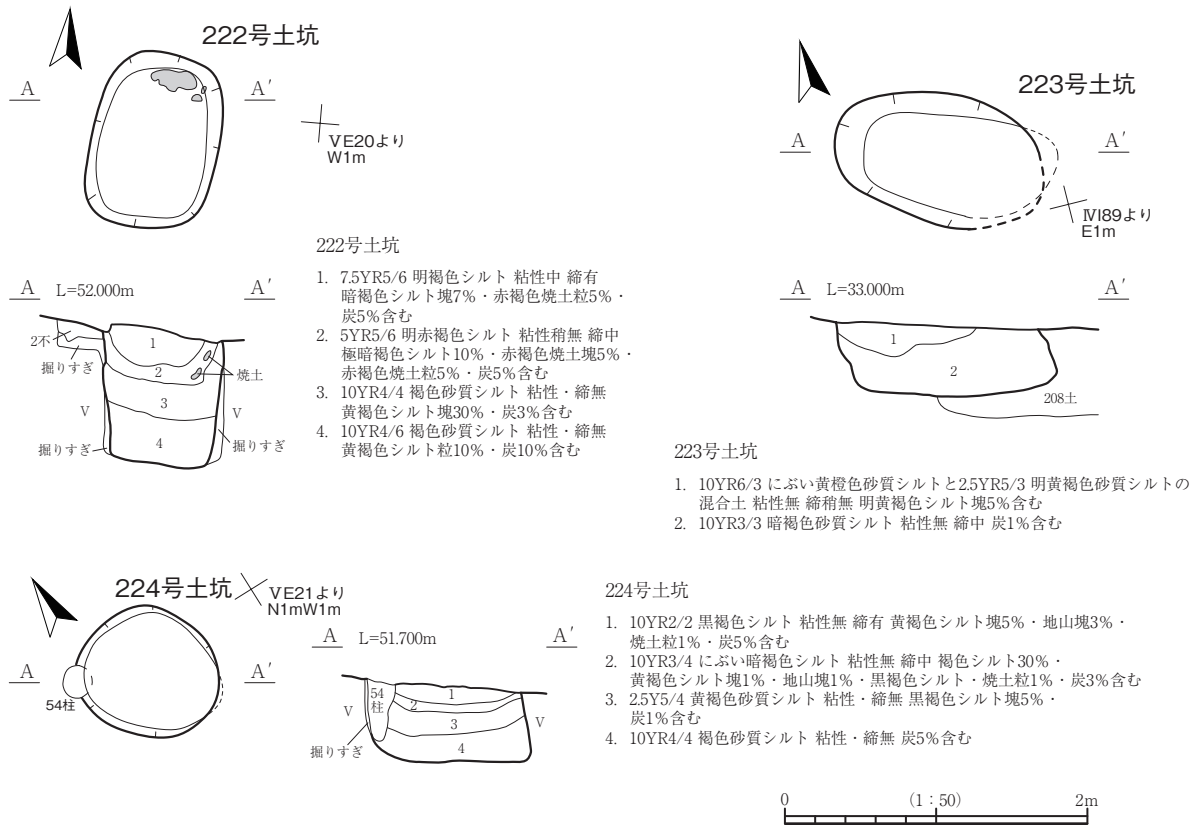


1. 10YR2/1 黒色シルト 粘性無 縮有 黄褐色シルト粒1%・炭20%含む
2. 10YR3/3 にぶい暗褐色シルト 粘性無 縮中 黒色シルト5%・明黄褐色シルト塊30%・  
黄褐色シルト粒5%・明赤褐色焼土粒1%・炭10%含む
3. 10YR2/1 黒褐色砂質シルト 粘性・縮無 黒色シルト40%・暗褐色シルト5%・  
黄褐色シルト粒1%・炭10%含む
4. 10YR1.7/1 黒色シルト 粘性・縮無 暗褐色シルト30%・黄褐色シルト粒10%・  
明赤褐色シルト粒1%含む
5. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・縮無 明黄褐色砂質シルト・黄褐色シルト塊3%・  
暗褐色シルト3%・明赤褐色焼土粒1%・炭10%含む
6. 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト 粘性無 縮稍無 黄褐色シルト粒1%・炭1%含む、  
暗褐色シルトがまだらに混入
7. 10YR6/8 明黄褐色砂質シルト 粘性無 縮有 黒褐色シルト10%・黄褐色シルト塊1%・  
明赤褐色焼土粒2%・炭10%含む
8. 10YR6/8 明赤褐色砂質シルト 粘性無 縮稍無 黄褐色シルト40%・明褐色シルト10%・  
炭10%含む
9. 2.5YR3/6 暗赤褐色焼土と5YR2/2 黒褐色砂質シルトとの混合土 粘性・縮無  
黒色シルト10%・炭10%含む
10. 5YR4/1 褐色砂質シルト 粘性・縮無 黄褐色シルト粒2%・炭2%含む



第100図 古代の土坑類 5

2 検出遺構



第101図 古代の土坑類6

第6表 古代の土坑類1

遺構名	位置 検出面	重複関係	時期	規模		出土遺物	備考	図版	写真 図版
				m	開口部 底 部 深 さ				
201号	IV J 71-72 IV層	21 竪→	平後?	1.48 × 1.37	掲載:	土: 197.2g 石: F1 鉄滓417.6g	円筒形	96	41
				1.12 × 1.08					
				1.46					
202号	V J 03-04 V層	→22 竪	平後	1.79 × 1.61	掲載: 422・448・495	土: 305.1g 石: 磨1台1 金: 不1 羽1 鉄滓 16.2g	円筒形	96	41
				1.50 × 1.45					
				1.23					
203号	IV I 48 V層	なし	平後	2.20 × [2.02]	掲載: 217・226・228・290・403 ~ 405・ 423 ~ 426・463・473・500 ~ 504・507	土: 3026.0g 石: R1F4 斧1磨2皿1軽 1 金: 刀2不5 羽口2 鉄滓529.1g 貝殻	1層下位から多量の貝 殻出土	96	41
				1.89 × 1.81					
				2.33					
204号	IV J 70 V層	205 土?	平後?	1.55 × 1.55	掲載:	土: 114.4g	円筒形、人為堆積?	97	41
				1.35 × 1.21					
				1.1					
205号	IV I 79・ IV J 70 V層	204 土?	平後?	1.60 × 1.51	掲載:	土: 343.2g	円筒形、人為堆積?	97	41
				1.36 × 1.45					
				1.06					
206号	V J 13 V層	→207 土	平後	[1.20] × 1.08	掲載: 499	土: 157.8g 金: 不3	円筒形、人為堆積	97	41
				1.07 × 0.95					
				1.27					
207号	V J 03-04 V層	206 土→ →22 竪	平後	1.10 × (1.03)	掲載: 303・453・459・464	土: 87.7g 石: 台1砥1刀1軽1 鉄滓 166.6g	円筒形、人為堆積	97	41
				0.85 × 0.83					
				0.97					
208号	IV I 79-89 V層	→223 土	平後	1.50 × [1.30]	掲載:	土: 28.3g 石: F1	円筒形、人為堆積か	97	41
				1.07 × (1.12)					
				0.66					



第6表 古代の土坑類2

遺構名	位置 検出面	重複関係	時期	規模 m	開口部		出土遺物	備考	図版	写真 図版
					底 部	深 さ				
209号	V J 03・04 V層	→22堅	平後?	1.60 × 1.47			掲載: 円筒形		98	42
				1.30 × 1.33						
				1.17						
210号	V J 03 V層	→22堅	平後	1.09 × 1.00			掲載: 427・508 土: 171.8g 羽口1鉄滓113.8g	円筒形	98	42
				1.01 × 0.95						
				0.85						
211号	IV I 51 V層	なし	平後?	1.57 × 1.49			掲載: 444・478・486・497・498 土: 127.8g 石: 敲1 金: 刀3釘2不 1 鉄滓70.3g	円筒形	98	42
				1.41 × 1.37						
				1.16						
212号	IV I 42・43・ 52・53 V層	なし	平後	1.86 × 1.60			掲載: 428・429・175・256・271・ 449・474 土: 146.7g 石: 鎌1F1磨2台4砥1 金: 刀1不1 鉄滓377.9g	円筒形 上位に焼土ブロック	98	42
				1.49 × 1.24						
				0.96						
213号	IV I 51・52・ 61・62 V層	→213土	平後	1.44 × (1.43)			掲載: 430 ~ 433・212・246・454 ~ 456・476 土: 352.3g 石: R1F1磨5台8 金: 不1	円筒形	98	42
				1.41 × 1.29						
				1.28						
214号	IV I 50・51・ 60・61 V層	25堅?	平後?	1.28 × 1.24			掲載: 145 土: 91.2g	円筒形	99	42
				1.08 × 1.08						
				0.68						
215号	IV H 56 V層	なし	平後	1.46 × 1.21			掲載: 434 土: 152.6g	円筒形 上位に焼土ブロック	99	42
				1.22 × 0.98						
				0.88						
216号	V I 50 IV層	なし	平後	1.35 × 1.21			掲載: 435・436・443・460・461・509 土: 373.5g 石: F1砥2装1 羽口一 式 鉄滓519.5g	円筒形	99	42 43
				1.03 × 0.98						
				1.14						
217号	V H 58・59 IV層	なし	平後	1.56 × 1.33			掲載: 土: 138.1g 鉄滓221.5g	円筒形	99	43
				1.11 × 1.03						
				1.04						
218号	V E 29・39 28堅床	→28堅?	平?	2.28 × (2.05)			掲載: 土: 2.5g	28堅に伴う可能性有り	99	43
				2.07 × 1.83						
				1.03						
219号	V E 29・ V F 20 V層	→28堅?	平?	2.20 × 1.93			掲載: 475・485 石: 磨1台1 金: 刀1不1 鉄滓: 15.7g		100	43
				1.90 × 1.71						
				1.05						
220号	V D 29 V層	1不→	平?	1.67 × 1.49			掲載: 257 土: 14.1 g 石: 磨1		100	43
				1.53 × 1.49						
				1.5						
221号	V D 29・ V E 20 V層	なし	11 ~ 13C	2.43 × 2.24			掲載: 土: 28.2g	年代測定実施 埋土下位焼土・炭層	100	43
				1.98 × 1.97						
				1.63						
222号	V D 19・29 V層	2不→	平後	1.18 × 0.85			掲載: 479・484 土: 24.9g 金: 刀1鈞1		101	43
				1.00 × 0.72						
				0.94						
223号	IV I 78・79 V層	208土→	平後	(1.43) × 0.87			掲載: 土: 40.8g	人為堆積?	101	41
				(1.28) × 0.65						
				0.48						
224号	V E 10 V層	なし	平後	0.95 × 0.85			掲載: 437 ~ 439 土: 288.5g 鉄滓: 11.6g		101	43
				0.92 × 0.75						
				0.59						

## 土坑類(第96 ~ 101図、写真図版41 ~ 43)

古代の土坑類は1区で3基、2区で13基、3区で2基、6区で6基の計24基が検出された。種別毎では、貯蔵穴が1区で3基、2区で12基、3区で2基、6区で4基、墓壙?が6区で1基、その他の土坑が2区で1基、3区で1基、6区で1基である。大部分は貯蔵穴であるが、縄文時代の貯蔵穴とは異なり、断面形はフラスコ形ではなく、ビーカー形もしくはバケツ形を呈するものが多い。ただし、6区の貯蔵穴はフラスコ形を呈するものも見られる。埋土の特徴は黒褐色シルトを主体とするものが多く、鉄滓や羽口等の鉄生産に関連する遺物が出土している。203号土坑からはアサリを主体

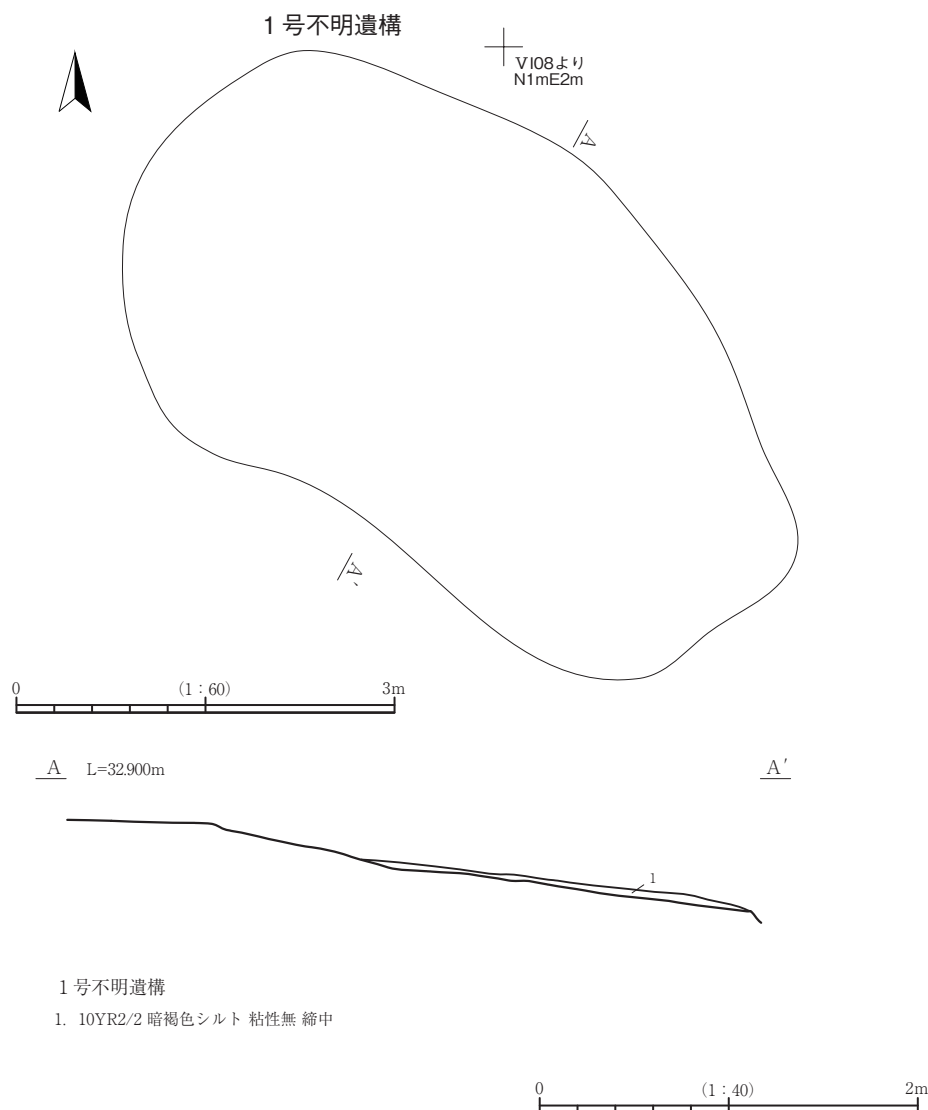
## 2 検出遺構

とする多量の貝殻類が出土している。詳細は第3節第3項の【自然遺物】を参照して頂きたい。

[年代測定] 203号土坑から出土した貝殻と221号土坑で採取された炭化物から放射性炭素年代測定を実施した。その詳細な内容は第VI章を参照して頂きたいが、結果は次のとおりである。203号土坑の貝殻範囲2から出土した貝殻からはcalAD951～1,070、221号土坑の9層から採取した炭化物からはcalAD1,045～1,210との年代値を得た。

[出土遺物] (第131・132・134・136・137・139・141～143・147・152・153・155～157・159～166図、写真図版56～62・67～72・74・75)

202～208号土坑・210号土坑・212～218号土坑・220～224号土坑の埋土から土器、202号土坑・203号土坑・207号土坑・210～213号土坑・216号土坑・219号土坑・220号土坑の埋土から石器、202号土坑・203号土坑・206号土坑・211～213号土坑・219号土坑・222号土坑から金属製品、202号土坑・203号土坑・210号土坑・216号土坑から羽口、201～203号土坑・207号土坑・210～213号土坑・216号土坑・217号土坑・219号土坑・224号土坑から鉄滓が出土し、202号土坑の土器1点(422)・石器1点(448)・金属製品1点(495)、203号土坑の土器4点(423～426)・石器1点(463)・金属製品6点(473・500～504)・羽口1点(507)、206号土坑の金属製品1点(499)、207号土坑の石器3



第102図 1号不明遺構

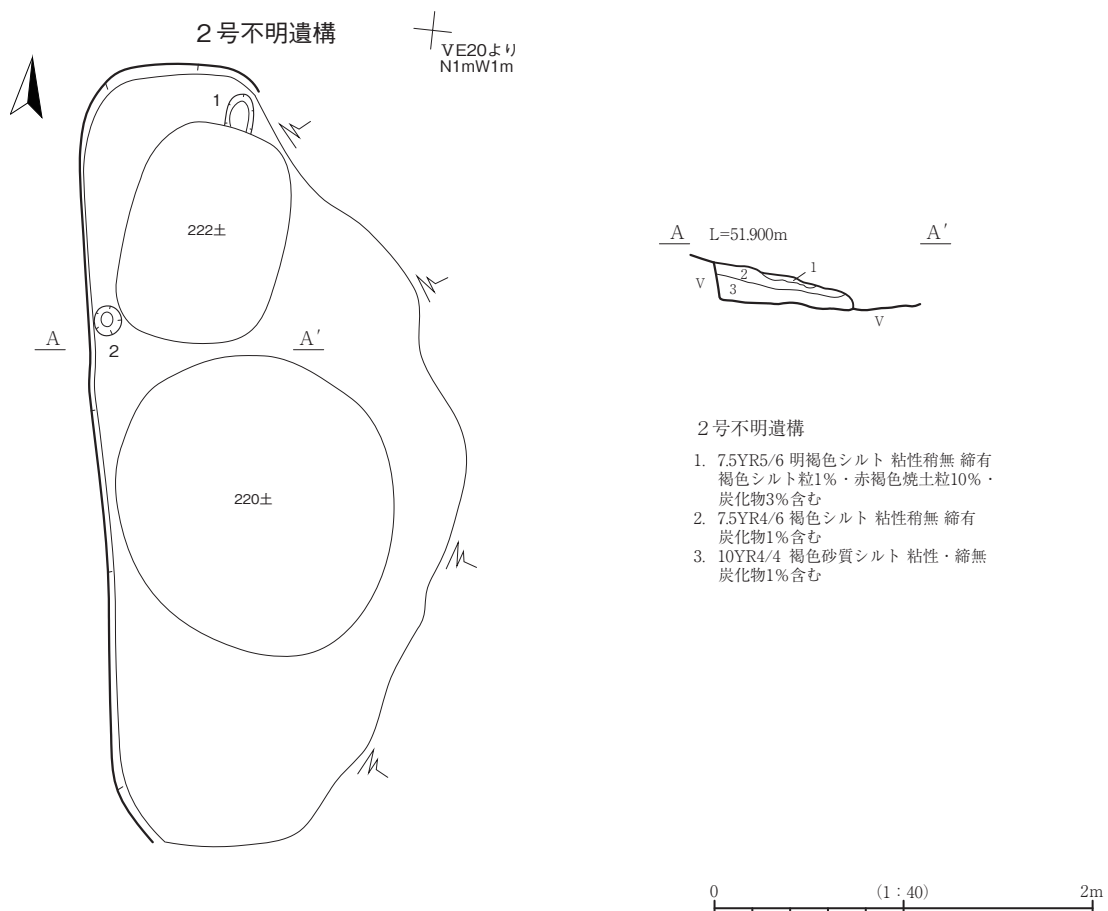
点(453・459・464)、210号土坑の土器1点(427)、211号土坑の石器1点(444)・金属製品4点(478・486・497・498)・羽口1点(508)、212号土坑の土器2点(428・429)・石器2点(449・462)・金属製品1点(474)、213号土坑の土器4点(430～433)・石器3点(454～456)・金属製品1点(476)、214号土坑の土器1点(434)、216号土坑の土器1点(435・436)・石器2点(460・461)・羽口1点(509)、219号土坑の金属製品2点(475・485)、222号土坑の金属製品2点(479・484)、224号土坑の土器3点(437～439)を掲載した。第6表や第17～25表を参照して頂きたい。

1号不明遺構(SX16) (第102図、写真図版40)

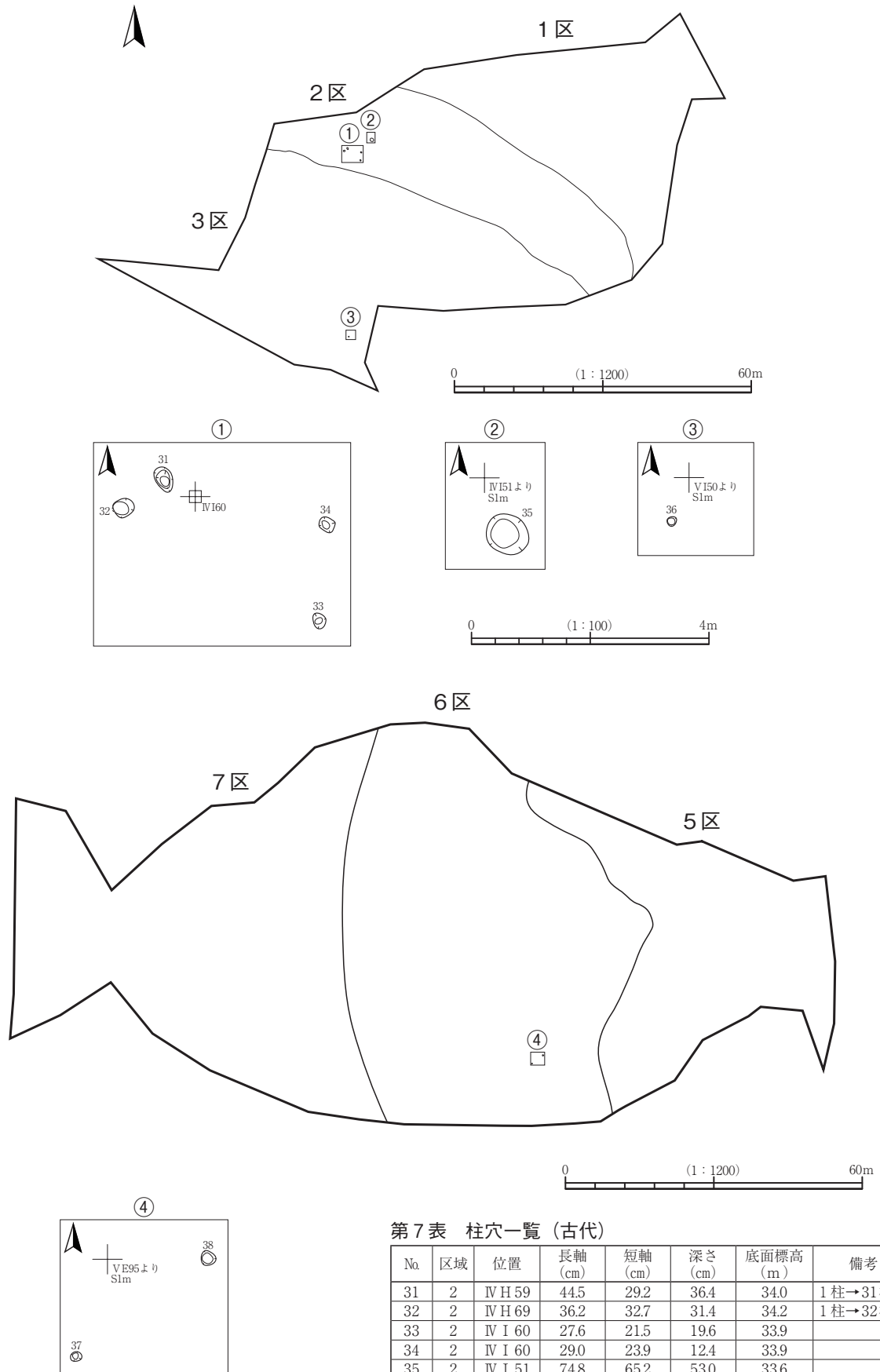
[位置] 2区南西、IV I 97・98、V I 07・08・09グリッドに位置する。[検出状況] V層上面で硬化面を検出した。[重複] 同時代の重複する遺構はない。[規模] 硬化面のみ残存するため詳細な規模は不明だが、残存部分の規模は5.61×3.56mである。[埋土] 硬化面のみ確認であるため、残存状態が悪く、確認できたのは暗褐色シルトの単層である。層高がないため、自然か人為かの判断はできなかった。[壁・床の状況] 硬化面は3区斜面に向かって緩やかに傾斜している。[付属施設] なし。[出土遺物] 硬化範囲周辺から縄文土器が出土しているが、古代の遺物は出土していない。[時代・時期] 時期を特定できる遺物が伴わないため、詳細な時期は不明である。

(白戸このみ・北村忠昭)

2号不明遺構(SX07) (第103図、写真図版40)



第103図 2号不明遺構



第7表 柱穴一覧 (古代)

No.	区域	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	備考
31	2	IV H 59	44.5	29.2	36.4	34.0	1柱→31柱
32	2	IV H 69	36.2	32.7	31.4	34.2	1柱→32柱
33	2	IV I 60	27.6	21.5	19.6	33.9	
34	2	IV I 60	29.0	23.9	12.4	33.9	
35	2	IV I 51	74.8	65.2	53.0	33.6	
36	3	V H 59	17.2	15.3	32.2	16.4	
37	6	V E 95	19.5	15.9	27.4	44.3	
38	6	V E 95	26.1	24.2	25.4	44.3	

第104図 古代の柱穴

[位置] 6区中央、VD19・29グリッドに位置する。[検出状況] V層上面で明褐色の不鮮明プランとして検出した。[重複] 220号土坑・222号土坑に截られる。[規模] 西側の一部しか残存しないため、詳細な規模は不明だが、残存部分の規模は4.16×(0.92)mで隅丸長方形もしくは長楕円形を呈すると思われる。[埋土] 3層に分層した。主体は炭化物を微量に含む褐色シルトである。堆積の様相は自然堆積である。[壁・床の状況] 北西側のみ残存する。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

[付属施設] 柱穴を2個検出した。Pit 1は222号土坑に截られるため、詳細な規模は不明である。柱穴の深さはPit 1が10cm、Pit 2が16cmである。

[出土遺物] 埋土から土器が出土しているが、小片であるため、掲載していない。

[時代・時期] 遺構の形態や土器が伴うことから、古代の遺構と判断したが、詳細な時期を特定できる遺物が伴わないため、時期は不明である。  
(白戸このみ・北村忠昭)

### 柱穴(第104図)

古代に帰属すると判断した柱穴は2区で検出された5個、3区で検出された1個、6区で検出された2個である。検出面はIV層～V層上面で、堆積土が黒色～黒褐色シルトを主体とする。個別の法量は第7表を参照して頂きたい。

[出土遺物] (第159図、写真図版69)

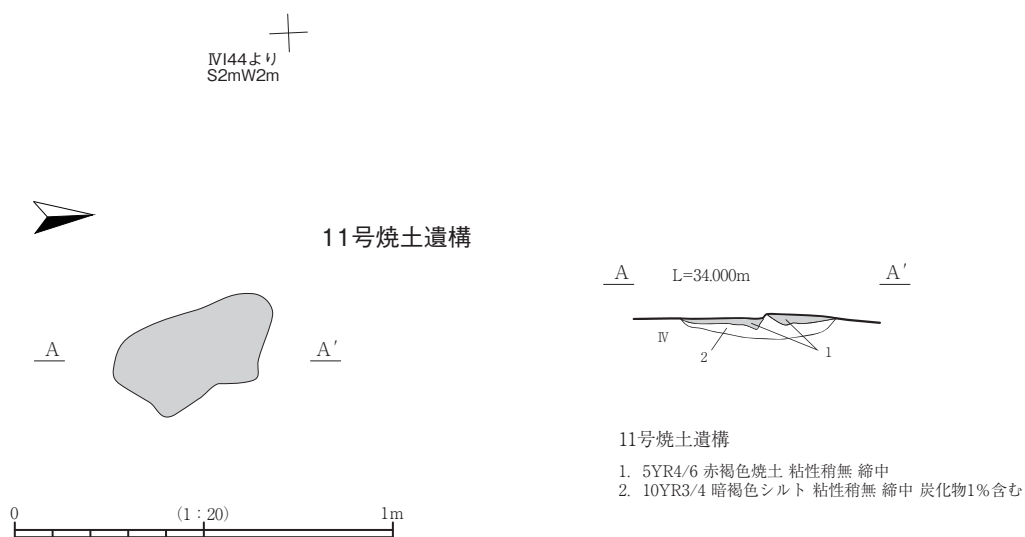
31号柱穴から縄文土器が出土しているが、古代の土器が出土したものはない。31号柱穴から鉄滓、35号柱穴から台石(450)が出土した。

### (3) 時代不明の遺構

#### 11号焼土遺構(SL02)(第105図、写真図版44)

[位置] 2区北西側、IVI43グリッドに位置する。[検出状況] IV層で焼土と暗褐色の楕円形プランとして検出した。[重複] なし。[規模] 北西-南東0.46m、北東-南西0.24mの歪な楕円形を呈する。[埋土] 2層に分層した。1層は赤褐色焼土の燃焼部である。2層は炭化物を微量含む、暗褐色シルト主体である。[壁・底面の状況] 底面はほぼ平坦である。

[出土遺物] なし。



第105図 11号焼土遺構

2 検出遺構

[時代・時期] 遺物が伴わないため、帰属する時代を判断することができなかった。

(佐々木隆英・北村忠昭)

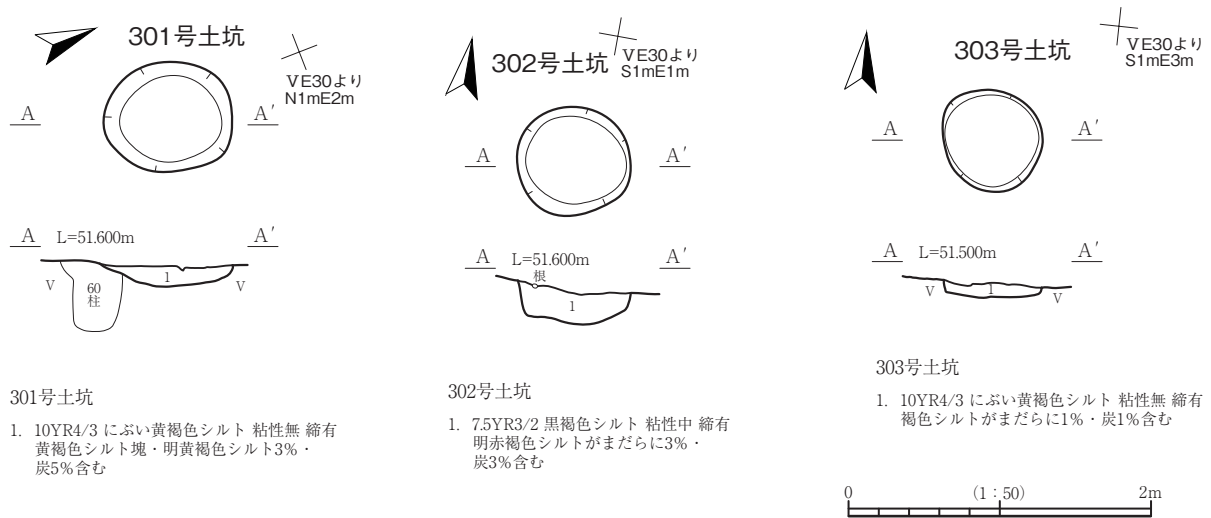
土坑類(第106図、写真図版44)

帰属時代の特定できなかった土坑類は6区の3基である。円形で浅いものが多い。紙面の都合上観察項目は第8表で示した。

[出土遺物] なし。

第8表 時代不明の土坑類

遺構名	位置 検出面	重複関係	時期	規模 m	開口部		出土遺物	備考	図版	写真 図版
					底部	深さ				
301号	V D 29 V層	60柱→	不	0.87×0.74 0.67×0.58 0.16	掲載:				106	44
					なし					
					掲載:					
302号	V E 30 V層	140土→	不	0.77×0.75 0.67×0.57 0.3	掲載:				106	44
					なし					
					掲載:					
303号	V E 30 V層	なし	不	0.75×0.63 0.61×0.57 0.17	掲載:				106	44
					なし					
					掲載:					



第106図 時代不明の土坑類

1号溝跡(SD01)(第107図、写真図版45)

[位置] 6区中央北寄り、IV D 98・V D 08グリッドに位置する。[検出状況] V層上面で灰黄褐色のプランとして検出した。[重複] なし。[規模] 長さは4.70m、幅は最大で0.60m、検出面からの深さは最大で3cmである。[埋土] 灰黄褐色シルトの単層である。人為堆積か自然堆積かは不明である。[付属施設] なし。

[出土遺物] なし。

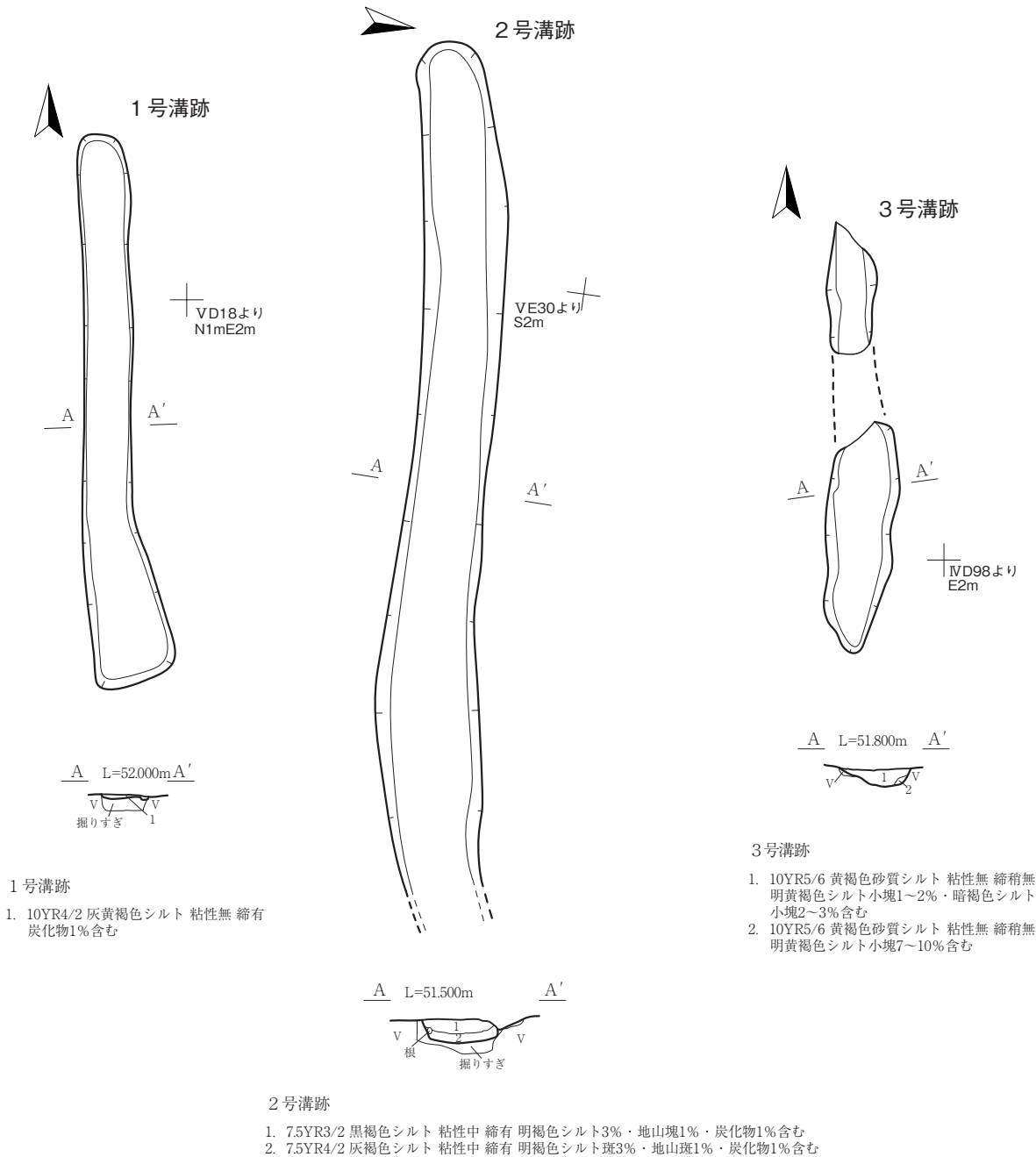
[時代・時期] 遺物が伴わないため、時代を特定できなかった。

(白戸このみ・北村忠昭)



2号溝跡(SD02) (第107図、写真図版45)

[位置] 6区中央、VD 39、VE 30・31グリッドに位置する。[検出状況] V層上面で黒褐色のプランとして検出した。[重複] 縄文時代の土坑(140号)との重複はあるが、それ以外の遺構との重複はない。[規模] 確認できた長さは6.33m、幅は最大で0.79m、検出面からの深さは最大で18cmである。[埋土] 2層に分層した。主体は炭化物を微量に含む黒褐色シルトである。人為堆積か自然堆積かは不明である。[付属施設] なし。[その他] 1号溝跡や3号溝跡と合わせ、古代の遺構群を囲うような位置関係にある。



第107図 1号~3号溝跡

## 2 検出遺構

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 遺物が伴わないため、時代を特定できなかった。 (白戸このみ・北村忠昭)

### 3号溝跡(SD03) (第107図、写真図版45)

[位置] 6区中央北寄り、IV D 88・98グリッドに位置し、1号溝跡の延長線上に当たる。[検出状況] V層上面で濁った黄褐色のプランとして検出した。[重複] なし。[規模] 北側は後世の土地改変により残存していない。確認できた長さは3.26m、幅は最大で1.05m、検出面からの深さは最大で14cmである。[埋土] 底面付近に地山ブロックが混入する層が三角形状に確認でき、大部分は夾雑物のある黄褐色砂質シルトで埋まっている。[付属施設] なし。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 遺物が伴わないため、時代を特定できなかった。 (北村忠昭)

### 1号炭窯(SW01) (第108図、写真図版45)

[位置] 6区北側、IV D 34・35・44・45グリッドに位置する。[検出状況] 表土掘削時、6区北側調査区境にて多量の炭化物を確認し、調査区境の壁面に遺構を確認した。調査区外にある本遺構の北側は現況でも浅く窪んでいるのが確認できた。[重複] 炭窯の中で1番新しい。[規模] 重機による表土掘削時に大半を掘削している為、全体の形状は不明である。確認できる検出面から底面までの深さは最大で27cmである。[埋土] 3層に分層した。主体は炭化物を多量に含む黒褐色シルトである。2・3層には多く炭化物を含む。[壁・底の状況] 残存する範囲では、壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。残存する部分が少なく詳細は不明である。[付属施設] 溝を検出した。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 遺物が伴わないため、時代を特定できなかった。 (白戸このみ・北村忠昭)

### 2号炭窯(SW02) (第108図、写真図版45)

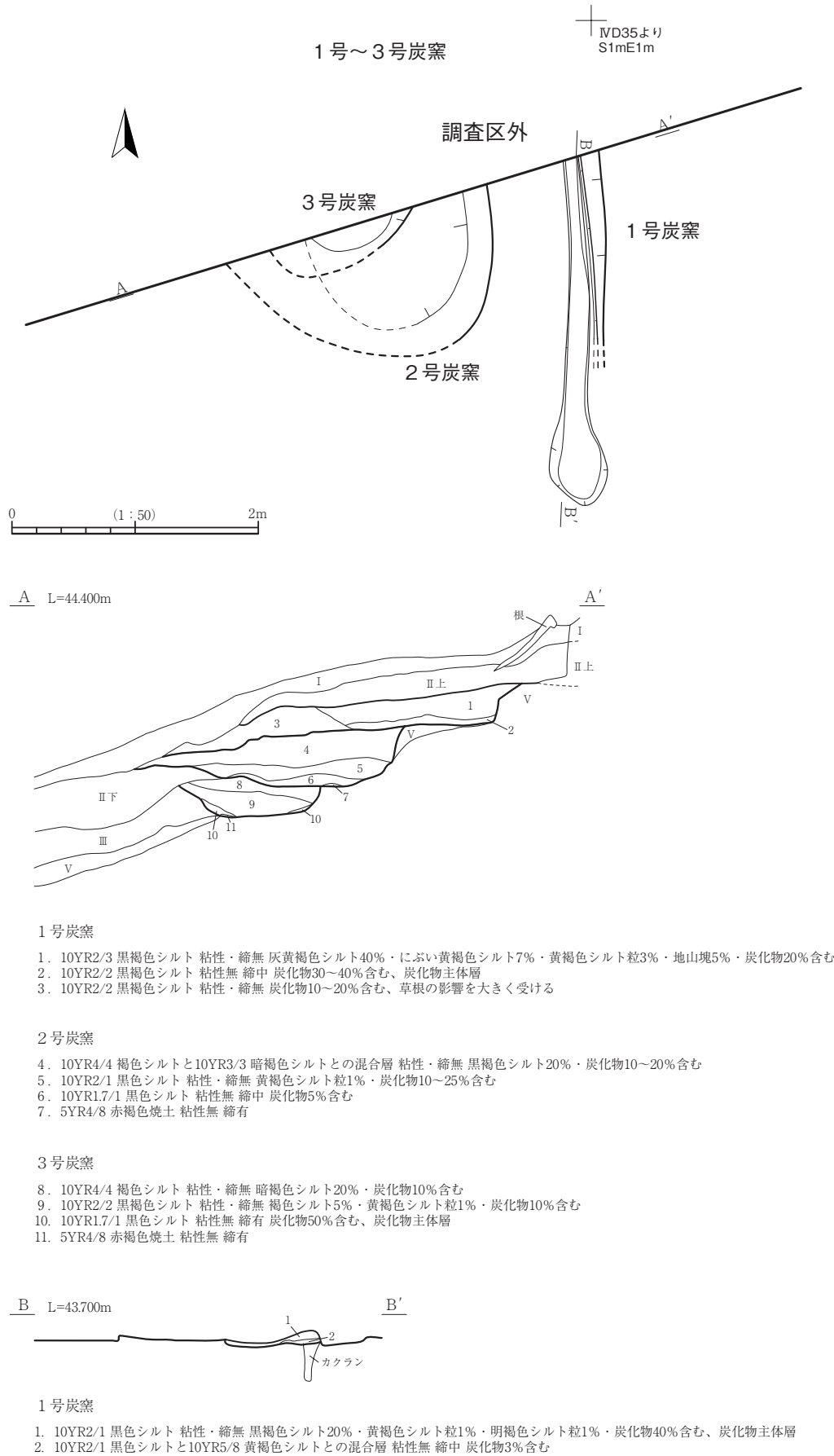
[位置] 6区北側、IV D 34・35・44・45グリッドに位置する。[検出状況] 1号炭窯に記載した通りである。[重複] 1号炭窯に截られ、3号炭窯を截る。[規模] 1号炭窯に記載した通り、全体の形状は不明である。確認できる検出面から底面までの深さは最大で45cmである。[埋土] 4層に分層した。主体は炭化物を多量に含む暗褐色シルトである。6層には最も多く炭化物を含む。[壁・底の状況] 壁は緩く外傾しながら立ち上がる。底面はほぼ平坦である。[付属施設] 調査区境の壁面に残るのみだが、7層に焼土を確認した。規模については不明である。確認できる焼成深度は最大2cmである。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 遺物が伴わないため、時代を特定できなかった。 (白戸このみ・北村忠昭)

### 3号炭窯(SW03) (第108図、写真図版45)

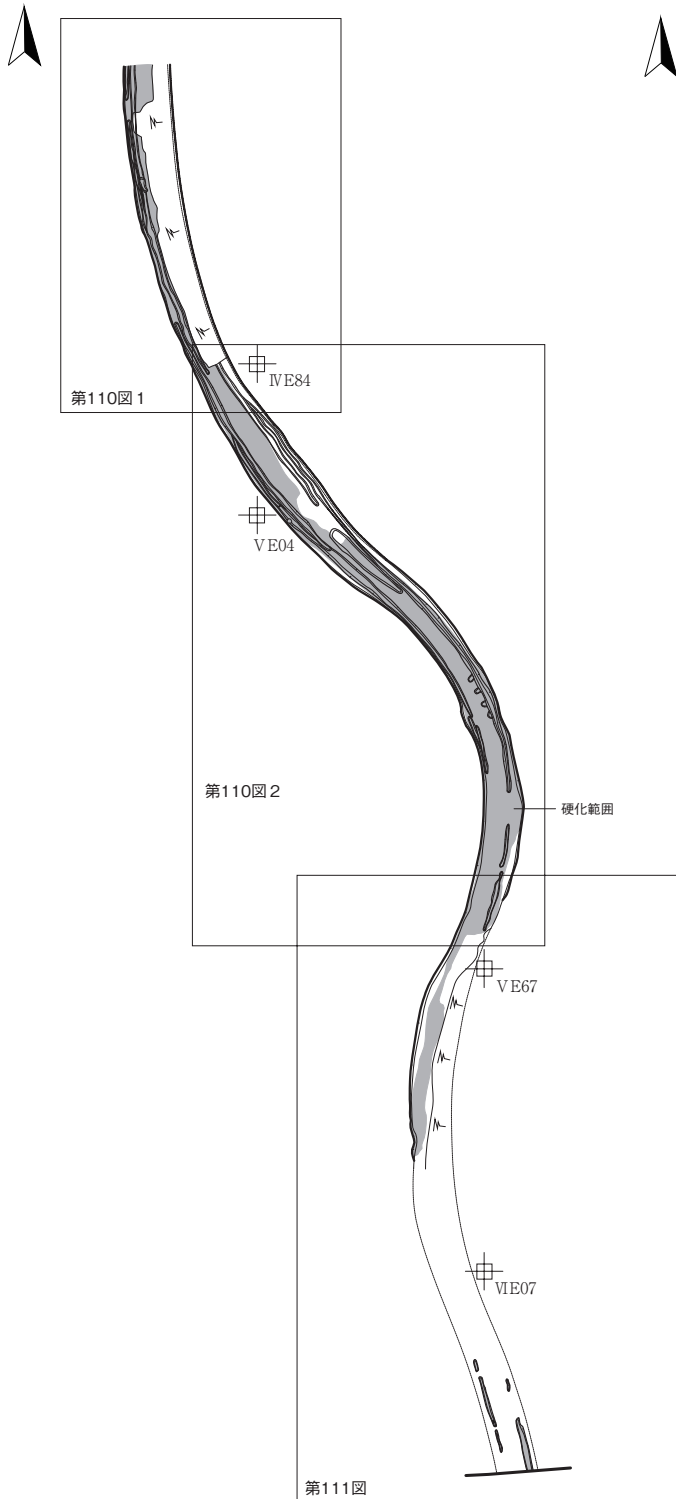
[位置] 6区北側、IV D 34・35・44・45グリッドに位置する。[検出状況] 1号炭窯に記載した通りである。[重複] 炭窯で最も古い。[規模] 1号炭窯に記載した通り、全体の形状は不明である。[埋土] 4層に分層した。主体は炭化物を多量に含む暗褐色シルトである。10層には最も多く炭化物を含む。確認できる検出面から底面までの深さは最大で32cmである。[壁・底の状況] 壁は緩く外傾しながら立ち上がり、底面はほぼ平坦である。[付属施設] 調査区境の壁面に残るのみだが、11層に焼土を確認した。規模については不明である。確認できる焼成深度は最大2cmである。



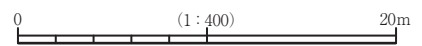
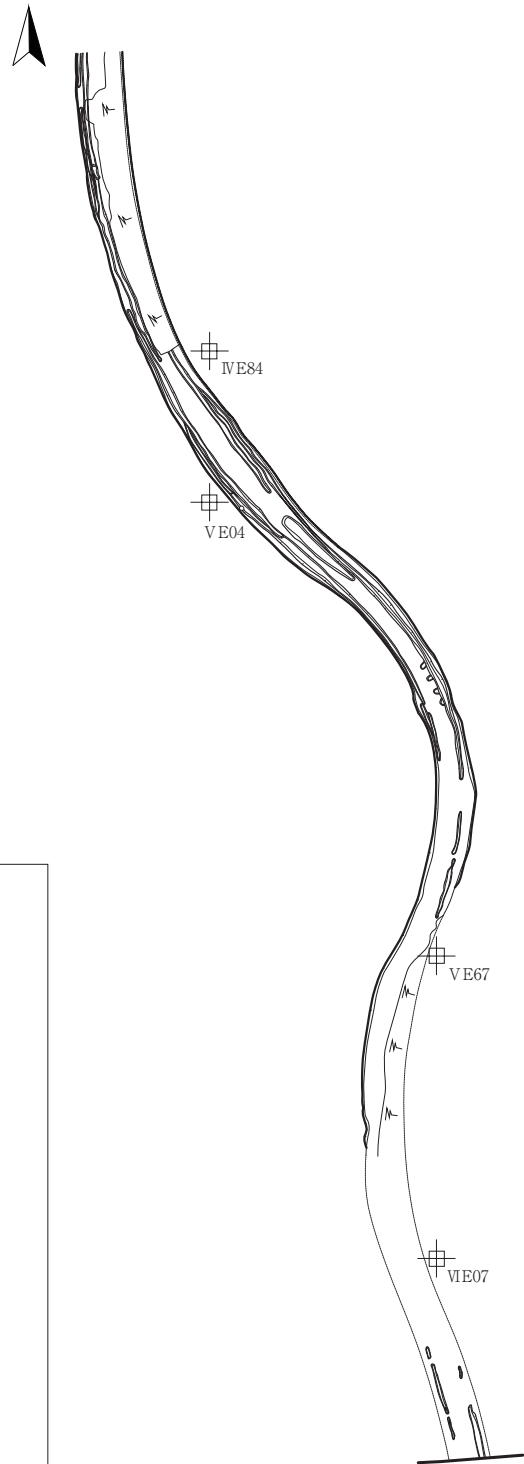
第108図 1号～3号炭窯

1号道路状遺構

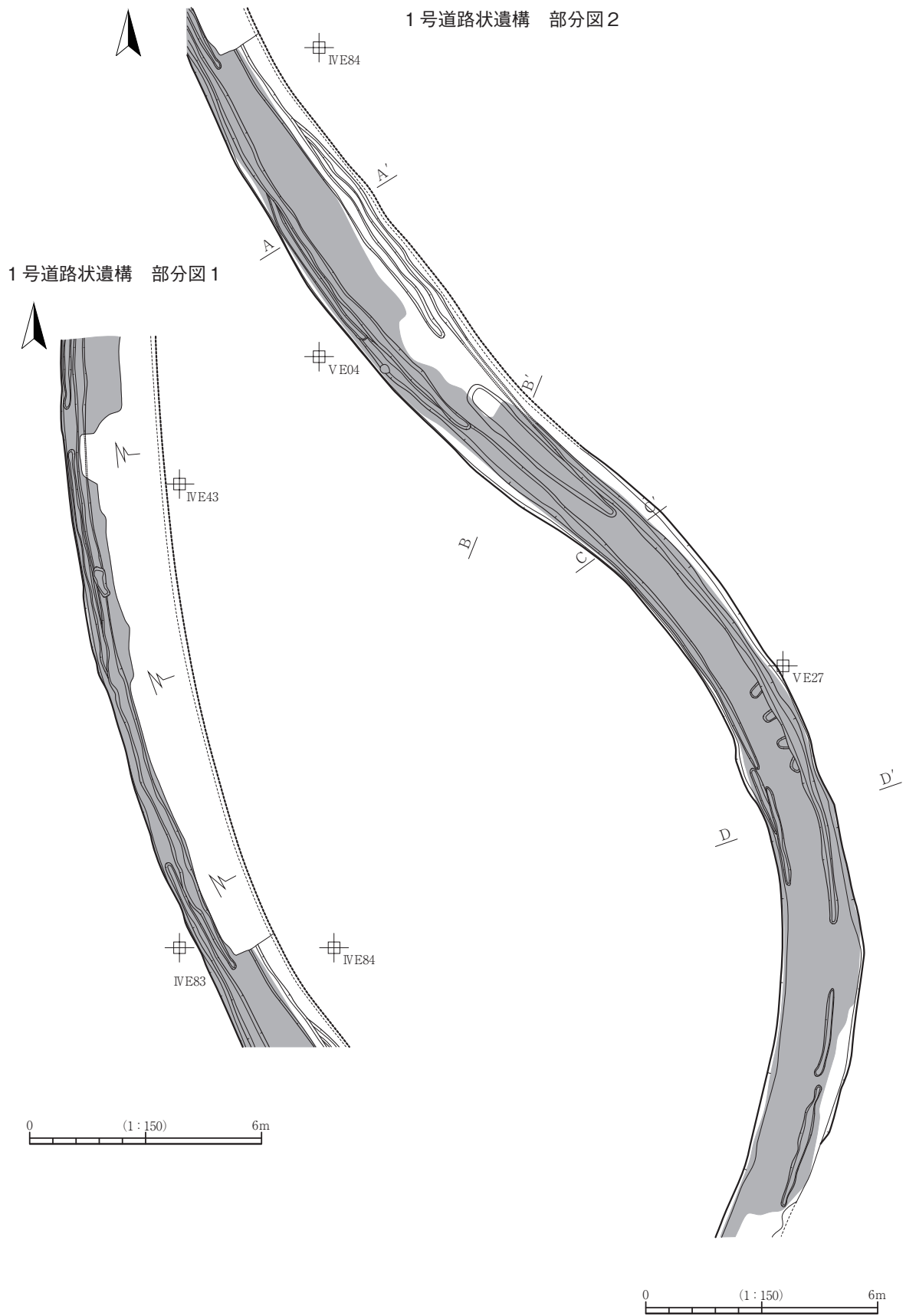
全体図



掘り方

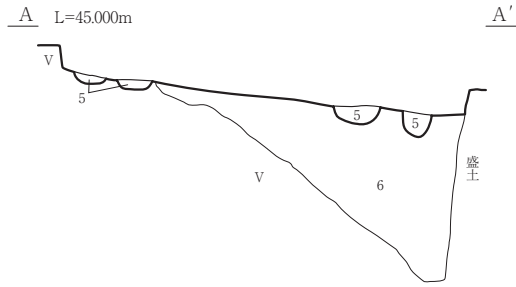
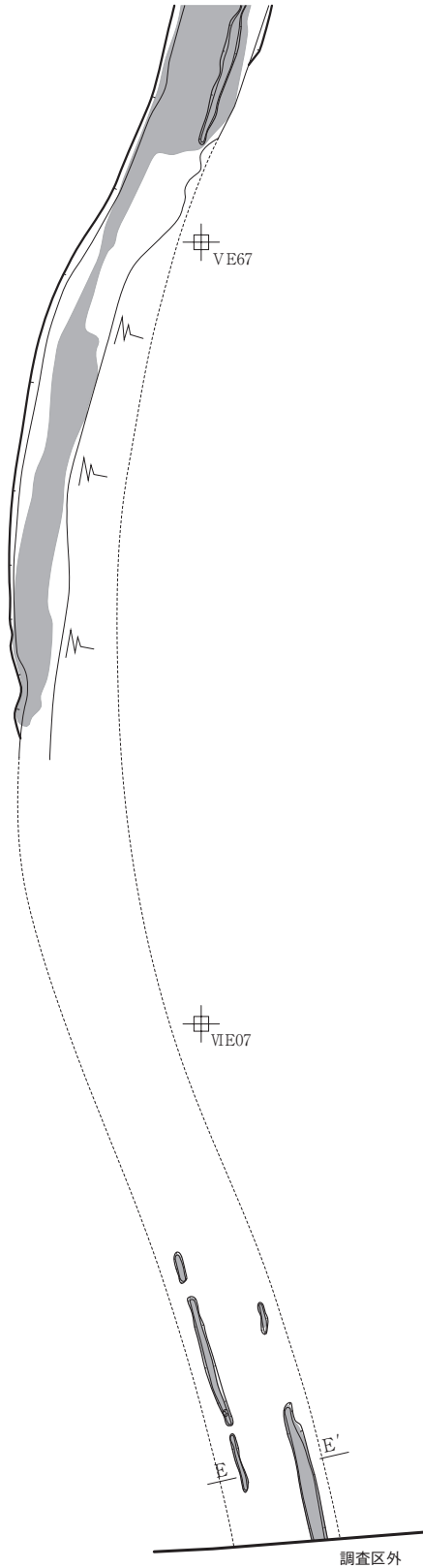


第109図 1号道路状遺構 1



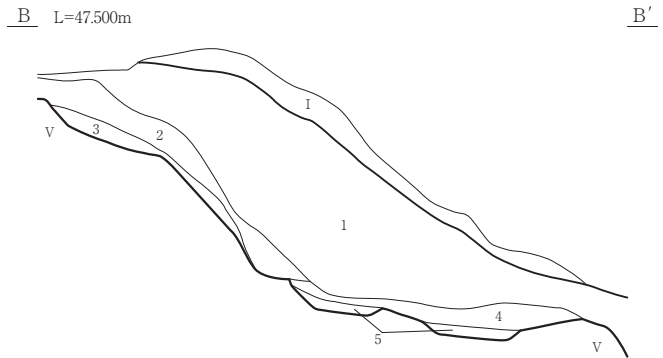
第110図 1号道路状遺構2

1号道路状遺構 部分図③



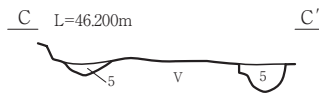
1号道路状遺構

- 5. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性稍無 締有 炭化物1%含む
- 6. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締中 褐色シルト塊2%含む



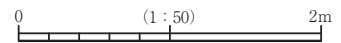
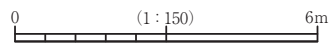
1号道路状遺構

- 1. 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性稍無 締中
- 2. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・締中 炭化物2%含む
- 3. 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 締稍無
- 4. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 締有 褐色シルト塊5%・炭化物1%含む
- 5. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性稍無 締有 炭化物1%含む

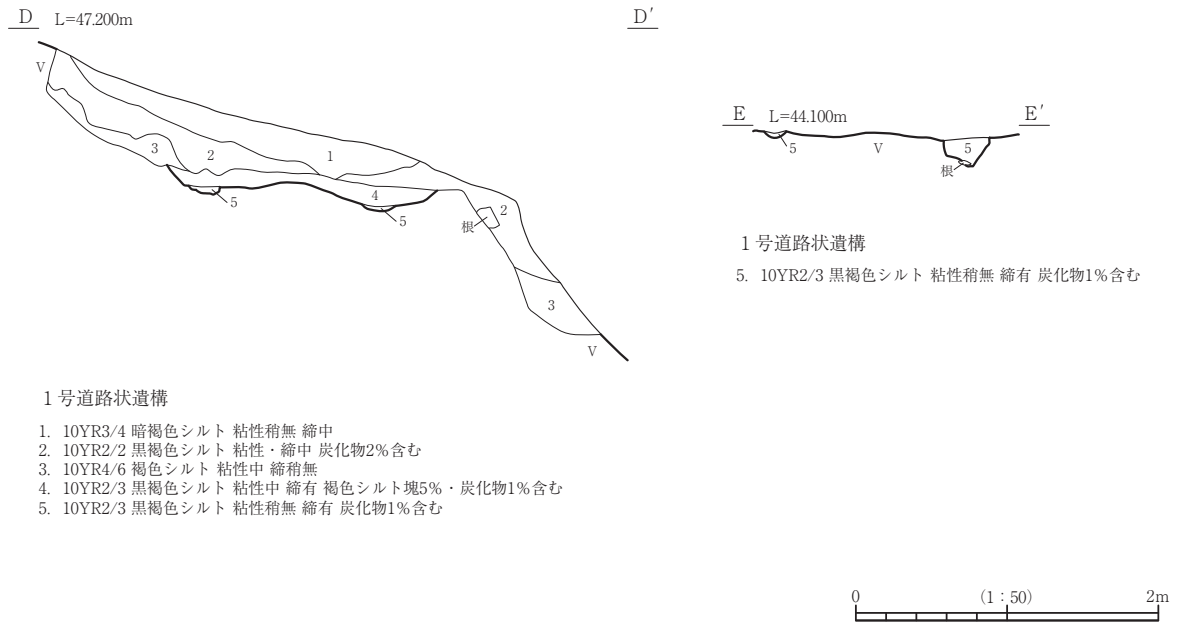


1号道路状遺構

- 5. 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性稍無 締有 炭化物1%含む



第111図 1号道路状遺構 3



第112図 1号道路状遺構4

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 遺物が伴わないため、時代を特定できなかった。

(白戸このみ・北村忠昭)

1号道路状遺構(SX03・SX06) (第109～112図、写真図版46)

[位置] 6区東側を南北に縦断し、大グリッドIV E・V E・VI Eに位置する。[検出状況] 6区東側斜面にトレンチを入れて遺構確認をしていたところ、斜面を切って平坦になっている面があり、その平坦面が硬化していたところで検出した。[重複] 141号土坑、70・71号柱穴を截る。プランでは26号竪穴建物跡と重複関係にあるが、26号竪穴建物で記述したとおり新旧関係の判断はできなかった。[規模] 残存する範囲では長さ81.64m(直線距離だと74.43m)、幅は最大で2.16mである。[埋土] 6層に分層した。1層は基本層序のI層に相当し、2層は基本層序のII層、3層は基本層序のIII層に相当する。4層は本遺構の掘り方埋土で褐色ブロックと炭化物を少量含む黒褐色シルト主体でかなり硬化している。5層は周溝で4層と同じく黒褐色シルト主体で硬化している。6層は斜面を切って出た土を別の斜面に盛り土して平坦にしたものと思われる。[付属施設] 本遺構の両脇で断続的な溝を検出した。この溝は、轍の跡や雨水を流すための溝の可能性もあるが詳しいことは不明である。本遺構は調査区を南北に縦断し調査区外へと続いていると思われる。

[出土遺物] (第167図、写真図版76)

埋土から陶磁器11点、縄文土器79.4g、石器2点、金属製品3点が出土し、陶磁器5点(601～605)、金属製品2点(614・615)を掲載した。

[時代・時期] 埋土から肥前産磁器や蹄鉄が出土しており、近世以降の可能性が高いが、詳細な時代を特定するに至らなかった。

(佐々木隆英・北村忠昭)

11号不明遺構(SX09) (第113図、写真図版46)

[位置] 1区南東側、IV J 95グリッドに位置する。[検出状況] IV層で黒色の円形プランとして検出した。



2 検出遺構

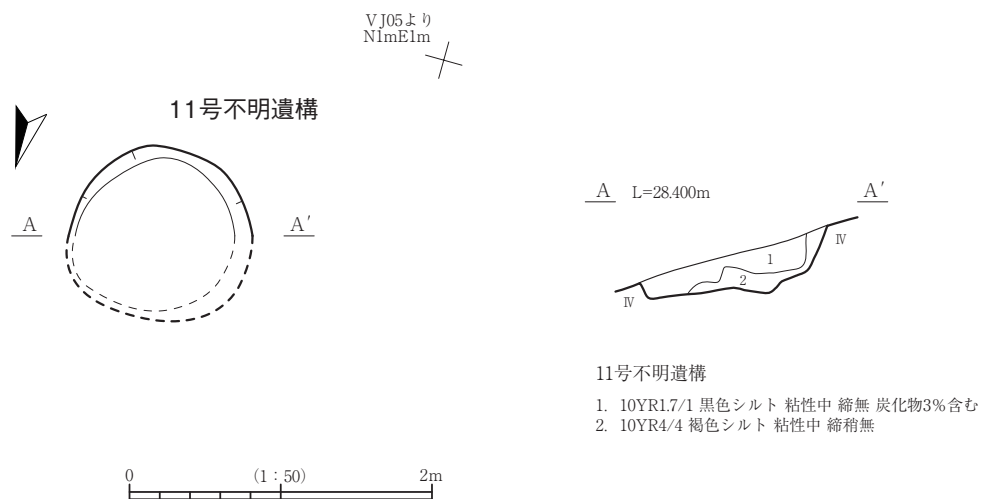
[重複] 16号土坑を載る。[規模] トレンチを入れてしまったため、全体の形状は不明だが、推定範囲では北東-南西で1.24m、北西-南東で1.19mのほぼ円形を呈すると思われる。確認できる検出面から底面までの深さは最大で33cmである。[埋土] 2層に分層した。1層は炭化物を少量含む、黒色シルト主体で、1層上面からは貝殻が多量に出土している。2層は褐色シルト主体である。どちらも斜面に沿って堆積している。[壁・床の状況] 壁は直線的に外傾しながら立ち上がる。床は多少窪むところもあるがほぼ平坦である。

[出土遺物] (第167図、写真図版76)

縄文土器51.4g、埴埦? 1点、貝殻類が出土しており、埴埦? 1点(621)を掲載した。貝殻類は第28表を参照して頂きたい。

[時代・時期] 時代を特定できる遺物が伴わないため、年代を特定できなかった。

(佐々木隆英・北村忠昭)



第113図 11号不明遺構

12号不明遺構(SX08) (第114図、写真図版46)

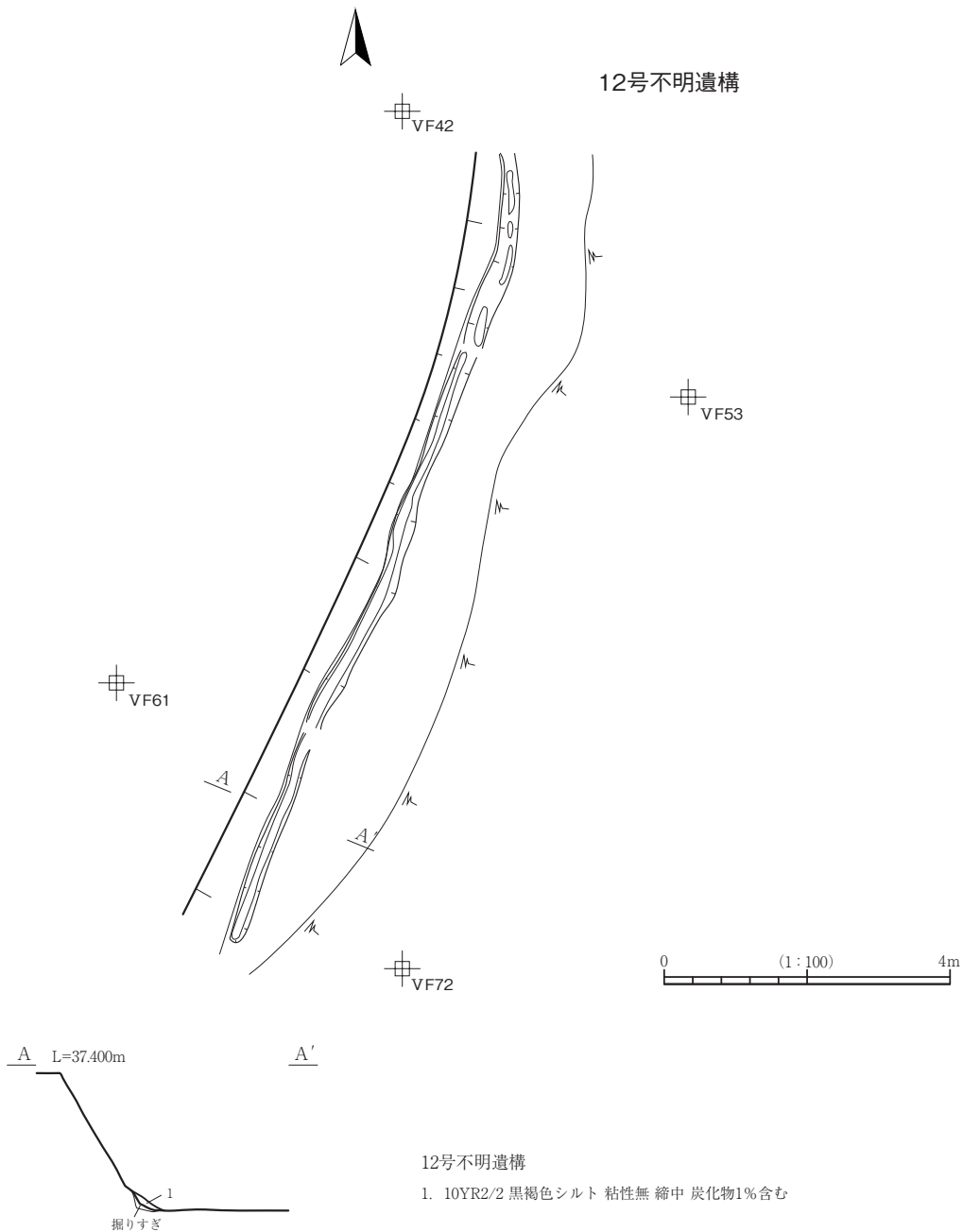
[位置] 5区西側、VF42・51・52・61・62グリッドに位置する。[検出状況] 5区斜面で切株に沿うように溝状の黒褐色のプランを検出した。[重複] なし。[規模] 部分的な検出であるため、詳細な規模は不明であるが、確認できた長さは11.8mで、幅は最大で0.3mである。検出面からの深さは最大で4cmである。[埋土] 炭化物を微量に含む黒褐色シルトの単層である。人為堆積か自然堆積かの判断はできなかった。[壁・底の状況] 一部しか残存しないため、不明である。[付属施設] なし。

[出土遺物] なし。

[時代・時期] 遺物が伴わないため、時代を特定するに至らなかった。 (白戸このみ・北村忠昭)

柱穴(第115・116図)

帰属する時代の特定できなかった柱穴は1区で3個、2区で9個、3区で1個、6区で32個検出された。検出面はIV層~V層上面で、埋土は単層のものが多く、41・44・47・48・53・61~63・65・66・68・70~79・81~85号柱穴が黒褐色シルト主体の単層、42・43・67・69・80号柱穴が

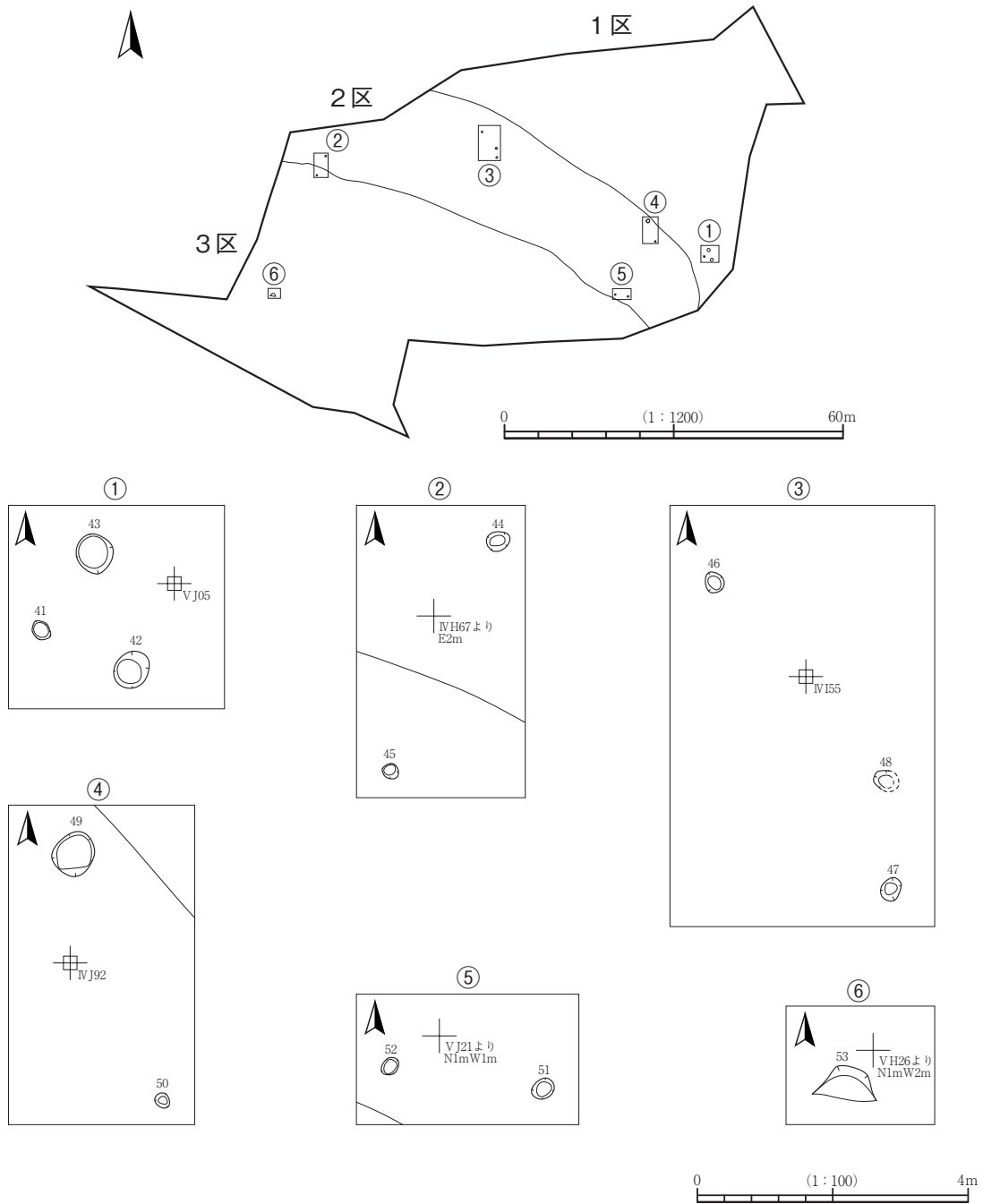


第114図 12号不明遺構

暗褐色シルト主体の単層、46・50～52・60号柱穴が褐色シルト主体の単層、54～56号柱穴が黒色シルト主体の単層である。45号柱穴は上部がにぶい黄褐色シルト、下部が明黄褐色シルト主体、49号柱穴は上部が褐色シルト、下部がにぶい黄褐色シルト主体、57号柱穴は上部が明褐色シルト主体、下部が褐色シルト主体、58号柱穴は上部が黒色シルト主体、下部が褐色シルト主体、59号柱穴は上部が黒色シルト主体、下部が黒褐色シルト主体、64号柱穴は上部が暗褐色シルト主体、下部が黒褐色シルト主体である。個別の法量は第9表を参照して頂きたい。

[出土遺物] なし。

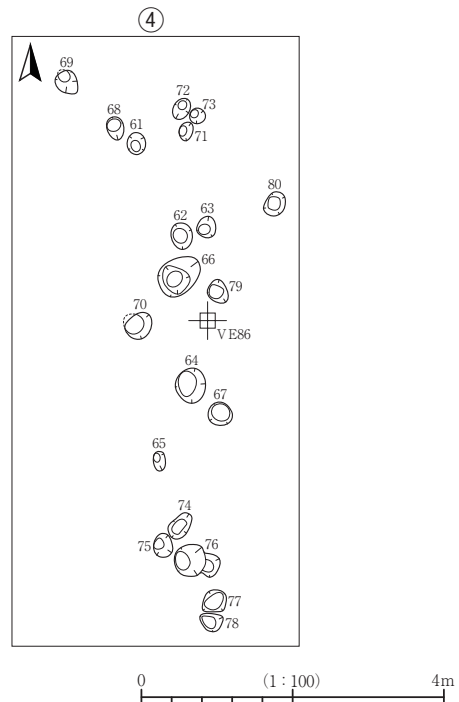
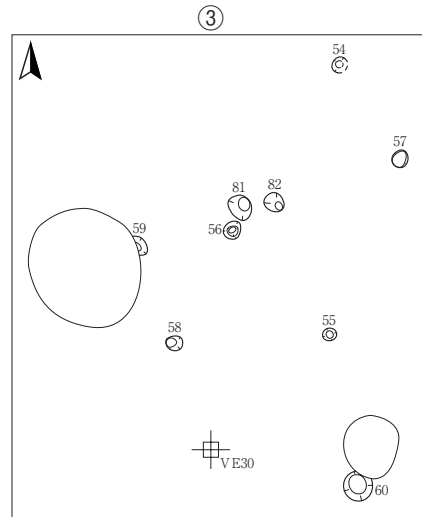
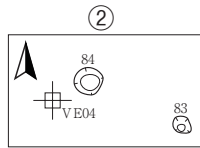
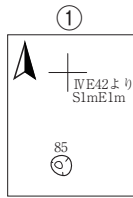
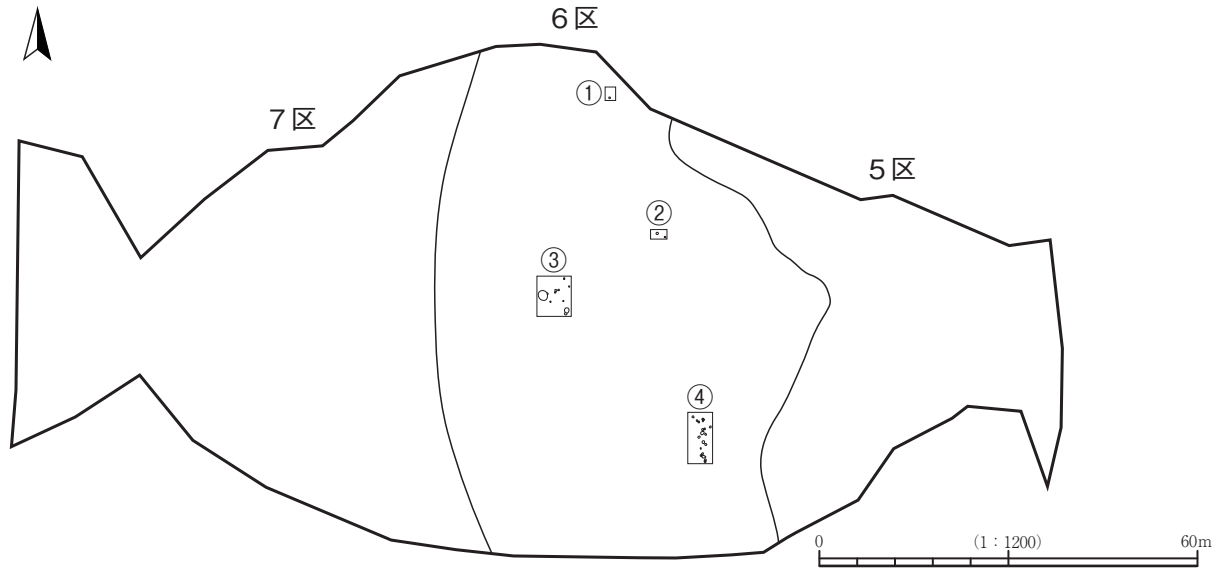
2 検出遺構



第115図 時代不明の柱穴1

第9表 柱穴一覧（不明1）

No.	区域	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	備考
41	1	V J 04	31.6	24.3	34.4	30.2	
42	1	V J 04	58.2	49.5	49.0	29.7	
43	1	IV J 94	60.0	54.9	46.2	29.8	
44	2	IV H 57	35.1	28.7	20.4	35.2	
45	2	IV H 67	25.4	22.5	35.6	34.5	
46	2	IV I 44	31.7	28.3	15.0	33.6	
47	2	IV I 55	35.5	27.8	16.2	33.6	
48	2	IV I 55	(38.4)	30.5	56.0	33.2	
49	2	IV J 81・82	67.3	59.8	46.6	31.6	
50	2	IV J 92	24.0	20.8	21.6	32.0	
51	2	V J 11	34.9	28.5	26.0	31.6	
52	2	V J 10	29.6	23.1	18.2	31.6	
53	3	V H 15	95.2	(45.4)	74.0	22.4	



第9表 柱穴一覧（不明2）

No.	区域	位置	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)	備考
54	6	VE 10	21.9	20.1	46.0	51.0	
55	6	VE 20	18.9	16.7	28.8	51.3	
56	6	VE 20	25.8	22.2	34.6	51.3	
57	6	VE 20	24.0	21.3	58.8	50.9	
58	6	VD 29	22.7	20.6	43.0	51.2	
59	6	VD 29	28.8	(14.3)	46.2	51.2	
60	6	VE 30	(39.4)	(37.5)	49.8	51.0	
61	6	VE 75	29.1	24.6	41.8	45.1	
62	6	VE 75	35.5	28.2	33.8	44.8	
63	6	VE 75・76	28.4	25.4	27.2	44.7	
64	6	VE 85	46.4	40.3	53.4	44.4	
65	6	VE 85	26.1	16.0	34.0	44.5	
66	6	VE 75	61.5	46.6	84.8	44.2	
67	6	VE 86	32.7	30.8	30.0	44.4	
68	6	VE 75	30.9	22.4	27.2	45.4	
69	6	VE 75	34.2	29.0	40.2	45.6	
70	6	VE 75・85	38.3	31.7	38.0	44.9	
71	6	VE 75	25.1	18.0	31.2	44.9	
72	6	VE 75	29.9	21.6	33.4	45.0	
73	6	VE 75	21.1	20.6	31.6	44.8	
74	6	VE 85	38.7	24.8	25.2	44.4	
75	6	VE 85	31.6	25.2	24.0	44.5	
76	6	VE 85・86	60.9	42.5	65.6	43.9	
77	6	VE 85・86	36.2	31.2	18.8	44.2	
78	6	VE 85・86	31.0	23.6	26.4	44.1	
79	6	VE 76	32.5	25.5	31.0	44.5	
80	6	VE 76	33.5	26.4	15.2	44.6	
81	6	VE 20	34.8	28.4	43.2	51.2	
82	6	VE 20	27.6	24.1	29.8	51.3	
83	6	VE 04	27.2	22.3	27.8	44.9	
84	6	IVE 94	39.1	36.6	25.2	44.4	
85	6	IVE 42	28.5	26.0	42.2	44.0	

第116図 時代不明の柱穴2

## 3 出土遺物

## (1) 縄文時代の遺物

【土器】(第117～132図、写真図版49～57)

物見台式(136・141・142)

当該土器は151号土坑、6区から出土した。文様全体を把握できる土器は出土していない。136はキャリパー形の屈曲部分の破片土器である。平行沈線による区画により口縁部文様帯と胴部文様帯は区切られ、口縁部文様帯には沈線による三角形基調の文様が描かれ、その内部に貝殻腹縁文が充填されている。141・142は同一個体の口縁部片と胴部片である。枕木状沈線文により三角形の文様を描いている。

大木7a式(72・143・144)

当該土器は25号土坑、22号竪穴建物跡、1区から出土した。文様全体を把握できる土器は出土していない。頸部の残存する土器は刻みを有する隆帯を巡らし、口縁部に沈線による文様を施文している。72は半截竹管状の工具で口縁直下に3条の平行沈線、口縁部に多条の斜行沈線を施している。また、半弧状の沈線も施されている。143は波状口縁の口縁部片である。波頂部から幅広な刻みのある隆帯を垂下し、口縁に沿った沈線や波状・山形沈線を施文している。144は頸部まで残存する土器で、頸部に刻みを有する隆帯と隆帯に沿う沈線を巡らし、口縁部には沈線による文様を施文している。

大木7b式(66・73)

当該土器は1・27号土坑から出土した。文様全体を把握できる土器は出土していない。66は頸部付近の破片土器で、平行沈線間に交互に刺突文を施し、口縁部と胴部の文様帯の区画としている。口縁部には隆帯による文様が施されている。73は波状口縁を呈し、口縁部文様帯に押し引き状の沈線文で文様を施文している。波頂部に合わせてU字・逆U字状の沈線を施している。

大木8a式新段階(4・16・51・55・60・65・67・68・76・77・82・84・85・87・88・145／1・40・52／53)

当該土器は3・6・17号竪穴建物跡、2号炉跡、1・2・4・30・32・33・35・37・214号土坑から出土した。その中で文様全体を把握できる土器は51・87である。器形はキャリパー形を呈し、口縁は平縁が主体であるが、緩やかな波状縁になるものも見られる。主文様は口縁部文様帯で隆帯や沈線で文様を描いている。口縁部文様帯と胴部文様帯の間には沈線や隆帯によって区画されている。胴部文様帯は地文のみのものが多い。地文は口縁部が横位方向に、頸部以下は縦位方向に施文しているものが多い。この地文の施文方向の違いが本型式の大きな特徴の一つとなっており、この特徴が確認できる口縁部片は本型式に含めた。

51は口縁部から底部上までの土器である。口縁部文様帯は隆帯を十文字状の文様を横位に連結した文様を施文している。頸部の区画には平行沈線と波状沈線を施文し、胴部には縦の方向の沈線が施文されている。87は略完形の土器である。文様は口縁部に限定され、口唇部に口縁に平行する沈線を2条巡らし、口縁部には沈線による十文字状の文様を横位に連結している。頸部の区画には隆帯と隆帯に沿う沈線が1条巡っている。

4は頸部片である。隆線は貼り付け後調整を加えない部分も観察される。60は胴部がやや張る器形を呈し、本型式では数少ない、キャリパー形ではない土器である。口唇部に隆帯、口縁部には波状(緩い山形)沈線が施され、頸部には区画の平行沈線が3条以上施される。68は口縁が開く器形を呈する

土器で、地文施文後、弧状や棘状の隆帯が施される。隆帯貼り付けの調整は簡素である。口唇には突起状の隆帯が施される。76は本遺跡では数少ない大波状口縁の土器である。口唇に横S字状の突起を有し、地文施文後、口縁部には渦状の隆帯が施される。隆帯貼り付けの調整は簡素である。77は半粗製ともいえる土器である。口縁部と胴部の文様帯の区画線は施されないが、地文の施文方向を変えることで表現している。口縁部には沈線による簡素な文様が施文される。84は口縁部文様帯を隆帯と隆帯に沿う沈線で区画し、区画内の縄文を磨り消して2条の波状沈線を施文している。口唇部の隆帯には縄文が施文されている。85は波状口縁を呈し、地文施文後、口唇部に3条の平行沈線、口縁部に曲線的な沈線を施文している。キャリパー形の器形ではない、口縁部から同一方向の地文施文など本型式とは異なる特徴を有するが、沈線の特徴から本型式に含めた。88はボックス状の口縁部片で、「の」の字状の隆帯が施される。

1・13・17号竪穴建物跡から出土した頸部に3～4条の平行沈線が施され、渦巻文の有無の判断できない胴部片(1・40・52)は、大木8 a式新段階から大木8 b式中段階と判断した。

17号竪穴建物跡から出土した橋状把手片(53)は「の」の字状の極太沈線が施文される。大木8 a式期と判断した。

#### 大木8 b式古段階(64・75・80・81・146)

当該土器は1・30・32号土坑、3区から出土した。80は口縁部上半を欠くが、胴下部まで残存しており、文様全体を把握できる土器である。口縁部文様帯は隆帯による文様を施文し、横位方向の平行沈線や波状沈線で文様帯を区画している。胴部文様帯は縦位方向の区画を沈線で施文し、区画毎に渦巻文やクランク文等の幾何学文を施文している。75は口縁部を大きく欠くが底部まで残存する土器である。器面全体に縄文施文後、隆帯で口縁部と胴部の文様帯を区画している。胴部文様帯は縦位の2本一組の隆帯で3つに区画されており、区画内には渦巻文が施文される。81の胴部文様帯は80と類似する。口縁部文様帯は無文である。

3条一組の垂下する沈線が施文される口縁部片(146)、胴部及び胴下部片(64)は本型式に含めた。

#### 大木8 b式中段階(63)

該当土器は1号土坑から出土した。胴部上半部までの土器で、波状口縁の波頂部から2本の隆帯が垂下する。垂下する隆帯を区画として大渦巻文が施文され、その端部には小渦巻文が配置されている。垂下する隆帯と渦巻文は横位の短い隆帯で連結している。

#### 大木8 b式新段階(44・70・78・79・147 / 2・5・54・86 / 46・56・132・135)

当該土器は15号竪穴建物跡、24・31号土坑、2区から出土した。器形全体を把握できる土器は147と44である。147は4単位の波状口縁を呈し、縦位の区画を意識した文様を残す土器である。器面全体に地文施文後、2本一組の隆帯と隆帯に沿う沈線により文様を描き、文様の交点に渦巻文を配置している。隆帯の基本は直線であるが、一部に波状の隆帯も見られる。44は壺形土器である。胴部文様帯がほぼ器面全体を占め、大渦巻文を中心に小渦巻文が周囲に配置され、横位に展開しているが、隆帯の剥落が著しく、判然としない。

70は2本一組の隆帯+沈線の変化点に渦巻文を配置している。78は波状口縁で、口唇部の波頂部に隆帯による小渦巻文が施され、小渦巻文は隆帯で連結されている。口縁部には2本一組の隆帯に沈線を沿わせたもので小渦巻文が施文されている。79は2本一組の隆帯に沈線を沿わせたもので文様を描いている。隆帯の変化点には小渦巻文を配置している。

2・3・17号竪穴建物跡、35号土坑から出土した小渦巻文が確認できる口縁部片(54・86)や胴部片(2・5)は大木8 b式～大木9式新段階とした。



16・17号竪穴建物跡、101・140号土坑から出土した2本一組の隆帯に隆帯に沿って沈線が施文される胴部片(46・132・135)や底部片(56)は大木8b式新段階から大木9式古段階とした。

**大木9式新段階**(7・8・10・13・21・25・34・42・43・50・69・90・92・93・95・97・98・108・112・119・122・148)

当該土器は4・5・7・8・10・15・17・25号竪穴建物跡、24・44・50・51・53・54・84・90・95・96号土坑から出土した。文様全体を把握できる土器は8・69・92である。器面全体に隆帯や沈線により円形・楕円形・逆U字状・ステッキ状の文様を描き、区画外の地文を磨り消して無文部の作出を行っている。区画内には刺突文が施されるもの(8・97・119)も見られる。沈線による縦位方向の区画と磨消手法による無文部の作出が確認できる胴部片は本型式に含めた。92は鉢形土器で、口縁は4単位の波状を呈する。逆U字状もしくはステッキ状の文様を施文している。

**大木10式古段階**(11・19・20・39・47・57・100・103・111・114・115・121・125～127・130・149・150)

当該土器は4・7・12・16・17号竪穴建物跡、56・78・90・91・96・98・100号土坑1区、3区から出土した。文様全体を把握できる土器は出土していないが、文様帯を把握できる土器は103などがある。口縁部文様帯に充填手法によりJ字状やS字状の「アルファベット文」などの曲線的な文様を横位に展開する。口縁部の主文様は縄文帯である。胴部文様帯との区画が明確で、沈線や無文部で区画される。沈線による文様区画内に充填手法で縄文が施文されている胴部片は本型式に含めた。114と115は同一個体の胴部片と底部片である。胴部の区画となる沈線の上下の振り幅が著しい。111は文様施文後、器面全体にナデ調整を行っており、稜が潰れている。そのため、沈線と縄文の前後関係は不明瞭であるが、縄文の施文方向が文様帯の方向で変化しているため、本型式と判断した。11・39・130は地文施文後に沈線で文様を施文しているもので、浅く太い沈線の特徴から本型式に含めた。103は鉢形土器である。へ音記号状やC字状の文様を横位に展開している。150は磨消手法が用いられているが、波状口縁に合わせて縄文帯が配置されているため、主文様が縄文帯と判断して、本型式に収まるものと判断した。

**大木10式中段階**(28・29・35・37・38・104・105・109・116・123・131)

当該土器は10～12号竪穴建物跡、80・84・94・97・101号土坑から出土した。文様全体を把握できる土器は出土していない。口縁部文様帯に主に磨消手法により、主文様である無文帯を横位に展開する。胴部文様帯との区画が不明瞭になり、口縁部文様帯と一体化した文様も見られる。刺突文が施されるもの(38)も見られる。文様内の縄文が区画線に関係なく、整然としているものは磨消手法と判断した。また、磨消手法を用い、無文帯の切り合いが確認できない口縁部片や胴部片は本型式に含めた。123は区画の沈線が直線的であるため、本型式に含めた。104は比較的残存状態の良好な土器である。胴部との文様区画は不明瞭で、無文帯にはミガキ調整が施されている。105は口唇部に2列の刺突列が施される。口縁部文様帯には縄文帯により逆U字やC字状のアルファベット文が施文されているが、磨消手法を用いていることと胴部文様帯との区画が不明瞭であることから本型式に含めた。

**大木10式新段階**(30・36・59・62・107・128)

当該土器は10・12・18号竪穴建物跡、2号炉跡、83・99号土坑から出土した。文様全体を把握できる土器は36と59である。本型式の大きな特徴は口縁部文様帯の主文様である無文帯の切り合いと口唇部や切り合い部に施される鱗状突起である。地文は口縁部から胴部下半まで縦位に施文されることが多い。36は3単位の環状突起と山形突起を持つ。主文様の無文帯はこの突起から始まり、鱗状突起で収束する。59は4単位の山形突起を持つ。主文様の無文帯は突起と突起を繋ぐように描かれ



ている。突起の下にはこの無文帯が玉抱状を呈している。口唇には1段の刺突文が施される。

#### 半粗製土器 (15・110)

口縁部に単純な隆帯を施すものである。当該土器は5号竪穴建物跡、84号土坑から出土した。器形全体を把握できる土器は出土していない。15は口縁部片で、口唇部に口縁に沿って断面形が台形状の隆帯が巡っている。110は地文施文後隆帯を一条巡らし、隆帯より上部をナデ調整により無文にしている。

#### 粗製土器

粗製土器は施文原体によって以下のようにした。

単節縄文が施文されるもの (3・14・18・23・24・26・32・33・41・48・49・61・71・74・89・96・99・102・106・118・124・133・134・137・151)

当該土器は2・5・7・9・10・13・16・17号竪穴建物跡、2号炉跡、24・28・39・51・56・67・81・95・97・109・114号土坑、1号埋設土器、1区から出土した。器形全体を把握できる土器は3・26・33・137・151である。施文方向は縦位で口縁部に無文部(帯)があるものと口唇部から施文されるものとある。3・14・18・24・26・41・71・74・96・99・102・106・137・151はLR、23・33・48・49・61・89・118・124・133・134はRLが施文される。23は小形のもので、全体的に器面が摩滅しており、地文がわずかに観察できる程度である。48の口唇部はヨコナデにより無文部を作出している。74は縄文施文後縦方向にヘラナデが施される。99は器形から中期後葉～末葉に帰属する可能性が高い。

結節回転文が施文されるもの (17・22・91・94・113・129)

当該土器は7号竪穴建物跡、46・50・90・100号土坑から出土した。器形全体を把握できる土器は91・94である。91は胴部下半がやや膨らみ、口縁部は外傾気味に立ち上がる。口唇部はナデ調整による無文帯となっている。94はa bの2点ある。接点はないが復原した図を掲載した。胴部中央部で膨らみ、口縁部は外傾気味に立ち上がる。器面全体が摩滅しており、口唇部の意図的なナデ調整による無文部の作出は不明であるが、1cm程無文部が確認できる。17は7号竪穴建物跡の炉体土器で、結節回転文と単節縄文の少なくとも2種類の縄文が施文されている粗製土器の胴部片である。22の内面は比較的丁寧なナデ調整が行われており、精製土器の可能性が高い。113は複節のものである。129は上半部が残存する土器である。平縁で胴部の張る器形をしている。折り返し口縁で、無文帯となっている。

単軸絡条体1類が施文せれるもの (152)

当該土器は6区から出土した。該当する土器は152の1点のみで、小形の略完形の深鉢土器である。4単位の山形突起を有する。

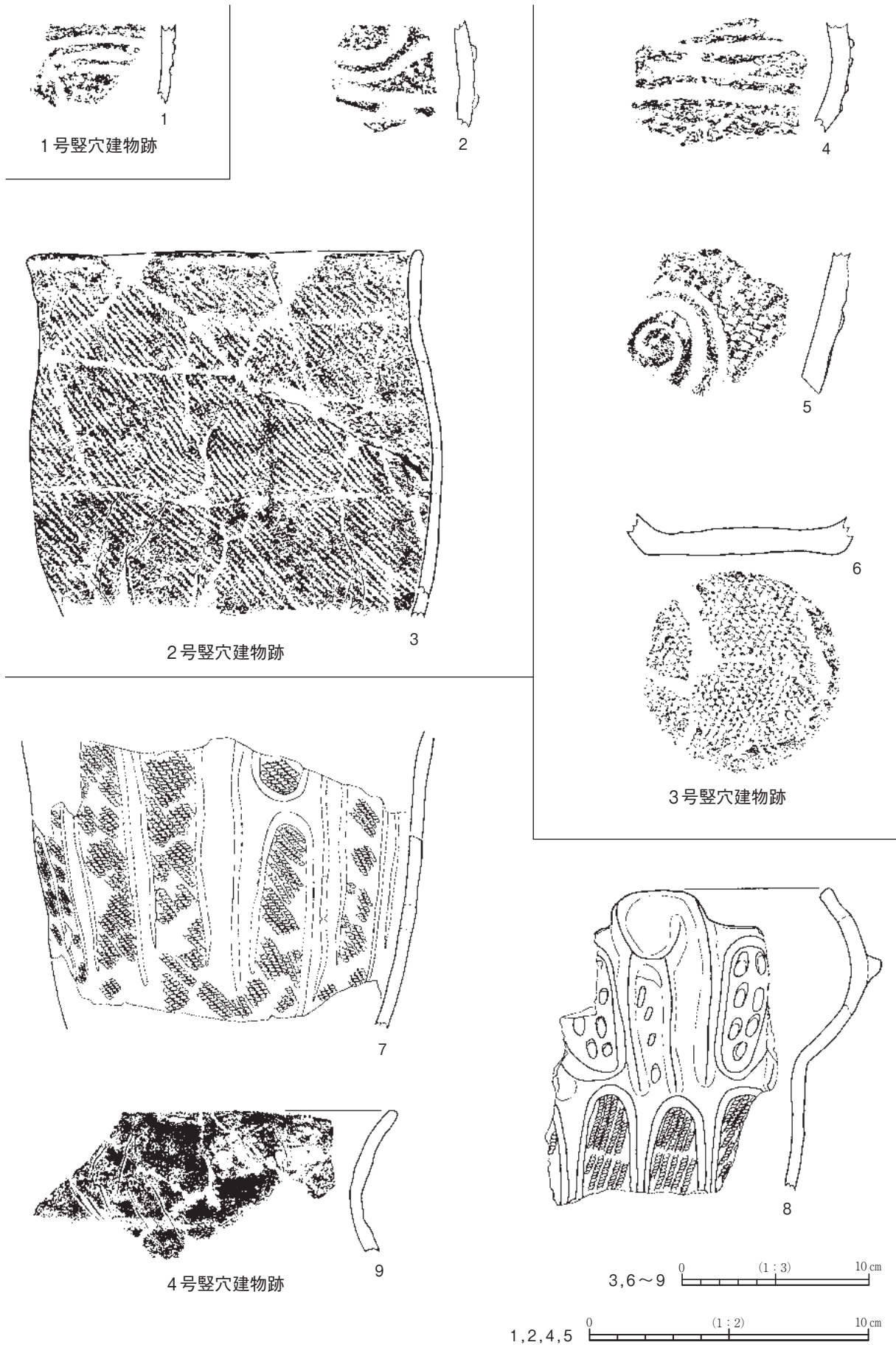
櫛歯状沈線が施文されるもの (153)

当該土器は1区(153)から出土した。器形全体を把握できる土器は出土していない。器面全体に櫛歯状工具で縦位方向に施文している。

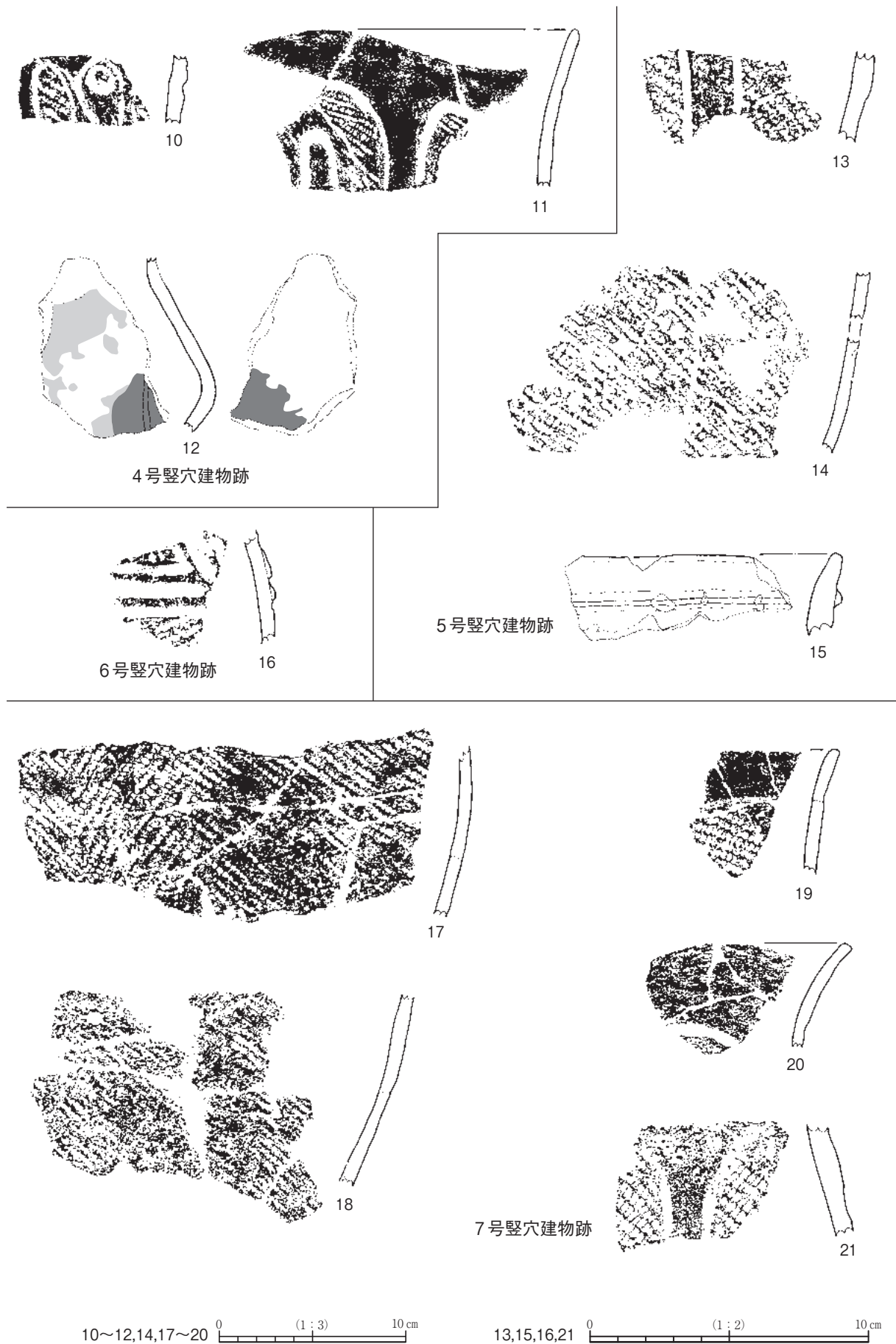
無文のもの (9・12・101)

当該土器は4号竪穴建物跡、58号土坑から出土した。器形全体を把握できる土器は出土していない。9・12は壺形土器である。器面全体にナデ調整が施される。外面には朱と考えられる赤色の付着物が観察される。内外面には黒色の付着物が確認できる。9の口縁部には不明瞭であるが、縄文の痕跡が確認できる。101は深鉢である。器面全体にナデやケズリ調整が施される。

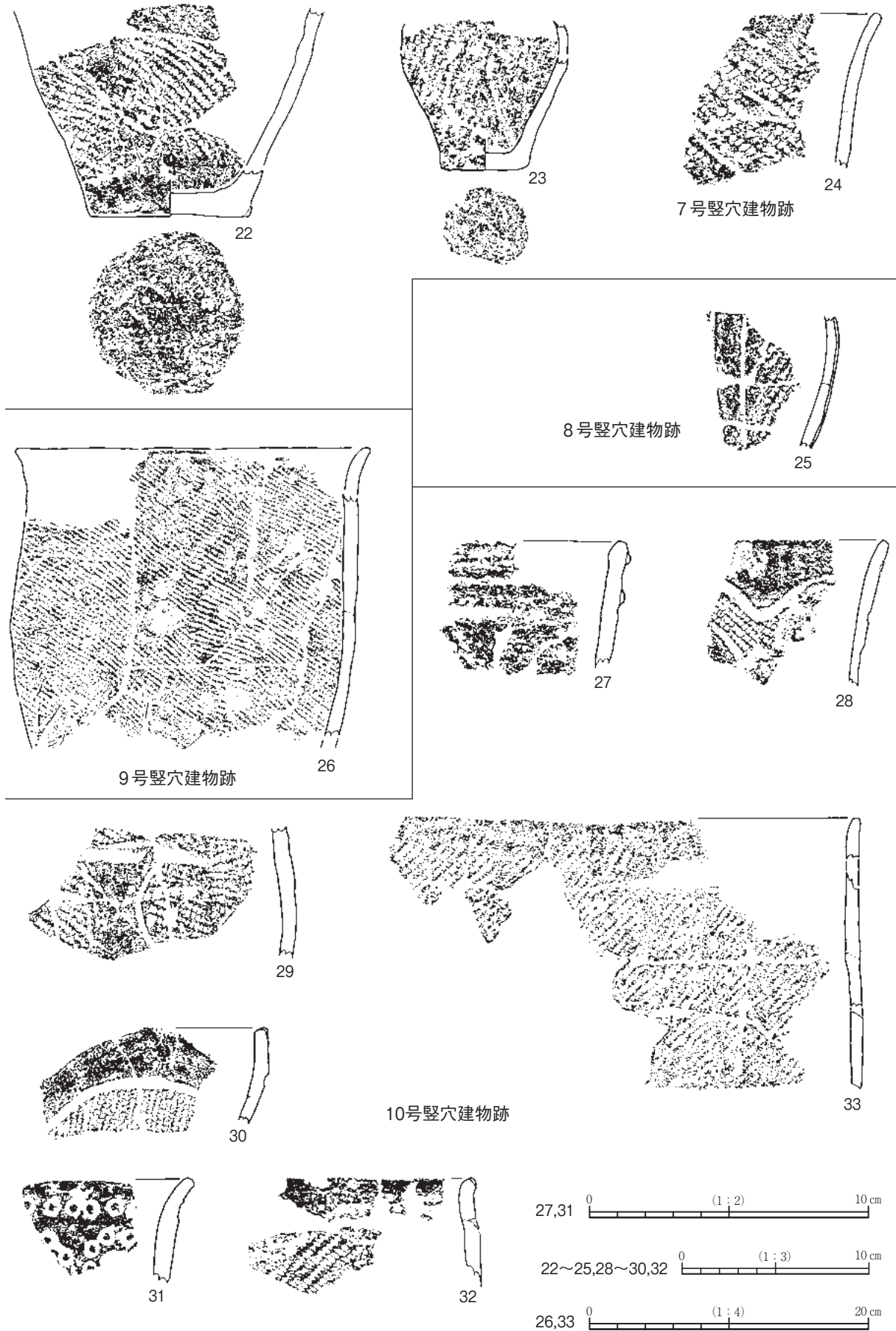
上記以外の土器 (6・31・58・120・154～157)



第117図 土器(縄文時代1)

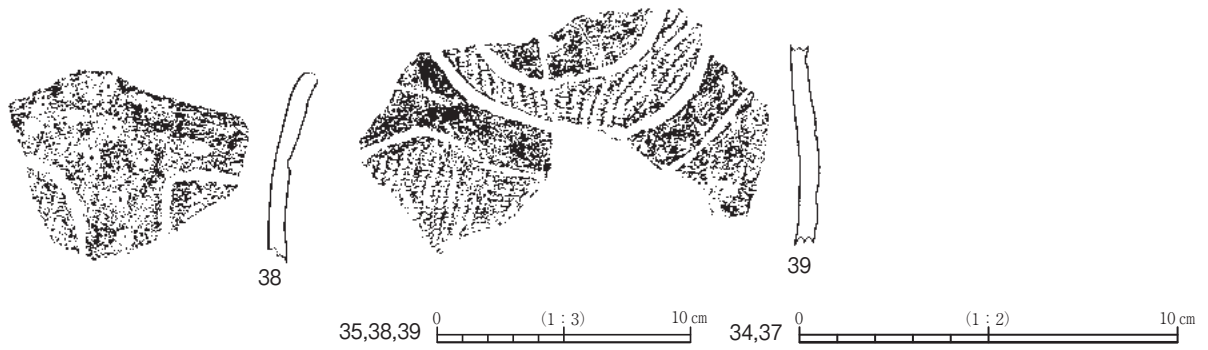
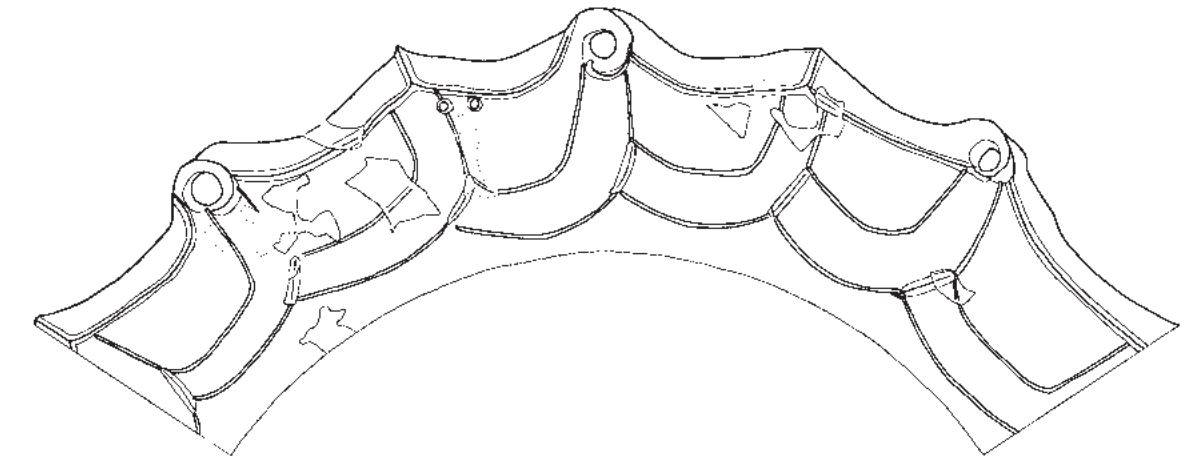
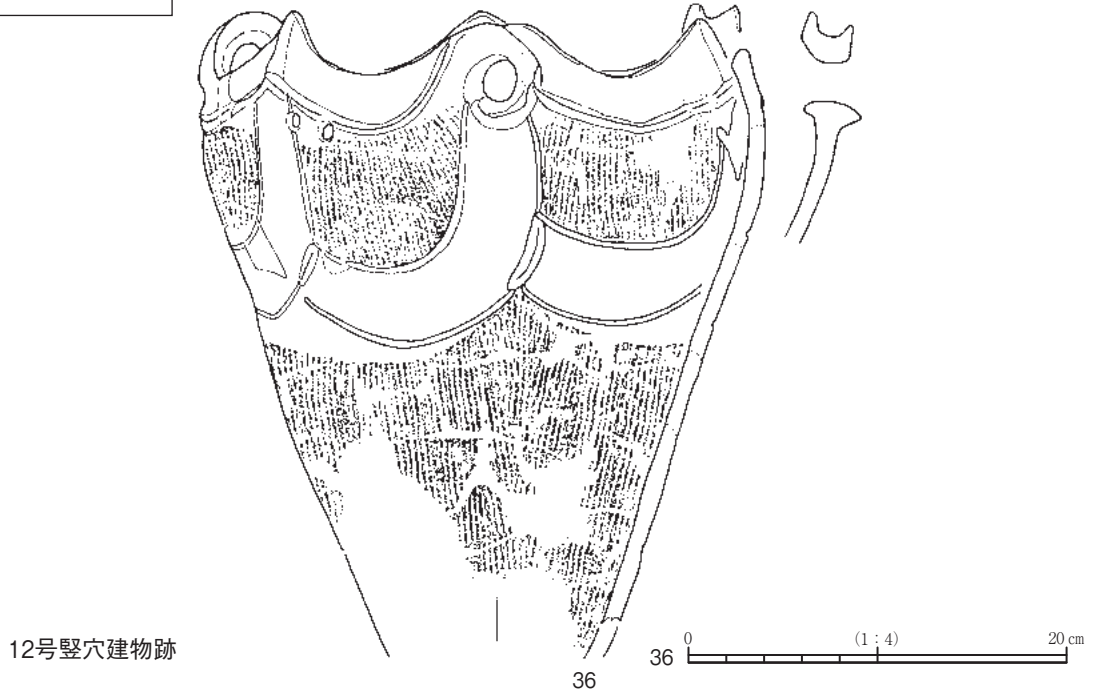


第118図 土器(縄文時代2)

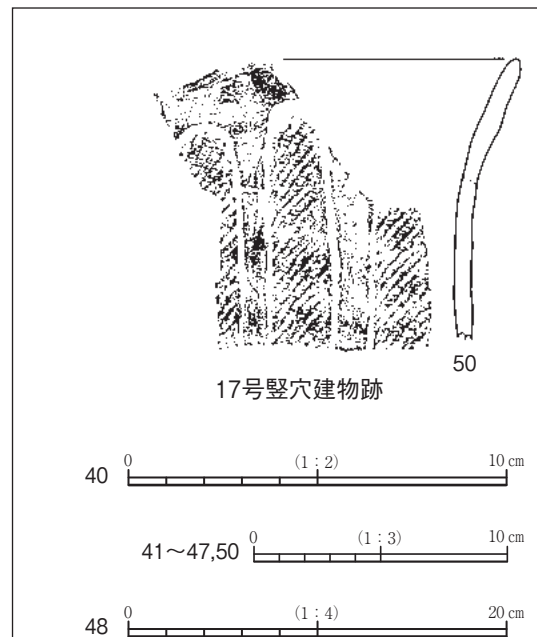
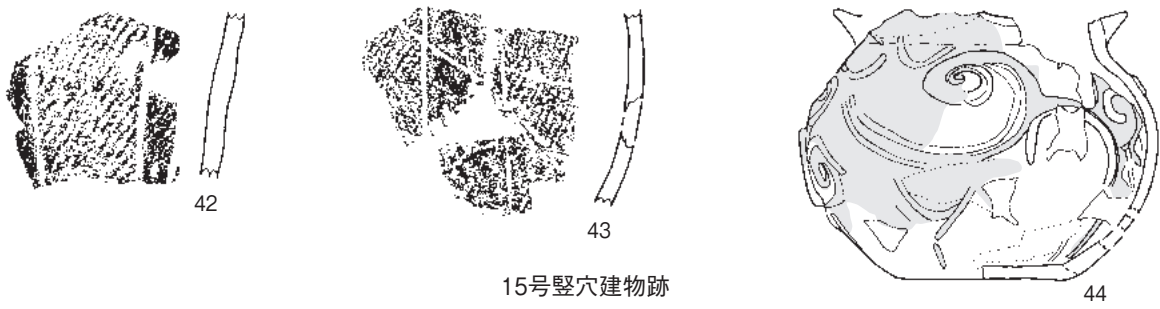


第119図 土器(縄文時代3)





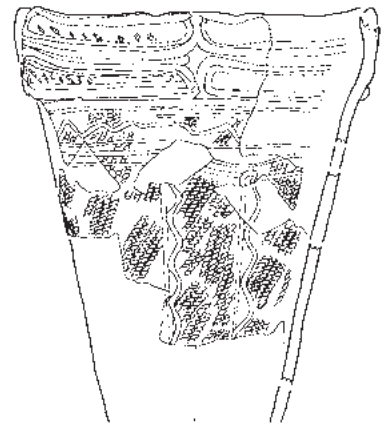
第120図 土器(縄文時代4)



第121図 土器(縄文時代5)



49



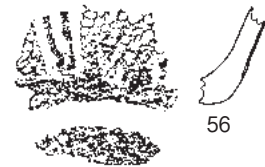
51



52



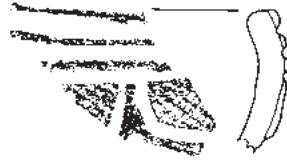
53



56



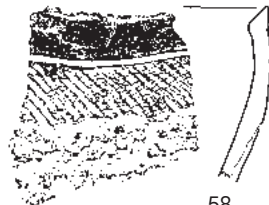
54



55



57



58

17号竖穴建物跡



60

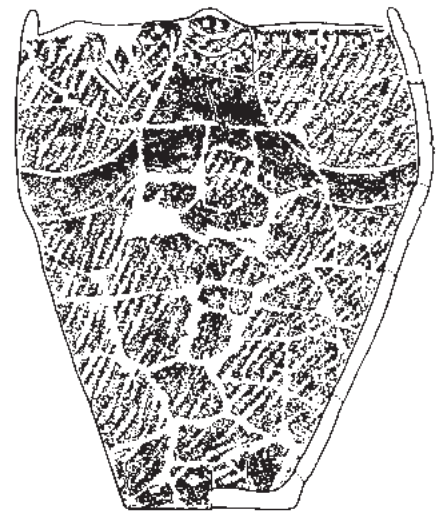


61



62

2号炉跡



59

18号竖穴建物跡

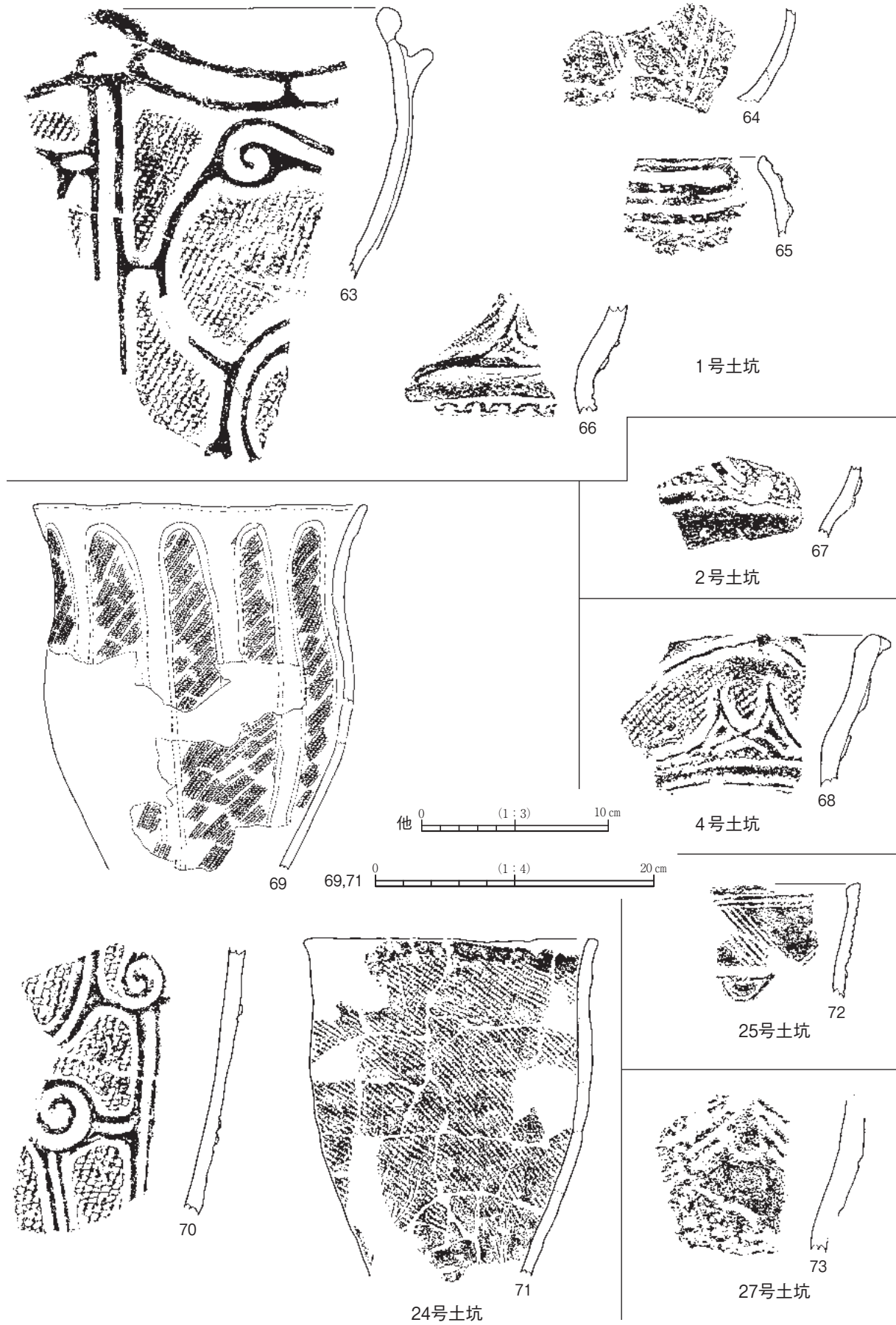
54.55 0 (1:2) 10 cm

他 0 (1:3) 10 cm

59 0 (1:4) 20 cm

第122図 土器(縄文時代6)

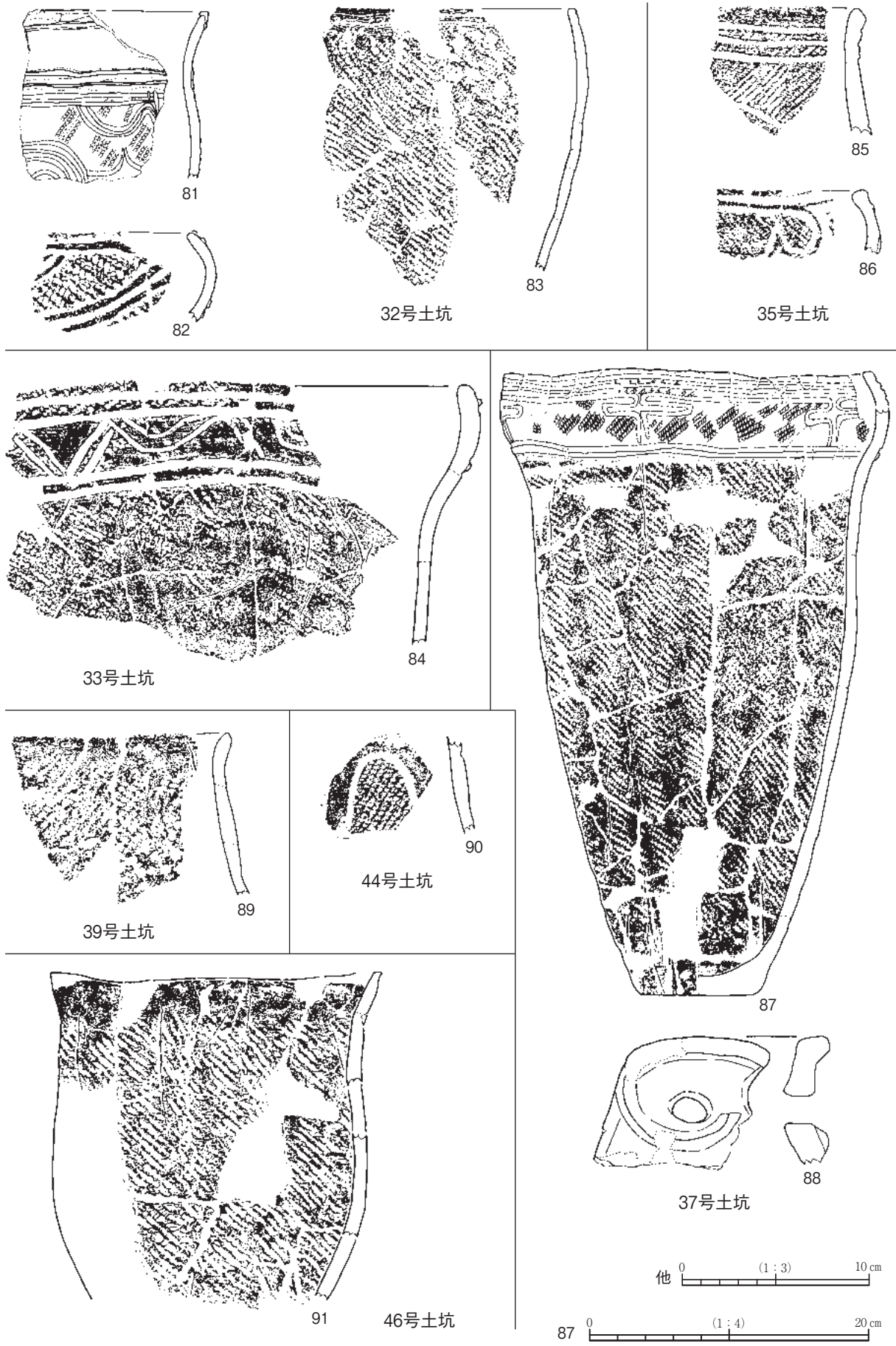




第123図 土器(縄文時代7)

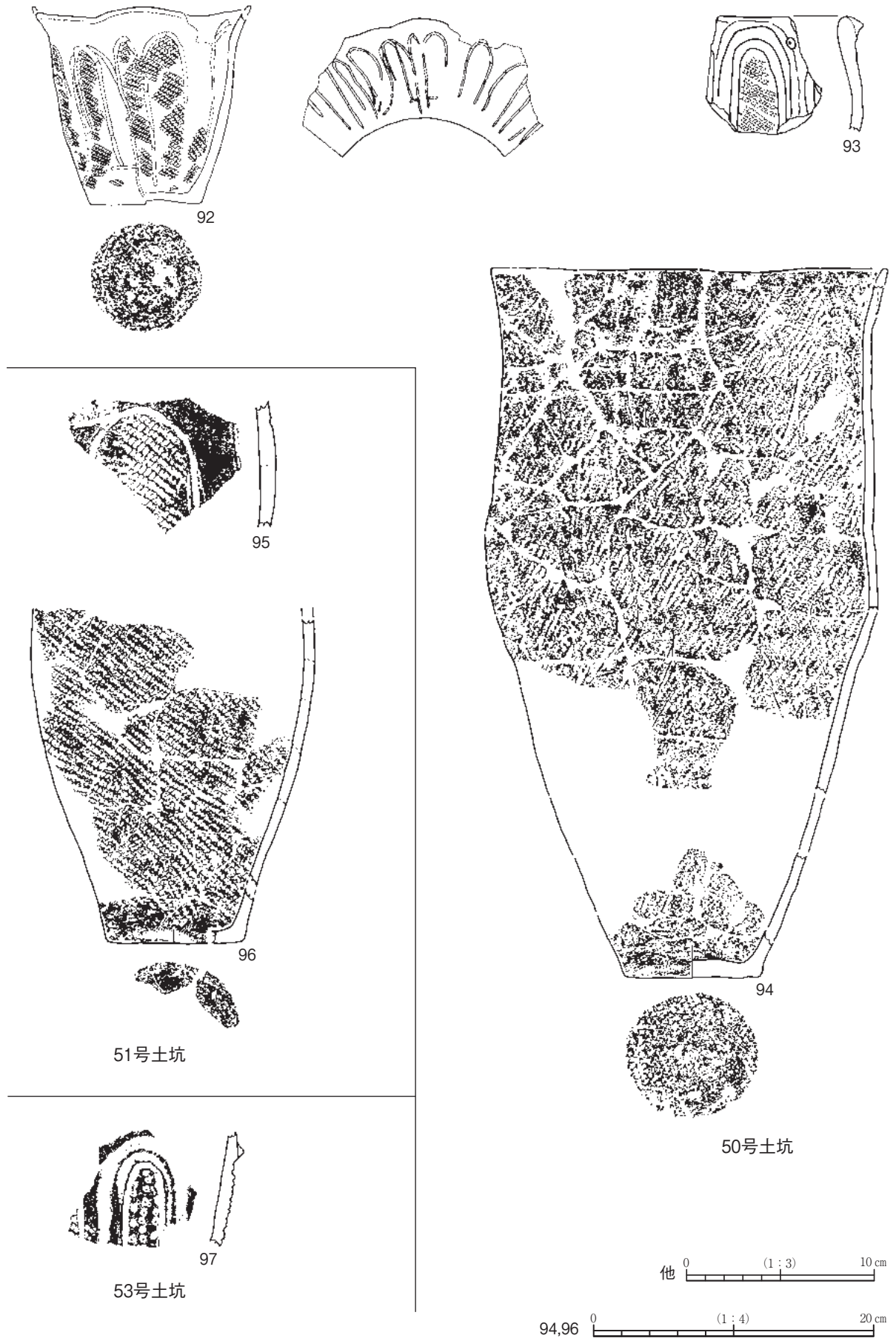


第124図 土器(縄文時代8)

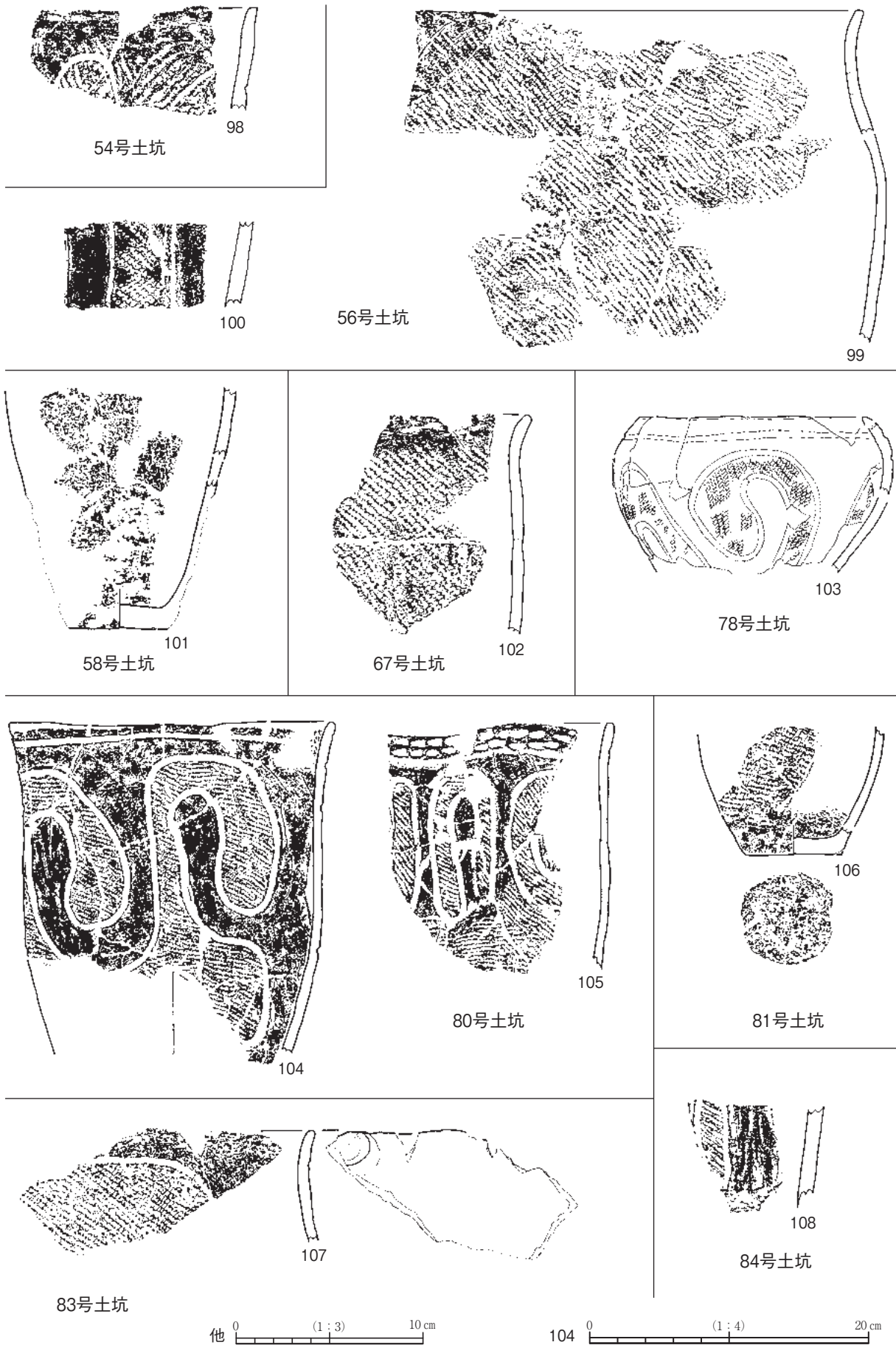


第125図 土器(縄文時代9)

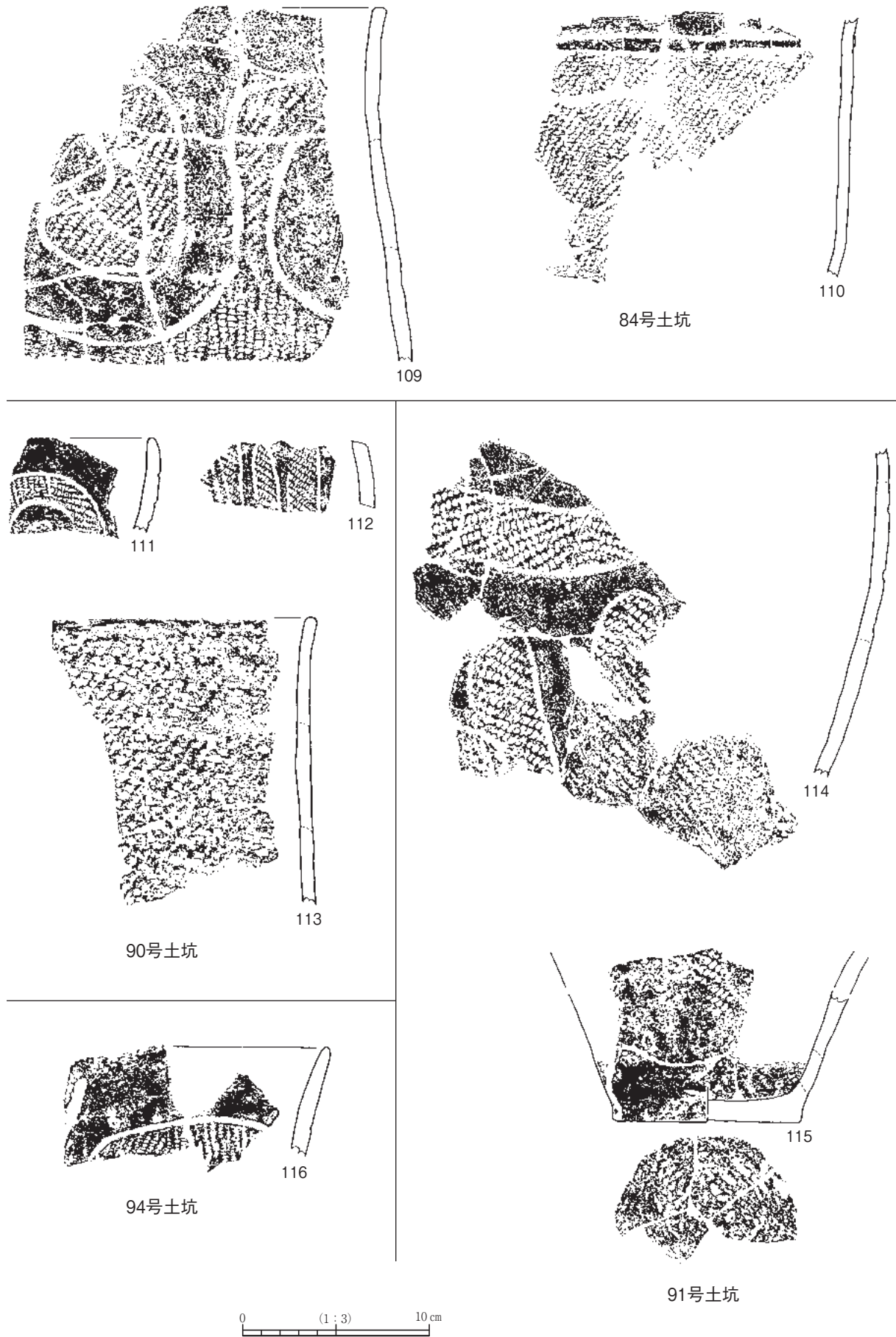




第126図 土器(縄文時代10)

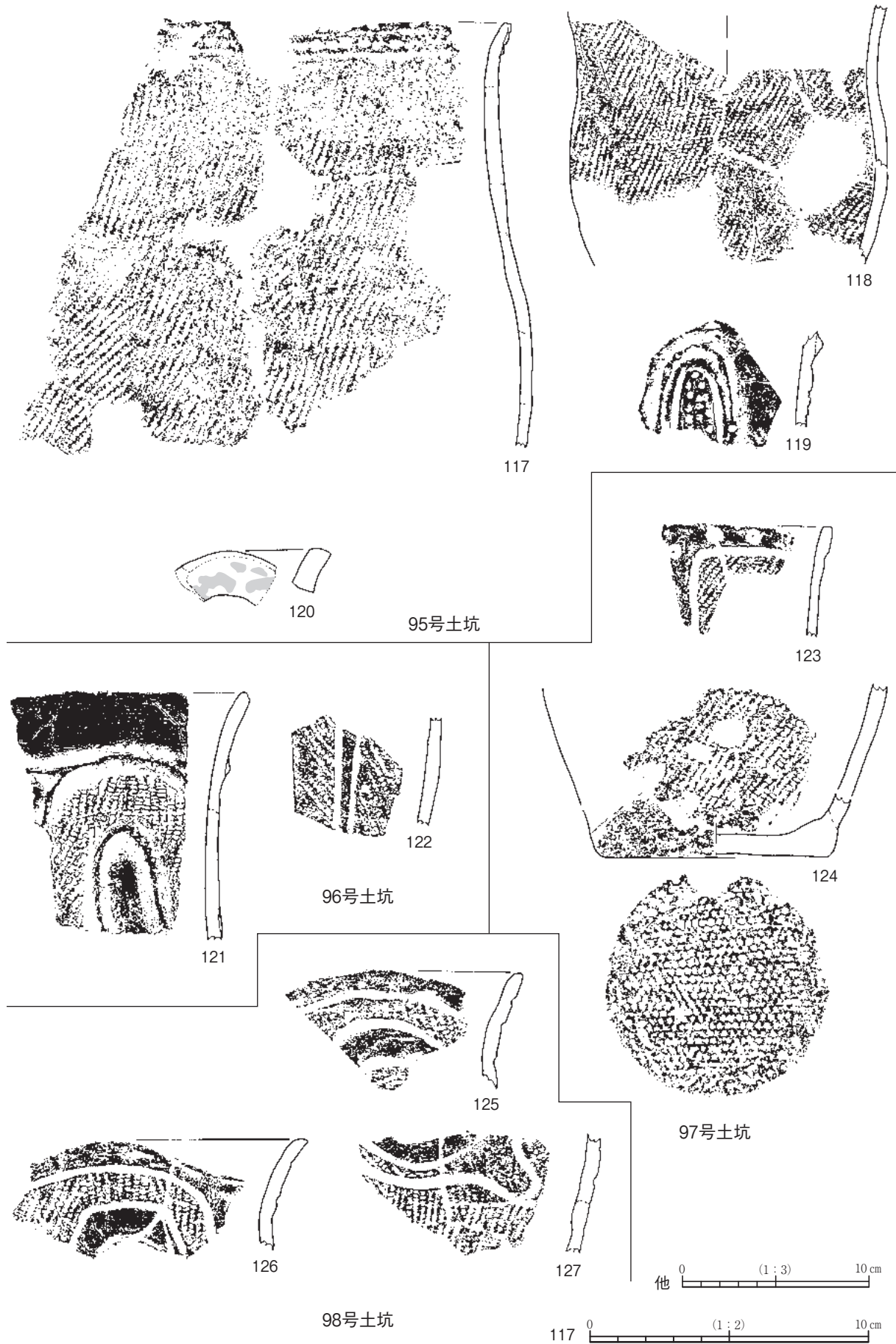


第127図 土器(縄文時代11)

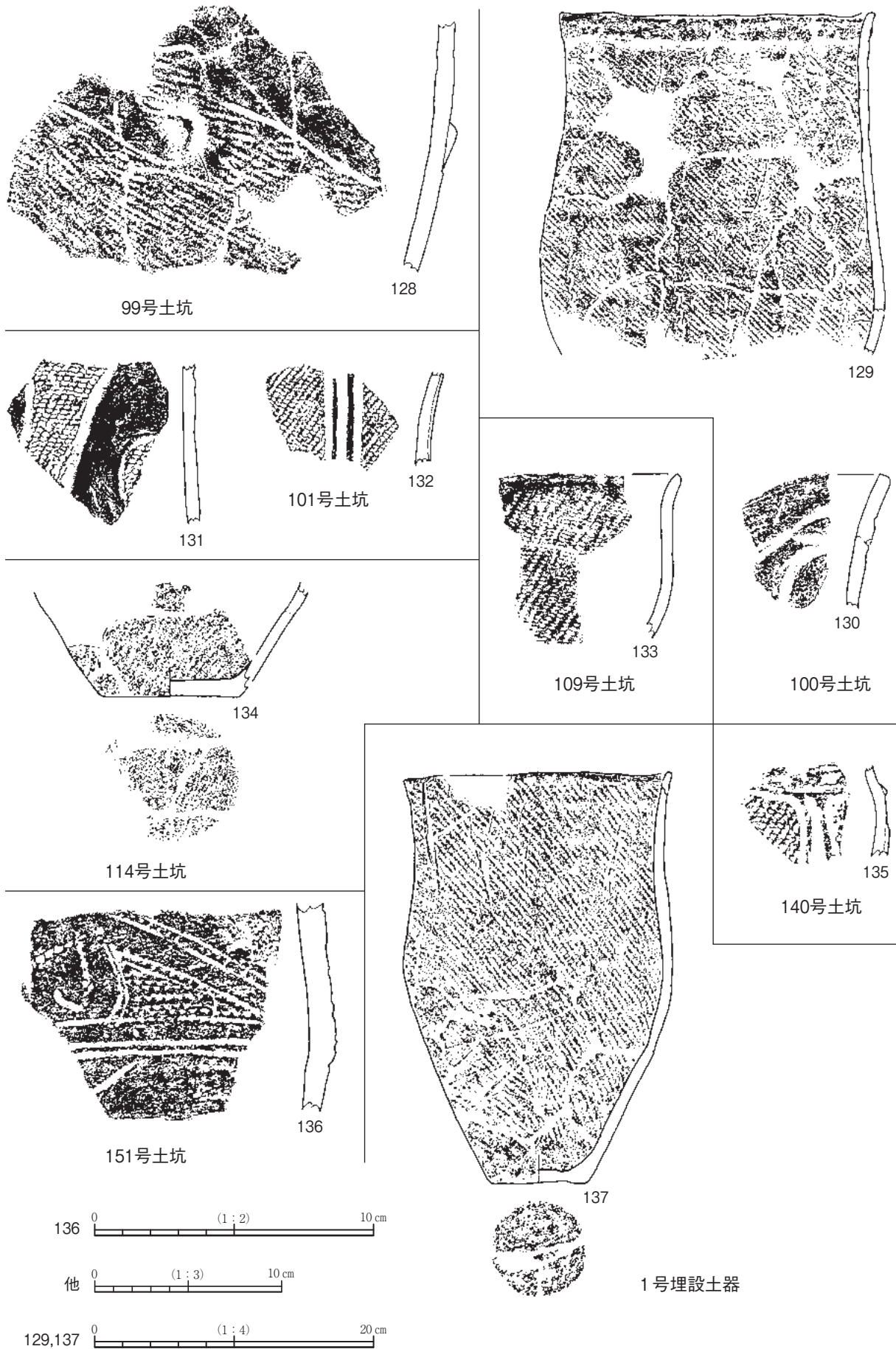


第128図 土器(縄文時代12)

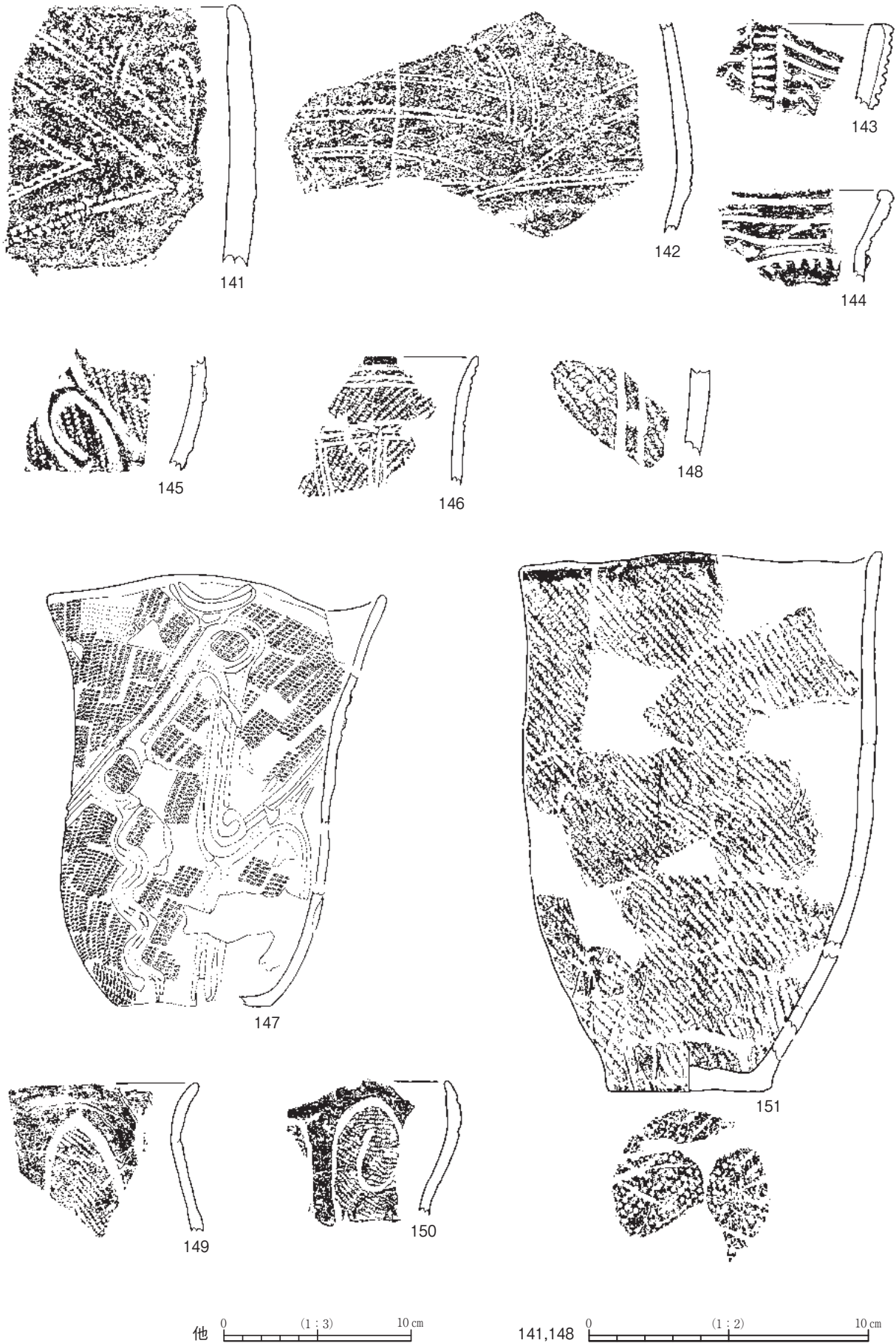




第129図 土器(縄文時代13)

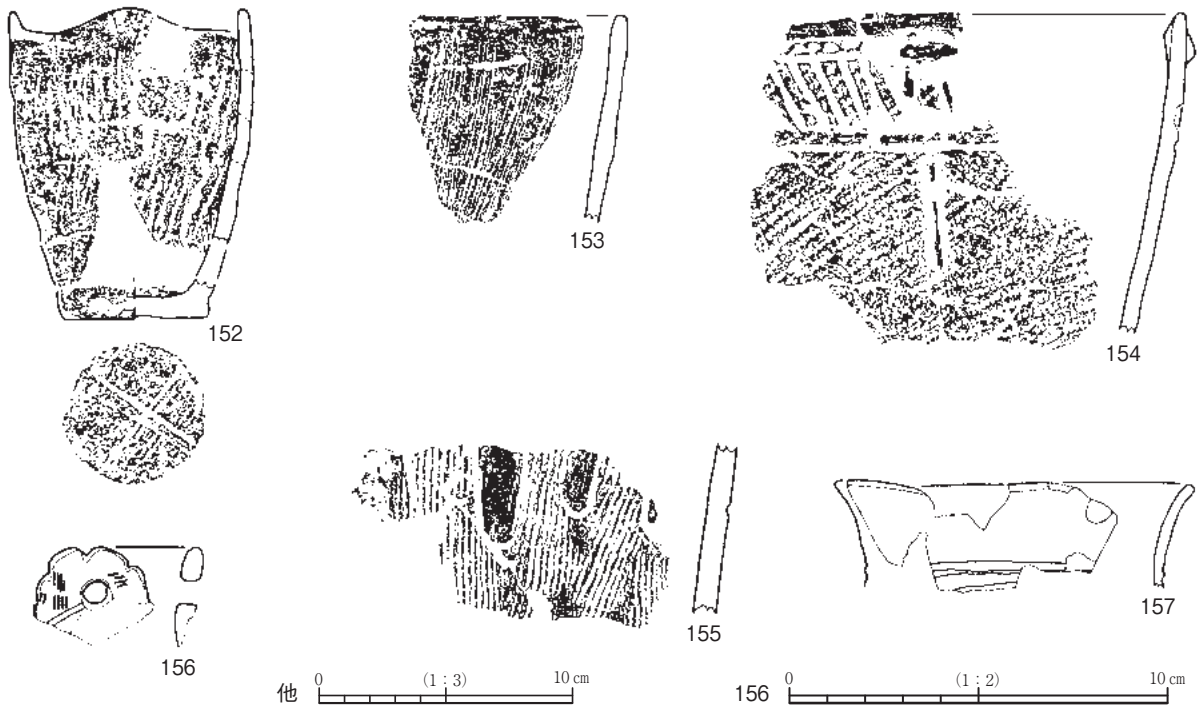


第130図 土器(縄文時代14)

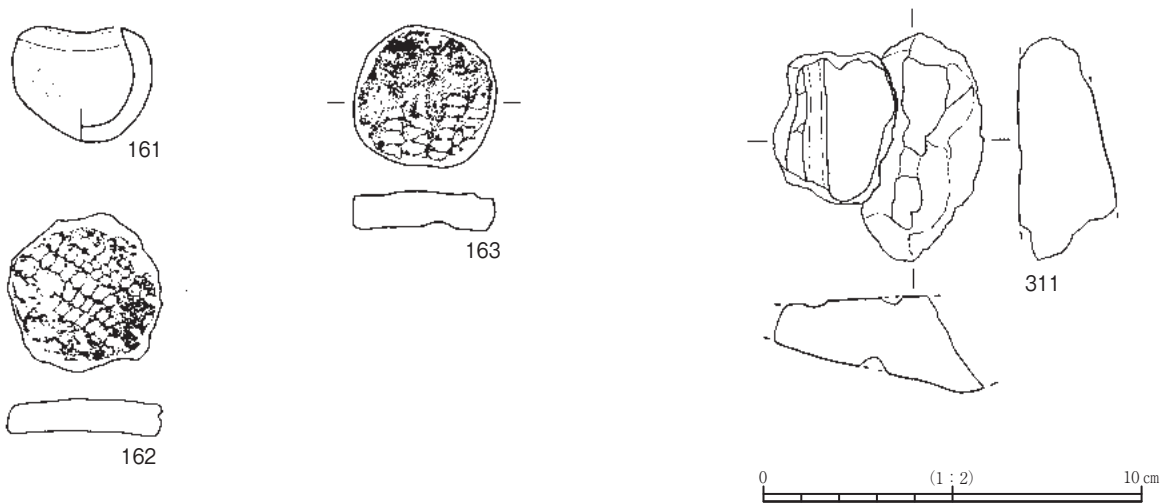


第131図 土器(縄文時代15)





第132図 土器(縄文時代16)



第133図 土製品・その他(縄文時代)

当該土器は3・10・17号竪穴建物跡、95号土坑、203号土坑(古代)、1区、3区から出土した。6は底部片で底部外面は網代痕が確認できる。内面見込み部分がマウント状に高くなっている。31は円形刺突文が施される口縁部片である。大木10式の範疇に収まるものと考えられるが、詳細な時期までは特定できなかった。58は無節縄文が地文に施文される口縁部片で部分的に沈線が確認できる。大木10式新段階の土器の可能性が高い。120は全体的にミガキ調整が施される環状突起等の一部である。外面に赤色付着物が確認できたため、掲載した。154は口縁が開く器形の深鉢形土器の口縁部片である。地文施文後、沈線や刺突の施される隆帯で文様帯を区画し、口縁部文様帯には斜行する

第10表 土器観察表(縄文時代1)

掲載No.	遺構名	出土地点・層位	器種	部位	文 様 等	時期・型式	図版	写真 図版
1	1 竪	埋土	鉢?	胴	3条の平行沈線、LR?タテ 内:N	8a新~ 8b中	117	49
2	2 竪	E埋土	深鉢	胴	LR?、渦巻文(隆帯) 内:N *器面摩滅	8b~9新	117	49
3	2 竪	P1(埋土上位)・ P2(埋土中位)・ 埋土中~下位	深鉢	口胴	LRタテ 内:N	中期	117	49
4	3 竪	NW埋土下位	深鉢	頸	RLヨコ→隆帯(4条) 内:YN	8a新	117	49
5	3 竪	SE埋土	深鉢	胴	RL、渦巻文(隆帯) 内:N 胎土:金雲母	8b~9新	117	49
6	3 竪	NW埋土下位	深鉢	底	底外:網代痕 内:N(粗)	中期	117	49
7	4 竪	炉体	深鉢	胴	LRタテ→沈線(縦位・逆U字状・楕円形) 内: M(粗) 胎土:金雲母	9新	117	49
8	4 竪	P1(床直)	深鉢	口胴	口:[の]字状隆帯+垂下する隆帯+刺突文、 楕円形区画(沈線)+刺突文 胴:RL→沈線 (楕円形?) 内:N 胎土:金雲母 *外面 スス附着	9新	117	49
9	4 竪	B6層・炉体直上	壺	口	RL?→ナデ(無文) 内:N *外面朱?	中期	117	49
10	4 竪	E埋土	深鉢	胴	LRタテ→沈線、蕨手状の沈線 内:N 胎土: 金雲母	9新	118	49
11	4 竪	埋土	深鉢	口	LRタテ→太沈線 内:N 胎土:金雲母	10古	118	49
12	4 竪	E埋土	壺	胴	無文(ナデ) 内:N *外面朱?、両面黒色 附着物	中期	118	49
13	5 竪	B1・2層	深鉢	胴	LRタテ→沈線(タテ)→磨消 内:N 胎土: 金雲母	9新	118	49
14	5 竪	P1(NE埋土中位)	深鉢	胴	LRタテ 内:N	中期	118	49
15	5 竪	SW埋土	深鉢	口	隆帯 内:N	中期	118	49
16	6 竪	E埋土上位	深鉢	頸	口:縄文→2本一組の隆帯 胴:RLタテ 内: N 胎土:金雲母	8a新	118	49
17	7 竪	炉体	深鉢	胴	結節回転文(RL)、LRタテ 内:N・M	中期	118	49
18	7 竪	炉体	深鉢	胴	LRタテ 内:N *器面摩滅	中期	118	50
19	7 竪	炉体	深鉢	口	沈線(浅)→LRタテ 内:N・M	10古	118	49
20	7 竪	炉石組部2 埋土	深鉢	口	LR?、沈線 内:N	10古?	118	49
21	7 竪	炉石組部2 1層	深鉢	胴	LR→沈線→磨消 内:YN	9新?	118	50
22	7 竪	炉石組部2 1層	深鉢	胴底	結節回転文(LR) 底外:網代痕→N 内: N 胎土:金雲母	中期	119	50
23	7 竪	炉石組部2 埋土	深鉢	胴底	RLタテ 底外:無文 内:N *器面摩滅	中期	119	50
24	7 竪	炉石組部1 1層	深鉢	口	LRタテ 内:N	中期	119	50
25	8 竪	埋土	深鉢	胴	RLタテ→沈線(タテ)→磨消 内:N	9新	119	50
26	9 竪	炉体	深鉢	口胴	LRタテ 内:N	中期	119	50
27	10 竪	炉前庭部 埋土	深鉢	口	口唇:2条の平行する隆帯+沈線 内:N(粗) 胎土:金雲母 *器面摩滅	(9古)	119	50
28	10 竪	NE埋土	深鉢	口	LR→沈線→磨消 内:N	10中	119	50
29	10 竪	NE埋土	深鉢	胴	LR→沈線→磨消 内:N 胎土:金雲母 *器面摩滅	10中	119	50
30	10 竪	SE埋土	深鉢	口	口唇:鱗状突起 口:RLRタテ→沈線→磨 消 内:YN 胎土:金雲母	10新	119	50
31	10 竪	NE埋土	深鉢	口	円形刺突文 内:N	10	119	50
32	10 竪	炉石組部1 埋土	深鉢	口	RLタテ 内:YN 胎土:金雲母	中期	119	50
33	10 竪	SW埋土・埋土・ 2区中央IV層	深鉢	口胴	RLタテ 内:N 胎土:金雲母	中期	119	50
34	10 竪	Pit6 埋土	深鉢	胴	LRタテ→沈線→磨消 内:N	9新	120	50
35	11 竪	E埋土	深鉢	口	波状口縁 口唇:刺突列(2段) 口:LRタ テ→沈線→磨消 内:N	10中?	120	50
36	12 竪	P1(埋土(褐色))	深鉢	口底 上	口唇:3単位の環状突起+山形突起+垂下す る隆帯 地文:単軸絡条体第1類 口:隆帯 (区画)、J字状文(磨消)→鱗状突起 内: N 胎土:金雲母	10新	120	50
37	12 竪	P1(埋土(褐色))	壺	胴	RL→沈線→磨消 内:N・M 胎土:金雲母	10中?	120	50

第10表 土器観察表（縄文時代2）

掲載No.	遺構名	出土地点・層位	器種	部位	文 様 等	時期・型式	図版	写真 図版
38	12 罎	T埋土	深鉢	口	山形口縁 RLタテ→沈線→磨消→円形刺突 文 内：N 胎土：金雲母	10中	120	50
39	12 罎	T埋土	深鉢	胴	RL→太沈線(区画) 波状沈線(区画) 内： N 胎土：金雲母	10古	120	51
40	13 罎	SW埋土	深鉢	頸	RLタテ、4条の平行沈線、沈線 内：N・M	8a新～8b中	121	51
41	13 罎	NW埋土上位	深鉢	胴底	LRタテ 底外：無文 内：N(粗) 胎土： 金雲母	中期	121	51
42	15 罎	P3(1層)	深鉢	胴	RLタテ→沈線→磨消 内：N	9新	121	51
43	15 罎	P2(1層)・E埋土	深鉢	胴	RLタテ→沈線→磨消 内：N	9新	121	51
44	15 罎	P1(1層)	壺	頸底	橋状把手? 渦巻文(隆帯+沈線) 底外：N 内：N *隆帯剥落	8b新	121	51
45	16 罎	西側周溝 埋土	深鉢	胴	LRタテ→縦位の平行沈線 内：N 胎土： 金雲母	8a～8b	121	51
46	16 罎	埋土	深鉢	胴	LRタテ→縦位の2本一組の隆帯+沈線 内： N 胎土：金雲母	8b新～9古	121	51
47	16 罎	埋土	深鉢	口	口唇肥厚、沈線→RL 内：N 胎土：金雲 母	10古	121	51
48	16 罎	埋土	深鉢	口胴	口唇：YN 地文：RLタテ 内：N	中期中～後葉	121	51
49	17 罎	炉体	深鉢	胴	RLタテ 内：N	中期中～後葉	122	51
50	17 罎	B3・4層	深鉢	口	RLタテ→沈線→磨消 内：N 胎土：金雲 母	9新	121	51
51	17 罎	P1(E埋土下位)	深鉢	口胴	緩やかな波状口縁 口：RLヨコ→隆帯+沈 線 頸：RLタテ→平行沈線、波状沈線 胴： RLタテ→沈線(4単位) 内：M 胎土：金 雲母	8a新	122	51
52	17 罎	W埋土中～下位	深鉢	胴	頸：縄文→2条以上の平行沈線 胴：LRタ テ 内：N	8a新～ 8b中	122	51
53	17 罎	E埋土上～中位・ 3区2段目II層	深鉢	橋状 把手	「の」字状極太沈線 内：N	8a	122	51
54	17 罎	E埋土上～中位	深鉢	口	山形突起、RL?、渦巻文(隆帯) 内：N・M 胎土：金雲母	8b～9新	122	51
55	17 罎	W埋土上位	深鉢	口	口唇：平行する隆帯+沈線 口：RLヨコ→ 隆帯+沈線 内：N 胎土：金雲母	8a新	122	51
56	17 罎	W埋土上位	深鉢?	底	RLタテ→2本一組の隆帯+沈線 底外： →N 内：N 胎土：金雲母	8b新～9古	122	51
57	17 罎	W埋土上位・ E埋土下位	深鉢	胴	沈線→RL 内：N	10古	122	51
58	17 罎	E埋土上位	深鉢	口	波状口縁 口唇：肥厚 口：Lタテ、沈線 内：N 胎土：金雲母	中期末葉	122	51
59	18 罎	P1(検出面)	深鉢	略完	山形突起 口唇：RLタテ→刺突列・沈線 口：RLタテ→沈線→磨消 底外：→N 内： N・M	10新	122	51
60	2 炉	P1(炉2層)	深鉢	口	口唇：隆帯 地：LRタテ 口：波状沈線 頸： 3条以上の平行沈線 内：N	8a新	122	52
61	2 炉	炉2層	深鉢	胴	RLタテ 内：N 胎土：金雲母	中期	122	52
62	2 炉	炉埋土上位	深鉢	口	口：内側肥厚 RLタテ→沈線→磨消、円形刺突文、押圧 内： M 胎土：金雲母	10新?	122	52
63	1 土	埋土上位	鉢	口胴	波状口縁 地文：RLタテ 口唇：口縁に沿 う隆帯+渦巻文(隆帯)+縦位の短隆帯 口 胴：波頂部から垂下する隆帯(2条)、渦巻文 内：N *内面器面摩滅	8b中	123	52
64	1 土	埋土	深鉢	底上	LRタテ→3条の沈線(縦位) 内：N 胎土： 金雲母	8b古	123	52
65	1 土	1層	深鉢	口	隆帯+沈線 内：M 胎土：金雲母	8a新	123	52
66	1 土	1層	深鉢	頸	LRヨコ→隆帯 頸：LRタテ→平行沈線+交 互刺突文+N 内：M 胎土：金雲母	7b?	123	52
67	2 土	埋土	深鉢	頸	RLヨコ→隆帯+沈線 区画：隆帯+沈線 頸：縄文→N(磨消) 内：N 胎土：金雲 母	8a新	123	52



第10表 土器観察表 (縄文時代3)

掲載No.	遺構名	出土地点・層位	器種	部位	文 様 等	時期・型式	図版	写真 図版
68	4土	埋土	深鉢	口	LRヨコ→隆帯・YN (沈線状) 内：N・M 胎土：金雲母	8a新	123	52
69	24土	埋土上位	深鉢	口底 上	RLタテ→沈線→磨消 内：N・YN	9新	123	52
70	24土	埋土上位	深鉢	胴	RLタテ→渦巻文・2本一組隆帯+沈線 内： N 胎土：金雲母	8b新	123	52
71	24土	埋土上位	深鉢	口底 上	口唇：YN 地文：LRタテ 内：N・H	中期中～後葉	123	52
72	25土	埋土上位・ 2区東側中央IV層	深鉢	口	3条の平行沈線(口唇)→櫛歯状沈線(斜行) →隆帯+太沈線→U字状沈線 内：N・M	7a	123	52
73	27土	E埋土下位	深鉢	口	波状口縁 押し引き状沈線、U字状沈線 内：N *器面摩滅	7b	123	52
74	28土	P1 (埋土下位)	深鉢	胴底	LRタテ→HN 底外：→HN 内：N・H 胎 土：金雲母	中期	124	52
75	30土	P1 (埋土下位)・ 埋土上位・ 埋土下位	深鉢	頸底	口：LRタテ→無文(ナテ) 頸：LRタテ→ 隆帯(2条) 胴：LRタテ→縦位の2本一組 の隆帯(区画)・区画内隆帯(渦巻) 底外： →N 内：N・M	8b古	124	52
76	30土	埋土上位	深鉢	口	波状口縁・横S字状の突起 口：LR→渦状 の隆帯・隆帯 内：N 胎土：金雲母	8a新	124	52
77	30土	埋土上位	鉢?	口	口唇：沈線 口：LRヨコ→沈線 口下部： LRタテ 内：H・M 胎土：金雲母	8a新	124	52
78	31土	埋土上位	深鉢	口	LRタテ→渦巻文(隆帯+沈線) 内：N 胎 土：金雲母 *79と同一個体	8b新	124	53
79	31土	埋土上位	深鉢	胴	LRタテ→渦巻文(隆帯+沈線)・2本一組隆 帯+沈線 内：N 胎土：金雲母 *78と同 一個体	8b新	124	53
80	32土	埋土下位・ 埋土・49土埋土	深鉢	(口) 胴	口：隆帯+沈線(2条以上) 頸：沈線(4条 の平行+波状+3条の平行) 胴：RLタテ→ 沈線(区画)・沈線(クランク・渦巻) 内： N 胎土：金雲母	8b古	124	53
81	32土	埋土下位	深鉢	口胴	口唇：隆帯 口：無文 頸：隆帯、沈線 胴： RLタテ→沈線(渦巻?・弧) 内：M 胎土： 金雲母	8b古	125	53
82	32土	埋土下位	深鉢	口	RLRヨコ→2本1組の隆帯 内：YN 胎土： 金雲母	8a新	125	53
83	32土	埋土	深鉢	口胴	口唇：沈線(2条) 地文：LRタテ 内：H 胎土：金雲母	中期中～後葉	125	53
84	33土	埋土上位・埋土	深鉢	口胴	口唇：隆帯+沈線→縄文 口：波状沈線(2条) 頸：隆帯+沈線(区画) 胴：LRタテ 内： HN・HK	8a新	125	53
85	35土	16層	深鉢	口	波状口縁 口唇：3条の平行沈線 口：RL タテ→沈線 内：N 胎土：金雲母	8a新?	125	53
86	35土	埋土上位	深鉢	口	縄文→隆帯(渦巻文?) 内：N・M	8b～9新	125	53
87	37土	P1 (埋土中位)・ E・W埋土上位	深鉢	略完	口唇：LRヨコ→沈線(2条) 口：LRヨコ→ 沈線 頸：LR→隆帯+沈線 胴：LRタテ 底外：N 内：N 胎土：金雲母 *器面摩 滅	8a新	125	53
88	37土	W埋土上位	深鉢	把手	「の」字状隆帯	8a新?	125	53
89	39土	W埋土	深鉢	口	口唇：無文(N) 地文：RLタテ 内：N	中期	125	53
90	44土	E埋土	深鉢	胴	RLRタテ→沈線→磨消 内：N	9新	125	53
91	46土	埋土上位	深鉢	口胴	結節回転文(Lタテ) 口唇：N (無文帯) 内：N	中期後～ 末葉?	125	53
92	50土	P2 (埋土上位)	鉢	口底	LRタテ→沈線→磨消 底外：網代痕→N 内：N	9新	126	54
93	50土	P1 (埋土上位)	深鉢	口	LRタテ→隆帯+沈線→刺突文(円形) 内：N	9新	126	54
94a	50土	P1 (埋土上位)・ 埋土上位・ 78土埋土	深鉢	口底 上	RL結タテ 内：N *器面摩滅	中期末葉	126	54
94b	50土	P1 (埋土上位)・ 78土埋土	深鉢	底	底外：網代痕 内：N	中期末葉	126	54

第10表 土器観察表 (縄文時代4)

掲載No.	遺構名	出土地点・層位	器種	部位	文 様 等	時期・型式	図版	写真 図版
95	51土	埋土	深鉢	胴	LRタテ→沈線→磨消 内：N 胎土：金雲母	9新	126	54
96	51土	埋土・埋土上位	深鉢	胴底	LRタテ 底外：無文(M) 内：N・H	中期	126	54
97	53土	N埋土上位	深鉢	胴	LRタテ、隆帯+沈線(逆U字状?)→円形刺突文 内：N 胎土：金雲母	9新	126	54
98	54土	N埋土上位	深鉢	口	山形突起? RLタテ・LRタテ→沈線→磨消 内：N	9新	127	54
99	56土	埋土下位	深鉢	口胴	LRタテ 内：N・M 胎土：金雲母	中期後～末葉	127	54
100	56土	埋土上位	深鉢	胴	沈線→LRタテ 内：N	10古	127	54
101	58土	E埋土・埋土中～下位	深鉢	胴底	無文(K・N) 底外：N 内：N *表面剥落	中期	127	54
102	67土	埋土下位	深鉢	口胴	口唇：無文(N) 地文：LRタテ 内：N・H	中期	127	54
103	78土	埋土上位・埋土	鉢	口胴	口唇：沈線 RL→沈線(区画) 内：N	10古	127	54
104	80土	P1(埋土上位)・埋土上位	深鉢	口底	口唇：沈線 LRタテ→沈線(太)→磨消 底外：N 内：N	10中	127	54
105	80土	埋土上位	深鉢	口底上	口唇：刺突列(2段)、沈線 LR→沈線→磨消 内：M 胎土：金雲母	10中	127	54
106	81土	埋土	深鉢	胴底	LRタテ 底外：無文(N) 内：N 胎土：金雲母	中期	127	54
107	83土	埋土上位	深鉢	口	LRタテ→沈線→磨消 口唇内面鱗状突起 内：N 胎土：金雲母	10新	127	54
108	84土	埋土下位	深鉢	胴	L→沈線→磨消 内：N 胎土：金雲母	9新	127	54
109	84土	埋土下位・埋土上位	深鉢	口胴	RL→沈線→磨消 内：N	10中	128	55
110	84土	埋土下位	深鉢	胴	RLタテ→隆線 内：M	中期	128	55
111	90土	埋土上位	深鉢	口	LR・沈線→N 内：N 胎土：金雲母	10古	128	55
112	90土	埋土上位	深鉢	胴	LRタテ→沈線→磨消 内：N 胎土：金雲母	9新	128	55
113	90土	埋土上位	深鉢	口	結節回転文(RLRタテ) 内：N 胎土：金雲母	中期	128	55
114	91土	埋土上位	深鉢	胴	太沈線(浅)→LR 内：N *115と同一個体	10古	128	55
115	91土	埋土上位	深鉢	底	LRタテ 底外：網代痕? 内：N *114と同一個体	10古	128	55
116	94土	W埋土・E埋土上位	深鉢	口	RLタテ→沈線 内：N・M 胎土：金雲母	10中	128	55
117	95土	W13層	深鉢	口胴	口唇：折り返し、沈線+刺突列、口唇下：沈線 地文：RLタテ 内：N	中期後～末葉	129	55
118	95土	W埋土中位・E埋土上～中位	深鉢	胴	RLタテ 内：N	中期後～末葉	129	55
119	95土	E埋土上～中位	深鉢	胴	隆帯+沈線(逆U字状?)→円形刺突文 内：N 胎土：金雲母	9新	129	55
120	95土	W埋土中位	不明	不明	M 内：M *環状把手の一部か、赤色付着物	中期	129	55
121	96土	B14層	深鉢	口	RL→隆帯、M 内：K・M	10古	129	55
122	96土	N埋土上位	深鉢	胴	LRタテ→沈線→磨消 内：N 胎土：金雲母	9新	129	55
123	97土	埋土上位・埋土	深鉢	口	RLR?タテ→沈線→磨消、円形刺突文 内：N・M	10中?	129	55
124	97土	2層・埋土	深鉢	胴底	RLタテ 底外：網代痕 内：N	中期	129	55
125	98土	E埋土下位	深鉢	口	RLR→太沈線(区画) 内：N	10古	129	55
126	98土	E埋土下位	深鉢	口	RLR→沈線(区画) 内：N *127と同一個体か	10古	129	56
127	98土	E埋土下位	深鉢	胴	RLR→太沈線(区画) 内：N *126と同一個体か	10古	129	56
128	99土	1層	深鉢	胴	LRタテ→沈線→磨消→鱗状突起 内：N 胎土：金雲母	10新	130	56

第10表 土器観察表（縄文時代5）

掲載No.	遺構名	出土地点・層位	器種	部位	文 様 等	時期・型式	図版	写真 図版
129	100土	5層・埋土	深鉢	口胴	折り返し口縁(無文帯) 結節回転文(LRタテ) 内:N 胎土:金雲母	中期後～末葉	130	56
130	100土	1層・2区中央Ⅲ層	深鉢	口	太沈線(浅) 内:N 胎土:金雲母	10古	130	56
131	101土	W埋土上位	深鉢	胴	RLタテ→沈線→磨消 内:H 胎土:金雲母	10中	130	56
132	101土	W埋土上位	深鉢	胴	RLRタテ→縦位の2本一組の隆帯+沈線 内:N 胎土:金雲母	8b新～9古	130	56
133	109土	W埋土下位	深鉢	口胴	RLタテ 内:N *内面コゲ付着	中期	130	56
134	114土	埋土上位	深鉢	底	RLタテ 底外:網代痕→N 内:N *器面摩滅	中期	130	56
135	140土	埋土	深鉢	胴	RLタテ→隆帯+沈線・2本一組の隆帯+沈線 内:M	8b新～9古	130	56
136	151土	埋土	深鉢	胴	区画:平行沈線+貝殻腹縁文 沈線、貝殻腹縁文 内:N 胎土:金雲母	物見台	130	56
137	1埋		深鉢	略完	LRタテ 底外:網代痕→N 内:N	中期末葉	130	56
141	6区	IV D Ⅱ層	深鉢	口	枕木状沈線文(三角形状) 内:N	物見台	131	56
142	6区	V E NW Ⅳ層・Ⅱ層	深鉢	胴	口:枕木状沈線文、波状沈線、貝殻腹縁文、刺突文 頸:枕木状沈線文→刺突文 内:N	物見台	131	56
143	1区	MT301 Ⅱb層	深鉢	口	波状口縁 隆帯+刻み→沈線 内:N	7a新	131	56
144	22堅	埋土上位	深鉢	口	波状口縁(折り返し) 口:波状沈線 頸:隆帯(刻目) 内:N・M 胎土:金雲母 *異時代遺物	7a	131	56
145	214土	W埋土上位	深鉢	胴	RLR→隆帯+沈線 内:N 胎土:金雲母 *異時代遺物	8a新?	131	56
146	3区	V H 58 Ⅱ層下	深鉢	口	口唇:RLタテ→沈線(3条一組) 口:RLタテ→沈線(3条一組) 内:N・M 胎土:金雲母	8b古	131	56
147	2区	IV I SE Ⅱ層	深鉢	口底上	RLR→隆帯+沈線 内:N・M 胎土:金雲母	8b新	131	56
148	25堅	Pit3 埋土	深鉢	胴	LRタテ、平行沈線(タテ) 内:N *異時代遺物	9新	131	57
149	3区	MT101 Ⅳ層	深鉢	口	LR→沈線(区画) 内:HN	10古	131	57
150	1区	IV I NE Ⅱ～Ⅲ層	深鉢	口	波状口縁 LR→沈線→磨消 内:N	10古	131	57
151	1区	IV J SE Ⅱ層	深鉢	口底	LRタテ 底外:網代痕 内:N	中期末葉	131	57
152	6区	IV D Ⅱ層・Ⅳ層	深鉢	口底	山形突起(4単位) 地文:単軸絡条体第1類 R?タテ 底外:網代痕 内:N	中期末葉	132	57
153	1区	IV I NE Ⅱ～Ⅲ層	深鉢	口	櫛歯状沈線 内:N	中期後～末葉	132	57
154	1区	IV J SE Ⅱ層	深鉢	口	口唇:LR→隆帯+沈線→刺突→貼付 口:LR→斜行沈線 胴:LR→沈線・隆帯 内:M 胎土:金雲母	7～8?	132	57
155	1区	IV I NE Ⅱ～Ⅲ層	深鉢	胴	単軸絡条体第1類Rタテ→沈線→磨消 内:H	10新?	132	57
156	203土	1層	鉢?	口?	刻み、沈線、LR? 内:N *口唇部装飾?	晩期?	132	57
157	3区	2段目 Ⅱ層	壺?	口	波状口縁 頸部に二条以上の平行沈線 内:N・H	晩期?	132	57

沈線を施文する。隆帯は細く、貼り付け後の調整がほとんど行われぬ。隆帯の特徴は大木8 a 式新段階の土器に類似する。155は胴部片である。地文施文後沈線により楕円形基調の区画をし、その内部を磨り消している。地文や施文手法から大木10式新段階の土器の可能性が高い。156は浅鉢等の口縁部の花弁状突起である。内面は無文で、外面に節の細かい縄文と沈線が施文されている。縄文時代晩期の可能性が高い。157は壺形土器と考えられる土器の口縁部片である。頸部に少なくとも2条の沈線が施文される。

## 【土製品】(第133図、写真図版57)

縄文時代の土製品は13号竪穴建物跡から出土したミニチュア土器1点と17号竪穴建物跡、2区中央から出土した円盤状土製品2点である。161は完形のミニチュア土器である。縄文が施文されているのは確認できるが、器面が摩滅しているため、無節か単節か、施文方向の判断ができなかった。162は略完形の円盤状土製品で、平面形は円形である。縁辺は剥離主体で極一部に研磨調整による平滑な面が確認できる。163は完形の円盤状土製品で、平面形は円形である。略全周に研磨調整による平滑な面が確認できる。

第11表 土製品・その他観察表(縄文時代)

掲載No	遺構名	出土地点・層位	器種	文様等	残存	時期	図版	写真図版
161	13竪	NW埋土下位	ミニチュア	縄文	完形	中期	133	57
162	17竪	B3・4層	円盤状土製品	LR	略完形	中期	133	57
163	2区	中央 II層	円盤状土製品	RL	完形	中期	133	57
311	10竪	NW埋土上位	不明		不明	中期	133	57

## 【石器】(第134～149図、写真図版57～62)

## 石鏃(171～186)

3・10・15・17・22号竪穴建物跡、38・128・212号土坑、2・3区から出土した。171～175はI類、176～179はII類、180～184はIII類、185はIV類、186はV類の石鏃である。171は本遺跡では大形のもので、側辺は全体的に丸みをおびている。172は素材剥片の鋭角な縁辺を基部として利用しており、シャープで直線的な基部となっている。173は小形のものである。基部周辺に素材剥片の剥離面を広く残置しており、裏面端部に微細な調整を施すのみである。174は細粒花崗閃緑岩製の石鏃で、先端部と片脚を欠損している。表面の左半分は素材剥片の剥離面が残置している。175の基部の調整が粗雑であり、未製品の可能性が高い。176は平面形が正三角形に近い形状を呈するものである。調整は縁辺部中心に行われ、両面に素材剥片の剥離面を残置している。177は裏面中央付近に素材剥片の剥離面を残置している。先端部は両側面からの調整で断面形が菱形を呈する。178は完形のもので、側辺中央付近に屈曲部を持ち、平面形が五角形状を呈する。両面中央付近に素材剥離面を残置し、調整の剥離面は全体的に大きく、やや粗雑な印象を受ける。179は先端部を欠損している。両面中央付近に素材剥片の剥離面が残置しているが、入念な調整が施されている。180・181は平面形が正三角形に近い小形のものである。182・183は2点とも片脚を欠損している。両面との丁寧な調整が施されている。184は細身のもので、側辺は弧状を呈する。先端部の稜は摩耗して丸みをおびている。185は基部を欠損している。両面とも入念な調整が施されている。

## スクレイパー類(187～196)

3～5・10・12号竪穴建物跡、61・109号土坑、2区から出土した。187～189はI類、190～194はII類、195はIII類、196はIV類のスクレイパーである。187は小形のもので、両面とも粗面調整が行われ、裏面は平坦に調整している。主に、表面の右側縁に細かな調整が施されている。188は不定形の剥片を素材とし、表面左側縁上部に連続的な調整が施されている。その縁辺の稜は摩耗しており、使用に伴うと考えられる微細な剥離痕が観察される。裏面には素材剥片のバルブを除去する調整とともに、刃潰し状の調整が施されている。189は横長剥片を素材とし、素材剥片端部主要剥離面側に調整を施して刃部を作出している。刃部の稜は部分的に摩耗しており、微細剥離痕も観察される。190の刃部には使用に伴うと考えられる微細な剥離痕が両面に観察される。基部側の両側面は入念な



調整が施されている。191は横長剥片を素材とし、素材剥片端部背面側に急斜度調整を施して刃部を作出している。主要剥離面側にも調整が施される。表面右側縁には微細な剥離痕が観察される。192は矩形剥片を素材とし、素材剥片端部主要剥離面側に調整を施して刃部を作出している。193は矩形基調の剥片を素材とし、素材剥片端部背面側に調整を施して刃部を作出している。194は縦長剥片を素材とし、素材剥片端部を切断するような急斜度な調整を施して刃部を作出している。195は素材剥片端部に両面からの調整で鋭角な刃部を、左側面背面側に急斜度な刃部を作出している。左側縁に刃部には使用に伴うと考えられる微細な剥離痕が観察される。196は刃部には刃部と直交する線条痕が観察される。

#### 抉入石器 (197)

1区から出土した。台形状の剥片を素材とし、両側縁の中央付近に抉入部を作出している。

#### 錐形石器 (198～204)

5号竪穴建物跡、95・128号土坑、1～3区から出土した。198・199はI類、200はII類、201～204はIII類の錐形石器である。198・199は錐部を欠損している。2点とも摘まみ部に素材剥片の剥離面を残置しているが、縁辺部は弧状になるように細部調整が施されている。刃部は両面からの調整で、断面形が198は三角形を、199は菱形を呈する。200の縁辺のほぼ全周に調整が施される。尖端部は摩耗により丸みを帯びている。202は錐部中心に調整が施されている。尖端部の稜は摩耗しており、一部光沢も観察できる。203は両面とも中央付近に素材剥片の剥離面を残置するが、全周に調整が施されている。錐部は両面調整で菱形を呈し、尖端部の稜は摩耗により丸みを帯びる。石鏃に類似するが、尖端部の幅と厚さがほぼ等しく、尖端部の摩耗も観察できることから錐形石器と判断した。204は不定形の剥片の一端に断面形が方形状の錐部を作出している。

#### 石匙 (205)

10号竪穴建物跡から出土した。縦形の石匙で、摘まみ部を欠損している。両面とも縁辺部を中心に調整が施されている。

#### 楔形石器 (206～209)

2・3・12・17号竪穴建物跡、101・128号土坑、1区から出土した。206・209は小形の楔形石器である。相対する縁辺に特徴的な微細剥離痕が観察される。207は横長の楔形石器である。208は縦長剥片の下半部を切断して素材剥片としている。

#### 二次加工のある剥片 (210～221)

7・10・17号竪穴建物跡、46・95・120・128・203・213号土坑、2・3区から出土したものを掲載した。210は縦長剥片を素材とし、両側縁上部の相対する部分に抉入状の調整が施されている。裏面端部にも調整が施されている。縦形の石匙に類する調整を行っているが、刃部となるべき部分の調整が石匙と異なるため、本分類に含めた。211は相対する縁辺に凹状の調整を行い、一見石匙の摘まみ部状を呈している。調整が施されない縁辺には刃こぼれ状の微細な剥離痕が観察される。212は横長剥片を素材とし、素材剥片打面付近の背面側に調整が施されている。調整が施される縁辺と相対する縁辺の稜は摩耗しており、使用に伴うと考えられる微細な剥離痕が観察される。213は表面左側縁下部に連続的な調整が施され、使用に伴う可能性が高い微細な剥離痕も観察される。また、表面右側縁上部にも微細な剥離痕が観察される。214は素材剥片端部を切断し、切断面から素材剥片の主要剥離面側へ部分的な調整を施している。右側縁には断続的な微細剥離痕が観察される。215は切断した剥片の切断面と素材剥片の主要剥離面の接する稜に調整を施している。断面形が三角形状を呈し、錐形石器に類似する。216は平面形が台形を呈するもので、裏面中央付近に素材剥片の剥離面が残置する

が、全周に調整が施されており、完成形と判断した。石鏃に類似するが、先端部に相当する部分が直線的に調整されていることが異なる点である。217は縦長剥片を素材とし、両面に調整が施され、断面形が凸レンズ状を呈している。下半部を欠損している。218は残存する側縁に細かな調整が施されているが、一部しか残存していないため、詳細は不明である。219は横長剥片を素材とする。右側縁上部に刃潰し状の細かな調整が施され、素材剥片端部のほぼ全縁に微細な剥離痕が観察される。220は黒曜石製のもので、縦長剥片を素材とする。素材剥片下端に摘み状の調整が施され、表面左側縁には細かな調整と伴に微細な剥離痕が観察される。221は矩形状の剥片を素材とし、裏面の縁辺部と表面に求心的な調整が施されている。

#### 剥片(222・223)

5号竪穴建物跡、129号土坑他から出土した。222・223は長野県の蓼科系産黒曜石製(第Ⅵ章参照)の剥片である。石材に注目して報告した。

#### 石核(224)

14・79号土坑から出土した。224は角錐状を呈する石核である。打面及び作業面をほぼ固定して、不定形の剥片を剥離している。

#### 磨製石斧(225～231)

13・17・22号竪穴建物跡、24・49・99・132・203号土坑から出土した。225・226は典型的な定角式磨製石斧である。225は蛇紋岩製の小形のもので、平面形は第形状を呈する。226は蛇紋岩製の細身のものである。両面とも黒色付着物が観察される。227～230は定角式磨製石斧の範疇に収まるものであるが、227～229は頭部の稜が不明瞭であり、230は断面形が楕円形に近い形状となっている。227は斑糲岩製の磨製石斧である。側面観が非対称であり、刃部は片刃状を呈する。228・229はデイサイト製の磨製石斧である。228は刃部を欠損し、229は基部のみ残存する。230は斑糲岩製の磨製石斧である。断面形が楕円形状を呈する大形のもので、刃部を欠損している。231は基部のみの断片的なものである。

#### 磨石(232～273)

1・2・4・6～11・17・23・24号竪穴建物跡、1・2号炉跡、9・37・42・50・54・55・61・67・71・80・84・94・97・109・203・212・213・220号土坑、3区から出土した。232～258はⅠ類、259～263はⅡ類、264～267はⅢ類、268～272はⅣ類、273はⅤ類の磨石である。232～235・237は楕円形、238・239は長楕円形、240は円形、241は角棒状の礫を利用したもので、使用面は表面に認められる。236は楕円形の礫を利用したもので、使用面は表裏面に部分的に認められる。242～249は楕円形、250・251は円形の礫を利用したもので、使用面は表裏面に認められる。249は表面全面が平滑になっている。252・253は楕円形の礫を利用したもので、252・253は表裏両側面の4面の使用面が認められる。254～258は楕円形の礫を利用したもので、表裏の広範囲を使用面としている。259は楕円形の礫を利用したもので、表面に使用面、下面に敲打に伴う潰れが観察される。260～262は楕円形の礫を利用したもので、表裏面に使用面、下面に敲打に伴う剥離面や潰れが認められる。263は楕円形の礫を利用したもので、表裏面両側面上面に使用面、下面に敲打に伴う潰れ、表面に磨面より古い凹部が認められる。264・265は楕円形の礫を利用したもので、264の使用面は表面に、265の使用面は表裏面に認められる。2点とも凹石としても利用されており、表面に凹部が形成されている。266は円形の礫を利用したもので、表裏面に使用面が認められる。凹石にも利用されており、表裏面に凹部が形成されている。267は角棒状の礫を利用したもので、表面に使用面が認められる。凹石にも利用されており、表面に凹部が形成されている。268・269は楕円形の礫を利用したもので、



右側面の他、表裏面にも使用面が認められる。270は丸棒状の礫を利用したもので、幅の狭い両側面の他、表裏に4面の使用面が認められる。271は角状の礫を利用したもので、右側面に使用面とともに、剥離面も認められる。272は不定形の礫を利用したもので、右側面に使用面とともに、剥離面も認められる。凹石としても利用されており、表裏面に各1箇所の凹部が形成されている。273は磨製石斧を転用した磨石である。下端はほぼ平坦になっており、特に中央付近は平滑である。下端との境の縁辺部には剥離痕が観察される。上端は表裏面からの使用により中央に稜が形成されている。

#### 凹石 (274・275)

17号竪穴建物跡、109号土坑から出土した。274は楕円形の礫を利用したもので、表裏面に凹部が形成されている。275はやや幅のある棒状礫を利用したもので、表裏面に凹部が形成されている。また、下端部には敲打による剥離痕が観察される。

#### 敲石 (276)

17号竪穴建物跡の炉底面から出土した。丸棒状の礫を利用した敲石で、下端に使用に伴う剥離面が確認できる。

#### 石皿 (277～294)

3・4・6・7・10・13・16・17号竪穴建物跡、1号炉跡、61・111・203号土坑、35号柱穴、2区から出土した。277～287はⅠ類、288はⅡ類、289～292はⅢ類、293・294Ⅳ類の石皿である。Ⅰ類の石皿は比較的残存状態の良好なものもあるが、Ⅲ・Ⅳ類は残存状態が悪いものが多く、全体形の判断できるものはない。277～279・285～287は厚みのあるブロック状の礫を利用したものである。280は角棒状の礫を利用したもので、中央部分が使用により平滑になっている。281は炉構成する礫2点が接合したものである。Ⅰ類の石皿を炉石に転用したもので、片面の略全面に平滑な使用面が確認できる。282は大形の扁平な礫を利用したもので、使用面は浅く窪んでいる。283は2点が接合したもので、ブロック状の礫を利用している。表面の一部に平滑な使用面が確認できる。288はⅡ類の円形基調の石皿を炉石に転用したものである。Ⅲ類は宮古周辺で採取可能な礫岩や岩手山で採取できる安山岩を利用しており、Ⅰ・Ⅱ類の石皿とは選択される石材に違いが見られる。289は平坦な縁を持ち、使用面は浅く窪んでいる。290・291は断片的な資料である。292は石材からⅢ類の石皿の一部と判断したものである。幅4cm程の低い脚部?作出されている。作業面と考えられる部分の厚さは5mmほどになっている。294の残存するコーナーは直角に近い。

#### 台石 (295・296)

9号竪穴建物跡、103号土坑から出土した。2点とも使用面は表面のみである。

#### 砥石 (297)

17号竪穴建物跡から出土した。表面に幅8mm前後の溝状の使用痕が3条確認できる有溝砥石である。

#### 浮子 (298)

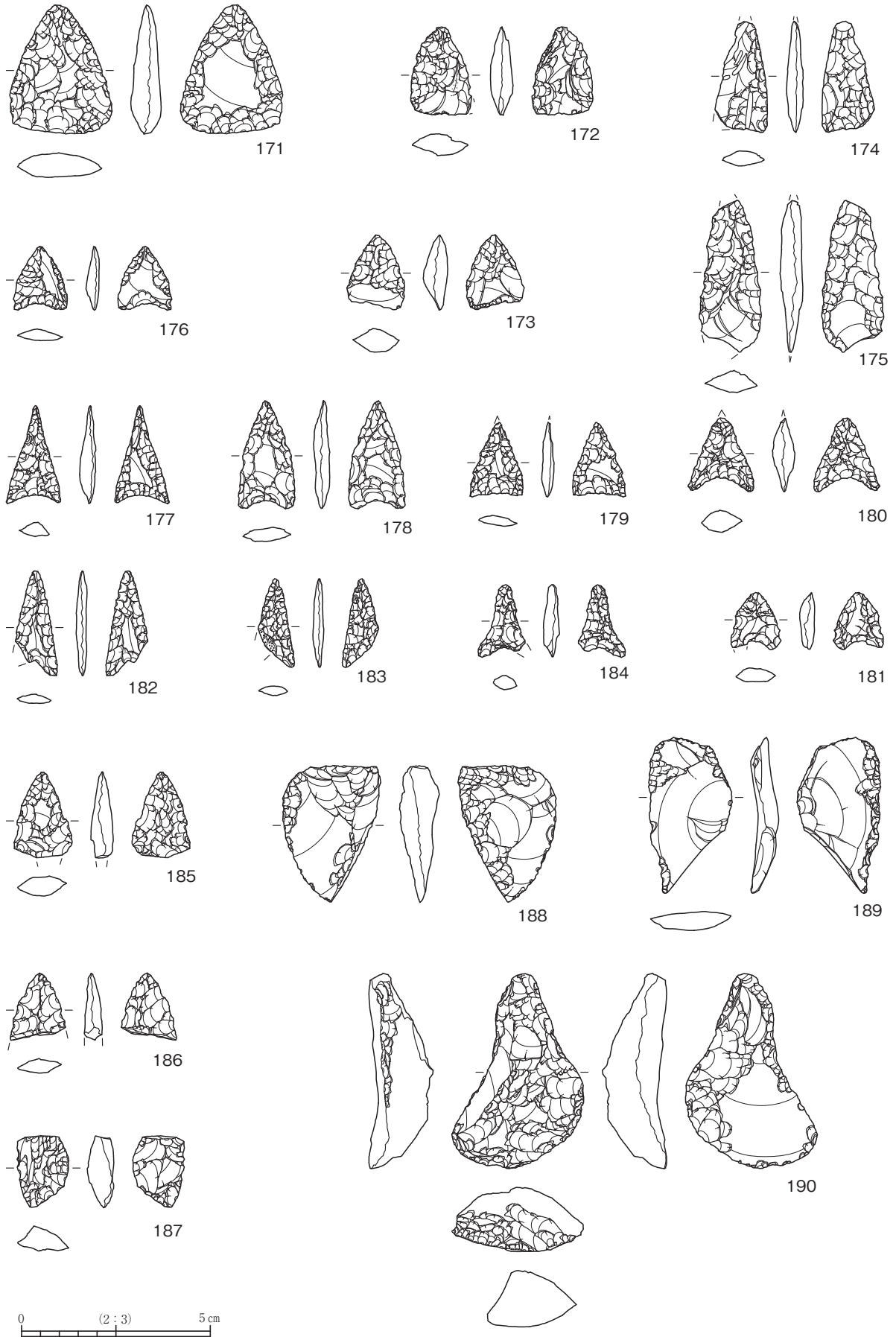
16号竪穴建物跡から出土した。軽石製の浮子で一端に両端からの穿孔による貫通孔が確認できる。裏面は平坦になっている。

#### 有孔石器 (299)

17号竪穴建物跡から出土した。299は頁岩製で、素材礫の単軸方向に貫通する孔を穿っている。線条痕が観察できるものの、素材礫をそのまま利用している。遺跡の立地を考慮すると、漁猟具の石錘としての用途が想定される。

#### 軽石 (300)

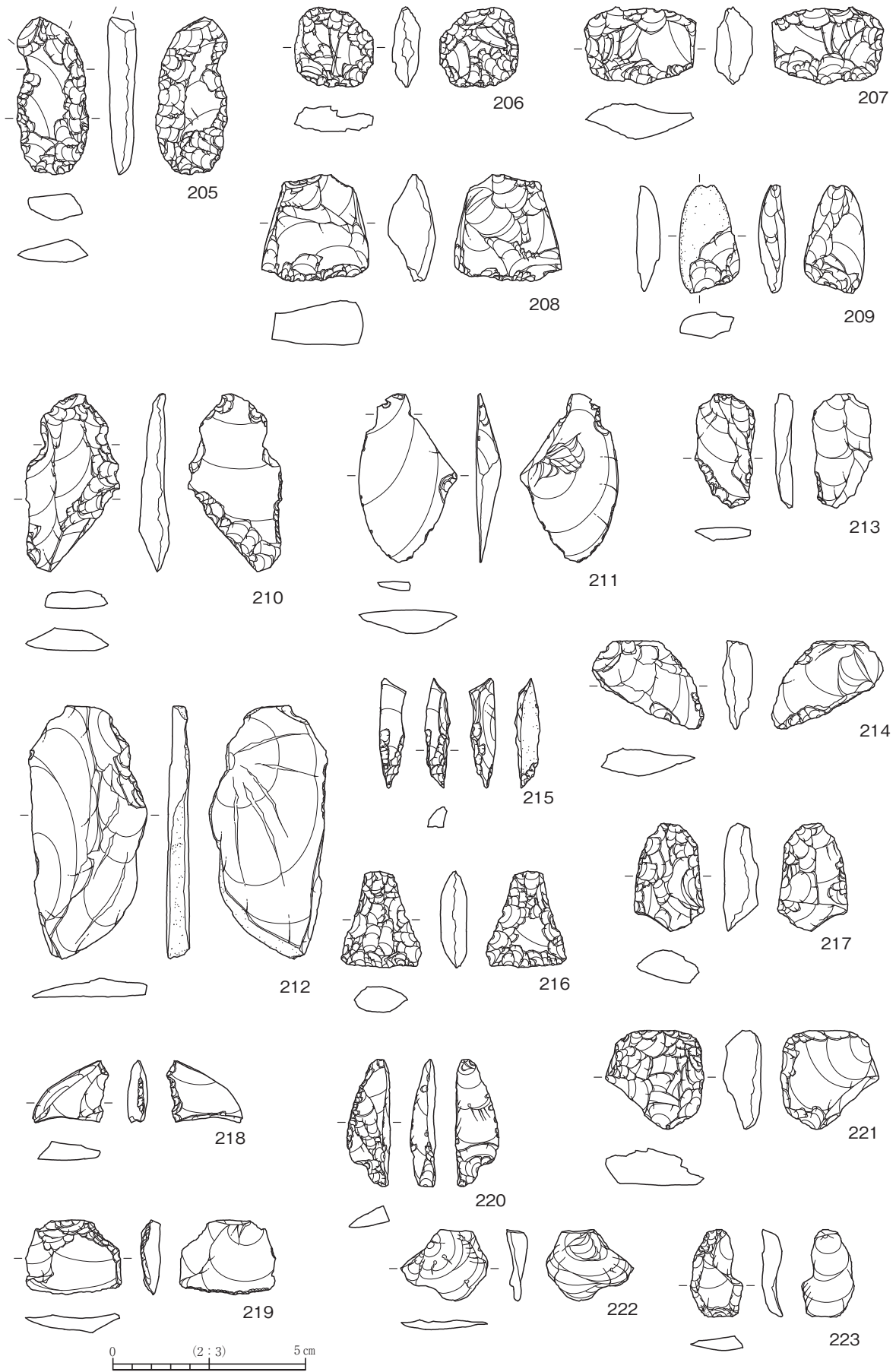
16号竪穴建物跡から出土した。300は十和田火山産の軽石である。298と同じ石材であり、浮子の



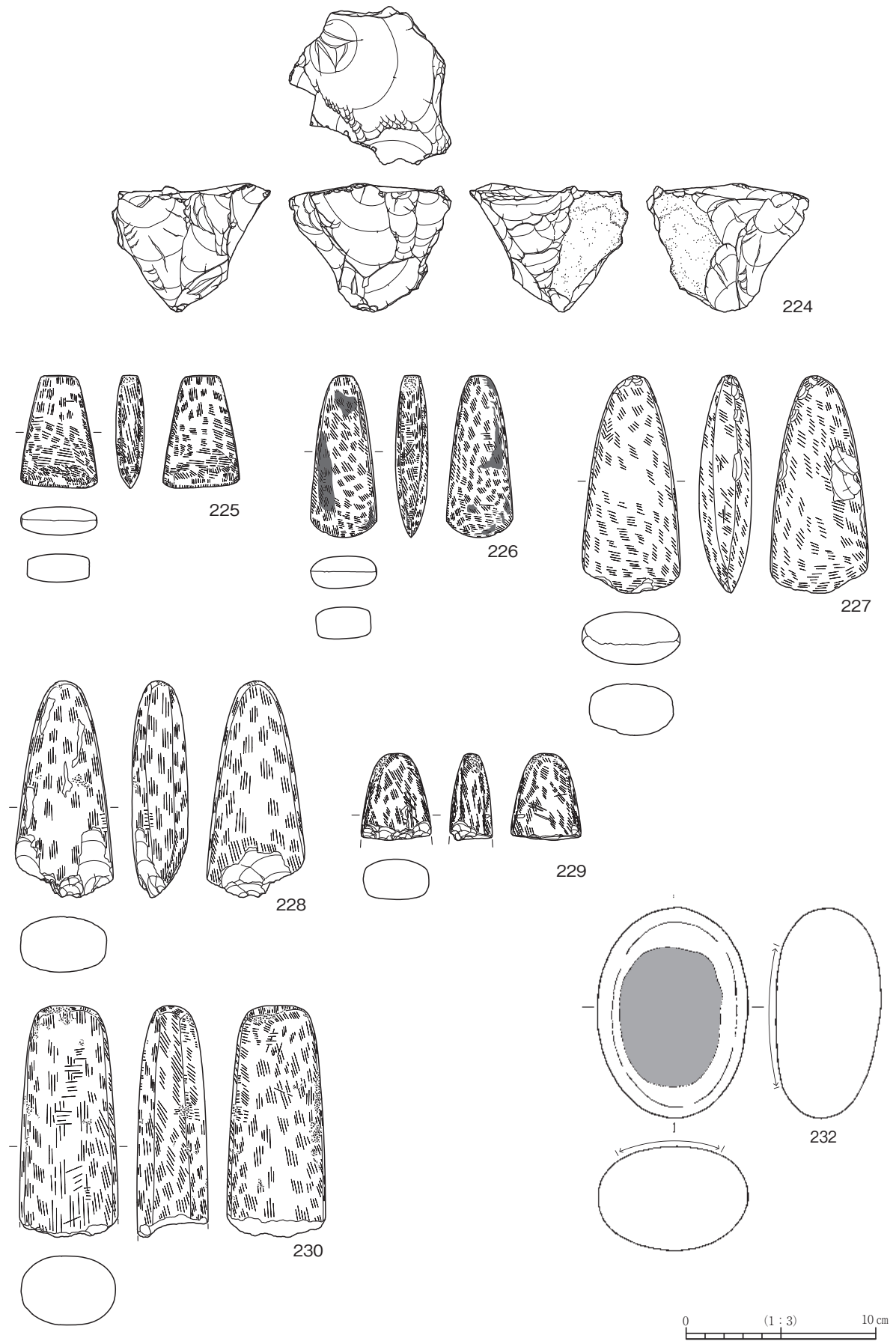
第134図 石器(縄文時代1)



第135図 石器(縄文時代2)

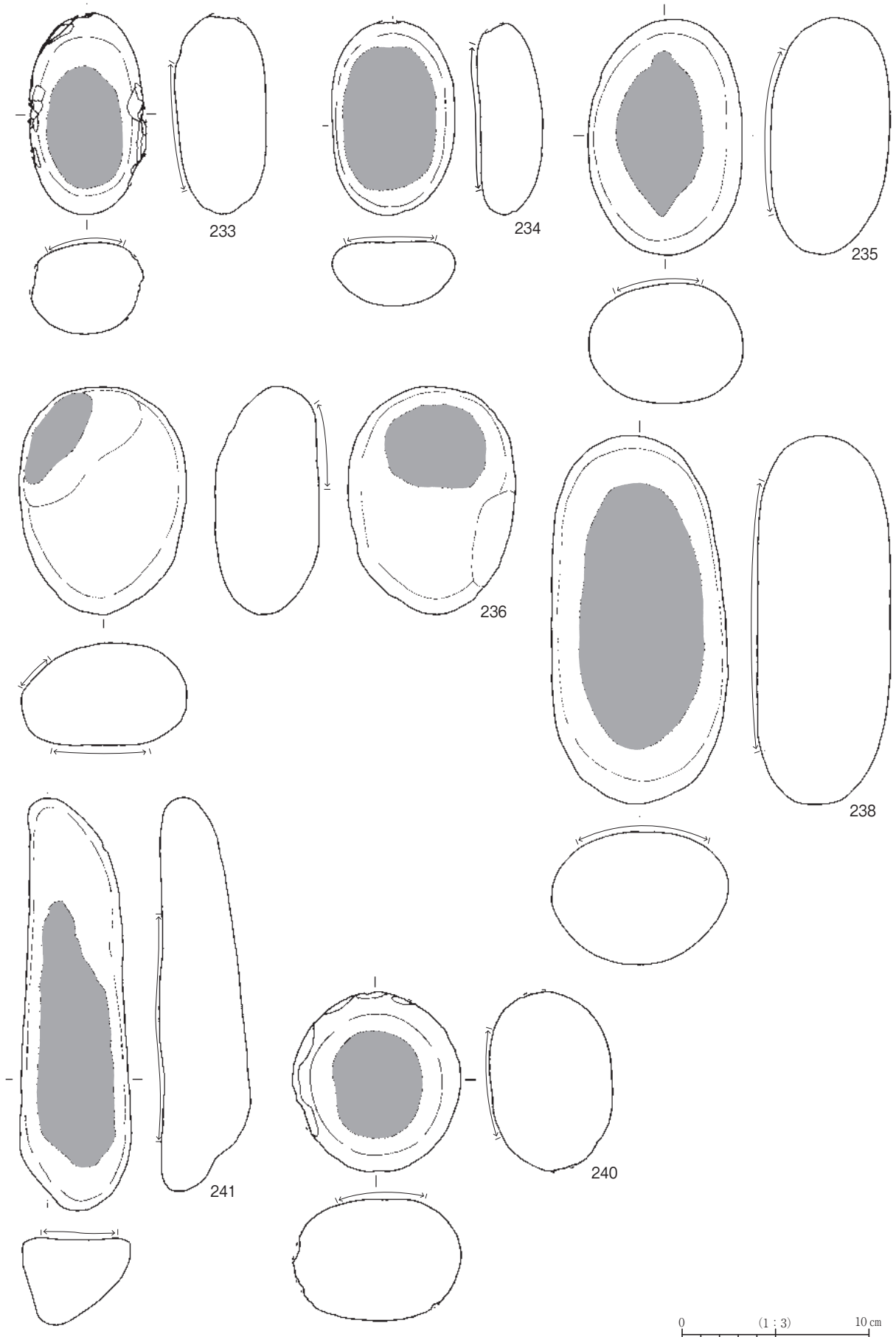


第136図 石器(縄文時代3)



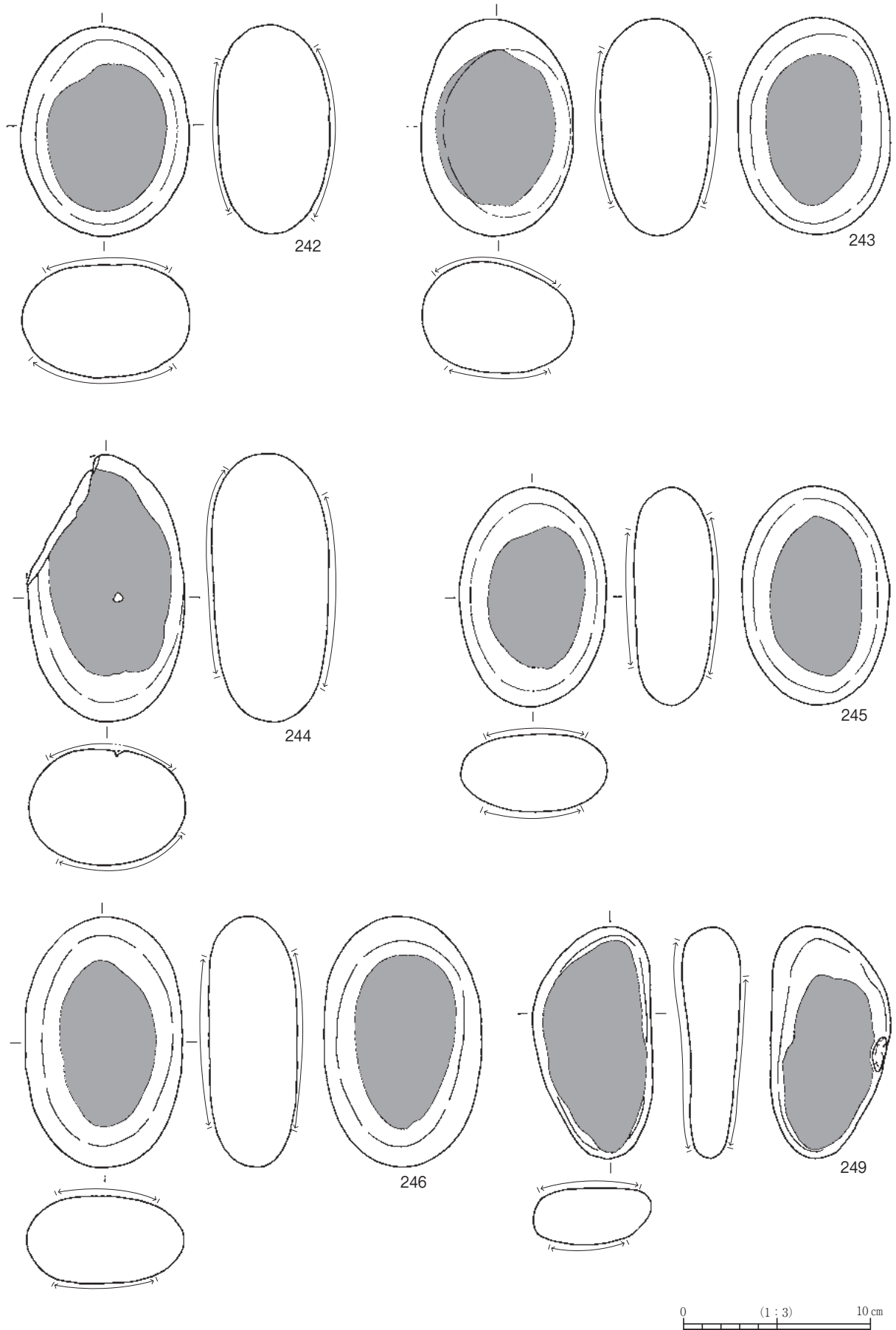
第137図 石器(縄文時代4)



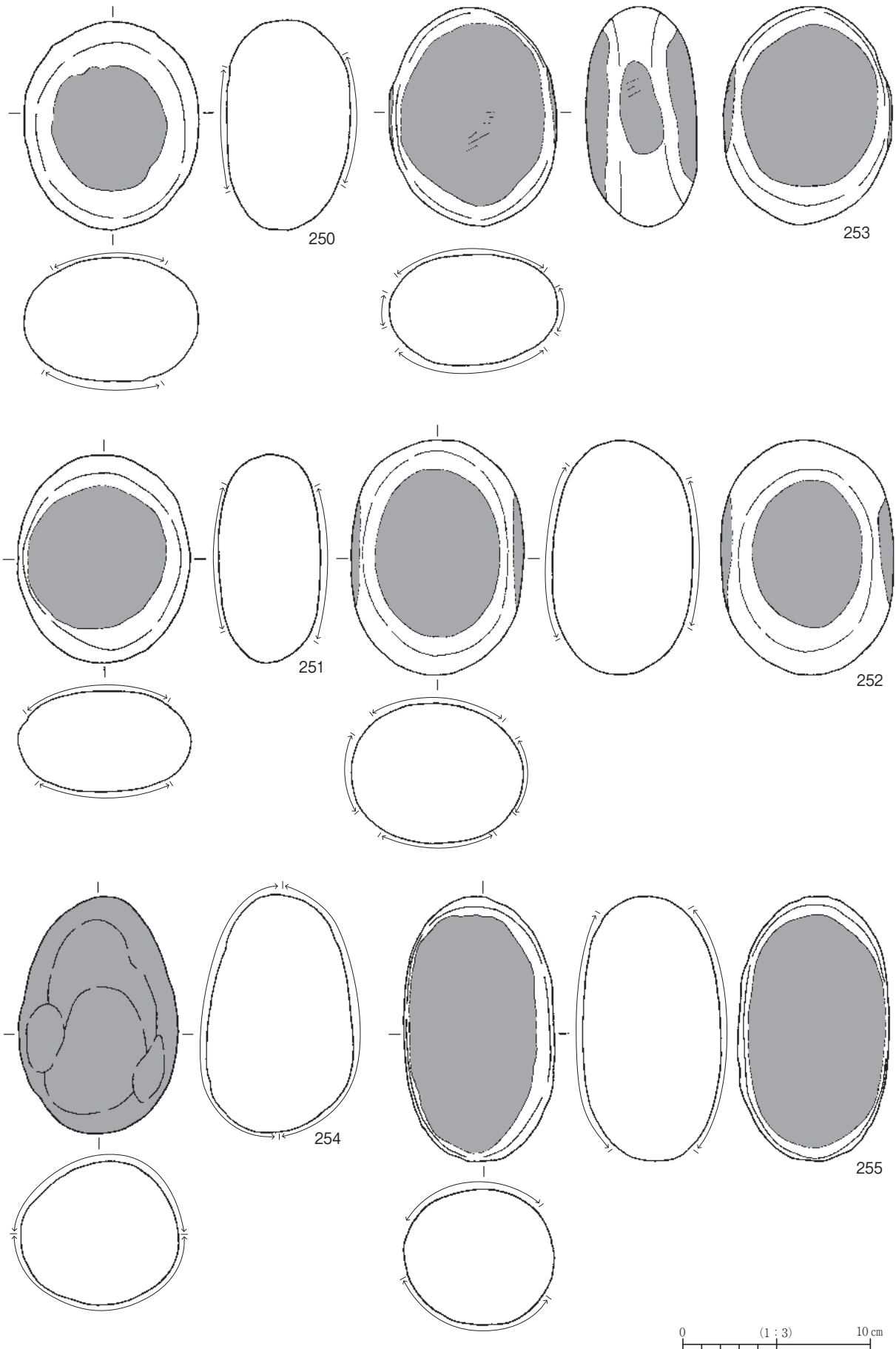


第138図 石器(縄文時代5)

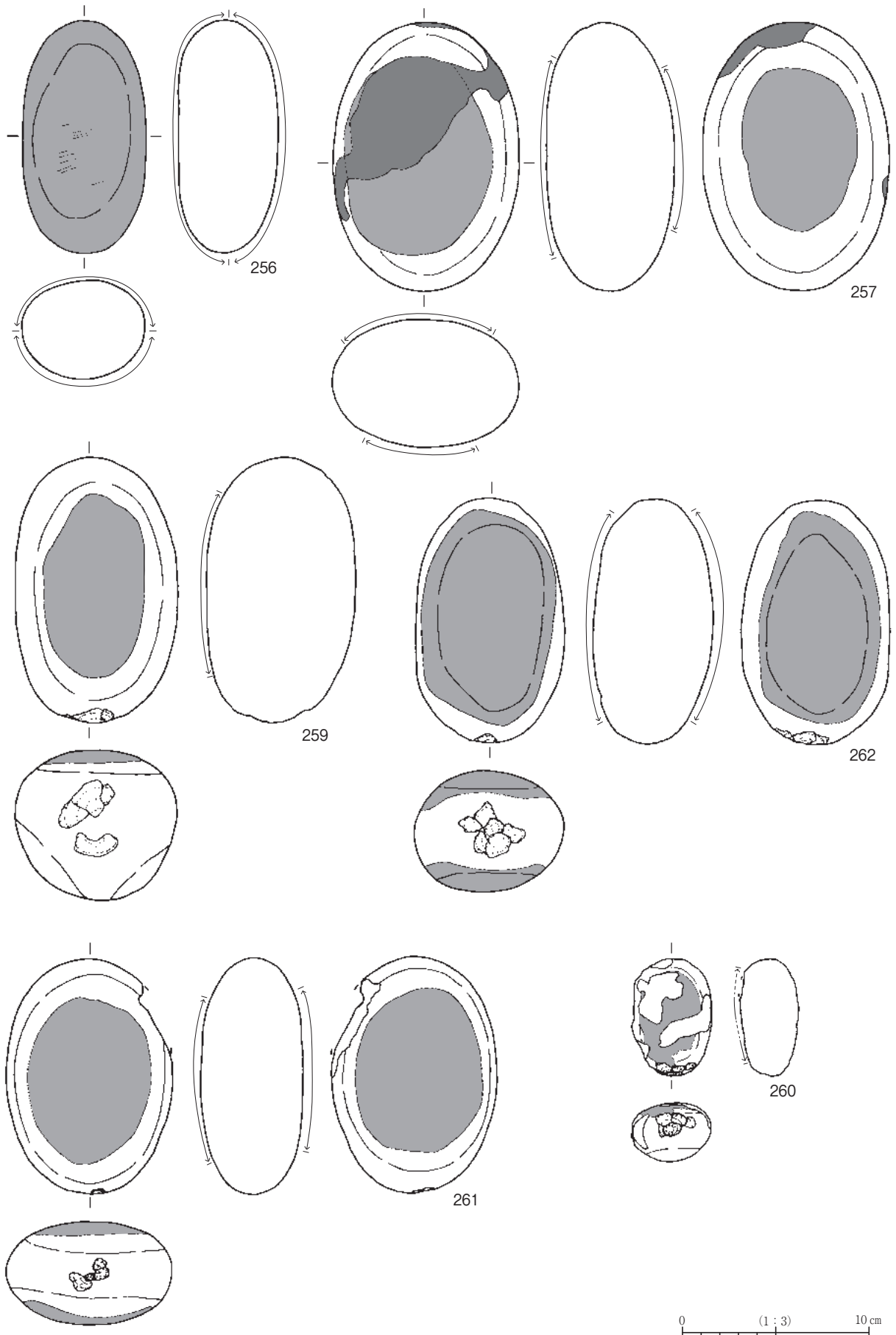




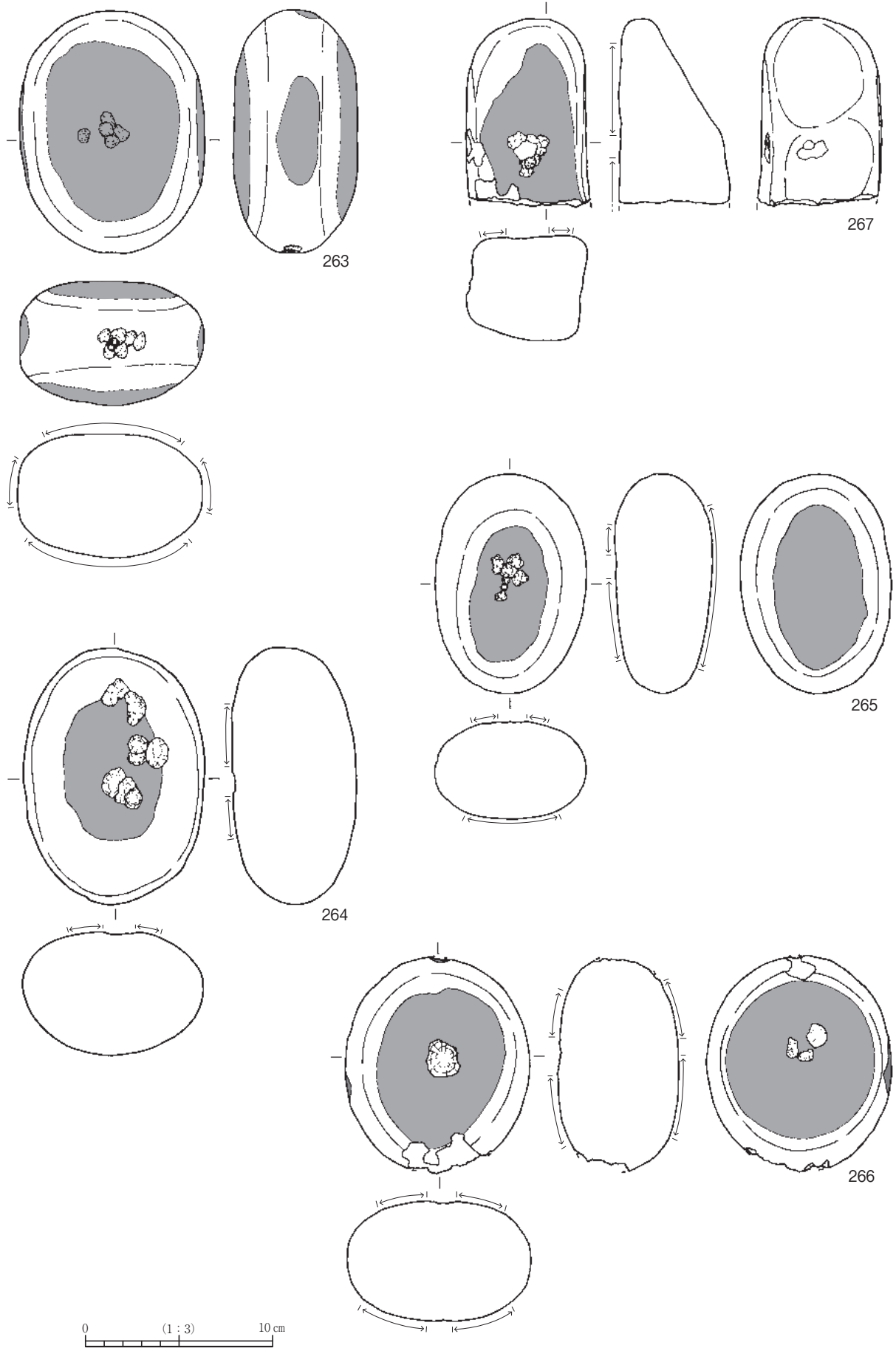
第139図 石器(縄文時代6)



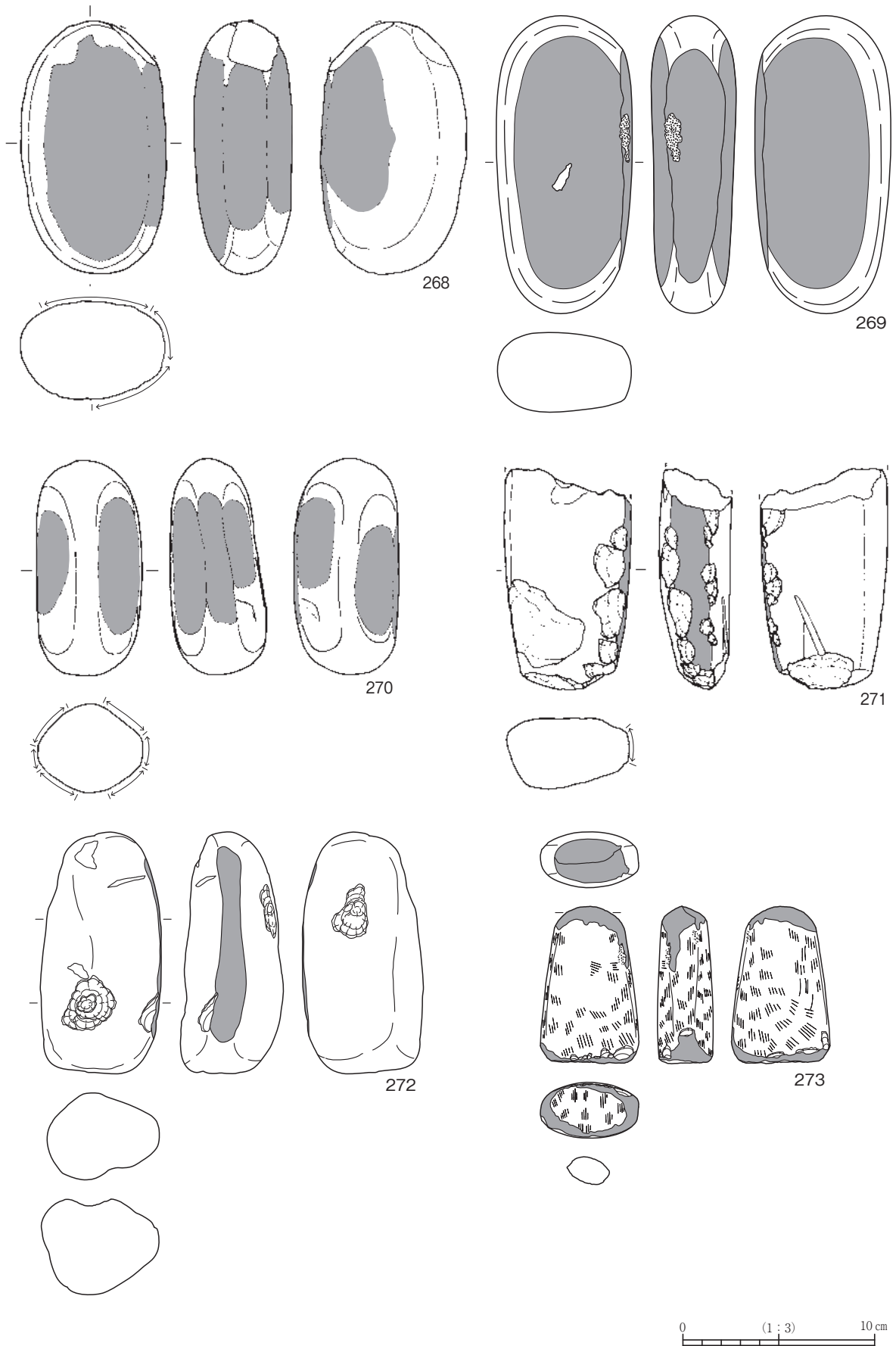
第140図 石器(縄文時代7)



第141図 石器(縄文時代8)



第142図 石器(縄文時代9)

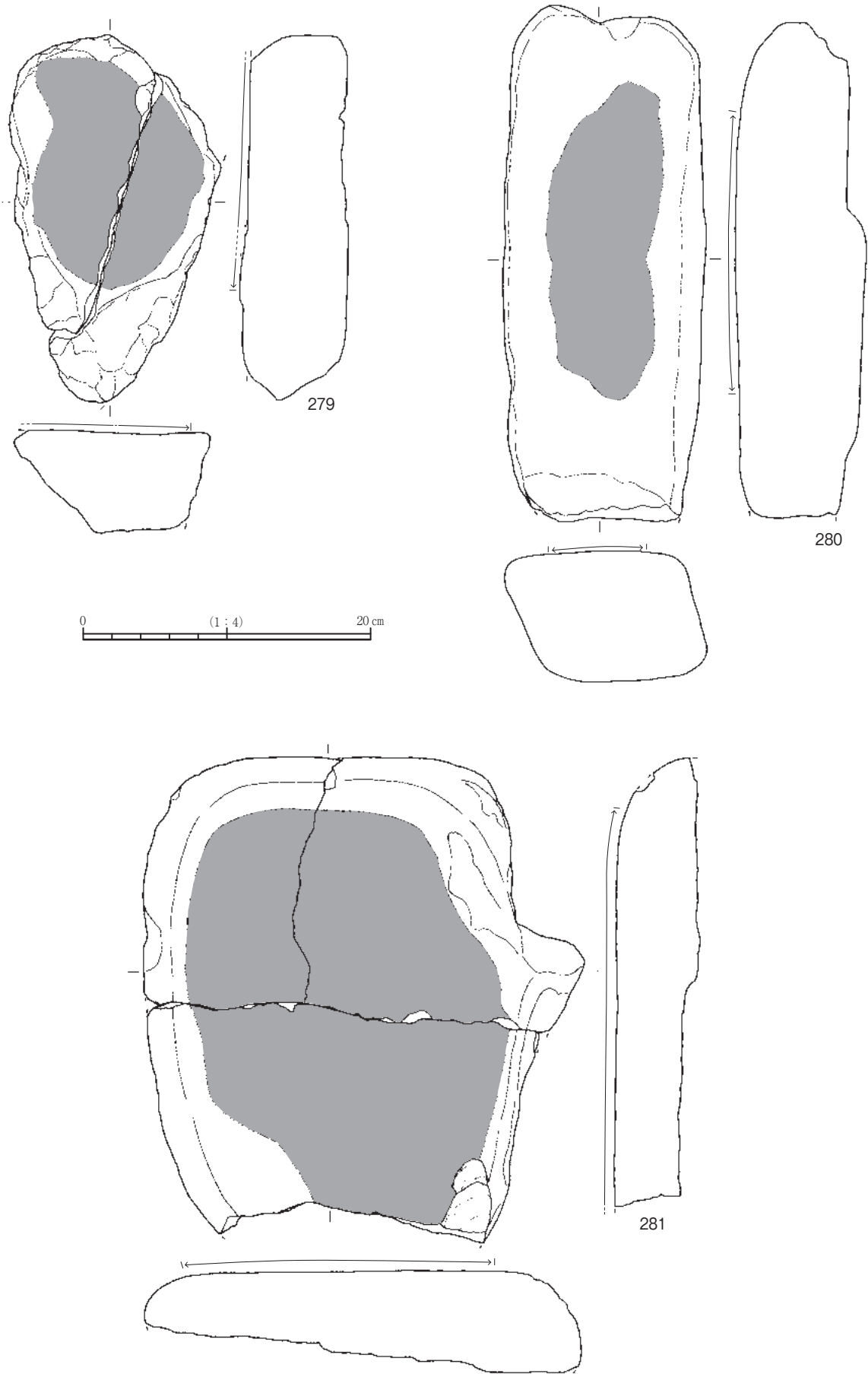


第143図 石器(縄文時代10)

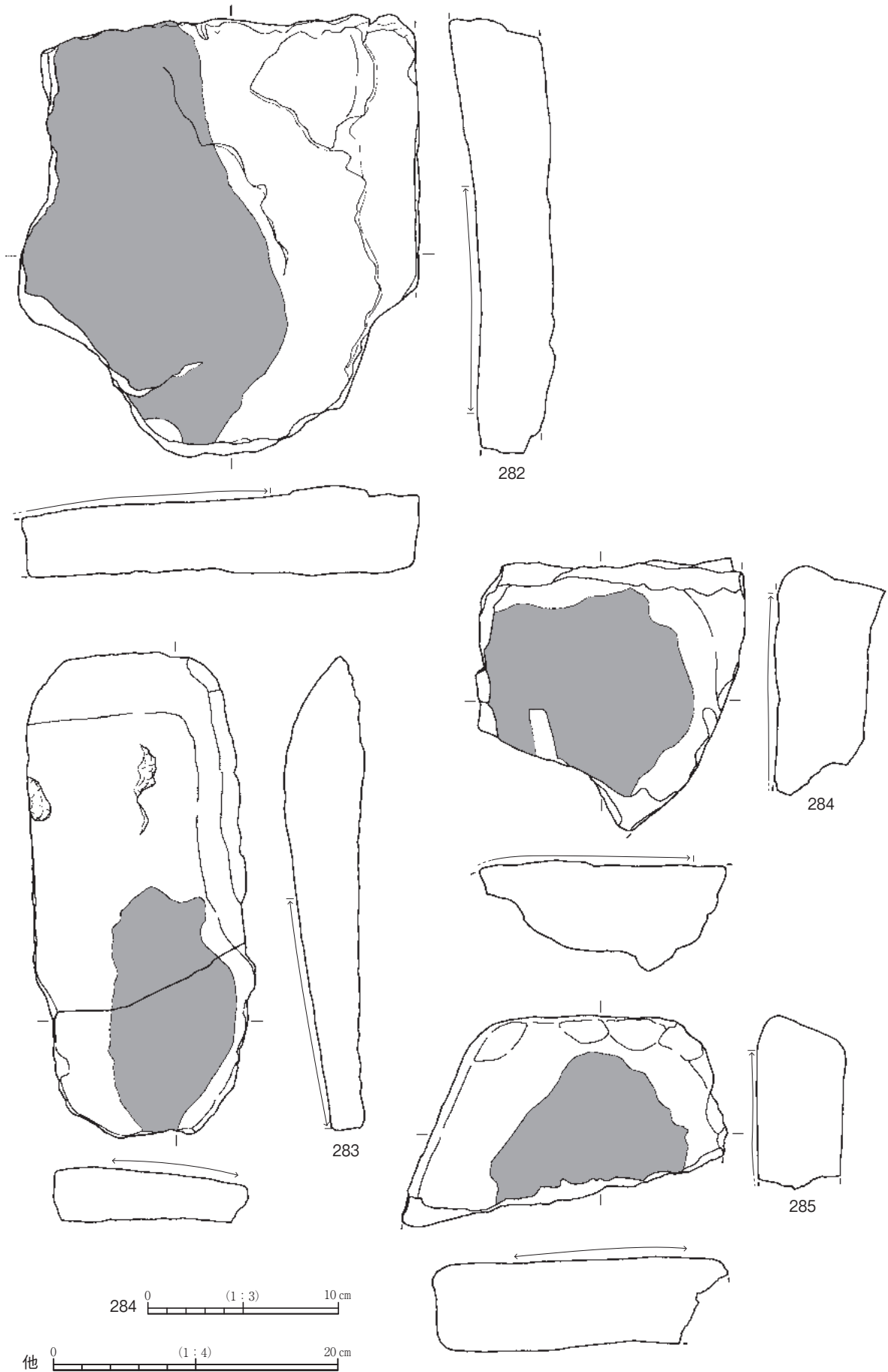


第144図 石器(縄文時代11)





第145図 石器(縄文時代12)



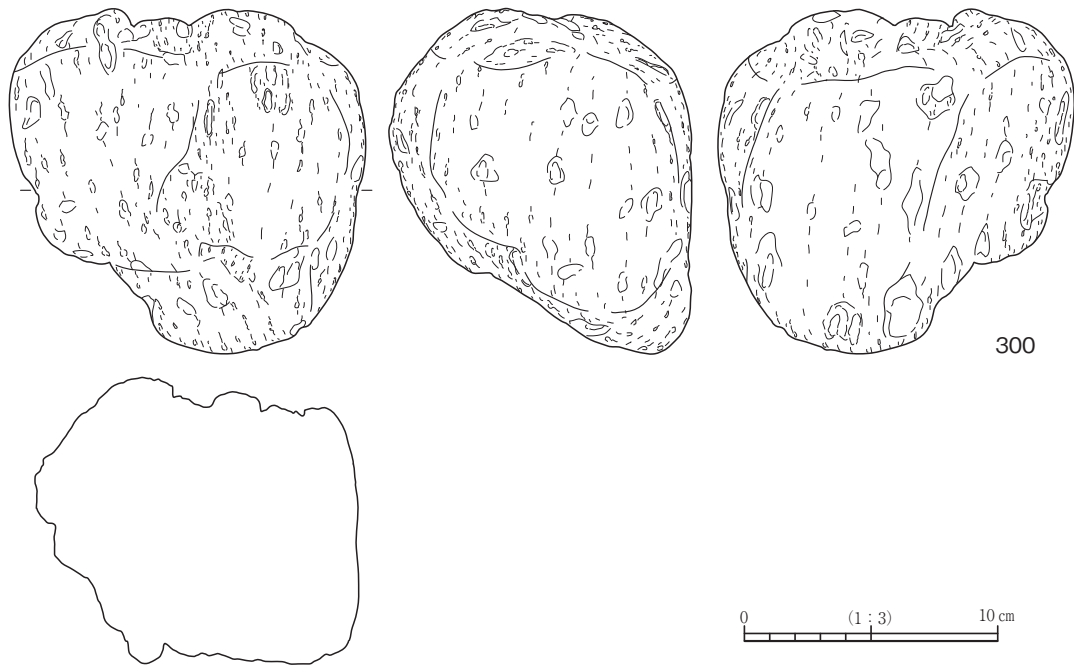
第146図 石器(縄文時代13)



第147図 石器(縄文時代14)



第148図 石器(縄文時代15)



第149図 石器(縄文時代16)

第12表 石器観察表(縄文時代1)

掲載No.	器種	遺構名	出土地点・層位	石材	細分	備考	図版	写真 図版
171	石鏃	17 竪	W 床面	頁岩	I		134	57
172	石鏃	10 竪	NW 埋土	頁岩	I	基部一部欠	134	57
173	石鏃	2 区	中央 III 層	頁岩	I		134	57
174	石鏃	2 区	東側 III 層	細花閃1	I	尖端部・片脚欠	134	57
175	石鏃	212 土	W 埋土上位	頁岩	I	尖端部・基部欠	134	57
176	石鏃	3 区	5 段目 I 層	頁岩	II		134	57
177	石鏃	2 区	東側 I 層	頁岩	II		134	57
178	石鏃	2 区	東側 V 層	頁岩	II		134	57
179	石鏃	38 土	N 埋土	頁岩	II	尖端欠	134	57
180	石鏃	128 土	W 埋土上位	頁岩	III	尖端部欠	134	57
181	石鏃	2 区	東側 IV 層	頁岩	III	小形、片脚欠	134	57
182	石鏃	22 竪	埋土	頁岩	III	片脚欠	134	57
183	石鏃	3 竪	B 埋土	頁岩	III	片脚欠	134	57
184	石鏃	10 竪	SE 埋土	頁岩	III	片脚欠	134	57
185	石鏃	2 区	中央 II 層	頁岩	IV	基部欠	134	57
186	石鏃	15 竪	埋土最上位	頁岩	V	尖端のみ	134	57
187	スクレイパー類	3 竪	SW 床面	頁岩	I		134	57
188	スクレイパー類	61 土	W 埋土	頁岩	I		134	57
189	スクレイパー類	109 土	W 埋土下位	頁岩	I	一部欠	134	57
190	スクレイパー類	2 区	中央 IV 層上面	頁岩	II		134	57
191	スクレイパー類	12 竪	埋土	頁岩	II		135	57
192	スクレイパー類	2 区	攪乱	頁岩	II		135	57
193	スクレイパー類	2 区	中央 IV 層	頁岩	II	台形石器状	135	57
194	スクレイパー類	4 竪	W 埋土	頁岩	II		135	57
195	スクレイパー類	5 竪	NW 埋土	頁岩	III	一部欠	135	57
196	スクレイパー類	10 竪	NE 埋土	頁岩	IV		135	57
197	抉入石器	1 区	斜面上東 II 層	頁岩			135	57

第12表 石器観察表（縄文時代2）

掲載No.	器種	遺構名	出土地点・層位	石材	細分	備考	図版	写真 図版
198	錐形石器	128土	W埋土上位	頁岩	I	刃部欠	135	58
199	錐形石器	128土	W埋土上位	頁岩	I	錐部欠	135	58
200	錐形石器	5竪	SW埋土	頁岩	II		135	58
201	錐形石器	1区	斜面上北 II～III層	頁岩	III	錐部欠	135	58
202	錐形石器	3区	1段目東 II層	頁岩	III		135	58
203	錐形石器	2区	東側 V層	頁岩	III		135	58
204	錐形石器	95土	W埋土中位	頁岩	III		135	58
205	石匙	10竪	SW埋土	頁岩		縦形、摘まみ部欠	136	58
206	楔形石器	17竪	E床面	頁岩			136	58
207	楔形石器	2竪	E埋土	頁岩			136	58
208	楔形石器	12竪	埋土	頁岩			136	58
209	楔形石器	3竪	NE埋土	頁岩1			136	58
210	RF	3区	5段目 II～III層	頁岩			136	58
211	RF	120土	埋土	頁岩		摘まみ状調製有	136	58
212	RF	213土	E埋土上位	頁岩			136	58
213	RF	128土	E埋土	頁岩			136	58
214	RF	2区	東側 III層	頁岩			136	58
215	RF	46土	埋土上位	頁岩			136	58
216	RF	3区	不明	頁岩			136	58
217	RF	203土	埋土上位	頁岩		異時代遺物、下半欠	136	58
218	RF	95土	W埋土中位	頁岩1		一部のみ	136	58
219	RF	17竪	W埋土下位	頁岩			136	58
220	RF	10竪	NE埋土	黒曜石			136	58
221	RF	7竪	Pit4埋土	頁岩			136	58
222	剥片	129土	1層	黒曜石1			136	58
223	剥片	5竪	炉左埋土下位	黒曜石1			136	58
224	石核	14土	埋土下位	頁岩			137	58
225	磨製石斧	99土	1層	蛇紋岩1			137	58
226	磨製石斧	132土	1層	蛇紋岩1		黒色付着物	137	58
227	磨製石斧	13竪	斧1 床面	斑禰岩1			137	58
228	磨製石斧	203土	埋土	デイ1		刃部欠、異時代遺物	137	58
229	磨製石斧	17竪	埋土最上位	デイ1		基部のみ	137	58
230	磨製石斧	22竪	埋土	斑禰岩1		刃部欠、異時代遺物	137	58
231	磨製石斧	49土	埋土	斑禰岩1		基部のみ	-	58
232	磨石	24竪	S3 E床直	閃緑岩1	I		137	58
233	磨石	67土	埋土下位	花閃1	I	被熱	138	58
234	磨石	109土	埋土下位	花崗岩1	I		138	58
235	磨石	9竪	埋土	閃緑岩1	I		138	58
236	磨石	23竪	W底面直上	花崗岩1	I	被熱	138	58
237	磨石	11竪	S1 床直	デイ1	I	被熱	-	58
238	磨石	6竪	E埋土上～中位	閃緑岩1	I		138	58
239	磨石	55土	埋土下位	花閃	I		-	58
240	磨石	2竪	W埋土	花崗岩1	I	風化	138	58
241	磨石	61土	W埋土上位	細花閃1	I		138	58
242	磨石	17竪	S1 床直	閃緑岩1	I		139	58
243	磨石	2炉	S2 2層	閃緑岩1	I		139	59
244	磨石	54土	N埋土下位	デイ1	I	一部欠	139	59
245	磨石	61土	W埋土上位	閃緑岩1	I		139	59
246	磨石	213土	E埋土上～中位	閃緑岩1	I		139	59
247	磨石	8竪	埋土	閃緑岩1	I		-	59
248	磨石	10竪	NE埋土	花崗岩1	I		-	59
249	磨石	4竪	E埋土	砂岩1	I		139	59



第12表 石器観察表（縄文時代3）

掲載No.	器種	遺構名	出土地点・層位	石材	細分	備考	図版	写真 図版
250	磨石	55土	埋土下位	花崗岩1	I		140	59
251	磨石	94土	B12層	花崗岩1	I		140	59
252	磨石	1炉	S3 4層	閃緑岩1	I		140	59
253	磨石	42土	埋土上位	デイ1	I		140	59
254	磨石	7竪	炉石組2 1層	流紋岩1	I		140	59
255	磨石	71土	埋土	花崗岩	I		140	59
256	磨石	212土	E埋土上位	花崗岩1	I		141	59
257	磨石	220土	6層	閃緑岩1	I	黒色付着物	141	59
258	磨石	4竪	W埋土	砂岩	I		-	59
259	磨石	10竪	NW埋土	閃緑岩1	II	下端のみ使用	141	59
260	磨石	37土	W埋土	流紋岩1	II	被熱	141	59
261	磨石	50土	埋土下位	花崗岩	II	一部欠	141	59
262	磨石	84土	埋土下位	デイ1	II		141	59
263	磨石	9土	埋土	花崗岩	II III		142	59
264	磨石	8竪	埋土	閃緑岩1	III		142	59
265	磨石	8竪	埋土	閃緑岩1	III	被熱	142	59
266	磨石	203土	埋土上位	花崗岩1	III	被熱、黒色付着物	142	59
267	磨石	97土	埋土下位	砂岩1	(III)	欠、4面にガジリ、被熱	142	60
268	磨石	94土	底面直上	花崗岩1	IV		143	60
269	磨石	1竪	N埋土	閃緑岩1	IV		143	60
270	磨石	3区	2段目 II層	花閃	IV		143	60
271	磨石	212土	E埋土上位	花斑1	IV	異時代遺物、半欠、被熱	143	60
272	磨石	80土	埋土	デイ1	IV		143	60
273	磨石	7竪	Pit4埋土	砂岩1	V		143	60
274	凹石	17竪	E埋土下位	石斑1	両	表3裏5	144	60
275	凹石	109土	S2 埋土下位	細花閃1	両	下端に敲打痕	144	60
276	敲石	17竪	炉石7 炉底面	流紋岩1		被熱	144	60
277	石皿	4竪	埋土	デイ1	I	半欠、被熱	144	60
278	石皿	7竪	炉前庭部 埋土	デイ1	I	半欠、被熱	144	60
279	石皿	13竪	炉石11・13	デイ1	I	一辺残、被熱	145	60
280	石皿	17竪	S5 床直	細花閃1	I	一端欠	145	60
281	石皿	1炉	炉石6・9	閃緑岩1	I	一部欠、被熱	145	60
282	石皿	1炉	S1 1層	閃緑岩1	I	一隅残、被熱	146	61
283	石皿	1炉	S2 1層	閃緑岩1	I		146	61
284	石皿	61土	E埋土	花斑1	(I)	一部のみ残	146	61
285	石皿	111土	埋土	デイ1	(I)	一端欠、被熱	146	60
286	石皿	3竪	炉石8	花閃1	I	一部のみ、被熱	-	61
287	石皿	16竪	S1 床直	デイ1	I	被熱	-	61
288	石皿	3竪	炉石7・7下	花斑1	II	2点接合、一隅のみ、被熱	147	61
289	石皿	10竪	SE埋土	礫岩1	III	一部のみ残	147	61
290	石皿	203土	埋土	礫岩1	III	一部のみ残	147	61
291	石皿	35柱	埋土	安山岩1	III	一部のみ残	147	61
292	石皿	7竪	炉前庭部 1層	礫岩1	(III)	一部のみ残	147	61
293	石皿	6竪	W4層直上	安山岩1	IV	一部のみ残	147	61
294	石皿	2区	中央 II層	砂岩1	IV	一部のみ残	147	61
295	台石	9竪	床直	ホルン1		被熱	148	62
296	台石	103土	S1 埋土下位	花崗岩		一部欠、被熱	-	62
297	砥石	17竪	S3 床直	細閃1		一部のみ残	148	62
298	浮子	16竪	W床直	軽石		一部欠	148	62
299	有孔石器	17竪	B1・2層	頁岩1		石錘か	148	62
300	軽石	16竪	W埋土	軽石		浮子の材料か	149	62

素材の可能性が想定される。石材に注目して報告する。

【石製品】（第150～152図、写真図版62・63）

石棒（301・302）

2号竪穴建物跡、128号土坑から出土した。2点とも流紋岩製の石棒である。301は大形の石棒で、上部を欠損している。広範囲に敲打痕が観察される。302は敲打調整と研磨調整が施されることから石棒の未製品と判断したものである。

石剣・石刀（303～308）

99・109・207号土坑、遺構外（2・3区）から出土した。303は石刀の下半部である。刃の有無は不明瞭であるが、左側縁と比して右側縁、特に下端が鋭くなっているため、石刀と判断した。304は一端部のみ残存している。305は石刀の中間部である。306は両端が大きく欠損しているため、石剣か石刀かの判断ができなかった。裏面は研磨調整により平坦になっており、断面形がかまぼこ状を呈する。307は2点が接合したものの、大きく欠損している。一側縁しか残存しないため、石剣か石刀かの判断ができなかった。308は完形のものである。全体的に研磨調整が観察できるものの、剥離調整時の剥離面が残置しており、未製品と判断した。

垂飾（309）

38号土坑から出土した。両面とも研磨調整により平坦に加工されており、平面形は滴状を呈する。碧色の石材を利用しており、石器石材としても特徴的である。

不明石製品（310）

1区から出土した。棒状の石製品で、裏面を平坦に、表面を多面に研磨調整している。そのため、断面形がD字状を呈する。下端側は横位方向の研磨調整で厚さを減じるようにしている。

【その他】（第133図、写真図版57）

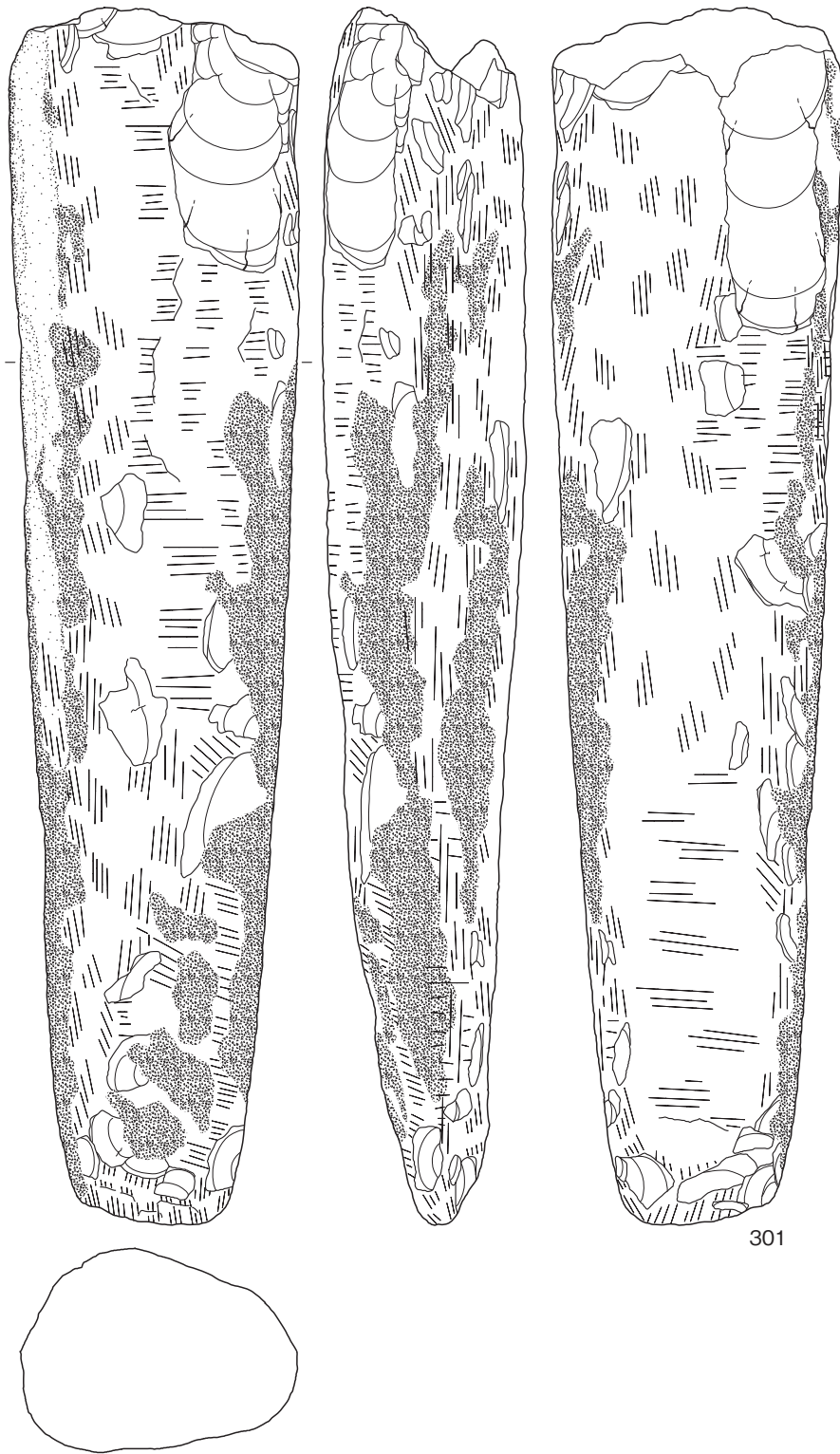
10号竪穴建物跡から種別不明の遺物1点（311）が出土した。2面が平滑になっている。類似する資料がないため、詳細は不明である。

【自然遺物】（第15表、写真図版64～66）

132号土坑の6層中に貝層を含む堆積土が確認でき、①・②の各上下の4分割して取り上げを行っている。貝層からはアサリ、ムラサキイガイ、ムラサキインコ、シラトリモドキ？、クボガイ、チヂ

第13表 石製品観察表（縄文時代）

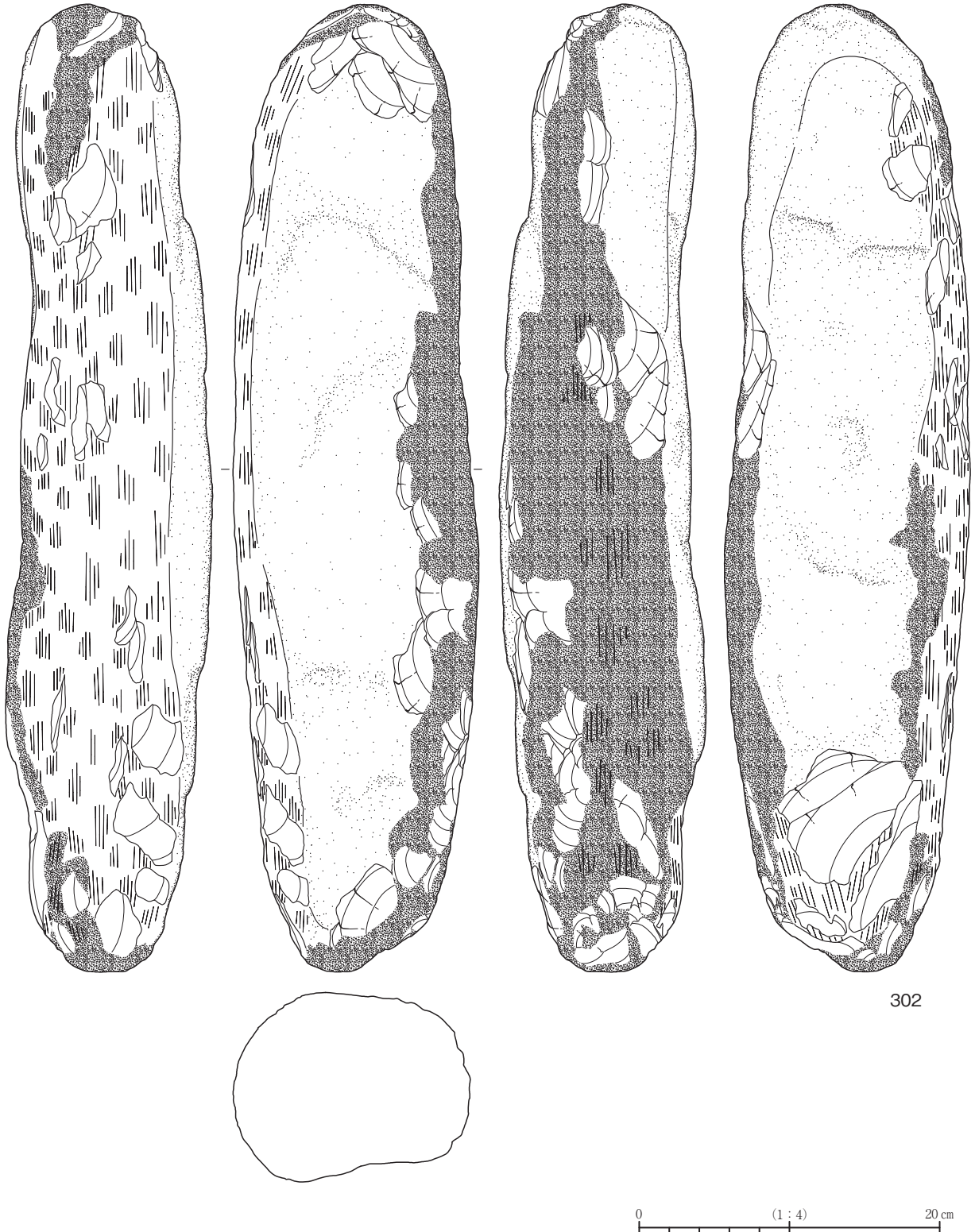
掲載No.	器種	遺構名	出土地点・層位	石材	細分	備考	図版	写真図版
301	石棒	128土	B7層	流紋岩2		大形、上端欠	150	63
302	石棒	2竪	S1 E埋土	流紋岩1		未製品	151	63
303	石刀	207土	埋土上位	頁岩1		上半欠、異時代遺物	152	62
304	石刀	99土	埋土	頁岩1		黒色付着物	152	62
305	石刀	109土	E埋土下位	頁岩1			152	62
306	石剣・石刀	2区	中央 II層	頁岩1		両端欠	152	62
307	石剣・石刀	99土	1層	頁岩1		2点接合	152	62
308	石剣・石刀	3区	5段目 I層	頁岩1		未製品	152	62
309	垂飾	38土	S埋土上位	白雲母片岩1			152	62
310	不明	1区	斜面上東 II層	頁岩1		下端欠	152	62



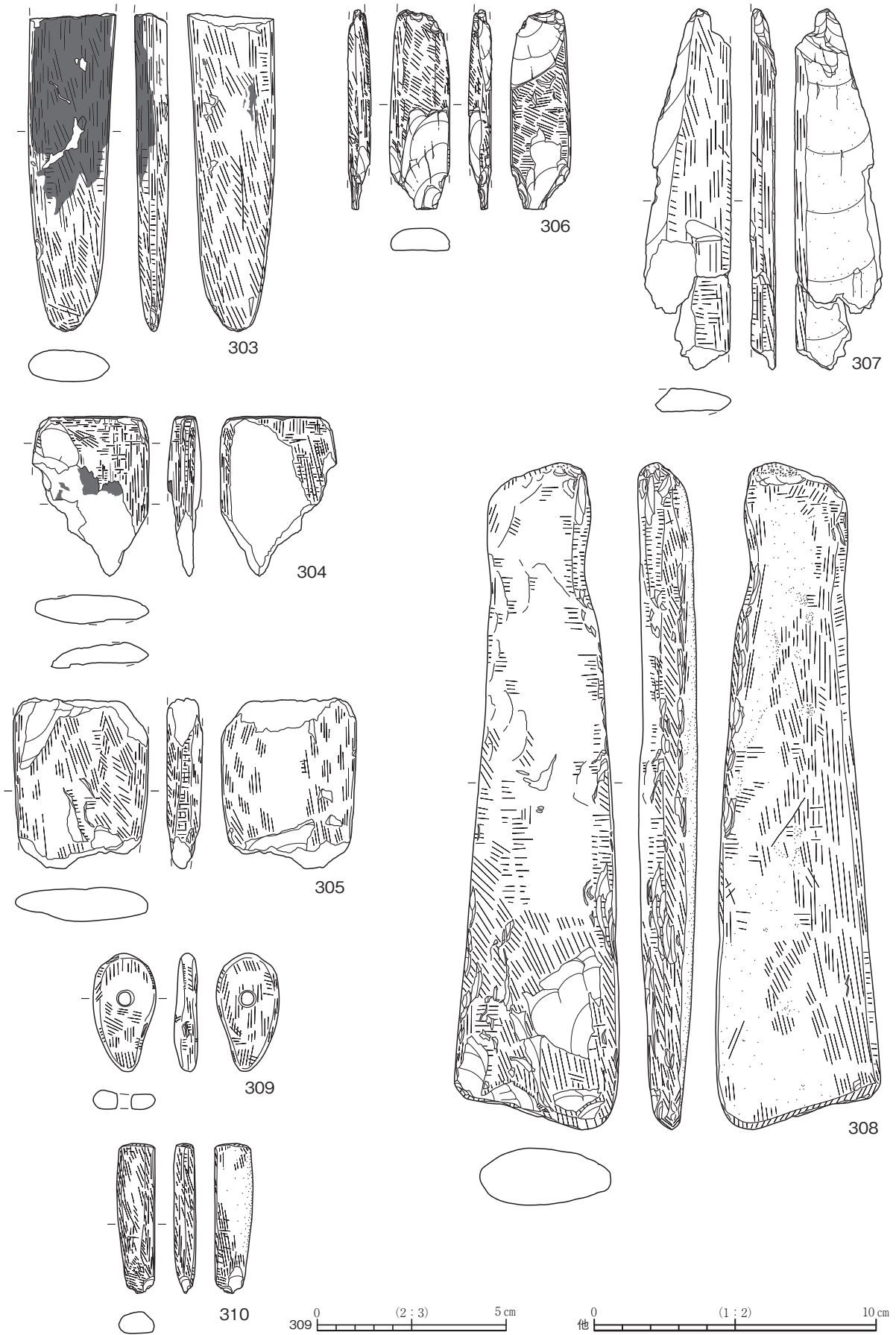
0 (1:3) 10 cm

第150図 石製品（縄文時代1）

ミボラ?、アワビ?、カキ?、ウニ?、フジツボ、巻貝の仲間、不明等の貝が確認できた。最も多いのがムラサキイガイ、次いでアサリ、ムラサキインコの順で、この3種で全体の9割ほどを占める。詳細は第15表を参照して頂きたい。



第151図 石製品(縄文時代2)



第152図 石製品(縄文時代3)



第14表 石器・石製品計測表 (縄文時代)

掲載No.	器長(cm)	器幅(cm)	器厚(cm)	打角(°)	刃部角(°)	重量(g)
171	3.42	2.71	0.81			7.12
172	(2.24)	(1.62)	(0.60)			2.02
173	1.98	1.52	0.64			1.46
174	(2.94)	(1.39)	(0.44)			1.45
175	(4.03)	(1.64)	(0.61)			3.66
176	1.69	1.43	0.34			0.66
177	2.58	1.43	0.43			0.96
178	2.86	1.50	0.42			1.66
179	(1.97)	1.40	0.32			0.72
180	(1.96)	1.74	0.59			1.15
181	(1.49)	(1.32)	(0.39)			0.74
182	(2.78)	(1.11)	0.29			0.71
183	(2.34)	(0.95)	(0.28)			0.45
184	(1.91)	(1.24)	(0.42)			0.61
185	(2.28)	1.53	0.59			1.78
186	(1.77)	(1.46)	(0.48)			0.91
187	1.89	1.37	0.71		49	1.66
188	3.63	2.61	1.06		67	7.15
189	(4.14)	(2.22)	(0.73)		45	4.56
190	5.19	3.51	1.71		60	20.02
191	2.18	3.33	0.68	84	61	4.58
192	4.12	3.62	1.40	71	64	16.26
193	2.71	1.96	0.65	82	71	2.45
194	4.15	1.63	0.39		80	2.25
195	2.62	(3.53)	0.71		E54L59	5.62
196	8.40	8.03	1.92		66	99.31
197	5.35	4.81	0.85		L74R63	12.25
198	(2.05)	2.12	(0.58)			2.17
199	(1.76)	2.08	(0.52)			1.62
200	2.46	0.92	0.51			0.88
201	(2.58)	1.32	(0.56)			1.69
202	2.41	1.24	0.74			2.21
203	2.71	1.44	0.66			1.95
204	3.04	1.74	1.14			4.40
205	(4.11)	(1.86)	(0.76)		L53R71	5.92
206	2.09	2.05	0.72			2.85
207	2.01	2.90	0.98			4.90
208	2.78	2.79	1.24			9.09
209	2.81	1.56	0.69			3.15
210	4.62	2.45	0.79			6.48
211	4.39	2.56	0.65	78		5.32
212	6.60	3.09	0.60			12.96
213	2.98	1.56	0.49		67	1.98
214	2.30	2.90	0.76			3.84
215	2.84	0.65	0.68			0.99
216	2.51	2.09	0.68			3.47
217	(2.80)	(1.82)	(0.91)			4.25
218	(1.60)	(1.96)	(0.52)		78	1.35
219	1.94	2.49	0.51		84	2.26
220	(3.31)	1.13	0.68			1.64
221	2.57	2.56	0.99			5.70
222	1.84	2.26	0.53	89		0.99
223	2.28	1.37	0.52	74		0.98
224	6.80	8.58	8.38			378.42
225	5.97	4.03	1.48		65	58.10
226	8.56	3.49	1.69		54	80.62
227	11.51	5.17	2.76		68	242.67
228	(11.46)	(51.70)	(2.96)			251.60
229	(4.60)	(3.70)	(2.24)			60.50
230	(12.26)	(5.20)	(3.75)			439.72
231	(6.37)	(4.74)	(3.32)			134.54
232	11.0	7.9	5.5			772.94
233	(10.6)	(6.3)	4.9			508.62
234	(10.3)	6.6	3.5			350.09
235	12.6	8.2	6.4			1057.95
236	12.2	8.9	5.5			900.10
237	11.0	8.2	5.7			735.55
238	19.8	9.4	7.1			2202.84
239	18.05	8.85	7.8			2067.53
240	9.65	(9.0)	6.5			773.14

掲載No.	器長(cm)	器幅(cm)	器厚(cm)	打角(°)	刃部角(°)	重量(g)
241	22.05	5.8	4.6			847.74
242	11.2	9.0	6.1			900.40
243	11.7	8.2	5.9			888.94
244	14.4	8.5	(6.3)			1039.30
245	11.8	8.9	4.3			643.44
246	13.4	8.4	4.8			900.12
247	12.0	8.7	5.5			918.90
248	11.4	8.9	6.2			966.99
249	12.4	6.5	3.2			388.33
250	11.1	9.3	6.6			977.78
251	11.1	9.2	5.4			827.50
252	12.6	9.2	7.5			1313.84
253	11.6	8.9	5.9			937.57
254	12.7	8.4	8.8			1086.95
255	14.1	8.0	7.3			1271.64
256	12.5	5.6	5.3			674.30
257	14.4	10.0	6.9			1589.54
258	11.8	8.0	3.3			549.50
259	14.2	8.7	8.05			1556.60
260	6.25	4.3	3.15			117.39
261	12.7	(9.0)	5.5			906.36
262	31.1	8.1	6.5			1000.67
263	12.9	9.9	6.6			1312.49
264	13.7	9.6	6.6			1359.60
265	11.7	8.1	5.2			790.70
266	(11.6)	9.85	6.4			1034.18
267	(10.1)	(6.6)	(5.9)			577.49
268	13.1	7.5	5.1			798.40
269	15.6	7.1	4.4			870.30
270	11.3	5.5	4.95			468.44
271	(11.5)	(6.7)	(3.7)			393.84
272	12.7	6.3	5.4			558.40
273	8.2	5.1	2.9			224.74
274	8.4	5.85	4.3			270.60
275	22.8	7.5	4.6			1128.40
276	11.9	6.8	3.5			423.23
277	(16.5)	(15.2)	(7.4)			2489.94
278	(16.6)	(19.8)	(6.5)			2867.98
279	(26.6)	(14.0)	(7.5)			3125.00
280	(36.0)	13.7	9.1			8000.00
281	(33.9)	30.7	(7.1)			11500.00
282	(31.1)	(28.1)	(7.3)			10100.00
283	34.1	15.5	5.6			4500.00
284	(14.25)	(14.1)	(5.85)			1428.75
285	(14.8)	(22.8)	(6.7)			3100.00
286	(16.65)	(16.15)	(9.35)			3525.90
287	27.0	21.25	9.3			8500.00
288	(22.25)	(17.1)	(6.5)			3937.60
289	(11.1)	(8.15)	(2.2)			170.63
290	(9.9)	(5.6)	(3.2)			91.73
291	(8.8)	(6.65)	(7.3)			201.05
292	(13.25)	(4.7)	(1.7)			119.06
293	(7.45)	(4.6)	(6.4)			165.00
294	(10.8)	(9.1)	(6.5)			409.90
295	38.85	30.9	11.4			26700.00
296	37.5	28.5	9.5			14700.00
297	(11.6)	(5.8)	(7.0)			556.20
298	5.75	(3.5)	(3.8)			22.40
299	5.0	3.1	2.2			39.60
300	13.64	14.06	11.98			392.20
301	(50.90)	(12.14)	(8.52)			6500.00
302	64.42	16.32	13.76			20300.00
303	(11.28)	(3.10)	(1.20)			60.51
304	(5.66)	(4.14)	(1.19)			25.85
305	(6.04)	(4.79)	(1.25)			51.14
306	(7.08)	(2.13)	(0.81)			14.97
307	(12.80)	(3.09)	(0.91)			38.46
308	23.63	5.84	2.09			388.20
309	3.13	1.66	0.62			4.23
310	(5.30)	1.35	0.78			8.53



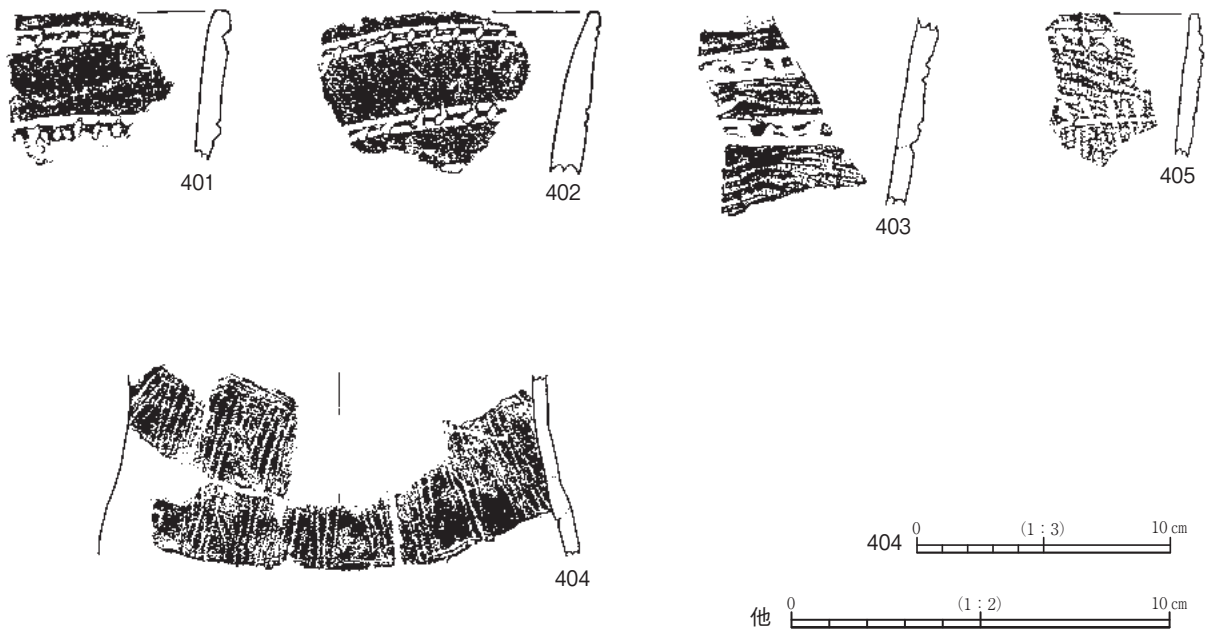
第15表 貝殻一覧（縄文時代）

遺構名	出土地点	出土層	貝種	右	左	重量(g)	備考欄	写真
132土	貝殻上側①	6層上位	アサリ	2	1	1.94		-
132土	貝殻上側①	6層上位	ムラサキイガイ	11		46.75		-
132土	貝殻上側①	6層上位	ムラサキイガイ		10	50.55		-
132土	貝殻上側①	6層上位	ムラサキインコ	10	15	32.34		-
132土	貝殻上側①	6層上位	クボガイ?		4	4.32		-
132土	貝殻上側①	6層上位	ムラサキイガイ破片			39.97		-
132土	貝殻上側①	6層上位	ムラサキインコ破片			6.45		-
132土	貝殻上側①	6層上位	白破片			14.69		-
132土	貝殻上側①	6層上位	不明	4	6	10.65	シラトリモドキ?	-
132土	貝殻上側①	6層上位	不明		6	2.37	白い	66
132土	貝殻下側①	6層上位	アサリ	14	15	18.22		64
132土	貝殻下側①	6層上位	ムラサキイガイ	23	20	112.79		64
132土	貝殻下側①	6層上位	ムラサキインコ	13	7	21.48		65
132土	貝殻下側①	6層上位	フジツボ		9	7.27	破片2個	66
132土	貝殻下側①	6層上位	巻貝(オレンジ)		2	3.14	別種?	66
132土	貝殻下側①	6層上位	クボガイ		10	16.74		65
132土	貝殻下側①	6層上位	カキ?	3		15.03		66
132土	貝殻下側①	6層上位	シラトリモドキ?	7	10	18.23		65
132土	貝殻下側①	6層上位	ムラサキイガイ破片			7.38		-
132土	貝殻下側①	6層上位	ムラサキインコ破片			3.03		-
132土	貝殻下側①	6層上位	紫破片			110.22		-
132土	貝殻下側①	6層上位	白破片			35.81		-
132土	貝殻上側②	6層上位	アサリ	14	15	右 10.38 左 9.47		-
132土	貝殻上側②	6層上位	シラトリモドキ	4	7	右 2.58 左 5.00		-
132土	貝殻上側②	6層上位	ムラサキインコ	7	8	22.13		-
132土	貝殻上側②	6層上位	ムラサキイガイ	24	19	147.44		-
132土	貝殻上側②	6層上位	クボガイ		3	6.18		-
132土	貝殻上側②	6層上位	フジツボ		10	11.51		-
132土	貝殻上側②	6層上位	不明			3.41	ムラサキイガイ?	-
132土	貝殻上側②	6層上位	不明			1.60	シラトリモドキ?	-
132土	貝殻上側②	6層上位	アサリ破片			0.86		-
132土	貝殻上側②	6層上位	ムラサキイガイ破片			76.47		-
132土	貝殻上側②	6層上位	白破片			12.13		-
132土	貝殻下側②	6層上位	アサリ	16	14	14.99		-
132土	貝殻下側②	6層上位	ムラサキイガイ	8	11	47.92		64
132土	貝殻下側②	6層上位	シラトリモドキ	?		9.32	向き不明	-
132土	貝殻下側②	6層上位	フジツボ		2	4.52		-
132土	貝殻下側②	6層上位	巻貝		1	1.14	チヂミボラ?	66
132土	貝殻下側②	6層上位	不明	4			アワビっぽい	66
132土	貝殻下側②	6層上位	アサリ破片			6.41		-
132土	貝殻下側②	6層上位	ムラサキイガイ破片			76.35		-
132土	貝殻下側②	6層上位	白破片			12.56		-
132土	貝殻範囲②	6層上位	骨	1		0.40		-
132土	貝殻範囲②	6層上位	ムラサキイガイ	6	1	3.02		-
132土	貝殻範囲②	6層上位	アサリ	2	2	1.37		-
132土	貝殻範囲②	6層上位	ムラサキインコ	3	1	1.89		-
132土	貝殻範囲②	6層上位	フジツボ		3	0.40		-
132土	貝殻範囲②	6層上位	白破片			1.51		-
132土	貝殻上側①	6層上位	貝殻破片			0.45		-
132土	貝殻上側②	6層上位	紫破片			1.36	(フジツボ?)	-
132土	貝殻上側②	6層上位	ムラサキインコ破片			4.31		-
132土	貝殻下側	6層上位	貝殻破片			0.45		-
132土	貝殻上側	6層上位	アサリ破片			2.26		-
132土	貝殻上側	6層上位	ムラサキイガイ破片			28.89		-
132土	貝殻下側②	6層上位	貝殻破片			0.40		-

(2) 弥生時代の遺物

【土器】(第153図、写真図版67)

当該土器は203号土坑、2区から出土し、文様及び器形全体を把握できる土器は出土していない。弥生時代後期に盛行する交互刺突文が施される土器の一群である。401・402は同一個体の可能性が高い口縁部片である。半截竹管等による2本一組の沈線を少なくとも2段施文し、その沈線に先の尖った工具で交互に刺突文を施文している。402はほぼ同じ位置に刺突をしているため、あたかも刻みのように見える。403・404は同一個体で、口縁部?文様帯は絡条体を横位に胴部は縦位に施文方向を変えて施文している。405は平行沈線に刺突を組み合わせた文様が施文されている。地文の特徴は403・404と同じである。



第153図 土器(弥生時代)

第16表 土器観察表(弥生時代)

掲載No.	遺構名	出土地点・層位	器種	部位	文様等	時期・型式	図版	写真図版
401	2区	中央 Ⅲ～Ⅳ層	不明	口	交互刺突文 内：H *赤褐色	赤穴	153	67
402	2区	中央 Ⅱ層	不明	口	交互刺突文 内：H *赤褐色	赤穴	153	67
403	203土	埋土	甕	頸	単軸絡条体第1類Lヨコ、平行沈線+交互刺突 内：N・M *異時代遺物	赤穴	153	67
404	203土	埋土	甕	胴	頸：単軸絡条体第1類Lヨコ 胴：単軸絡条体第1類Lタテ 内：N *403と同一個体、異時代遺物	赤穴	153	67
405	203土	1層	甕?	口	単軸絡条体第1類L斜・タテ、平行沈線+刺突 内：N *異時代遺物	赤穴	153	67

(3) 古代の遺物

【土器】(第154～156図、写真図版67・68)

土師器(411～440)

当該土器21～24竪穴建物跡、1号鉄生産関連炉、202・203・210・212・213・215・216・224号土坑、2区から出土したものを掲載した。411・418・419・433・434・436は甕の胴部片である。418は一

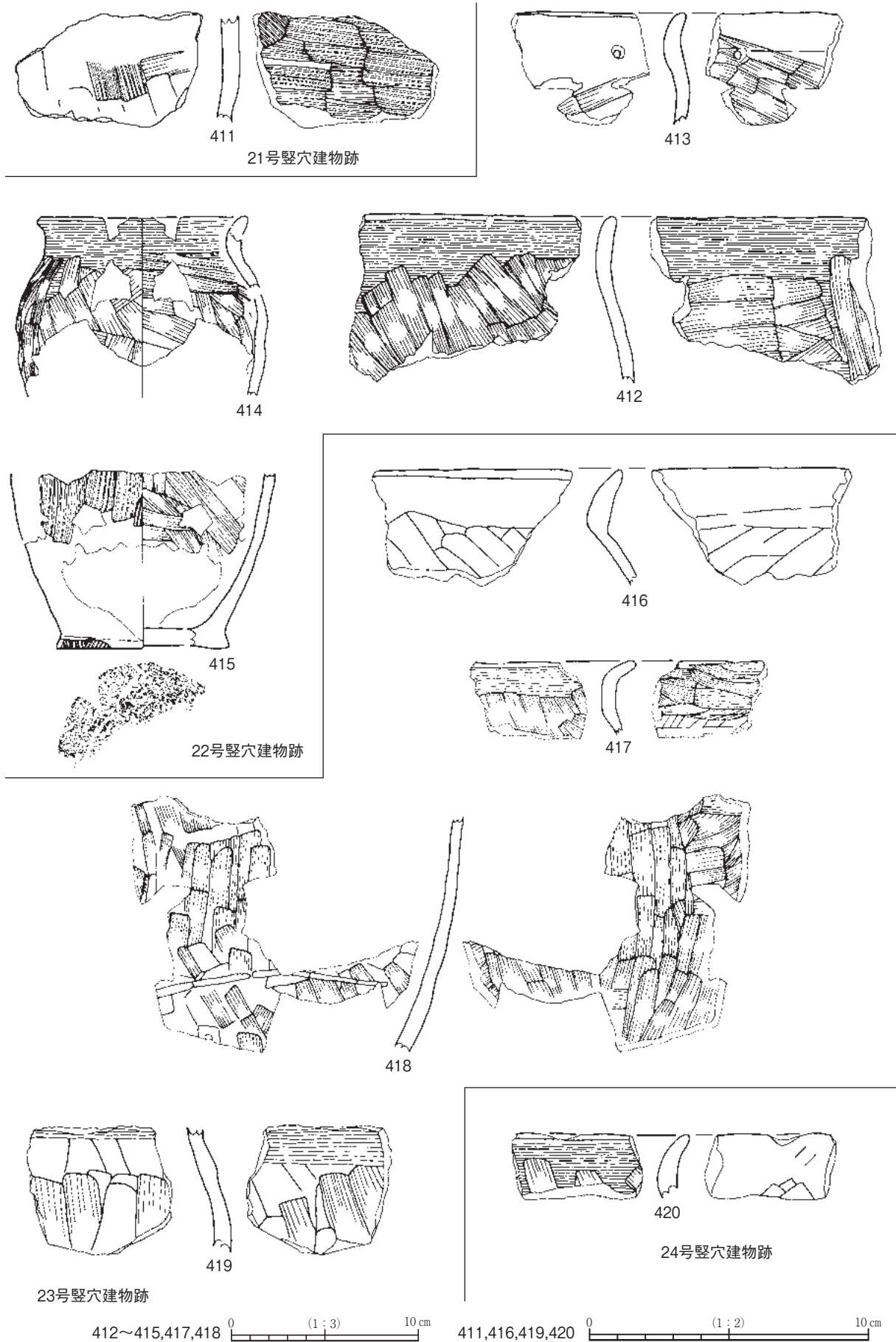
条の沈線が確認できる。412・413・416・417・420～422・427・430・431・435・437は口縁部もしくは胴部上部までの甕の断片的な資料である。414は胴部上半までの小甕である。胴部は丸みを帯びており、口縁部に向かって直立気味に立ち上がり、端部は「く」字状に開く。415・425・426・429・432・439は甕の底部片である。423は壺の口縁部片で、ハケメ調整後ナデ調整が施されている。424は大形の壺の胴部片である。輪積み痕が顕著に観察される。428は鉢と考えられる胴部片である。438は胴下部から底部片である。線刻と考えられる直線的な沈線?が確認できる。440は小甕と考えられる口縁部片である。口縁部が非常に短く、わずかに直立する。

#### 須恵器 (441・442)

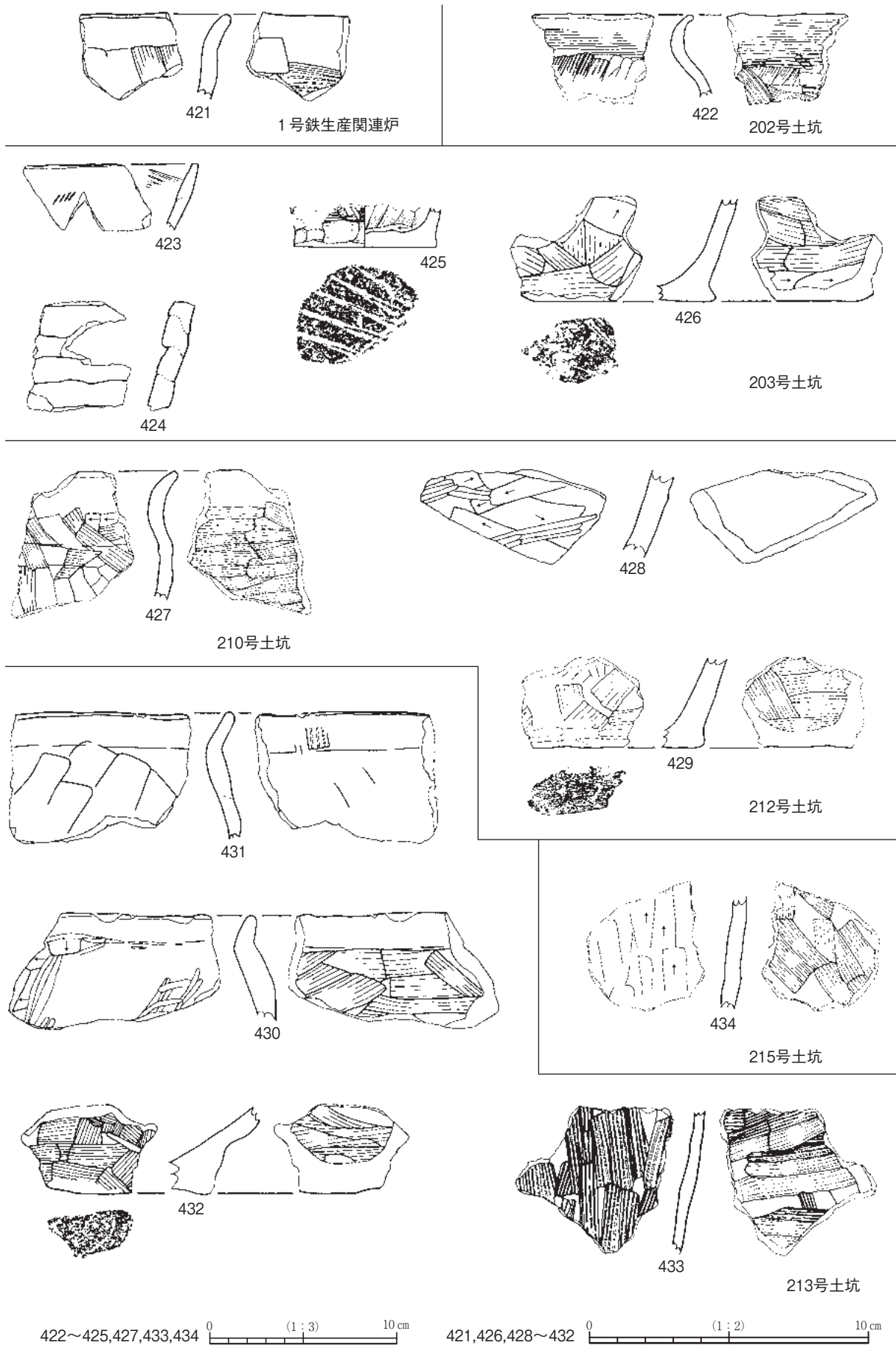
当該土器は24号竪穴建物跡(441)と27号竪穴建物跡(442)から出土した2点のみである。441は大甕の胴部片である。442は非常に良好な焼成状態で、鉢類の底部片である。

第17表 土器観察表 (古代)

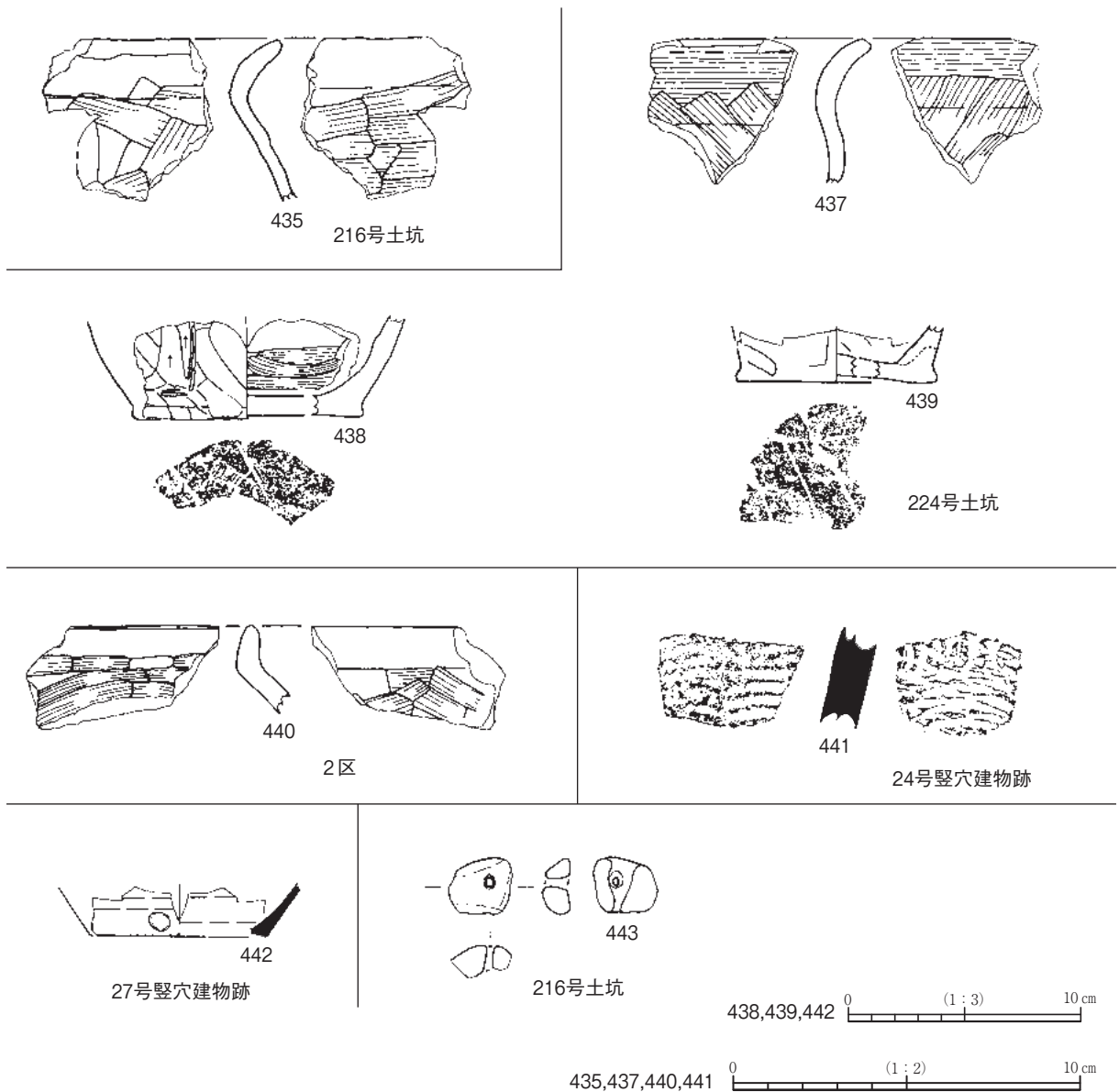
掲載No.	遺構名	出土地点・層位	種類	器種	部位	調整等	図版	写真 図版
411	21竪	埋土	土師器	甕	胴	外:ハケメ・ヘラナデ? 内:ハケメ	154	67
412	22竪	炉付近埋土	土師器	甕	口胴	口:ヨコナデ 胴:ヘラナデ	154	67
413	22竪	Pit8 埋土	土師器	甕	口	ヘラナデ・ナデ *器面摩滅、補修孔有り	154	67
414	22竪	埋土	土師器	小甕	口胴	口:ヨコナデ 胴:ヨコナデ→ヘラナデ	154	67
415	22竪	埋土	土師器	甕	胴底	胴外:ハケメ・ナデ 胴内:ヘラナデ 底外:木葉痕→調整	154	67
416	23竪	E4層	土師器	甕	口	ヨコナデ・ナデ	154	67
417	23竪	Pit2 埋土下位	土師器	甕	口	口外:ヨコナデ 口内:ヨコナデ→ナデ 胴外:ヘラナデ 胴内:ナデ	154	67
418	23竪	Pit2 埋土上位・ 炉2古 焼成面・ Pit2 埋土	土師器	甕	胴	胴外:ヘラナデ→沈線 胴内:ヘラナデ	154	67
419	23竪	W埋土	土師器	甕	胴	口:ヨコナデ 胴:ヘラナデ・ナデ? *器面摩滅	154	67
420	24竪	E埋土上位	土師器	甕	口	ヨコナデ→ヘラナデ	154	67
421	1鉄	埋土最上位	土師器	甕	口	外:ヘラナデ・ナデ 内:ハケメ・ナデ	155	67
422	202土	1層	土師器	甕	口胴	口:ヨコナデ 胴:ハケメ・ヘラナデ *内外面スス付着	155	67
423	203土	埋土	土師器	壺?	口	ハケメ→ナデ	155	67
424	203土	1層下位	土師器	壺	胴	ナデ	155	67
425	203土	1層	土師器	甕	底	外:ハケメ→ヘラナデ 内:ヘラナデ 底外:スノコ痕	155	67
426	203土	1層	土師器	甕	底	ナデ 底外:木葉痕	155	67
427	210土	埋土下位	土師器	甕	口胴	口:ヨコナデ 胴:ヘラナデ	155	67
428	212土	埋土中～下位	土師器	鉢?	胴	外:ヘラケズリ→ミガキ 内:→ミガキ	155	67
429	212土	W埋土上位	土師器	甕	底	ヘラナデ 底外:ヘラナデ?	155	67
430	213土	W埋土上位	土師器	甕	口胴	口:ヨコナデ 胴外:ナデ、ミガキ 胴内:ヘラナデ *小甕か	155	67
431	213土	E埋土上位	土師器	甕	口胴	口外:ヨコナデ 口内:ヨコナデ→ハケメ 胴外:ヘラナデ? 胴内:ヘラナデ? *器面摩滅	155	67
432	213土	E埋土中～下位	土師器	甕	底	ナデ 底外:ミガキ?	155	67
433	213土	E埋土上位	土師器	甕	胴	外:ハケメ 内:ハケメ・ヘラナデ	155	67
434	215土	S埋土上位	土師器	甕	胴	胴外:ヘラケズリ 胴内:ヘラナデ	155	67
435	216土	W埋土	土師器	甕	口胴	口:ヨコナデ 胴:ヘラナデ	156	68
436	216土	W埋土	土師器	甕	胴	外:ナデ・ハケメ 内:ハケメ	-	68
437	224土	埋土上位	土師器	甕	口	ヨコナデ→ヘラナデ	156	68
438	224土	埋土上位	土師器	甕	胴底	胴外:ナデ→線刻か 胴内:ナデ 底外:スノコ痕?	156	68
439	224土	埋土上位	土師器	甕	底	ヘラナデ? 底外:木葉痕	156	68
440	2区	東側 II層	土師器	小甕?	口胴	口:ヨコナデ 胴:ヘラナデ	156	68
441	24竪	炉S 焼土層	須恵器	大甕?	胴	外:タタキ目 内:アテ具痕	156	68
442	27竪	床直・埋土	須恵器?	鉢?	底	回転ナデ *陶器?	156	68



第154図 土器(古代1)



第155図 土器(古代2)



第156図 土器(古代3)・土製品(古代)

【土製品】(第156図、写真図版68)

443は216号土坑から出土した土製品である。貫通孔が確認できる。残存状態が悪く、どのような土製品であるのか判断できなかった。

第18表 土製品観察表(古代)

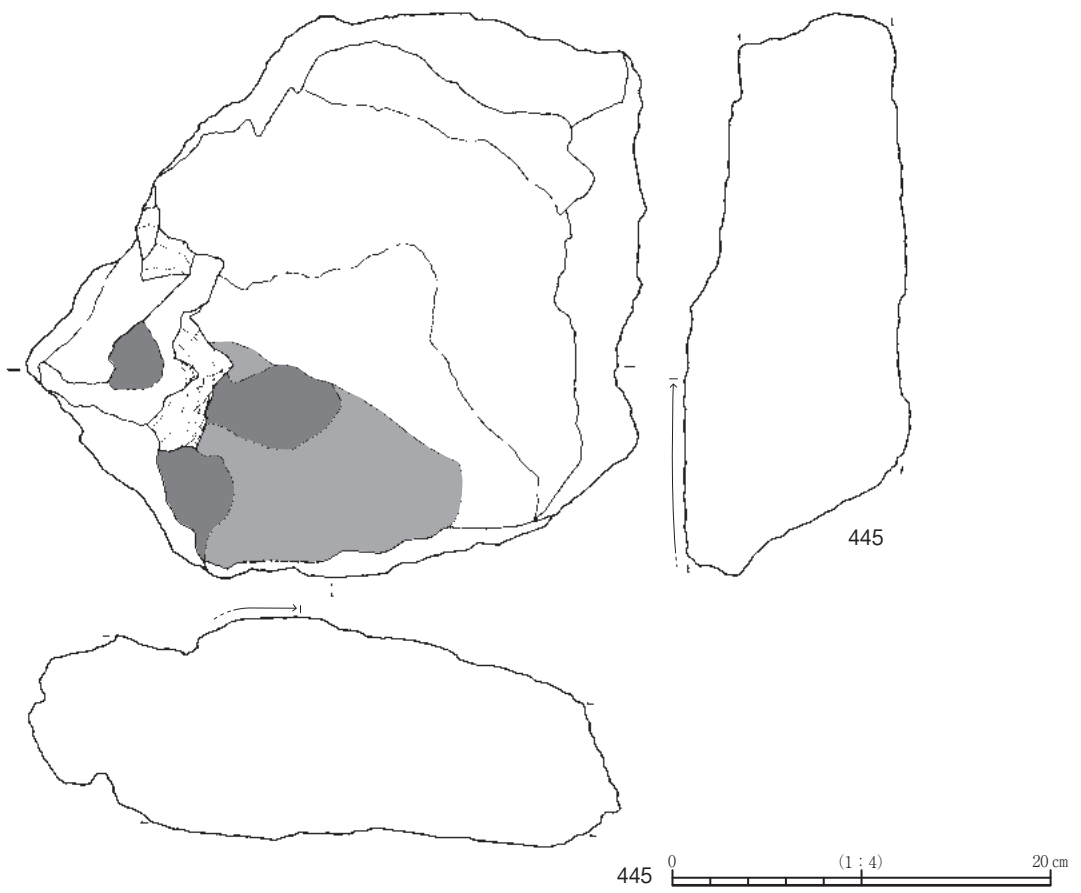
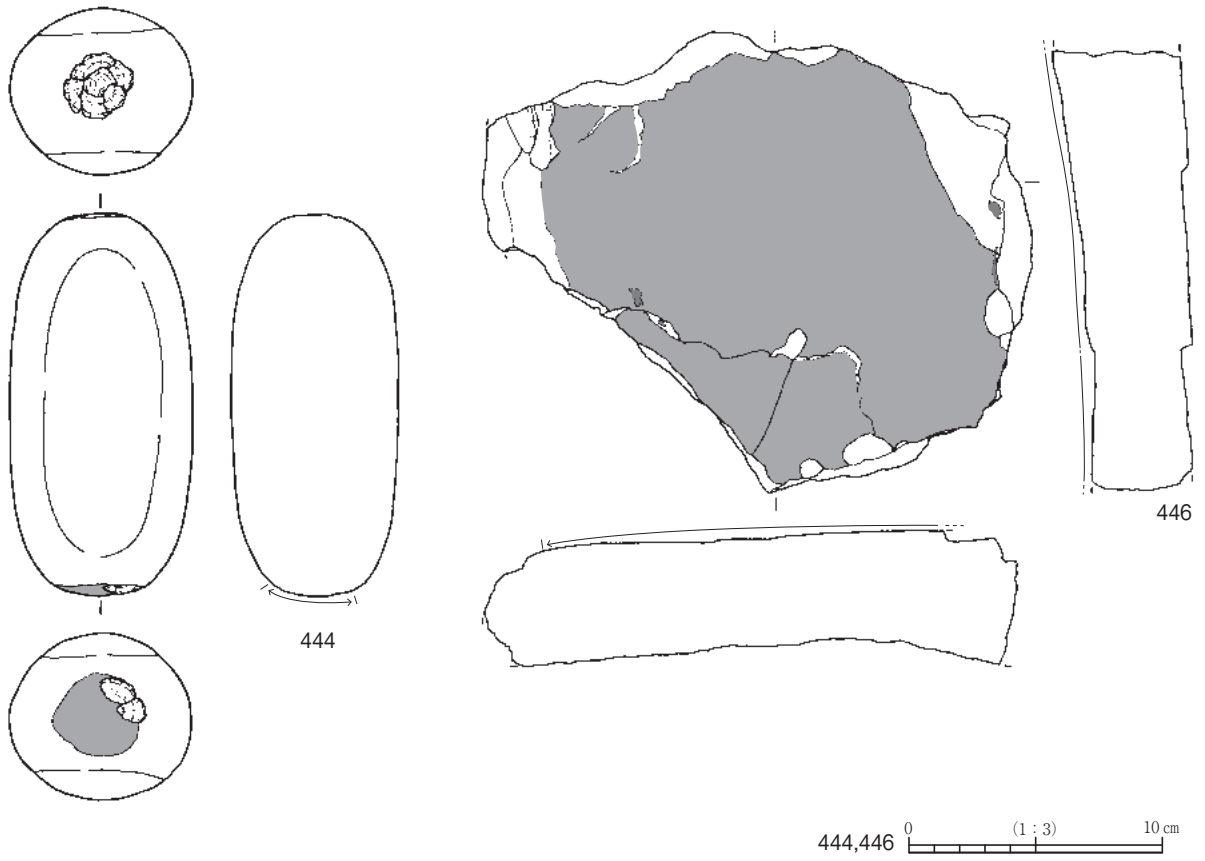
掲載No.	遺構名	出土地点・層位	器種	文様等	残存	時期	図版	写真図版
443	216土	W埋土中位	不明土製品	貫通孔	一部のみ	不明	156	68

【石器】(第157～163図、写真図版68～71)

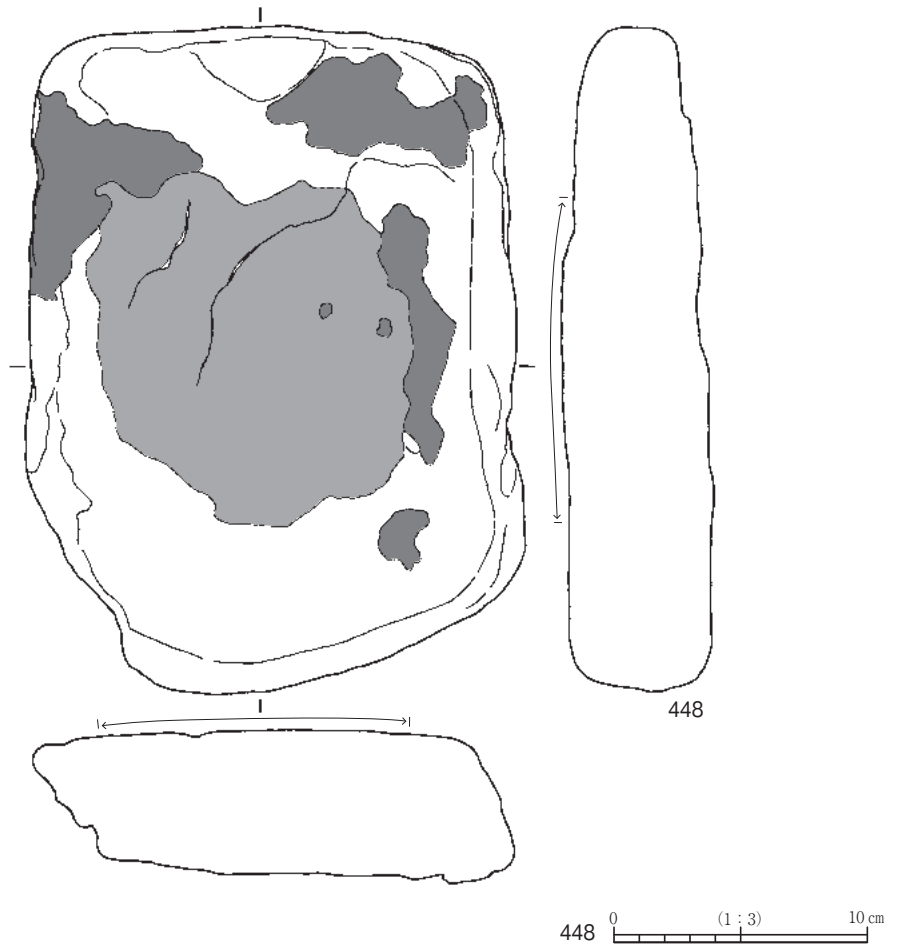
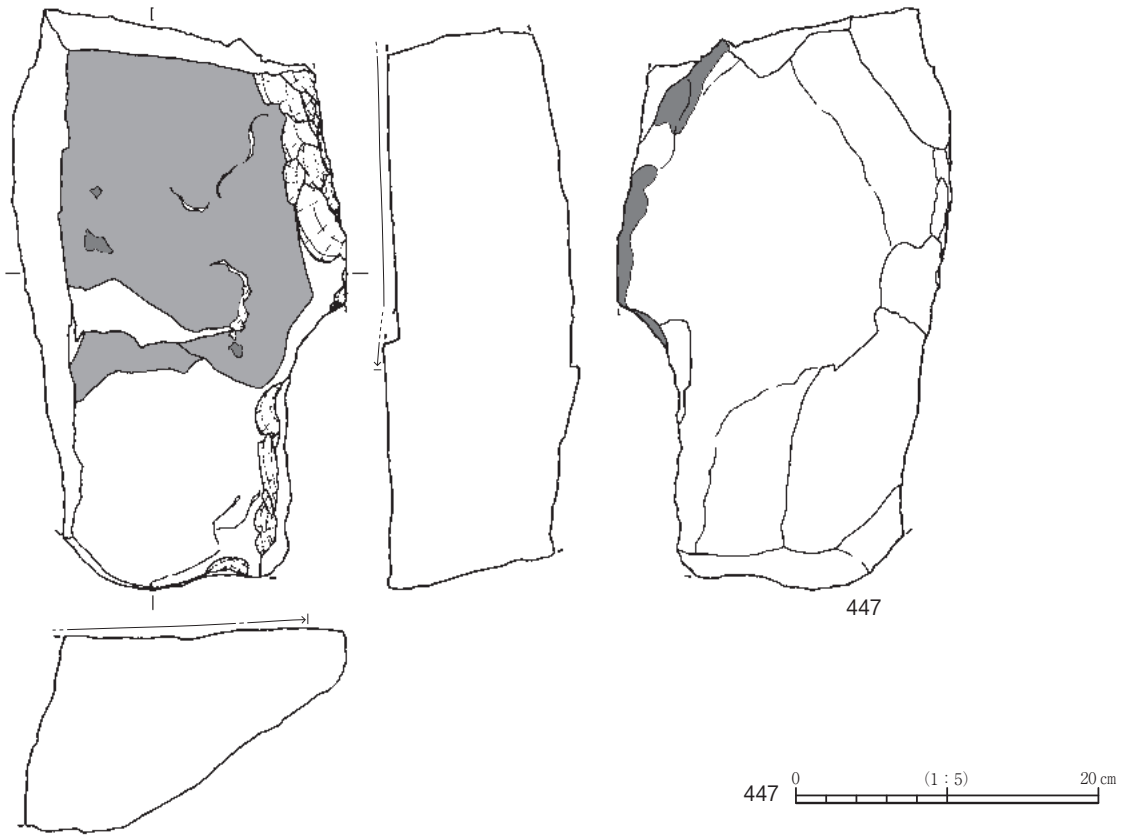
敲石(444)

211号土坑から出土した。円筒形の礫を利用した敲石で、両端は使用により平坦化している。形状はトチタタキ石に類似する。古代の土坑から出土しており、当該期の石器と判断した。

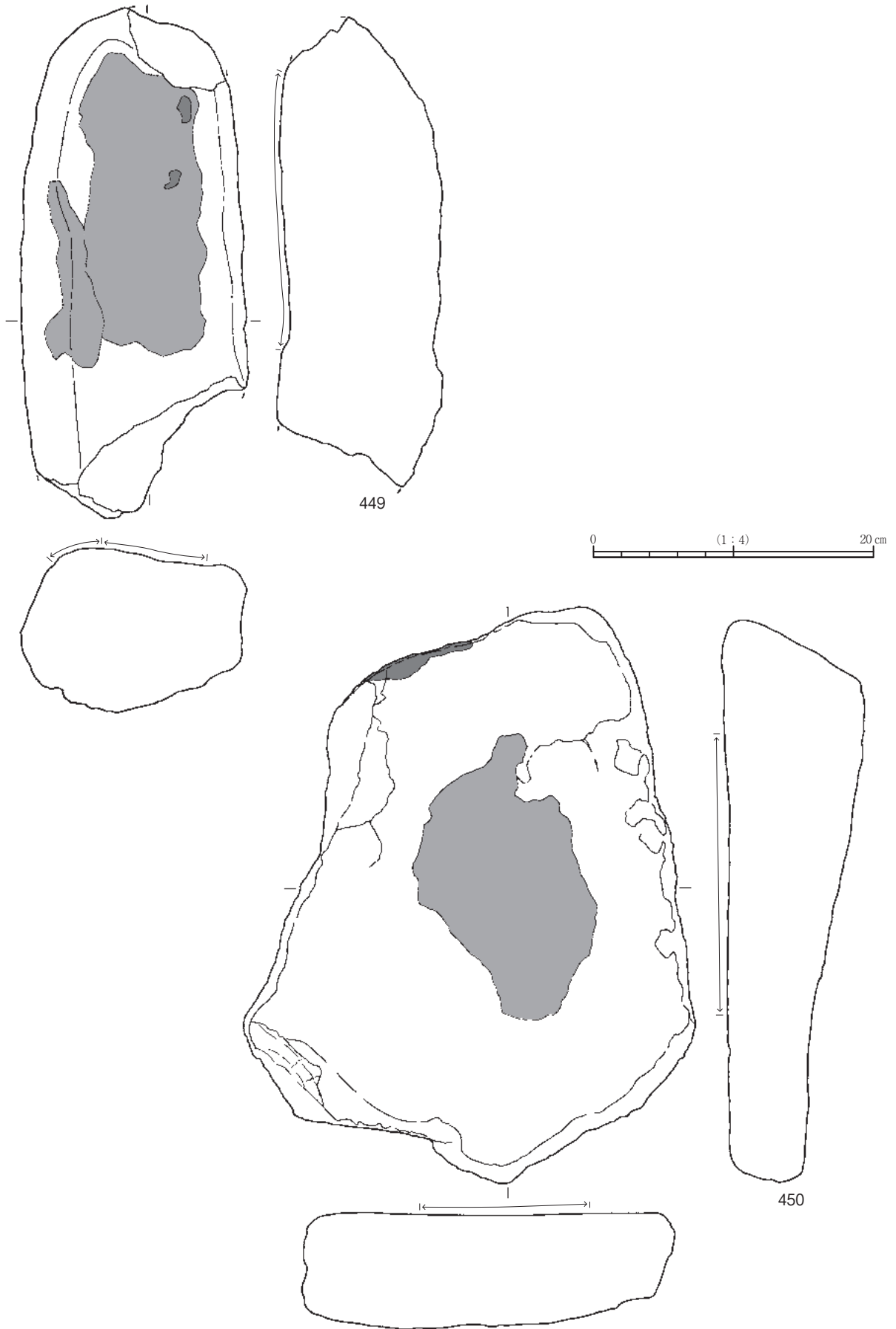




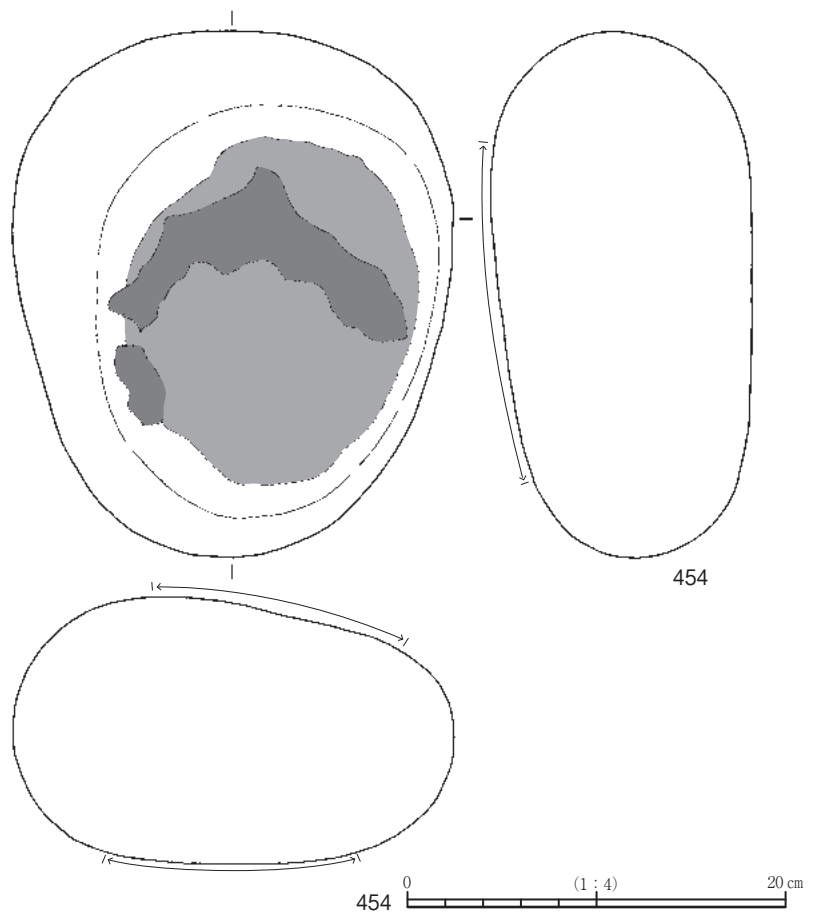
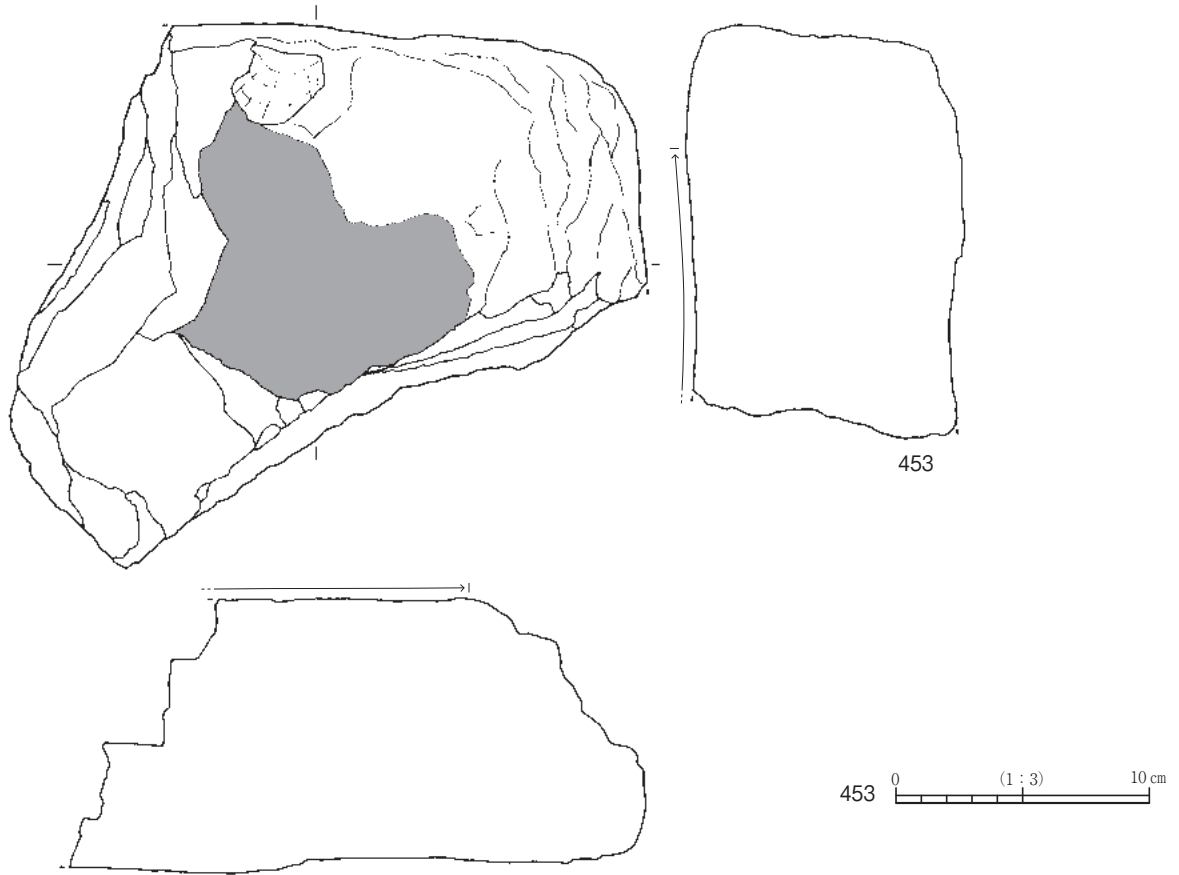
第157図 石器(古代1)



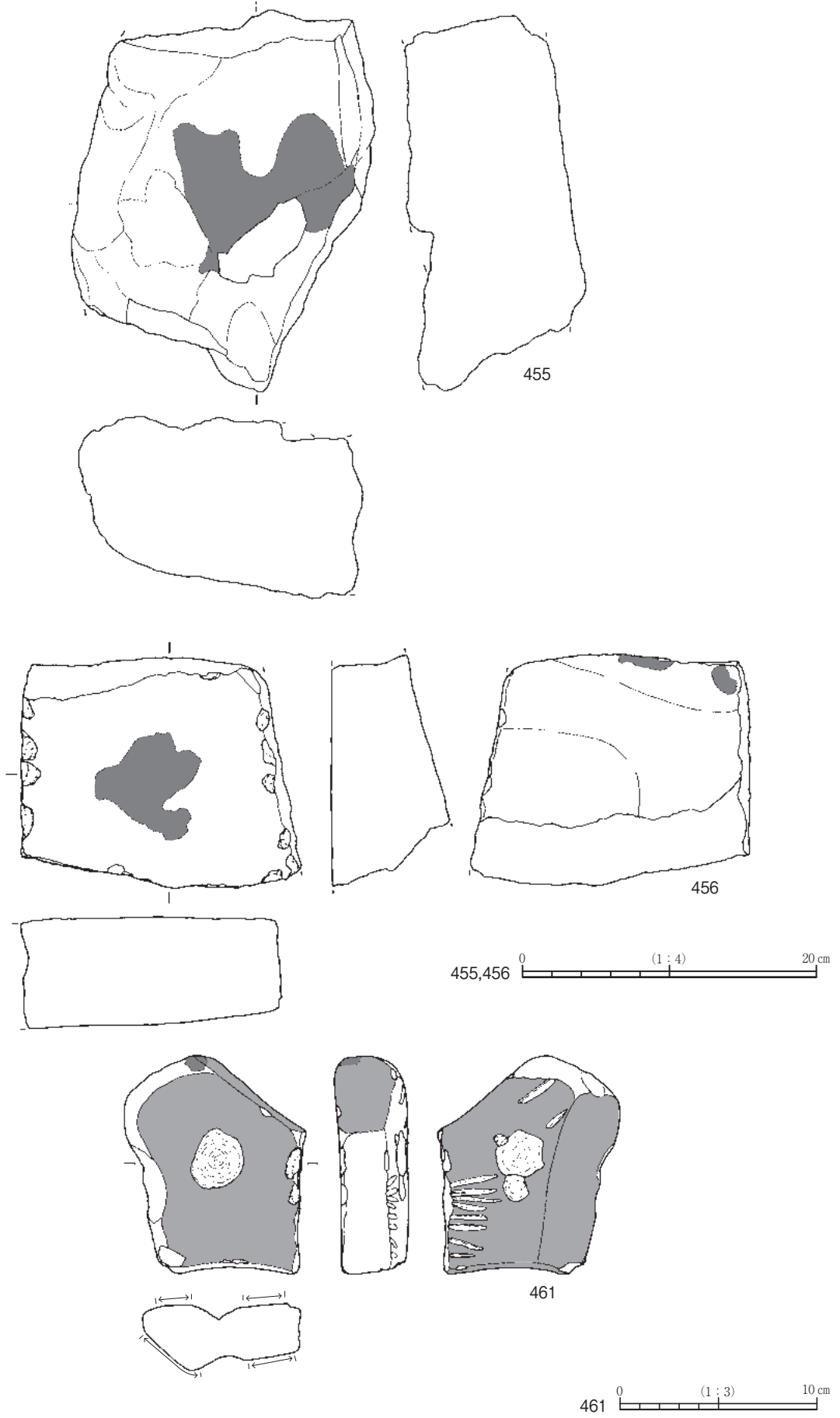
第158図 石器(古代2)



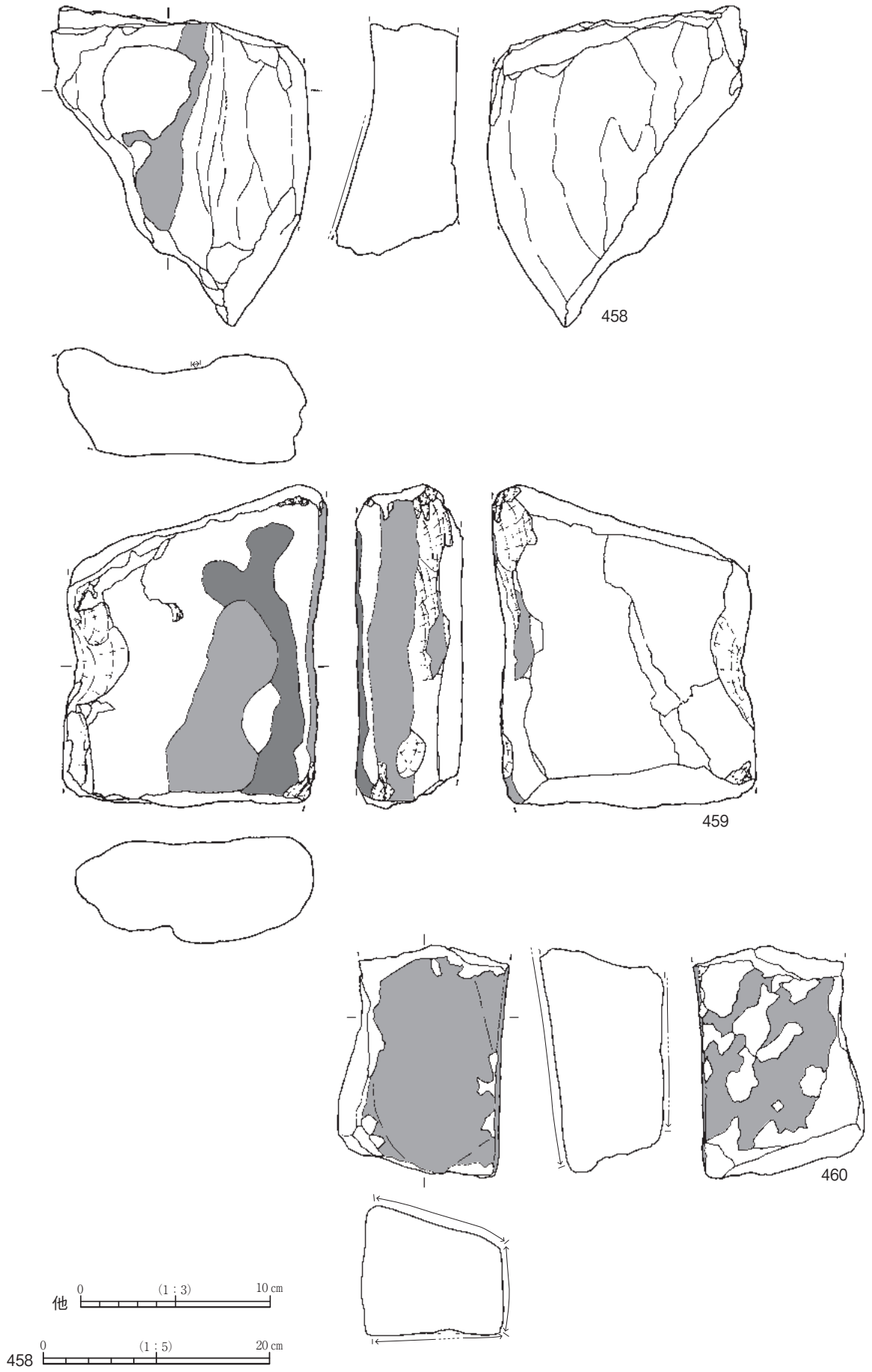
第159図 石器(古代3)



第160図 石器(古代4)

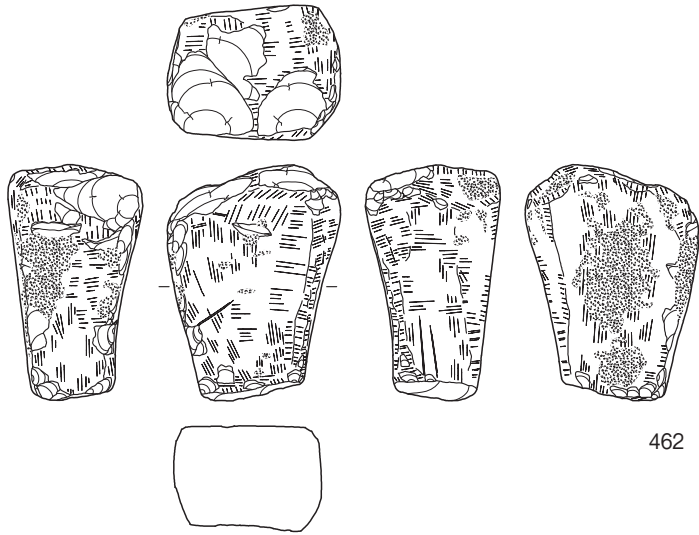


第161図 石器(古代5)

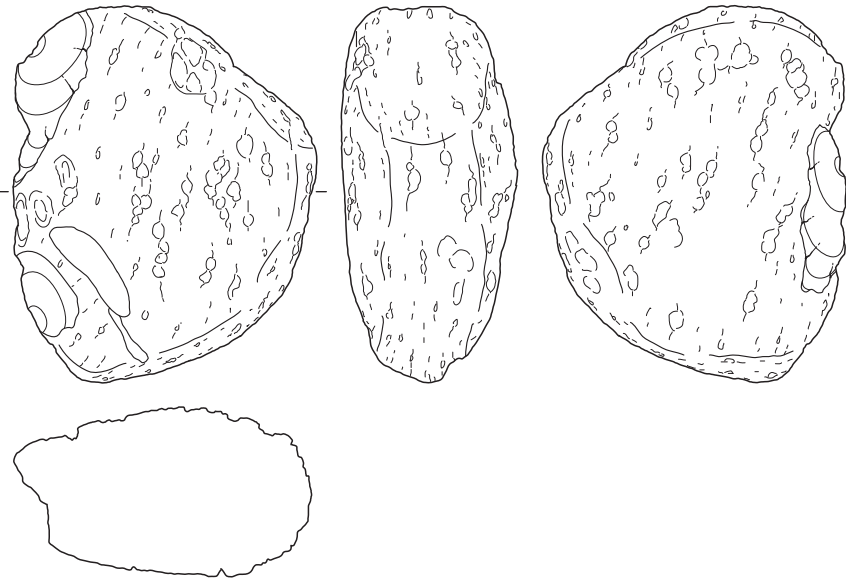


第162図 石器(古代6)





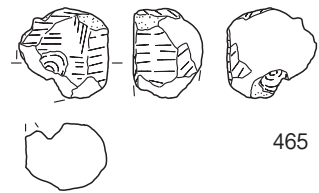
462



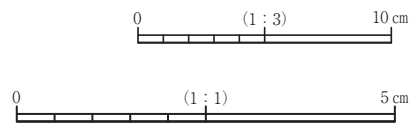
463



464



465



第163図 石器(古代7)・石製品(古代)

## 台石 (445 ~ 457)

22・25・26・28号竪穴建物跡、202・207・212・213号土坑、35号柱穴から出土した。445～453はⅠ類、454～457はⅡ類の台石である。出土状況から445は金床石、446は要石と考えられる。451は金床石の可能性がある。448・455・456の両面に黒色付着物が確認できる。

## 砥石 (458 ~ 462)

29号竪穴建物跡、207・212・216号土坑から出土した。458はホルンフェルス製の砥石で2点が接合したものである。使用面は表面の中央に部分的に確認できる。459はブロック状の礫を利用したもので、表面中央に帯状の使用面が確認できる。また、右側面も平滑になっており、使用面と考えられる。460・462は四角く面取りされた砥石である。460は石英斑岩製、462は流紋岩製である。

## 軽石 (463・464)

203・207号土坑から出土した。463は十和田火山産、464は岩手山産の軽石である。稜が摩耗している部分も確認できる。石材に注目して報告する。

第19表 石器観察表 (古代)

掲載No.	器種	遺構名	出土地点・層位	石材	細分	備考	図版	写真図版
444	敲石	211土	E埋土	花閃岩			157	68
445	台石	22竪	炉2炉石4	花閃1	I	一部欠、黒色付着物、金床石	157	68
446	台石	25竪	炉埋土	デイ1	I	二辺欠、滓微量付着、被熱、要石	157	68
447	台石	26竪	S1 4層	デイ1	I	三辺欠、黒色付着物、要石	158	68
448	台石	202土	S1	デイ1	I	被熱	158	68
449	台石	212土	4層	ホルン1	I	一部欠、黒色付着物、要石	159	69
450	台石	35柱	S1 埋土最上位	デイ1	I	黒色付着物	159	69
451	台石	25竪	炉周辺床直	デイ1	I	二辺欠、被熱	-	69
452	台石	28竪	床直	デイ1	I	黒色付着物、金床石の可能性高い	-	70
453	台石	207土	埋土下位	花斑1	I	一隅残、被熱	160	70
454	台石	213土	E埋土上位	花崗岩1	II	黒色付着物	160	70
455	台石	213土	W埋土上位	花閃1	II	一辺残、黒色付着物、要石か	161	70
456	台石	213土	E埋土上～中位	花斑1	II	一部のみ、黒色付着物	161	70
457	台石	25竪	炉周辺床直	花崗岩1	II	一部のみ、被熱	-	71
458	砥石	29竪	埋土	ホルン1	I	半欠	162	71
459	砥石	207土	埋土下位	流紋岩1	I	半欠、黒色付着物、炉石転用?	162	71
460	砥石	216土	W埋土	石斑1	IV	半欠	162	71
461	砥石	216土	W埋土	流紋岩1	IV	表裏凹部有り、略完形、黒色付着物	161	71
462	砥石	212土	E埋土上位	流紋岩1	IV	半欠	163	71
463	軽石	203土	1層	軽石1			163	71
464	軽石	207土	埋土下位	安山岩1			163	71

## 【石製品】 (第163図、写真図版71)

465は1号鉄生産関連炉から出土した琥珀製の玉である。両面から穿孔をしているが、未貫通のため、未製品と判断した。非常に脆く、野外調査の取り上げ時に裏面を大きく欠損してしまっている。

第20表 石製品観察表 (古代)

掲載No.	器種	遺構名	出土地点・層位	石材	細分	備考	図版	写真図版
465	玉	1鉄	SE床直	琥珀		未製品	163	71

第21表 石器・石製品計測表（古代以降）

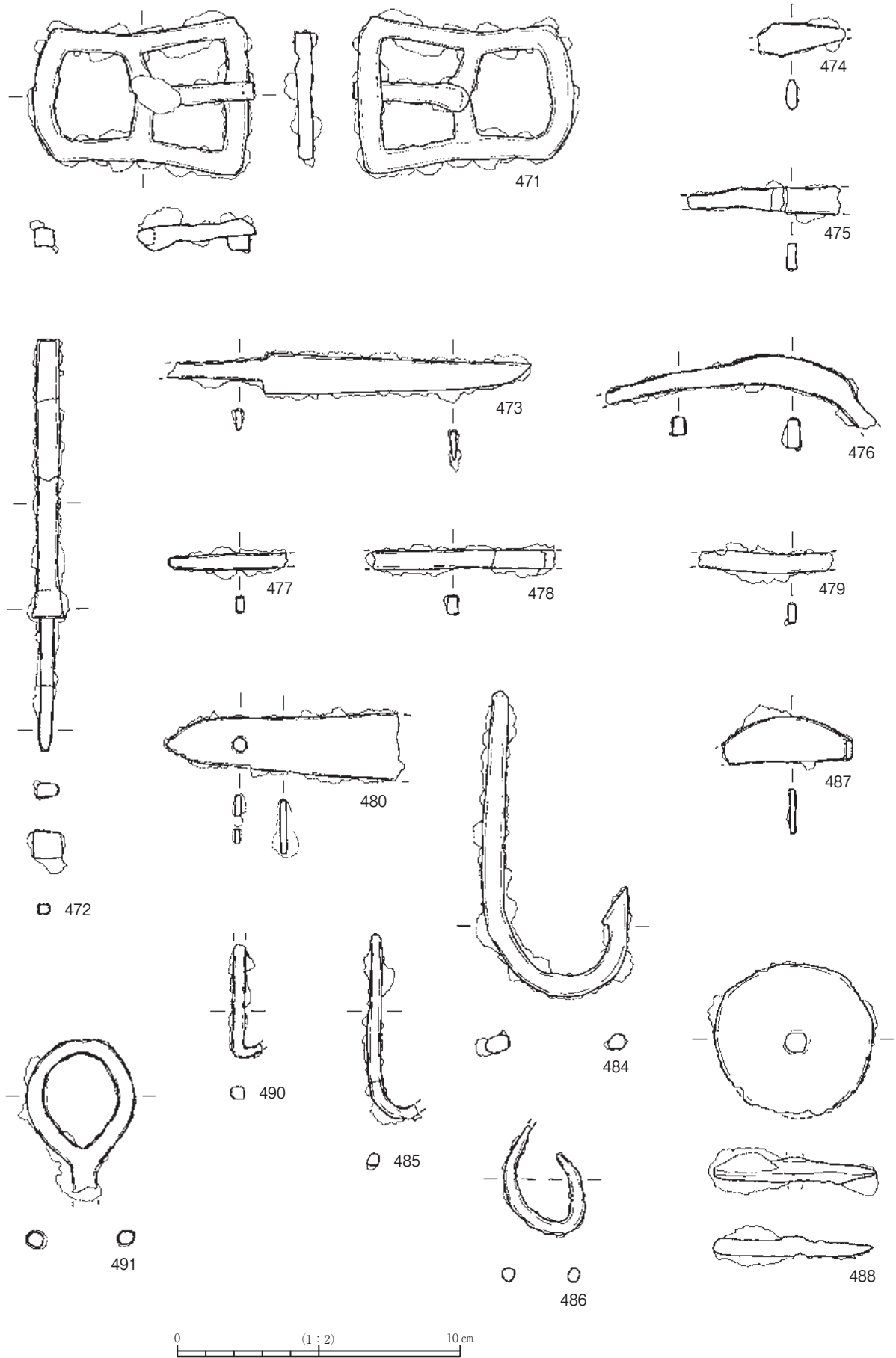
掲載No.	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)	掲載No.	器長 (cm)	器幅 (cm)	器厚 (cm)	重量 (g)
444	15.2	7.2	6.55	1238.11	456	(15.7)	(19.1)	(8.1)	3800.00
445	(29.6)	(31.1)	(11.9)	14600.00	457	(22.0)	(15.1)	(13.2)	5681.40
446	(18.2)	(21.6)	(5.3)	2668.40	458	(28.3)	(22.85)	(10.25)	8000.00
447	(38.4)	(22.1)	(13.4)	14300.00	459	(17.0)	(13.9)	(5.6)	1794.60
448	26.25	19.7	5.9	5700.00	460	(12.1)	(8.5)	(6.8)	1084.38
449	(36.4)	16.1	(11.7)	10300.00	461	11.1	9.3	3.8	433.77
450	41.1	32.1	10.0	15800.00	462	(9.3)	(6.8)	(5.3)	387.20
451	(41.4)	(32.7)	(10.4)	13500.00	463	14.9	12.0	6.9	324.76
452	38.5	25.4	10.3	14000.00	464	7.3	6.0	5.8	48.41
453	(21.5)	(25.1)	(11.0)	7100.00	465	(1.18)	(1.18)	(0.90)	0.61
454	28.6	24.3	14.1	13700.00	612	13.6	6.9	5.6	704.80
455	(26.1)	(20.4)	(12.5)	9000.00	613	2.79	0.76	0.60	1.12

## 【金属製品】（第164・165図、写真図版71・72）

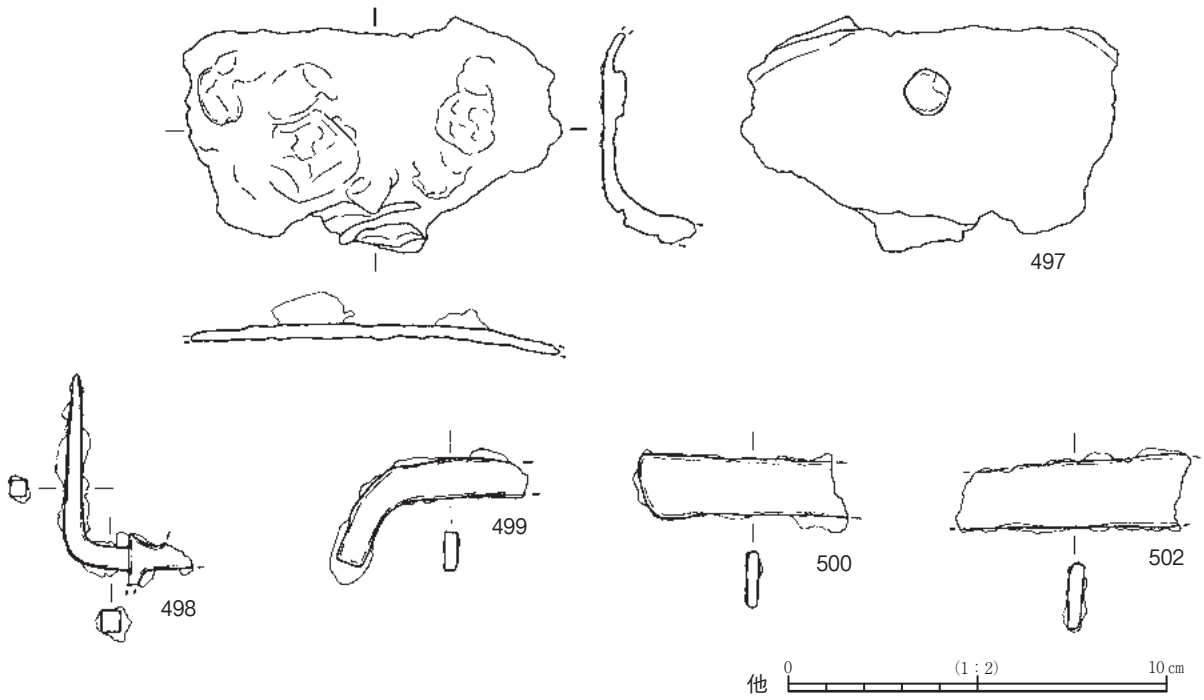
471は完形の鉄製鉸具である。平面形は横台形状である。472は方頭式の鉄鏃である。細身のもので、頸部は台状関である。473～483は鉄製刀子である。刀身片や茎片など断片的なものも多く、刀身部の形状や関の有無が確認できる資料は473～476で、473は両関、474は片関、475・476は無関である。473は茎の一部を欠損している刀子である。刀身は長三角形を呈し、峰は直線的である。476

第22表 金属製品観察表（古代）

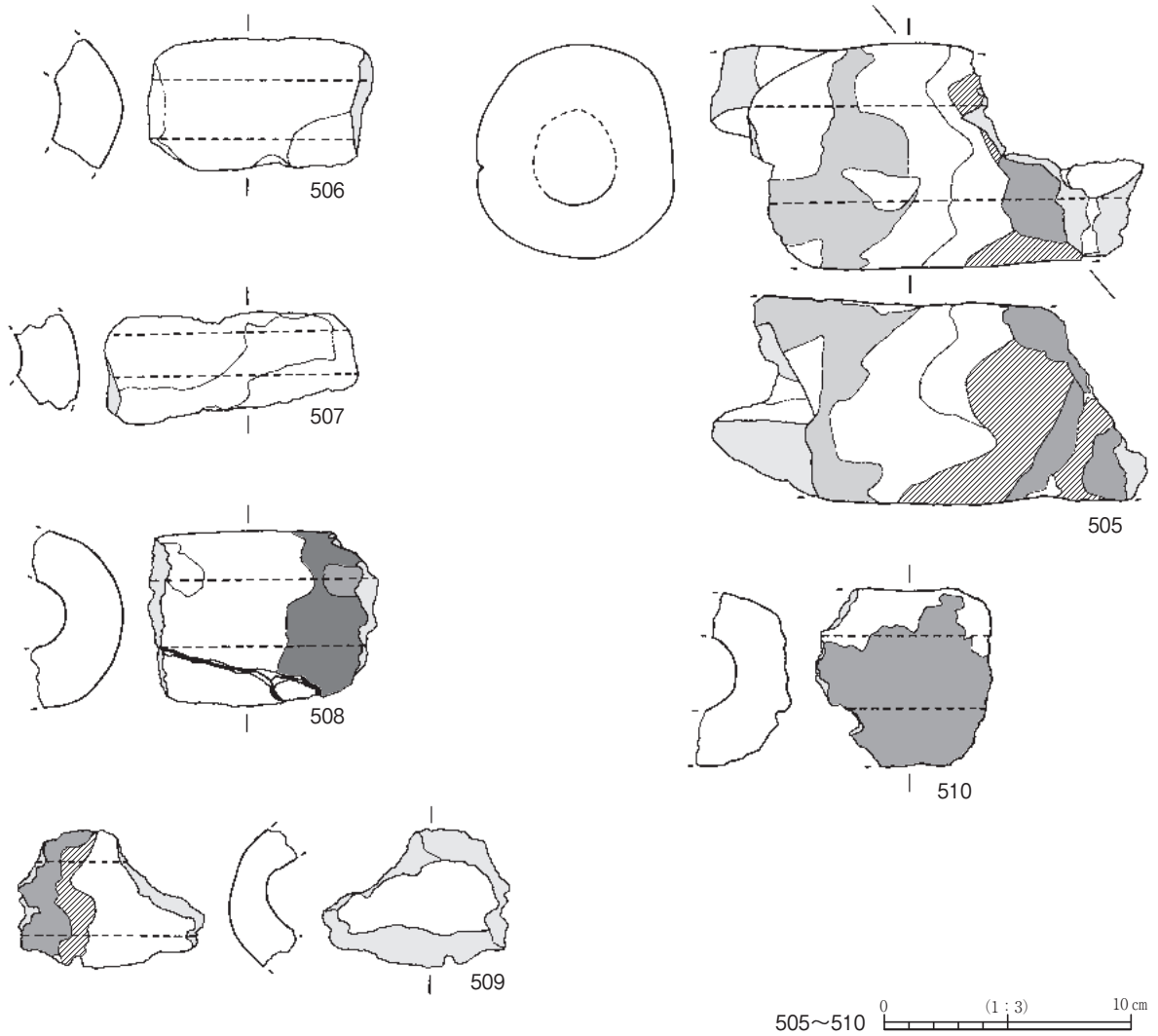
掲載No.	遺構名	出土地点・層位	器種	法量(cm)	重量(g)	備考	図版	写真図版
471	23堅	4層(W底面直上)	鉸具	8.0・6.0・1.2	41.4		164	71
472	23堅	4層下位(W底面直上)	鉄鏃	14.5・1.45・1.6	20.6		164	71
473	203土	貝殻範囲2④ 1層下位	刀子	(12.85)・1.7・0.5	14.3		164	71
474	212土	埋土中～下位	刀子	(3.15)・(1.2)・(0.4)	2.9		164	71
475	219土	N8層	刀子	(5.4)・(1.3)・(0.35)	4.9		164	71
476	213土	E埋土上位	刀子	(9.5)・(2.7)・(0.7)	15.8		164	71
477	23堅	埋土	刀子	(4.25)・(0.55)・(0.3)	2.5		164	71
478	211土	E埋土上位	刀子	(6.7)・(1.1)・(1.3)	8.3		164	71
479	222土	1層	刀子	(4.7)・(1.3)・(1.5)	3.7		164	71
480	2区	東側 II層	刀子?	(8.2)・(2.7)・(1.8)	34.2		164	72
481	27堅	埋土	刀子	(1.5)・(1.1)・(0.3)	0.8		-	-
482	27堅	埋土	刀子?	(1.3)・(0.8)・(0.6)	0.6		-	-
483	29堅	1層	刀子	(1.4)・(0.65)・(0.4)	1.0		-	-
484	222土	1層	鈎針	10.9・5.65・0.85	25.6		164	72
485	219土	8層	鈎針	(6.7)・(0.5)・(0.45)	3.7		164	72
486	211土	E埋土上位	鈎針	(3.95)・2.9・0.5	3.6		164	72
487	27堅	埋土	鎌	(4.6)・(2.3)・(0.4)	6.5		164	72
488	26堅	Pit03埋土上位	紡錘車	(5.45)・-/・(1.65)	20.3		164	72
489	29堅	1層	釘	(2.1)・(1.3)・(0.5)	3.0		-	72
490	29堅	床面直上	金具	(4.0)・(0.45)・(0.4)	3.6		164	72
491	29堅	1層	不明(環状)	(5.7)・(4.15)・(0.7)	16.0		164	72
492	26堅	SE埋土	不明(角棒状)	(3.8)・(0.9)・(0.7)	2.0		-	72
493	26堅	ベルト 1層	不明	(4.7)・(1.4)・(1.1)	7.9		-	72
494	26堅	炉4付近	不明	(4.9)・(1.15)・(0.9)	12.8		-	72
495	202土	埋土下位	不明(丸棒状)	(2.5)・(0.65)・(0.5)	1.6	刀子の基部か	-	72
496	22堅	焼土範囲4 1層	不明(丸棒状)	(2.6)・(0.4)・(0.3)	1.0	紡錘車の軸か	-	-
497	211土	鉄1 W1層	不明	(6.25)・(10.0)・(1.25)	54.2		165	72
498	211土	E埋土上位	不明	(5.6)・(3.6)・(0.9)	8.8		165	72
499	206土	埋土下位	不明	(5.05)・(1.05)・(0.35)	8.5		165	72
500	203土	埋土上位(1層)	不明(板状)	(5.2)・(1.5)・(0.3)	13.5		165	72
501	203土	埋土上位(1層)	不明(板状)	(5.5)・(2.2)・(0.6)	14.6		-	72
502	203土	埋土上位(1層)	不明(板状)	(6.2)・(2.1)・(0.6)	14.7		165	72
503	203土	埋土上位(1層)	不明(板状)	(4.7)・(1.6)・(0.6)	9.2		-	72
504	203土	埋土上位(1層)	不明(板状)	(3.3)・(1.6)・(1.5)	4.0		-	72



第164図 金属製品(古代1)



第165図 金属製品(古代2)



第166図 羽口(古代)

は刀身部が湾曲するもので、刀身部を大きく欠損している。484～486は鉄製釣針である。484は大形のもので、カエシも確認できる。487は小形の鉄製鎌の刃部片である。刃先及び基部を欠損している。488は鉄製紡錘車である。軸は欠損している。489は鉄釘の頭部片である。490は一端が湾曲した角棒状の鉄製品で、その形状から金具の一部と判断した。491～504は器種の特定できなかった鉄製品である。491は一端が環状を呈している。492・494・495は断面形が方形を呈する棒状の鉄製品である。刀子や鉄鏃の一部の可能性もある。493は断面形が方形で、一端が丸みを帯びている。496は断面形が円形の棒状の鉄製品である。釣針や紡錘車の軸の一部と考えられる。497は一端が湾曲している板状の金属製品で、筒状もしくはC字状の形状の金属製品の一部と考えられる。内面側には鋸のような突起があるが、X線写真では判然としない。498は断面形が方形で、直角に曲がっている。ヤス等の漁労具の一部と考えられる。499は断面形が長方形を呈し、平面形が「つ」状を呈するものである。平面形は刀子に類似するが、刃がつけられていない。一端に木質部が残存している。500～504は類似する板状の鉄製品である。500・501は端部、502～504は中間部である。

### 【羽口】（第166図、写真図版72）

26・29号竪穴建物跡、1号鉄生産関連炉、95・202・203・210・216号土坑から出土し、実測可能な6点を掲載した。505・506は26号竪穴建物跡、507は203号土坑、508は210号土坑、509は216号土坑、510は1号鉄生産関連炉周辺から出土したものである。

第23表 羽口一覧

掲載No.	遺構名	出土地点・層位	残存部位	法量 残存長・内径・外径	重量 (g)	角度 (°)	備考	図版	写真 図版
505	26竪	Pit15 (S) 埋土下位・ Pit15埋土下位	両欠	17.6・3.3・8.6	696.9	39		166	72
506	26竪	Pit15埋土下位	基1/4	(9.2) ---	143.1			166	72
507	203土	1層下位	中	(10.3) ---	91.3			166	72
508	210土	埋土上位	中	(9.4) ---	190.5			166	72
509	216土	E埋土下位	尖寄	(7.6) ---	67.0			166	72
510	3区	II層上	尖	(7.2) ---	137.0			166	72

### 【鉄滓】（第24表、写真図版73）

21～24・26・29号竪穴建物跡、201～203・207・210～213・216・217・219・224号土坑の他、異時代の17号竪穴建物跡、31号柱穴から出土した。511は含鉄（強）炉内滓、512は含鉄（強）炉壁附着滓、513は含鉄（弱）炉壁附着滓、514は含鉄（微）炉内滓、515～517は流出滓、518は炉内滓、519は炉底滓である。前述遺構から出土した鉄滓の出土量を第24表にした。

### 【自然遺物】（第25表、写真図版74・75）

203号土坑と216号土坑から多様な貝殻が出土している。203号土坑は貝殻の範囲が2箇所あり、貝殻範囲1と貝殻範囲2とした。貝殻範囲1は上下に、貝殻範囲2は①～⑥に平面的に分け、さらに上・中・下に分けて取り上げを行った。貝殻からはアサリ、オニアサリ、ウチムラサキ、ムラサキイガイ、オオノガイ、シラトリモドキ？、アワビ、ユキノカサガイ、クボガイ、チヂミボラ？、ジャマガイ？、タマガイの仲間、ウニ、巻貝の仲間等の貝が確認できた。アサリの比率が突出して高い。216号土坑はムラサキイガイ？やウニの顎骨？が確認できた。詳細は第25表を参照して頂きたい。



第24表 鉄滓出土量一覧

遺構名	流出滓		炉内滓						
	B1	C1	A2	A2'	A' 2	B2	B2'	C2	C2'
17 竪	0.0	0.0	0.0	0.0	5.2	0.0	0.0	0.0	0.0
21 竪	0.0	0.0	17.5	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0
22 竪	0.0	0.0	58.3	0.0	73.0	0.0	0.0	0.0	0.0
23 竪	0.0	0.0	19.8	0.0	7.4	6.0	0.0	0.0	16.1
24 竪	0.0	0.0	64.7	0.0	30.0	26.8	0.0	60.0	53.4
26 竪	17.4	82.4	457.2	66.9	21.7	23.3	86.1	226.5	71.4
29 竪	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0
201 土	0.0	0.0	417.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
202 土	0.0	0.0	16.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
203 土	0.0	0.0	217.9	85.2	65.6	0.0	114.5	46.0	0.0
207 土	0.0	0.0	165.8	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
210 土	0.0	12.4	101.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
211 土	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
212 土	0.0	0.0	127.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	65.3
213 土	0.0	0.0	21.9	0.0	11.7	0.0	0.0	0.0	0.0
216 土	0.0	0.0	449.9	0.0	0.0	6.2	0.0	24.6	0.0
217 土	0.0	0.0	217.7	0.0	0.7	1.1	0.0	2.0	0.0
219 土	0.0	0.0	11.2	0.0	0.0	0.0	3.0	1.5	0.0
224 土	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.6
31 柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	17.4	94.8	2364.1	152.1	219.4	63.4	203.6	360.6	217.8

遺構名	炉底滓				炉壁付着滓			計
	A③	A'③	B③	C③	A④	A'④	C④	
17 竪	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.2
21 竪	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.1
22 竪	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	131.3
23 竪	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	49.3
24 竪	0.0	0.0	0.0	6.4	0.0	105.2	25.4	381.9
26 竪	5.6	93.6	0.0	553.2	138.0	0.0	53.8	1897.1
29 竪	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7
201 土	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	417.6
202 土	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.2
203 土	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	529.1
207 土	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	166.6
210 土	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	113.8
211 土	0.0	0.0	70.3	0.0	0.0	0.0	0.0	70.3
212 土	151.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	343.7
213 土	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.6
216 土	0.0	0.0	0.0	38.8	0.0	0.0	0.0	519.5
217 土	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	221.5
219 土	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.7
224 土	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.6
31 柱	79.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	79.4
合計	236.4	93.6	70.3	598.4	138.0	105.2	79.2	5024.2

単位はグラム

第25表 貝殻一覧（古代1）

遺構名	出土地点	出土層	貝種	右	左	重量(g)	備考欄	写真
203土	貝殻範囲1上側	1層下位	アサリ	29	28	右 40.86 左 33.36		-
203土	貝殻範囲1上側	1層下位	ムラサキイガイ	2	0	5.06		-
203土	貝殻範囲1上側	1層下位	アサリ破片			39.35		-
203土	貝殻範囲1上側	1層下位	巻貝破片			1.00		-
203土	貝殻範囲1上側	1層下位	黒破片			0.94	アサリか	-
203土	貝殻範囲1下側	1層下位	アサリ	7		8.80		-
203土	貝殻範囲1下側	1層下位	アサリ		9	18.12		-
203土	貝殻範囲1下側	1層下位	アサリ破片			24.28		-
203土	北側	埋土上位	アサリ	68	84	右 164.42 左 205.74		-
203土	北側	埋土上位	シラトリモドキ	1	0	0.79		-
203土	北側	埋土上位	オオノガイ	2	0	2.84		-
203土	北側	埋土上位	アサリ破片			51.93		-
203土	北側	埋土上位	ムラサキイガイ破片			3.04		-
203土	北側	埋土上位	アワビ破片			0.54		-
203土	北側	埋土上位	白破片			4.77		-
203土	北側	埋土上位	不明 破片			11.46	白・ぶ厚い	-
203土	北側	埋土上位	ウニのトゲ			0.09		74
203土	北側	埋土上位	不明			0.00		-
203土	貝殻範囲2①上側	1層下位	アサリ	10		15.58		-
203土	貝殻範囲2①上側	1層下位	アサリ		18	28.26		-
203土	貝殻範囲2①上側	1層下位	アサリ破片			20.06		-
203土	貝殻範囲2①下側	1層下位	アサリ	20		32.88		-
203土	貝殻範囲2①下側	1層下位	アサリ		21	30.22		-
203土	貝殻範囲2①下側	1層下位	アサリ破片			19.48		-
203土	貝殻範囲2②上側	1層下位	アサリ	165	148	右 331.04 左 313.34		-
203土	貝殻範囲2②上側	1層下位	アサリ破片			74.32		-
203土	貝殻範囲2②上側	1層下位	ムラサキイガイ破片			10.89		-
203土	貝殻範囲2②上側	1層下位	アワビ破片			3.15		-
203土	貝殻範囲2②上側	1層下位	巻貝破片			1.77	オレンジ	-
203土	貝殻範囲2②下側	1層下位	アサリ	168	184	右 317.53 左 362.90		-
203土	貝殻範囲2②下側	1層下位	シラトリモドキ	8	9	8.39		-
203土	貝殻範囲2②下側	1層下位	アワビ		4	2.97		-
203土	貝殻範囲2②下側	1層下位	オオノガイ	10	10	50.86		-
203土	貝殻範囲2②下側	1層下位	巻貝		1	5.47	白っぽい	74
203土	貝殻範囲2②下側	1層下位	巻貝(ツルツル)		1	2.14		-
203土	貝殻範囲2②下側	1層下位	(ムラサキイガイ)	3	4	15.13		-
203土	貝殻範囲2②下側	1層下位	アサリ破片			111.19		-
203土	貝殻範囲2②下側	1層下位	ウチムラサキ (オオアサリ)破片			38.20		-
203土	貝殻範囲2②下側	1層下位	アワビ破片			21.12		-
203土	貝殻範囲2②下側	1層下位	ムラサキイガイ			26.57		-
203土	貝殻範囲2②下側	1層下位	(ムラサキイガイ)破片			26.57		-
203土	貝殻範囲2②下側	1層下位	オオノガイ破片			12.84		-
203土	貝殻範囲2②下側	1層下位	巻貝破片			0.92		-
203土	貝殻範囲2②下側	1層下位	白破片			30.65		-
203土	貝殻範囲2②下側	1層下位	紫破片			14.71		-
203土	貝殻範囲2③上側	1層下位	アサリ	14	17	右 32.60 左 36.92		-
203土	貝殻範囲2③上側	1層下位	オオノガイ			13.19		-
203土	貝殻範囲2③上側	1層下位	アサリ破片			26.49		-
203土	貝殻範囲2③上側	1層下位	オオノガイ破片			12.57		-
203土	貝殻範囲2③上側	1層下位	アワビ破片			15.72		-
203土	貝殻範囲2③下側	1層下位	アサリ	2		0.66		-
203土	貝殻範囲2③下側	1層下位	(ムラサキイガイ)			1.41		-

第25表 貝殻一覧（古代2）

遺構名	出土地点	出土層	貝種	右	左	重量(g)	備考欄	写真
203土	貝殻範囲2③下側	1層下位	オオノガイ	1	1	3.59		-
203土	貝殻範囲2③下側	1層下位	アサリ破片			3.03		-
203土	貝殻範囲2③下側	1層下位	オオノガイ破片			5.68		-
203土	貝殻範囲2③下側	1層下位	アワビ破片			2.06		-
203土	貝殻範囲2③下側	1層下位	白破片			1.81		-
203土	貝殻範囲2④上側	1層下位	アサリ	111	132	右 203.40 左 225.00		-
203土	貝殻範囲2④上側	1層下位	(ムラサキイガイ)	1	1	2.74		-
203土	貝殻範囲2④上側	1層下位	アサリ破片			108.30		-
203土	貝殻範囲2④上側	1層下位	ムラサキイガイ破片			3.13		-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	アサリ	165	162	1020.84		73
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	シラトリモドキ	10	8	0.75		-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	オオノガイ	1		3.57		-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	オオノガイ		1	5.27		-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	(ムラサキイガイ)	3	3	20.18		-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	タマガイの仲間	1		9.42		-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	タマガイの仲間 (エゾタマガイ)	1		10.92		74
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	ジャマガイ?	1		3.43		74
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	アサリ (写真以外)			右 788.82 左 840.93	カケ含む	-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	アサリ破片			220.45		-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	シラトリモドキ破片			0.75		-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	オオノガイ破片			15.39		-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	ムラサキイガイ破片			21.69		-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	ウチムラサキ (オオアサリ) 破片			13.10		-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	巻貝破片			3.16		-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	不明(黒)破片			1.79		-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	アワビ破片			3.53		-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	紫破片			7.05		-
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	アサリ	3	4	右 2.80 左 4.84		-
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	シラトリモドキ	3	4	3.92		-
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	(ムラサキイガイ)	1	0	1.88		-
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	オオノガイ	3	4	34.48		-
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	アワビ		8	23.52		-
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	クボガイ		1	3.41		-
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	ムラサキイガイ	2	3	36.76		-
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	巻貝(黒)		1	3.48		-
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	巻貝(オレンジ)		2	1.83	チザミボラ?	74
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	巻貝(ピンク)		1	3.74		-
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	アサリ破片			2.05		-
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	アワビ破片			19.52		-
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	クボガイ破片			0.52		-
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	巻貝(黒)破片			1.23		-
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	巻貝(オレンジ)			4.74		-
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	白破片			14.02		-
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	不明 破片			6.00		-
203土	貝殻範囲2⑤上側	1層下位	アサリ	255	344	右 571.70 左 703.36		-
203土	貝殻範囲2⑤上側	1層下位	シラトリモドキ			1.23		-
203土	貝殻範囲2⑤上側	1層下位	ムラサキイガイ	2	1	14.41		-
203土	貝殻範囲2⑤上側	1層下位	巻貝(オレンジ)		1	4.76		-
203土	貝殻範囲2⑤上側	1層下位	オオノガイ	0	2	15.60		-
203土	貝殻範囲2⑤上側	1層下位	アサリ破片			208.70		-
203土	貝殻範囲2⑤上側	1層下位	ムラサキイガイ破片			22.17		-
203土	貝殻範囲2⑤上側	1層下位	オオノガイ破片			1.39		-

第25表 貝殻一覧（古代3）

遺構名	出土地点	出土層	貝種	右	左	重量(g)	備考欄	写真
203土	貝殻範囲2⑤上側	1層下位	巻貝(オレンジ)破片			0.64		-
203土	貝殻範囲2⑤上側	1層下位	オニアサリ破片			0.68		-
203土	貝殻範囲2⑤上側	1層下位	アワビ破片			4.89		-
203土	貝殻範囲2⑤上側	1層下位	不明 破片			2.99		-
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	アサリ	603	601	右 1785.73 左 1713.91		-
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	オオノガイ	16	23	186.55		74
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	オニアサリ	1	3	22.18		73
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	ウチムラサキ (オオアサリ)	3		29.05		73
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	シラトリモドキ	8	5	12.06		-
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	巻貝			0.08		-
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	アワビ		1	8.76		74
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	(ムラサキイガイ)	9	5	63.03		-
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	アサリ破片			337.57		-
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	ムラサキイガイ破片			88.17		-
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	アワビ破片			21.30		-
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	ウチムラサキ (オオアサリ)破片			2.86		-
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	オオノガイ破片			122.61		-
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	巻貝破片			10.04		-
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	白破片			12.77		-
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	不明 破片			3.03	黒っぽい	-
203土	貝殻範囲2⑤下側	1層下位	アサリ	25	23	右 47.68 左 34.02		-
203土	貝殻範囲2⑤下側	1層下位	オオノガイ	9	10	95.70		-
203土	貝殻範囲2⑤下側	1層下位	(ムラサキイガイ)	3	2	13.58		-
203土	貝殻範囲2⑤下側	1層下位	シラトリモドキ	20	12	18.13		-
203土	貝殻範囲2⑤下側	1層下位	アワビ		4	16.61		-
203土	貝殻範囲2⑤下側	1層下位	ウニ		2	1.32		74
203土	貝殻範囲2⑤下側	1層下位	アサリ破片			14.09		-
203土	貝殻範囲2⑤下側	1層下位	ムラサキイガイ破片			24.05		-
203土	貝殻範囲2⑤下側	1層下位	ウチムラサキ (オオアサリ)			14.35		-
203土	貝殻範囲2⑤下側	1層下位	アワビ破片			16.08		-
203土	貝殻範囲2⑤下側	1層下位	白破片			54.12		-
203土	貝殻範囲2⑤下側	1層下位	紫破片			11.16		-
203土	貝殻範囲2⑤下側	1層下位	不明 破片			1.16	巻貝?	-
203土	貝殻範囲2④下側	1層下位	ムラサキイガイ破片			41.42		-
203土	貝殻範囲2⑥上側	1層下位	アサリ	91	68	右 228.50 左 140.88		-
203土	貝殻範囲2⑥上側	1層下位	オニアサリ			3.79		-
203土	貝殻範囲2⑥上側	1層下位	オオノガイ			4.17		-
203土	貝殻範囲2⑥上側	1層下位	(ムラサキイガイ)			1.24		-
203土	貝殻範囲2⑥上側	1層下位	アサリ破片			66.58		-
203土	貝殻範囲2⑥上側	1層下位	アワビ破片			1.14		-
203土	貝殻範囲2⑥上側	1層下位	白破片			5.85		-
203土	貝殻範囲2⑥上側	1層下位	紫破片			2.87		-
203土	貝殻範囲2⑥上側	1層下位	ユキノカサガイ			0.72		74
203土	貝殻範囲2⑥中側	1層下位	アサリ	154	156	右 476.43 左 478.80		-
203土	貝殻範囲2⑥中側	1層下位	(ムラサキイガイ)	4	5	16.75		-
203土	貝殻範囲2⑥中側	1層下位	シラトリモドキ	1	1	1.00		-
203土	貝殻範囲2⑥中側	1層下位	オオノガイ	7	8	63.16		-
203土	貝殻範囲2⑥中側	1層下位	巻貝		1	5.92		-
203土	貝殻範囲2⑥中側	1層下位	オニアサリ		1	6.30		-
203土	貝殻範囲2⑥中側	1層下位	ムラサキイガイ	1	2	6.04		-
203土	貝殻範囲2⑥中側	1層下位	アサリ破片			112.45		-

第25表 貝殻一覧（古代4）

遺構名	出土地点	出土層	貝種	右	左	重量(g)	備考欄	写真
203土	貝殻範囲2⑥中側	1層下位	ムラサキイガイ破片			20.34		-
203土	貝殻範囲2⑥中側	1層下位	オオノガイ破片			57.39		-
203土	貝殻範囲2⑥中側	1層下位	アワビ破片			9.31		-
203土	貝殻範囲2⑥中側	1層下位	ウチムラサキ (オオアサリ)破片			10.81		73
203土	貝殻範囲2⑥中側	1層下位	白破片			21.32		-
203土	貝殻範囲2⑥下側	1層下位	アサリ	12	12	右 22.39 左 20.60		-
203土	貝殻範囲2⑥下側	1層下位	(ムラサキイガイ)		1	2.81		-
203土	貝殻範囲2⑥下側	1層下位	オオノガイ	6	7	52.22		-
203土	貝殻範囲2⑥下側	1層下位	ウチムラサキ (オオアサリ)	1		47.66		-
203土	貝殻範囲2⑥下側	1層下位	不明			0.29	歯?	-
203土	貝殻範囲2⑥下側	1層下位	アサリ破片			7.70		-
203土	貝殻範囲2⑥下側	1層下位	(ムラサキイガイ)破片			21.93		-
203土	貝殻範囲2⑥下側	1層下位	アワビ破片			17.06		-
203土	貝殻範囲2⑥下側	1層下位	オオノガイ破片			67.95		-
203土	貝殻範囲2⑥下側	1層下位	オニアサリ破片			0.70		-
203土	貝殻範囲2⑥下側	1層下位	白貝殻破片			5.50		-
203土	貝殻範囲2⑥下側	1層下位	不明 破片			0.62	小さな巻貝含む	-
203土	貝殻範囲1 下側	1層下位	選別不能			0.20		-
203土	貝殻範囲2①下側	1層下位	貝殻破片			0.89		-
203土	貝殻範囲2①上側	1層下位	貝殻破片			0.11		-
203土	貝殻範囲1 上側	1層下位	貝殻破片			0.49		-
203土	貝殻範囲1 上側	1層下位	アサリ破片			3.03		-
203土	貝殻範囲2③上側	1層下位	貝殻破片			0.40		-
203土	貝殻範囲2③下側	1層下位	貝殻破片			0.40		-
203土	貝殻範囲2③下側	1層下位	選別不能			0.09		-
203土	貝殻範囲2④上側	1層下位	貝殻破片			0.48		-
203土	貝殻範囲2④上側	1層下位	アサリ破片			2.51		-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	アワビ破片			0.67		-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	紫破片			0.56		-
203土	貝殻範囲2④中側	1層下位	貝破片			2.10		-
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	アワビ破片			0.60		-
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	ムラサキイガイ破片			0.67		-
203土	貝殻範囲2⑤中側	1層下位	アサリ破片			0.82		-
203土	貝殻範囲2⑥中側	1層下位	貝殻破片			1.29		-
203土	貝殻範囲2②上側	1層下位	貝殻破片			1.11		-
203土	北側	埋土上位	貝殻破片			0.40		-
216土	E	底面直上	骨	1		0.05		-
216土	W	埋土中位	白破片			3.30		-
216土	W	埋土中位 (炉壁含層)	白破片			3.62	(ムラサキイガイ)+骨?	-

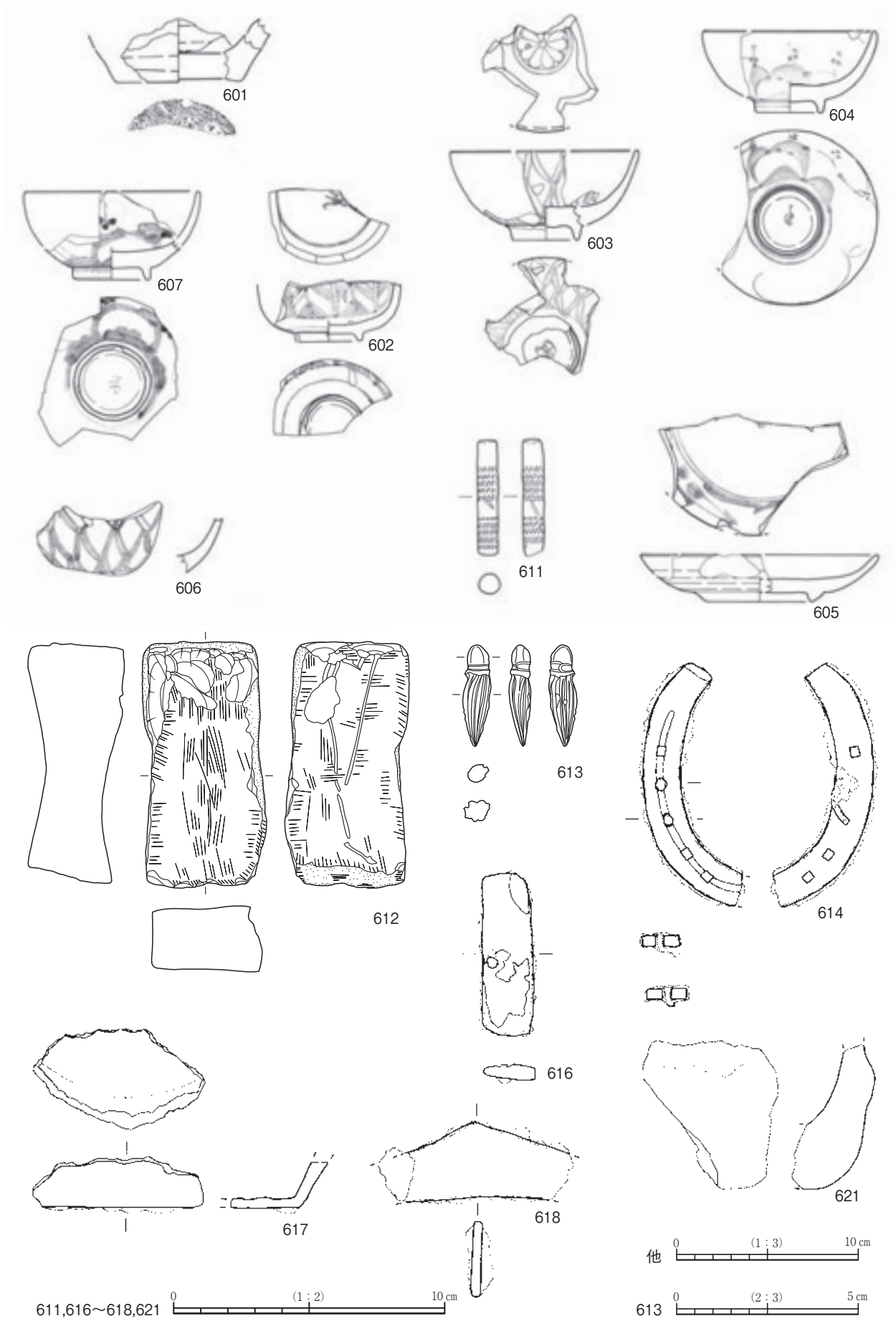
## (4) 近世の遺物

## 【陶器】(第167図、写真図版76)

601は産地を特定できないが、東北産と考えられる鉄釉の施された鉢?である。

## 【磁器】(第167図、写真図版76)

602～607は肥前産もしくは肥前系の磁器である。602は碗の胴～底部片で、矢羽根文が描かれている。二次焼成を受けて、色がくすんでいる。603は碗の口縁～底部の断片的な資料で、外面には二重網目文、見込みには菊花文が描かれている。604は「くらわんか碗」と呼称される碗で、雪輪草花文が描かれている。605は菊文と考えられる文様が描かれた皿である。606は碗の胴部片で、二重網



第167図 近世・時代不明の遺物



目文が描かれている。607は碗の胴下半から底部片で、雪輪草花文が描かれている。602～605は1号道路状遺構から、606・607は遺構外から出土したものである。

第26表 陶器・磁器観察表（近世）

掲載No.	遺構名	出土地点	層細分	種別	器種	部位	備考	図版	写真 図版
601	1道	北側②	硬化範囲	陶器	鉢?	底	東北産? 19C? 鉄釉	167	76
602	1道	北側	1層	磁器	碗	胴底	肥前産 18～19C 矢羽根文 被熱	167	76
603	1道	最北端	1層(黒)	磁器	碗	底	肥前系 19C 二重網目文 見込み菊花文	167	76
604	1道	北側	1層	磁器	碗	口底	肥前産 18C後 雪輪草花文	167	76
605	1道		1層	磁器	皿	口底	肥前産 18C後 菊文? 見込み五弁花	167	76
606	3区	MT103	I～II層	磁器	碗	胴	肥前産 18C後 二重網目文 被熱	167	76
607	1区	斜面上南側	I層	磁器	碗	口底	肥前系 18～19C 雪輪草花文	167	76

## 【金属製品】

608は2区のI層から出土した鉄銭である。文字の判読はできなかった。直径2.65cm、厚さ0.3cm、重量2.3gである。

## (5) 時代不明の遺物

## 【土製品】(第167図、写真図版76)

611は2区西側のI層から出土した丸棒状の土製品である。略完形のもので、外面に5×2段の刻みが施されている。長さ4.3cm、直径0.8cmである。

## 【石器】(第167図、写真図版76)

612は四角く面取りされた砂岩製(砂岩2)の砥石である。形状は古代の砥石と類似するが、遺構外(3区：I～II層)からの出土であるため、帰属時代の特定はできなかった。

## 【石製品】(第167図、写真図版76)

613は玉随製(玉随1)の石製品である。8条の溝が刻まれ、ガラス製万年筆のペン先のような形状を呈している。遺構外(3区：I～II層)からの出土であるため、帰属時代の特定はできなかった。

## 【金属製品】(第167図、写真図版76)

614・615は蹄鉄である。616は平面形が短冊形をした鉄製品である。孔が1箇所確認できる。617は鉄鍋の底部片である。618は火打金である。619は蓋の一部と考えられる鉄製品である。620は鉄製環である。

第27表 金属製品観察表（時代不明）

掲載No.	遺構名	出土地点・層位	器種	法量(cm)	重量(g)	備考	図版	写真 図版
614	1道	南側② 周溝埋土	蹄鉄	(13.5)・(5.9)・(1.25)	165.2		167	76
615	1道	北側埋土一括	蹄鉄	(12.8)・(5.4)・(0.9)	114.3		-	76
616	2区	II～III層	不明 (板状)	6.1・2.0・0.7	17.1		167	76
617	1区	II層上	鍋	∕・(1.8)・(0.5)	45.6		167	76
618	2区	I～II層	火打金	(7.1)・(2.9)・(1.8)	24.4		167	76
619	2区	東側 II層	蓋?	(4.5)・(3.8)・(1.6)	35.2		-	76
620	3区	5段目斜面上西 I層	不明 (環状)	(8.05)・(4.25)・(0.7)	20.5		-	76

## 【自然遺物】(第28表)

11号不明遺構から貝殻類が出土している。

第28表 貝殻一覧(時代不明)

遺構名	出土地点	出土層	貝種	右	左	重量(g)	備考欄	写真
11不		1層下位	アサリ	21	18	右 73.19 左 73.79		-
11不		1層下位	(ムラサキイガイ)			右 2.58 左 5.00		-
11不		1層下位	オオノガイ	5	2	26.18		-
11不		1層下位	アワビ			9.75		-
11不		1層下位	アサリ破片			13.94		-
11不		1層下位	オオノガイ破片			20.98		-
11不		1層下位	(ムラサキイガイ)破片			15.71		-
11不		1層下位	青貝殻			35.56	ムラサキイガイ?	-
11不		埋土上位	アサリ	5	6	26.09		-
11不		埋土上位	(ムラサキイガイ)	4	2	6.82		-
11不		埋土上位	白貝殻破片			11.00		-
11不		埋土上位	青貝殻破片			5.97	ムラサキイガイ?	-
11不		埋土上位	(ムラサキイガイ)破片			5.21		-
11不		埋土	(ムラサキイガイ)	7	6	55.53		-
11不		埋土	青貝殻破片			6.29		-
11不		埋土上位	ウニのトゲ			0.35		-
11不		埋土上位	貝殻破片			0.92		-
11不		1層	ウニのトゲ			0.06		-
11不		1層	貝殻破片			2.30		-
11不		埋土	貝殻破片			0.44		-

## 【その他】(第167図、写真図版76)

上記以外の時代を特定できない遺物を一括して記載する。621は埴塙と考えられるものの一部である。重量は35.9 gである。11号不明遺構(1層)から出土したため、帰属時期を特定するに至らなかった。

## VI 自然科学分析

### 放射性炭素年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

#### (1) 試料

浜川目沢田Ⅱ遺跡は、山田湾に向かって延びる2つの丘とその間の谷が調査範囲である。これまでの発掘調査で、縄文時代中期には集落として、平安時代には鉄作りの場として利用されてきたと考えられている。今回年代測定を行う試料は、No.1～10の10点である。試料の詳細は結果と合わせて表1に示す。また分析試料の観察結果も表1に記す。

#### (2) 分析方法

炭化材は、形状を観察し、小さなものは全量、大きなものは最外年輪付近から約50mgの年代測定用試料を切り出す。炭化材に付着する土壌を、できるだけ取り除く。塩酸(HCl)により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム(NaOH)により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理 AAA: Acid Alkali Acid)。濃度はHCl、NaOH共に1 mol/Lである。ただし、試料が脆弱場合は、炭化物の損耗を小さくするため、アルカリ溶液の濃度を下げる(AaAと記載)。貝は表面を洗浄したあと、塩酸で全体の半分程度を溶かし、中心部分のみを測定試料とする(エッチング処理 Edg)。測定には試料を高温で燃焼させ、熱分解によって生じた二酸化炭素を用いる。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化(鉄を触媒とし水素で還元する)はElementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1 mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC社製)を用いて、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局(NIST)から提供される標準試料(HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料(IAEA-C6等)、バックグラウンド試料(IAEA-C1等)の測定も行う。 $\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定し、基準試料からの

表1 放射性炭素年代測定結果

試料名	形状	樹皮	年輪数	採取位置	樹種	処理法	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$	年代値(BP)	Code	No.	
No.1	26堅 炉4付近 3a層	ミカン割状	無	49年	外側20年	コナラ節	1M(AAA)	-30.4±0.3	955±15	pal-10103	PLD-32663
No.2	5堅 炭1 炉3層下位	破片複数	無	2年	1片	クリ	1M(AAA)	-30.2±0.3	4090±25	pal-10104	PLD-32664
No.3	23堅 炉2 炭1 床面(炉検出面)	種子?	-	-	全量	不明	1M(AAA)	-28.0±0.2	925±20	pal-10105	PLD-32665
No.4	8堅 C2 2層	土塊付着	無	2~3年	全量	クリ	0.1M(AaA)	-25.8±0.6	4050±30	pal-10443	TKA-17493
No.5	22堅 2層	ミカン割状	無	6~7年	全量	カバノキ属?	1M(AAA)	-25.1±0.6	1155±20	pal-10444	TKA-17494
No.6	17堅 炉中央 焼土直上	破片6個	無	1年	2片	クリ	1M(AAA)	-25.7±0.6	4070±25	pal-10445	TKA-17495
No.7	4堅 炉埋設土器内	土塊付着	無	1年	全量	クリ	0.1M(AaA)	-24.9±0.6	3660±25	pal-10446	TKA-17496
No.8	6堅 炭1 炉埋土	破片複数	無	1年	2片	クリ	0.01M(AaA)	-24.3±0.5	3935±25	pal-10447	TKA-17497
No.9	221土 炭 S9層(焼土層)	破片	-	-	全量	イネ科	1M(AAA)	-10.0±0.6	895±20	pal-10448	TKA-17498
No.10	203土 貝殻範囲2 ㊟中側	貝	-	-	-	アサリ 右殻	Edg	1.6±0.5	1385±20	pal-10449	TKA-17499

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であることを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。
- 4) AAAは、酸、アルカリ、酸処理、AaAはアルカリ濃度を薄くした処理を示す。
- 5) Edgは塩酸によるエッチング処理を示す。

表2 暦年較正結果

試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代						Code No.	
		年代値			相対比	中央値			
No.1	953±17	$\sigma$	cal AD 1030 - cal AD 1047	cal BP 920 - 903	0.303	calAD 1099	pal- 10107	PLD- 32663	
			cal AD 1090 - cal AD 1121	cal BP 860 - 829	0.567				
			cal AD 1139 - cal AD 1148	cal BP 811 - 802	0.130				
		$2\sigma$	cal AD 1024 - cal AD 1055	cal BP 926 - 895	0.288				
			cal AD 1077 - cal AD 1153	cal BP 873 - 797	0.712				
No.2	4088±24	$\sigma$	cal BC 2834 - cal BC 2818	cal BP 4783 - 4767	0.163	calBC 2632	pal- 10108	PLD- 32664	
			cal BC 2662 - cal BC 2647	cal BP 4611 - 4596	0.134				
			cal BC 2636 - cal BC 2578	cal BP 4585 - 4527	0.703				
		$2\sigma$	cal BC 2853 - cal BC 2812	cal BP 4802 - 4761	0.185				
			cal BC 2745 - cal BC 2726	cal BP 4694 - 4675	0.033				
			cal BC 2696 - cal BC 2570	cal BP 4645 - 4519	0.762				
			cal BC 2513 - cal BC 2503	cal BP 4462 - 4452	0.020				
No.3	927±21	$\sigma$	cal AD 1044 - cal AD 1058	cal BP 906 - 892	0.187	calAD 1096	pal- 10109	PLD- 32665	
			cal AD 1064 - cal AD 1067	cal BP 886 - 883	0.022				
			cal AD 1073 - cal AD 1101	cal BP 877 - 849	0.350				
		$2\sigma$	cal AD 1119 - cal AD 1154	cal BP 831 - 796	0.440				
			cal AD 1036 - cal AD 1158	cal BP 914 - 792	1.000				
No.4	4049±31	$\sigma$	cal BC 2620 - cal BC 2564	cal BP 4569 - 4513	0.575	calBC 2572	pal- 10443	TKA- 17493	
			cal BC 2533 - cal BC 2494	cal BP 4482 - 4443	0.425				
			$2\sigma$	cal BC 2834 - cal BC 2818	cal BP 4783 - 4767				0.043
			cal BC 2663 - cal BC 2644	cal BP 4612 - 4593	0.033				
			cal BC 2638 - cal BC 2476	cal BP 4587 - 4425	0.923				
No.5	1157±21	$\sigma$	cal AD 778 - cal AD 790	cal BP 1172 - 1160	0.128	calAD 880	pal- 10444	TKA- 17494	
			cal AD 809 - cal AD 813	cal BP 1141 - 1137	0.026				
			cal AD 826 - cal AD 841	cal BP 1124 - 1109	0.104				
			cal AD 863 - cal AD 899	cal BP 1087 - 1051	0.453				
		$2\sigma$	cal AD 923 - cal AD 947	cal BP 1027 - 1003	0.288				
			cal AD 776 - cal AD 794	cal BP 1174 - 1156	0.111				
			cal AD 798 - cal AD 903	cal BP 1152 - 1047	0.614				
			cal AD 918 - cal AD 964	cal BP 1032 - 986	0.275				
No.6	4069±23	$\sigma$	cal BC 2829 - cal BC 2823	cal BP 4778 - 4772	0.047	calBC 2603	pal- 10445	TKA- 17495	
			cal BC 2628 - cal BC 2571	cal BP 4577 - 4520	0.864				
			cal BC 2513 - cal BC 2504	cal BP 4462 - 4453	0.088				
		$2\sigma$	cal BC 2837 - cal BC 2815	cal BP 4786 - 4764	0.093				
			cal BC 2673 - cal BC 2563	cal BP 4622 - 4512	0.765				
			cal BC 2533 - cal BC 2494	cal BP 4482 - 4443	0.142				
No.7	3659±23	$\sigma$	cal BC 2122 - cal BC 2093	cal BP 4071 - 4042	0.348	calBC 2032	pal- 10446	TKA- 17496	
			cal BC 2042 - cal BC 2012	cal BP 3991 - 3961	0.398				
			cal BC 1999 - cal BC 1978	cal BP 3948 - 3927	0.254				
		$2\sigma$	cal BC 2133 - cal BC 2080	cal BP 4082 - 4029	0.331				
			cal BC 2061 - cal BC 1953	cal BP 4010 - 3902	0.669				
No.8	3934±23	$\sigma$	cal BC 2475 - cal BC 2448	cal BP 4424 - 4397	0.490	calBC 2431	pal- 10447	TKA- 17497	
			cal BC 2443 - cal BC 2440	cal BP 4392 - 4389	0.025				
			cal BC 2420 - cal BC 2405	cal BP 4369 - 4354	0.177				
			cal BC 2378 - cal BC 2350	cal BP 4327 - 4299	0.308				
		$2\sigma$	cal BC 2548 - cal BC 2540	cal BP 4497 - 4489	0.011				
			cal BC 2489 - cal BC 2342	cal BP 4438 - 4291	0.989				
No.9	897±20	$\sigma$	cal AD 1049 - cal AD 1084	cal BP 901 - 866	0.532	calAD 1124	pal- 10448	TKA- 17498	
			cal AD 1124 - cal AD 1136	cal BP 826 - 814	0.125				
			cal AD 1150 - cal AD 1169	cal BP 800 - 781	0.299				
			cal AD 1177 - cal AD 1181	cal BP 773 - 769	0.043				
		$2\sigma$	cal AD 1044 - cal AD 1101	cal BP 906 - 849	0.461				
			cal AD 1118 - cal AD 1208	cal BP 832 - 742	0.539				
No.10	1386±21	$\sigma$	cal AD 996 - cal AD 1044	cal BP 954 - 906	1.000	calAD 1018	pal- 10449	TKA- 17499	
		$2\sigma$	cal AD 951 - cal AD 1070	cal BP 999 - 880	1.000				

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1を使用。
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、較正曲線やプログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は $\sigma$ は68%、 $2\sigma$ は95%である。
- 5) 相対比は、 $\sigma$ 、 $2\sigma$ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。
- 6) 中央値は、確率分布図の面積が二分される値を年代値に換算したものの。

ずれを千分偏差(‰)で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma: 68%)に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う(Stuiver & Polach, 1977)。また、暦年較正用に1桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウェアはCalib7.1を用いる。較正曲線はIntcal13 (Reimer et al., 2013)を用いる。

### (3) 結 果

結果を表1に示す。No.4、No.7、No.8の3試料は脆弱なため、AAA処理においてアルカリ溶液の濃度を既定値まで上げることができなかった(表中にはAaAと記載)。しかし、いずれの試料も年代測定を行うのに十分な炭素を回収することができた。

同位体補正を考慮した年代値は、No.1(26号竪穴建物跡)は $955 \pm 15$ BP、No.2(5号竪穴建物跡)は $4090 \pm 25$ BP、No.3(23号竪穴建物跡)は $925 \pm 20$ BP、No.4(8号竪穴建物跡)は $4050 \pm 30$ BP、No.5(22号竪穴建物跡)は $1155 \pm 20$ BP、No.6(17号竪穴建物跡)は $4070 \pm 25$ BP、No.7(4号竪穴建物跡)は $3660 \pm 25$ BP、No.8(6号竪穴建物跡)は $3935 \pm 25$ BP、No.9(221号土坑)は $895 \pm 20$ BP、No.10(203号土坑)は $1385 \pm 20$ BPである。なお、No.10はアサリ右殻であるため海洋水の影響を受ける。そのため炭素循環の違いから400年ほど古い値が出ることから(リザーバー効果)、測定値よりも400年ほど新しいと考えた方が無難である(後述する暦年構成ではリザーバー効果の補正も行われている)。

暦年較正とは、大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の $^{14}\text{C}$ 濃度の変動、及び半減期の違い( $^{14}\text{C}$ の半減期 $5730 \pm 40$ 年)を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正のもとになる直線は暦時代がわか

っている遺物や年輪(年輪は細胞壁のみなので、形成当時の $^{14}\text{C}$ 年代を反映している)等を用いて作られており、最新のものは2013年に発表されたIntcal13(Reimer et al., 2013)である(ただし、No.10は海洋由来のためMarine13を用いる)。なお、年代測定値に関しては、国際的な取り決めにより、測定誤差の大きさによって値を丸めるのが普通であるが(Stuiver & Polach 1977)、将来的な較正曲線ならびにソフトウェアの更新に伴う比較、再計算がしやすいように、表には丸めない値(1年単位)を記し(表2)、文章中では丸めた値を記す。 $2\sigma$ の値は、No.1がcalAD1020~1150、No.2が4800~4450calBP、No.3がcalAD1040~1160、No.4が4785~4425calBP、No.5がcalAD780~950、No.6が4785~4445calBP、No.7が4080~3900calBP、No.8が4495~4290calBP、No.9がcalAD1045~1210、No.10がcalAD951~1070である。No.1、No.3、No.5、No.9、No.10が平安時代頃、No.2、No.4、No.6、No.7、No.8が縄文時代中期頃の年代を示す(表2、図1)。

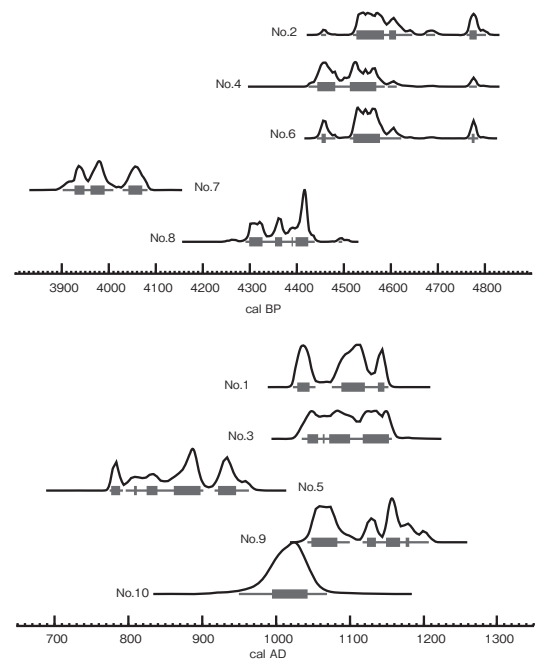


図1 暦年較正結果

### 引用文献

- Reimer PJ, Bard E, Bayliss A, Beck JW, Blackwell PG, Bronk Ramsey C, Buck CE, Cheng H, Edwards RL, Friedrich M, Grootes PM, Guilderson TP, Hafidason H, Hajdas I, Hatté C, Heaton TJ, Hoffmann DL, Hogg AG, Hughen KA, Kaiser KF, Kromer B, Manning SW, Niu M, Reimer RW, Richards DA, Scott EM, Southon JR, Staff RA, Turney CSM, van der Plicht J. . 2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon, 55, 1869-1887.
- Stuiver M, & Polach AH, 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of  $^{14}\text{C}$  Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

## 黒曜石産地同定

(株)第四紀 地質研究所

### (1) 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置(日本電子製J S X-3200)で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法(F P法)による自動定量計算システムが採用されており、6 C~92 Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源(最大30kV、4 mA)の採用で微量試料~最大290mm φ×80mm Hまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクF P法でおこなった。F P法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルクF P法(スタンダードレス方式)、分析雰囲気=真空、X線管ターゲット素材=R h、加速電圧=30kV、管電流=自動制御、分析時間=200秒(有効分析時間)である。

分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量=0と仮定し、酸化物の重量%を100%にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量%では小数点以下3~4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度(重量%)でSiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-TiO<sub>2</sub>, K<sub>2</sub>O-CaOの各相関図、Rb-Srは積分強度の相関図の4組の組み合わせで図を作成した。

### (2) 分析結果

第1表化学分析表には分析結果に基づいて原産地も記載してある。

- 1) 小赤沢系とは小赤沢、花泉、水沢の礫層中の黒曜石の採石地の化学組成が同じものであるので一連のものとして小赤沢系とした。
- 2) 第1表に示すように、浜川目沢田Ⅱ遺跡出土の剥片は強く被熱している。原産地は第2図Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>図と第4図Rb-Sr図の相関から長野県の蓼科系のものと判断される。

### 引用文献

- 井上 巖 (2000) 東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光X線分析(XRF) 北越考古学、第11号、23-38/  
 井上 巖 (2001) テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言、軽石学雑誌、第7号 23-51.  
 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 関東・中部・東海編  
 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 東北・北陸編  
 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 北海道編  
 井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石写真集

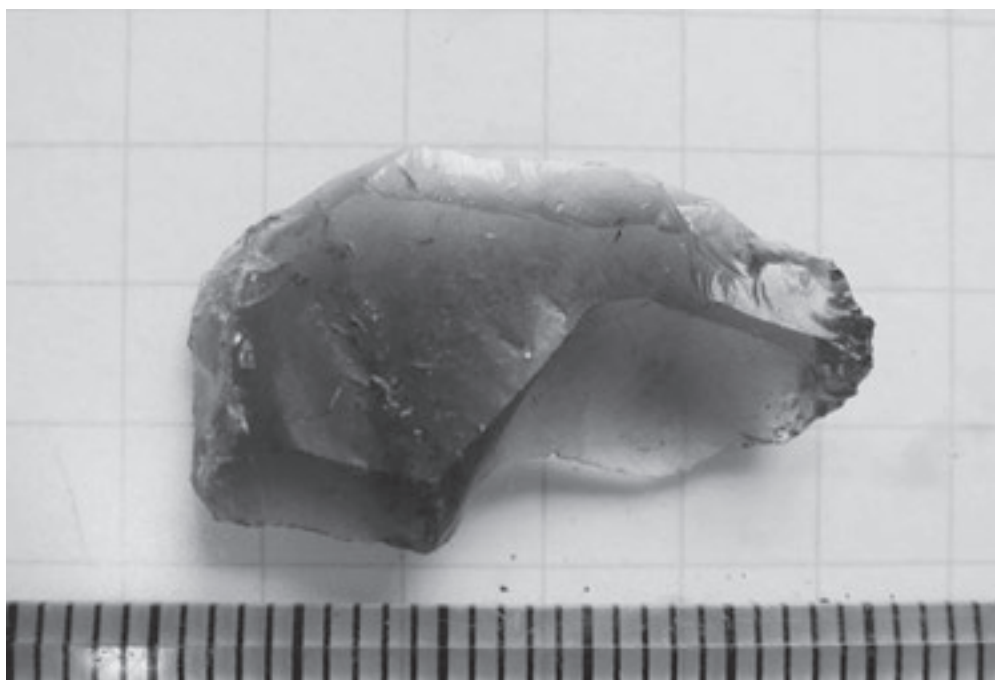


第 1 表 化学分析表

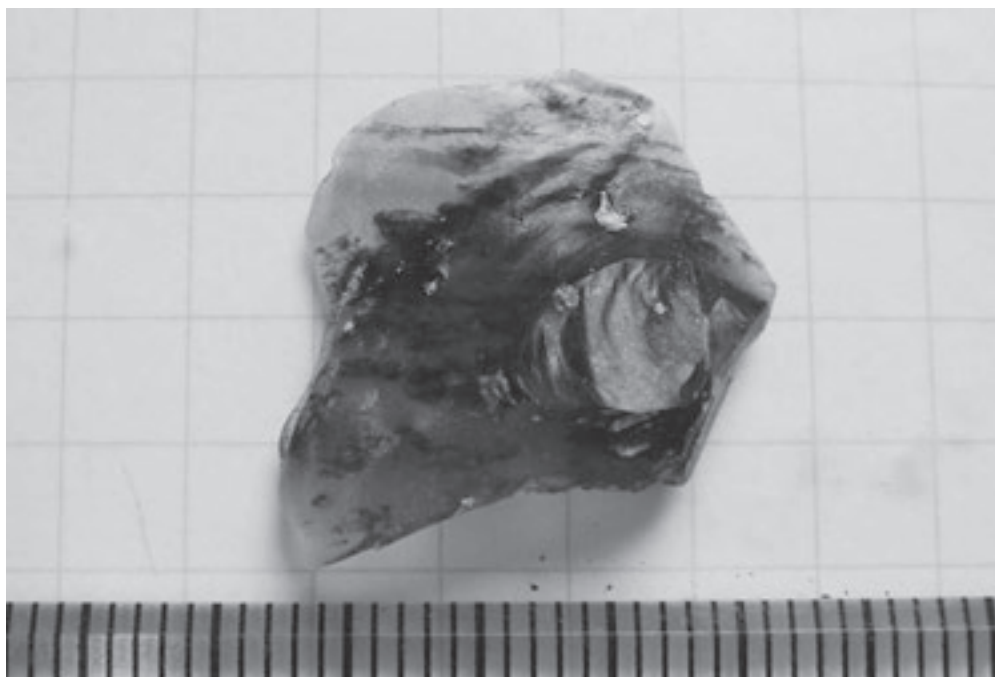
試料名	Na <sub>2</sub> O	MgO	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	SiO <sub>2</sub>	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	CaO	TiO <sub>2</sub>	MnO
HA-1	2.4090	0.0000	12.1081	75.7803	0.5212	6.7633	1.0486	0.1608	0.1846
HA-2	3.2807	0.0000	13.7874	74.5878	0.4133	5.7419	0.7530	0.1759	0.1684

試料名	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Rb <sub>2</sub> O	SrO	Y <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	ZrO <sub>2</sub>	Total	Rb (I)	Sr (I)
HA-1	0.9551	0.0264	0.0179	0.0064	0.0183	100.0000	1414	934
HA-2	1.0463	0.0169	0.0156	0.0026	0.0100	99.9998	1034	933

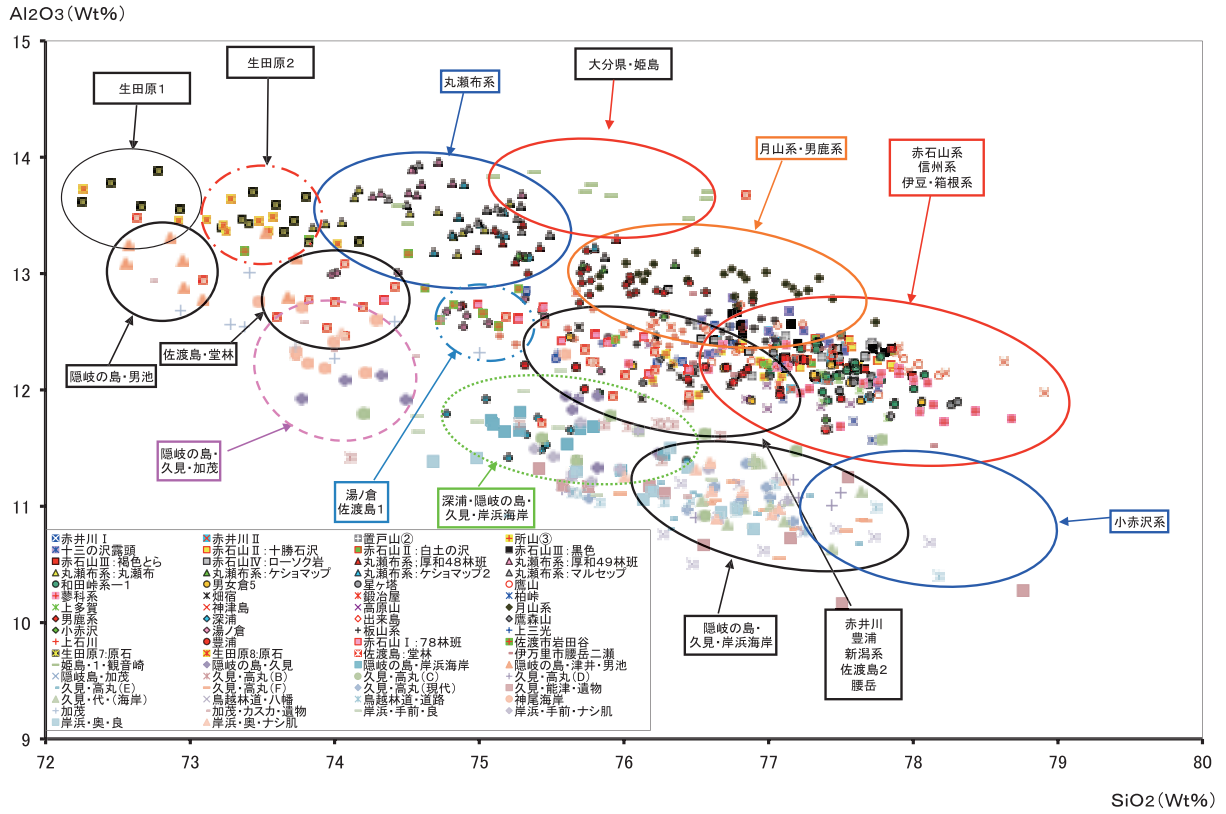
試料名	原産地	備考
HA-1	強被熱蓼科系	剥片
HA-2	強被熱蓼科系	剥片



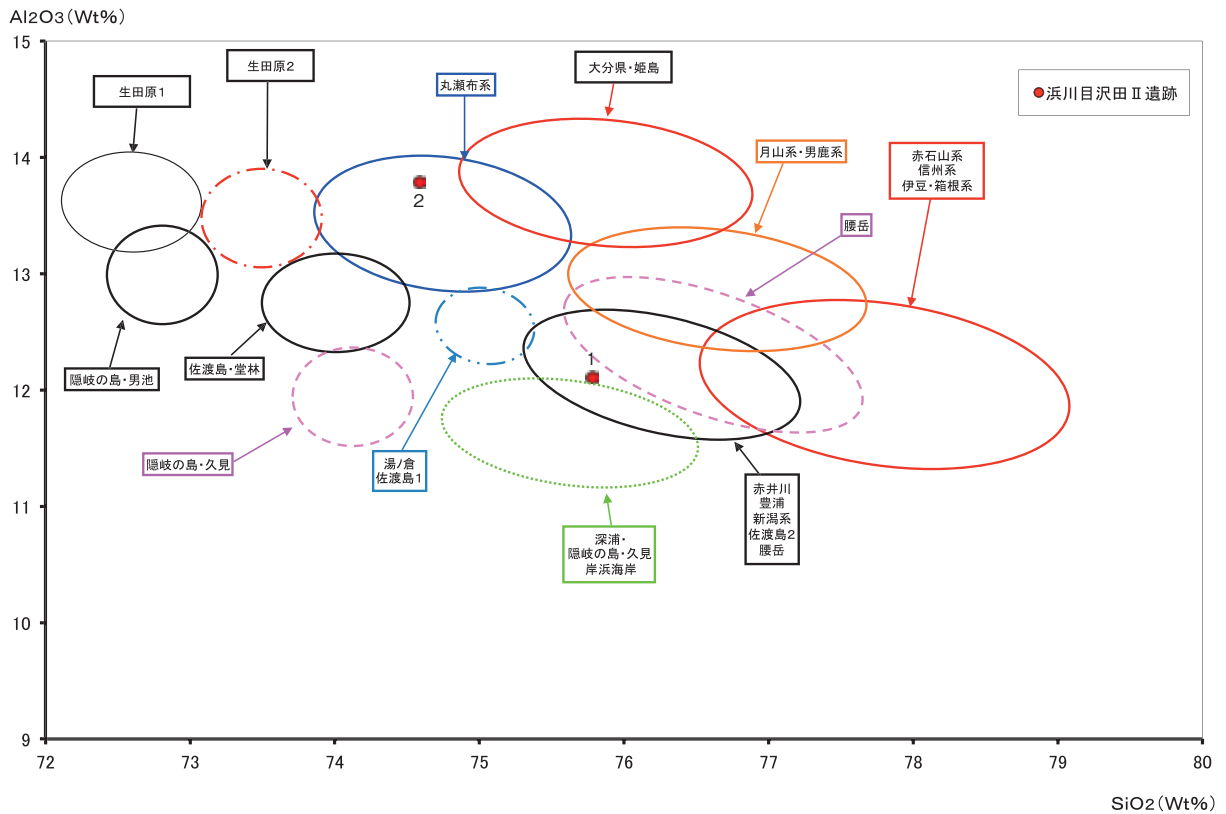
分析試料 1



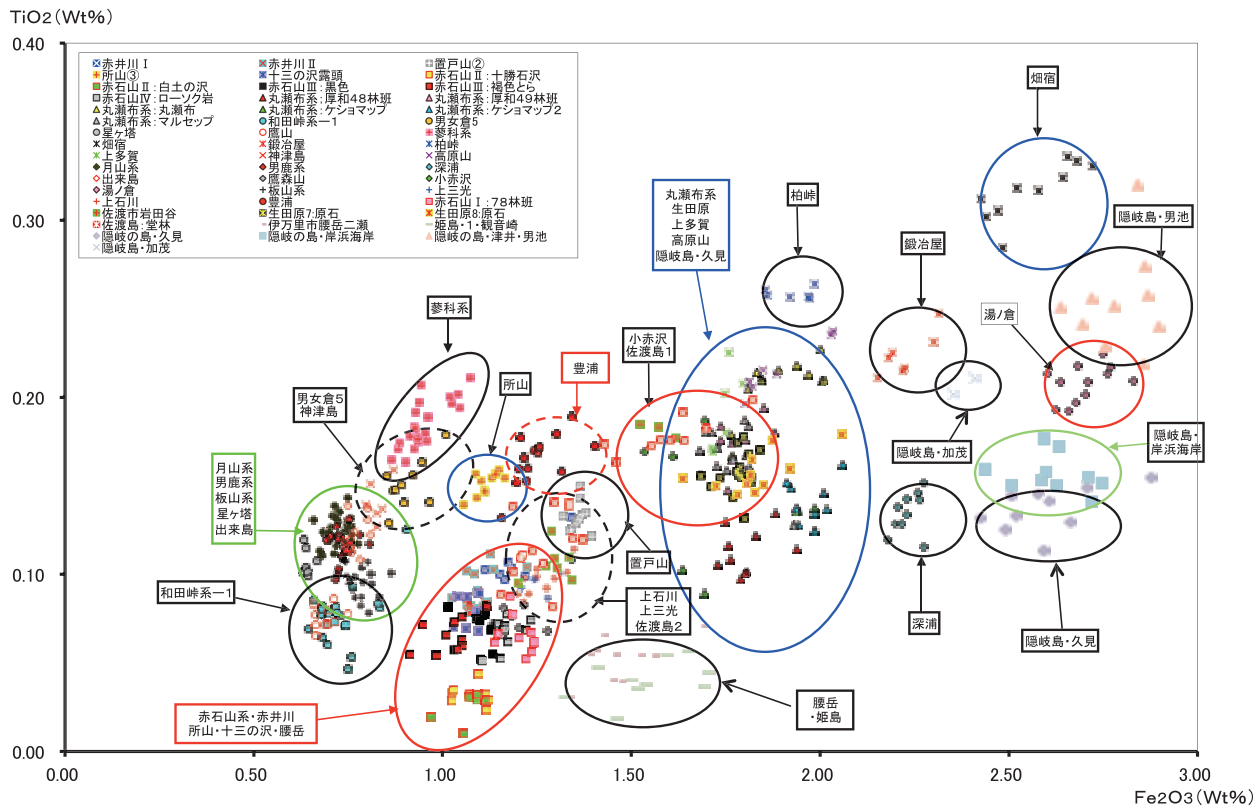
分析試料 2



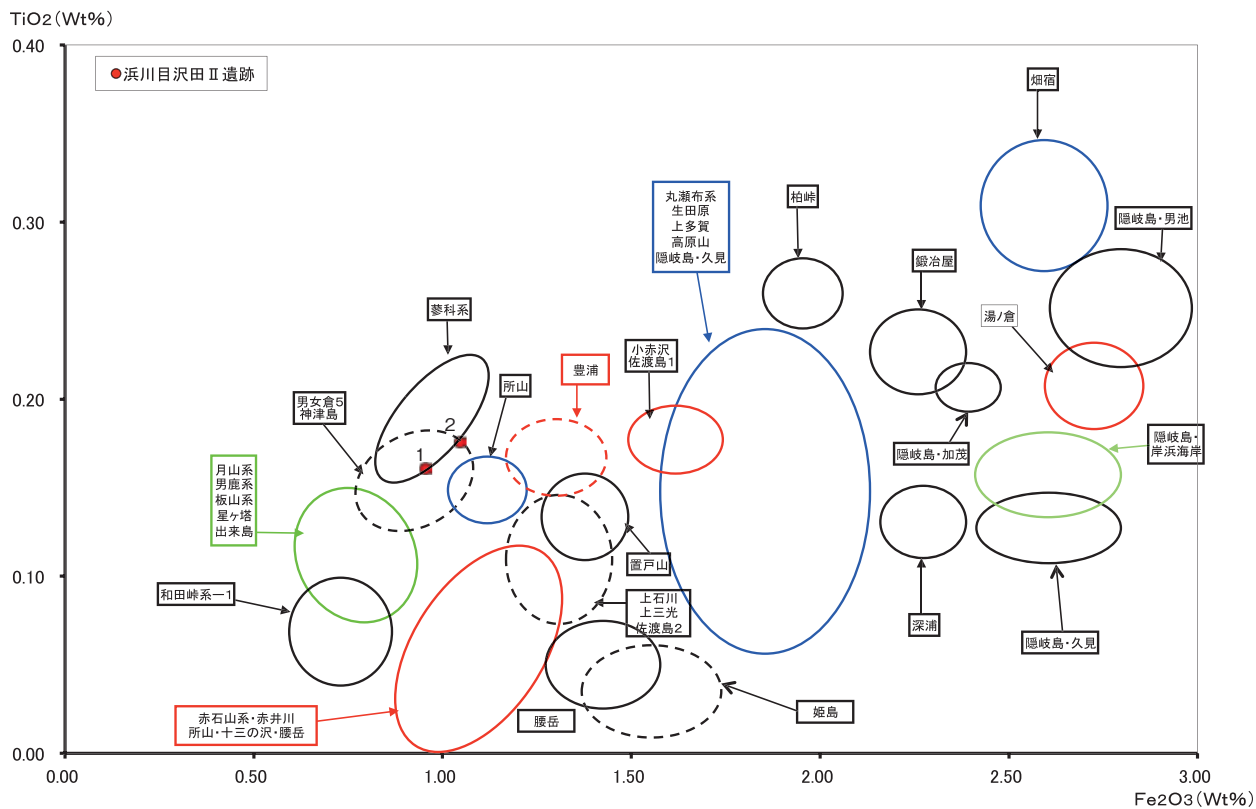
第1図 日本の黒曜石  $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$  (総合図)



第1図 日本の黒曜石  $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$  (総合図)

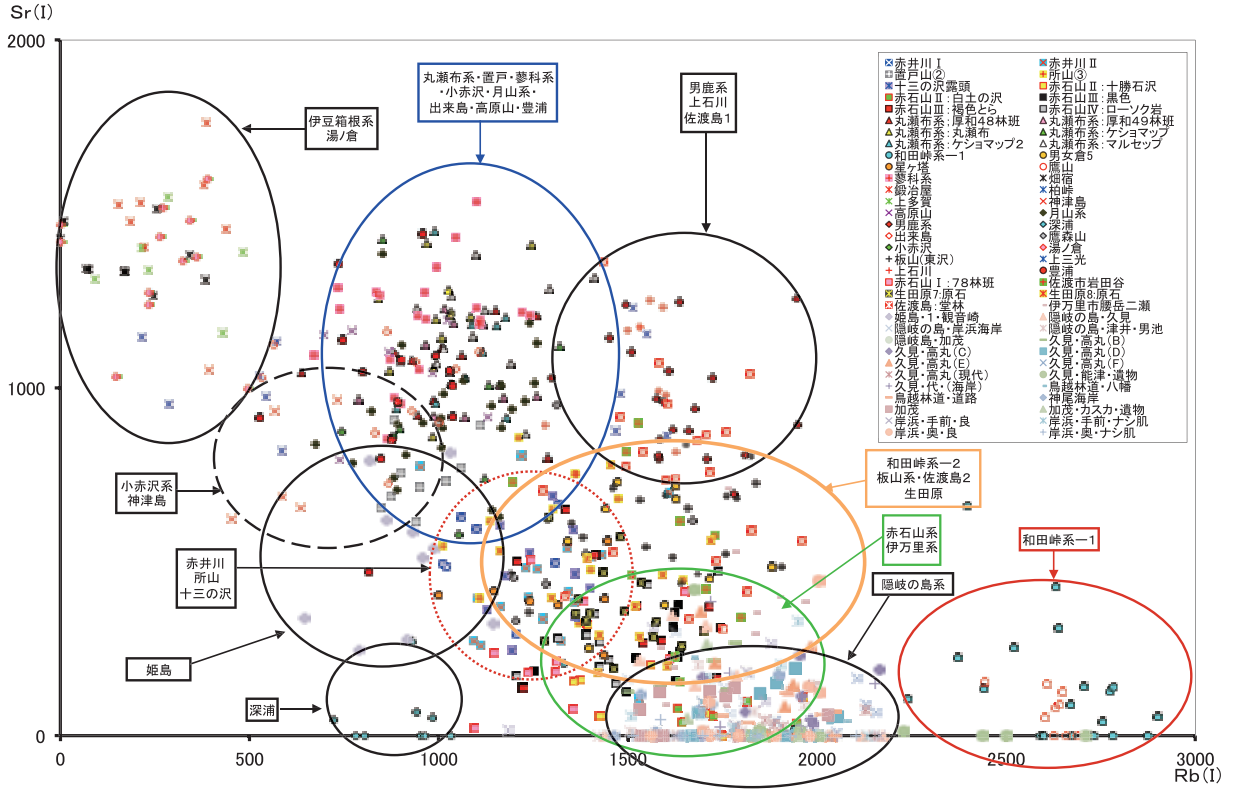


第2図 日本の黒曜石 Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-TiO<sub>2</sub>図 (総合図)

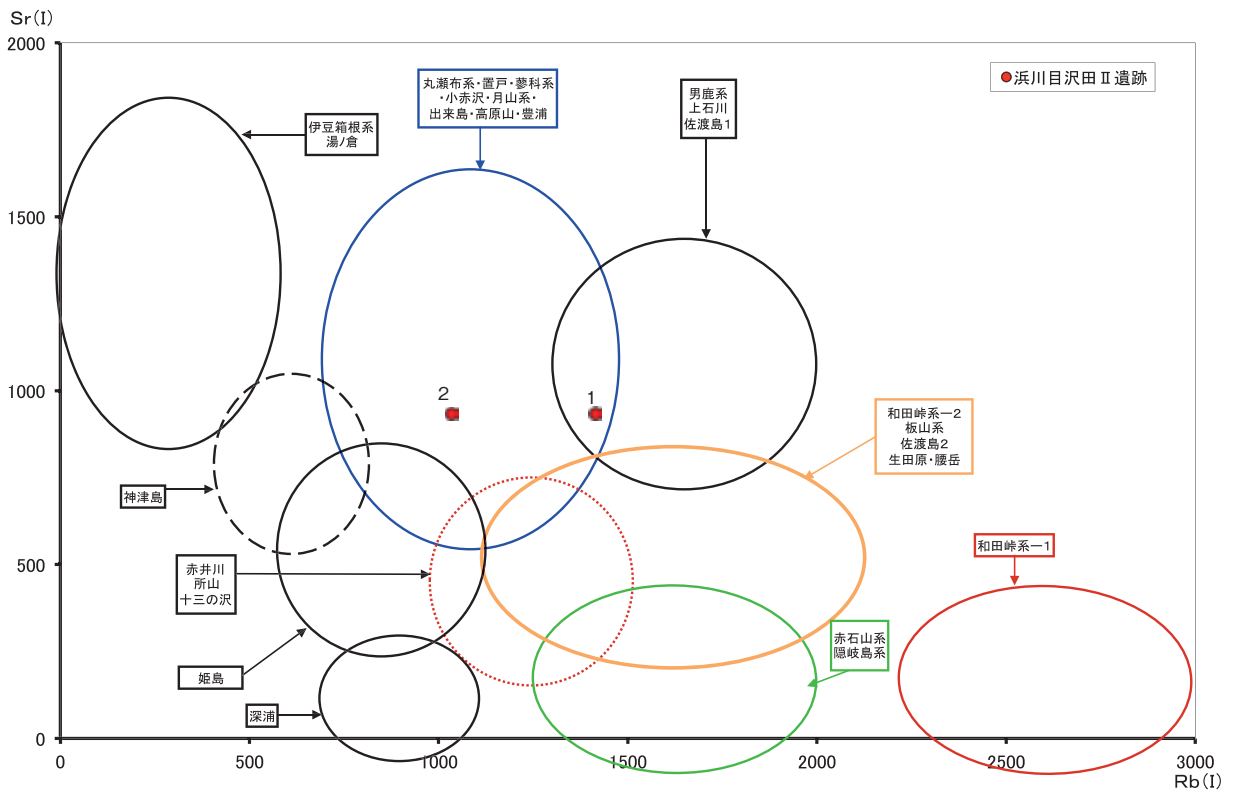


第2図 日本の黒曜石 Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-TiO<sub>2</sub>図 (総合図)





第 4 図 日本の黒曜石 Rb-Sr 図 (標準図)



第 4 図 日本の黒曜石 Rb-Sr 図 (総合図)

## 琥珀の科学分析

公益財団法人元興寺文化財研究所

### (1) はじめに

琥珀と思われる資料は古代～中世初頭の鉄生産関連炉と考えられる遺構の床面直上から出土し、玉の一部であると見られる。分析は写真1に示した破片の一部を使用した。破片の表面は全体に失透しているが内部は比較的透明度も高く劣化の進行は少ないことが観察された。この遺物が琥珀かどうかの確認をフーリエ変換赤外分光分析により行った。琥珀であることがわかれば琥珀の主な産出地から採取した地質学的標準資料(標準琥珀)の分析結果と比較することによって産地推定を行うことが可能となる。また、資料を加熱することにより得られる重量や熱量の変化を測定する熱分析も同時に実施した。今回はフーリエ変換赤外分光と熱分析でこれらの資料の科学分析を行い、標準試料との比較により産地推定を試みたのでその結果を報告する。

### (2) 分析資料

今回の分析に使用した資料を写真1に示した。これらの中から表面部分が含まれていない黒丸印の破片および破片の一部を選び分析資料とした。

同時に標準資料として、北海道白糠町、岩手県久慈市、福島県いわき市、千葉県銚子市、岐阜県瑞浪市から産出した資料を同様の方法および条件で分析し比較した。

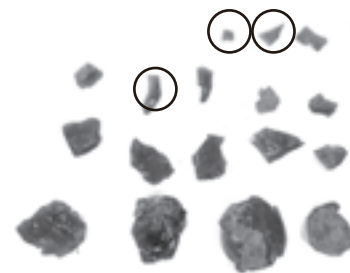


写真1 分析試料

### (3) 分析方法および条件

分析装置は全反射フーリエ変換赤外分光光度計(以下ATR-FTIR)(株)パーキンエルマー製 Spectrum Two)と熱分析装置(以下TGA・DTA)(株)島津製作所製 DTG-60)を使用した。以下にそれぞれの分析方法の原理と特徴を述べる。

#### 3-1. ATR-FTIR

琥珀の主成分は高分子有機化合物で炭素や水素、酸素で構成された分子はそれぞれの元素の結合部で伸縮や回転などの分子の動きがあり、結合状態によって固有の動き(振動)をしている。ATR-FTIRでは、そのような分子に赤外線照射することで、分子の固有な振動と同じ波長の赤外線を吸収し、分子の構造に応じたスペクトルから特徴が掴め、さらに標準となる物質のスペクトルと比較することにより化合物の同定ができる。この分析方法で標準琥珀と比較することにより出土琥珀の産地推定を行うことが可能となる。しかし、劣化が進んだ琥珀ではスペクトルがブロードになり判別が困難になることもある<sup>1) 2) 3) 4)</sup>。

#### 3-2. TGA・DTA

TGA・DTAは試料に熱を加え物理的性質(例えば重量変化やエネルギー変化など)を測定する技法を総称したものである。その中で加熱に伴う試料の質量変化を測定するのが熱重量測定(TGA)で、琥珀では加熱により燃焼・分解を生じ、重量は減少する。一方、温度変化によるエネルギーの変化を測定するのが示差熱分析(DTA)で、琥珀では加熱により軟化・融解、燃焼・分解によりエネルギー



が吸放出される。両分析とも温度の変化によって得られる曲線の変化を標準琥珀と比較することで産地推定の指針が得られる。

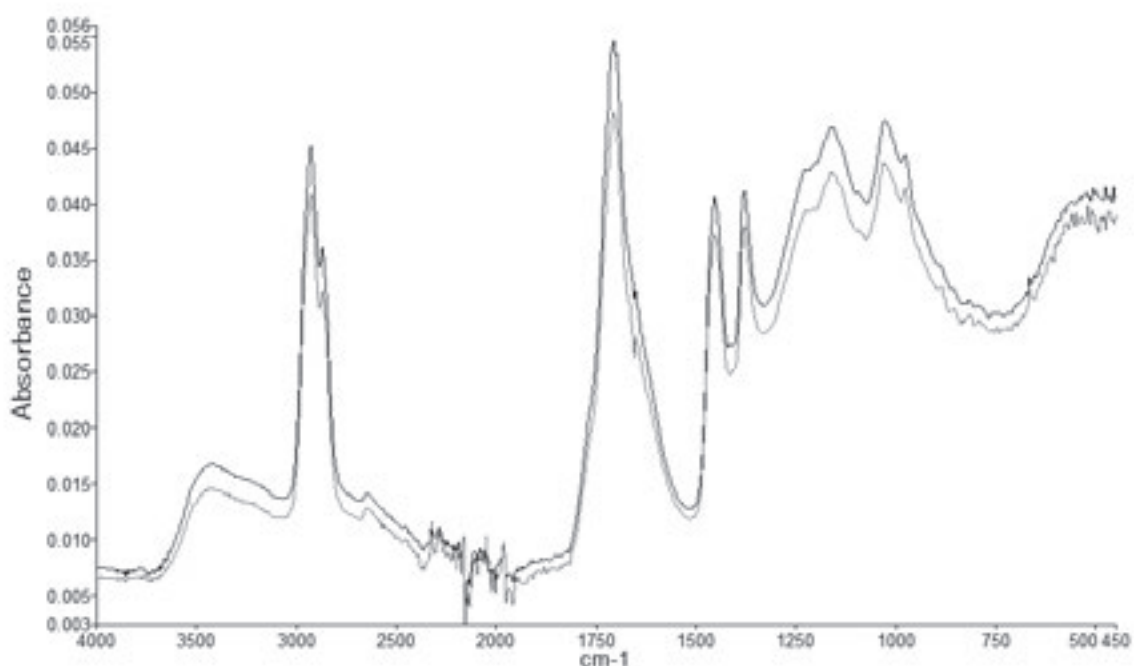
### 3-3. 測定条件

ATR-FTIR は極微量の試料をそのまま測定部に置きLiTaO<sub>3</sub>検出器を用い、分解能4cm<sup>-1</sup>で測定した。また、TGA・DTAは細片および粉末(約1mg)をアルミニウムセルに入れ、200ml/分の流量の窒素ガスを流しながら10℃/分で昇温させ、その時の重量変化と熱量変化を測定した。なお、ATR-FTIRは2回測定を行い再現性が見られるか確認した。

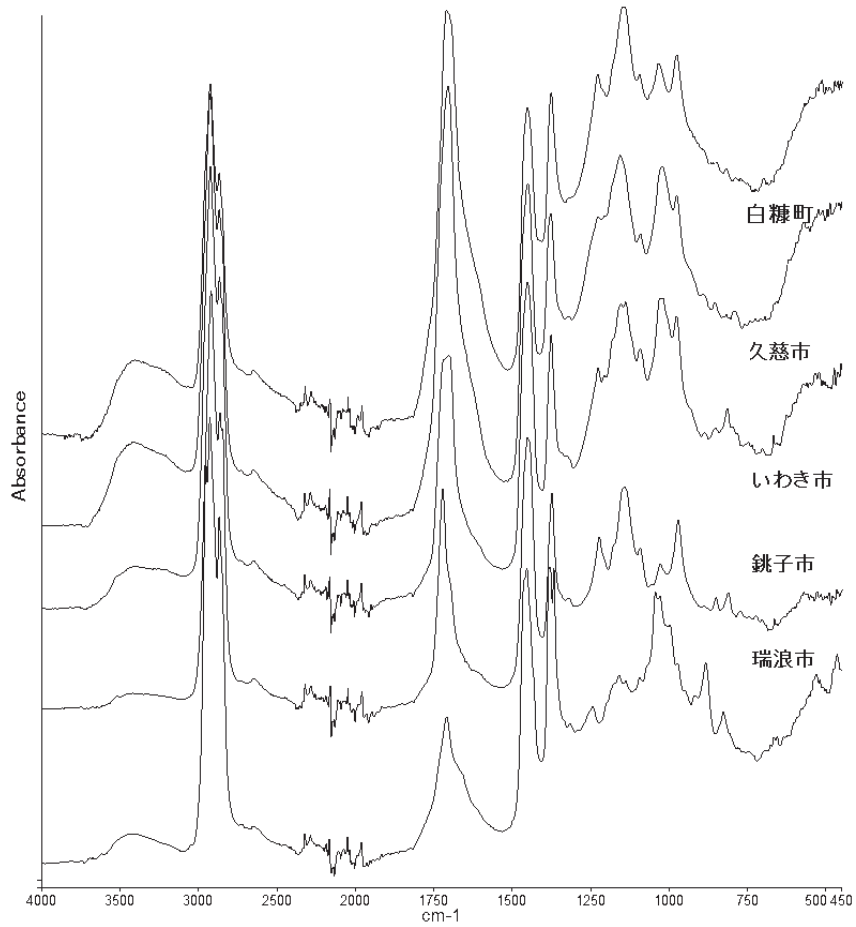
#### (4) 結果および考察

ATR-FTIR とTG・DTAは有機化合物の分子構造を反映するため、劣化によりその構造が変化すると、本来のスペクトルや挙動とは異なる結果となる場合もある。特に劣化が激しいと、ATR-FTIRでは全体的に吸収はブロードとなり特徴的な吸収が消失し、新たに異なった位置にピークが表れることがある。そのため琥珀であるかどうかの判断および産地推定は、できるだけ健全な部分を選んで分析を行うことが必要であり、今回も破片の中からできるだけ健全な部分を採取して分析を実施した。

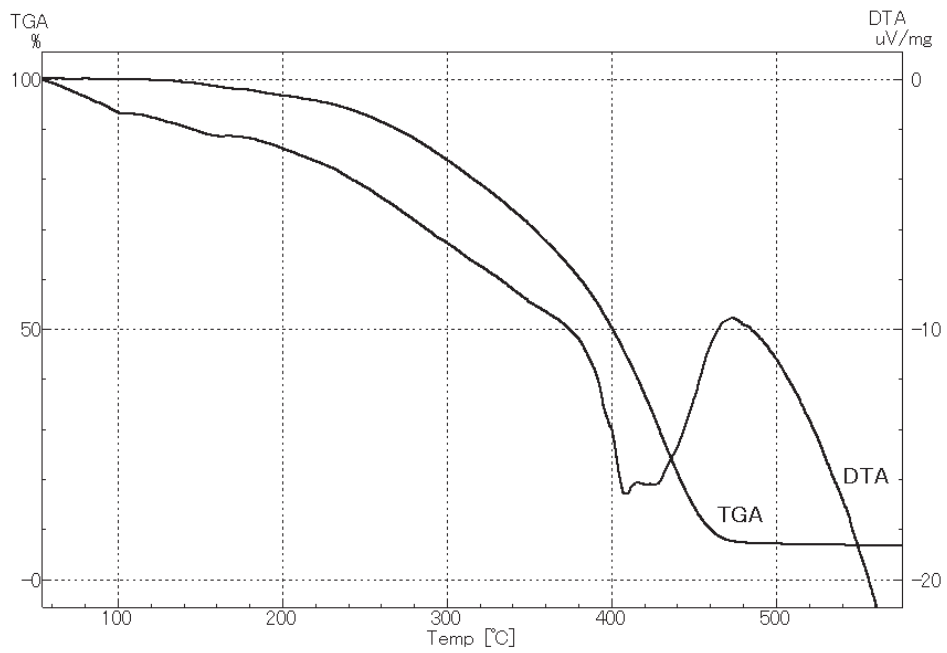
その結果、2回の測定結果はほぼ同じ吸収スペクトルを示し、3500～2800cm<sup>-1</sup>、1500～800cm<sup>-1</sup>付近の吸収位置や強度より琥珀であることが確認できた(第1図)。さらに3500cm<sup>-1</sup>および1710cm<sup>-1</sup>付近の吸収強度から劣化の程度は比較的 low、健全な状態に近いことも確認できた。次に指紋領域と呼ばれる有機化合物を同定する際の目安となる1300～750cm<sup>-1</sup>付近のスペクトルの吸収位置および強度と、産地の判明している標準琥珀から得られたスペクトルと比較し、産地推定を試みた(第1図、第2図)。国内の主産地である北海道、久慈市、いわき市、銚子市、瑞浪市のスペクトルと比較した結果、今回の試料は1250～850cm<sup>-1</sup>付近の吸収位置と強度が久慈市といわき市に非常に近いスペクトルであることがわかった。



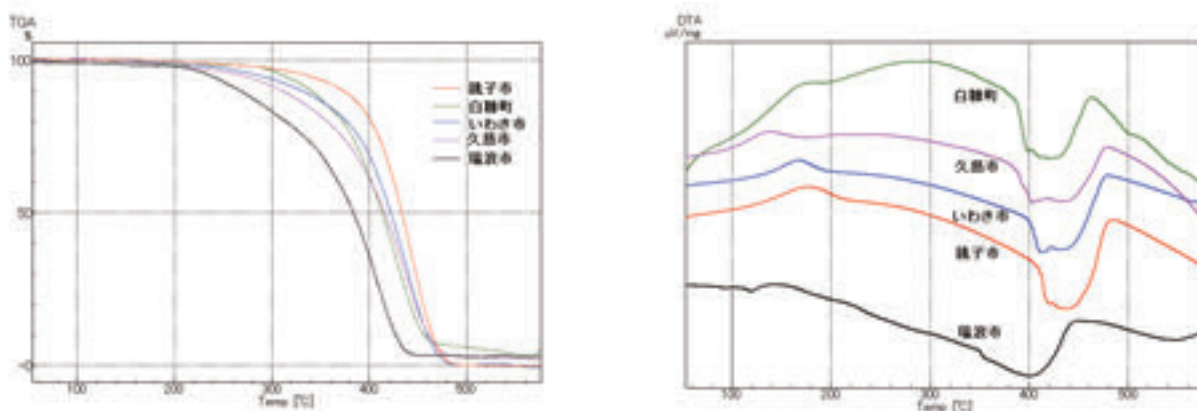
第1図 浜川目沢田Ⅱ遺跡出土資料の赤外吸収スペクトル



第2図 標準琥珀の赤外吸収スペクトル



第3図 浜川目沢田Ⅱ遺跡出土琥珀のTGA・DTAによる分析結果



第4図 標準琥珀のTGA（左図）・DTA（右図）による分析結果

次に熱分析の結果ではTGは低温度から減少が始まり、徐々に減少するといった結果となった（第3図TGA）。低温度での現象は標準資料に比べると低い温度で重量減少が見られたが、完全に分解・消失する温度は久慈市、いわき市、銚子市産（470～480℃）と近い結果となった（第4図左）。このことから出土資料は一部に劣化の影響が見られ、それに伴って生成した成分が低温度側で分解が始まったと考えられる。一方、DTAは高温度での曲線の変化と410℃と430℃付近に分解によると考えられる2つのピークを持つ曲線となり（第3図DTA）、これは久慈市、いわき市産琥珀とよく似た曲線であり、ピーク値もほぼ同じであることがわかった（第4図右）。

以上のことより分析が実施されていない産地および現在では消滅し確認できない産地の可能性は否定できないが、現時点ではATR-FTIRおよびTGA・DTAの結果とも久慈市およびいわき市の可能性が高い結果となった。なお、久慈市といわき市産の琥珀はその生成年代および由来する植物が同じであることがわかっており、有機物を分析する方法では区別がつかない。しかし、今回の出土地の地理的および時代的な要素を考慮すると久慈市である可能性が高いと考える。

#### （5） さ い ご に

出土琥珀は劣化状態が様々でそれによってATR-FTIR およびTG・DTAの結果が変わることが多い。しかし、今回、劣化は幾分進行しているものの、その影響をほとんど受けていなかったため、久慈市およびいわき市であることが、かなり信頼性の高い結果として導くことができた。

（文責：植田直見）

#### 参考文献

- 1) 室賀照子、赤外吸収スペクトルによる琥珀の産地分析、考古学と自然科学、第9号、59、（1976）
- 2) 植田直見、銚子産琥珀の赤外分光分析、こはく、第4号、15（2002）
- 3) 植田直見、いわき地方産琥珀の科学分析、こはく、第5号、13（2004）
- 4) 植田直見、北海道およびサハリン産琥珀の科学分析、こはく、第8号、51（2009）

## 鉄滓等の分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

## はじめに

浜川目沢田Ⅱ遺跡(岩手県下閉伊郡山田町大沢第11地割に所在)では、炉跡を伴う平安時代の竪穴建物跡(工房跡)が検出されている。そこで遺跡内での生産の実態を検討するため、出土した鉄滓・羽口などの製鉄・鍛冶関連遺物を調査した。

## (1) 試料

試料は椀形滓1点(試料No.1)、炉内滓2点(試料No.2・4)、流出滓2点(試料No.3・8)、含鉄(強)炉内滓2点(試料No.5・7)、含鉄(弱)炉内滓1点(試料No.6)、羽口1点(試料No.9)である(第1表)。

第1表 試料一覧

試料No.	種別	分類	遺構種別	出土位置	大きさ(mm)	重量(g)	金属探知機反応	化学成分分析	顕微鏡組織観察	X線回折測定	耐火度試験
HAK-1	椀形鍛冶滓	C赤	工房	26堅 炉4 鉄1	83.2×79.5×39.5	245.9	なし	○	○	○	
HAK-2	椀形鍛冶滓	C赤	工房	26堅 Pit15 埋土	45.3×42.9×25.4	52.7	なし	○	○	○	
HAK-3	鍛冶滓	C青	工房		65.9×33.4×15.6	28.8	なし	○	○	○	
HAK-4	椀形鍛冶滓	C赤	工房	24堅 E 埋土最下層	42.6×37.7×30.7	43.3	なし	○	○	○	
HAK-5	鍛冶滓(含鉄)	A赤	工房	22堅 2層	60.0×54.8×26.0	44.6	なし	○	○	○	
HAK-6	鍛冶滓	B赤	工房		56.4×43.7×32.4	73.0	なし	○	○	○	
HAK-7	鉄塊系遺物	A赤	工房	21堅 埋土一括	32.8×25.5×20.4	17.5	なし	○	○	○	
HAK-8	流出滓(製錬滓)	C青	遺構外	2区(22堅付近) II層	69.8×63.7×60.5	321.4	なし	○	○	○	
HAK-9	羽口		工房	26堅 Pit15(s) 埋土下	45.3×28.1×31.6	34.3	なし	○	○		○

特殊金属探知機の感度は三段階〔H:high(○)、M:middle(◎)、L:low(●)〕に設定されている。低感度で反応があるほど、内部に大型の金属鉄が残存すると推測される。

## (2) 分析方法

## 1) 肉眼観察

調査前の外観観察の所見を記載した。

## 2) 顕微鏡組織

鉄滓の鉱物組成や金属部の組織観察、非金属介在物の調査などを目的とする。観察面を設定して切り出した後、試験片は樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の3 $\mu$ mと1 $\mu$ mで鏡面研磨した。観察には反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して写真撮影をした。金属鉄の組織観察には腐食に3%ナイトール(硝酸アルコール液)を用いた。

## 3) X線回折測定

試料を粉末化してX線を照射し回折パターンを実測した。さらに既知物質の回折パターンと比較することにより、結晶相を同定した。

## 4) 化学組成分析

各成分の測定法は以下の通りである。

全鉄分 (Total Fe)、金属鉄 (Metallic Fe)、酸化第一鉄 (FeO) : 容量法。

炭素 (C) : 燃焼容量法、硫黄 (S) : 燃焼赤外吸収法。

二酸化硅素 ( $\text{SiO}_2$ )、酸化アルミニウム ( $\text{Al}_2\text{O}_3$ )、酸化カルシウム (CaO)、酸化マグネシウム (MgO)、酸化カリウム ( $\text{K}_2\text{O}$ )、酸化ナトリウム ( $\text{Na}_2\text{O}$ )、酸化マンガン (MnO)、二酸化チタン ( $\text{TiO}_2$ )、酸化クロム ( $\text{Cr}_2\text{O}_3$ )、五酸化燐 ( $\text{P}_2\text{O}_5$ )、バナジウム (V)、銅 (Cu)、二酸化ジルコニウム ( $\text{ZrO}_2$ ) : ICP発光分光分析法 (Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer)。

### (3) 結果および考察

化学組成分析結果を第2表に、X線回折測定結果を第1～8図に示す。

#### <HAK-1 : 椀形鍛冶滓>

- a) 肉眼観察 : やや大形の椀形鍛冶滓 (245.9g) である。上面中央付近に茶褐色の鉄錆がごく薄く付着するが、まとまった鉄部はみられない。滓の地の色調は黒灰色で、弱い着磁性がある。上下面とも細かい木炭痕による凹凸が目立つ。側面1面は破面で、細かい気孔が散在するが緻密である。
- b) 顕微鏡組織 : 図版1の①～③に示す。滓中には白色樹枝状結晶ウスタイト (Wustite : FeO)、淡灰色柱状結晶ファヤライト (Fayalite :  $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$ ) が晶出する。さらに暗灰色多角形結晶はヘルシナイト (Hercynite :  $\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$ ) と推測される。
- c) X線回折測定 : 主要鉱物組成はウスタイト (Wustite : FeO)、ファヤライト (Fayalite :  $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$ )、含鉄スピネル (黒田・諏訪, 1983: 尖晶石類の化学組成の一般式は  $\text{XY}_2\text{O}_4$  と表記できる。Xは2価の金属イオン、Yは3価の金属イオンである。その組み合わせでいろいろの種類のものがある) [Spinel, ferrian :  $\text{Mg}(\text{Al}, \text{Fe})_2\text{O}_4$ ] であった。
- d) 化学組成分析 : 全鉄分 (Total Fe) 53.47% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) は0.11%、酸化第一鉄 (FeO) が61.13%、酸化第二鉄 ( $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ) 8.36% の割合であった。造滓成分 ( $\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$ ) 26.66% で、このうち塩基性成分 ( $\text{CaO} + \text{MgO}$ ) の割合は1.88% と低い。製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱 (木下・小川, 1995)) 起源の二酸化チタン ( $\text{TiO}_2$ ) は0.88%、バナジウム (V) も0.09% と低値であった。また酸化マンガン (MnO) は0.14%、銅 (Cu) も < 0.01% と低値であった。なお、含チタン鉄鉱は、赤鉄鉱とあらゆる割合に混じりあった固溶体をつくる。チタン鉄鉱と赤鉄鉱の固溶体には、チタン鉄鉱あるいは赤鉄鉱の結晶をなし、全体が完全に均質なものと、チタン鉄鉱と赤鉄鉱が平行にならんで規則正しい縞状構造を示すものがある。チタン鉄鉱は磁鉄鉱とも固溶体をつくり、これにも均質なものと、縞状のものがある。このようなチタン鉄鉱と赤鉄鉱、または磁鉄鉱との固溶体を含チタン鉄鉱 Titaniferous iron ore という。

本試料は、当遺跡から出土した鍛冶滓としては、製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) 起源のチタニア ( $\text{TiO}_2$ ) の割合が高めであるが、羽口 (HAK-9) もこれに近い割合を示した ( $\text{TiO}_2$  : 0.90%)。また酸化マンガン (MnO) やジルコン ( $\text{ZrO}_2$ ) の割合も、砂鉄製錬滓 (HAK-8) と比べると低く、製鉄原料 (砂鉄) 起源の不純物の影響は少ないと判断される。このため当鉄滓は鍛冶滓の可能性が高いと考えられる。

#### <HAK-2 : 椀形鍛冶滓>

- a) 肉眼観察 : ごく小形の椀形鍛冶滓の破片 (52.7g) である。表面には広い範囲で薄く茶褐色の鉄錆が付着するが、まとまった鉄部はみられない。金属探知器 (穴澤, 2005) での反応はなく、着磁性もごく弱い。滓の地の色調は黒灰色である。上面には細かい木炭痕による凹凸がみられる。下面はきれいな皿状で、部分的に薄く淡褐色の炉床土が付着する。側面4面はすべて破面で、気孔は少な



く緻密である。

- b) 顕微鏡組織：図版1の④～⑥に示す。④の上側(遺物表面)には鍛造剥片が付着する。鍛造剥片とは鉄素材を大気中で加熱、鍛打したとき、表面酸化膜が剥離、飛散したものを指す。俗に鉄肌(金肌)やスケールとも呼ばれる。鍛造剥片の酸化膜相は、外層は微厚のヘマタイト(Hematite:  $\text{Fe}_2\text{O}_3$ )、中間層マグネタイト(Magnetite:  $\text{Fe}_3\text{O}_4$ )、大部分は内層ウスタイト(Wustite:  $\text{FeO}$ )の3層から構成される。このうちのヘマタイト相は1450℃を越えると存在しなく、ウスタイト相は570℃以上で生成されるのはFe-O系平衡状態図から説明される。⑤の中央はその拡大である。断面には明白色のヘマタイト(Hematite:  $\text{Fe}_2\text{O}_3$ )層、淡褐色のマグネタイト(Magnetite:  $\text{FeO}\cdot\text{Fe}_2\text{O}_3$ )層、灰色のウスタイト(Wustite:  $\text{FeO}$ )が確認された。鉄素材を熱間で鍛打した際、表面の酸化膜が剥離したものである。また滓中には白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。さらに暗灰色多角形結晶はヘルシナイトと推測される。
- c) X線回折測定：主要鉱物組成は、ウスタイト(Wustite:  $\text{FeO}$ )、ファヤライト(Fayalite:  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ )、含鉄スピネル[Spinel, ferrian:  $\text{Mg}(\text{Al}, \text{Fe})_2\text{O}_4$ ]であった。さらにゲーサイト[Goethite:  $\alpha\text{-FeO}(\text{OH})$ ]、レピドクロサイト[Lepidocrocite:  $\gamma\text{-FeO}(\text{OH})$ ]などの水酸化鉄も強い回折強度を示している。これは滓中の錆化鉄部の影響と考えられる。
- d) 化学組成分析：全鉄分(Total Fe)51.98%に対して、金属鉄(Metallic Fe)は0.04%、酸化第1鉄( $\text{FeO}$ )が48.98%、酸化第2鉄( $\text{Fe}_2\text{O}_3$ )19.82%の割合であった。造滓成分( $\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$ )26.55%で、このうちに塩基性成分( $\text{CaO} + \text{MgO}$ )の割合は1.29%と低い。製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の二酸化チタン( $\text{TiO}_2$ )は0.44%、バナジウム(V)0.05%と低値であった。また酸化マンガン( $\text{MnO}$ )は0.05%、銅(Cu)も<0.01%と低値であった。

本試料は主に鉄酸化物と粘土溶融物( $\text{SiO}_2$ 主成分)からなり、製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源のチタニア( $\text{TiO}_2$ )の影響はほとんどない。鉄器を熱間で鍛打加工する時に生じた鍛錬鍛冶滓と推定される。

#### <HAK-3：鍛冶滓>

- a) 肉眼観察：ごく小形で不定形の鍛冶滓(28.8g)である。色調は暗灰色で、金属探知器の反応はなく、着磁性も非常に弱い。上面は比較的平滑な流動状で、下面は平坦である。側面1面は破面で、中小の気孔が点在する。
- b) 顕微鏡組織：図版2の①～③に示す。滓中には白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。さらにウスタイト粒内に点在する暗灰色多角形結晶はヘルシナイトと推測される。また①の左下(遺物表面)には鍛造剥片が付着する。③の中央はその拡大である。鉄素材を熱間で鍛打した際、表面の酸化膜が剥離したものである。
- c) X線回折測定：主要鉱物組成は、ウスタイト(Wustite:  $\text{FeO}$ )、ファヤライト(Fayalite:  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ )、含鉄スピネル[Spinel, ferrian:  $\text{Mg}(\text{Al}, \text{Fe})_2\text{O}_4$ ]であった。
- d) 化学組成分析：全鉄分(Total Fe)47.98%に対して、金属鉄(Metallic Fe)は0.07%、酸化第1鉄( $\text{FeO}$ )が53.15%、酸化第2鉄( $\text{Fe}_2\text{O}_3$ )9.44%の割合であった。造滓成分( $\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$ )は33.68%とやや高めであるが、塩基性成分( $\text{CaO} + \text{MgO}$ )の割合は1.70%と低い。製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の二酸化チタン( $\text{TiO}_2$ )は0.45%、バナジウム(V)が0.04%と低値であった。また酸化マンガン( $\text{MnO}$ )も0.04%、銅(Cu)0.01%と低値であった。

当鉄滓も主に鉄酸化物と粘土溶融物( $\text{SiO}_2$ 主成分)からなり、製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源のチタニア( $\text{TiO}_2$ )の影響はほとんどない。鉄器を熱間で鍛打加工する時に生じた鍛錬鍛冶滓と



推定される。

<HAK-4 : 椀形鍛冶滓>

- a) 肉眼観察：やや小形の椀形鍛冶滓(43.3g)である。茶褐色の鉄錆がごく薄く付着するが、金属探知器の反応はなく、まとまった鉄部はみられない。滓の地の色調は黒灰色で、弱い着磁性がある。上下面とも細かい木炭痕による凹凸があり、一部微細な木炭片も付着する。
- b) 顕微鏡組織：図版2の④～⑥に示す。④の右上は木炭破片で、木口面が観察された。⑤はその拡大で、年輪界に沿って大導管が分布する広葉樹の環孔材であった。また滓中には白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。さらに淡褐色多角形結晶はマグネタイト、暗灰色多角形結晶はヘルシナイトと推測される。製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の鉄チタン酸化物は確認されず、鍛錬鍛冶滓の晶癖といえる。
- c) X線回折測定：滓部の主要鉱物組成は、ウスタイト(Wustite:  $\text{FeO}$ )、ファヤライト(Fayalite:  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ )、マグネタイト(Magnetite:  $\text{FeO}\cdot\text{Fe}_2\text{O}_3$ )、含鉄スピネル〔Spinel, ferrian:  $\text{Mg}(\text{Al}, \text{Fe})_2\text{O}_4$ ]であった。さらにゲーサイト〔Goethite:  $\alpha - \text{FeO}(\text{OH})$ 〕、レピドクロサイト〔Lepidocrocite:  $\gamma - \text{FeO}(\text{OH})$ 〕などの水酸化鉄も強い回折強度を示している。これは滓中の錆化鉄部の影響と考えられる。
- d) 化学組成分析：全鉄分(Total Fe) 50.00%に対して、金属鉄(Metallic Fe)は0.11%、酸化第1鉄( $\text{FeO}$ )が52.80%、酸化第2鉄( $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ) 12.65%の割合であった。造滓成分( $\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$ ) 28.53%で、このうち塩基性成分( $\text{CaO} + \text{MgO}$ )の割合は1.95%と低い。製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の二酸化チタン( $\text{TiO}_2$ )は0.98%、バナジウム(V)が0.09%と低値であった。また酸化マンガン( $\text{MnO}$ )も0.09%、銅( $\text{Cu}$ ) < 0.01%と低値であった。

本試料は、椀形鍛冶滓(HAK-1)と同じく当遺跡から出土した鍛冶滓としては、製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源のチタニア( $\text{TiO}_2$ )の割合が高めであるが、羽口(HAK-9)もこれに近い割合を示した( $\text{TiO}_2$ : 0.90%)。酸化マンガン( $\text{MnO}$ )やジルコン( $\text{ZnO}_2$ )も、砂鉄製錬滓(HAK-8)と比較すると低減しており、製鉄原料(砂鉄)起源の不純物の影響は少なく、鍛冶滓の可能性が高いと考えられる。

<HAK-5 : 鍛冶滓(含鉄)>

- a) 肉眼観察：不定形の鍛冶滓(44.6g)である。小形で偏平な椀形鍛冶滓の端部から細長い不定形の錆化鉄部がのびている。表面は広い範囲が茶褐色の鉄錆で覆われる。着磁性はあるが金属探知器の反応はなく、金属鉄部は残存しないと考えられる。滓の色調は暗灰色で、上下面とも細かい木炭痕が残存する。
- b) 顕微鏡組織：図版3の①～③に示す。①の上側の灰褐色～黒色部は錆化鉄で、②はその拡大である。亜共析組織( $\text{C} < 0.77\%$ )の痕跡が残存する。また①下側の暗灰色部は鍛冶滓で、③はその拡大である。淡褐色多角形結晶マグネタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の鉄チタン酸化物は確認されず、鍛錬鍛冶滓の晶癖といえる。
- c) X線回折測定：主要鉱物組成は、マグネタイト(Magnetite:  $\text{FeO}\cdot\text{Fe}_2\text{O}_3$ )、ファヤライト(Fayalite:  $2\text{FeO}\cdot\text{SiO}_2$ )であった。さらにゲーサイト〔Goethite:  $\alpha - \text{FeO}(\text{OH})$ 〕、レピドクロサイト〔Lepidocrocite:  $\gamma - \text{FeO}(\text{OH})$ 〕などの水酸化鉄も強い回折強度を示している。これは滓中の錆化鉄部の影響と考えられる。
- d) 化学組成分析：全鉄分(Total Fe)54.06%に対して、金属鉄(Metallic Fe)は0.16%、酸化第1鉄( $\text{FeO}$ )が21.49%、酸化第2鉄( $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ) 53.19%の割合であった。造滓成分( $\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} +$

$K_2O + Na_2O$  は15.39%で、このうち塩基性成分 ( $CaO + MgO$ ) の割合は0.87%と低い。製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) 起源の二酸化チタン ( $TiO_2$ ) は0.28%、バナジウム (V) が0.04%と低値であった。また酸化マンガン ( $MnO$ ) も0.02%、銅 ( $Cu$ ) < 0.01%と低値であった。

本試料も主に鉄酸化物と粘土溶融物 ( $SiO_2$  主成分) からなり、製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) 起源のチタニア ( $TiO_2$ ) の影響はほとんどない。以上の特徴から、鉄器を熱間で鍛打加工する時に生じた鍛錬鍛冶滓と推定される。

#### <HAK - 6 : 鍛冶滓>

- a) 肉眼観察：上面が黒色ガラス質滓に覆われた鍛冶滓破片 (73.0g) である。上面以外は全面破面である。鍛冶滓の色調は暗灰色で、細かい気孔が多数点在するが緻密である。着磁性は弱い。
- b) 顕微鏡組織：図版3の④～⑥に示す。滓中には淡褐色多角形結晶マグネタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) 起源の鉄チタン酸化物は確認されず、鍛錬鍛冶滓の晶癖といえる。また④および⑥の下側の暗灰色部は、ガラス質滓中の礫である。
- c) X線回折測定：主要鉱物組成は、ウスタイト (Wustite:  $FeO$ )、ファヤライト (Fayalite:  $2FeO \cdot SiO_2$ )、マグネタイト (Magnetite:  $FeO \cdot Fe_2O_3$ )、石英 (Quartz:  $SiO_2$ ) であった。
- d) 化学組成分析: Table 2に示す。全鉄分 (Total Fe) 59.16%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) は0.15%、酸化第1鉄 ( $FeO$ ) が60.54%、酸化第2鉄 ( $Fe_2O_3$ ) 17.09%の割合であった。造滓成分 ( $SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O$ ) は17.94%とやや低めで、塩基性成分 ( $CaO + MgO$ ) の割合も1.31%と低い。製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) 起源の二酸化チタン ( $TiO_2$ ) は0.86%、バナジウム (V) が0.09%と低値であった。また酸化マンガン ( $MnO$ ) も0.06%、銅 ( $Cu$ ) < 0.01%と低値であった。

本試料は、椀形鍛冶滓 (HAK - 1, 4) と同じく当遺跡から出土した鍛冶滓としては、製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) 起源のチタニア ( $TiO_2$ ) の割合が高めであるが、羽口 (HAK - 9) もこれに近い割合を示した ( $TiO_2$ : 0.90%)。酸化マンガン ( $MnO$ ) やジルコン ( $ZnO_2$ ) も、砂鉄製錬滓 (HAK - 8) と比較すると低減しており、製鉄原料 (砂鉄) 起源の不純物の影響は少なく、鍛冶滓の可能性が高いと考えられる。

#### <HAK - 7 : 鉄塊系遺物>

- a) 肉眼観察：ごく小形の鉄塊系遺物 (17.5g) である。表面全体が茶褐色の鉄錆で覆われる。金属探知器反応があり、内部には金属鉄が残存すると考えられる。
- b) マクロ組織：図版4の①に示す。表層に部分的に滓が付着するが、まとまりのよい鉄主体の遺物であった。
- c) 顕微鏡組織：図版4の②～⑦に示す。②は表面に付着した木炭破片である。内部に発達した導管が分布する広葉樹材であった。③④は表層の滓部の拡大で、淡褐色多角形結晶マグネタイトが晶出する。また③④の滓中の微細な明白色部は金属鉄である。素地は白色のフェライト (Ferrite:  $\alpha$  鉄) で、黒色層状のパーライト (Pearlite) が析出する亜共析組織であった。⑤～⑦も金属鉄部の拡大で、⑤は片状黒鉛 (Graphite:  $C$ ) が析出するねずみ鑄鉄、⑥は針状セメンタイト (Cementite:  $Fe_3C$ )、および網目状のステダイト (Steadite:  $Fe - Fe_3C - Fe_3P$ ) が析出する過共析組織、⑦はほぼ全面パーライトの共析組織部分の拡大である。
- d) X線回折測定：主要鉱物組成はマグネタイト (Magnetite:  $FeO \cdot Fe_2O_3$ ) であった。さらにゲーサイト [Goethite:  $\alpha - FeO (OH)$ ]、レピドクロサイト [Lepidocrocite:  $\gamma - FeO (OH)$ ]、アカガネイト [Akaganeite:  $\beta - FeO (OH)$ ] などの水酸化鉄、および金属鉄 (Iron:  $Fe$ ) も強い回折強度を示している。

e) 化学組成分析：Table 2 に示す。全鉄分 (Total Fe) 66.98% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) は 28.82%、酸化第 1 鉄 (FeO) が 14.81%、酸化第 2 鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 38.10% の割合であった。造滓成分 (SiO<sub>2</sub> + Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> + CaO + MgO + K<sub>2</sub>O + Na<sub>2</sub>O) の割合は 7.29% と低く、塩基性成分 (CaO + MgO) も 0.53% であった。製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) 起源の二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) は 0.18%、バナジウム (V) が 0.02% と低値であった。また酸化マンガン (MnO) は < 0.01%、銅 (Cu) も < 0.01% と低値であった。

本試料の滓部には、通常鍛冶滓にみられるウスタイト (Wustite: FeO) が確認されなかった。鍛冶作業前の鉄塊 (製錬鉄塊系遺物) の可能性が高いと考えられる。また金属鉄部の炭素含有率は部位によるばらつきが大きい。亜共析組織～ねずみ鑄鉄組織が確認された。

#### <HAK - 8 : 流出滓>

a) 肉眼観察：厚手の流出滓 (製錬滓) の破片 (321.4g) である。下面は遺物本来の表面で、上面と側面は全面破面と推定される。破面や下面には細い滓が複数重なった跡が確認される。これは製鉄炉の操業中、炉外に排出された滓の特徴といえる。滓の色調は暗灰色で、着磁性は弱い。また破面には中小の気孔が散在するが緻密である。

b) 顕微鏡組織：図版 5 の①～③に示す。微細な白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶はファヤライトが晶出する。淡褐色多角形結晶はマグネタイト (Magnetite: FeO·Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、またはマグネタイトに少量チタニア (TiO<sub>2</sub>) を固溶するチタン磁鉄鉱と推測される。滓中の微細な明白色粒は金属鉄である。素地は白色のフェライトで、黒色層状のパーライトが析出する亜共析組織であった。

c) X線回折測定：滓部の主要鉱物組成は、マグネタイト (Magnetite: FeO·Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、ファヤライト (Fayalite: 2FeO·SiO<sub>2</sub>) であった。〔砂鉄 (含チタン鉄鉱) を原料とする製錬滓によくみられるウルボスピネル (Ulvöspinel: 2FeO·TiO<sub>2</sub>) は、回折ピークの存在は確認されず、検出限界以下であった。マグネタイトにチタニア (TiO<sub>2</sub>) が少量固溶している可能性も考えられる〕。

d) 化学組成分析：全鉄分 (Total Fe) 45.58% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) は 0.20%、酸化第 1 鉄 (FeO) が 53.49%、酸化第 2 鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 5.44% の割合であった。造滓成分 (SiO<sub>2</sub> + Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> + CaO + MgO + K<sub>2</sub>O + Na<sub>2</sub>O) の割合は 34.96% と高いが、塩基性成分 (CaO + MgO) は 4.54% と低めであった。製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) 起源の二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) は 2.03%、バナジウム (V) が 0.16% であった。また酸化マンガン (MnO) は 0.40%、銅 (Cu) < 0.01% であった。

当鉄滓は他の遺跡出土鍛冶滓と比較するとチタニア (TiO<sub>2</sub>) の割合が高く、低チタン砂鉄製錬滓と推定される。

#### <HAK - 9 : 羽口>

a) 肉眼観察：厚さ 15mm 程の羽口体部の小破片 (34.3g) と推定される。全体に熱影響は弱く、ガラス質滓部分はみられない。胎土部分は淡褐色で、微細な石英・長石類などの砂粒が混和されている。

b) 顕微鏡組織：図版 5 に④～⑥に示す。素地は粘土鉱物で、石英・長石類などの砂粒が多数混在する。また僅かに点在する微細な灰褐色粒は磁鉄鉱 (Magnetite: FeO·Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、または含チタン鉄鉱と推定される。これは粒径が非常に小さいため、羽口粘土中に含まれていたものと考えられる。

c) 化学組成分析：強熱減量 (Ig loss) は 11.87% と高値であった。結晶構造水が保持された状態である。軟化性成分の鉄分 (Total Fe) は 5.68% と高めであった。一方、耐火性に有利なアルミナ (Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) も 21.46% と、通常の粘土 (約 15 ~ 18%) よりも高い割合を示した。

d) 耐火度：1410℃ であった。

第2表 化学組成分析結果

符号	出土位置	遺物名称	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	* * * * *									
					酸化 第1鉄 (FeO)	酸化 第2鉄 (Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )	二酸化 珪素 (SiO <sub>2</sub> )	酸化アル ミニウム (Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )	酸化カル シウム (CaO)	酸化マグ ネシウム (MgO)	酸化カ リウム (K <sub>2</sub> O)	酸化ナト リウム (Na <sub>2</sub> O)	酸化マン ガン (MnO)	二酸化 チタン (TiO <sub>2</sub> )
HAK-1	26竪 炉4	椀形鍛冶滓	53.47	0.11	61.13	8.36	17.11	6.61	1.07	0.81	0.82	0.24	0.14	0.88
HAK-2	26竪	椀形鍛冶滓	51.98	0.04	48.98	19.82	17.93	6.27	0.58	0.71	0.86	0.20	0.05	0.44
HAK-3	(Pit15 埋土)	鍛冶滓	47.98	0.07	53.15	9.44	23.06	7.54	0.74	0.96	1.15	0.23	0.04	0.45
HAK-4	24竪 E 埋土 最下層	鍛冶滓	50.00	0.11	52.80	12.65	19.31	6.32	0.98	0.97	0.68	0.27	0.09	0.98
HAK-5	22竪 2層	鍛冶滓 (含鉄)	54.06	0.16	21.49	53.19	10.32	3.55	0.46	0.41	0.41	0.24	0.02	0.28
HAK-6		鍛冶滓	59.16	0.15	60.54	17.09	12.35	3.51	0.84	0.47	0.38	0.39	0.06	0.86
HAK-7	21竪 埋土一括	鉄塊系遺物	66.98	28.82	14.81	38.10	4.82	1.65	0.23	0.30	0.18	0.11	<0.01	0.18
HAK-8	2区(22竪 付近) II層	流出滓 (製錬滓)	45.58	0.20	53.49	5.44	22.54	6.45	2.99	1.55	0.90	0.53	0.40	2.03
HAK-9	26竪 Pit15(S) 埋土下位	羽口	5.68	0.07	1.87	5.94	50.98	21.46	0.86	1.53	1.58	0.59	0.02	0.90

Σ \*

符号	出土位置	遺物名称	酸化 クロム (Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )	硫黄 (S)	五酸化磷 (P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> )	強熱減量 (Ig loss)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	二酸化 ジルコニウム (ZrO <sub>2</sub> )	耐火度 (℃)	造滓成分		TiO <sub>2</sub> Total Fe
												Total Fe	Total Fe	
HAK-1	26竪 炉4	椀形鍛冶滓	0.04	0.024	0.20	-	0.15	0.09	<0.01	0.10	-	26.66	0.499	0.016
HAK-2	26竪	椀形鍛冶滓	0.03	0.087	0.17	-	0.15	0.05	<0.01	0.06	-	26.55	0.511	0.008
HAK-3	(Pit15 埋土)	鍛冶滓	0.04	0.043	0.12	-	0.22	0.04	0.01	0.03	-	33.68	0.702	0.009
HAK-4	24竪 E 埋土 最下層	鍛冶滓	0.04	0.046	0.61	-	0.20	0.09	<0.01	0.03	-	28.53	0.571	0.020
HAK-5	22竪 2層	鍛冶滓 (含鉄)	0.03	0.151	0.14	-	0.95	0.04	<0.01	0.02	-	15.39	0.285	0.005
HAK-6		鍛冶滓	0.05	0.022	0.26	-	0.22	0.09	<0.01	0.03	-	17.94	0.303	0.015
HAK-7	21竪 埋土一括	鉄塊系遺物	0.03	0.022	0.24	-	1.55	0.02	<0.01	<0.01	-	7.29	0.109	0.003
HAK-8	2区(22竪 付近) II層	流出滓 (製錬滓)	0.06	0.019	0.83	-	0.15	0.16	<0.01	0.19	-	34.96	0.767	0.045
HAK-9	26竪 Pit15(S) 埋土下位	羽口	0.02	0.029	0.06	11.87	-	0.02	<0.01	0.02	1410	77.00	13.556	0.158

Wt%

#### (4) ま と め

調査結果のまとめを第3表に示す。浜川目沢田Ⅱ遺跡から出土した、製鉄～鍛冶関連遺物を調査した結果、当遺跡では主に熱間で鉄素材を鍛打加工する鍛錬鍛冶作業が行われていたと推定される。また鍛冶原料は低チタン砂鉄を製錬してつくられた鉄(製錬鉄塊系遺物)であり、近接地域で生産された可能性が高いと考えられる。詳細は以下の通りである。

流出滓(HAK-8)は、低チタン砂鉄を製錬した時の反応副生物(砂鉄製錬滓)と推定される。チタニアの割合は砂鉄製錬滓としては低めであった(2.03% TiO<sub>2</sub>)。同じ山田町に所在する山ノ内Ⅲ遺跡でも、出土した砂鉄・製錬滓ともチタニアの割合が低い(砂鉄:0.39～0.96% TiO<sub>2</sub>、製錬滓:0.38～2.79% TiO<sub>2</sub>)ことが明らかになっている(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 1997)。地域に分布する花崗岩起源の砂鉄を採取して、近接地で生産された鍛冶原料鉄(製錬鉄塊系遺物)に混じって遺跡内に搬入されたと推測される。

鉄塊系遺物(HAK-7)は、鍛冶作業前の原料鉄(製錬鉄塊系遺物)と推定される。炭素含有率は部位によるばらつきが大きく、亜共析組織～ねずみ鑄鉄組織が確認された。



鉄滓(HAK-1~6)は鍛冶滓と推定される。このうち3点(HAK-1, 4, 6)はチタニア(TiO<sub>2</sub>)が1%弱含まれるが、羽口(HAK-9)もこれに近い割合を示した。他の酸化マンガン(MnO)やジルコン(ZnO<sub>2</sub>)も、砂鉄製錬滓(HAK-8)と比較すると低減しており、製鉄原料(砂鉄)起源の不純物の影響は少なく、鍛冶滓の可能性が高いと考えられる。残る3点(HAK-2, 3, 5)は、砂鉄起源の脈石成分の低減傾向がより顕著であり、熱間での鍛打加工に伴う反応副生物(鍛錬鍛冶滓)と推定される。さらにこの内の2点(HAK-2, 3)は、鍛造剥片が付着していた。これも熱間での鍛打加工が行われていたことを示す微細遺物である。

羽口(HAK-9)の耐火度は1410℃であった。古代の鍛冶羽口としては、耐火性の高い性状といえる。使用時の溶損も比較的緩やかであったと考えられる。

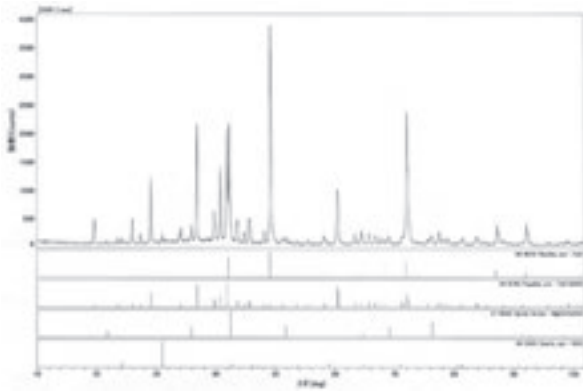
第3表 出土遺物の調査結果のまとめ

符号	出土位置	遺物名称	顕微鏡組織	化学組成(%)								所見
				Total Fe	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	塩基性成分	TiO <sub>2</sub>	V	MnO	造滓成分	Cu	
HAK-1	26 堅 炉4	椀形鍛冶滓	滓部:W+H(またはS)+F	53.47	8.36	1.88	0.88	0.09	0.14	26.66	<0.01	鍛冶滓の可能性が高い
HAK-2	26 堅 (Pit15 埋土)	椀形鍛冶滓	滓部:W+H(またはS)+F、鍛造剥片	51.98	19.82	1.29	0.44	0.05	0.05	26.55	<0.01	鍛錬鍛冶滓
HAK-3		鍛冶滓	滓部:W〔粒内微細H(またはS)〕+F、鍛造剥片	47.98	9.44	1.70	0.45	0.04	0.04	33.68	0.01	鍛錬鍛冶滓
HAK-4	24 堅 E 埋土 最下層	鍛冶滓	滓部:W+M+H(またはS)+F、木炭破片:広葉樹環孔材	50.00	12.65	1.95	0.98	0.09	0.09	28.53	<0.01	鍛冶滓の可能性が高い
HAK-5	22 堅 2層	鍛冶滓(含鉄)	錆化鉄部:亜共析組織痕跡、滓部:M+F	54.06	53.19	0.87	0.28	0.04	0.02	15.39	<0.01	鍛錬鍛冶滓、錆化鉄部:亜共析鋼
HAK-6		鍛冶滓	滓部:M+F、被熱小礫(石英)	59.16	17.09	1.31	0.86	0.09	0.06	17.94	<0.01	鍛冶滓の可能性が高い
HAK-7	21 堅 埋土一括	鉄塊系遺物	滓部:M、木炭破片:広葉樹材、金属鉄:亜共析組織~ねずみ鑄鉄組織	66.98	38.10	0.53	0.18	0.02	<0.01	7.29	<0.01	製錬鉄塊系遺物(原料:低チタン砂鉄)
HAK-8	2 区(22 堅 付近) II 層	流出滓(製錬滓)	滓部:M+W+F、微小金属鉄粒:亜共析組織	45.58	5.44	4.54	2.03	0.16	0.40	34.96	<0.01	製錬滓(原料:低チタン砂鉄)
HAK-9	26 堅 Pit15(S) 埋土下位	羽口	素地:粘土鉱物、砂粒(石英・長石類・砂鉄など混在)	5.68	5.94	2.39	0.90	0.02	0.02	77.00	<0.01	耐火度:1410℃、古代の鍛冶羽口としては耐火性の高い性状

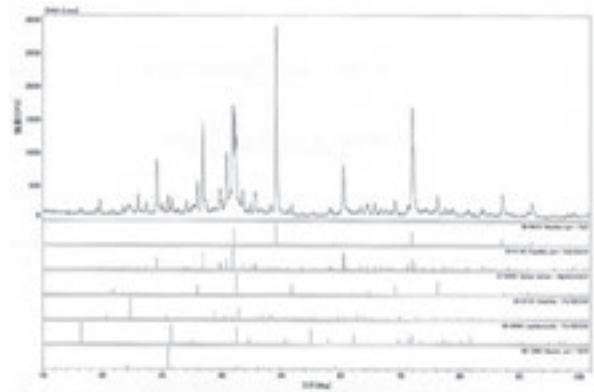
W: Wustite (FeO)、M: Magnetite (FeO·Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、H: Hercynite (FeO·Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、S: Spinel, ferrian [Mg (Al, Fe)<sub>2</sub>O<sub>4</sub>]、F: Fayalite (2FeO·SiO<sub>2</sub>)

## 引用文献

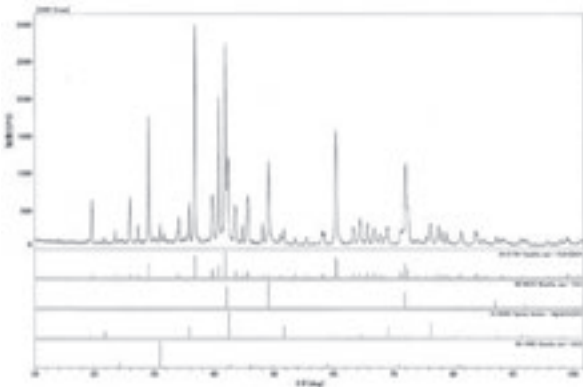
- 穴澤義功, 2005, 鉄関連遺物の整理と分析資料の準備について, 社団法人日本鉄鋼協会社会鉄鋼工学会「鉄の歴史-その技術と文化-」フォーラム「鉄生産遺跡調査の現状と課題-遺物整理から分析評価の周辺および行政的課題-」鉄関連遺物分析評価研究グループ.
- J. B. Mac chesney and A. Murau, 1961, American Mineralogist, 572p.
- 木下亀城・小川留太郎, 1995, 岩石鉱物(エコロン自然シリーズ). 保育社, 180p.
- 黒田吉益・諏訪兼位, 1983, 偏光顕微鏡と造岩鉱物[第2版]第5章 鉱物各論 D. 尖晶石類・スピネル類(Spinel Group). 共立出版株式会社, 390 p.
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 1997, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第250集 山ノ内3遺跡発掘調査報告書:三陸縦貫自動車道(山田道路)関連遺跡発掘調査, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 359p.



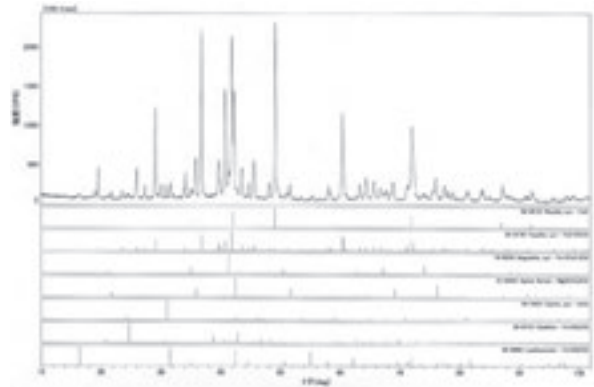
第1図 HAK-1 柳形鍛冶滓のX線回折結果



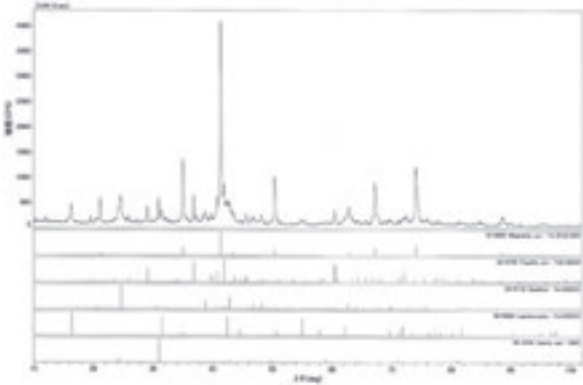
第2図 HAK-2 柳形鍛冶滓のX線回折結果



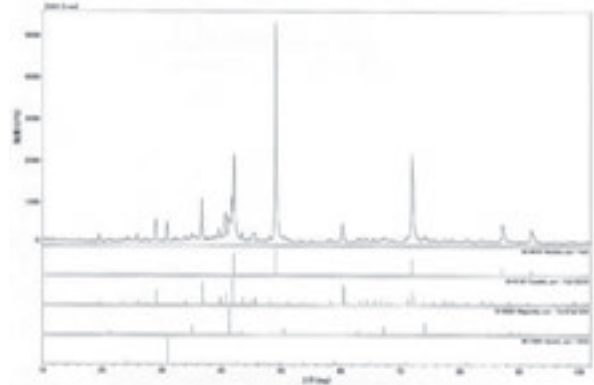
第3図 HAK-3 鍛冶滓のX線回折結果



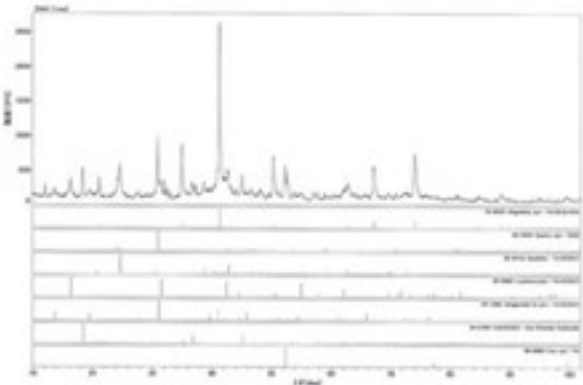
第4図 HAK-4 柳形鍛冶滓のX線回折結果



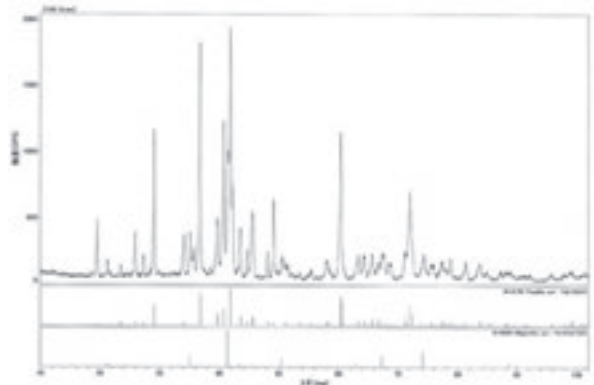
第5図 HAK-5 鍛冶滓(含鉄)のX線回折結果



第6図 HAK-6 鍛冶滓のX線回折結果



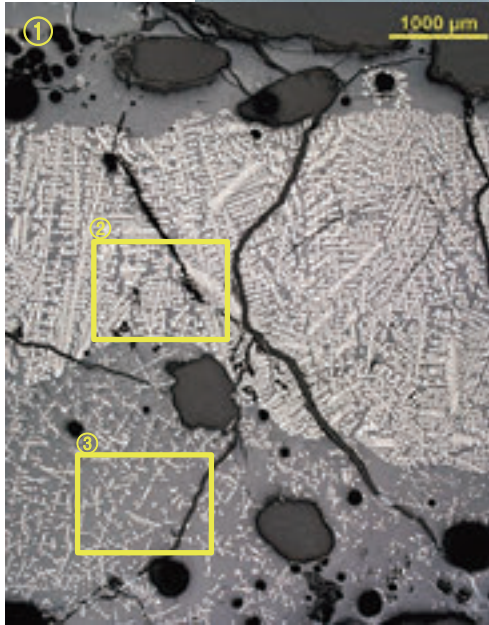
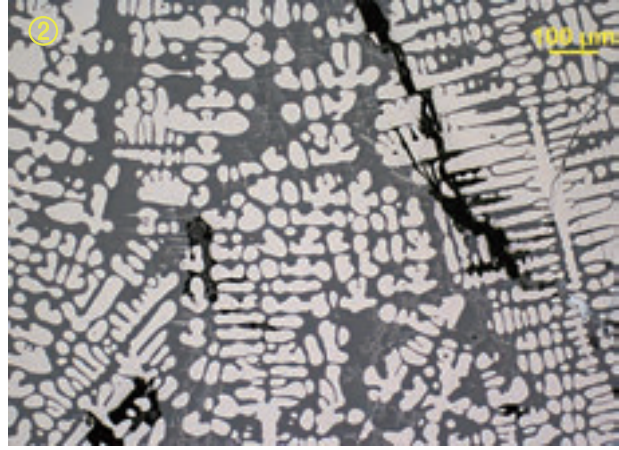
第7図 HAK-7 鉄塊系遺物のX線回折結果



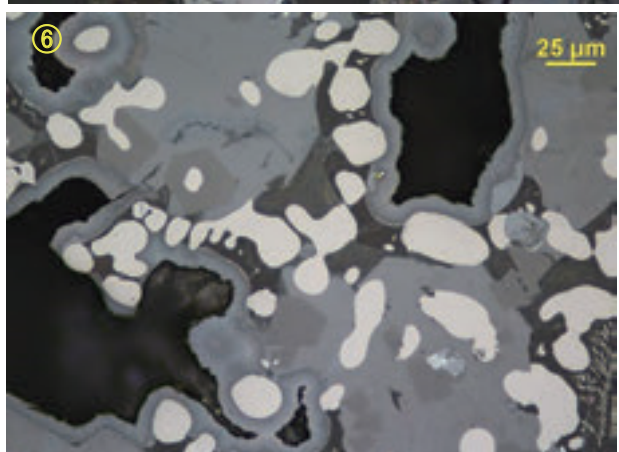
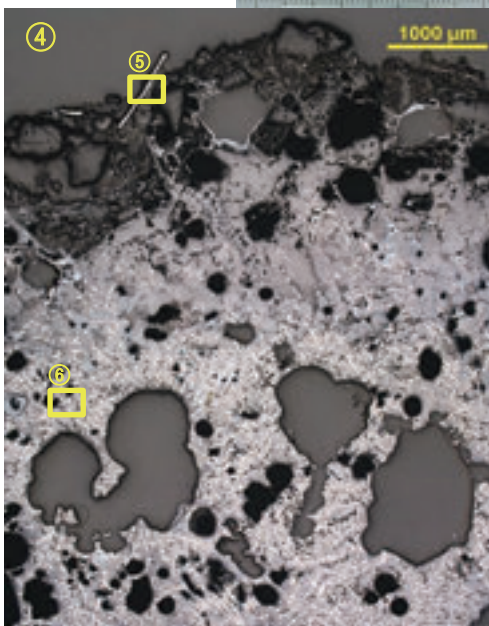
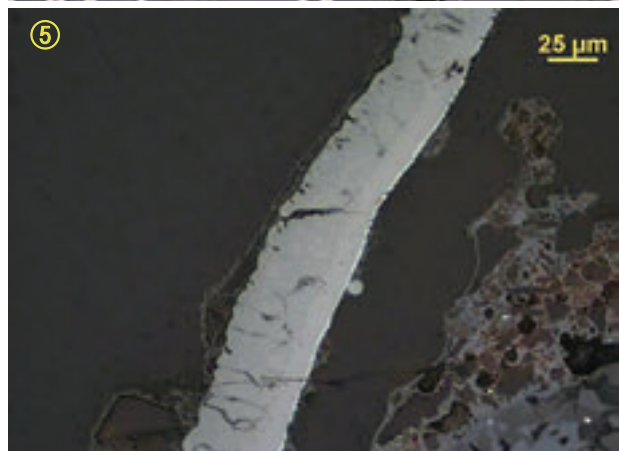
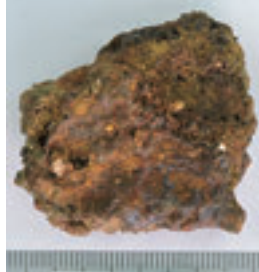
第8図 HAK-8 流出滓(製錬滓)のX線回折結果



HAK-1  
 椀形鍛冶滓  
 ①～③滓部：ウスタ  
 イト・ヘルシナイト・  
 ファヤライト



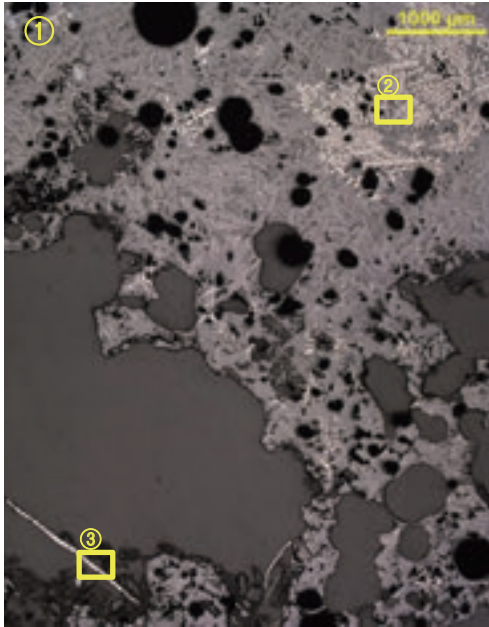
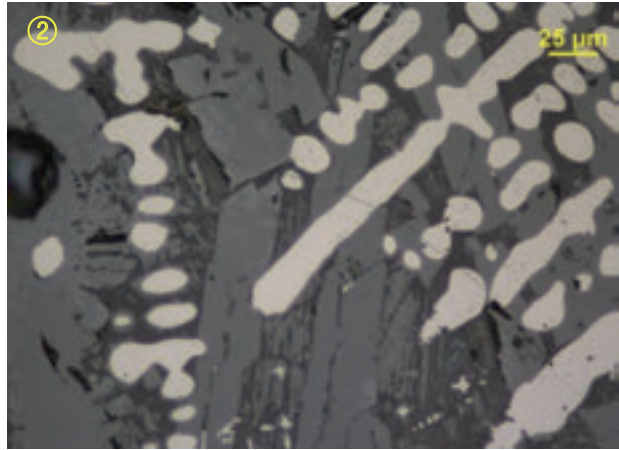
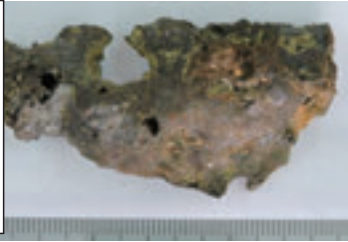
HAK-2  
 椀形鍛冶滓  
 ④表層：鍛造剥片付  
 着、滓部：ウスタ  
 イト・ヘルシナイト・フ  
 ヤライト、不定形青  
 灰色部：錆化鉄、⑤鍛  
 造剥片、⑥滓部拡大



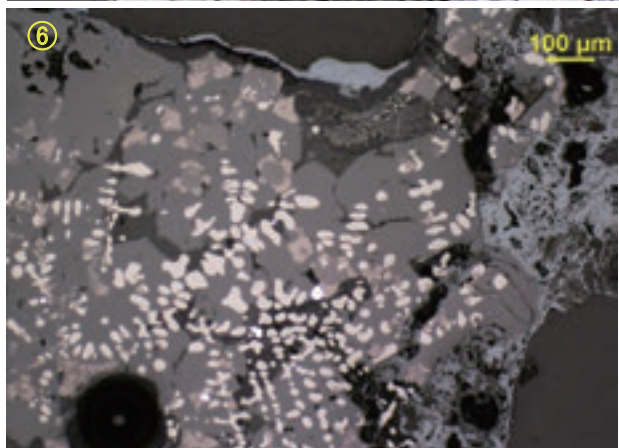
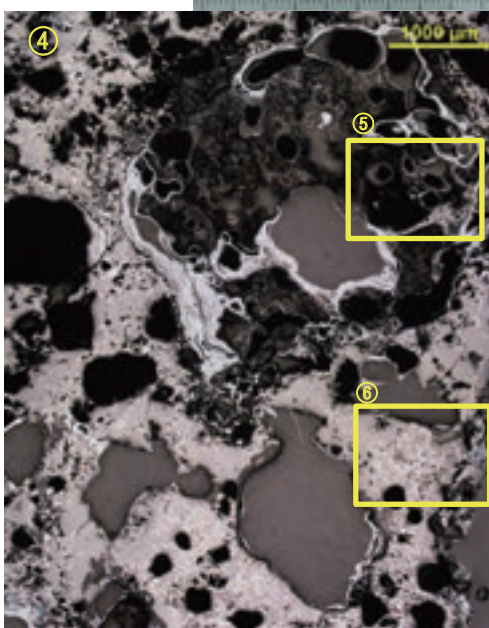
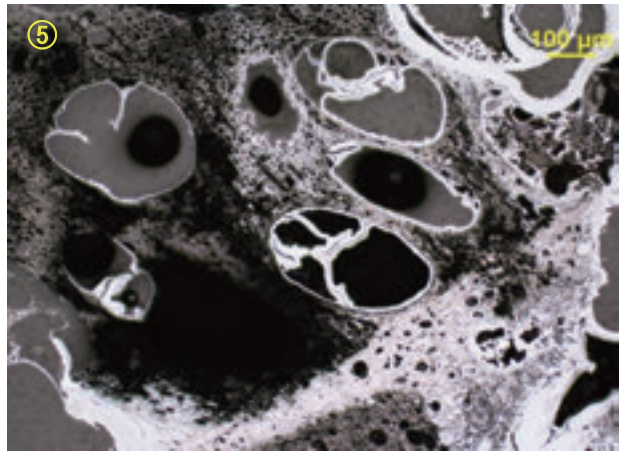
図版1 椀形鍛冶滓 (HAK-1・2) の顕微鏡組織



HAK-3  
 鍛冶滓  
 ①滓部：ウスタイト  
 (粒内微細ヘルシイ  
 ト)・ファヤライト、鍛  
 造剥片付着、②滓部、  
 ③鍛造剥片付



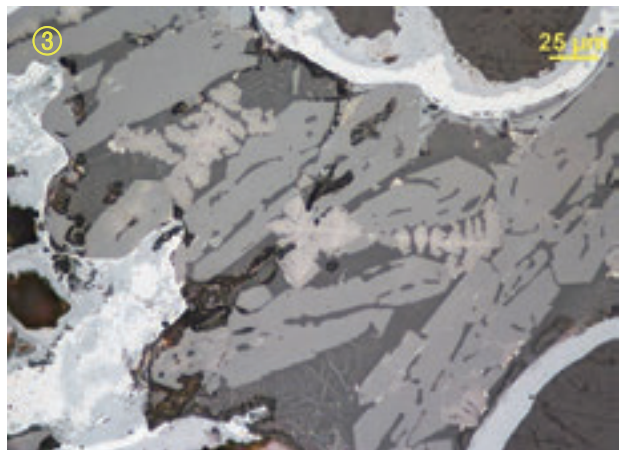
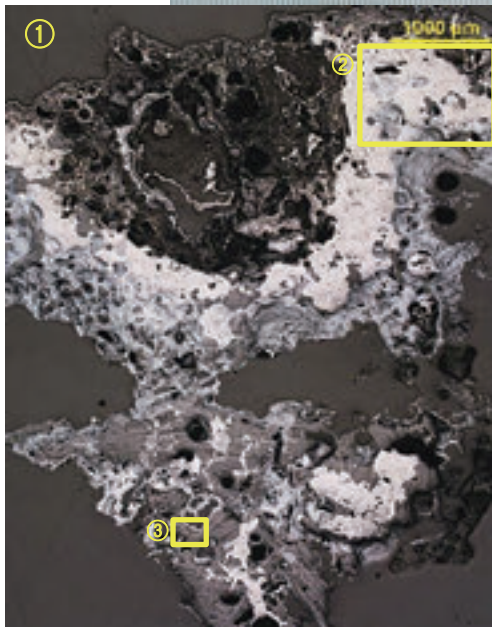
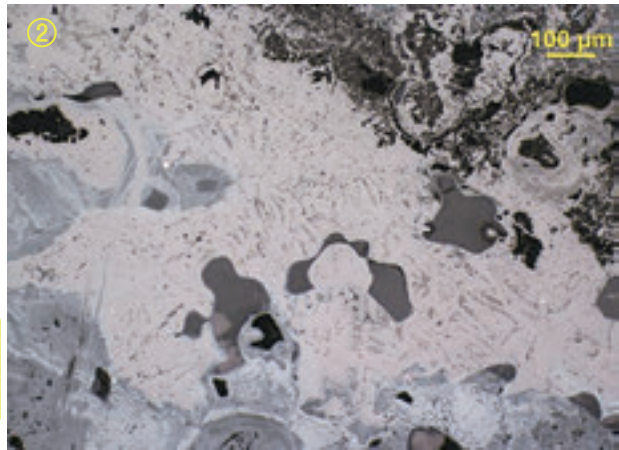
HAK-4  
 椀形鍛冶滓  
 ④黒色部：木炭(広葉  
 樹環孔材)破片、滓  
 部：ウスタイト・マ  
 グネタイト・ヘルシ  
 ナイト・ファヤライト、  
 ⑤木炭、⑥滓部拡大



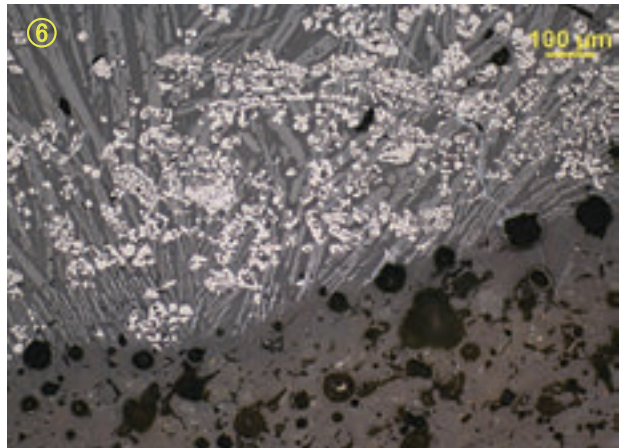
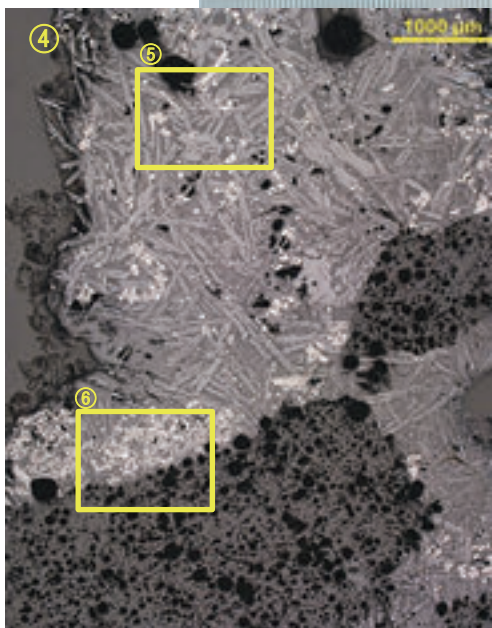
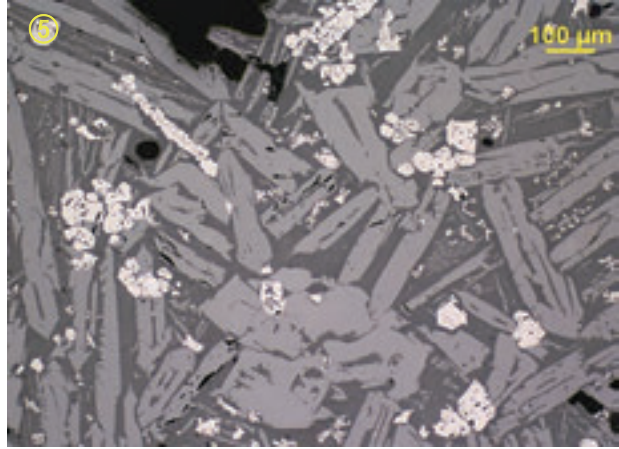
図版2 鍛冶滓 (HAK-3) ・椀形鍛冶滓 (HAK-4) の顕微鏡組織



HAK-5  
 鍛冶滓 (含鉄)  
 ① 黒色～明灰色部：  
 錆化鉄、暗灰色部：  
 鍛冶滓、② 錆化鉄部  
 拡大、亜共析組織痕  
 跡、③ 滓部：マグネ  
 タイト・ファヤライト

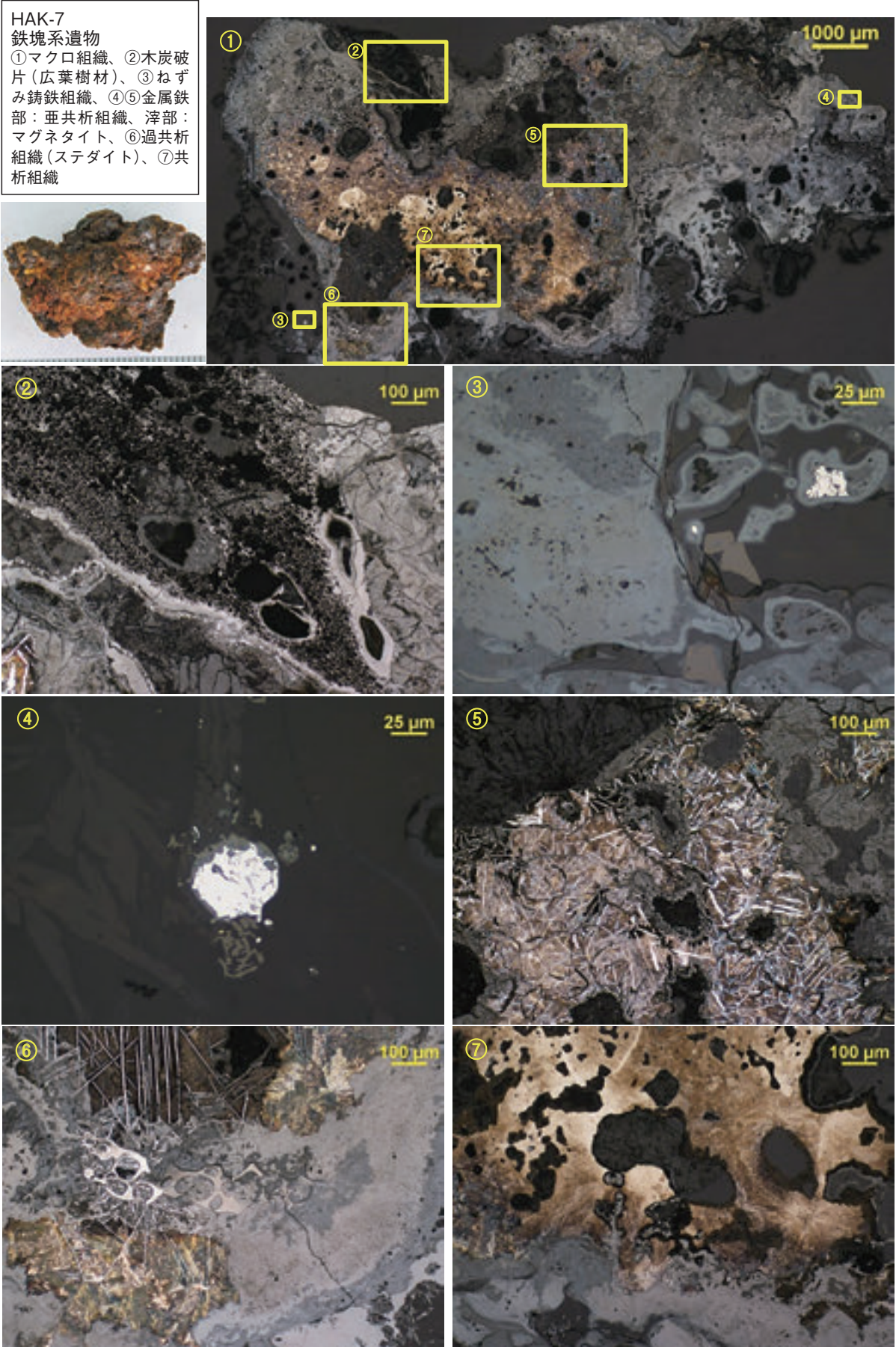


HAK-6  
 鍛冶滓  
 ④～⑥ 滓部：ウスタ  
 イト・マグネタイト・  
 ファヤライト、暗色  
 部：被熱小礫



図版 3 鍛冶滓 (HAK-5・6) の顕微鏡組織





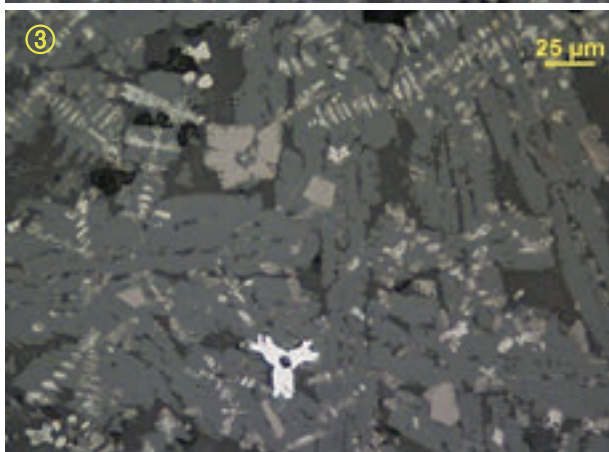
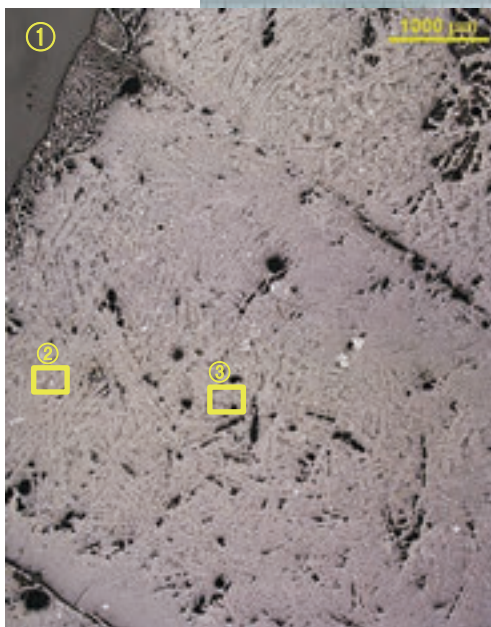
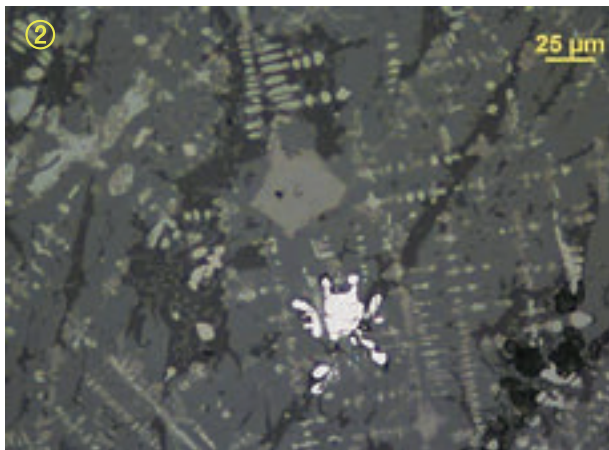
図版4 鉄塊系遺物の顕微鏡写真



HAK-8

流出滓

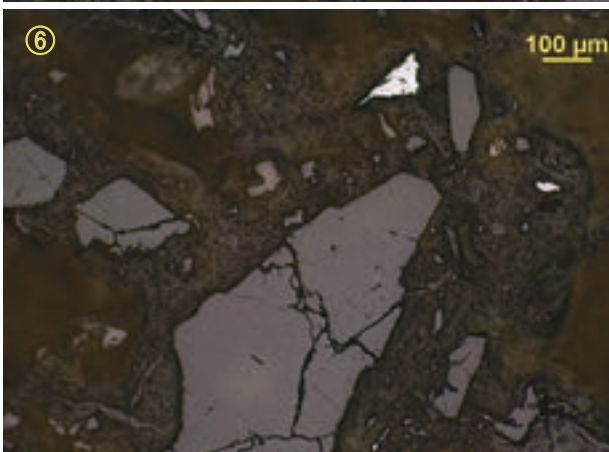
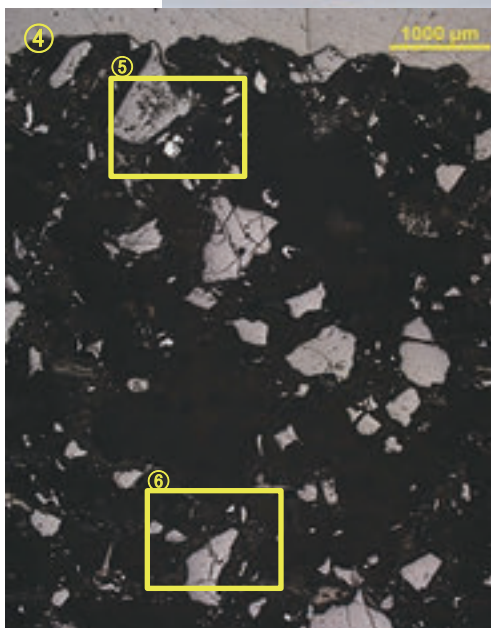
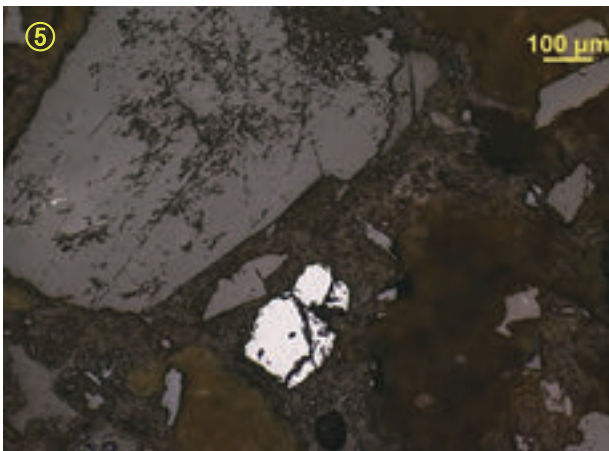
①～③滓部：マグネ  
タイト・ファヤライ  
ト、微小明白色粒：  
金属鉄、亜共析組織



HAK-9

羽口

④～⑥素地：粘土鉱  
物、暗灰色粒：石英、  
明灰色粒：磁鉄鉱（砂  
鉄）



図版5 流出滓 (HAK-8) ・羽口 (HAK-9) の顕微鏡組織

## Ⅶ ま と め

### 1 縄 文 時 代

今回の発掘調査で検出した縄文時代の遺構は東側調査区の平坦面（2区）を中心に北側斜面上部から南側斜面に分布し、竪穴建物跡、炉跡、焼土遺構、土坑類、埋設土器、柱穴が確認されたが、集落を主に構成する竪穴建物跡と土坑類を中心に触れたい。

出土遺物や重複関係から時期の特定できるものは、中期前葉（大木7式）の土坑2基、中期前葉から中葉の土坑9基、中期中葉（大木8式）の竪穴建物跡2棟、土坑4基、中期中葉から後葉（大木8～9式）の竪穴建物跡3棟、土坑2基、中期後葉（大木9式）の竪穴建物跡2棟、土坑3基、中期後葉から末葉（大木9～10式）の竪穴建物跡1棟、土坑8基、中期末葉（大木10式）の竪穴建物跡9棟、土坑11基、時期の特定できなかった竪穴建物跡1棟、土坑91基である。中期中葉以前の竪穴建物跡は確認できず、貯蔵穴を中心とする土坑類のみである。2区から1区の南東側にほとんど重複することなく分布している（第168図上）。中期中葉、中期中葉から後葉になると、竪穴建物跡が構築されるようになり、小規模ながら集落としての機能が確認できるようになる。2区全体に遺構が分布するが、一部を除いて重複することがほとんどない（第168図中）。当該期の竪穴建物跡は小規模なものが多く、炉は地床炉で、土坑状に窪んでいる。後葉になってくると、石組部1つと前庭部で構築される複式炉が構築されるようになる。これらの炉は東向きに構築される特徴が見られる。中期後葉から末葉になると、大形の竪穴建物跡が構築されるようになり、土坑数も増加するようになる。そして、中期末葉になると、集落としての規模は最大になり、竪穴建物跡と複数の貯蔵穴がセットとなるようなまとまりが確認できる（第168図下）。当該期の竪穴建物跡は径7m前後のものが多くなり、複数の石組部を持つ複式炉が主体的となっている。炉は南向きに構築される傾向が見られ、建物の柱穴は炉を中心に対称的な配置をとるものが多くなる。

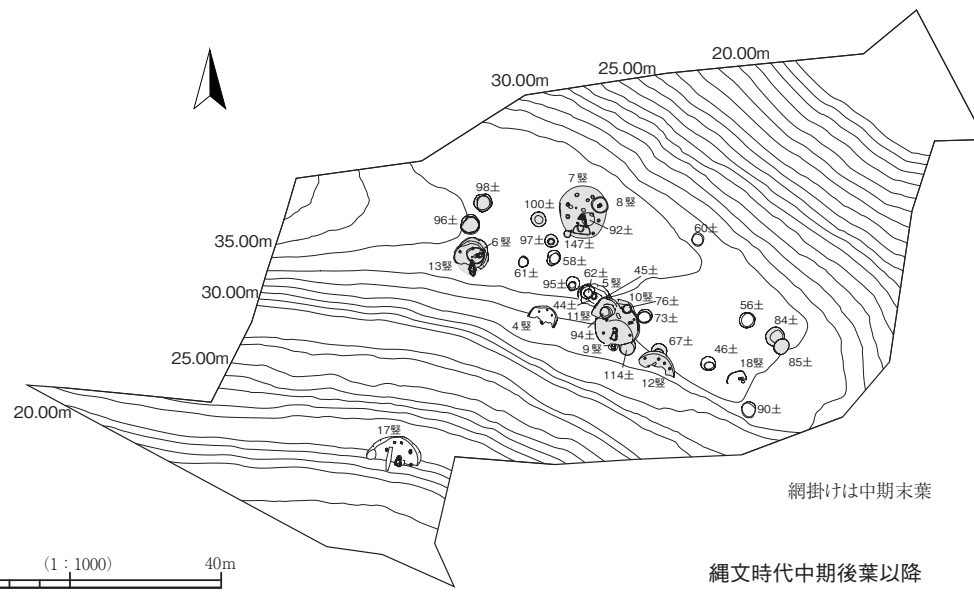
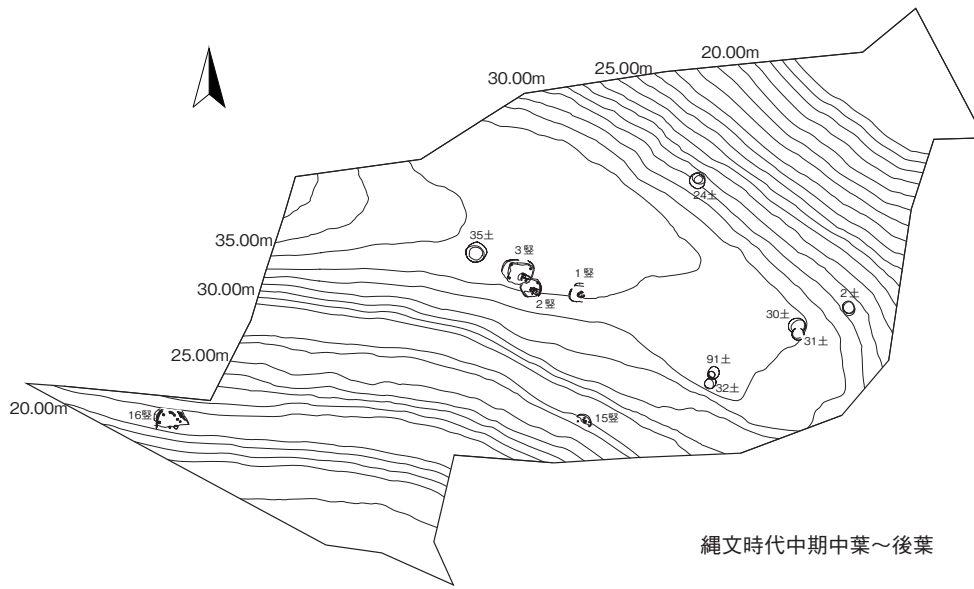
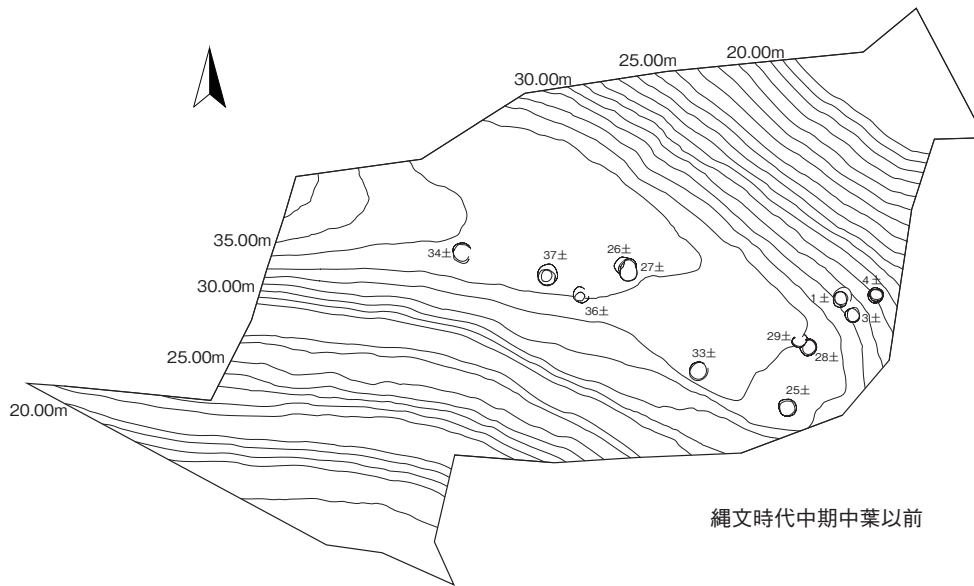
以上の状況から本遺跡は縄文時代中期末葉に最盛期を迎える、縄文時代中期前葉から末葉に断続的に営まれた集落遺跡と考えられる。しかし、今回の調査区内には中期中葉以前の居住域は確認されておらず、近接する場所に存在すると考えられる。

### 2 古 代

古代の遺構は東側調査区、西側調査区の平坦面（2区・6区）を中心に分布する。土器類が出土するものの、詳細な時期を特定できるものが少なく、科学的な年代測定結果に頼らざるを得ないが、11～12世紀を中心とするものと考えている。検出した主な遺構は竪穴建物跡9棟、鉄生産関連炉1基、土坑類24基である。

今回の発掘調査で確認された古代の竪穴建物跡には、本来居住スペースであれば構築されるべきカマドを持つものがなく、床面に1基から数基の炉（焼土）が確認できるのみである。これらの用途・機能を考える上で22号竪穴建物跡、23号竪穴建物跡、26号竪穴建物跡が鍵となる遺構と捉えている。22号竪穴建物跡は、床面に焼土層のみの炉と礫が伴う炉が確認でき、金床石と考えられる石器が出土している。また、埋土からではあるが、鉄滓が出土している。23号竪穴建物跡は、同一竪穴内に3時期の炉が確認された。ほぼ同一箇所構築されており、最古のものには底面の焼き締めと考えられる





第168図 縄文時代の遺構変遷図

焼土層が確認されている。また、埋土や柱穴から鉄滓が出土している。26号竪穴建物跡は、フラスコ形の土坑が1基伴っており、羽口や鉄滓が出土している。また、柱穴から椀形滓や流出滓等の鉄滓、埋土から要石の可能性が高い石器が出土している。

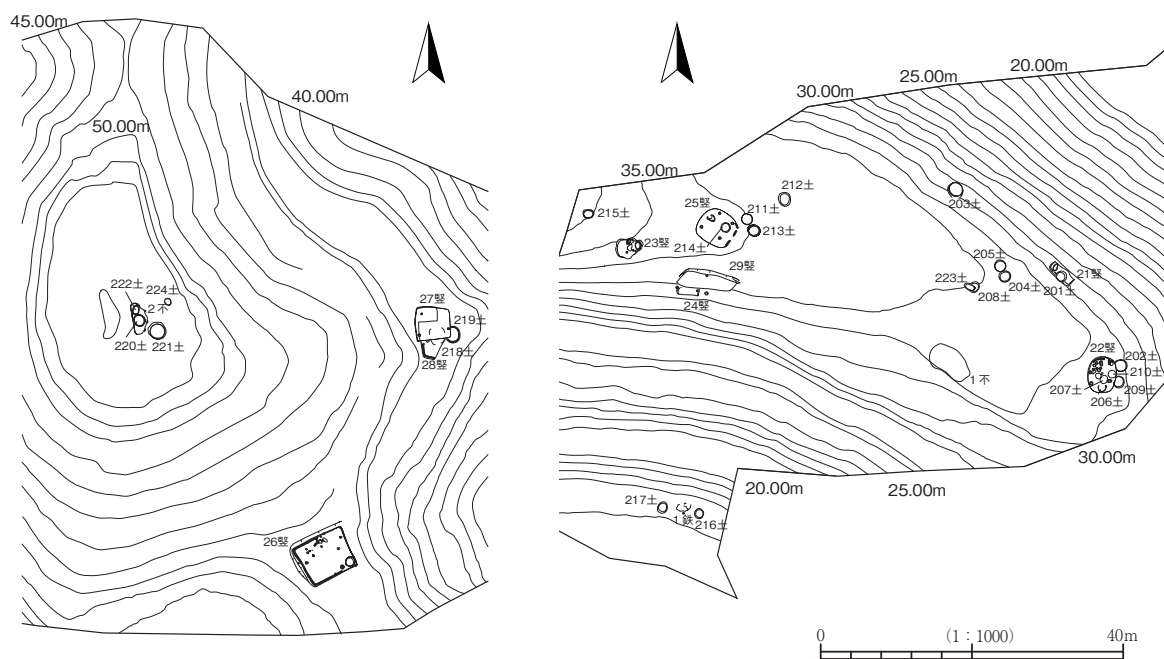
以上のように鉄生産に関係する遺構や遺物が伴っており、類似する竪穴建物跡は鉄生産に関係する遺構と判断した。鉄滓を含む鉄生産に関係する遺物量が少なく、その内容を把握するのは難しい。鉄滓の出土量から判断すると、製錬工程とは考えにくく、鍛冶工程の一部を担っていたと判断するのが自然である。炉及び炉周辺の土壌を採取して微細遺物の抽出を行ったものの、鍛造剥片や粒状滓等の鍛錬工程を裏付ける微細遺物を確認することはできなかったが、第VI章の鉄滓等の分析の結果、鍛錬鍛冶作業が行われていたと推定しており、本遺跡では、鍛錬鍛冶工程が行われていたと考えたい。

これらの遺構が帰属する時期は、前述の通り科学的な方法に頼らざるを得ないが、積極的に遺物の特徴を挙げるとなると、当該期の遺構には土師器坏が確認できない点が挙げられる。出土しないイコール組成しないと断定はできないものの、坏が伴わない傾向があることは確かであり、このことが一つの特徴と考えられる。

### 3 総 括

今回の発掘調査の対象となった範囲は縄文時代中期の集落と古代から中世にかけての鍛錬鍛冶工程を主体とした鉄生産に係わる遺跡であることが判明した。

これまで、浜川目沢田Ⅱ遺跡が所在する山田町では沢田Ⅲ遺跡、間木戸Ⅰ遺跡、石峠Ⅱ遺跡等の縄文時代中期の大規模な集落が確認されている。浜川目沢田Ⅱ遺跡は今回の調査範囲に限ってみると、これらの遺跡と比較して、竪穴建物跡の数が少なく小規模な印象を受けるが、貯蔵穴の数は決して少ないものではない。貯蔵穴と竪穴建物跡の数が比例するとなると、本遺跡も同規模の集落となる可能性があり、隣接地に多くの竪穴建物跡が存在する集落の中心があるものと考えられる。また、平成26



第169図 古代の遺構分布図

年度に発掘調査が行われ、今年度に調査報告書が発刊される浜川目沢田Ⅰ遺跡は本遺跡の北東側に隣接する遺跡で、当該期の遺物が多量に出土している。この遺跡も同じ集落の一部であるとなると、前述の遺跡にも匹敵する規模であり、縄文時代中期における岩手県沿岸中央部の様相を解明する上で重要な遺跡の一つであると考えられる。

古代から中世の鉄生産に関わる遺構の詳細については、判断を保留せざるを得ない部分を残すものの、震災復興調査の進展に伴い沿岸一帯で当該期の製鉄関連遺跡の調査事例が増加しており、今後、類例との比較検討を通じて実態解明に取り組みたい。

## 引用・参考文献

(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書は岩埋報第〇集と表記している)

阿部昭典2008『縄文時代の社会変動論』未完成考古学叢書 株式会社アム・プロモーション

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

1989『源道遺跡発掘調査報告書』岩埋報第138集

1993『湾台Ⅱ遺跡・湾台Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩埋報第186集

1994『上村遺跡発掘調査報告書』岩埋報第202集

1996『山ノ内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩埋報第249集

1997『山ノ内Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩埋報第250集

1997『沢田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩埋報第268集

2000『沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩埋報第318集

2004『島田Ⅱ遺跡第2～4次発掘調査報告書』岩埋報第450集

2008『力持遺跡発掘調査報告書』岩埋報第510集

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

2015『中野遺跡発掘調査報告書』岩埋報第636集

2015『間木戸Ⅱ遺跡・間木戸Ⅴ遺跡発掘調査報告書』岩埋報第640集

吉良哲明1954 改訂26刷〔1980〕『原色日本貝類図鑑』株式会社保育社

中野幸大2008「大木7 a～8 b式土器」『総覧縄文土器』株式会社アム・プロモーション

丹羽雅人2008「土器片加工円板・錘」『総覧縄文土器』株式会社アム・プロモーション

盛岡市・盛岡市教育委員会2008『柿ノ木平遺跡・堰根遺跡』－浅岸地区区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ－

森 幸彦2008「大木9・10式土器」『総覧縄文土器』株式会社アム・プロモーション

山田町教育委員会2002『細浦Ⅵ・後山Ⅰ遺跡発掘調査報告書』山田町教育委員会埋蔵文化財調査報告書第9集

# 写 真 图 版





調査区遠景 南から



調査区遠景 東から

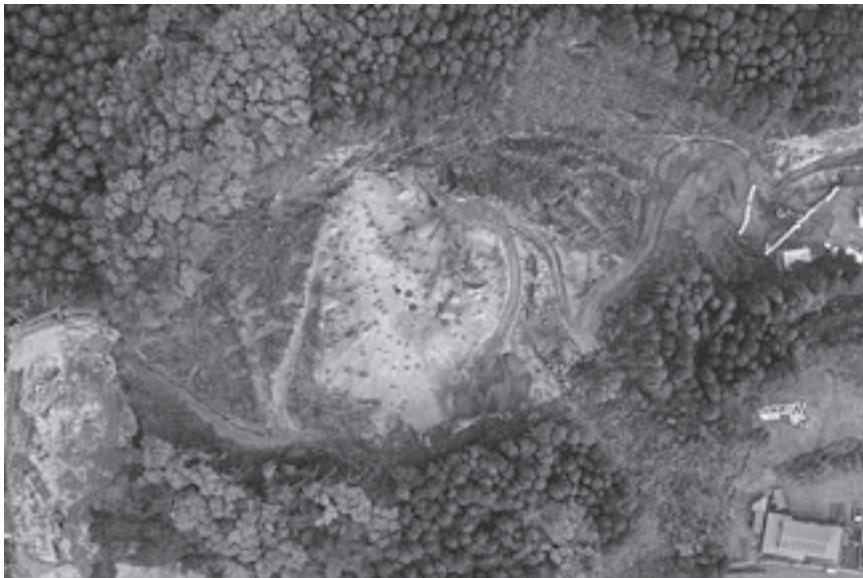


調査区遠景 南西から





東側調査区全景 上が北東



西側調査区全景 上が北



2区遺構集中部 南西から



現況(2区) 西から

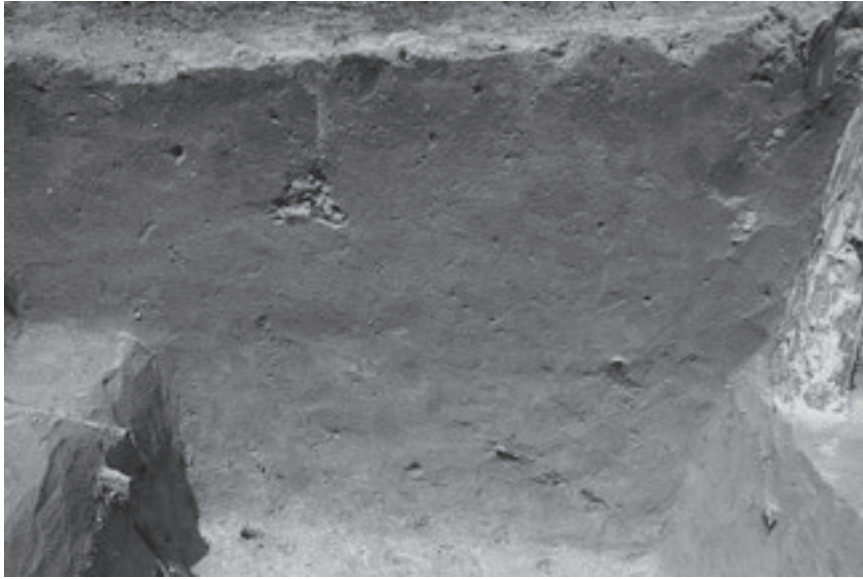


現況(6区) 南東から



作業状況(6区) 西から

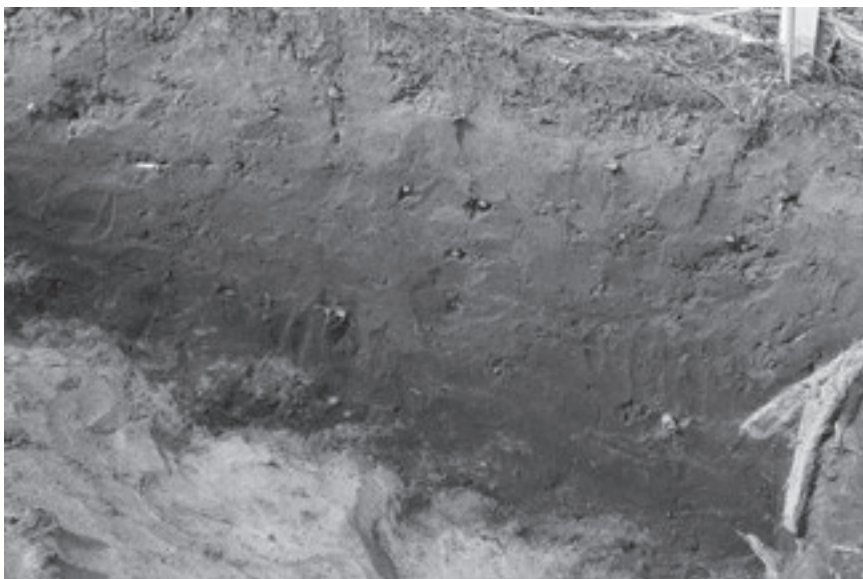




層序(2区) 南東から

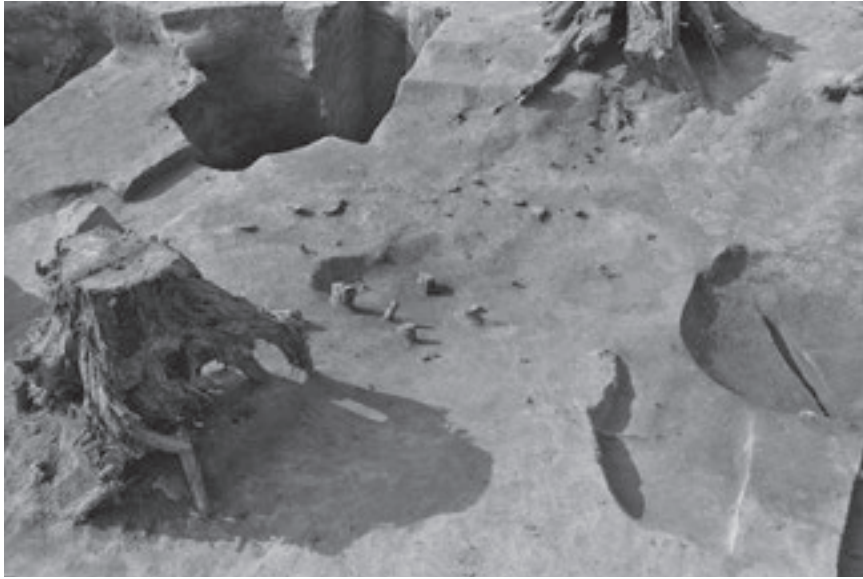


層序(3区) 西から



層序(6区) 南から

写真図版4 層序



1号竪穴建物跡 全景 南から



5号竪穴建物跡 全景 南から



5号竪穴建物跡 断面 西から



5号竪穴建物跡 断面 南から





2号竪穴建物跡 全景 南から



2号竪穴建物跡 断面 東から



2号竪穴建物跡 炉全景 東から



2号竪穴建物跡 炉断面 南から

写真図版6 縄文時代の遺構2



3号竪穴建物跡 全景 東から

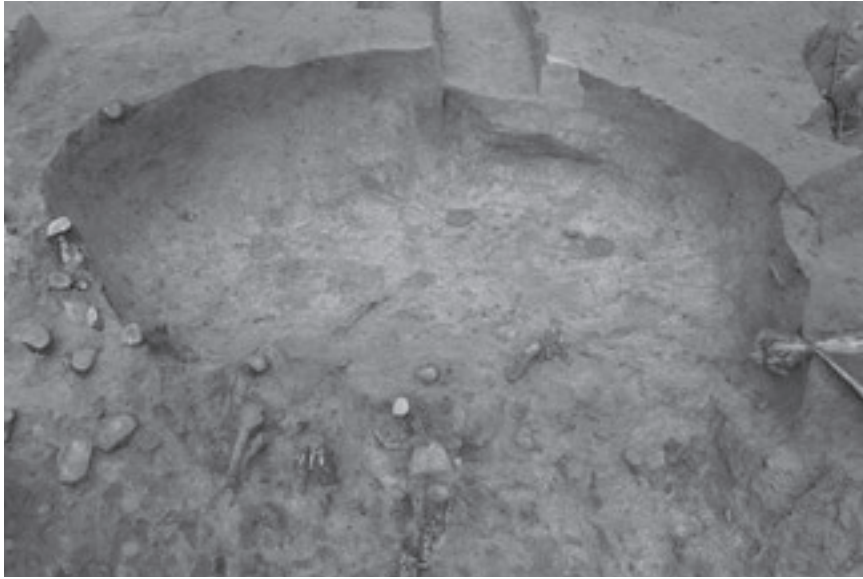


3号竪穴建物跡 断面 南東から

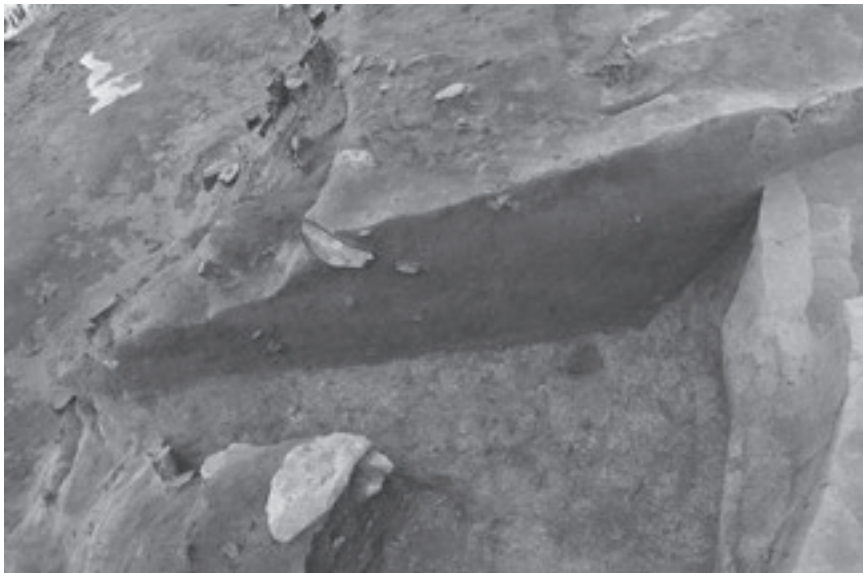


3号竪穴建物跡 炉全景 東から

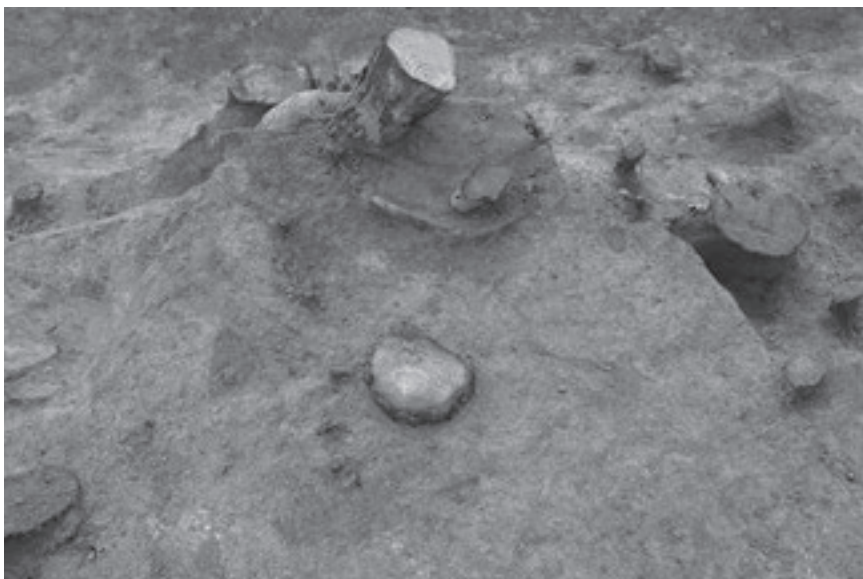




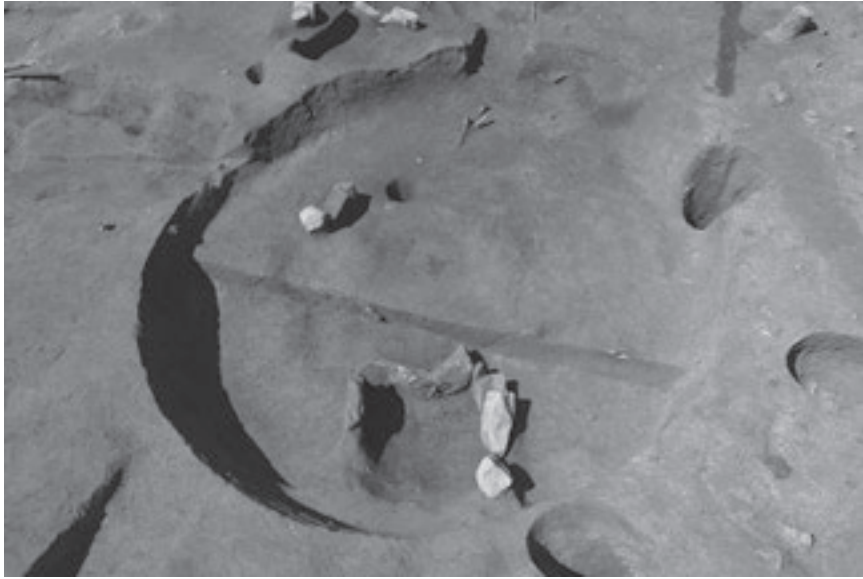
4号竪穴建物跡 全景 南から



4号竪穴建物跡 断面 東から



4号竪穴建物跡 炉全景 北から



6号竪穴建物跡 全景 東から



6号竪穴建物跡 断面 東から



6号竪穴建物跡 炉全景 東から



7号竪穴建物跡 全景 南から



7号竪穴建物跡 断面 南東から



7号竪穴建物跡  
左：炉全景 南から  
右上：土器埋設部断面  
南から  
右下：石組部1断面  
南から



7号竪穴建物跡 炉断面  
南東から





8号竪穴建物跡 全景 西から



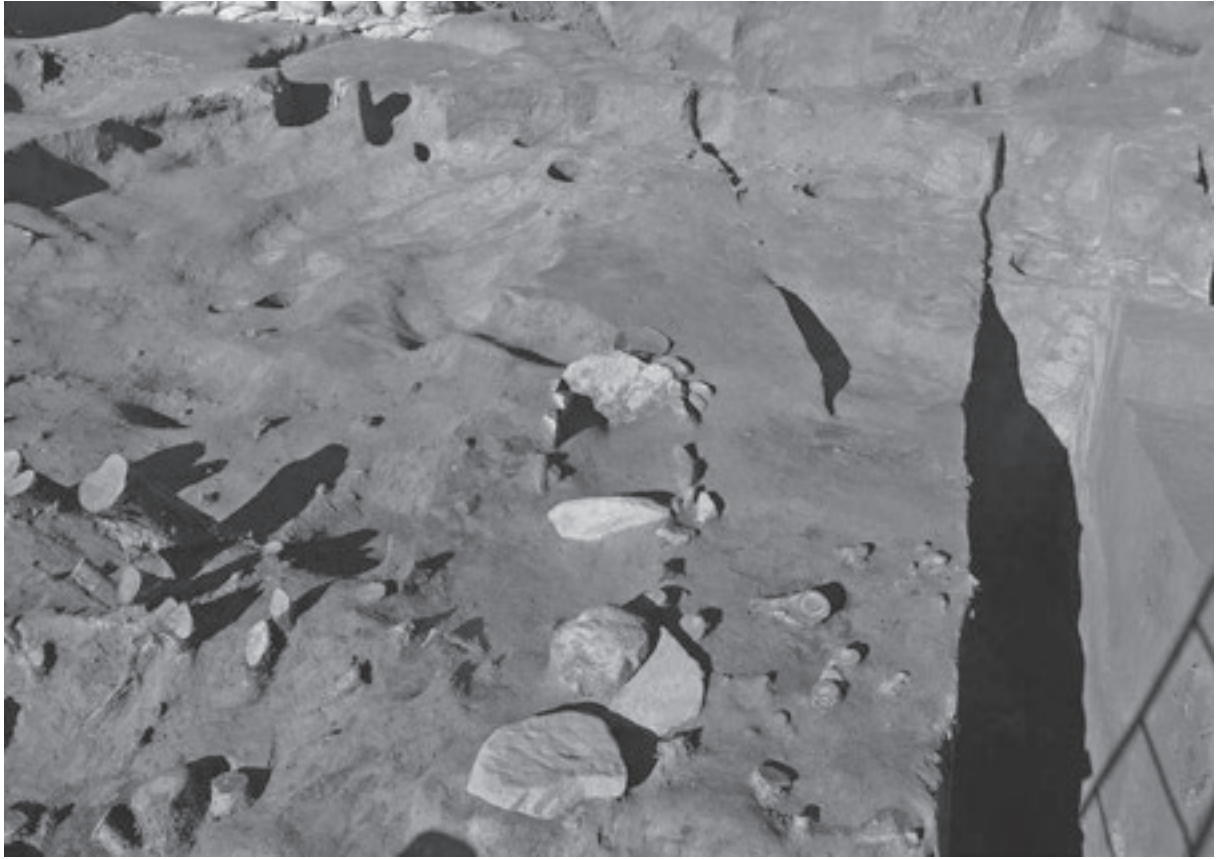
8号竪穴建物跡 断面 西から



8号竪穴建物跡 炉全景 西から



8号竪穴建物跡 炉断面 北から



9号竪穴建物跡 全景 南から



9号竪穴建物跡 断面 東から



9号竪穴建物跡 炉全景 西から



9号竪穴建物跡 炉断面 西から





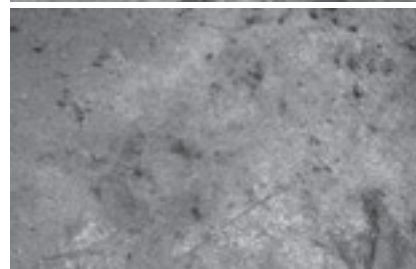
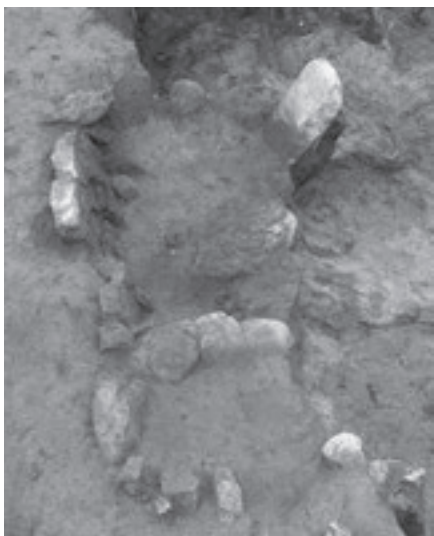
10号竪穴建物跡 全景 南から



10号竪穴建物跡 断面 西から

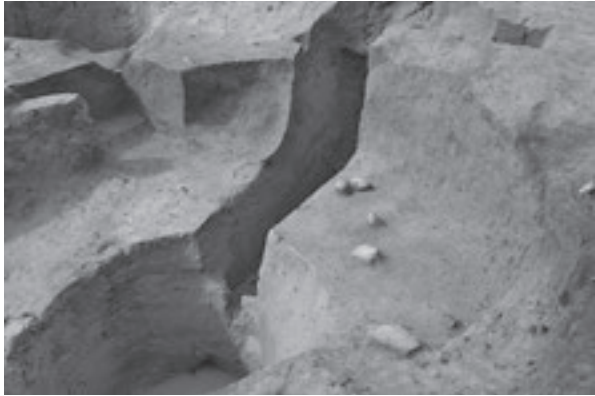


10号竪穴建物跡 断面 南から



10号竪穴建物跡  
左：炉全景 北から  
右上：炉断面 西から  
右下：焼土1全景 西から





11号竪穴建物跡 全景 南東から



11号竪穴建物跡 断面 西から



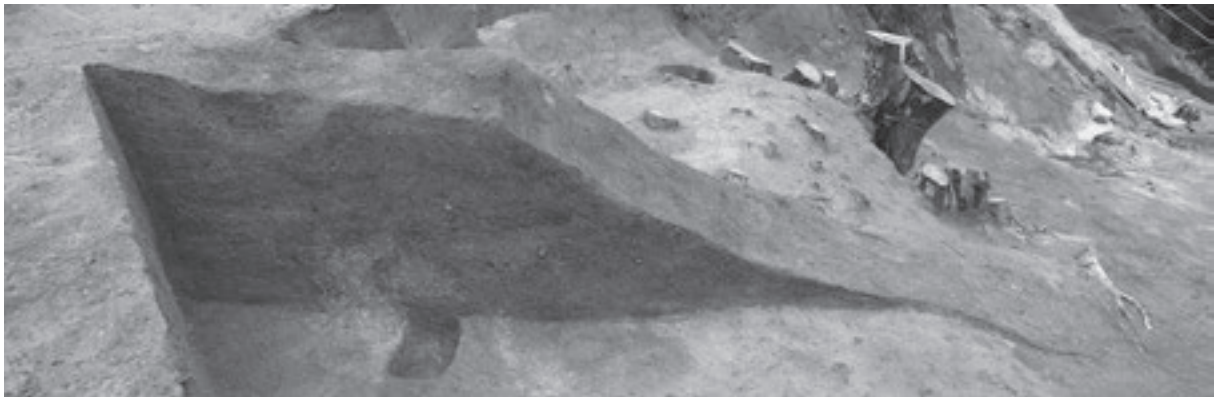
14号竪穴建物跡 全景 北から



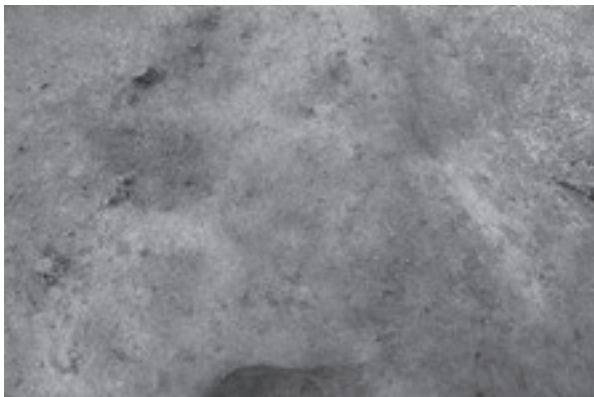
14号竪穴建物跡 断面 北東から



12号竪穴建物跡 全景 南西から



12号竪穴建物跡 断面 北西から



12号竪穴建物跡 炉全景 南西から

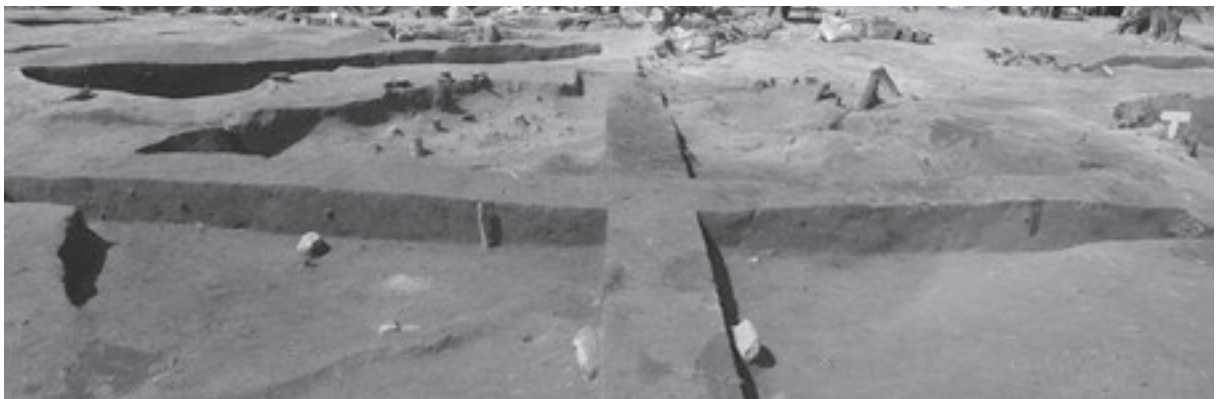


12号竪穴建物跡 遺物出土状況 南東から





13号竪穴建物跡 全景 南から



13号竪穴建物跡 断面 南から

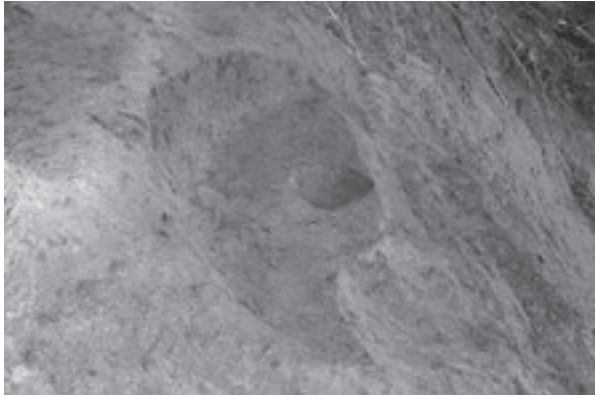


13号竪穴建物跡 炉全景 南から

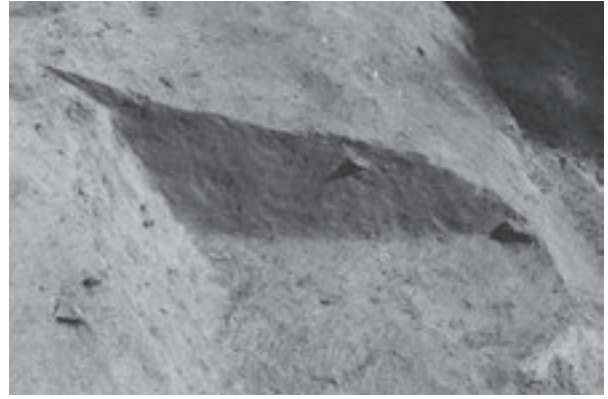


13号竪穴建物跡 炉断面 東から

写真図版 16 縄文時代の遺構 12



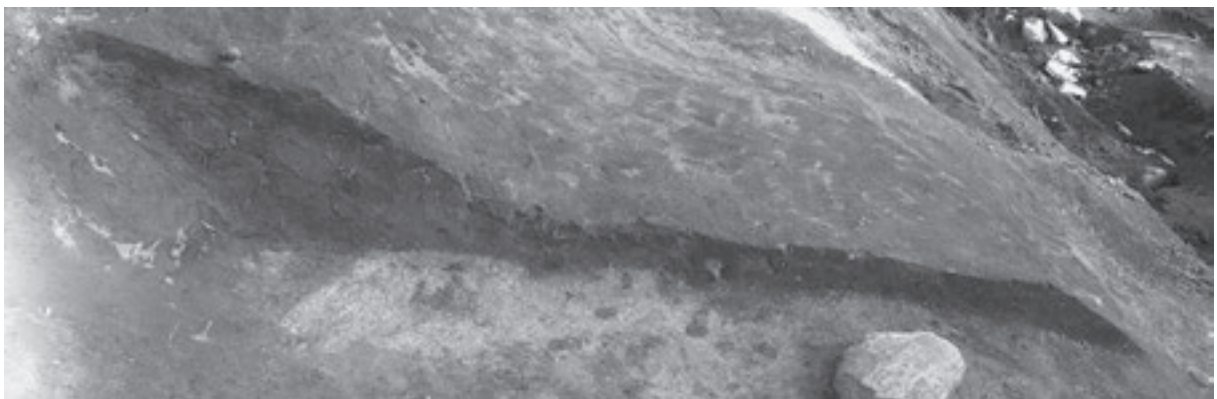
15号竪穴建物跡 全景 西から



15号竪穴建物跡 断面 西から



16号竪穴建物跡 全景 西から

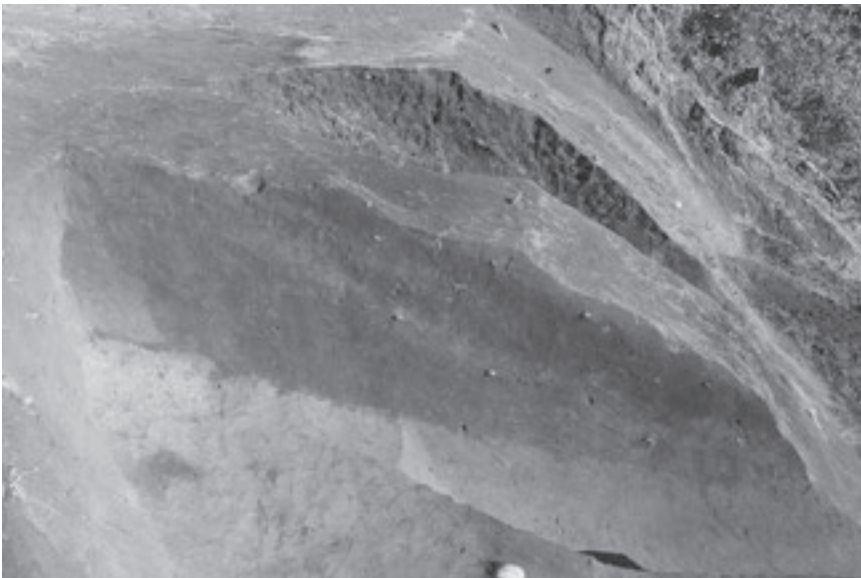


16号竪穴建物跡 断面 西から





17号竖穴建物跡 全景 北西から



17号竖穴建物跡 断面 西から



17号竖穴建物跡 炉全景 東から



18号竪穴建物跡 全景 北から



18号竪穴建物跡 断面 南東から



18号竪穴建物跡 炉全景 北から



18号竪穴建物跡 遺物出土状況 南東から





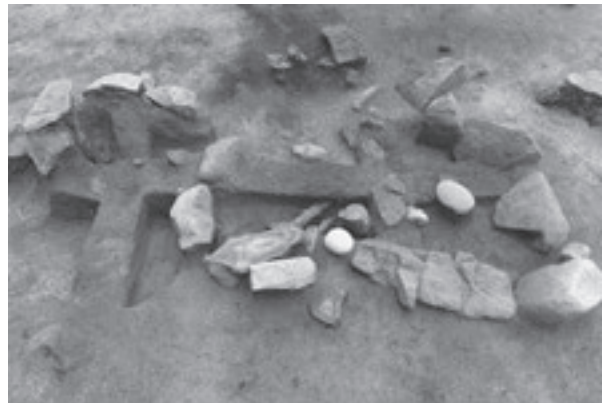
1号炉跡 全景 北西から



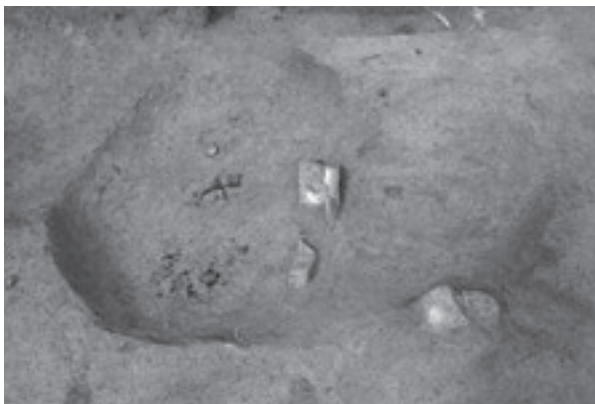
1号炉跡 断面 南西から



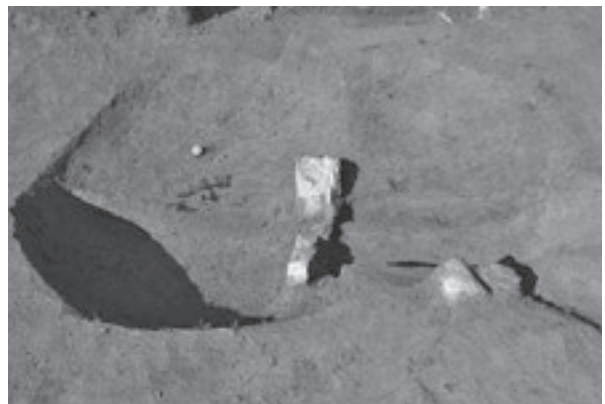
2号炉跡 全景 北から



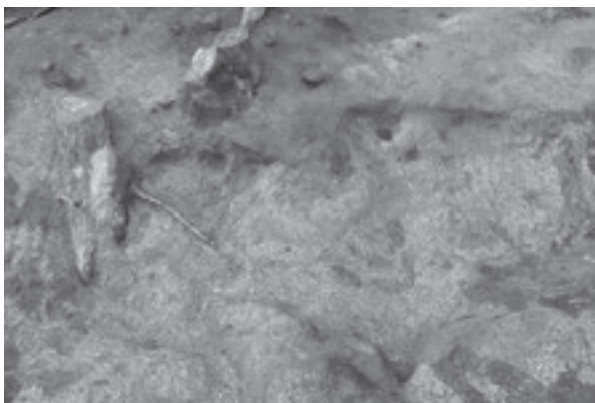
2号炉跡 断面 東から



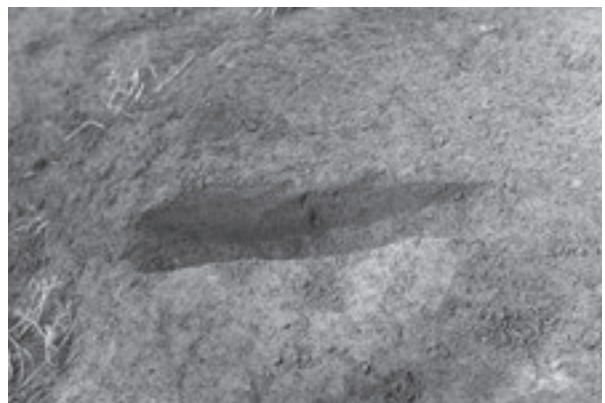
3号炉跡 全景 南から



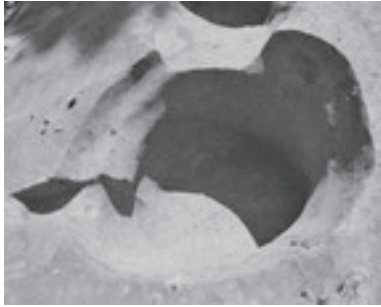
3号炉跡 断面 南から



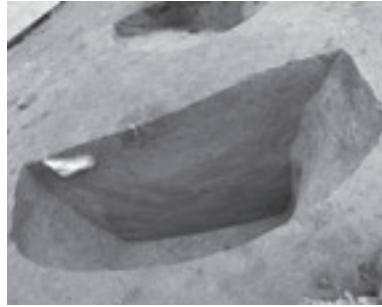
1号焼土遺構 全景 東から



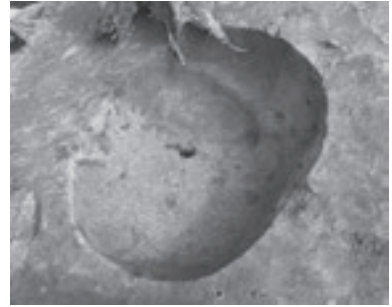
2号焼土遺構 全景 東から



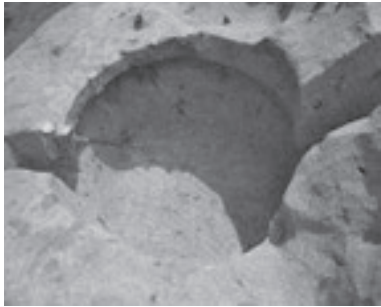
1号土坑 全景 北から



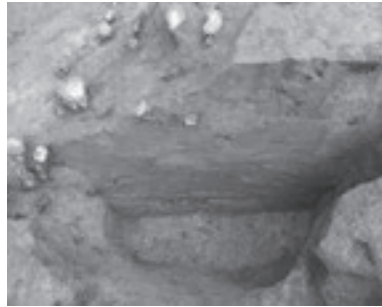
1号土坑 断面 北西から



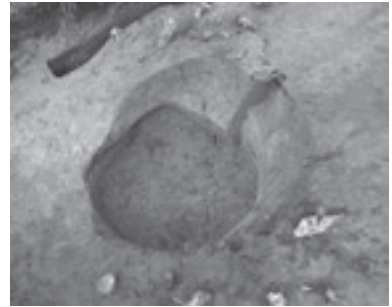
2号土坑 全景 北から



3号土坑 全景 北東から



3号土坑 断面 北から



4号土坑 全景 西から



4号土坑 断面 北西から



5号土坑 全景 北西から



5～7号土坑 断面 北西から



6号土坑 全景 北西から



7号土坑 全景 北西から



8号土坑 全景 南から



9号土坑 全景 南から



10号土坑 全景 南から

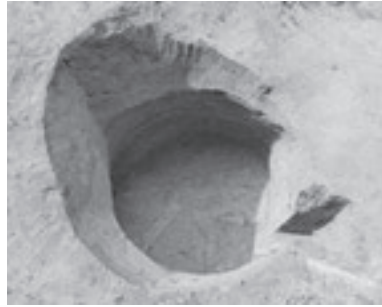


10号土坑 断面 南から

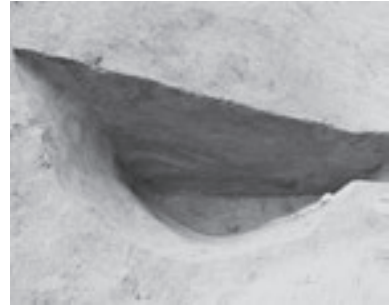




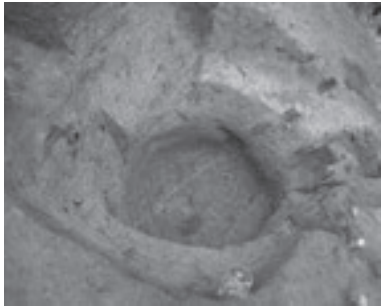
11号土坑 全景 南から



12号土坑 全景 南東から



12号土坑 断面 南から



13号土坑 全景 南東から



13号土坑 断面 南東から



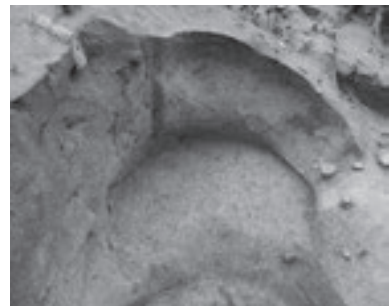
14号土坑 全景 南から



15号土坑 全景 東から



16号土坑 全景 北から



17号土坑 全景 南西から



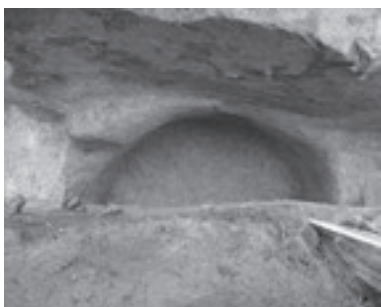
17号土坑 断面 南東から



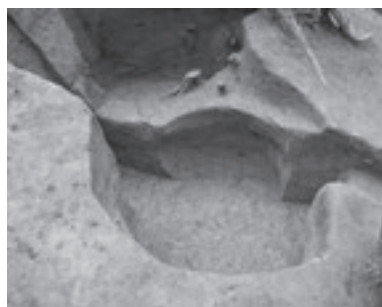
18号土坑 全景 南東から



18号土坑 断面 南東から



19号土坑 全景 東から



20号土坑 全景 南東から



20号土坑 断面 南から



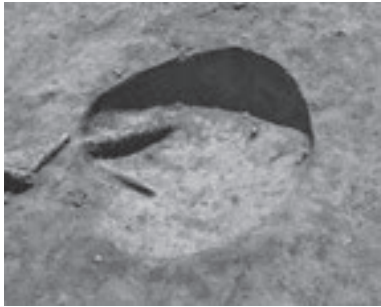
21号土坑 全景 南東から



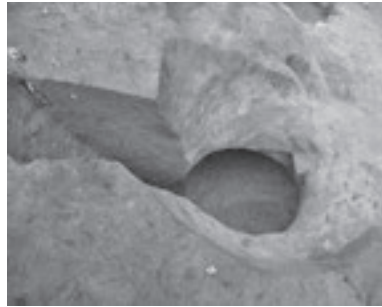
21号土坑 断面 北西から



22号土坑 全景 南東から



23号土坑 全景 北から



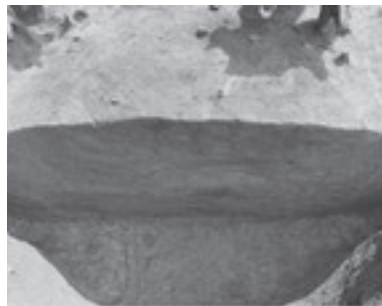
24号土坑 全景 南東から



24号土坑 断面 南東から



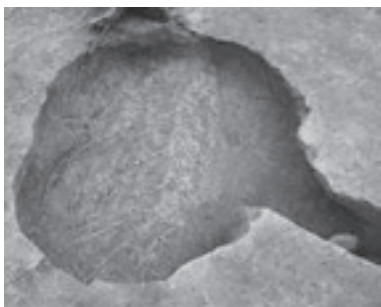
25号土坑 全景 北東から



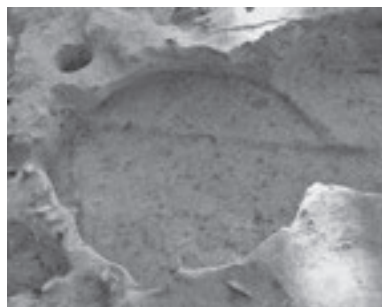
25号土坑 断面 北東から



26号土坑 全景 東から



27号土坑 全景 北西から



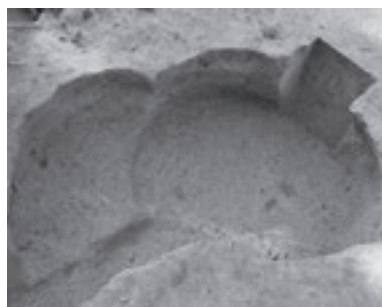
28号土坑 全景 北から



29号土坑 断面 北から



29号土坑 全景 東から



30・31号土坑 全景 東から



30号土坑 断面 北東から





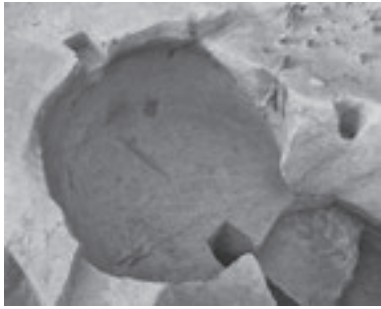
32号土坑 全景 西から



33号土坑 全景 東から



33号土坑 断面 南から



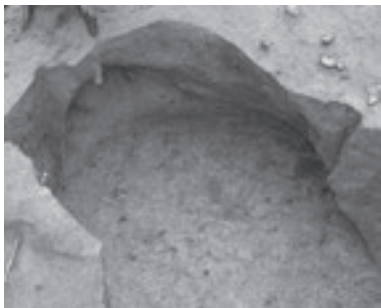
34号土坑 全景 南東から



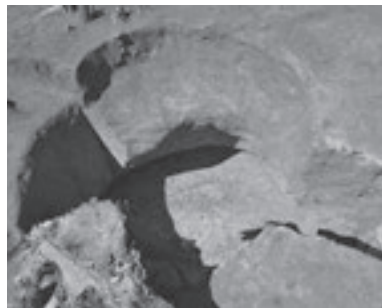
34号土坑 断面 南東から



35号土坑 全景 南東から



36号土坑 全景 東から



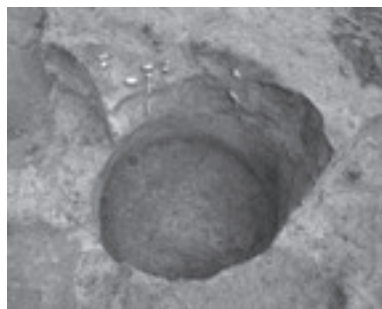
37号土坑 全景 北東から



37号土坑 断面 東から



37号土坑 土器(87)出土状況 東から



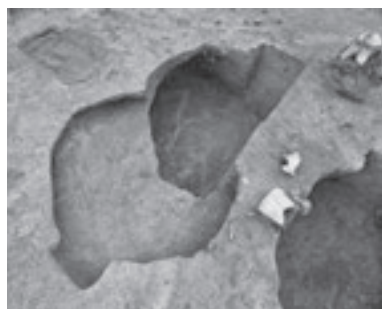
38号土坑 全景 南から



39号土坑 全景 北東から



40号土坑 全景 東から

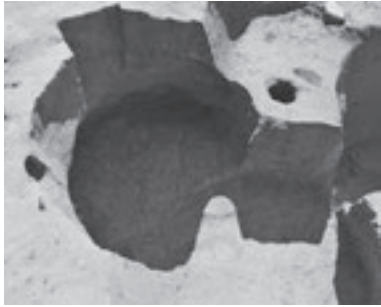


41・42号土坑 全景 北西から

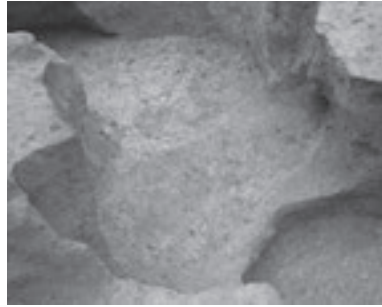


41・42号土坑 断面 西から

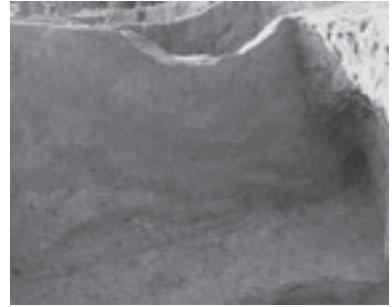




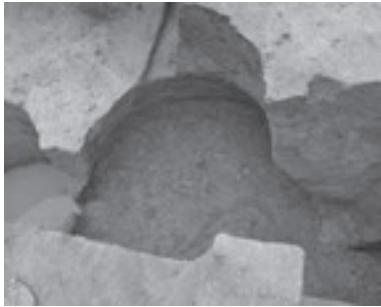
43号土坑 全景 西から



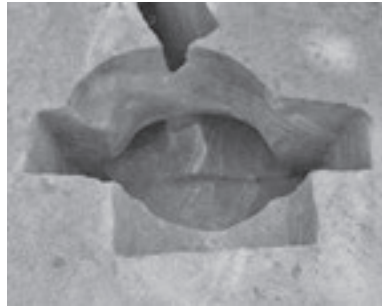
44号土坑 全景 南東から



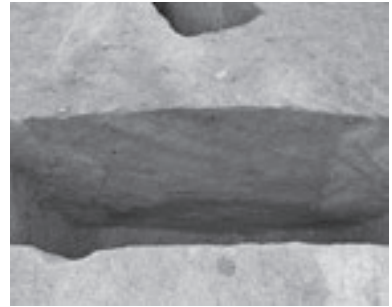
44号土坑 断面 東から



45号土坑 全景 東から



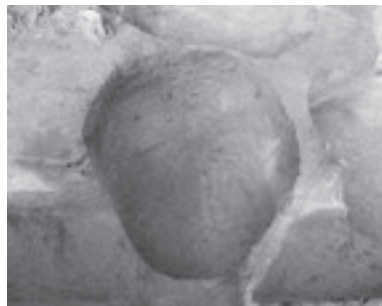
46号土坑 全景 北西から



46号土坑 断面 北西から



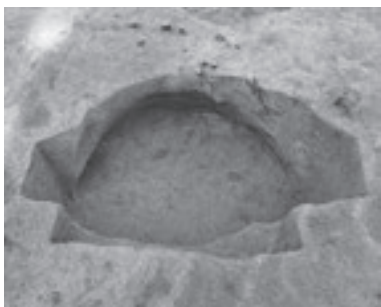
47号土坑 全景 東から



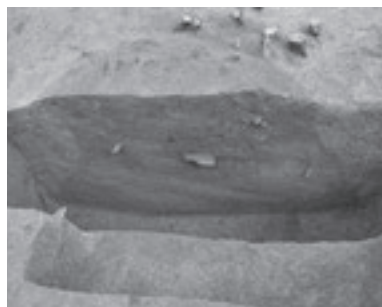
48号土坑 全景 南から



49号土坑 全景 北から



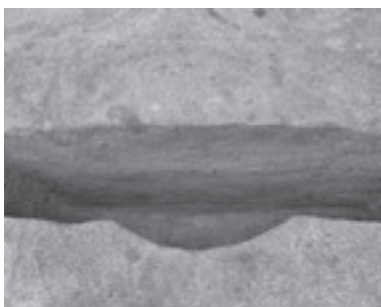
50号土坑 全景 東から



50号土坑 断面 東から



51号土坑 断面 北から



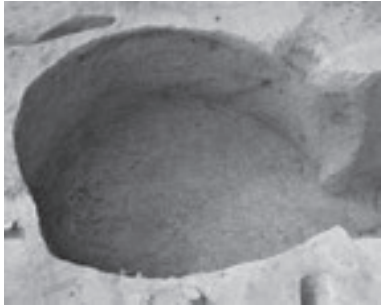
52号土坑 断面 西から



53号土坑 全景 東から



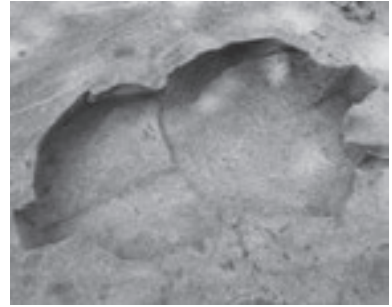
53号土坑 断面 南から



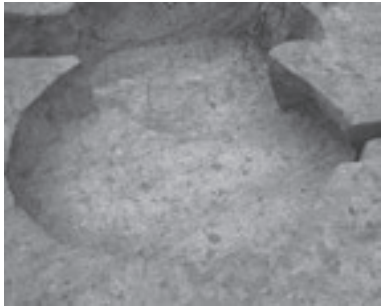
54号土坑 全景 南東から



54号土坑 断面 南東から



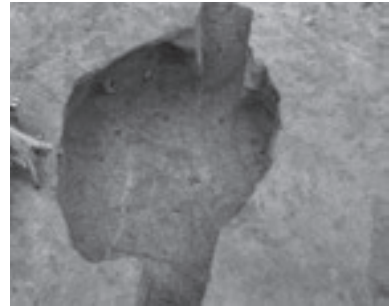
55・56号土坑 全景 東から



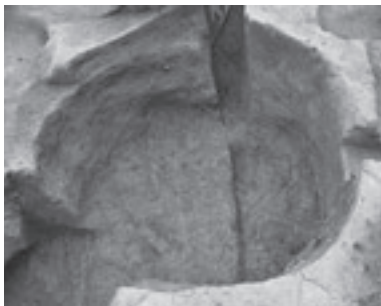
57号土坑 全景 東から



57号土坑 断面 東から



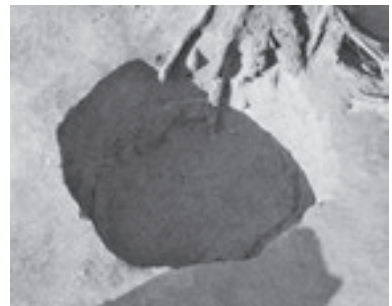
58号土坑 全景 南から



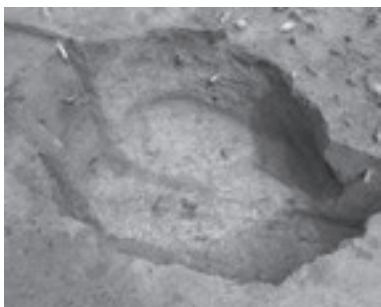
59号土坑 全景 北から



59号土坑 断面 西から



60号土坑 全景 南東から



61号土坑 全景 南西から



62号土坑 全景 南から



62号土坑 断面 東から



63・86号土坑 全景 北東から



64号土坑 全景 北から

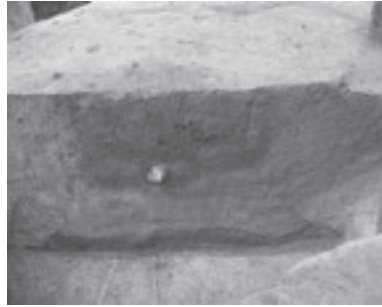


65号土坑 全景 南から





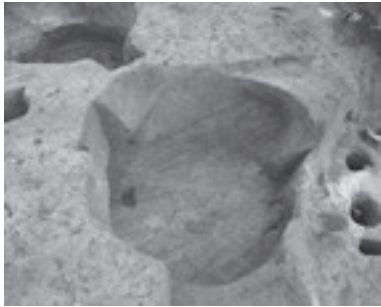
66号土坑 全景 北から



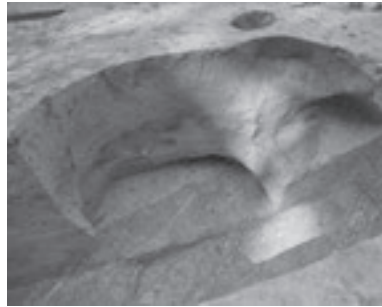
66・67号土坑 断面 南から



67号土坑 全景 南から



68号土坑 全景 北西から



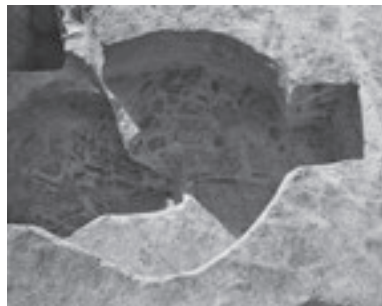
69・70号土坑 全景 東から



69・70号土坑 断面 東から



71号土坑 全景 北から



72号土坑 全景 東から



73号土坑 全景 東から



73号土坑 断面 東から



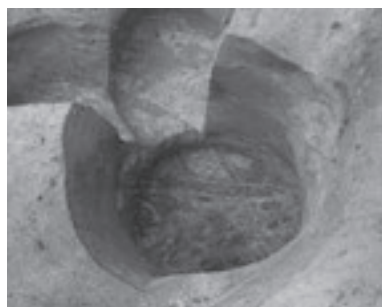
74号土坑 全景 北から



75号土坑 全景 北から



75・76号土坑 断面 南から



76号土坑 全景 北東から



77・78号土坑 全景 東から



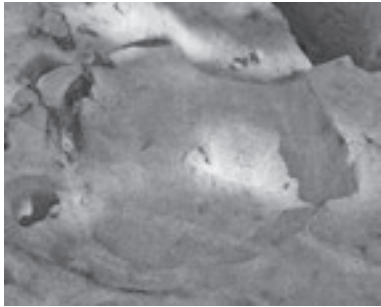
77・78号土坑 断面 東から



79・80号土坑 全景 北から



79・80号土坑 断面 北から



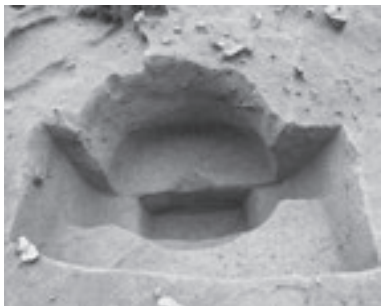
81号土坑 全景 南西から



82号土坑 全景 南から



82・83号土坑 断面 東から



83号土坑 全景 南から



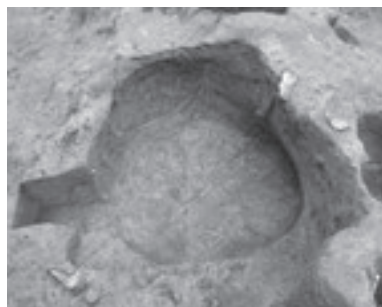
84・85号土坑 全景 南から



84号土坑 断面 北東から



87号土坑 全景 南西から



88号土坑 全景 南東から



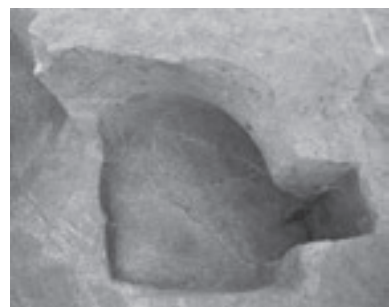
89号土坑 全景 南東から



90号土坑 全景 東から

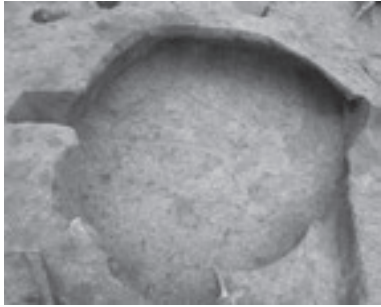


90号土坑 断面 東から



91号土坑 全景 南から

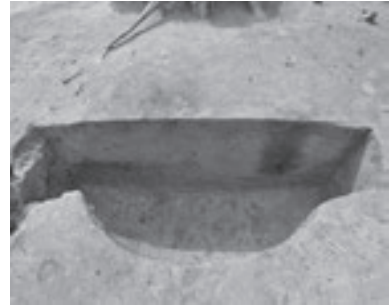




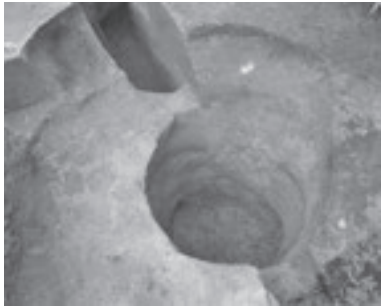
92号土坑 全景 北西から



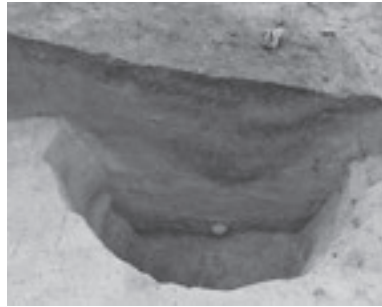
93号土坑 全景 南東から



93号土坑 断面 南東から



94号土坑 全景 南西から



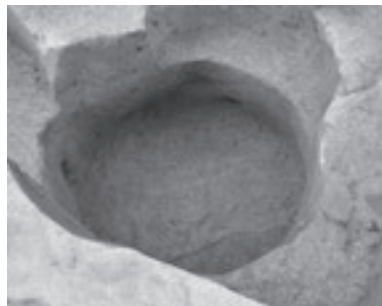
94号土坑 断面 西から



95号土坑 全景 東から



95号土坑 断面 東から



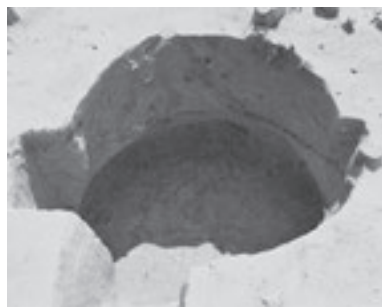
96号土坑 全景 南東から



97号土坑 全景 北東から



97号土坑 断面 北東から



98号土坑 全景 西から



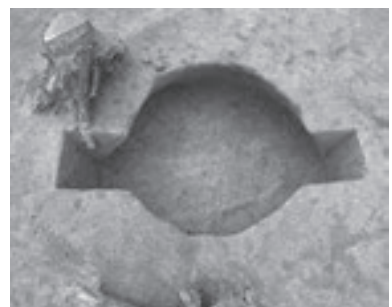
98号土坑 断面 西から



99号土坑 全景 南東から

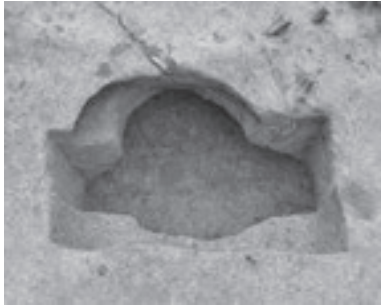


99号土坑 断面 南東から

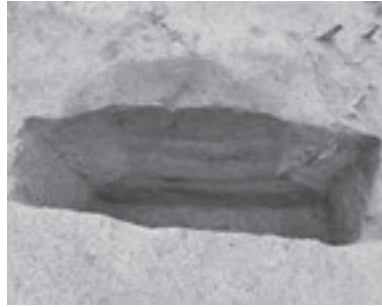


100号土坑 全景 南東から

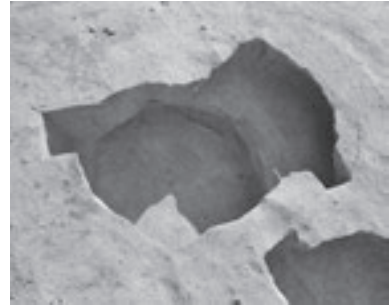




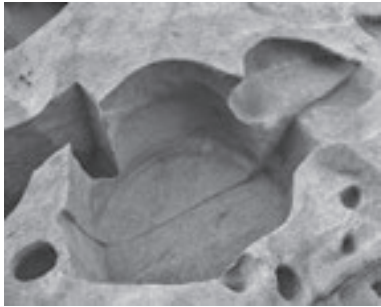
101号土坑 全景 北東から



101号土坑 断面 東から



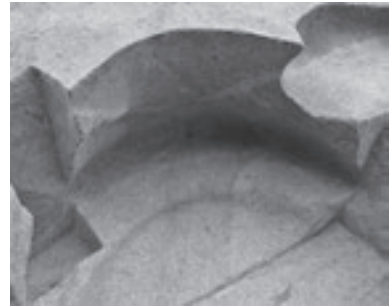
102・103号土坑 全景 北西から



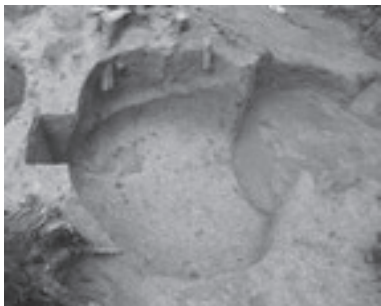
104・105号土坑 全景 東から



104・105号土坑 断面 東から



106号土坑 全景 東から



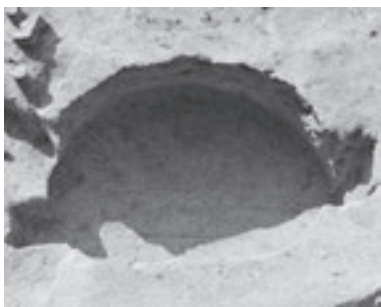
107号土坑 全景 南西から



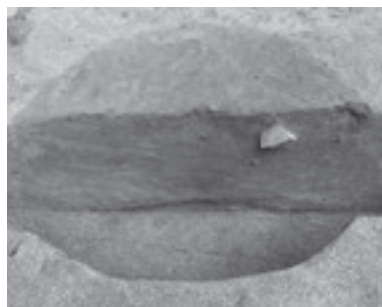
107・108・148号土坑 断面 南西から



108号土坑 全景 南西から



109号土坑 全景 南東から



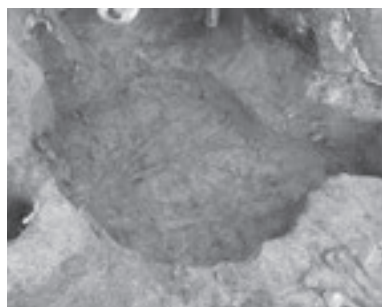
109号土坑 断面 南東から



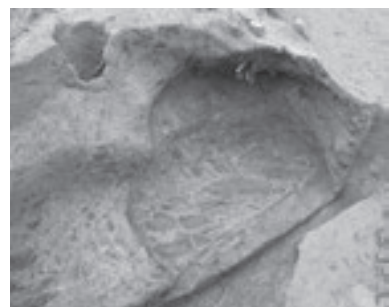
110号土坑 全景 東から



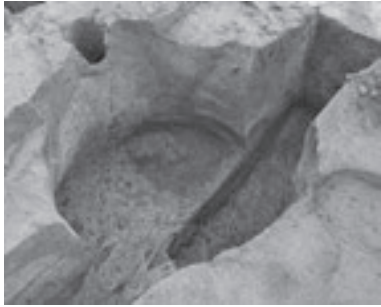
111号土坑 全景 北西から



112号土坑 全景 北西から



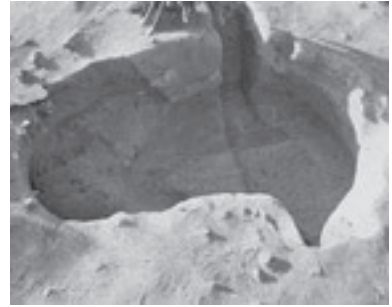
113号土坑 全景 北から



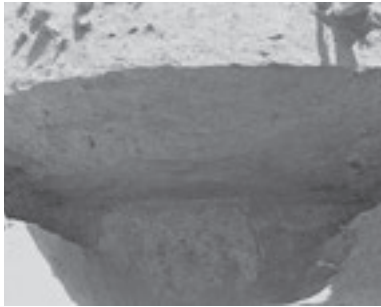
114号土坑 全景 北から



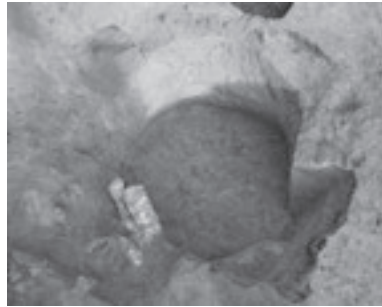
114号土坑 断面 北西から



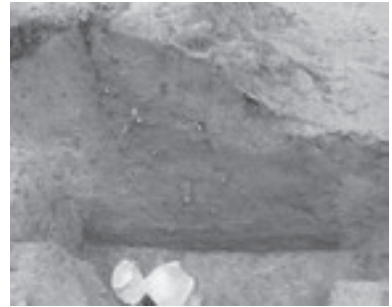
115・116号土坑 全景 東から



116号土坑 断面 北から



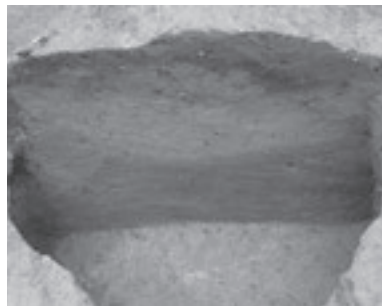
117号土坑 全景 北西から



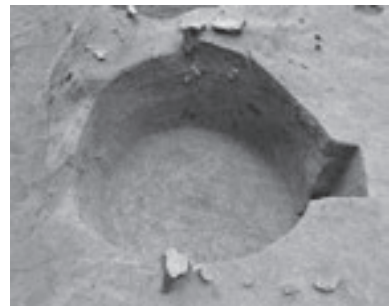
117号土坑 断面 北西から



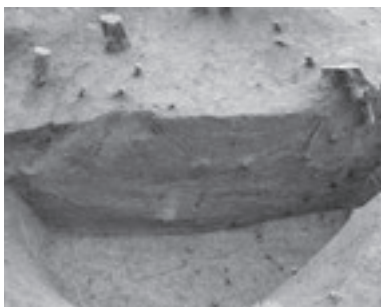
118号土坑 全景 南から



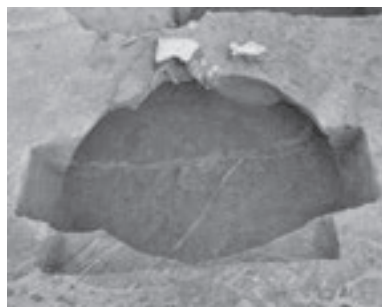
118号土坑 断面 東から



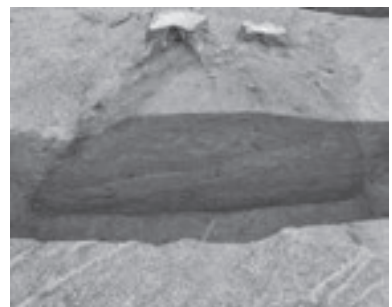
119号土坑 全景 南東から



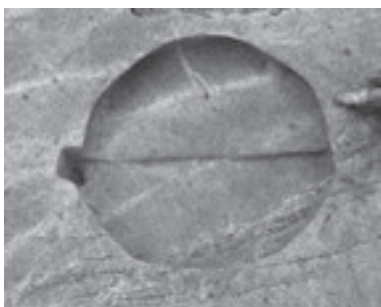
119号土坑 断面 南東から



120号土坑 全景 西から



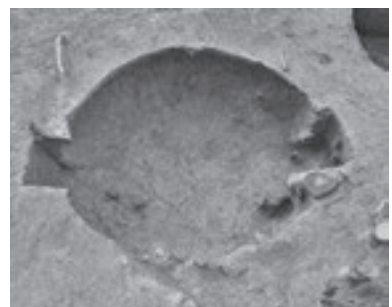
120号土坑 断面 西から



121号土坑 全景 西から

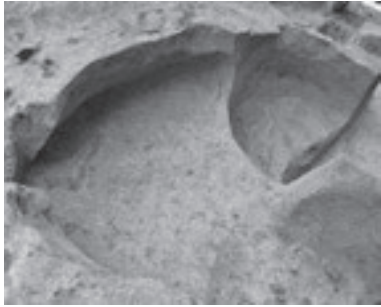


122号土坑 全景 南から

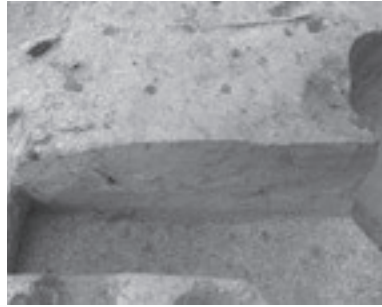


123号土坑 全景 東から

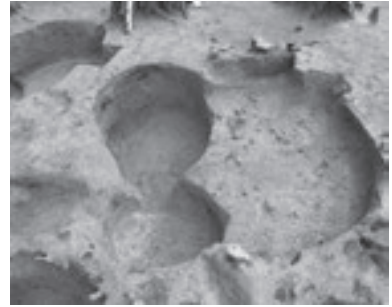




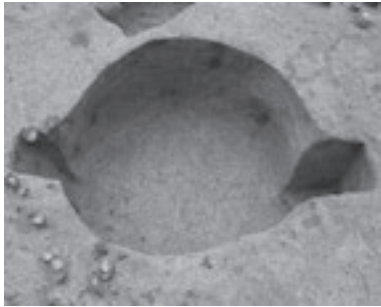
124号土坑 全景 南から



124号土坑 断面 南から



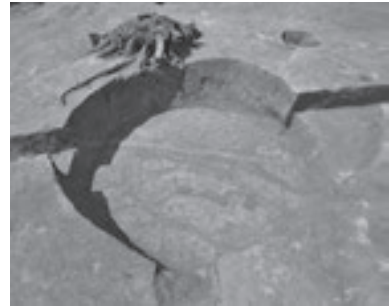
125号土坑 全景 北東から



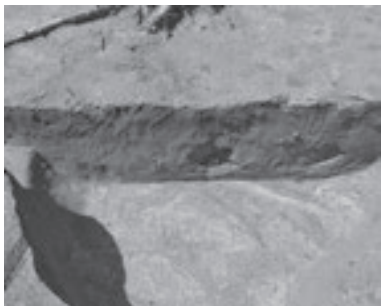
126号土坑 全景 南東から



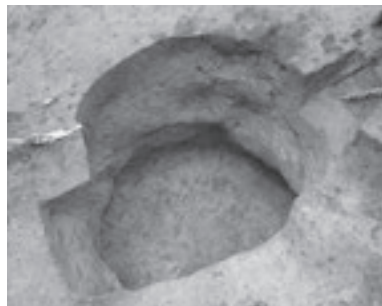
126号土坑 断面 南東から



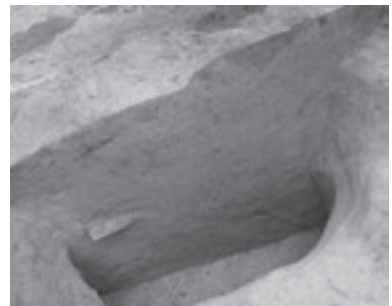
127号土坑 全景 東から



127号土坑 断面 東から



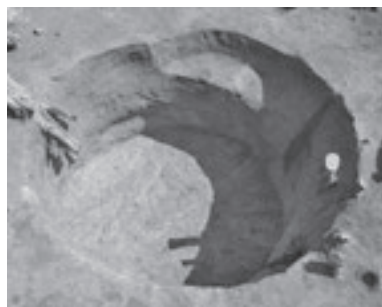
128号土坑 全景 南東から



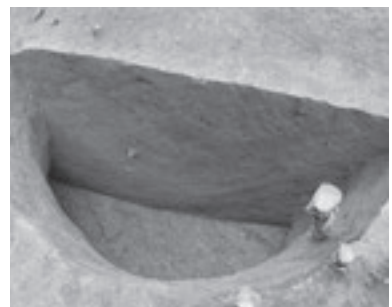
128号土坑 断面 南東から



129号土坑 全景 東から



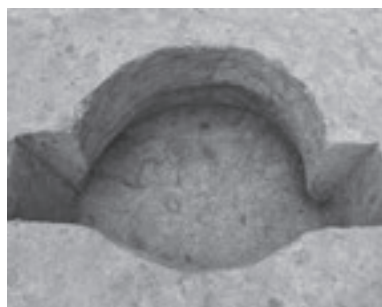
130号土坑 全景 西から



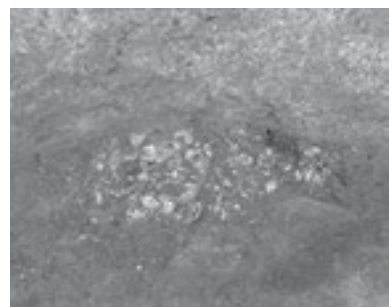
130号土坑 断面 西から



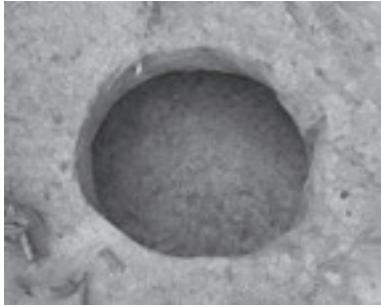
131号土坑 全景 西から



132号土坑 全景 南東から



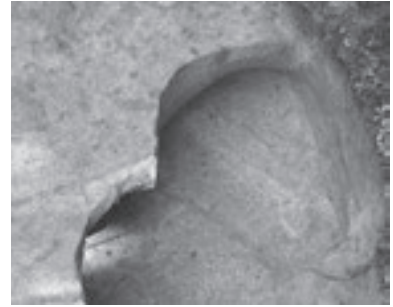
132号土坑 貝殻出土状況 南東から



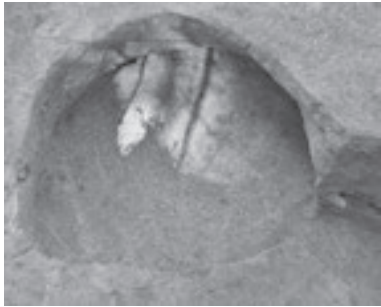
133号土坑 全景 東から



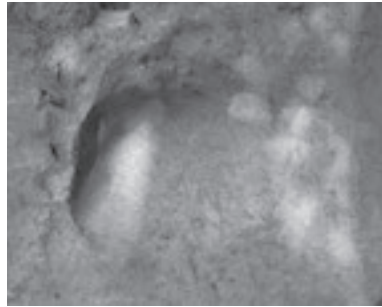
133号土坑 断面 東から



134号土坑 全景 南西から



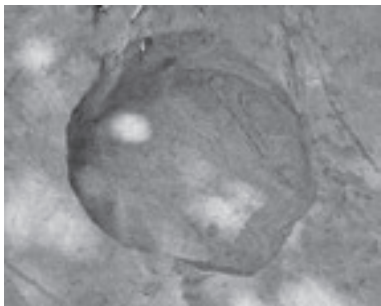
135号土坑 全景 南東から



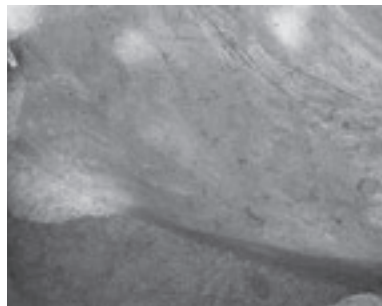
136号土坑 全景 南から



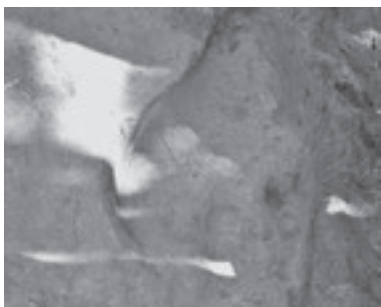
136号土坑 断面 南西から



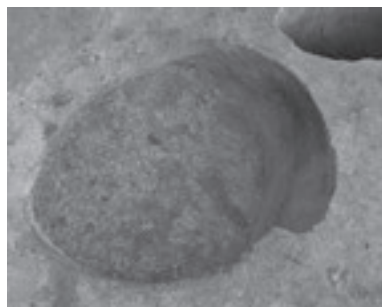
137号土坑 全景 南から



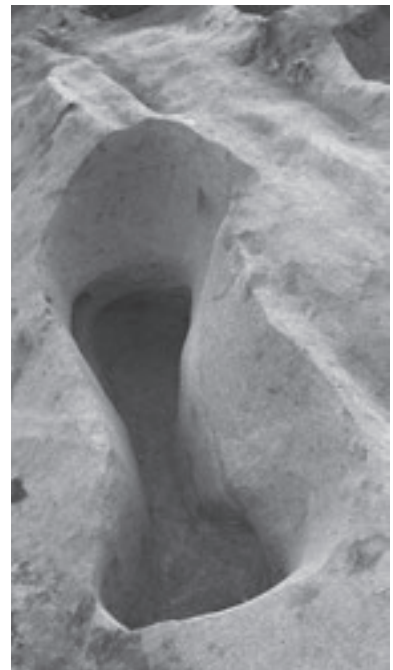
137号土坑 断面 南西から



138号土坑 全景 南西から



139号土坑 全景 西から



141号土坑 全景 北から



140号土坑 全景 東から



140号土坑 断面 東から

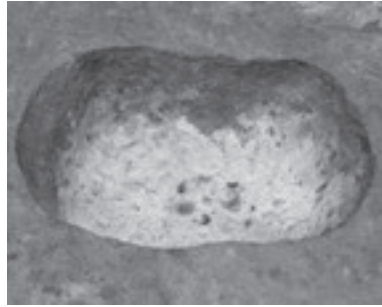


141号土坑 断面 北から

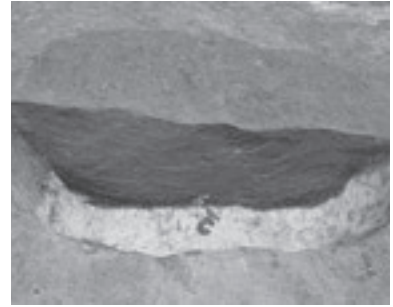




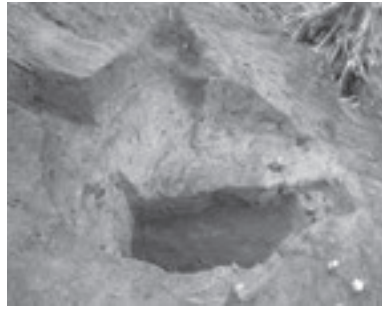
142号土坑 全景 南から



143号土坑 全景 南から



143号土坑 断面 南から



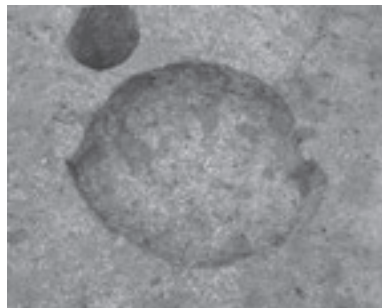
144号土坑 全景 南から



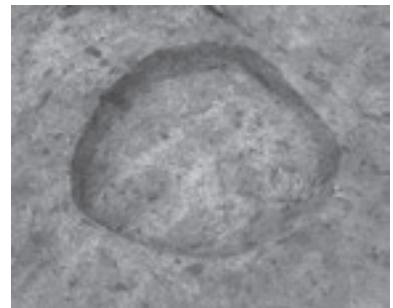
145号土坑 全景 南から



142号土坑 断面 南から



146号土坑 全景 南東から



147号土坑 全景 南東から



148号土坑 全景 南西から



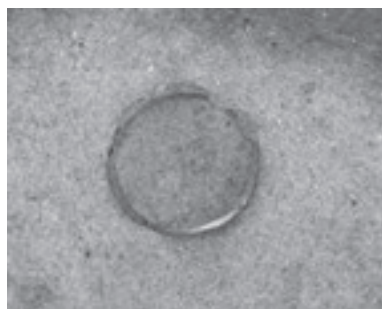
149号土坑 全景 西から



150号土坑 全景 南東から



151号土坑 全景 北から

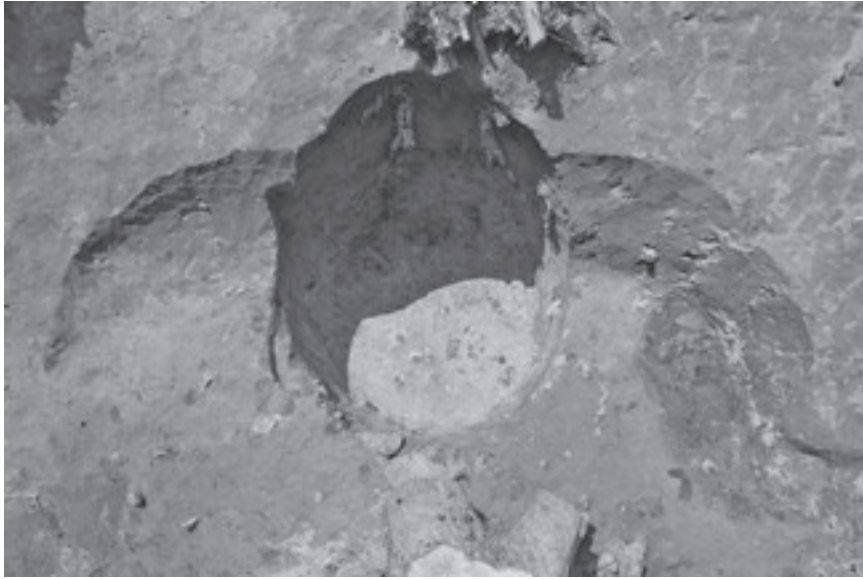


1号埋設土器 検出状況 南東から

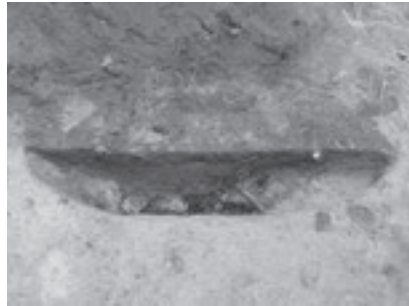
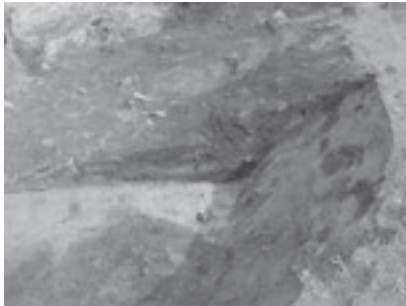


1号埋設土器 断面 南東から

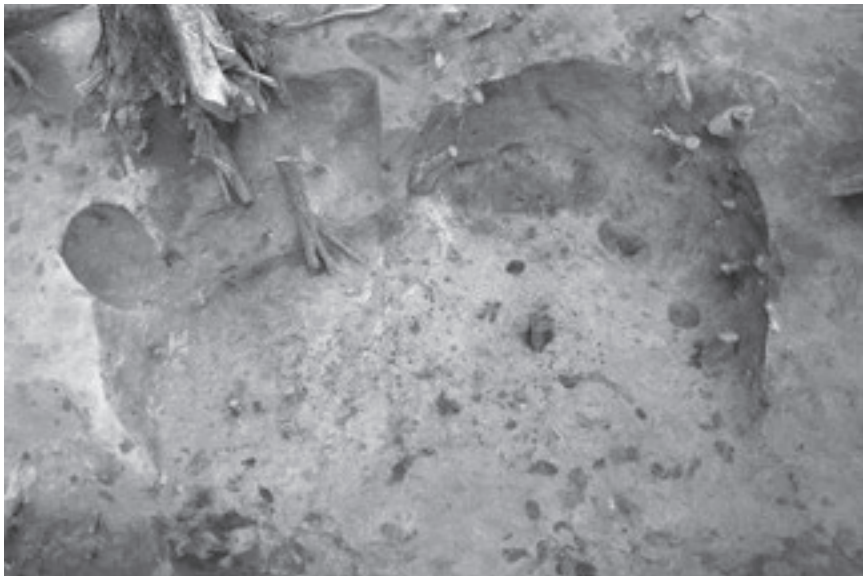




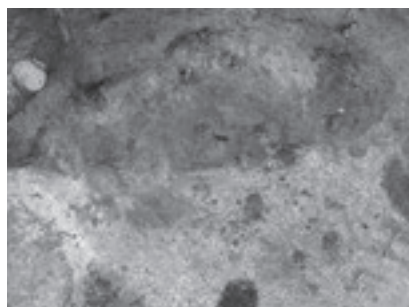
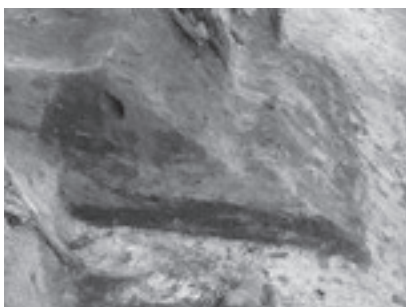
21号竪穴建物跡 全景 北東から



21号竪穴建物跡  
左：断面 北西から  
右：炉断面 南東から



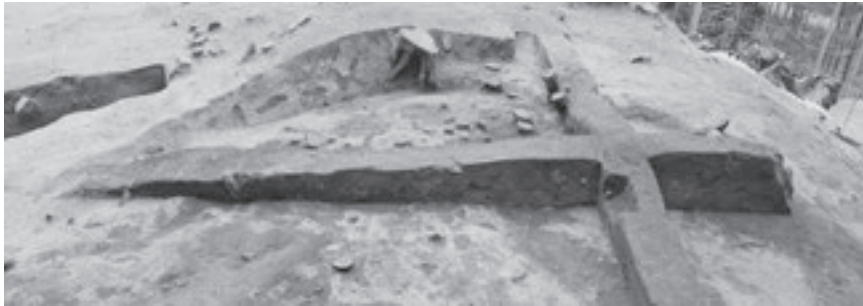
24号竪穴建物跡 全景 南から



24号竪穴建物跡  
左：断面 西から  
右：炉全景 南から



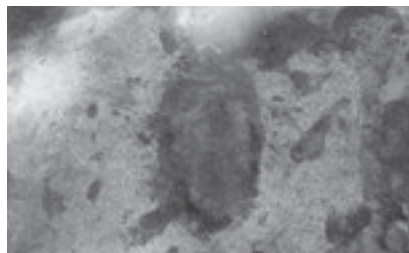
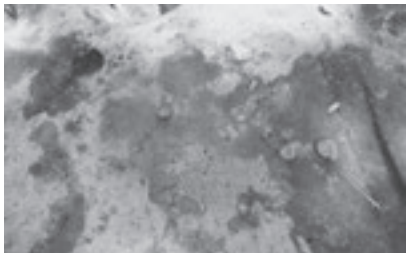
22号竪穴建物跡 全景 南から



22号竪穴建物跡 断面 南から

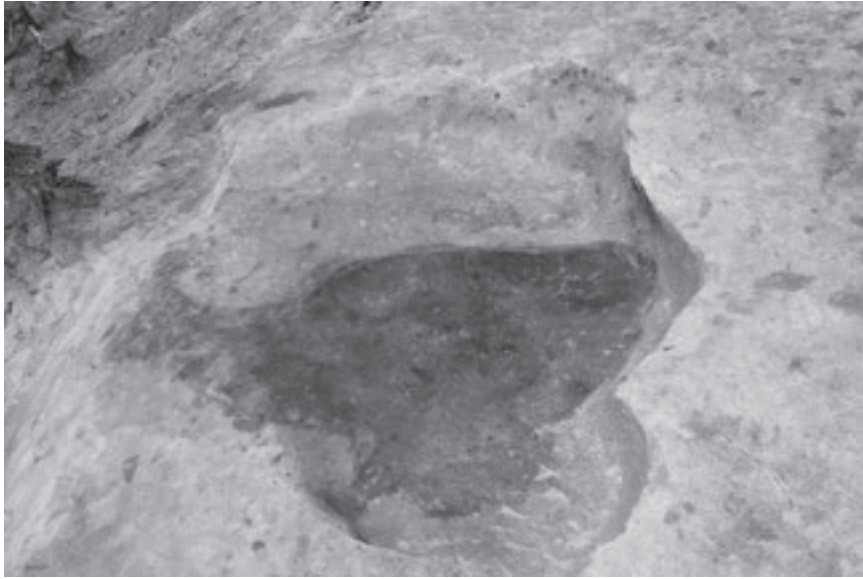


22号竪穴建物跡 断面 東から

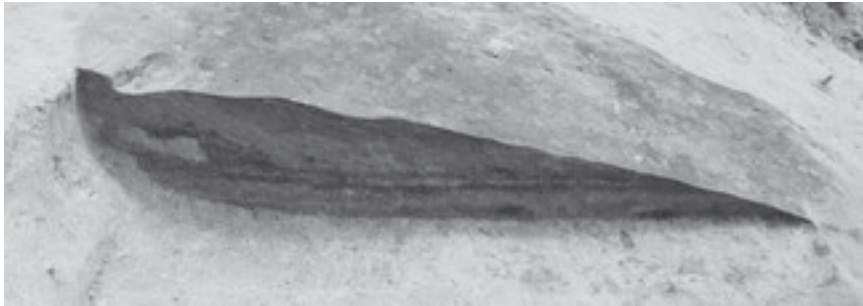


22号竪穴建物跡  
 左上：炉1全景 南から  
 右上：炉2全景 北から  
 左下：焼土1全景 南から  
 右下：焼土3全景 東から

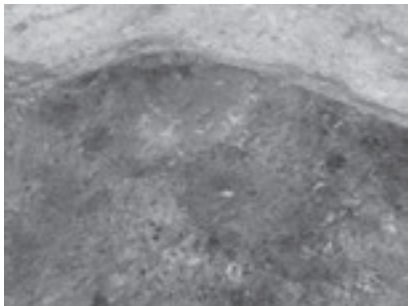




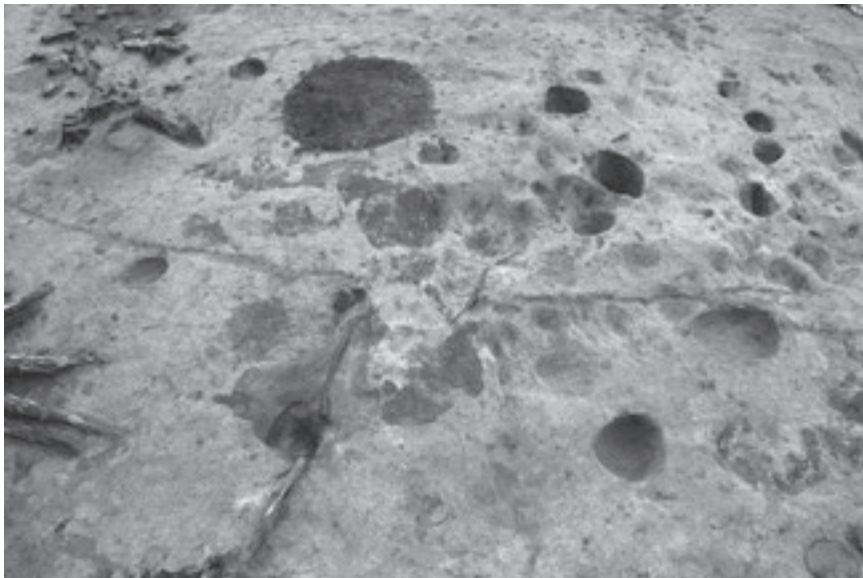
23号竪穴建物跡 全景 東から



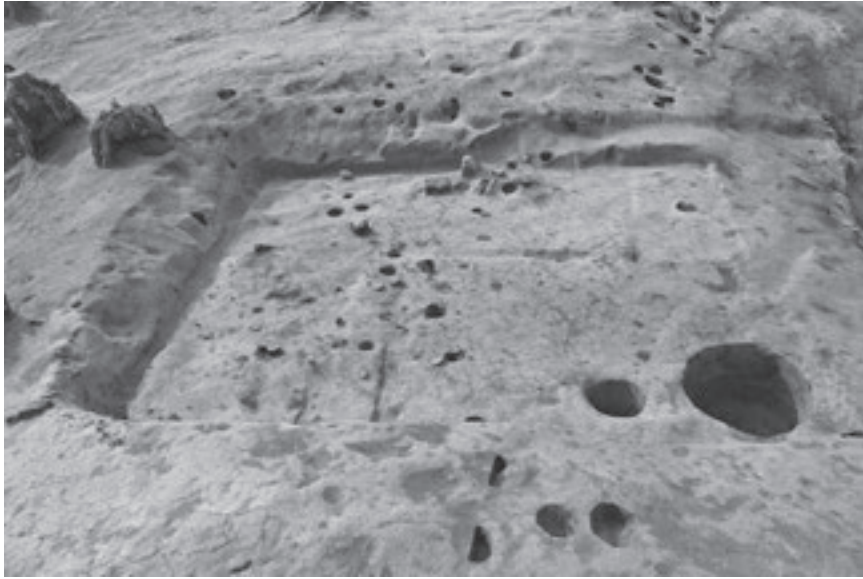
23号竪穴建物跡 断面 西から



23号竪穴建物跡  
左：炉1全景 東から  
右：炉2全景 東から



25号竪穴建物跡 全景 北西から



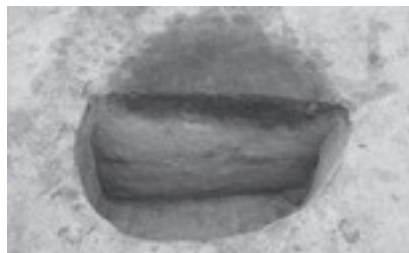
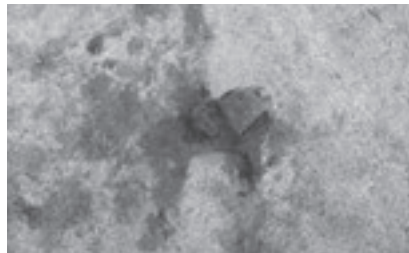
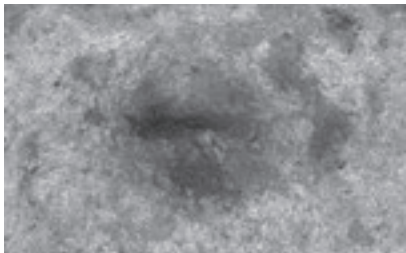
26号竪穴建物跡 全景 南から



26号竪穴建物跡 断面 北から



26号竪穴建物跡 断面 東から



26号竪穴建物跡  
 左上：炉1 全景 東から  
 右上：炉2 全景 東から  
 左下：炉3・4 全景 南から  
 右下：Pit15 断面 北から





27号竪穴建物跡 全景 東から



28号竪穴建物跡 全景 東から



27・28号竪穴建物跡 断面  
南から

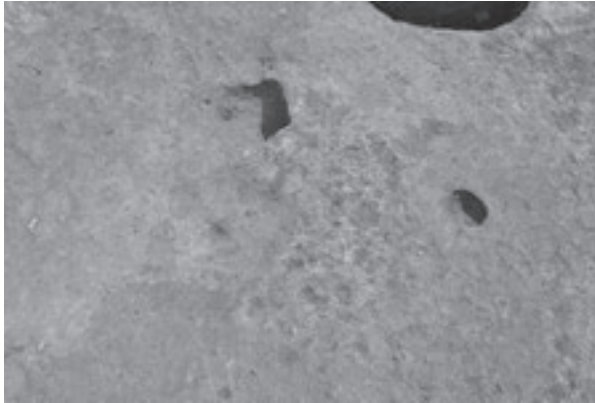


左：28号竪穴建物跡 炉断面  
南から

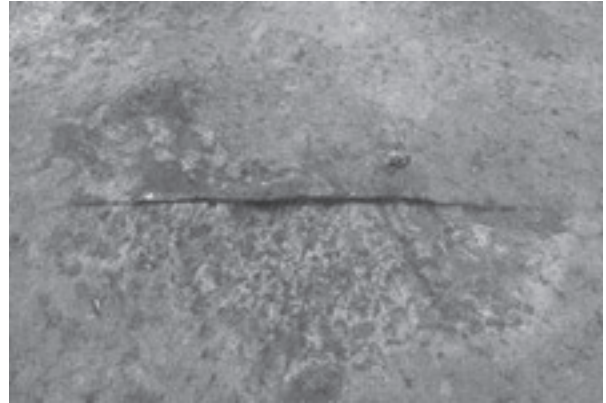


左：29号竪穴建物跡 全景  
西から





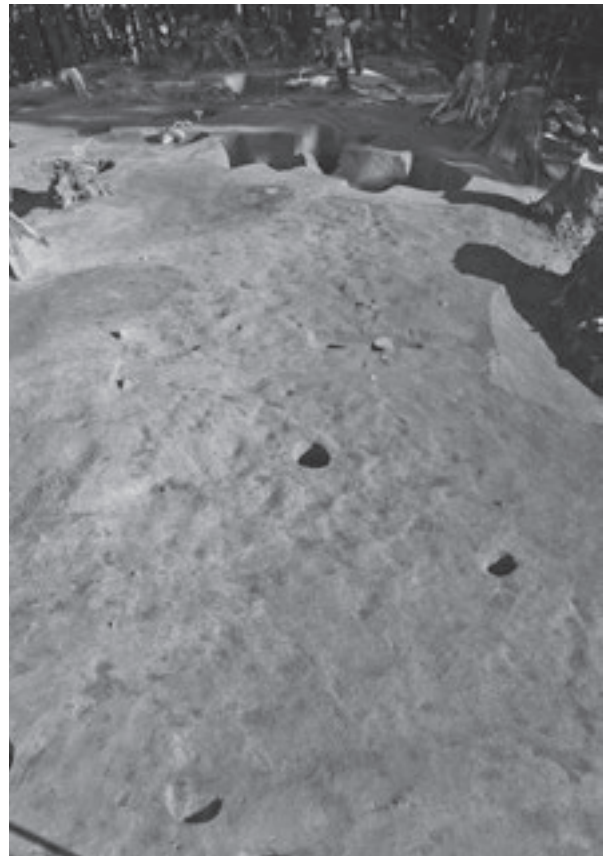
1号鉄生産関連炉 全景 南西から



1号鉄生産関連炉 断面 南東から



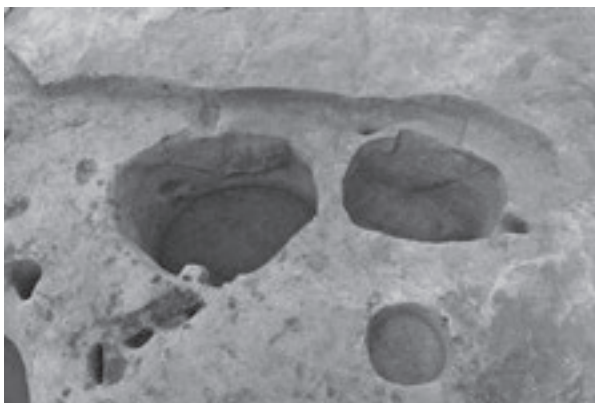
1号鉄生産関連炉 琥珀玉出土状況 南東から



1号不明遺構 全景 西から



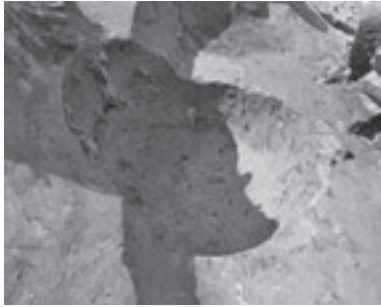
1号不明遺構 断面 西から



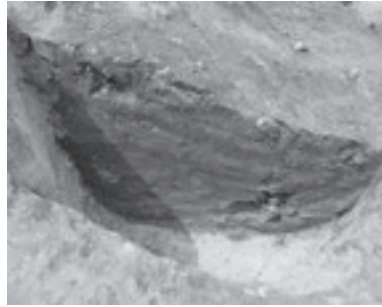
2号不明遺構 全景 東から



2号不明遺構 断面 南から



201号土坑 全景 南から



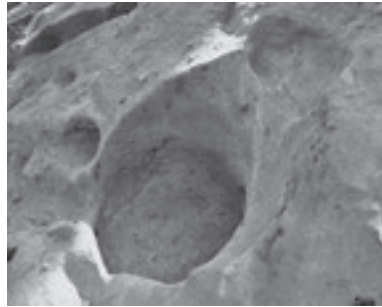
201号土坑 断面 南東から



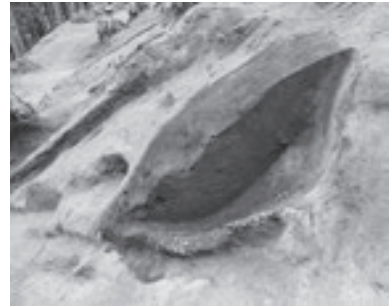
202号土坑 全景 南から



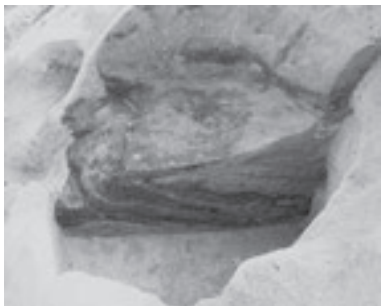
202号土坑 断面 南から



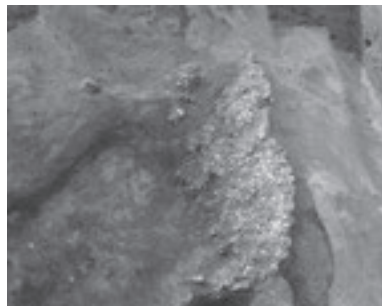
203号土坑 全景 北西から



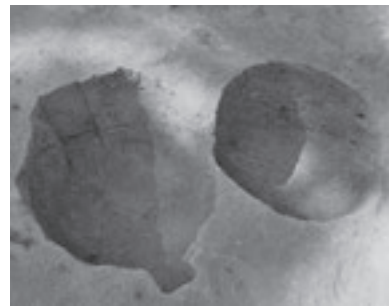
203号土坑 上部断面 北西から



203号土坑 下部断面 北から



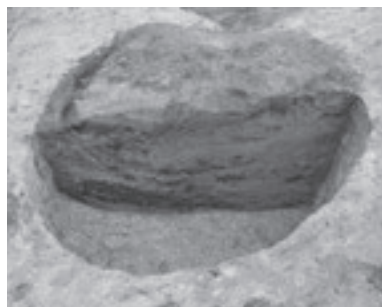
203号土坑 貝殻出土状況 北から



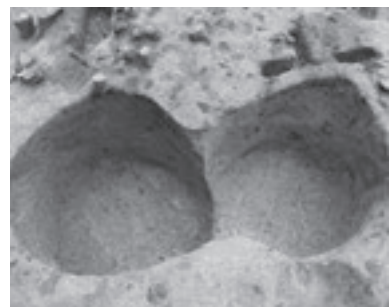
204・205号土坑 全景 北東から



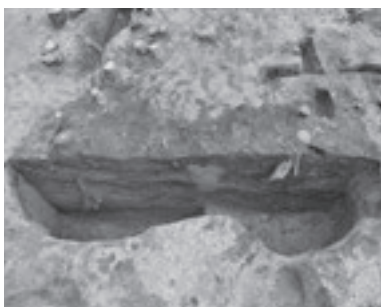
204号土坑 断面 東から



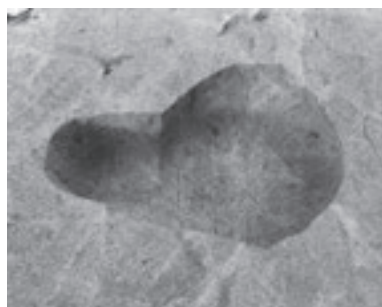
205号土坑 断面 西から



206・207号土坑 全景 南東から



206・207号土坑 断面 南東から

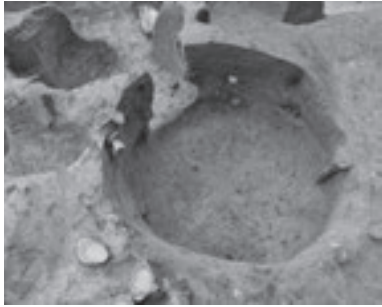


208・223号土坑 全景 南から

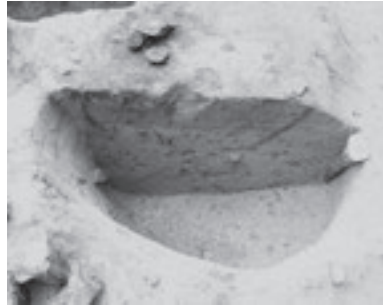


208・223号土坑 断面 南から

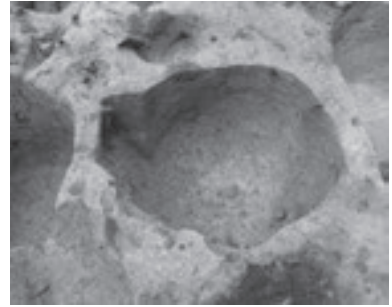




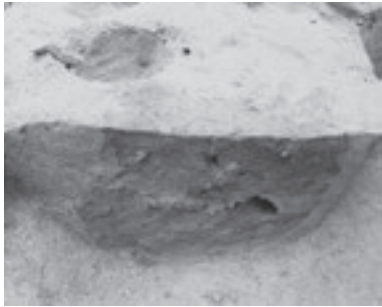
209号土坑 全景 南から



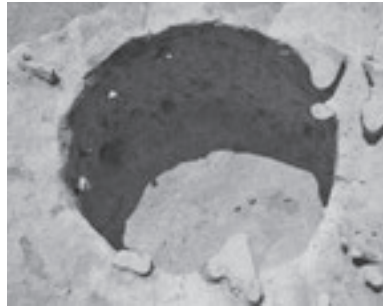
209号土坑 断面 南から



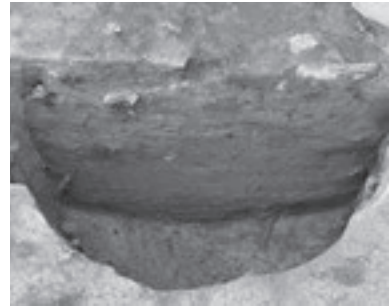
210号土坑 全景 南から



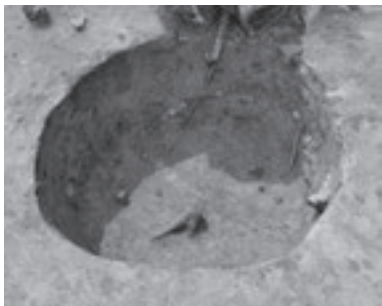
210号土坑 断面 南から



211号土坑 全景 北から



211号土坑 断面 東から



212号土坑 全景 東から



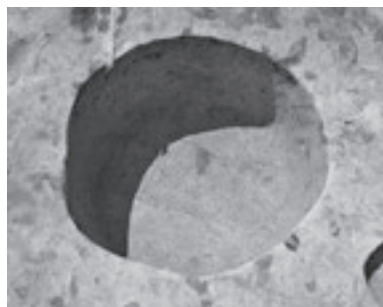
212号土坑 断面 東から



213号土坑 全景 東から



213号土坑 断面 東から



214号土坑 全景 東から



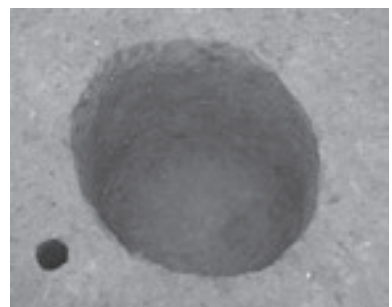
214号土坑 断面 東から



215号土坑 全景 南東から

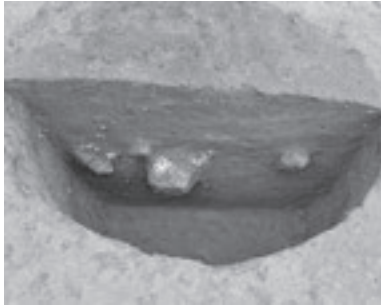


215号土坑 断面 南から

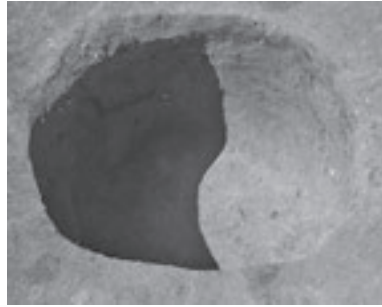


216号土坑 全景 南から

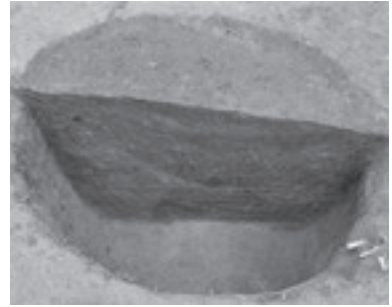
写真図版42 古代の遺構8



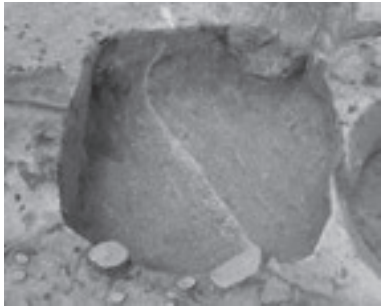
216号土坑 断面 南西から



217号土坑 全景 東から



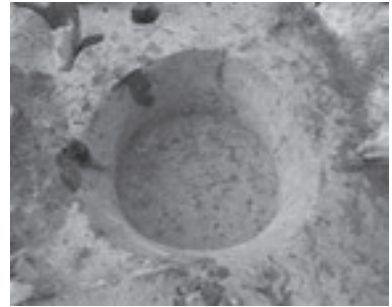
217号土坑 断面 西から



218号土坑 全景 南から



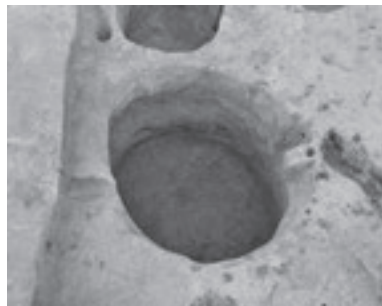
218号土坑 断面 南から



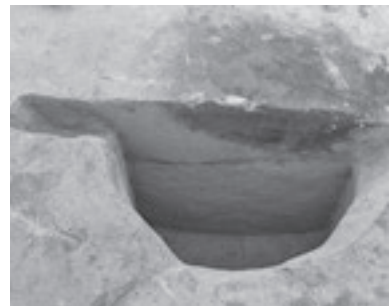
219号土坑 全景 南から



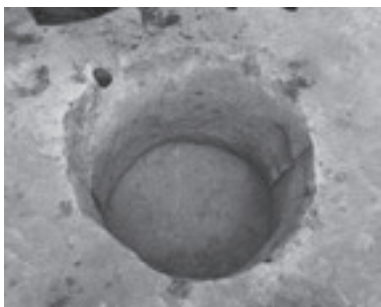
219号土坑 断面 南から



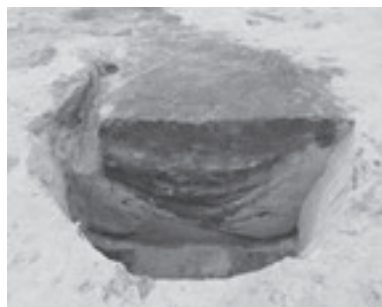
220号土坑 全景 南から



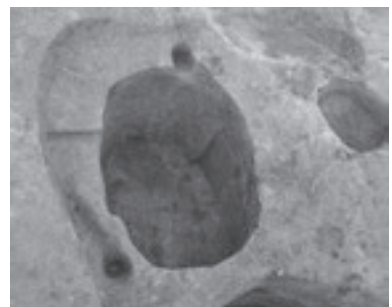
220号土坑 断面 南から



221号土坑 全景 南から



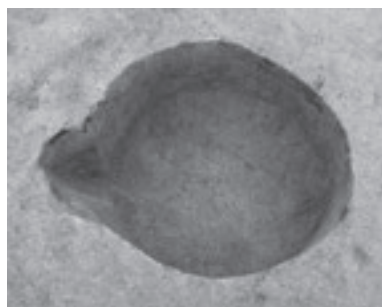
221号土坑 断面 南から



222号土坑 全景 南から



222号土坑 断面 南から



224号土坑 全景 南西から



224号土坑 断面 南西から

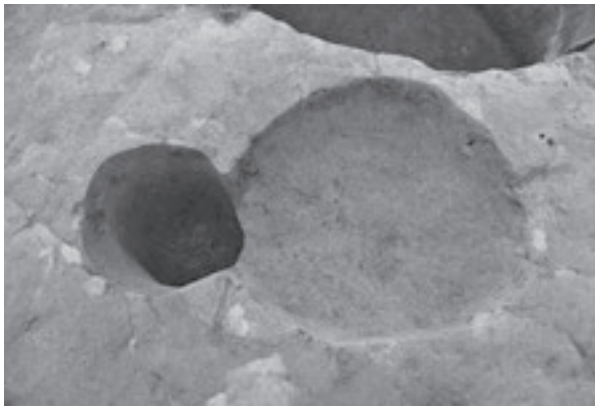




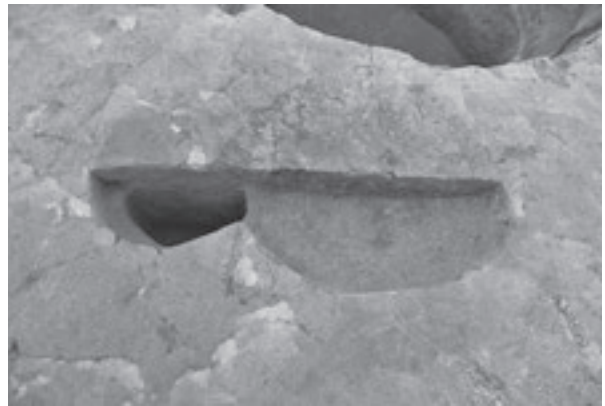
11号焼土遺構 全景 南西から



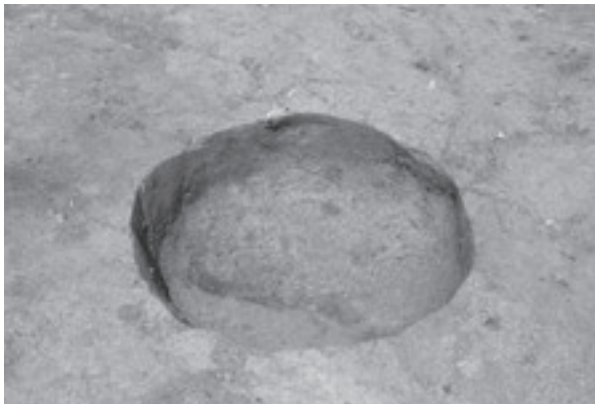
11号焼土遺構 断面 東から



301号土坑 全景 東から



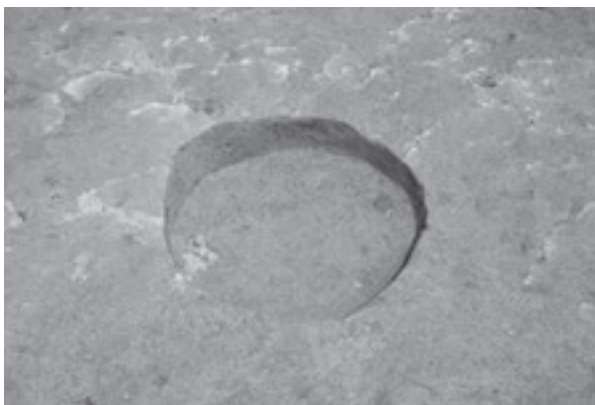
301号土坑 断面 東から



302号土坑 全景 南から



302号土坑 断面 南から



303号土坑 全景 南から



303号土坑 断面 南から





1号溝跡 全景 南西から



1号溝跡 断面 南から



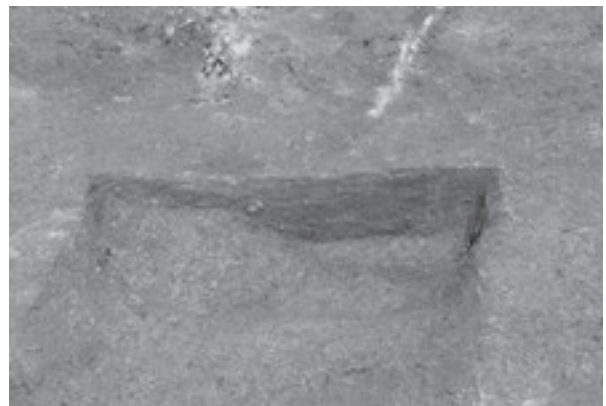
2号溝跡 全景 西から



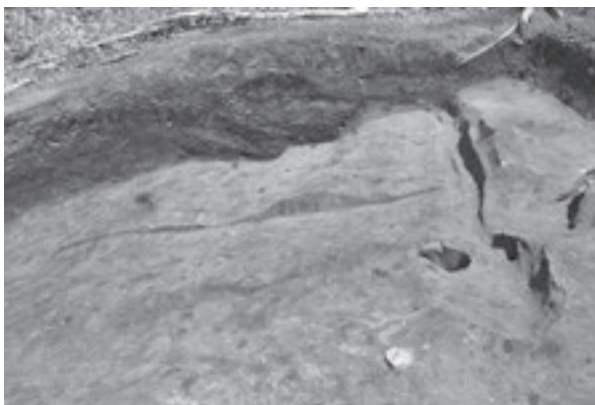
2号溝跡 断面 東から



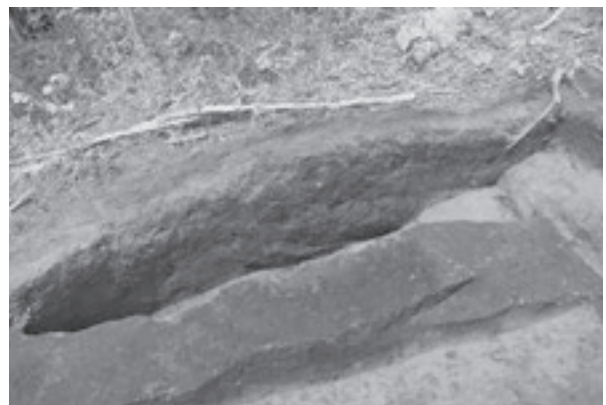
3号溝跡 全景 南から



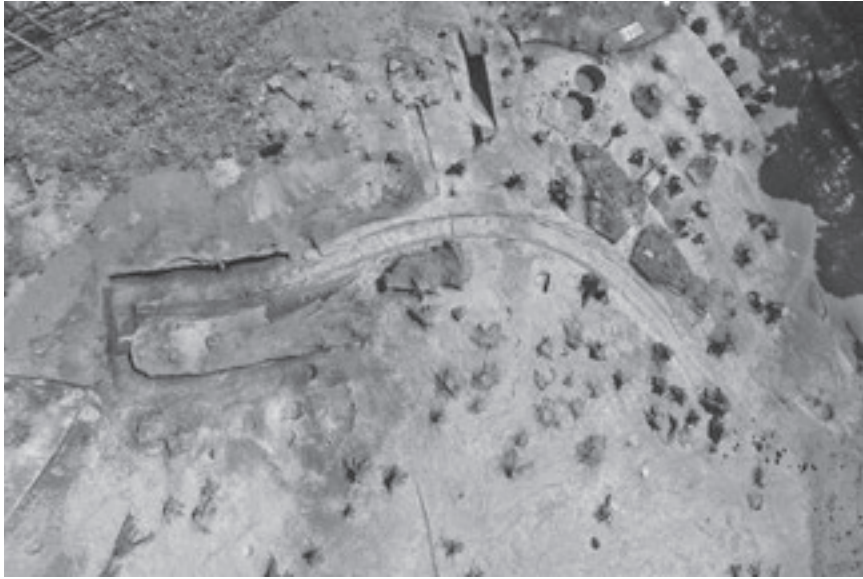
3号溝跡 断面 南から



1～3号炭窯 全景 南から



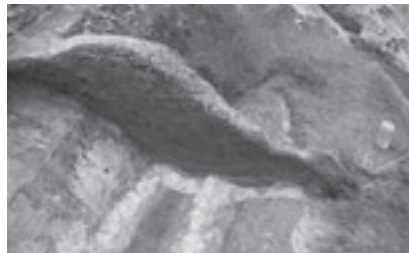
1～3号炭窯 断面 南から



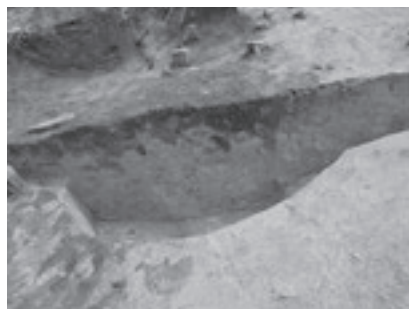
1号道路状遺構 全景 上が東



1号道路状遺構 南側断面  
南から



右上：1号道路状遺構 北側断面  
南東から  
左：12号不明遺構 全景  
北から  
左下：12号不明遺構 断面  
南西から

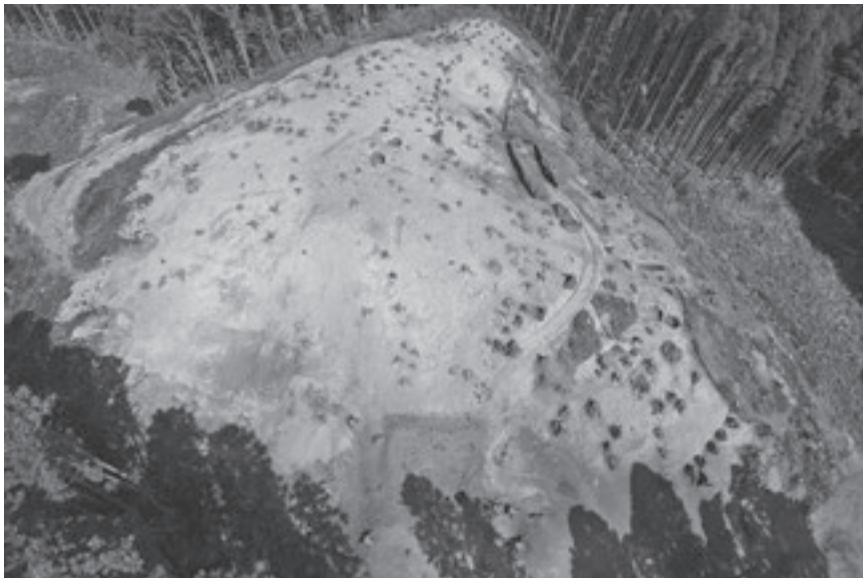


左：11号不明遺構 全景  
北東から  
右：11号不明遺構 断面  
北から





東側調査区全景  
上が北西



西側調査区全景  
上が北



現地説明会



現地説明会

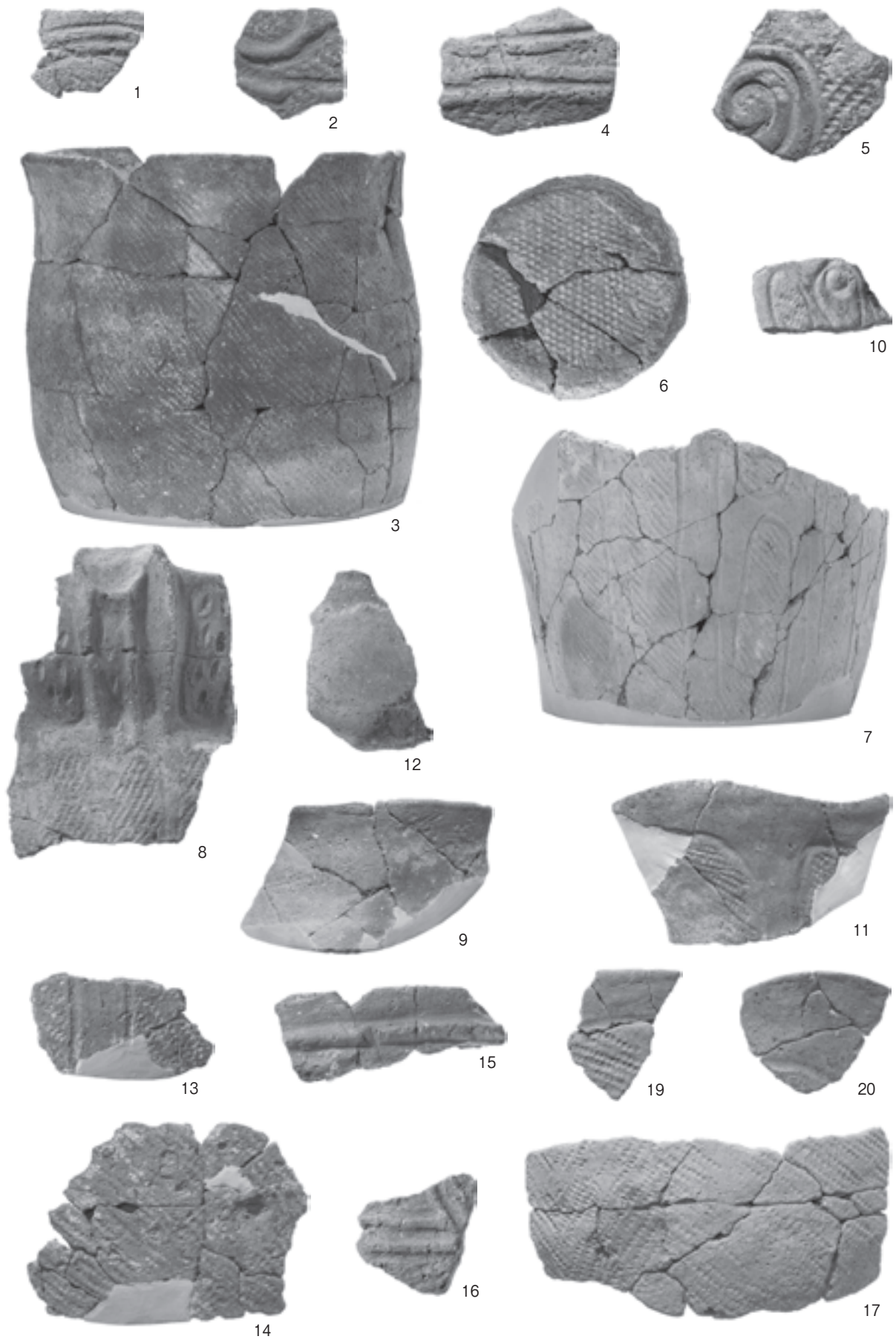


現地説明会



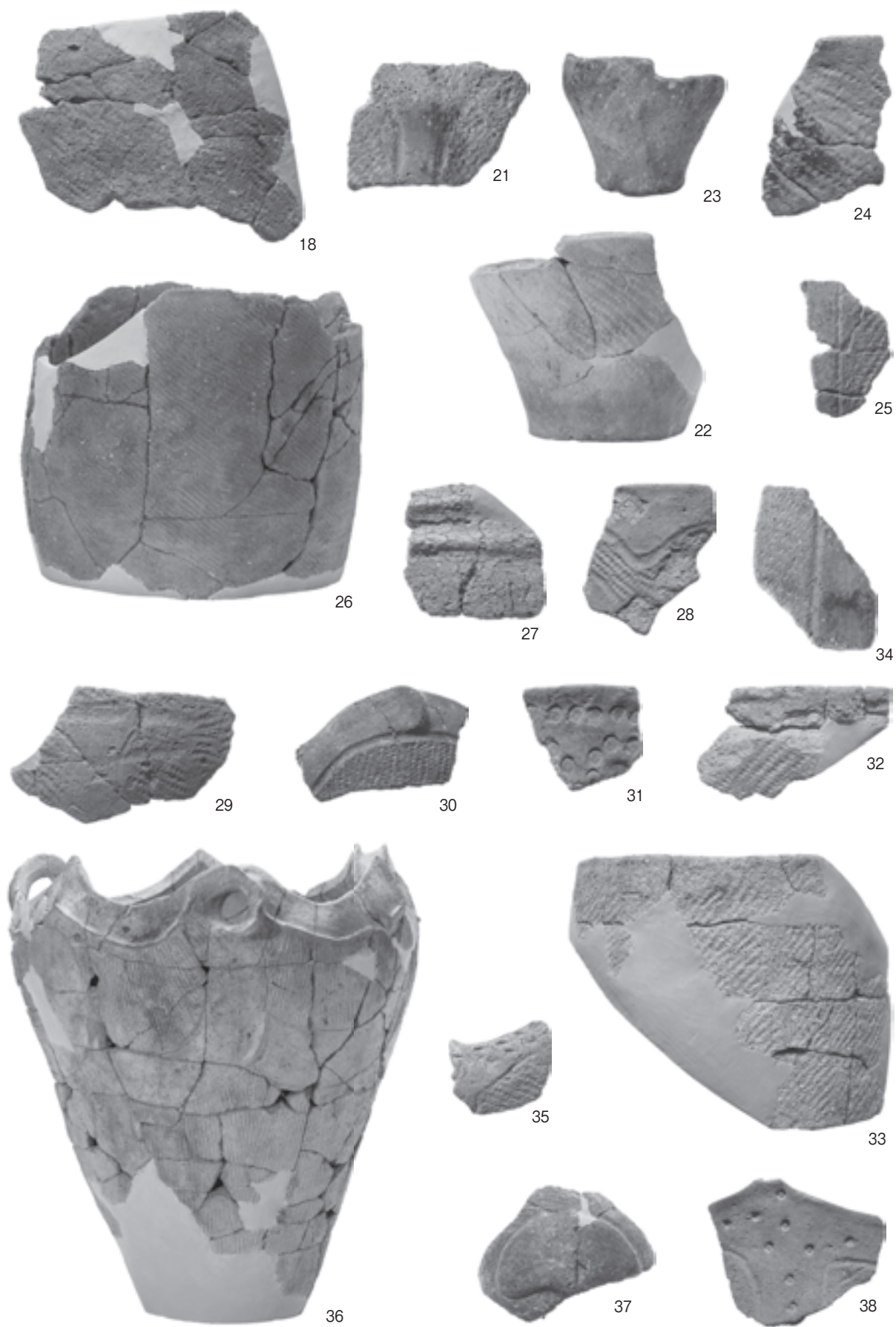
現地説明会



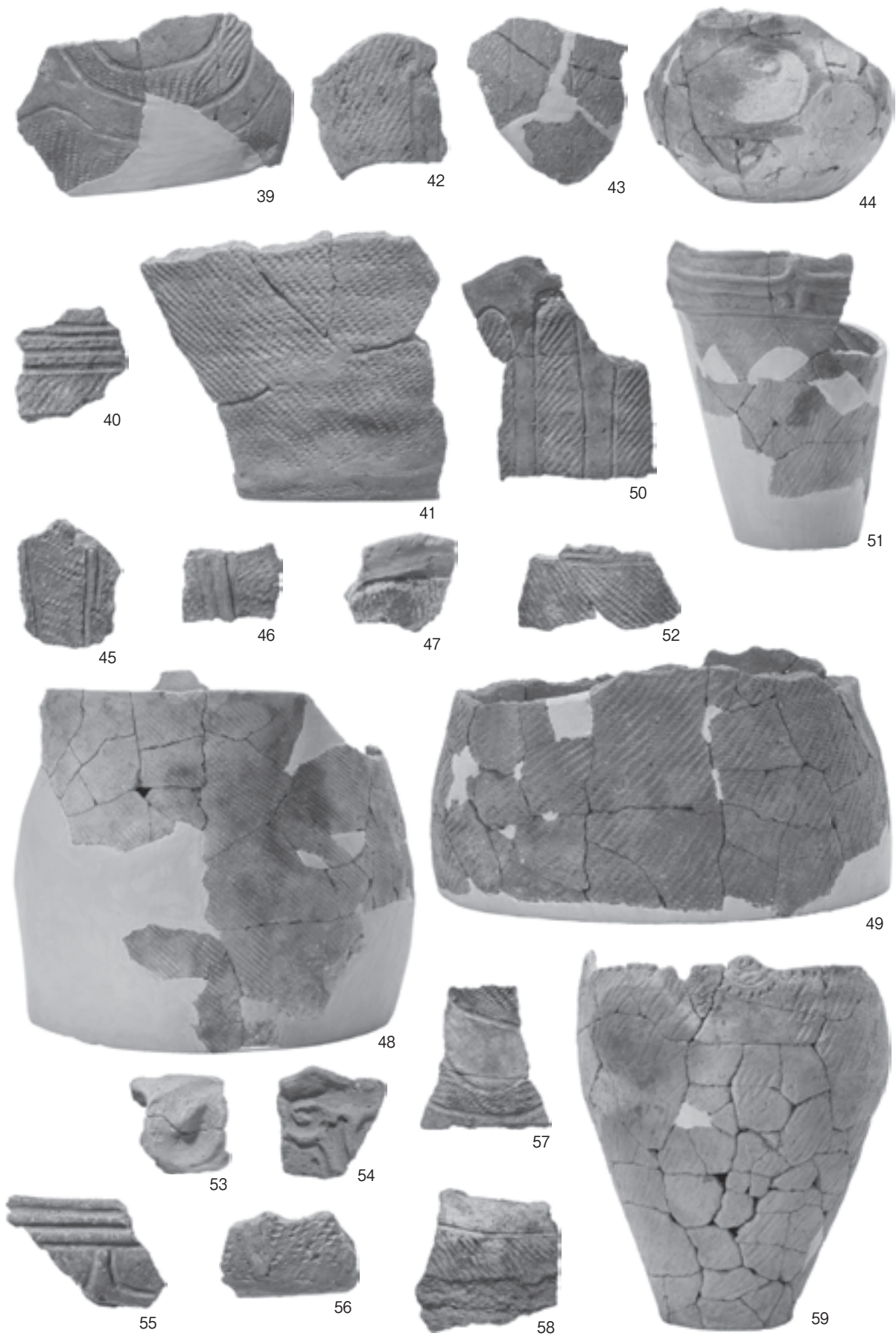


写真図版49 縄文時代の遺物 1

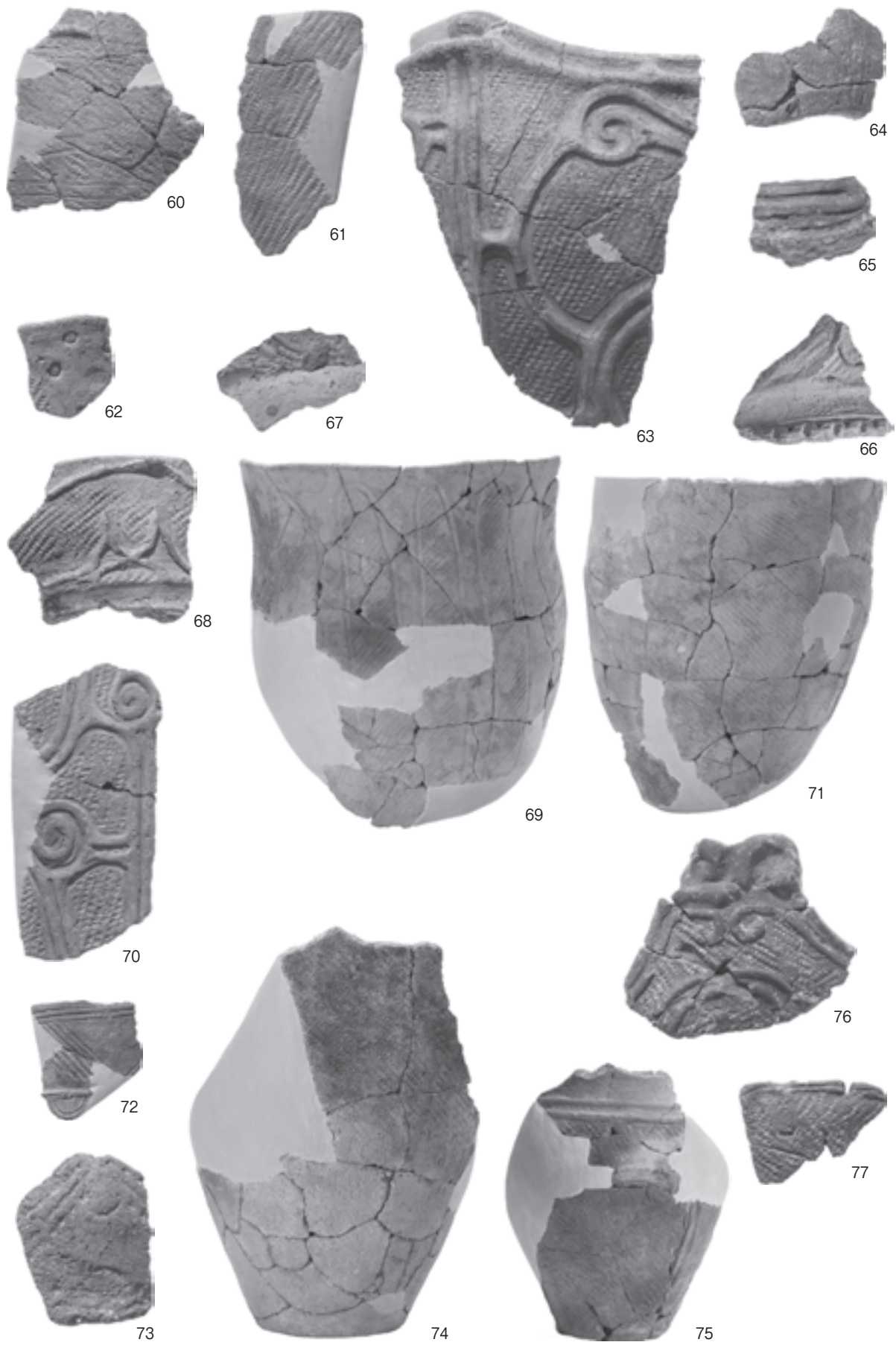




写真図版50 縄文時代の遺物 2



写真図版51 縄文時代の遺物 3

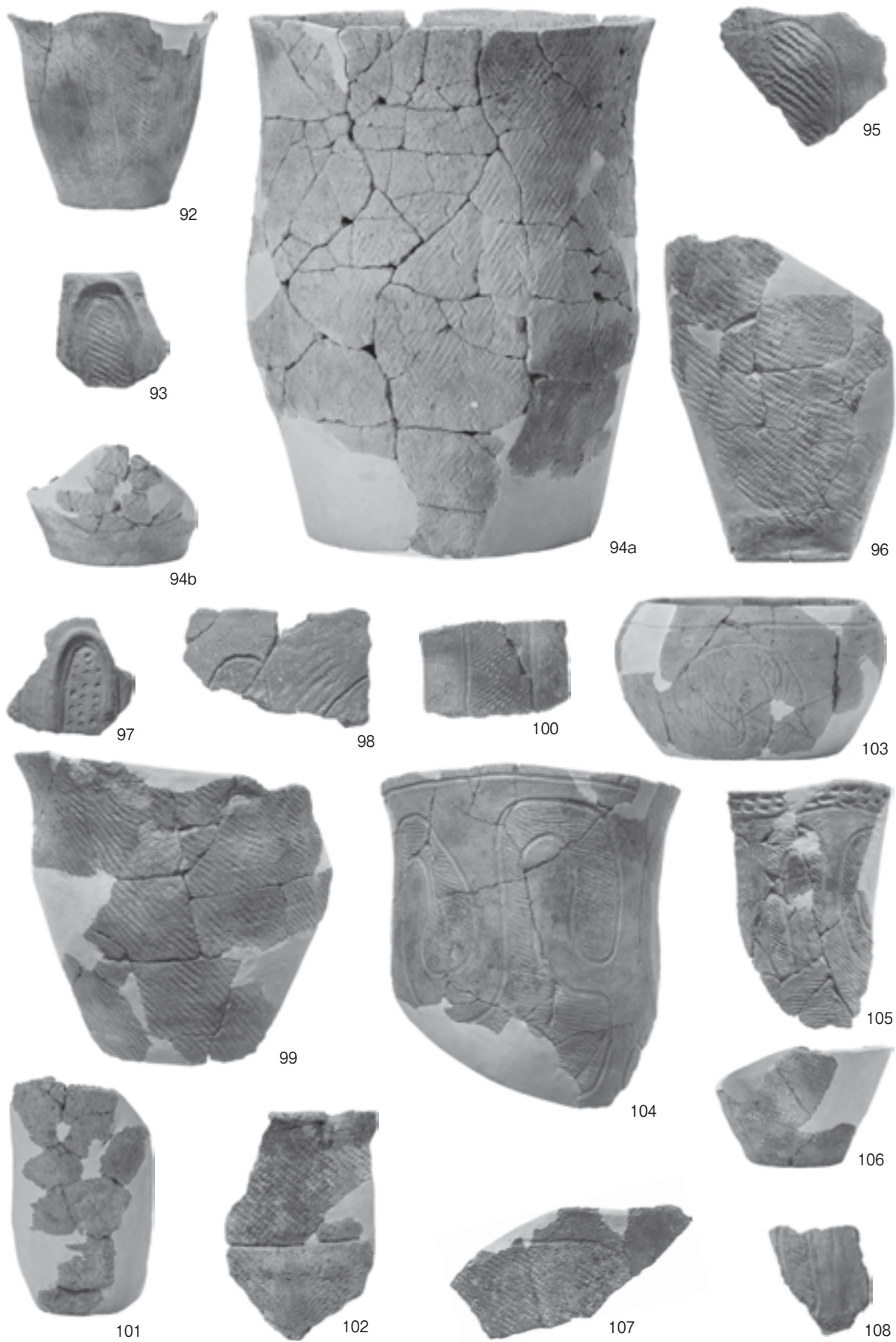


写真図版52 縄文時代の遺物 4



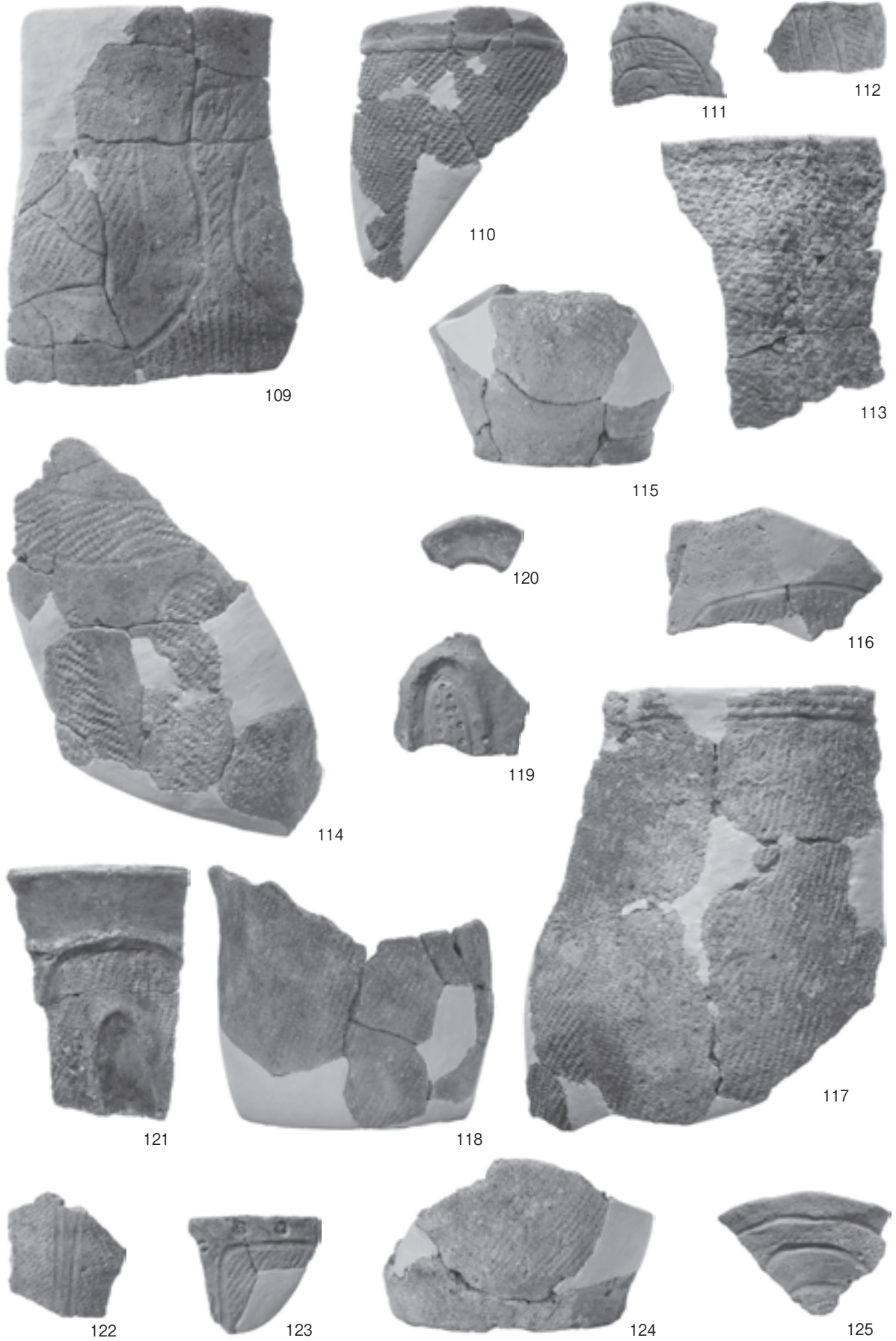


写真図版53 縄文時代の遺物 5

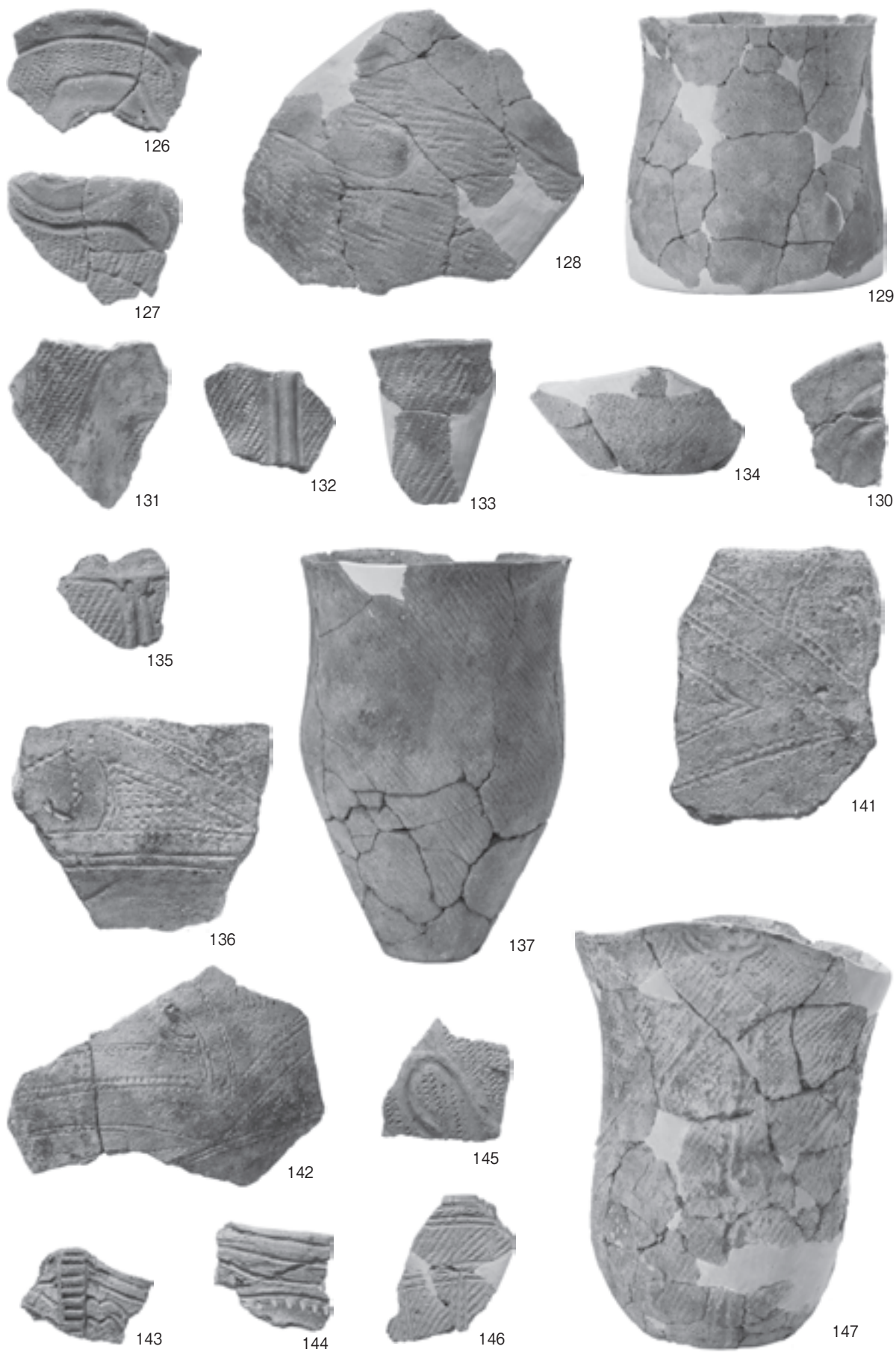


写真図版54 縄文時代の遺物 6

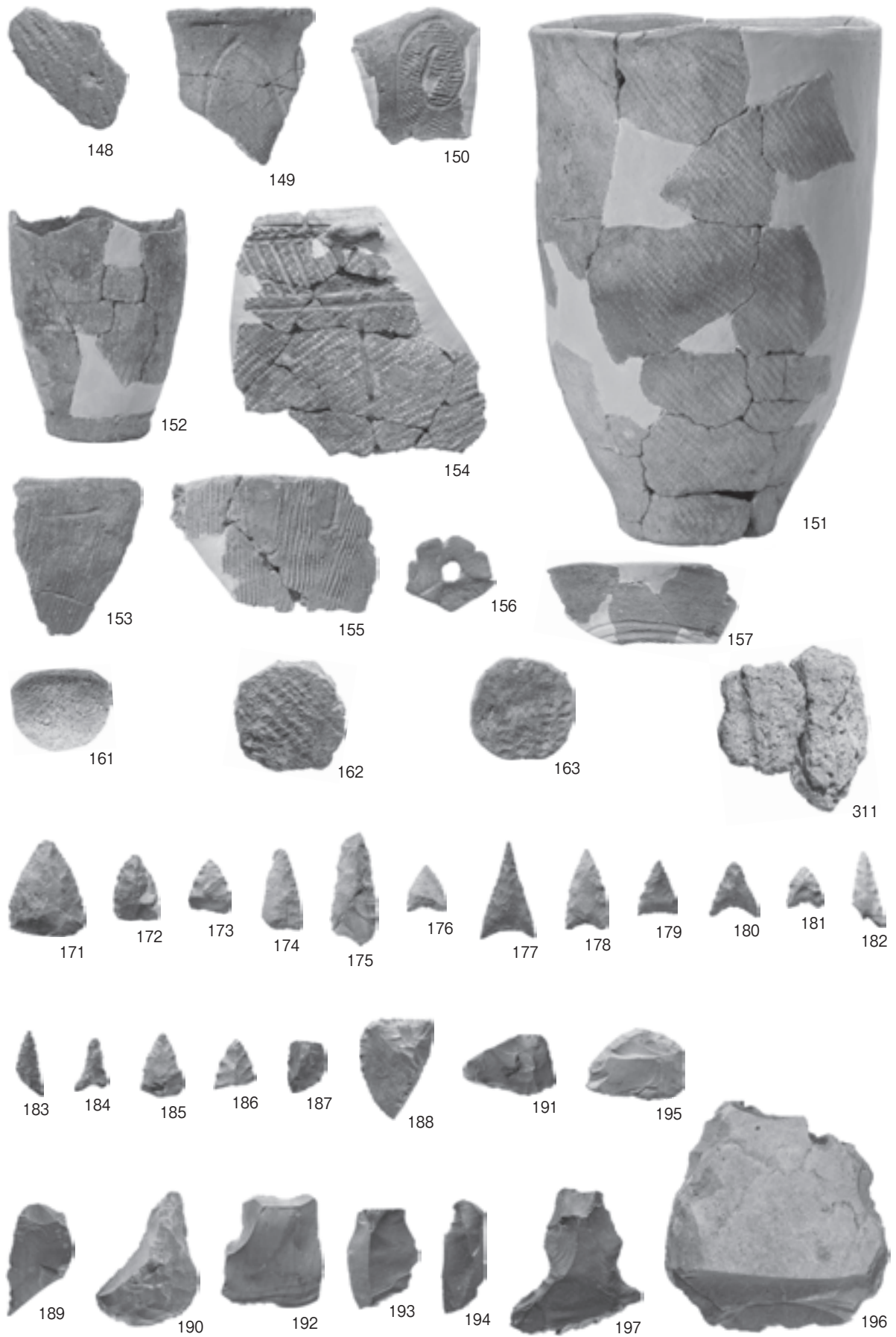




写真図版55 縄文時代の遺物7

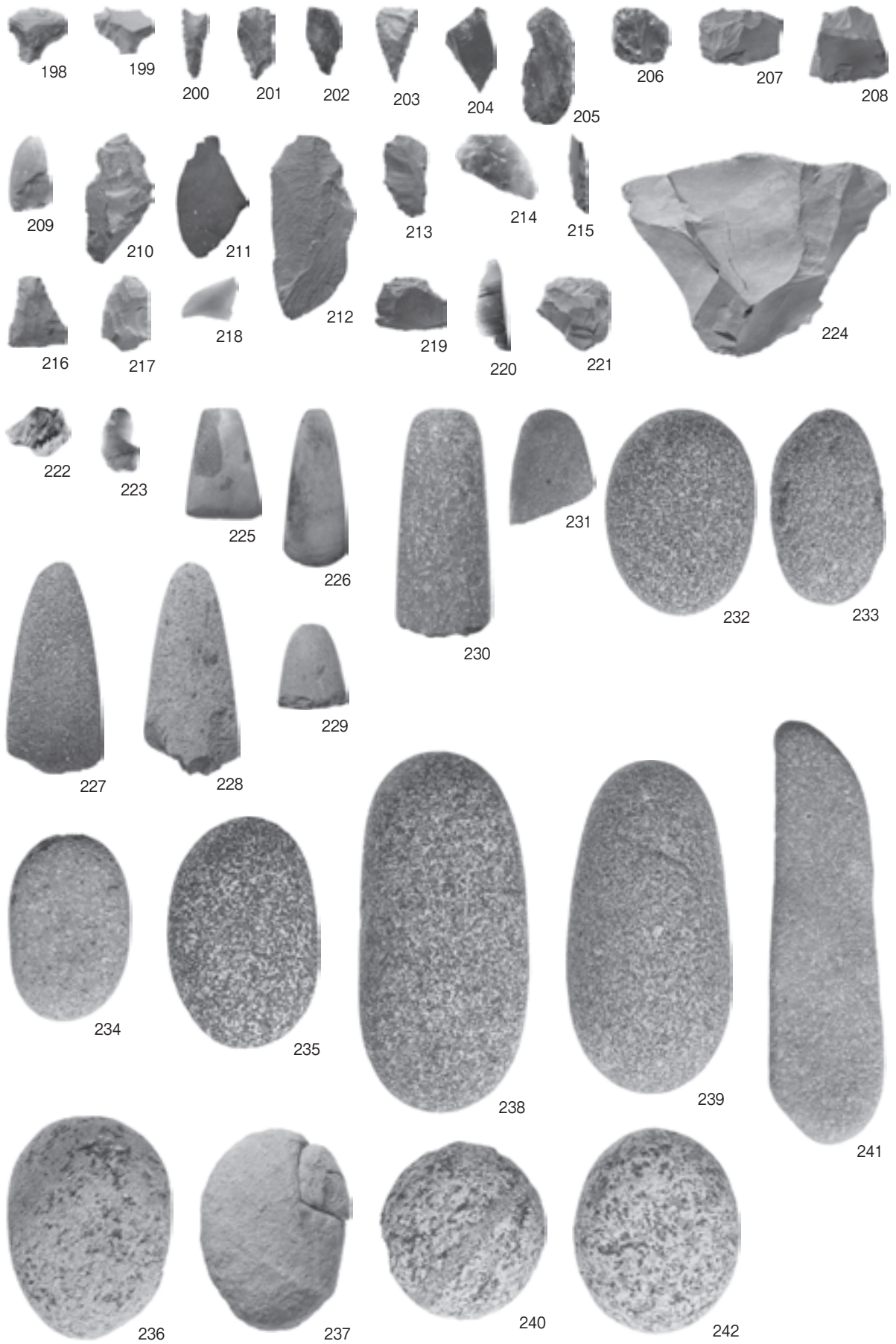


写真図版56 縄文時代の遺物 8

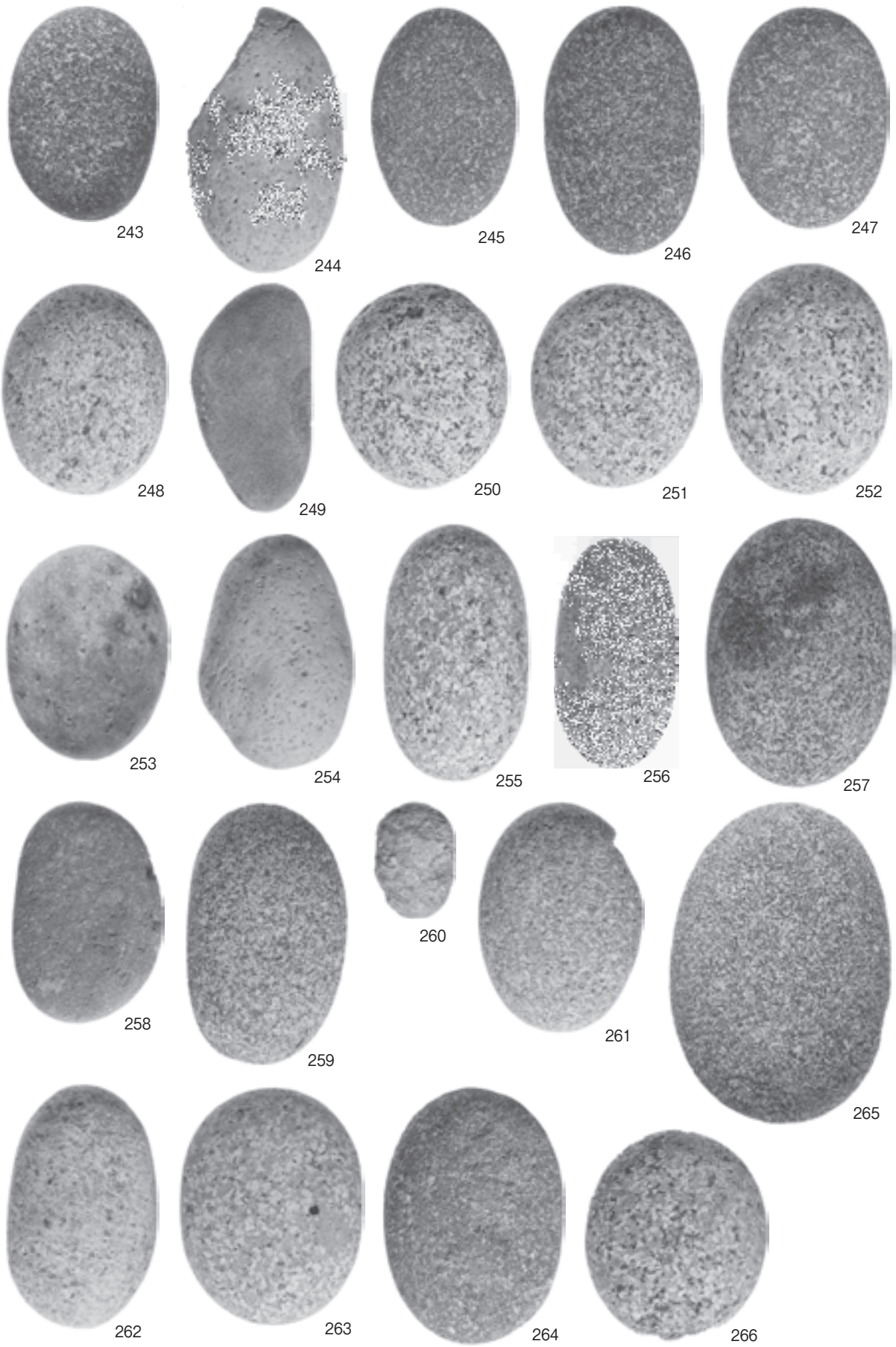


写真図版57 縄文時代の遺物 9





写真図版 58 縄文時代の遺物 10

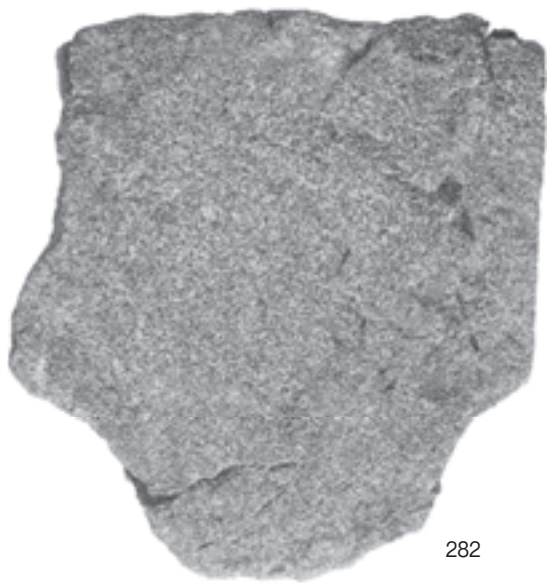


写真図版 59 縄文時代の遺物 11





写真図版60 縄文時代の遺物12



282



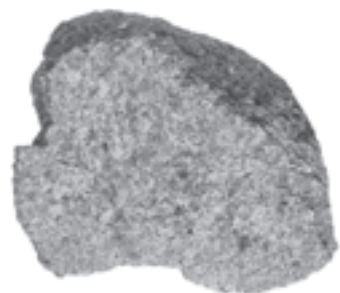
287



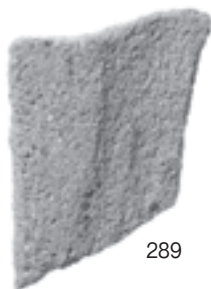
283



284



286



289



291



293



288



290



292



294





295



296



297



299



303



304



298a



298b



305



300



307



306



309



310



308

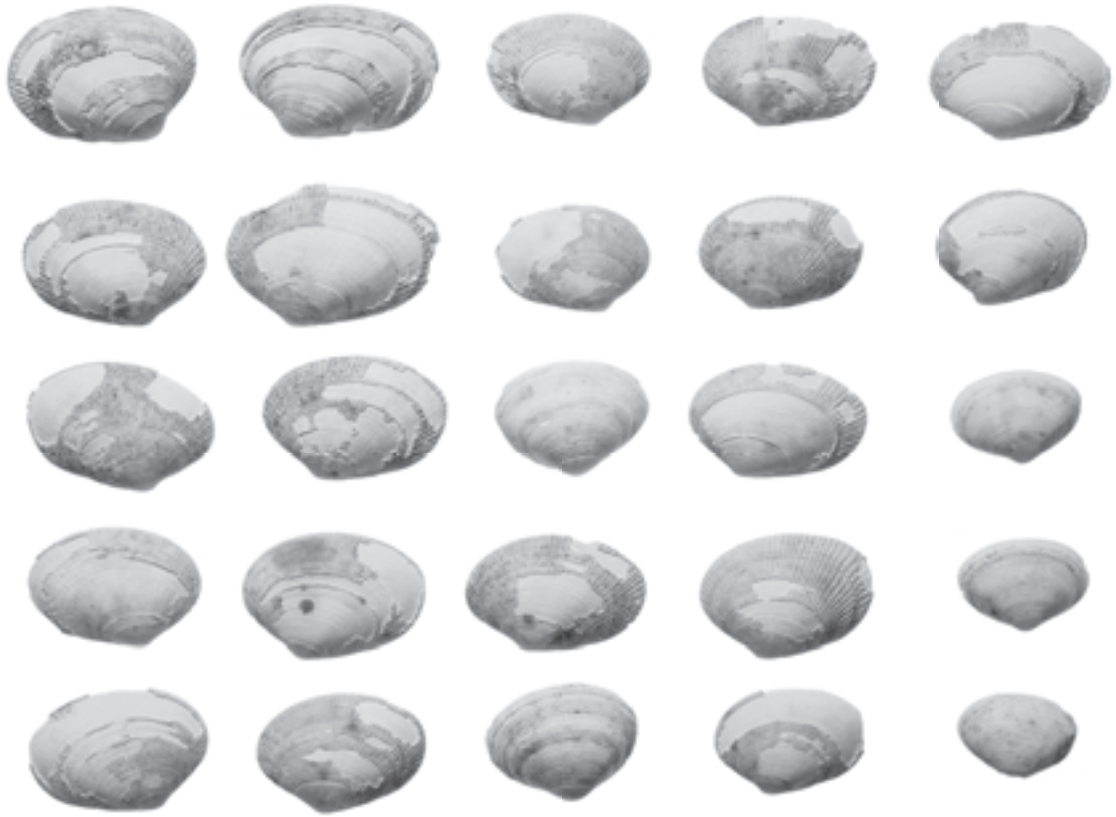
写真図版62 縄文時代の遺物14



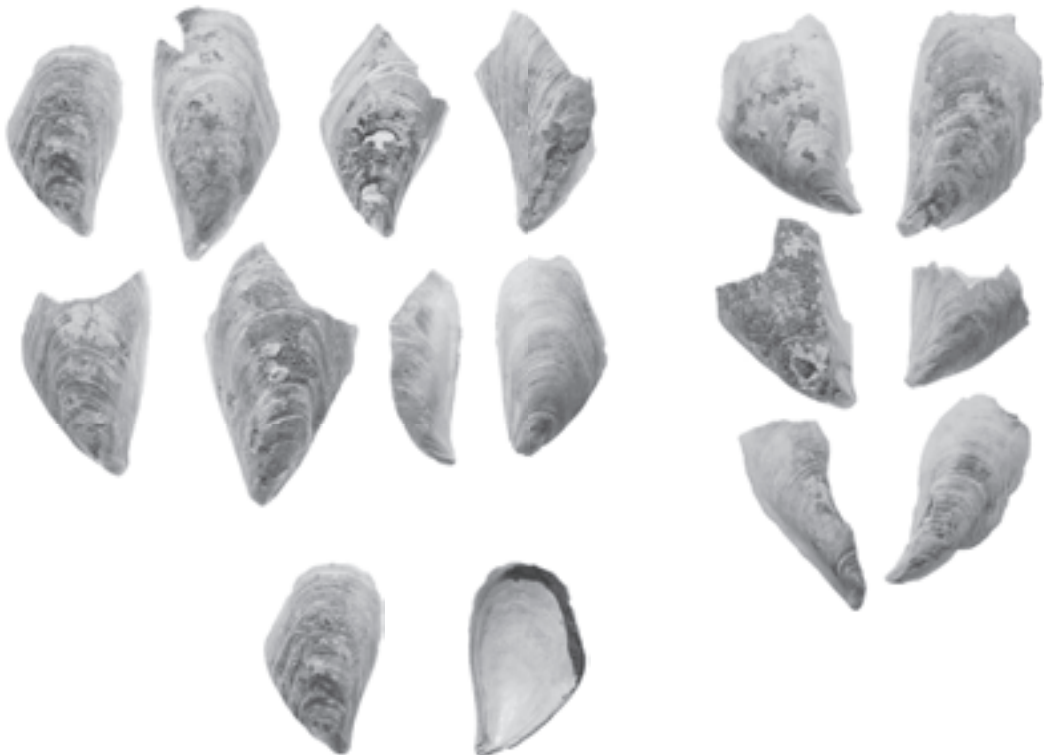
301



302



アサリ

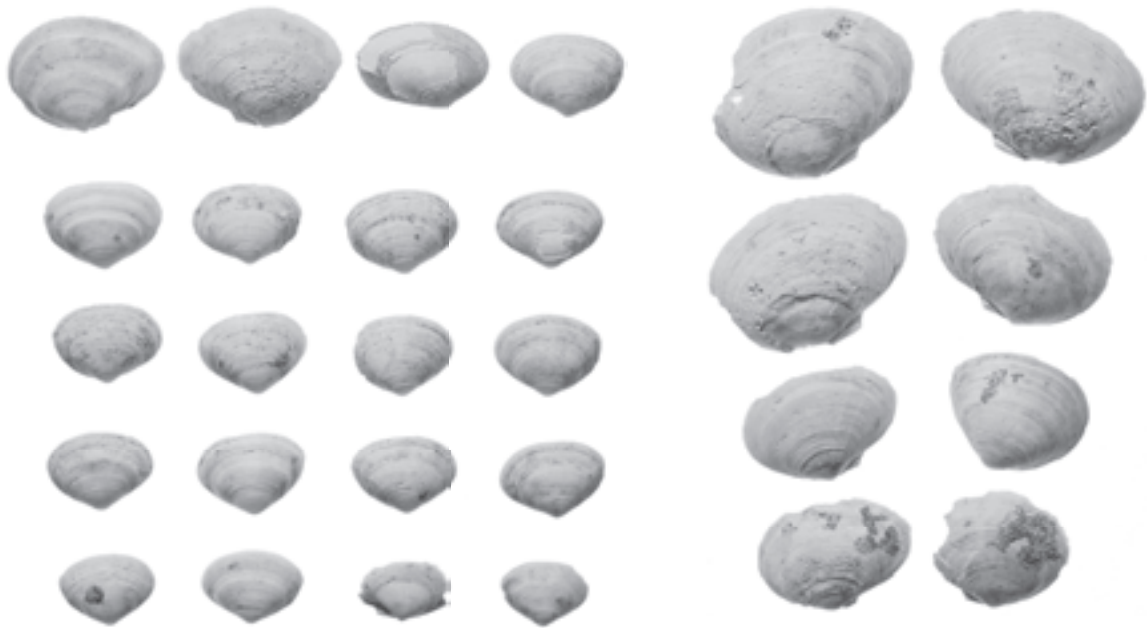


ムラサキガイ





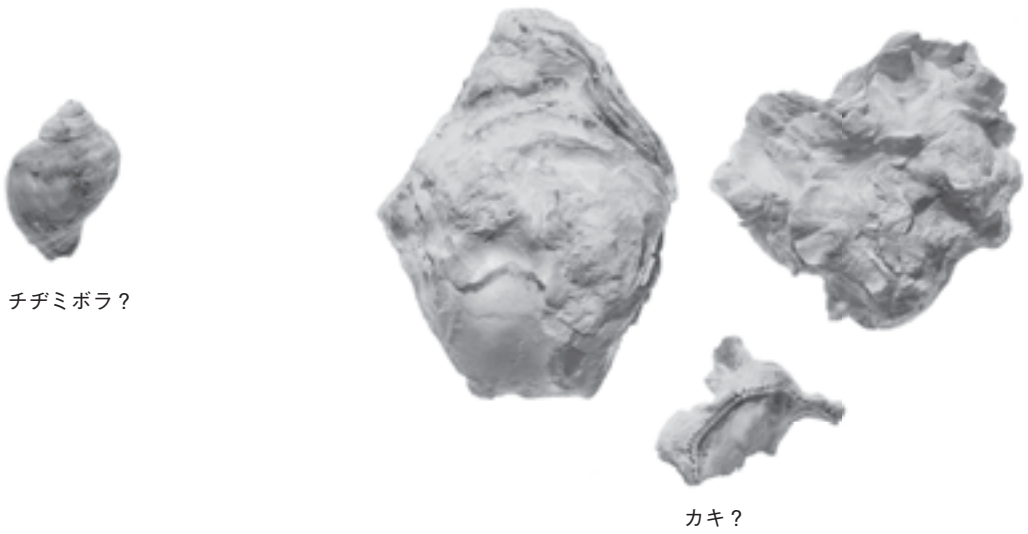
ムラサキインコ



シラトリモドキ

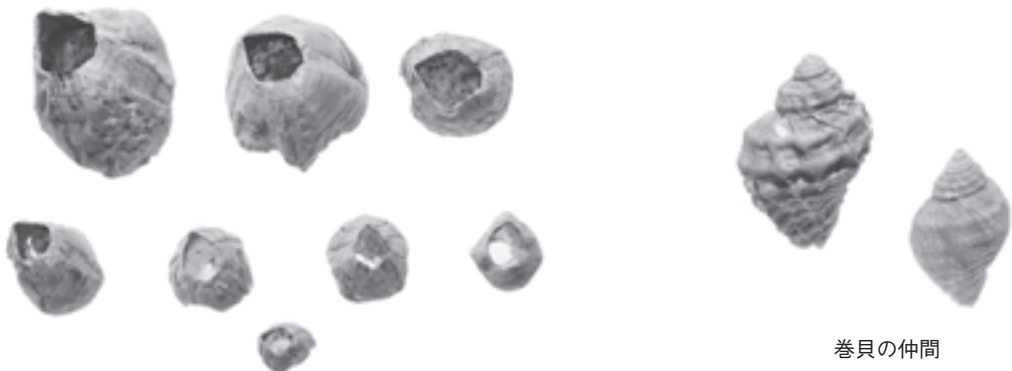


クボガイ



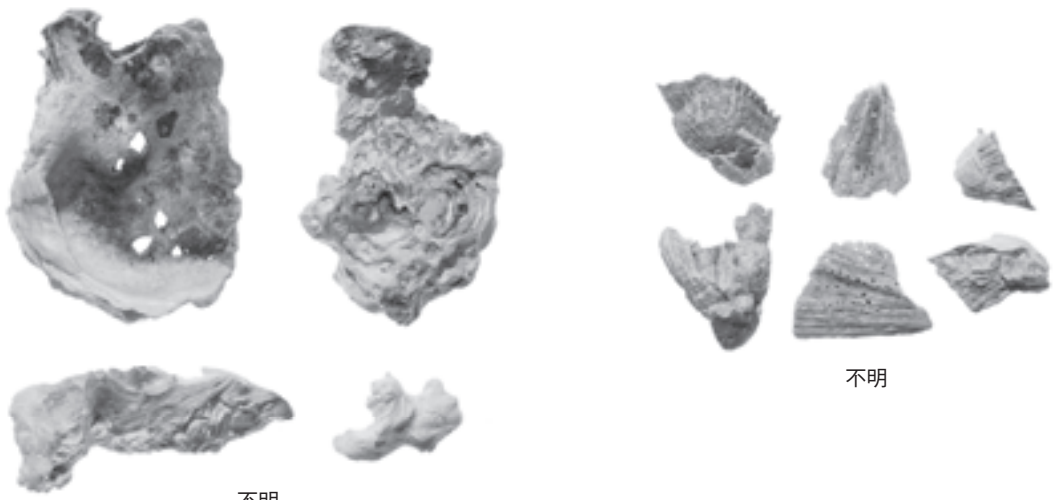
チヂミボラ？

カキ？



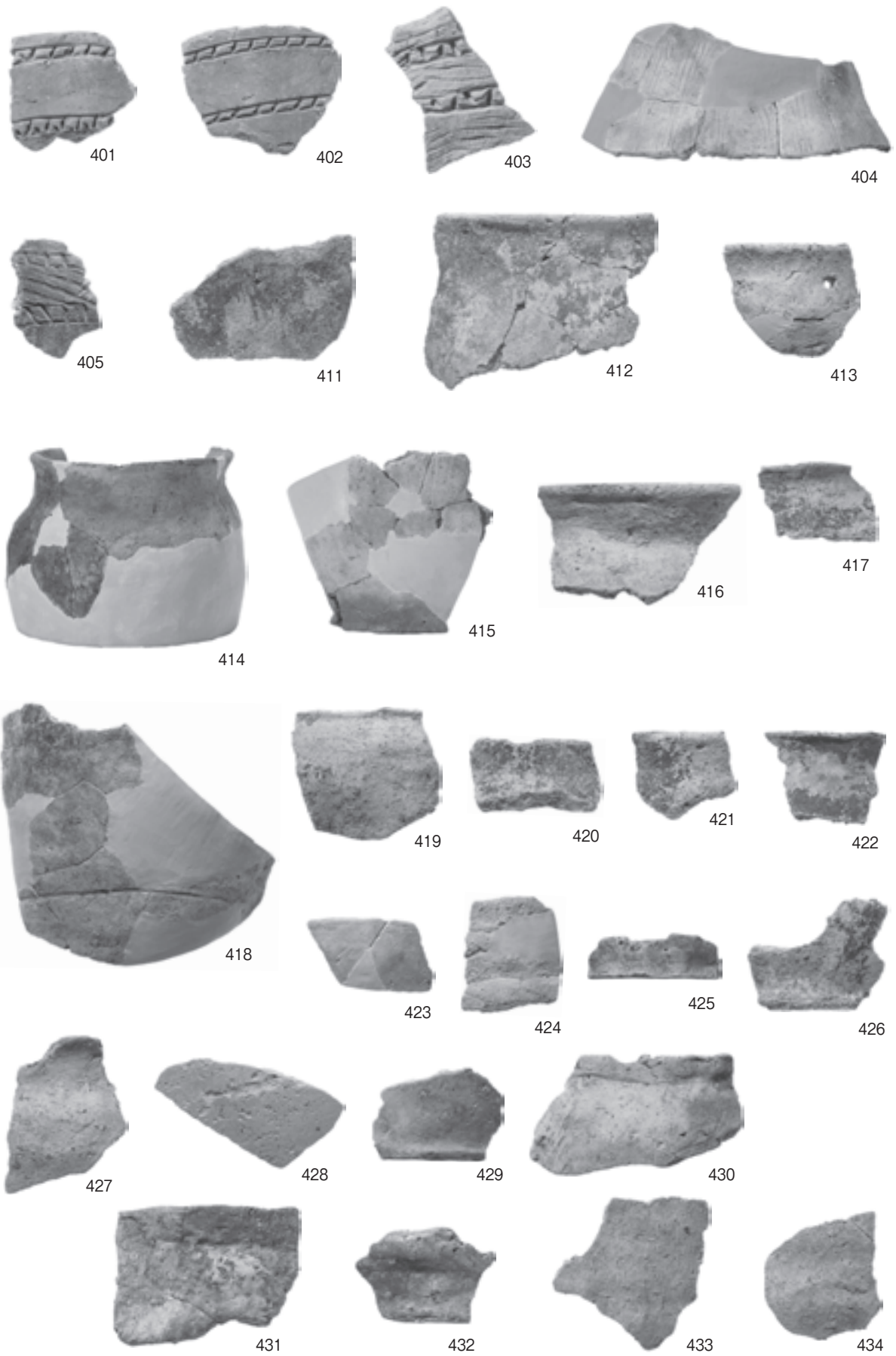
フジツボ

巻貝の仲間

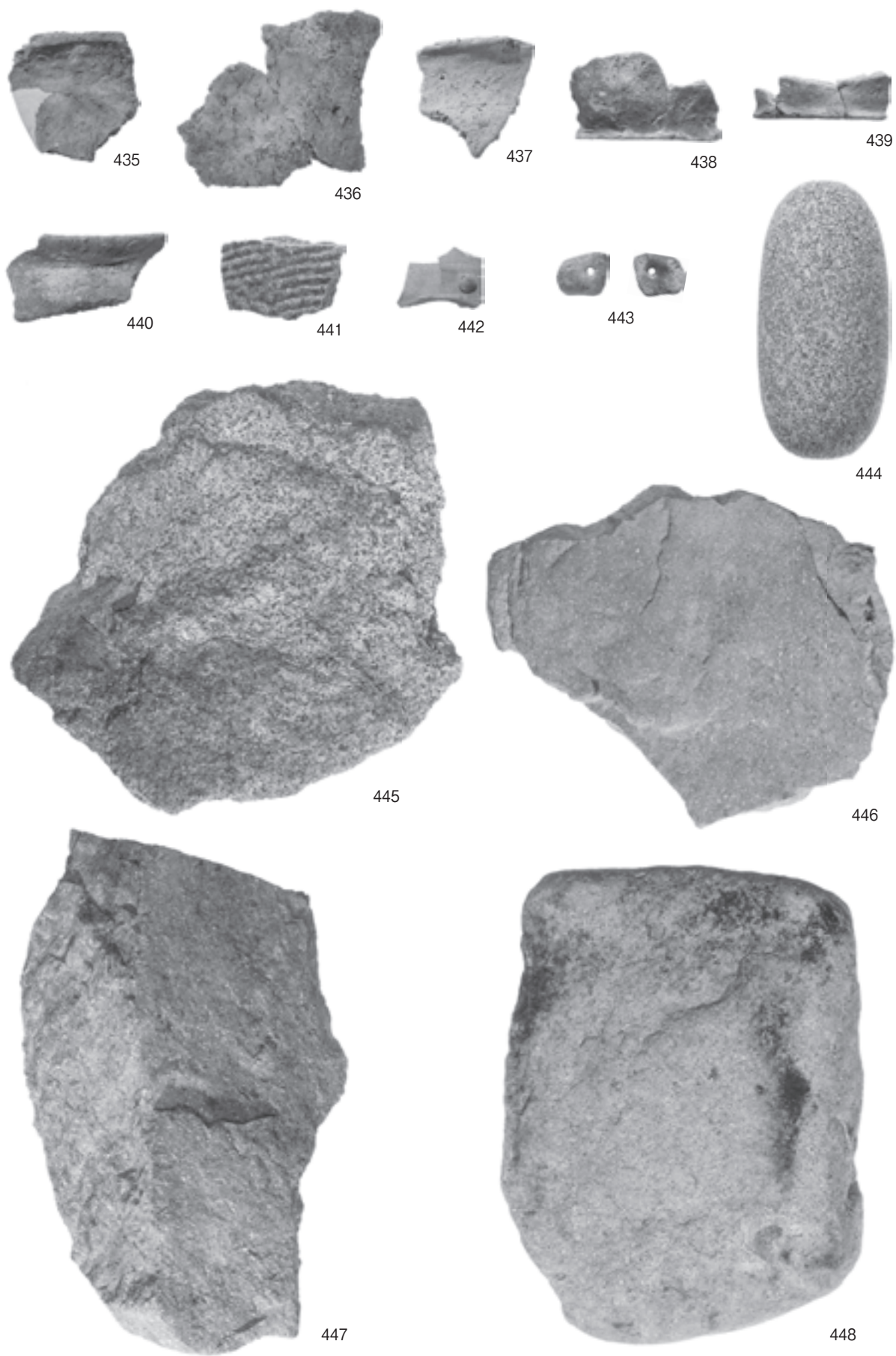


不明

不明



写真図版67 弥生時代の遺物・古代の遺物 1



写真図版68 古代の遺物2





449



450



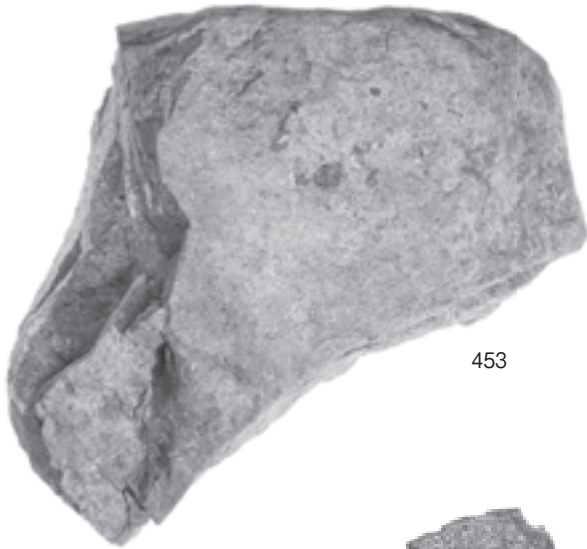
451



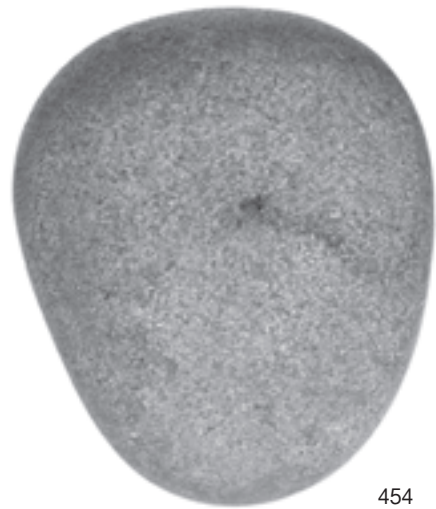




452



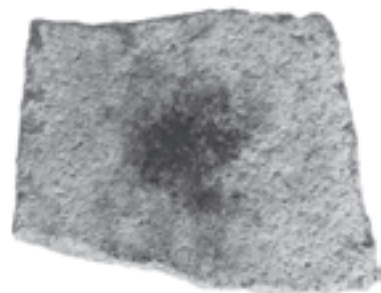
453



454

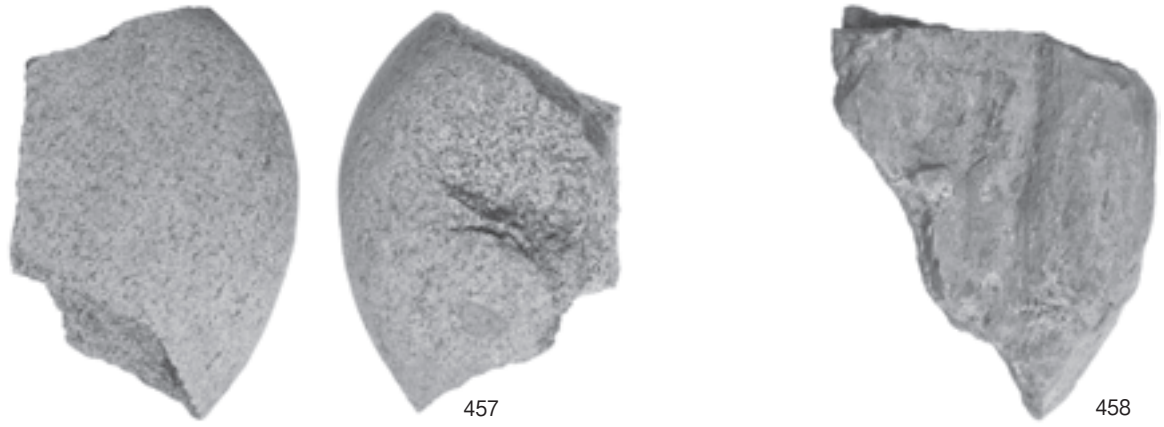


455



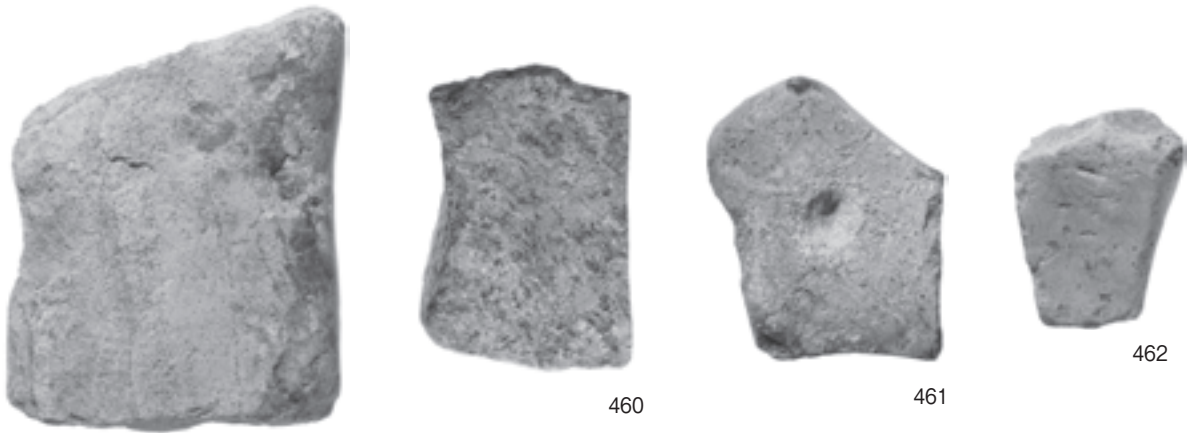
456

写真図版70 古代の遺物4



457

458

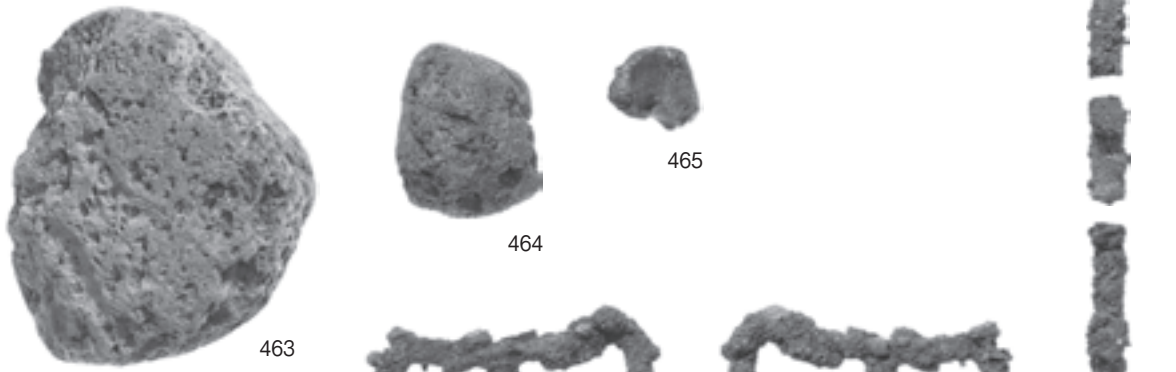


459

460

461

462



463

464

465



471



473

474

475

472



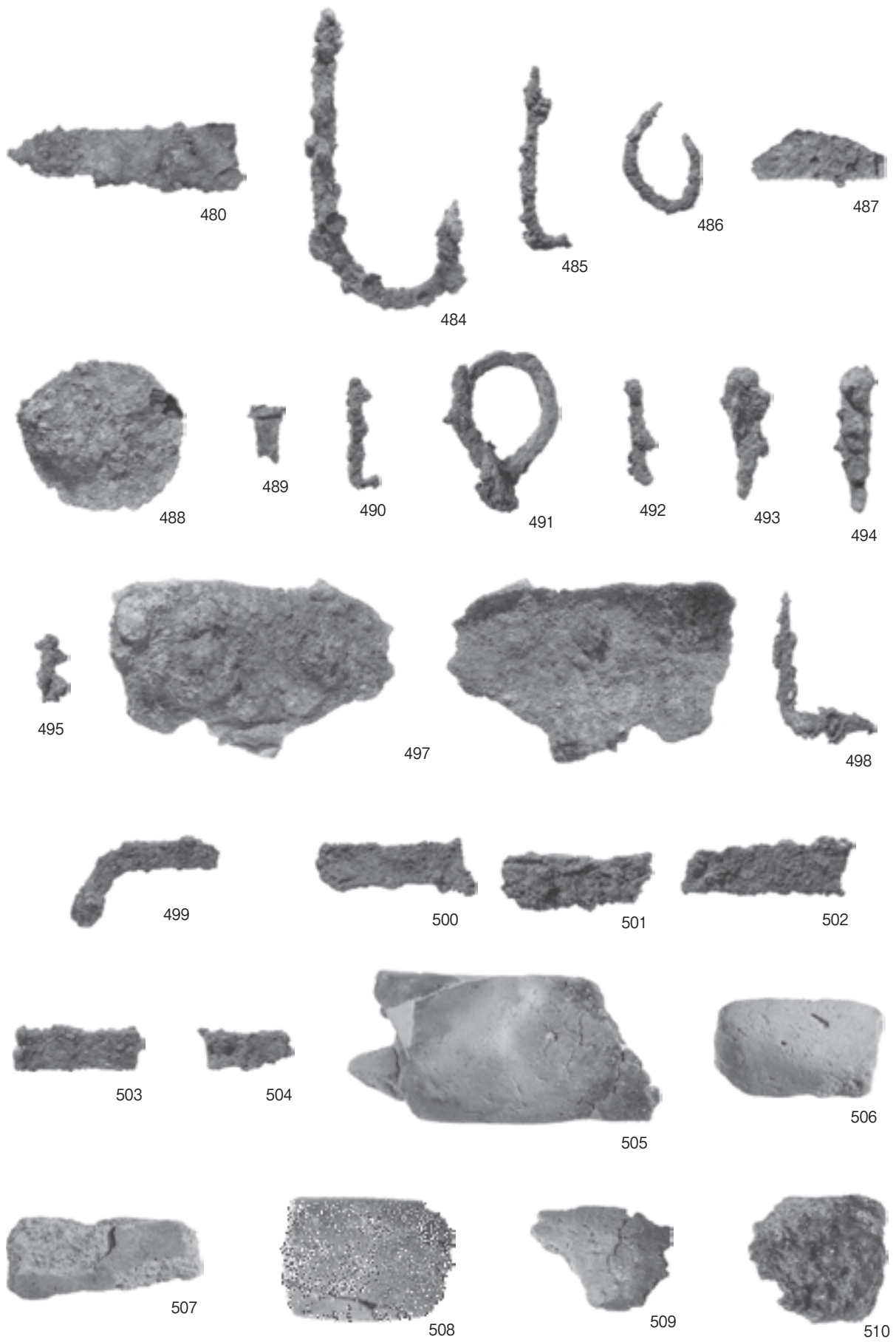
476

477

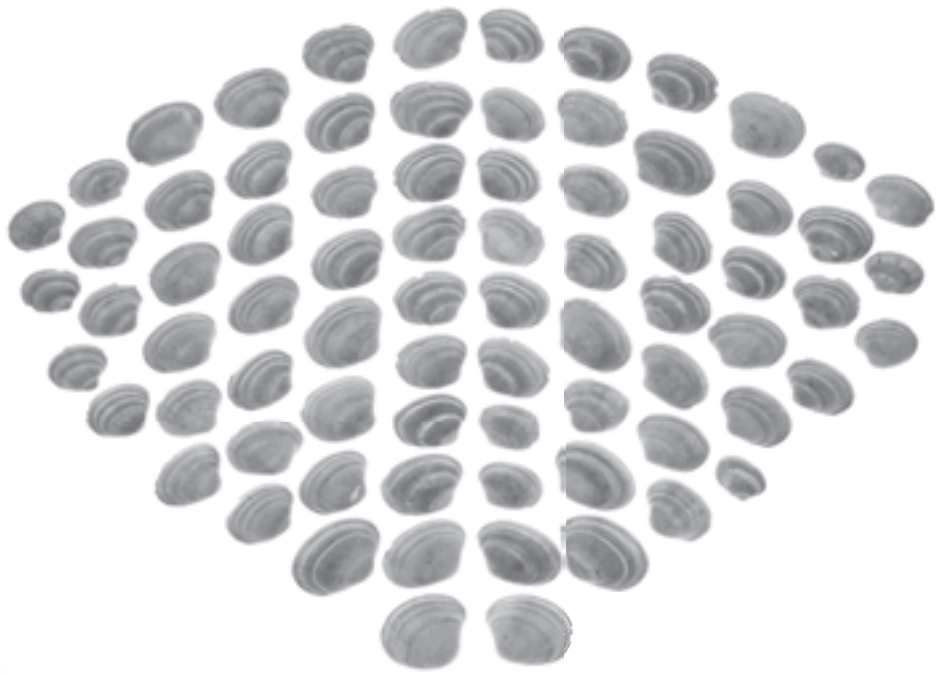
478

479

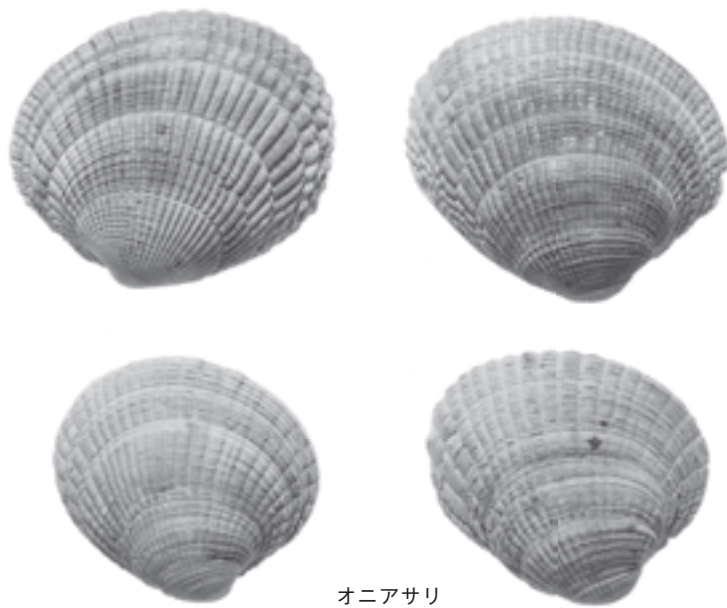
写真図版71 古代の遺物5



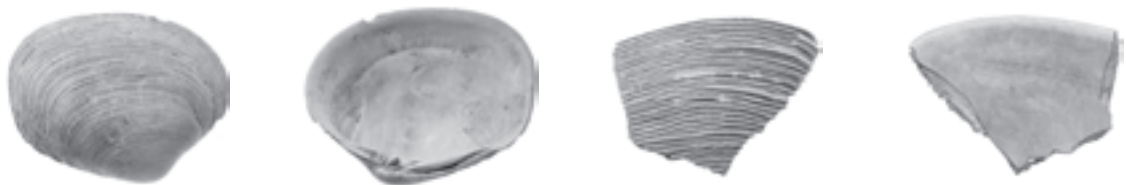
写真図版72 古代の遺物6



アサリ



オニアサリ



ウチムラサキ





オオノガイ



アワビ



ユキノカサガイ



チヂミボラ?



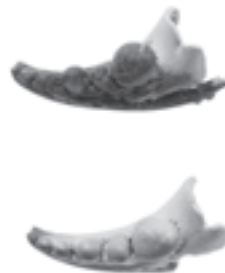
ジャマガイ?



タマガイの仲間

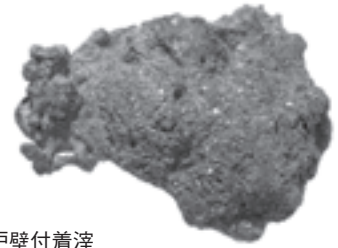
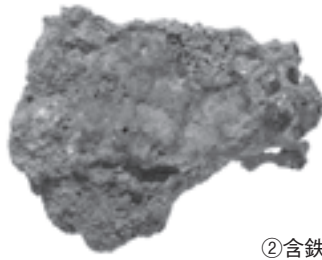
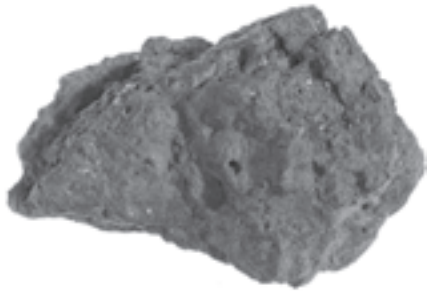


ウニ



巻貝の仲間



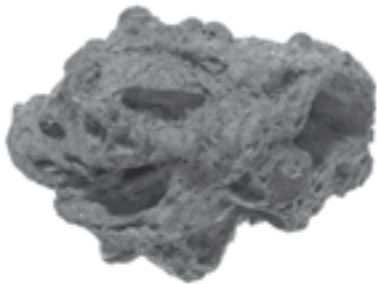


②含鉄（強）炉壁附着滓



①含鉄（強）炉内滓

③含鉄（弱）炉壁附着滓



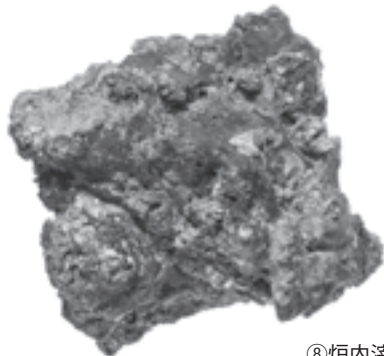
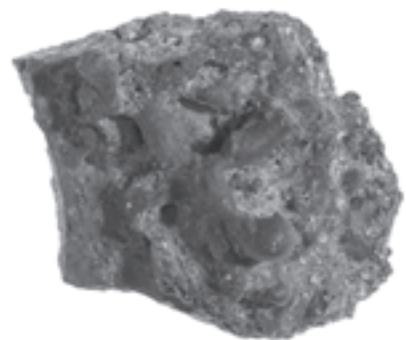
④含鉄（微）炉内滓

⑤流出滓

⑥流出滓



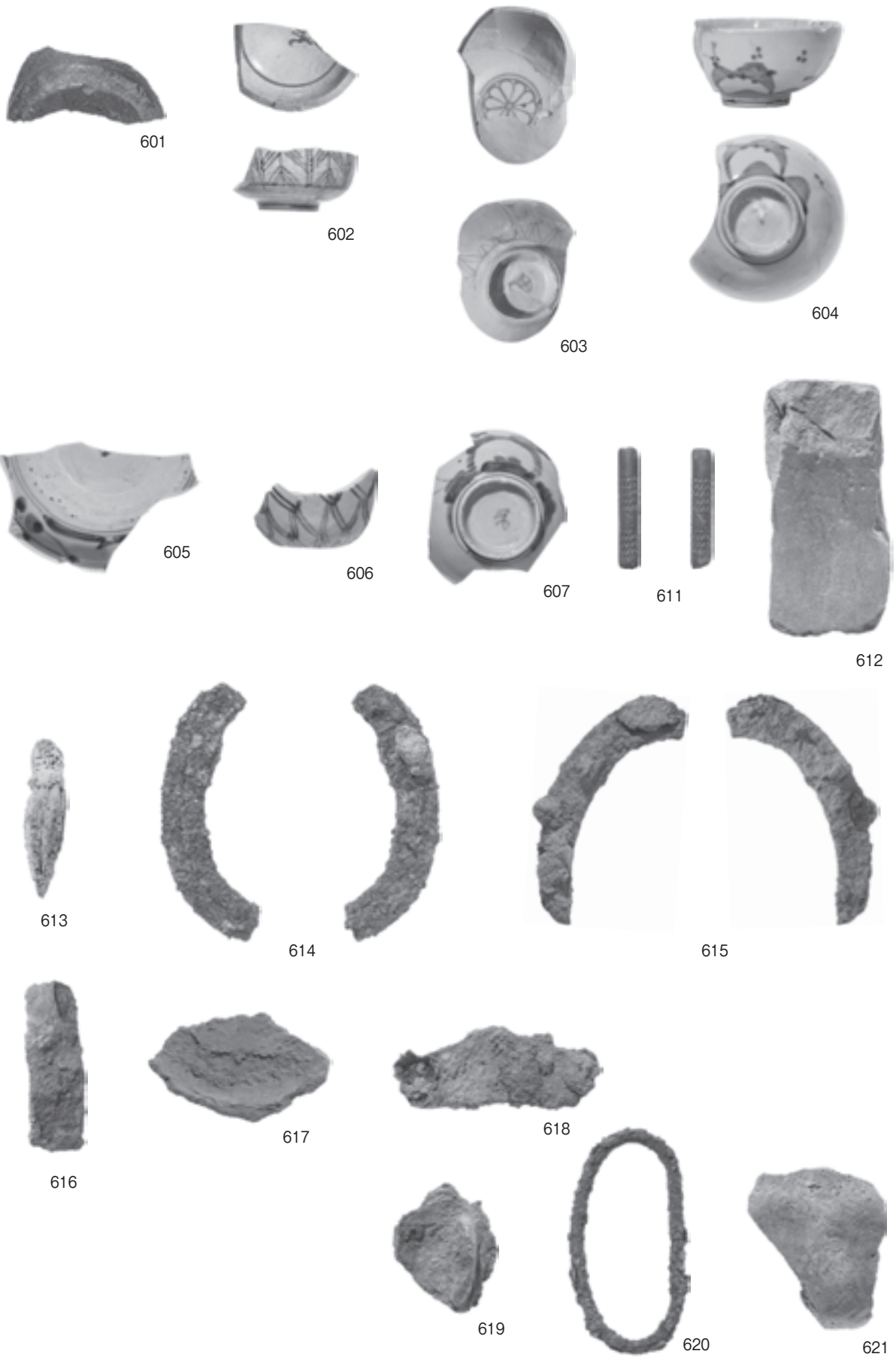
⑦流出滓



⑧炉内滓



⑨炉底滓



写真図版 76 近世・時代不明の遺物

# 報告書抄録

ふりがな	はまかわめさわだ2いせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	浜川目沢田Ⅱ遺跡発掘調査報告書							
副書名	主要地方道重茂半島線地域連携道路整備事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第679集							
編著者名	北村忠昭、佐々木隆英、白戸このみ							
編集機関	(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2018年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
はまかわめさわだ2 浜川目沢田Ⅱ いせき 遺跡	いわてけんしもへいぐんやま 岩手県下閉伊郡山 だまらおさわだいちわり 田町大沢第11地割 113-3ほか	03482	LG84-2381	39度 29分 5秒	141度 59分 5秒	2016.04.01 ～ 2016.11.25	13,500㎡	主要地方道 重茂半島線 地域連携道 路整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
浜川目沢田Ⅱ 遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴建物跡18棟、炉跡3 基、焼土遺構2基、土 坑類151基、埋設土器1 基、柱穴26個	縄文土器大11.5箱、土製品3点、 石器471点、石製品10点、貝殻中 1箱		大木8a式～10式期の 集落跡		
	散布地	弥生時代	弥生土器小1箱		弥生時代後期の土器			
	生産	平安時代	竪穴建物跡9棟、鉄生産 関連炉1基、土坑類24 基、不明遺構2基、柱穴 8個	土師器小1箱、須恵器2点、土製 品1点、石器35点、石製品1点、 金属製品小1箱、羽口大0.5箱、 鉄滓大0.5箱、貝殻大1.5箱		11～12世紀の鍛冶関連 の工房跡		
	散布地	近世以降	陶器・磁器小1箱、金属製品1点					
		時期不明	焼土遺構1基、土坑3 基、溝跡3条、炭窯3 基、道路状遺構1条、不 明遺構2基、柱穴45個	土製品2点、石器3点、石製品1 点、金属製品小1箱、その他1点				
要約	<p>浜川目沢田Ⅱ遺跡は、山田町役場の北東約3.5km、山田湾北岸に面する浜川目地区に所在している。遺跡は浜川目地区西側の丘陵尾根部及び谷部にかけて広がり、今回の調査区は山田湾に向かって延びている平坦な丘陵尾根部2箇所とその東西斜面部である。隣接する北東側に広がる低位の緩斜面部には、平成26年度に発掘調査が行われた浜川目沢田Ⅰ遺跡が所在し、縄文時代中期を中心とした海辺の集落跡が確認されている。</p> <p>今回の発掘調査では、主に縄文時代と平安時代の遺構・遺物が確認された。調査区は大きく東西に分かれており、縄文時代の遺構は主に東側の調査区で確認された。主な遺構は竪穴建物跡とフラスコ形の土坑で、竪穴建物跡の数に比してフラスコ形土坑の数が圧倒的に多い。調査区周辺に大規模な集落の存在が想定される。遺構の時期は中期前葉から末葉であるが、主体となる時期は縄文時代中期末葉の大木10式期である。今回の調査範囲でみる限り、中期前葉から集落が営まれており、末葉に最盛期を迎えるものと考えられる。平安時代の遺構は東西の調査区で確認された。遺構からは羽口や鉄滓等の鉄生産に関連するものが多く、鉄生産に関連する生産遺跡であることが判明した。鉄滓の出土量が少ないことや科学的な分析結果から、本遺跡では鍛錬鍛冶工程が行われていた可能性が高い。</p> <p>浜川目沢田Ⅱ遺跡は、縄文時代には集落、古代には鉄生産に関連する場として利用されていたことが判明した。</p>							

---

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第679集

## 浜川目沢田Ⅱ遺跡発掘調査報告書

主要地方道重茂半島線地域連携道路整備事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成30年3月8日

発行 平成30年3月15日

編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (019) 638-9001

発行 岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

〒023-0072 岩手県宮古市五月町1-20

電話 (0193) 64-2221

(公財)岩手県文化振興事業団

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号

電話 (019) 654-2235

印刷 株式会社 富士屋印刷所

〒020-0841 岩手県盛岡市羽場13地割30番10

電話 (019) 637-6391